

# 基礎資料集

---

2015

# 目 次

---

## 第1章 大学の使命・目的

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 1 愛知教育大学憲章、中期目標・中期計画                 |    |
| (1) 愛知教育大学憲章                         | 5  |
| (2) 大学の目的                            | 5  |
| (3) 中期目標・中期計画・年度計画                   | 6  |
| (4) アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー | 12 |
| 2 沿革                                 | 35 |

## 第2章 管理運営体制

|              |    |
|--------------|----|
| 1 運営組織       |    |
| (1) 役員名簿     | 36 |
| (2) 組織図      | 36 |
| 2 各種会議開催状況   | 37 |
| 3 教育組織       | 38 |
| 4 研究組織（教員組織） | 39 |
| 5 事務組織       | 39 |

## 第3章 大学教員、教育支援者の構成

|                    |    |
|--------------------|----|
| 1 大学教員             |    |
| (1) 専任教員           | 40 |
| (2) 本務教員           | 40 |
| (3) 取得学位等の構成       | 41 |
| (4) 年齢構成・男女構成      | 42 |
| (5) 新規採用・退職状況      | 43 |
| (6) 長期研修制度等の実施状況   | 43 |
| (7) 兼職の状況          | 43 |
| 2 兼務教員（非常勤講師）      | 43 |
| 3 研究員              | 44 |
| 4 ティーチングアシスタント（TA） | 44 |
| 5 事務職員             |    |
| (1) 現員数            | 44 |
| (2) 年齢構成・男女構成      | 45 |
| (3) 新規採用・退職状況      | 45 |
| (4) 研修等状況          | 46 |

## 第4章 教育活動

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 1 学生の受入                     |    |
| (1) 入試日程                    | 47 |
| (2) 広報活動の取組                 | 47 |
| (3) 入学者選抜の実施状況              | 48 |
| 2 学生数                       |    |
| (1) 入学定員、収容定員               | 50 |
| (2) 在籍者数                    | 51 |
| (3) 定員の充足状況                 | 52 |
| (4) 休学者数、退学者数、除籍者数、留年者数     | 54 |
| (5) 卒業・修了者数                 | 55 |
| 3 教育課程                      |    |
| (1) 教育学部の履修基準（課程別）          | 56 |
| (2) 授業形態の組合せ・バランス           | 56 |
| (3) 教育実地研究（教育実習）の実施状況       | 57 |
| (4) 介護等体験活動の実施状況            | 59 |
| (5) 教育実践研究科（教職大学院）学校実習の実施状況 | 59 |
| (6) 多様なニーズ、社会的動向等への取組       | 60 |
| (7) 単位の実質化への配慮（年間授業予定）      | 64 |
| (8) 教育活動に係る管理運営             | 65 |

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| 4 成績評価                      | 65  |
| 5 学習成果                      |     |
| (1) 教育職員免許状及び保育士の資格取得状況     | 66  |
| (2) 学生授業アンケートの実施            | 67  |
| 6 学生支援                      |     |
| (1) 相談体制                    | 69  |
| (2) 修学支援                    | 69  |
| (3) 経済支援                    | 70  |
| (4) 生活支援                    | 72  |
| 7 学生生活                      |     |
| (1) 課外活動の状況                 | 73  |
| (2) 大学祭、子どもまつり開催状況          | 73  |
| 8 卒業生・修了者の進路、就職の状況          |     |
| (1) キャリア支援の実施状況             | 74  |
| (2) 進路・就職状況                 | 76  |
| (3) 教員就職の状況                 | 77  |
| 9 ファカルティ・ディベロップメント活動 (FD活動) | 78  |
| 10 教育研究基金を活用した活動            | 79  |
| <b>第5章 研究活動</b>             |     |
| 1 研究活動の状況                   |     |
| (1) 研究プロジェクトの状況             | 80  |
| (2) 学長裁量経費等の採択状況            | 81  |
| (3) 外部研究資金獲得状況              | 82  |
| (4) 研究成果の公表とその現状            | 84  |
| (5) 研究活動に係る管理運営             | 85  |
| 2 講座等別研究者一覧                 |     |
| 教育科学系                       | 85  |
| 人文社会科学系                     | 87  |
| 自然科学系                       | 89  |
| 創造科学系                       | 91  |
| 教員養成開発連携センター                | 93  |
| <b>第6章 地域連携・社会貢献</b>        |     |
| 1 非正規学生の受入状況                | 94  |
| 2 公開講座                      | 94  |
| 3 地域連携フォーラム                 | 96  |
| 4 教員免許状更新講習                 | 97  |
| 5 相談事業                      |     |
| (1) 心理教育相談                  | 102 |
| (2) 発達支援相談                  | 102 |
| 6 大学と県教育委員会との連携推進会議         | 103 |
| 7 社会連携事業                    | 103 |
| 8 施設開放                      |     |
| (1) 附属図書館                   | 104 |
| (2) 体育施設                    | 104 |
| 9 ボランティア活動                  |     |
| (1) 東日本大震災教育復興支援ボランティア      | 104 |
| (2) 一般ボランティア                | 105 |
| (3) 外国人児童・生徒支援ボランティア        | 105 |
| 10 教育機関等との連携                |     |
| (1) 愛知県総合教育センターとの連携・協働の取組   | 106 |
| (2) 近隣市町村・教育委員会等との連携協力関係    | 106 |
| (3) 愛知教員養成コンソーシアムの活動状況      | 107 |
| <b>第7章 国際交流</b>             |     |
| 1 留学生の受入状況                  | 108 |
| 2 在学生の海外留学                  | 108 |
| 3 国際学術交流協定締結校               |     |
| (1) 締結状況                    | 109 |

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| (2) 単位互換 .....                   | 109 |
| (3) 研究者等の受入状況 .....              | 109 |
| 4 大学間交流行事 .....                  | 110 |
| 5 外国人教員の採用状況 .....               | 110 |
| <b>第8章 附属施設の概要</b>               |     |
| 1 附属図書館 .....                    | 112 |
| 2 センター .....                     | 114 |
| (1) 教職キャリアセンター .....             | 114 |
| (2) 教育臨床総合センター .....             | 118 |
| (3) 国際交流センター .....               | 122 |
| (4) 地域連携センター .....               | 122 |
| (5) 科学・ものづくり教育推進センター .....       | 124 |
| (6) 保健環境センター .....               | 124 |
| (7) 情報処理センター .....               | 125 |
| (8) キャリア支援センター .....             | 126 |
| (9) 教員養成開発連携センター .....           | 128 |
| <b>第9章 附属学校</b>                  |     |
| 1 附属学校の活動状況                      |     |
| (1) 附属幼稚園 .....                  | 129 |
| (2) 附属名古屋小学校 .....               | 130 |
| (3) 附属岡崎小学校 .....                | 131 |
| (4) 附属名古屋中学校 .....               | 132 |
| (5) 附属岡崎中学校 .....                | 134 |
| (6) 附属高等学校 .....                 | 136 |
| (7) 附属特別支援学校 .....               | 138 |
| 2 年度計画の実施状況                      |     |
| (1) 年度計画への取組状況 .....             | 139 |
| (2) 教職員の労働環境・安全対策向上を図る取組状況 ..... | 140 |
| (3) 教育研究活動を推進する取組状況 .....        | 140 |
| <b>第10章 施設・設備</b>                |     |
| 1 施設整備の状況                        |     |
| (1) 教育研究活動に必要な施設・設備の状況 .....     | 141 |
| (2) 耐震化等の整備状況 .....              | 141 |
| (3) 講義室の使用状況 .....               | 142 |
| (4) 自主的学習環境スペースの整備状況 .....       | 142 |
| (5) 改修工事等の実施状況 .....             | 142 |
| 2 中期的視点における施設整備計画 .....          | 143 |
| 3 その他の施設・設備 .....                | 144 |
| <b>第11章 財務状況</b>                 |     |
| 1 資産状況 .....                     | 150 |
| 2 収入状況 .....                     | 151 |
| 3 収支状況 .....                     | 151 |
| 4 資源配分状況 .....                   | 152 |
| 5 財務監査の状況 .....                  | 153 |
| 6 監事監査の状況 .....                  | 153 |
| 7 内部監査の状況 .....                  | 155 |
| <b>第12章 自己点検・評価及び教育情報の公表</b>     |     |
| 1 自己点検・評価                        |     |
| (1) 自己点検・評価の実施体制 .....           | 158 |
| (2) 自己点検・評価の実施状況 .....           | 158 |
| (3) 第三者評価の実施状況 .....             | 159 |
| 2 評価結果に対する改善状況 .....             | 160 |
| 3 教育情報の公表状況 .....                | 176 |

## 第13章 危機管理

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 1 危機管理体制 .....       | 178 |
| 2 危機管理に対する整備状況 ..... | 178 |

## 第1章 大学の使命・目的

### 1 愛知教育大学憲章、中期目標・中期計画

#### (1) 愛知教育大学憲章

##### 愛知教育大学の理念

愛知教育大学は、学術の中心として、深く専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する学問の府として、日本国憲法、教育基本法、ユネスコの高等教育に関する宣言等の理念を踏まえ、教育研究活動を通して世界の平和と人類の福祉及び文化と学術の発展に努めることが、普遍的使命であることを自覚し、愛知教育大学憲章を定める。愛知教育大学は、学部及び大学院学生、大学教職員、附属学校教職員等を構成員とし、大学の自治の基本理念に基づき、大学における自律的運営が保障される高等教育機関として、また国により設置された国立大学として、その使命を果たすため、本学の教育目標と研究目標、教育研究及び運営のあり方を定め、これを広く社会に明らかにするものである。

##### 愛知教育大学の教育目標

愛知教育大学は、平和で豊かな世界の実現に寄与しうる人間の教育をめざす。

学部教育においては教養教育を重視し、教員養成諸課程では多様な教員養成プログラムを通して、平和な未来を築く子どもたちの教育を担う優れた教員の養成をめざし、学芸諸課程では、社会の発展と文化の継承及び創造に貢献できる広い教養と深い専門的能力を持った多様な社会人の育成をめざす。

大学院教育においては学部教育を基礎に、学校教育に求められるさらに高度な能力を有する教員の養成をめざすとともに、諸科学の専門分野及び教育実践分野における理論と応用能力を備えた教育の専門家の育成をめざす。また、大学院を教員の再教育の場としても位置付け、教師教育の質的向上を図る。

##### 愛知教育大学の研究目標

愛知教育大学は、教育諸科学をはじめ、人文、社会、自然、芸術、保健体育、家政、技術分野の諸科学及び教育実践分野において、科学的で創造性に富む優れた研究成果を生み出し、学術と文化の創造及び発展に貢献する。さらに、その成果を社会へ還元することを通して、人類の平和で豊かな未来の実現、自然と調和した持続可能な未来社会の実現に寄与する。

##### 愛知教育大学の教育研究のあり方

###### 1. 学問の自由と大学の自治

愛知教育大学は、自発的意思に基づく学術活動が、世界平和と持続可能な社会の形成に寄与することを期して、学問の自由を保障する。また、大学の自治が保障された自律的共同体として、教育が国民全体に責任を負って行われるべきであることを自覚し、不当な支配に服することなく、社会における創造的批判的機能を果たす。

###### 2. 世界の平和と人類の福祉への貢献

愛知教育大学は、学術の基礎研究と応用研究をはじめ、未来を拓く新たな学際的分野にも積極的に取り組み、世界の平和と人類の福祉及び学術と文化の発展に貢献する。

###### 3. 教師教育に関わる教育研究の推進

愛知教育大学は、広く人間発達に関わる諸学問と教育方法の結合を図りながら、教員養成や教員の再教育などの教師教育に関する実践的教育研究を行うとともに、教師の専門性と自律性の確立をめざした教育研究を推進する。

###### 4. 国際交流の推進

愛知教育大学は、国内外の高等教育諸機関との連携や国際交流を推進し、留学生の積極的受け入れ及び派遣を通して、アジアをはじめ、世界の教育と文化的発展に貢献する。

###### 5. 大学の社会に対する責任と貢献

愛知教育大学は、学外への情報公開及び広報活動を通して、社会に対する説明責任を果たし、学外からの声に恒常的に応え、社会に開かれた大学を実現する。また、教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献する。

##### 愛知教育大学の運営のあり方

###### 1. 大学の民主的運営

愛知教育大学は、全ての構成員が、それぞれの立場において、本学の目標を達成するため、大学の諸活動へ参画することを保障し、民主的運営を実現する。構成員は、大学の自治を発展させるための活動を相互に尊重するとともに全学的調和をめざす。

###### 2. 学生参画の保障

愛知教育大学は、学生の学修活動を支援し、教育改善への学生参画を保障する。

###### 3. 教育研究環境の整備充実

愛知教育大学は、豊かな自然環境を保全活用し、施設設備を含む教育研究環境の整備充実を図るとともに、障害者にもやさしい大学づくりを進める。

###### 4. 自己点検評価と改善

愛知教育大学は、本学の教育目標と研究目標に照らして、恒常的な自己点検評価により、不断の改善に努める。

###### 5. 人権の尊重

愛知教育大学は、全ての構成員が相互に基本的人権と両性の平等を尊重し、教育研究活動における、あらゆる差別や抑圧などの人権侵害のない大学を実現する。

#### (2) 大学の目的

##### 大学の目的（学則（抜粋））

###### （大学の目的）

第18条 本学は、愛知教育大学憲章を踏まえ、学術の中心として、深く専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する学問の府として、大学の自治の基本理念に基づき、教育研究活動を通して世界の平和と人類の福祉及び文化と学術の発展に努める。

##### 教育学部の目的（学則（抜粋））

###### （目的）

第63条 学部は、教養教育を重視し、教員養成4課程では多様な教員養成プログラムを通して、平和な未来を築く子どもたちの教育を担う優れた教員の養成をめざし、現代学芸課程では、社会の発展と文化の継承及び創造に貢献できる広い教養と深い専門的能力を持った多様な社会人の育成をめざすことを目的とする。

##### 大学院（修士課程、教職大学院、後期3年博士課程）の目的（学則（抜粋））

###### （課程等の目的）

第74条 修士課程は、教科専門並びに教育実践に関わる研究能力を有する教員の育成を図ることを目的とする。併せて現代的課題の探求に取り組む学芸諸分野の有為な人材の育成をめざす。また、現職教員及び社会人においては、修士課程を専門性の更なる向上を図る場として位置付ける。

2 教職大学院の課程は、学校教育に関わる理論と実践の融合を基本とし、理論の応用並びに実践の理論化に関わる諸能力の修得によって実践的指導力を備えた教員を養成するとともに、一定の教職経験を有する現職教員に対しては、確かな指導理論と実践力・応用力を備え、指導的役割を果たし得る教員を養成することを目的とする。また、教職大学院の課程を実践的なキャリアアップの場として位置づけ、学校・地域及び教育関係諸機関との連携を活かしつつ、教師教育の更なる質的向上を図る。

3 後期3年博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

## 特別支援教育特別専攻科の目的（特別支援教育特別専攻科規程（抜粋））

（目的）

第2条 特別専攻科は、特別支援教育の充実に資するため、大学教育の基礎の上に精深な程度において特別支援教育に関する専門の事項を教授し、特別支援教育の分野における資質の優れた教員を養成することを目的とする。

## （3）中期目標・中期計画・年度計画

## 中期目標（平成22年4月1日～平成28年3月31日）

（前文）大学の基本的な目標

愛知教育大学は、「愛知教育大学憲章」を踏まえ、教員養成を主軸に教養教育を重視する大学として、深く専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する学問の府として、大学の自治の基本理念に基づき、教育研究活動を通して世界の平和と人類の福祉及び文化と学術の発展に努めることを目的として、以下の目標を掲げる。

① 学士課程教育においては優れた教養教育を実現し、教員養成課程では、愛知教育大学が養成すべき教員像の下に、体系的教員養成プログラムを通して、平和な未来を築く子どもたちの教育を担う専門職業人としての教員の養成をめざす。現代学芸課程では、専門基礎教育を基礎に、中高教員を含む幅広い職業人の育成をめざす。

② 大学院課程教育においては、教育学研究科では、学校教育に必要な高度専門職業人（教員）の養成を柱に、学芸諸分野の有為な人材の育成をめざす。教育実践研究科では、学校教育に関わる理論と実践の融合を基本に、実践的指導力や学級・学校経営力を備えた高度専門職業人（教員）の養成をめざす。

③ 愛知教育大学は、教育大学の特性を活かし、教育諸科学をはじめ、多様な学術研究分野及び教育実践分野において、優れた研究成果を生み出し、学術と文化の創造及び発展に貢献し、これらの成果を地域社会へ還元するとともに、国際化を推進し、特色ある大学を創造する。

これらの目標の達成に向け、当面する6年間の対応として、県内出身者が80%を超える愛知教育大学にあっては、県内出生数の変化及び教員養成政策の動向等を踏まえ、教育研究の質の向上に努めるとともに、時代や社会の要請に応えうる組織整備を行う。

## 中期目標の期間及び教育研究組織

- 1 中期目標の期間  
平成22年4月1日から平成28年3月31日
- 2 教育研究組織  
この中期目標を達成するため、別表に記載する学部、研究科を置く。

別表（学部、研究科等）

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 学部  | 教育学部              |
| 研究科 | 教育学研究科<br>教育実践研究科 |

## I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

## 1 教育に関する目標（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

| 中期目標                                                                                                                                                                                                                                           | 中期計画                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① アドミッションポリシーに関する目標<br>愛知教育大学の理念及び教育目的を踏まえ、学士課程では教員養成課程及び現代学芸課程ごとに、大学院課程では教育学研究科及び教育実践研究科ごとに、アドミッションポリシーを明示し、学士課程においては広く教育に関わる課題及び現代的課題に関心と意欲のある優れた学生を、大学院課程においては教育学部をはじめ専門的学術や実践的指導力に関する基礎・基本的な資質・能力を有し、課題意識を有する学生、現職教員などの社会人及び留学生を積極的に受け入れる。 | ① 学士課程における教員養成課程と現代学芸課程、大学院課程における教育学研究科と教育実践研究科のアドミッションポリシーを策定又は見直しし明示する。                                                                                                                                                                                                                | ① 学士課程・大学院課程の改革の状況を踏まえて、アドミッションポリシーの見直しを行う。                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                                                                                                | ② 優れた資質・能力を持つ学生を確保するため、学士課程においては、受験者の能力・適性など多面的に評価できる入試方法等の見直しや様々な広報活動を通して受験者増を図る。また、大学院課程においては、学部直進者及び現職教員・社会人それぞれに対応した志願者増のための入試方法等の見直しや広報活動を展開する。                                                                                                                                     | ② 学士課程において、アドミッションポリシーに対応した学生の確保及び受験者の能力・適性など多面的に評価できる入試方法を検討するとともに、受験者増に向けた広報活動を展開する。                                                                 |
|                                                                                                                                                                                                                                                | ③ より分かりやすくて確かな情報提供を行うため、受験案内を充実するとともに、多くの国からの留学生に対応するため、複数の言語による受験案内用のWebサイトを充実する。                                                                                                                                                                                                       | ③ 大学院課程において、アドミッションポリシーに対応した学生の確保及び受験者の能力・適性など多面的に評価できる入試方法を検討するとともに、受験者増のための広報活動を展開する。<br>④ 大学紹介DVDの内容を更新してWebサイトに掲載し、その内容を複数言語化して留学希望者に対して広く情報を提供する。 |
| ② 教育課程に関する目標<br>愛知教育大学が養成する学士課程及び大学院課程における特色ある「学生像」及び「養成すべき教員像」を明確に示し、その実現を図るため教育課程の一層の充実及び体系化を進める。                                                                                                                                            | ④ 学士課程においては、愛知教育大学の特性を活かし教育学、教養教育、幅広い専門教育を強化しそれぞれの関連性を深め、「学士力」を保証するため、教員養成課程では、教育学、教科教育及び教科専門間での連携を強化するなど体系的・計画的教員養成プログラムを構築する。また、現代学芸課程では、リベラルアーツ教育を展開し、専門基礎教育の充実と国際通用性をめざす教育課程全体の点検と必要に応じた見直しを行う。<br>愛知県にある教育大学として、特に科学・ものづくり教育、外国人児童生徒のための教育、特別支援のための教育等の推進など、個性化を進めるための教育プログラムを構築する。 | ⑤ 教員養成課程において「学士力」を保証するため、教科教育及び教科専門間の連携を図り、体系的な教員養成プログラムを検討する。                                                                                         |
|                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                          | ⑥ 「教職実践演習」の充実に向けて、eポートフォリオの活用を再検討するなどして、教員養成課程における体系的な教育プログラムについて検討する。                                                                                 |
|                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                          | ⑦ 愛知県にある教育大学として、特に科学・ものづくり教育、外国人児童生徒のための教育、特別支援のための教育等の推進を図るため、教育課程の具体化について検討する。                                                                       |

|                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                            | ⑤ 大学院課程においては、高度専門職業人として教員の専門性と自律性の確立をめざした教育課程の体系化を図る中で、履修カウンセリング等を取り入れ、多様な学習歴を踏まえた学生に対応した体系性のある教育プログラムを開発する。                                                                                              | 平成27年度は年度計画なし                                                                                                                                     |
| ③ 教育方法に関する目標<br>全学的に授業方法を改善するとともに、学生の自学・自習を支援する学習支援体制を整え、自ら学ぶ意欲を高めるための授業方法を全学的に構築する。                                                       | ⑥ 教育創造開発機構の下、大学教育・教員養成開発センターを中心に、学習サポートシステムを全学的に活用できるよう充実し、各授業における専門的内容の修得と同時に対話・表現力の獲得を通してコミュニケーション力の向上など、学生参加型の多様な授業形態の実現を図る。                                                                           | ⑧ まなびネット等の学習支援システムの利用促進を図り、コミュニケーション力を向上させるための学生参加型授業の拡大を目指す。                                                                                     |
| ④ 成績評価に関する目標<br>成績評価に関する運用システムを開発するとともに、各授業科目の担うべき授業目標とその評価基準を明確にし、学業成果の質を保證できる適正かつ厳格な成績評価を実施する。                                           | ⑦ 担当教員グループで適切な授業目標と評価基準を設定し、成績結果を教員間で共有するなど、成績評価の厳格化を進め、併せてGPA値の信頼性を高めることにより学習支援と指導のためのGPA制度を充実する。また、公平な評価を保證するため、学生に成績結果の統計的情報を公開する。                                                                     | ⑨ 学生への成績結果の公表方法について改善を加え、クラス評価にばらつきがある科目群については、担当者間の評価基準の共有化を図るなどして、GPA制度の充実を目指す。                                                                 |
| ⑤ 教育の成果に関する目標<br>学士課程や大学院課程における教育が、将来的にどう活かされているのか、また活かされることが保障できるよう、継続的に教育の成果について検証を行う。                                                   | ⑧ P D C Aサイクルにおけるチェック機能の役割として、授業アンケートを実施し、授業目標や学生が獲得した成果について点検評価を行うとともに、卒業生及び修了生に対し、大学での教育が一定の経年後にどのように活かされているのかについて追跡調査を実施する。                                                                            | ⑩ 授業アンケートを継続し、授業目的や学習成果を点検評価する。また、アンケートの内容・項目の継続的な見直しを行う。                                                                                         |
|                                                                                                                                            | ⑨ 現職教員が大学院修了後、学校現場において十分にその成果が発揮できるようにするため、Webや夏季休業時等を活用し、継続的な支援体制を構築する。                                                                                                                                  | 平成27年度は年度計画なし                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                            | ⑩ 修士論文に加えて卒業研究の概要の電子化を進め、広く学内外からの閲覧利用を可能にする                                                                                                                                                               | ⑪ 卒業研究概要の学術情報リポジトリによる公開について掲載数の拡充を図る。                                                                                                             |
|                                                                                                                                            | ⑪ 大学院生の10%が国内外の学会での発表や学会誌等へ投稿できるよう指導を行う。                                                                                                                                                                  | ⑫ 大学院生の学会発表や学会誌への投稿について実態調査を行い、促進に向けた指導にあたる。                                                                                                      |
| <b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</b>                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                   |
| <b>1 教育に関する目標（2）教育の実施体制等に関する目標</b>                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                   |
| <b>中期目標</b>                                                                                                                                | <b>中期計画</b>                                                                                                                                                                                               | <b>年度計画（平成27年度）</b>                                                                                                                               |
| ① 教職員の配置に関する目標<br>第一期中期目標・中期計画実施期間における教育実施体制の問題点を再点検し、より充実した教育を実施するため教職員の再配置を行う。教員養成課程及び現代学芸課程の教育組織の見直しを行う中で、教養教育及び専門教育の実施にふさわしい教員組織を編成する。 | ① 現在の教育学部の規模及び課程を基礎に、愛知県内の出生数の変化や教員養成政策動向等を踏まえ、教育組織及び学生の配置の見直し並びに教員組織の見直しを進め、より効率的・効果的な教職員の配置を行い、教育効果を高める。<br>② 全員担当を基本とする現在の教養教育の実施体制について、教養科目の内容及びグループ体制の再編を行い、教養教育を充実する。                               | ① 教員の資質能力向上に係る文部科学省の施策やミッションの再定義、愛知教育大学教員養成の質向上に関する諮問会議での意見を踏まえ、教育組織及び学生の配置の検討を進める。<br>② 平成25年度から実施した新しい教養教育についての検証を行うとともに、「教師教養科目」の実施に向けて検討を深める。 |
| ② 教育組織・教育環境の整備に関する目標<br>愛知教育大学の特性が一層活かされるための教育組織の整備を進めるとともに、学習活動を支援するため、環境・施設・設備の一層の充実を図り、学習環境を整備する。                                       | ③ 教育実践に深く関わる教員養成系共同大学院博士課程を設置する。                                                                                                                                                                          | 平成27年度は年度計画なし                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                            | ④ 学習サポートシステムを構築するための人的・物的支援環境を整備するとともに、多様な授業形態に対応できる教室等の整備や授業空き時間帯の教室の有効活用を進め、併せて大学院生の研究環境を改善するため、適切な学習スペースの確保を実現する。<br>⑤ 附属図書館のハイブリッド化を一層進めるとともに、大学全体の教育の現代化・高度化にふさわしい施設・設備の改善充実に努める。                    | ③ 教育総合棟の改修に伴う施設整備の中で、現行の利用形態を見直し、学習スペースの確保をさらに進める。<br>④ 附属図書館の機能改善高度化に係る既設図書館のマネージメントや増築計画の具体化及び概算要求を行う。                                          |
| ③ 教育の質的改善のためのシステム等に関する目標<br>教育の質的改善を図るため、授業改善を推進する実施体制を構築する。                                                                               | ⑥ 教員間で互いの授業を評価するとともに、学生による授業アンケート内容を再検討し、その結果の教員へのフィードバックを迅速化し、教員はそれをもとに自己評価を行い、より一層の授業改善を進める。そのため、専門性を持って取り組みに専念できる教職員の配置等の支援体制を構築し、FD・SDの推進を図る。また、これらの取組の成果に基づき、大学改革支援のための競争的資金に積極的にチャレンジし、システム改善に役立てる。 | ⑤ 授業改善に向けた授業公開を継続して行い、教員間での相互評価の取組を全学的に実施する体制を検討する。<br>⑥ ティーチング・ポートフォリオの事例を検証し、今後の教育活動における自己評価及びそれに基づく授業改善に努める。                                   |
|                                                                                                                                            | ⑦ 北海道教育大学、東京学芸大学及び大阪教育大学との連携を推進し、全国の教員養成教育の諸課題に対応するための機構を設置し、その下に活動拠点としてセンターを置き、全国の教員養成系大学・学部との交流の拠点とする。                                                                                                  | ⑦ 新設の教職キャリアセンターを中心にFD実施後の成果等をWeb上で公開し、授業改善に努める。                                                                                                   |
|                                                                                                                                            | ⑧ 教育創造開発機構の下、教育科目等と教育実習の体系化を進め、教育実習の到達目標をより明確にするとともに、教育実習の成果をきめ細かく把握し、教育実践に関わる教育の充実を図る。                                                                                                                   | ⑧ 教員養成開発連携センターにおかれたIR部門、研修・交流支援部門、先導的実践プログラム部門及び特別プロジェクト（教員の魅力プロジェクト）の事業を継続的に展開し、具体的な教学改善に向けて着手する。                                                |
| ④ 教育実習の実施に関する目標<br>教育実践力養成の柱である教育実習の充実のための研究体制を構築し、持続的に教育実習の質的向上を図る。                                                                       | ⑨ 教育実地研究専門委員会にある事前指導充実等ワーキングを継続し、全学的に教育実習の事前・事後指導の充実を図る。                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                   |

|                                                                                                             |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                             | るため、事前・事後の指導の充実及び実習時における実習校と連携しての学習支援を強化する。                                                            | ⑩ 教育実習支援のための学習指導案データベースの更新・蓄積を継続して行う。                                                                                                                                                  |
| I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標                                                                                       |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                        |
| 1 教育に関する目標（3）学生への支援に関する目標                                                                                   |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                        |
| 中期目標                                                                                                        | 中期計画                                                                                                   | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                                                           |
| ① 学習支援に関する目標<br>学生が高い学力を習得し、併せて、コミュニケーション能力、自己管理力、チームワーク等の社会人としての基盤となる資質・能力を養うため、学習支援を組織化する。                | ① 指導教員制、オフィスアワーを充実するとともに、入学から卒業・就職までのきめ細かい学生への学習支援体制を整備する。特に、学習困難な学生への支援を強化し、退学率の減減につなげる。              | ① 成績に基づく学習面の支援について、IR部門と連携し、引き続き支援体制（分析・情報提供）を維持する。                                                                                                                                    |
|                                                                                                             | ② 学生がスムーズに大学生活を踏み出せるように、入学時のオリエンテーション、履修指導及び教員との交流の場などを工夫・充実する。                                        | ② 修学特別支援プログラムの業務を進め、学習支援機能を強化する中で退学率の減減に努める。                                                                                                                                           |
|                                                                                                             | ③ 障害のある学生に対する支援のため、バリアフリー化を含む学習環境の整備、介助担当学生の配置等を行う。                                                    | ③ 大学での学びのためのTIPS集の工夫・充実を図る。<br>④ オリエンテーションの内容及び実施方法について改善を図る。<br>⑤ 教員と学生との交流方策を実行するとともに、学生生活実態調査を実施して、さらなる充実策を検討する。<br>⑥ バリアフリー化を含む学習環境の整備を行う。<br>⑦ 障害のある学生の状況を把握し、介助担当学生の配置や必要な対応を行う。 |
| ② 生活支援に関する目標<br>女子学生が60%を占める愛知教育大学にあっては、両性の平等を尊重し、すべての学生が健康で安全安心な生活を送れるように学生生活の支援組織の見直しを行う。                 | ④ 生活相談、ハラスメント相談、健康支援・メンタルヘルス支援、経済的支援、課外活動支援、ボランティア活動支援、及び学生生活上の支援などを全学的・組織的に行う。                        | ⑧ 学生相談に関わる複数の窓口の連携を図り、学生のニーズに基づく支援策を策定する。<br>⑨ 敷地内全面禁煙の下、喫煙率の低減及び喫煙マナー向上に関する啓発活動を行う。                                                                                                   |
| ③ 就職支援に関する目標<br>入学時から卒業まで一貫して学生の個性に応じた就職支援を行うための方策を充実・改善する。                                                 | ⑤ 全国トップレベルにある教員養成課程新規卒者の教員就職率を、維持・向上させるために支援策を強化・改善する。                                                 | ⑩ 教員養成課程新規学卒者の教員就職率がトップレベルにある現状を維持向上させるため、支援策の内容を点検し、改善・強化する。                                                                                                                          |
|                                                                                                             | ⑥ 企業や公務員等、学生の広範な進路希望に対応した進路先の開拓及び情報の提供等就職支援策の充実改善を行うとともに、学生のキャリアデザインを含む包括的な就職支援に関する研修を行い、教職員の意識改革を進める。 | ⑪ 企業への就職を目指す学生への支援策として、地元企業を中心に進路開拓を行う。<br>⑫ 公務員志望学生に対する対策講座や模擬試験の実施等、支援の充実を図る。                                                                                                        |
|                                                                                                             |                                                                                                        | ⑬ キャリア支援・就職支援に対する教職員の理解の深化・意識改革を図るため、キャリア支援・就職支援に関する研修を実施する。                                                                                                                           |
| ④ 留学生への支援に関する目標<br>留学生の大学生活に対する様々な要望に応えるとともに、日本での生活及び大学での生活における不安の解消を図るための様々な支援を充実する。                       | ⑦ 国際交流センターを充実し、日本語教育を含む学習支援、国際語による授業開講、生活相談・健康支援・メンタルヘルス支援・経済的支援等の生活支援、就職支援などの支援を行う。                   | ⑭ 留学生向け授業を見直し、ニーズに合うよう授業の工夫を行い実施する。また、留学生向け日本語授業の単位化を検討して、学習成果を高める。                                                                                                                    |
|                                                                                                             |                                                                                                        | ⑮ 留学生に対する個別チューター制度の充実を図る。                                                                                                                                                              |
|                                                                                                             |                                                                                                        | ⑯ グローバル化の一環として、英語による授業の実現を図るための検討を引き続き行う。                                                                                                                                              |
|                                                                                                             |                                                                                                        | ⑰ 留学生に対して、生活や就職などに関する支援を行う。                                                                                                                                                            |
| I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標                                                                                       |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                        |
| 2 研究に関する目標（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標                                                                             |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                        |
| 中期目標                                                                                                        | 中期計画                                                                                                   | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                                                           |
| ○ 愛知教育大学の特性を活かし、それぞれの教員が独創的で優れた研究成果を生み出し、多様な学術研究機能の充実を図り、特に、教育現場が直面する諸問題の解決に寄与できる先進的な研究を推進し、それらの成果を社会へ還元する。 | ① 教員養成と教養教育を二本の柱とする愛知教育大学の特性を活かし、各研究者が多様な学問分野において独創的で優れた研究を行う。                                         | ① 教員が多様な学問分野において独創的で優れた研究を生み出すように、研究支援体制を点検し、改善を図る。                                                                                                                                    |
|                                                                                                             | ② 教育現場が直面する諸問題の解決に寄与するために、教員養成に関わる領域に重点的に取り組み、各種研究プロジェクトを組織し、先進的な研究成果を生み出すことをめざす。                      | ② HATOプロジェクトを遂行するセンター及び各センターが連携して教育現場の諸問題を解決する研究を推進する。<br>③ 「理科離れ」、「ものづくり離れ」の改善に向けた取組の一環として、科学・ものづくり教育推進センターの活動を継続的に推進する。                                                              |
|                                                                                                             | ③ 「愛知教育大学学術情報リポジトリ」、「愛知教育大学研究者総覧システム」及び「愛知教育大学出版会」を通して研究成果を広く社会へ公表するとともに、社会に対する提言・助言等を積極的に行う。          | ④ いじめ等の教育課題について、プロジェクトを組織し、大学と附属学校が連携して問題解決のための研究を行う。<br>⑤ 小学校英語を中心としたグローバル化の推進に向けて、小・中・高の連携を勘案した英語教員養成カリキュラムの開発と授業実践力を高めるための教育改革に取り組む。                                                |
|                                                                                                             |                                                                                                        | ⑥ 「愛知教育大学学術情報リポジトリ」のコンテンツ確保、「愛知教育大学研究者総覧システム」の定期的な情報更新の促進等により、研究成果を社会一般に広く公表し、社会に対する助言に努める。                                                                                            |

| I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標                                                                                                                             |                                                                                                                                |                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 研究に関する目標（2）研究実施体制等に関する目標                                                                                                                        |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| 中期目標                                                                                                                                              | 中期計画                                                                                                                           | 年度計画（平成27年度）                                                                                              |
| ① 研究環境の整備に関する目標<br>大講座制の利点が有効に機能するように、全学的見地から研究資金の配分を行う。研究設備等に関しては、その充実に努めるとともに、学内資産の効率的な活用を推進する。                                                 | ① 大きな成果が見込まれる研究課題やプロジェクト研究への重点的かつ弾力的な研究資金の配分を行う。現有設備の使用状況を検証し、その整備を行うとともに、研究設備の共同利用を積極的に推進する。また、科学研究費や受託研究費について、申請サポート体制を充実する。 | ① 大きな研究成果が見込まれるものについて資源を重点的に配分し、教育研究の活性化を図る。                                                              |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ② 現有設備の使用状況を定期的に調査しつつ、設備の共同利用を推進する。                                                                       |
| ② 研究の質の向上に関する目標<br>研究成果の自己点検と客観的評価により、研究活動の状況や問題点を把握するとともに、学内外の研究者との連携や交流を推進する。                                                                   | ② 個人評価調査票を活用して自己点検を行うとともに、特に優れた研究については、その成果を広く社会に対して発信することで研究を活性化させる。また、研究集会の開催状況、外部資金の受入状況なども積極的に公表する。                        | ③ 科学研究費電子申請サポートシステムの活用及び受託研究費の申請サポートを行う。                                                                  |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ④ 個人評価調査票の活用による自己点検の充実に向けて、評価項目等の検討を行う。                                                                   |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ⑤ 平成26年度に改善した研究評価基準を活用して、優れた研究をWebサイトで公表するとともに、その成果をアカデミックカフェ等において公開する。                                   |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ⑥ 研究集会の開催状況、外部資金の受入状況をWebサイトで積極的に公表する。                                                                    |
| I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標                                                                                                                             |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| 3 その他の目標（1）社会との連携や社会貢献に関する目標                                                                                                                      |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| 中期目標                                                                                                                                              | 中期計画                                                                                                                           | 年度計画（平成27年度）                                                                                              |
| ○ 県内の教育関係機関等との連携協力を維持・発展させるとともに、愛知県の中でも西三河地域を拠点とする国立大学として、幅広い研究分野を有する愛知教育大学の特性を活かした社会貢献を実施し、地域社会の要請に応える。                                          | ① 地域連携センターを軸に、近隣市町村教育委員会との覚書に基づく連携の実績を踏まえ、近隣市町村と新たに包括協定を締結することにより、連携協力を強化する。また、教育委員会との連携による教員研修及び研究指導のための教員派遣を行う。              | ① 教育委員会との連携による教員の研修事業や研究指導のため、教員派遣を実施する。                                                                  |
|                                                                                                                                                   | ② 愛知教育大学の特性を活かした公開講座及び市町村等との連携講座などを開催するとともに、学術講演会及びシンポジウムなどを愛知教員養成コンソーシアムの活用や関係団体との連携により開催し、教育研究の成果を社会に還元する。                   | ② 近隣市等との包括協定や覚書等に基づき、連携内容の充実に向けた協議を行う。また、企業等との連携について推進する。                                                 |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ③ 教育委員会との連携による外国人児童生徒への学習支援事業に取り組む。                                                                       |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ④ 公開講座及び包括協定等を締結した近隣市との連携講座を開催する。                                                                         |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ⑤ 愛知教員養成コンソーシアムや関係団体との連携によるシンポジウム等を開催するとともに、国公私を超えた教員養成高度化に向けた大学間連携による共同教育の具体的な実施カリキュラムを引き続き検討し、運用試行に努める。 |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標                                                                                                                             |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| 3 その他の目標（2）国際化に関する目標                                                                                                                              |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| 中期目標                                                                                                                                              | 中期計画                                                                                                                           | 年度計画（平成27年度）                                                                                              |
| ○ 国際社会に開かれた大学として、国外の高等教育機関との連携や国際交流を推進し、留学生の積極的受入及び派遣を通してアジア地域をはじめ世界の教育と文化的発展に貢献するなど国際化を積極的に進める。                                                  | ① 留学生受入数100人を目標に、広報宣伝を強化し、特に、教育研究基金の充実を図り、海外協定校からの留学生の受入及び派遣数を増やす。                                                             | ① 留学生100人の受入を目指して、具体的な方策を展開する。                                                                            |
|                                                                                                                                                   | ② 国際学術交流協定締結校を協定未締結地域に広げるなど、協定校を増やし、また、協定校との単位互換・ダブルディグリー制度、研究者交流を進める。更に、JICAをはじめとする国際関係機関等との連携により学生や研究者交流を推進し、国際化を進める。        | ② 留学生のための宿舎の確保を図る。                                                                                        |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ③ 国際学術交流協定締結校の学生を対象としたサマースクール等を実施する。また、本学の学生の留学に向けたショートビジットを試行する。                                         |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| ⑤ 国際学術交流協定締結校との単位互換制度等について検討する。                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| ⑥ 国際学術交流協定締結校からの研究者との交流を実施するとともに、教職員の派遣の方策を検討する。                                                                                                  |                                                                                                                                |                                                                                                           |
|                                                                                                                                                   | ③ 名古屋大学と三重大学等と連携してグローバル人材の育成に取り組む。                                                                                             | ⑦ 国際関係機関等との連携により、学生や研究者の交流を進める。                                                                           |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ⑧ 「国立大学改革強化推進事業」による大学間連携及び運営費交付金特別経費を活用し、本学の強みを生かしたグローバルな人材育成に取り組む。                                       |
| I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標                                                                                                                             |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| 3 その他の目標（3）附属学校に関する目標                                                                                                                             |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| 中期目標                                                                                                                                              | 中期計画                                                                                                                           | 年度計画（平成27年度）                                                                                              |
| ○ 学長のリーダーシップによるマネジメント機能を強化し、附属学校園は、それぞれの特性を活かした先導的・実験的な学校教育の実践を行い、学部・大学院の教育に関する研究に協力しながら、教育実習等の活用を拡大し、学部・大学院と共同して国レベルをはじめ地域の教育課題の解決と学校教育の発展に寄与する。 | ① 附属学校園は、大学の実験校・実習校として、附属学校園の組織運営・業務運営の効率化を図る中で、附属学校園教員と大学教員との共同による教育研究を推進しながら、人的・物的資源の効果的かつ効率的活用をめざす。                         | ① 附属学校が自ら提案した改革プランを参考に、今後の在り方について、引き続き検討を継続し、大学と附属学校の連携強化を図る。                                             |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ② 自己点検評価の結果を基に、教育研究、教育実習等の改善について検討する。                                                                     |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ③ ユネスコスクールの加盟後の取組の推進に向けて大学が支援する。                                                                          |
|                                                                                                                                                   |                                                                                                                                | ④ 平成26年度に立ち上げた課題検討部会を活用し、教育実地研究専門委員会とも連携して、附属学校教員の派遣などによる教育実習体制の充実に図る。                                    |
|                                                                                                                                                   | ② 附属学校園は、学部・大学院と共同で行う教育研究活動の成果を地域に向けて発信し、教育内容・方法の開発及び教員研修等を地域の教育                                                               | ⑤ 大学教員の交流訪問を推進し、附属学校教員との共同による教育研究活動の拡充に取り組む。                                                              |

|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                        | 界と連携・協力しながら、先導的・実験的な取組を推進する国レベルの拠点校及び地域のモデル校として寄与する。                                                                                                                                    | ⑥ 各附属学校の教育研究活動の成果を地域に向け発信する。                                 |
| Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
| 1 組織運営の改善に関する目標                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
| 中期目標                                                                                                                                                                   | 中期計画                                                                                                                                                                                    | 年度計画（平成27年度）                                                 |
| ① 学長のリーダーシップの下、トップダウンとボトムアップの調和を図りつつ、迅速な意思決定と円滑な法人の運営が図れる体制を整備するとともに、法人の運営等に外部有識者の意見も活用する等、開かれた法人運営を行う。                                                                | ① 学長のリーダーシップをより一層発揮できるよう、法人運営体制の見直しを行う。また、学長裁量の教員及び経費を確保し、弾力的で機動的な人的・物的資源の配分を行う。                                                                                                        | ① 学長のリーダーシップを一層発揮できるよう、法人運営体制を確立する。                          |
|                                                                                                                                                                        | ② 経営協議会の審議の一層の活性化を図り、併せて地元教育界等との意見交換の場や顧問会議等での外部有識者の意見を法人の運営に活用する。                                                                                                                      | ② 学長のリーダーシップの下に、総人件費の在り方及び教員の配置を検討する。                        |
|                                                                                                                                                                        | ③ 組織運営の効率化や審議の継続性の観点から、各種委員会等の再編及び委員構成の見直しを行う。                                                                                                                                          | ③ 学長裁量経費の弾力的・効率的運用を図る。                                       |
|                                                                                                                                                                        | ④ 監事監査、内部監査を計画的に実施し、その監査結果を法人の運営に反映させるシステムを充実する。                                                                                                                                        | ④ 経営協議会での意見交換を充実させ、法人運営に活用するとともに、引き続き学外委員の意見及びその反映状況を公表する。   |
| ② 機動的・機能的観点から教育研究組織を見直すとともに、教職員の業績を適切に評価するシステムの整備・充実を図るなど、組織の活性化を図る。                                                                                                   | ⑤ 機動的・機能的な観点から、教育創造開発機構の下にセンターを配置するなど教育研究組織の改組・再編を行う。                                                                                                                                   | ⑤ 各種委員会の在り方の検討及び審議の効率化を進める。                                  |
|                                                                                                                                                                        | ⑥ 大学の実験校・実習校としての役割を踏まえた附属学校園の見直しを行う。                                                                                                                                                    | ⑥ 年間を通じて計画的に監事監査を実施するとともに、前年度に要改善とした事項のフォローアップに取り組む。         |
|                                                                                                                                                                        | ⑦ 教職員の業績を適切に評価するシステムを整備する。                                                                                                                                                              | ⑦ 教育創造開発機構を発展的に改組し、新たなセンター組織において活動内容の充実を図る。                  |
| Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
| 2 事務等の効率化・合理化に関する目標                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
| 中期目標                                                                                                                                                                   | 中期計画                                                                                                                                                                                    | 年度計画（平成27年度）                                                 |
| ○ 機動的・機能的な事務組織を整備するとともに、事務職員の資質向上と事務処理の合理化・効率化を更に進める。                                                                                                                  | ① 現在の3部12課体制及び各附属学校園の事務組織の見直しを行い、スリム化・効率化に取り組む。                                                                                                                                         | ① 業務分担の適正な在り方について引き続き検討し、改組後の事務組織について機動的・機能的な観点から検証を行う。      |
|                                                                                                                                                                        | ② 全事務職員に研修の機会を与える。また、民間企業等で一定の経験を有するなど、専門的知識・能力を持つ人材を登用する。                                                                                                                              | ② 引き続き全事務職員が研修を受けるようにするとともに、新たな研修等を企画する。                     |
|                                                                                                                                                                        | ③ 事務の合理化・効率化の観点から、他大学との共同事務の導入の検討も含め、業務のアウトソーシング化を進めるとともに文書処理規程等の見直しを行い、決裁文書等の削減及び迅速化を図る。                                                                                               | ③ 他大学との共同事務について継続する。<br>④ 業務のアウトソーシングについて検討する。               |
| Ⅲ 財務内容の改善に関する目標                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
| 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
| 中期目標                                                                                                                                                                   | 中期計画                                                                                                                                                                                    | 年度計画（平成27年度）                                                 |
| ○ 科学研究費補助金、受託研究費、奨学寄附金などの外部資金の獲得に組織的に取り組む。また、公開講座等の開催などによる自己収入の確保を図る。                                                                                                  | ① 研究者総覧をはじめ各種の情報媒体を通じて、教員の研究内容及び研究業績を積極的に外部に発信し、科学研究費補助金、受託研究費、奨学寄附金などの外部資金の増額を図る。特に、科学研究費補助金については、申請件数100件、採択額1億円を目標とする。                                                               | ① 教員の研究活動の発信力を高めるための組織的取組を行う。                                |
|                                                                                                                                                                        | ② 学校現場や地域社会のニーズに合わせた公開講座及び心理教育相談等を充実させ、自己収入を確保するとともに教育研究基金を一層充実する。                                                                                                                      | ② 科学研究費助成事業申請件数、採択額及びその他の外部資金の増を目指すための取組を検討・実施する。            |
|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                         | ③ 学校現場や地域社会のニーズに合わせた講座の計画立案に努め、公開講座の内容の充実を図る。                |
|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                         | ④ 学校現場や地域社会のニーズに合わせた教育研究活動及び心理教育相談・発達支援相談等を充実させ、自己収入の確保に努める。 |
|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                         | ⑤ 教員免許状更新講習において、対面講習及びeラーニング講習を実施し、講習内容の一層の充実を図る。            |
|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                         | ⑥ 積極的な企業訪問並びに卒業生への働きかけ等により、教育研究基金の一層の充実を図る。                  |
| Ⅲ 財務内容の改善に関する目標                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
| 2 経費の抑制に関する目標（1）人件費の削減に関する目標                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                         |                                                              |
| 中期目標                                                                                                                                                                   | 中期計画                                                                                                                                                                                    | 年度計画（平成27年度）                                                 |
| ○ 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、平成18年度以降の5年間に於いて国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。 | ① 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度から5年間に於いて、△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。 | 平成27年度は年度計画なし                                                |

| Ⅲ 財務内容の改善に関する目標                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 経費の抑制に関する目標（2）人件費以外の経費の削減に関する目標                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 中期目標                                                                              | 中期計画                                                                                                                                                                                                                                                   | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                                                                                      |
| ○ 業務内容やプロセスを多角的に点検し、効率化、合理化、簡素化による経費抑制を進める。                                       | ① 業務の合理化、効率化を推進し、重複業務の点検や省エネルギー対策設備の導入に取り組み、管理的経費を抑制する。                                                                                                                                                                                                | ① 重複業務の調査を行い、業務の合理化、効率化を推進する。<br>② 廃棄物及びゴミの減量・分別、資源リサイクルについて検討・推進する。<br>③ 物品等のリユースを実施する。<br>④ 施設に関する「マスタープラン」に基づき、省エネルギー対策設備の更新等を計画的に実施する。                                                                        |
| Ⅲ 財務内容の改善に関する目標                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 3 資産の運用管理の改善に関する目標                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 中期目標                                                                              | 中期計画                                                                                                                                                                                                                                                   | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                                                                                      |
| ○ 経営的視点に立って、法人が保有する土地・施設・設備などの固定資産及び流動資産を効果的・効率的に運用する。                            | ① 経営的視点から愛知教育大学の既存施設の地域開放や附属図書館の共同利用などを積極的に推進し、研修施設の活用方策について、その在り方を見直す。<br>② 資金計画に基づき流動資産の安全かつ積極的運用により運用益を確保するなど資産の有効活用を図る。                                                                                                                            | ① 既存施設の地域開放についてWebサイト等で紹介し、積極的な開放を計画・推進する。<br>② 研修施設について、伊良湖臨海教育実験実習施設の利用拡大を図るとともに、花の湖研修所の売り払い等の処分に関する取組を継続する。<br>③ 資金計画の不断の見直しを行い、状況にあった最善の運用を実施して運用益を確保するなど資産の有効活用を図る。                                          |
| Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 1 評価の充実に関する目標                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 中期目標                                                                              | 中期計画                                                                                                                                                                                                                                                   | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                                                                                      |
| ○ 自己点検・評価及び外部評価の結果を大学の教育研究並びに組織及び運営等の改善に結びつける。                                    | ① 評価対応組織を再構築し、評価結果の分析に基づき改善計画を策定するとともに、改善状況を定期的に確認し、その成果を検証する。                                                                                                                                                                                         | ① 評価に係る専門委員会を機能させるとともに、第2期中期目標期間中の各評価結果に基づく指摘事項の改善状況を検証する。<br>② 認証評価結果に基づき、改善計画の策定及び改善策を実施するとともに、教職大学院認証評価の受審に向けた取組を実施する。                                                                                         |
| Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 中期目標                                                                              | 中期計画                                                                                                                                                                                                                                                   | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                                                                                      |
| ○ 教育研究並びに組織及び運営等に関する情報を、積極的に広報し、社会に対する説明責任を果たす。                                   | ① 各種の大学情報をデータベース化し、インターネットその他広く提供することができる方法を活用して情報公開や情報発信等を行う。                                                                                                                                                                                         | ① 大学情報に関する基礎データを、基礎資料集として集約し公表する。また、学内での積極的な活用を促す。<br>② 大学ポータルサイト及びWebサイト等を活用して教育研究活動の状況及び組織・運営等に関する情報を積極的に公表する。                                                                                                  |
| Ⅴ その他業務運営に関する重要目標                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 1 施設設備の整備・活用等に関する目標                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 中期目標                                                                              | 中期計画                                                                                                                                                                                                                                                   | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                                                                                      |
| ○ 附属学校園を含む法人全体のキャンパス整備6ヶ年計画を定め、豊かな自然を活かした環境配慮型エコキャンパスを創造し、快適な教育・研究環境づくりを計画的に推進する。 | ① 環境報告書に温室効果ガスの削減目標を記載し、その達成に向けて自然エネルギーの活用等全学的な省エネルギー化を進める。<br>② 理数系教員養成の推進と狭隘化解消のための総合研究棟の新設及び老朽化した教育研究棟の改修などキャンパス整備6ヶ年計画を定め、学生・教職員のための魅力あるキャンパス環境の整備に重点的に取り組む。<br>③ 共同利用スペースの整備を計画的に実施し、既存施設を有効活用する。<br>④ 国レベルの拠点校及び地域のモデル校としてふさわしい附属学校園の施設・設備を充実する。 | ① 温室効果ガスの排出量（CO2原単位・単位面積当たり）平成21年度比6%の削減を図る。<br>② 次期キャンパス整備6ヶ年計画の策定を進める。<br>③ 耐震化及び非構造部材対策について100%完了を目指すとともに、引き続き学生寮管理棟の整備を実施する。<br>④ 平成26年度の研究室等の再配置に向けての意向調査結果に基づき、実行力のある具体的な案を作成する。<br>⑤ 附属学校の施設・設備の安全確保に取り組む。 |
| Ⅴ その他業務運営に関する重要目標                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 2 安全管理に関する目標                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
| 中期目標                                                                              | 中期計画                                                                                                                                                                                                                                                   | 年度計画（平成27年度）                                                                                                                                                                                                      |
| ① 全学的・総合的な安全管理体制の整備を進め、想定される事象ごとに予防的措置にも力を注ぎ、安全管理体制をより強固に構築していく。                  | ① 発生することが予想される東海地震及び東南海地震への安全対策や防災訓練、防犯訓練等の安全管理に関わる諸活動を行う中で、全構成員に対し危機管理意識の徹底を図る。<br>② あらゆる危機に対応するための包括的危機管理マニュアルの点検整備を計画的に行う。                                                                                                                          | ① 施設設備等の安全点検を定期的に行う。<br>② 防災訓練、防犯訓練、セミナー等の諸活動を行い、学生及び教職員の危機管理意識を向上させる。<br>③ 学生及び教職員の健康管理・安全管理のための活動を行う。<br>④ 見直しを行った危機管理マニュアルの実効性を検証する。                                                                           |
| ② 情報セキュリティ対策を推進するため、情報システム運用基本方針に従い、情報システムの秩序と安全性を確保し、安定的で効果的な運用に努める。             | ③ 情報セキュリティに対する侵害の阻止及び情報資産の適切な管理・保護を推進するため、定期的に情報基盤を見直しするとともに、全構成員に対し情報セキュリティ対策に関する教育と支援を行う。                                                                                                                                                            | ⑤ 情報処理センターシステム及びキャンパスネットワークの点検を行い、改善点を検証する。<br>⑥ 情報セキュリティポリシーの点検・整備を行う。<br>⑦ 教職員対象の情報セキュリティ講習会を開催する。                                                                                                              |

| Ⅴ その他業務運営に関する重要目標                          |                                                                   |                                   |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 3 法令遵守に関する目標                               |                                                                   |                                   |
| 中期目標                                       | 中期計画                                                              | 年度計画（平成27年度）                      |
| ○ 国立大学法人法及び関係法令を遵守し、教職員一人一人に法令遵守の意識を徹底させる。 | ① 法令遵守に係る検証体制の整備を図るとともに、個人情報漏えい、不正経理、各種ハラスメント等の、法令遵守に関わる研修会を開催する。 | ① 全学の教職員を受講対象とする法令遵守に係る研修会等を開催する。 |

#### （４）アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

| アドミッションポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | カリキュラムポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ディプロマポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育学部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>本学では、平和で豊かな世界の実現に寄与し、幅広く深い教養、人間性及び総合的な判断力を身につけた教員・社会人を育成する責務を負っています。とりわけ今日、教員あるいは社会でリーダーシップをとれる市民の育成にあたっては、基礎的な学力とモラルはもちろんですが、教育や職務への使命感・責任感、人間や社会への理解と愛情、自ら研鑽に努める姿勢が重視されます。このような認識を基底にして、教員養成課程では、子どもを深く理解し、専門的知識や技能と実践的な指導力を併せ持った教員の育成をめざしています。また、現代学芸課程では、専門基礎教育を重視し、文化の創造・発展に貢献し、幅広く社会で活躍できる人材の育成をめざしています。</p> <p>入学を望む学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての基本的モラルを身につけている人</li> <li>・教育についての関心を持ち、教職への強い使命感・志を持つ人</li> <li>・子どもや教育実践の場と積極的に触れ合い、教職への理解を深めようとする人</li> <li>・社会の変化に関心を持ち、自分の問題として考えることのできる人</li> <li>・専門的知識や技術を身につけるため自ら進んで学ぼうとする人</li> <li>・職務に対する使命感を持って研鑽に努めることができる人</li> <li>・創造的な活動や考えを展開できる人</li> </ul> | <p>本学の教育課程では、教養教育を重視し、教員養成4課程では多様な教員養成プログラムを通して、平和な未来を築く子どもたちの教育を担う優れた教員の養成をめざし、現代学芸課程では、社会の発展と文化の継承及び創造に貢献できる広い教養と深い専門的能力を持った多様な社会人の育成をめざすことを目的とします。</p> <p>（教育学部教育課程に関する規程から）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p><b>教員養成課程</b></p> <p>初等教育教員養成課程、中等教員養成課程、特別支援学校教員養成課程及び養護教諭養成課程にあつては、本学に4年以上在学し、平和な未来を築く子どもたちの教育を担う優れた教員の養成を目的に、主に全学共通教育を通じてなされた共通科目教育と各課程の教育目的に沿って開設された専門教育科目により構成される、多様な教員養成プログラムに基づいて定められた単位を修得するとともに、卒業研究の審査に合格した者に学位として学士「教育学」の称号を授与します。</p> <p><b>現代学芸課程</b></p> <p>現代学芸課程にあつては、本学に4年以上在学し、社会の発展と文化の継承及び創造に貢献できる広い教養と深い専門的能力を持った多様な社会人の育成を目的に、主に全学共通教育を通じてなされた共通科目教育及びリベラルアーツ教育の理念を取り入れた共通基礎専攻科目と専攻科目について定められた単位を修得するとともに、卒業研究の審査に合格した者に学位として学士「学芸」の称号を授与します。</p> |
| 初等教育教員養成課程                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 幼児教育選修                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>本選修では、幼児教育・保育に対する関心を持ち、幼稚園の教員や保育士になることを目指す学生を求めます。幼児教育の社会的な要請に対応できる専門的知識を得ること、及び実践力を身につけることに意欲的な者を望みます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>本選修では、健やかな子どもの育ちを支える確かな専門性と実践力を備え、社会に貢献できる幼稚園教諭・保育士の養成を目指します。そのために主な学術領域として、幼児教育学・幼児心理学・保育内容学・保育士養成関連科目を設定しています。これらの領域では、学生が学問的方法を体系的に、系統的に学ぶことを通して、幼児教育・保育の諸問題の多角的な把握の仕方やその解決方法について、専門的力量を形成していけるように指導します。</p> <p>具体的には、幼児教育の基礎理論を学ぶ科目（「幼児教育学」など）、幼児理解のための科目（「幼児心理学」「子どもの保健」など）、幼児教育現場のニーズに対応するための科目（「障害児保育」など）、実践力を養うための科目（「保育内容研究」「基礎技能」など）を設定しています。また、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格に必要な諸科目を組み合わせ、学生の授業への主体的参加を促しています。さらに、幼児教育に関する課題を自ら解決するための能力を養うために、卒業研究を設定しています。</p> | <p>本選修では、幼児教育・保育に関する幅広い専門知識の習得と保育実践につながる教育を目的としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育・保育をめぐるいろいろな現代課題について論じ、適切な対応を考えることができる。【思考・判断】</li> <li>・専門職としての責任感・使命感に基づいた幼児教育・保育の専門的知識と技能を習得し、実践で応用することができる。【知識・理解】</li> <li>・教育・保育活動に取り組むために、高い技能と豊かな表現力を身につけ、さまざまな人々と連携し協力する力を有している。【技能・表現】</li> <li>・多様な保育ニーズに対応できる保育実践力と保育者としての資質向上へ意欲をもち、学び続けることができる。【関心・態度】</li> </ul>                                                                                       |
| 教育科学選修                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>本選修では、教育学や進路指導、心理学等の教育諸科学の専門的な知識や実践的な能力を身につけた有為な教員の養成、並びに教育に関連する分野で活躍できる人材の育成を目指しており、(1)及び(2)に該当する者を望みます。</p> <p>(1)広く教育や子ども・学校・社会、青少年の生き方や進路選択の問題、人間の心理や行動などに関心を持ち、教育学や進路指導、心理学について学ぶ意欲を強く持っている者</p> <p>(2)将来、教職（小学校教員など）に就く強い意欲を持っている者</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>本選修では教科教育のみならず、複雑な教育と発達・学習をめぐる現代の諸課題に対し、専門的な対処能力を身につけた有能な教員の養成、ならびに教育に関するさまざまな分野で活躍できる人材の養成を目標として、履修モデルごとに下記のような授業科目を配置しています。</p> <p>「教育学履修モデル」</p> <p>教育の本質の意味や社会との関係のあり方について探求しつつ、授業・生徒指導に関する実践的力量を形成するために、教育哲学・教育史・教育社会学・社会教育科学・教育制度学・教育方法学・教育集団学・学校図書館学の8分野を網羅したカリキュラムを編成しています。具体的には、1. 2年次の「教育学基礎実習」</p>                                                                                                                                                  | <p>本選修では、教育について関心を持ち、教職への強い使命感・志を持って入学された学生に、複雑な教育と発達・学習をめぐる現代の諸課題に対し、専門的な対処能力を身につけた有能な教員の養成、ならびに教育に関するさまざまな分野で活躍できる人材の養成を目標としています。この目標を達成していくために、教育学や進路指導、心理学等の教育諸科学の研究を少人数で学ぶとともに、学校教育内外の実践的・臨床的な場面と向き合いながら高度な研究・教育活動へと学生を誘い、知的分析力と実践的力量の育成を目指しています。</p>                                                                                                                                                                                                                 |

|                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                 | <p>と2年次の「教育学概論」で各分野の基礎を学びます。次いで2. 3年次の「教育学特別研究」と3. 4年次の「演習」で複数の分野を選択して理解を深め、最終的に4年次の「教育総合演習」で知見を更に深め、各自問題意識に基づいて卒業論文を執筆します。</p> <p>「進路指導履修モデル」</p> <p>「進路指導原論」「進路指導の評価」「進路指導の組織運営」などの授業を通して、学校における進路指導の基本的な考え方やあり方の理解を深めます。また、「職業指導概論」「産業・職業情報分析」「職業選択と適性」「キャリアカウンセリング基礎演習」等の授業を通して、免許教科である「職業指導」の理論と方法技術を修得し、進路指導主事に必要な専門的な知識や指導力を養います。そして、小・中学校において児童生徒の将来の生活設計や、人間としての生き方、進路選択に関して適切な指導支援のできる教員の養成をめざしています。</p> <p>「心理学履修モデル」</p> <p>心理学の専門知識と方法論を、講義だけでなく体験的に学習します。1年次では、心理学の基礎知識を学び、2年次からは、発達・学習にかかわる心理検査の実施方法や心理学の研究方法をも実際にデータを収集しながら習得します。具体的には、2年次で検査法と調査法、3年次で心理学実験の方法や観察法の習得を目指します。また、収集したデータはコンピュータで分析しレポートにまとめます。これら蓄積された知識や技術は卒業論文作成に生かされます。卒業論文では、教育に関する諸問題について各学生の関心のあることを取りあげ、指導教員の指導のもと作成を進め、教育に関連する諸問題について深く探求します。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 情報選修                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>本選修では、「情報活用能力の育成ができる」「ITを活用した授業ができる」「学校全体の情報化に中心的に貢献できる」小学校教員の養成を目標にしています。</p> <p>教員への強い意志と関心を持ち、また情報科学に強い興味を持つ者を望みます。</p>                                                                   | <p>本選修では、情報活用能力が高く、情報通信技術を活用した授業ができ、学校の情報化において中心的な役割を期待でき、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。</p> <p>教育目標としては、諸点についての能力を養成することを目指します。</p> <p>(1)各教科においてICTを活用した授業ができる<br/>(2)情報活用能力や情報モラルを育成するための授業ができる<br/>(3)学校全体の情報化に積極的に取り組むことができる</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>本選修では、初等教育教員養成課程として教育職員免許法に定められた科目を基本としながら、情報活用能力の育成や、情報通信技術を活用した授業の実現をめざします。そのために、情報基礎、教育工学、認知科学、情報教育の4つの分野から、それぞれプレゼンテーション、教育情報システム、認知科学、初等情報研究等を学びます。こうした科目は、講義のみならず、演習を伴うものもあり、地域の協力校に出向いて実践を行うなどのこともあります。</p> <p>3年次からは各自が学究したいテーマを選び、ゼミ形式で教員の指導を受けながら研究の方法を学ぶとともに、具体的な実践力を身に付けます。</p> |
| 国語選修                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>情報化や国際化が著しい現代社会において、人文社会科学の果たす役割は大きいものといえます。本選修では、国語科の専門分野を学んだ、小学校をはじめとする初等教育教員の養成を目的としています。本選修では、豊かな教養をもち、高等学校で学んだ国語の各分野に深い興味や関心を抱き、それらを主体的に学んで行く意欲がある者を望みます。また、教職に就くという、強い意志を持つ者を望みます。</p> | <p>本選修では、国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育の領域に分かれ、それらに習熟した小学校の教員を育成することを目的としています。言語の役割と意義について理解したうえで、それぞれの領域における基礎的・専門的な知識を身につけるとともに、自ら探求することで言語運用能力を高めることができます。教材開発能力・教材研究能力を養うとともに、授業を組織し展開できるようにします。上記目標のために、1年では、「初年次演習」として、国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育の入門を果たします。また、国語科教育の専門的な「国語科研究AⅡ」「国語科研究BⅡ」の授業を設置し、教材研究や授業実践の基礎を学びます。また、各領域における演習を1年次から取り入れることで本格的に専門性に触れ、理解や表現について習熟するように授業が配置されています。また、2年次よりそれぞれの領域のゼミナールに分かれて、専門性を養うことをねらいとし、卒業論文にまとめることになっています。また、2年から4年まで、「国語科教育」の授業が設定され、基礎・基本から教材研究・授業研究、そして評価まで包括的に教員としての資質が育成されるようカリキュラムが組まれています。4年では、「教職実践演習」により教員としての総合的な科目が設定されています。</p>                                                                                                                                                                | <p>愛知教育大学の所定の単位を取得するとともに、国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育に関する広い教養と専門的な学力を身につけることによって、教育現場を担う優れた実践力とさまざまな職業を担える人材を育成します。</p>                                                                                                                                                                                |
| 社会選修                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>情報化や国際化が著しい現代社会において、人文社会科学の果たす役割は大きいものといえます。本選修では、社会科の専門分野を学んだ、小学校をはじめとする初等教育教員の養成を目的としています。本選修では、豊かな教養をもち、高等学校で学</p>                                                                        | <p>本選修では、現代における人間と社会の広く深い理解に基づいて、将来の社会の形成者たるにふさわしい資質を備えた生徒を育成し、指導できる人材を養成することを目的としています。小学校全教科の理解・指導力を養成するために小学校の全教科に関する教科研究科目と教科教育科目を履修するとともに、得意分</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>本選修では、現代における人間と社会の広く深い理解に基づいて、将来の社会の形成者たるにふさわしい資質を備えた生徒を育成し、指導できる人材を養成することを目的としています。教育目標として、小学校全教科の理解・指導力に加えて、人文社</p>                                                                                                                                                                       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>んだ社会の各分野に深い興味や関心を抱き、それらを主体的に学んで行く意欲がある者を望みます。また、教職に就くという、強い意志を持つ者を望みます。</p>                                                                                                                                                                                                             | <p>野としての社会科について、人間と社会のさまざまな側面を人文社会系諸科学からより深く学修また研究します。</p> <p>具体的には、人文社会系諸科学として哲学、歴史学、地理学、社会科学（法学・政治学・経済学・社会学）の基礎を1 年次から3 年次前半にかけて広く共通に修めると同時に、2 年次以降は哲学、歴史学、地理学、社会科学のいずれかに軸足を置くことにより深く専門的に学んでいきます。と同時に、そのような人文社会系諸科学の成果を学校教育における実践に結びつけていく社会科教育学を学んでいきます。そして、4 年次における卒業論文作成は社会選修における勉学の総決算となるようなカリキュラム編成をしています。このような社会科を得意分野として、人文社会系諸科学に基づいた社会科教育力と幅広い教育実践力を養成し、初等教育教員として不可欠な高い資質と能力を培います。</p>                                                                                                                                                                                                                     | <p>会系諸科学を軸として、下の諸点についての能力を養成することとしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文社会系諸科学の基本的な知見を持ち、議論を通じて論理的に思考することができる。</li> <li>・空間的・時間的・人間的な諸要素（社会現象）に対する積極的な関心と認識能力を身につけ、それを小学校社会科において適切に活用することができる。また、他の教科にも応用することができる。</li> <li>・教育内容の背後にある専門的な知識を深く掘り下げ、その知識を教材として表現することができる。</li> </ul>                                                                                                                                                                 |
| <p><b>数学選修</b></p> <p>本選修では、数学に強い小学校教員の養成を目的としています。教員になる強い意志と数学に対する興味をあわせ持った者を望みます。</p>                                                                                                                                                                                                    | <p>本選修では、数学（算数）が好きであることに加え、将来を担う子どもたちに、数学の面白さを伝えていくことに関心を持つ学生が求められています。本選修は小学校教員の養成を目的としているので、学生は小学校全教科の内容と教育について学びます。一方、小学校教員は1つの学問分野についての深い知識と経験を持つことも期待されているので、数学と数学教育についても重点的に学びます。その結果として、数学の中学校・高等学校教諭1 種免許状の取得が可能です。毎年ほとんどの学生が、小・中・高3 枚の1 種免許状を取得して卒業しています。本選修は中等教育教員養成課程の数学専攻と、課程は異なるものの、授業の多くを合同で行っています。授業科目については、たとえば数学の内容に関する教科専門の授業でも、理工系学部の人とは異なり、より基礎的で教育的視点に立ったものが多いのが特徴です。</p>                                                                                                                                                                                                                       | <p>本選修では、小学校全教科の指導力に加えて、算数（数学）の面白さを伝えていくことに関心を持つ学生が求められています。算数教育の知識と熱意をもち、算数（数学）を得意とする小学校教員の養成を目的としており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学の議論を通じて論理的に思考することができる【思考・判断】</li> <li>・基本的な数学的知識を持ち小学校算数の指導においてこれらを適切に活用することができる【知識・理解】</li> <li>・数学的な技能や表現能力を身に付け、指導に活かせる【技能・表現】</li> <li>・数学の理論や体系に関心を持つとともに、数学的な見方や考え方をさまざまな事象の考察に積極的・継続的に活用し、指導に活かそうとする【関心・態度】</li> </ul>                                                |
| <p><b>理科選修</b></p> <p>本選修では、理科教育等に精通した小学校教員をはじめとする初等教育教員の養成を目的としています。現在の「理数離れ」の傾向を考えると、自然科学あるいは理科の素養のある教員の果たす役割は益々重要になっていきます。将来教職に就く強い意志を持っており、自然科学に興味や関心を抱き、探究心を持っている者を望みます。また、初等教育教員の果たすべき教育的役割を考えると、高校において外国語を含め広い分野の科目を履修した者を望みます。興味を持つ分野に応じて、物理、化学、生物、地学(地球環境)のいずれかを選択して受験してください。</p> | <p>本選修では、小学校の全教科に関する教科教育・教科研究科目の履修に加え、特に小学校理科についての強化を図るため理科研究科目を履修します。理科研究科目においては、主に小学校理科における物理、化学、生物、地学の4 分野の内容に関して、その意義、具体的な指導方法、および取り扱いの留意点を理解するとともに、理科の興味深さや奥深さを体験する内容に取り組み、その原理や仕組みについて自ら探求します。本科目の履修により、教育現場における理科の指導や教材開発について主導的な立場を担える能力の基盤を養うことを教育目標とします。第1 学年から第2 学年における科目履修を通じて理科共通の4 分野に関する基本的な科学概念について理解を図り、基礎的な観察・実験能力を育成します。同時に、教科教育法の講義の履修により、獲得した理科に関する専門知識を小学校で指導、実践するための教育的能力や技能を育成します。また、得意分野の形成を図るため、物理、化学、生物、地学の4 領域に分かれて、それぞれの分野のより専門的な知識や高度な実験技術の習得を図ります。希望者は理科教育学領域を選択することができ、理科教育（理科教育原理、方法、教材の開発、評価など）に関する専門的な知識や能力の育成を図るようカリキュラムが組まれています。第4 学年では、各専門分野（物理、化学、生物、地学、理科教育）で卒業論文を作成します。</p> | <p>本選修では、小学校全教科の指導力に加えて、自然への理解促進を前提に、時代の求める心豊かで情熱を持った理科を得意とする小学校教員の養成を目的としています。以下の諸点について、十分な能力を養成することを教育目標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場における授業や児童に関する諸問題に対応することができ、理科に関する論理的な思考・判断力を持つ【思考・判断】</li> <li>・基礎的・基本的な学習知識を有し、小学校での理科をはじめとする教科指導において適切に運用することができる【知識・理解】</li> <li>・基本的な科学的観察力や実験能力を身に付け、科学の概念や法則を用いて自然現象を適切に表現することができる【技能・表現】</li> <li>・児童の学習的・心情的・身体的成長、また理科で扱う自然の法則や体系に関心を持ち、児童への支援に積極的・継続的に関わって、理解を深めようとする【関心・態度】</li> </ul> |
| <p><b>音楽選修</b></p> <p>本選修では、将来、小学校教員を目指して、高度な音楽的技能の習得に自ら積極的、意欲的に取り組もうとする者及び大学で教養と、教育に関する専門的な知識を身につけたいと願う者を望みます。</p>                                                                                                                                                                        | <p>本選修では、小学校の全教科に関する科目に加え、小学校音楽についての強化を図るため音楽研究科目を履修します。音楽研究科目においては、主に小学校音楽科における表現（歌唱、器楽、音楽づくり）と鑑賞活動に関わる多様な実践をとおして、音楽の興味深さと奥深さを体験し、教育現場での指導方法や教材研究について自らが探究し、思考できる能力の基礎を養うことを教育目標としています。履修方法は、第1 学年から第2 学年ではピアノ、声楽、管打楽器（希望する一つを選択）等のレッスンを受け、同時に音楽理論や作曲の基礎を学びます。第2 学年から音楽科教育（教育原理、指導方法、教材開発、評価、模擬授業等）、指揮法、アンサンブル活動科目（合唱、合奏等）、そして音楽と人間、社会の関係を思考する音楽教養科目が設</p>                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>本選修では、大学生活を通じて、ピアノ、声楽、管打楽器等の技能と音楽知識、そして音楽以外の教育科目・教養科目を幅広く学び得た教養を背景に、音楽と人間、そして社会との関わりを見つめる豊かな感性と思考力を育む小学校教員の養成を目的としており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。</p> <p>音楽活動における理論と実践の関連性をふまえ、論理的に思考することができる【思考・判断】</p> <p>基本的な音楽的知識をもち、小学校音楽科においてこれらを適切に運用することができる【知識・理解】</p>                                                                                                                                                                                            |

|                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                               | 定されています。第3学年からはピアノ、声楽、管打楽器、作曲、音楽学・音楽教育学に分かれ、卒業研究に向けてそれぞれの分野のより専門的な知識や能力の育成を図るようカリキュラムが組まれています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 音楽の実践を導くための技能をもち、音や音楽を表現することができる【技能・表現】音楽と人間、そして社会との関係に関心をもちとともに、音や音楽の表現方法を積極的に追求しようとする【関心・態度】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <b>美術選修</b>                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 本選修では、将来、小学校教員を目指す強い意志を持ち、制作活動や美術鑑賞など美術に対するさまざまな興味や関心を持つ者を望みます。                                                                                                                               | 本選修では、小学校「図画工作」教科を得意分野とする小学校教員の養成を目指しています。教育に関する授業のほか、小学校の各教科を教えるための各教科の研究科目・教育科目の履修を必須としています。美術教科に関しては、基礎を1～2年生で学びます。3年次からは美術の中等教育教員養成課程・美術専攻で開講されている専門科目を積み上げるカリキュラムを揃えています。このカリキュラムにより、結果的には小学校教諭1種免許はもちろんですが、中学校教諭1種免許（美術）も取得できます。教育実習は、3年次に小学校で体験し（必修）、4年次に中学校に行きます（選択）。初等教育教員養成課程の学生は、所定科目の単位修得により幼稚園教諭2種免許を得ることもできます。高学年次には、それまでに学んできた美術教科を成す各領域である、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史、美術教育の中から一つの各ゼミナールを選び、卒業制作として深く追究し結実させます。この成果は、例年、卒業制作展として、美術館で一般市民に公開しています。                                                             | 本選修では、小学校の幅広い教科に向き合う教養と、教育展開の資質を養うとともに、未来からの留学生である子どもたちに、ものごとを構想する力を育む「図画工作」教科を得意分野とする小学校教員の養成を目指しています。小学校教育のマナー・マネジメントに加え、美術制作のクリエイティブ面を、車の両輪に位置づけています。美術教科を成す、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史各領域については、基本から展開に至るまで知識と造形力を身につけます。                                                                                                                                                                                                                    |
| <b>保健体育選修</b>                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 本選修では、将来、小学校教員をはじめ、教職に就く強い意志を持っている者を望みます。健康生活や運動実践に興味や関心を持っている者、また、体育・スポーツ科学の成果を積極的に学習しようとする意欲を持っている者を望みます。                                                                                   | 本選修では、小学校の全教科に関する科目に加え、小学校体育についての強化を図るための科目を履修します。そこで現代社会に生きる子どもたちの身体的問題を、教科教育学と教科内容学の観点から多角的にとらえ、授業科目を配置しています。体育科教育学では、体育授業の目標、内容、方法についての基本的な考え方を学びます。体育内容学の体育学領域では、哲学、社会学、心理学、史学、経営学などの立場から見た体育・スポーツの諸問題に対する洞察力を養います。運動学領域では、身体と運動の形態と機能について理解を深めます。また、スキルトレーニング、体カトレーニング、コーチングの基本理論と一般的方法論を学びます。学校保健領域では、発育発達や健康を促進させる教育の役割を理解し、そのために必要な知識を学びます。体育実技では、授業で扱われる運動やスポーツ種目の技能を高めるとともに、実践的指導力を身に付けます。                                                                                                                 | 本選修では、小学校全教科の指導力に加えて、心と体への理解促進を前提に、時代の求める心豊かで情熱を持った体育を得意とする小学校教員の養成を目的としており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。 <ul style="list-style-type: none"><li>・心と体の議論を通じて、論理的に思考することができる。</li><li>・基礎的な科学的知識を持ち、小学校体育科教育において、これらを適切に運用することができる。</li><li>・確かな技能と豊かな表現力を身に付ける。</li><li>・心や体に関心を持つとともに、体育科学的な見方や考え方をさまざまな運動に積極的に・継続的に活用しようとする。</li></ul>                                                                                            |
| <b>家庭選修</b>                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 本選修では、将来、小学校教員をはじめ、教職に就く強い意志を持っている者を望みます。人間の生活とその教育について深く洞察し、理論的かつ実践的能力を身につけることを目指しており、生活に関わる諸問題に興味、関心を持ち、それらの創造的解決や人間尊重の立場に立つ「豊かな生活」を追求する意欲を持つ者を望みます。                                        | 本選修では、小学校の全教科に関する科目に加え、小学校家庭についての強化を図るための科目を配置しています。家庭科では、子どもが直面する様々な生活課題を取り上げ、解決方法について諸科学を駆使して探究し、合意を形成したり、行動したりすることが求められます。そこで、生活とそれを取り巻く諸関係の現状と課題について、教科教育学と教科内容学の観点から多角的に探究できるように科目を設定しています。家庭科教育学では、子どもの発達課題に照らして、総合的・実践的に生活を探究し、教材研究を行います。また、授業実践やプランから目標・内容・方法を検討し、家庭科教育の理論と評価について学びます。希望者は授業研究の方法を学ぶことができます。家庭科内容学では、食物学、被服学、家庭経営学、住居学、保育学の各学修領域の基本的な諸科学の概念についての理解を図り、基礎的な実践的能力を育成します。希望に合わせ、専門的な知識の習得や高度な実験・技能の習得を図ります。第3学年から、家庭科教育学、家庭科内容学の各学修領域の指導教員のもと、演習・実験実習を履修し、そこでの学習と運動させて卒業研究を行えるようにカリキュラムを組んでいます。 | 本選修では、小学校全教科の指導力に加えて、生活や家庭への理解促進を前提に、時代の求める心豊かで情熱を持った家庭科を得意とする小学校教員の養成を目的としており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。 <ul style="list-style-type: none"><li>・生活や家庭に関する多面的な議論を通じて、その実態や課題を論理的に思考することができる。</li><li>・生活や家庭に関連した諸科学の基本的な知識を持ち小学校家庭科教育においてこれらを適切に運用することができる。</li><li>・生活に関連した実践的能力を身に付ける。</li><li>・生活や家庭に関連した諸科学の概念や法則を用いて、生活や家庭の諸側面を適切に表現することができる。</li><li>・「生活」に関わる諸問題に関心を持ち、これらの創造的解決や人間尊重の立場に立つ「豊かな生活」を追求し続けようとする。</li></ul> |
| <b>英語選修</b>                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 本選修では、実践的な高い英語力を身につけ、複眼的で柔軟な思考力を持って、学校教育が直面している諸課題に対応できる教員の養成を目指しています。従って当選修では、将来、英語教育に精通した小学校教員をはじめ教職に就く強い意志を持ち、言葉（英語）及びその背景にある広い意味での文化に対する強い興味や探究心を抱き、また獲得した知識や技能を積極的に活用することに強い意欲を持つ者を望みます。 | 本選修では、小学校全教科に関する科目に加え、小学校外国語活動（英語）についての強化を図るため英語研究科目を履修します。英語研究科目においては、「主に、小学校外国語活動（英語）における授業に対応できるように、その意義、具体的な指導方法、及び、指導内容の留意点を理解するとともに、小学校外国語（英語）教育の知識、児童の外国語（英語）習得の知識、言語・文化の知識、基礎的な英語および英語コミュニケーションの知識等について学ぶ内容に取り組み、その原理やそれらの応用について自ら探求することができます。以上により、教育現場での指導や教材開発に                                                                                                                                                                                                                                           | 本選修では、小学校全教科の指導に加えて、英語についての基礎的な専門知識と実践的な能力を身につけ、英語教育に精通するとともに、柔軟で創造的な思考を持って、学校現場における様々な課題に的確に対応できる優れた小学校教員の養成を目的としています。 <ul style="list-style-type: none"><li>・英語の基礎的な知識を持ち、論理的に思考することができる。</li><li>・英語学・英米文学・英語教育の基本的な知識を持ち、小学校外国語活動（英語教育）</li></ul>                                                                                                                                                                                  |

|                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>について主導的な立場を担える能力の基盤を養う。」ことを目標としています。</p> <p>カリキュラムは、英語学、英米文学、英語科教育学、英語コミュニケーション、また、小学校での外国語活動（英語）に対応するための教科教育を主要な柱として成り立っています。そして、英語専攻のカリキュラムに連携させ、講義・演習・ゼミナールを通じて、小学校外国語活動（英語）の指導者として習得すべき内容が、系統性・体系性を考慮して有機的に編成されています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>においてこれらを適切に運用することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・異言語・異文化に関心を持つとともに、グローバル的な見方や考え方を、様々な英語コミュニケーションの場面で柔軟にかつ創造的に活用しようとする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                    |
| <b>アドミッションポリシー</b>                                                                                                                                                                                                                                   | <b>カリキュラムポリシー</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <b>ディプロマポリシー</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <b>中等教育教員養成課程</b>                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <b>教育科学専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>本専攻では、教育学や進路指導、心理学等の教育諸科学の専門的な知識や実践的な能力を身につけた有為な教員の養成、並びに教育に関連する分野で活躍できる人材の育成を目指しており、(1)及び(2)に該当する者を望みます。</p> <p>(1)広く教育や子ども・学校・社会、青少年の生き方や進路選択の問題、人間の心理や行動などに関心を持ち、教育学や進路指導、心理学について学ぶ意欲を強く持っている者</p> <p>(2)将来、教職（中学校・高等学校教員など）に就く強い意欲を持っている者</p> | <p>本専攻では教科教育のみならず、複雑な教育と発達・学習をめぐる現代の諸課題に対し、専門的な対処能力を身につけた有能な教員の養成、ならびに教育に関するさまざまな分野で活躍できる人材の養成を目標として、履修モデルごとに下記のような授業科目を配置しています。</p> <p>「教育学履修モデル」</p> <p>教育の本質的意味や社会との関係のあり方について探究しつつ、授業・生徒指導に関する実践的力量を形成するために、教育哲学・教育史・教育社会学・社会教育学・教育制度学・教育方法学・教育集団学・学校図書館学の8分野を網羅したカリキュラムを編成しています。具体的には、1. 2年次の「教育学基礎実習」と2年次の「教育学概論」で各分野の基礎を学びます。次いで2. 3年次の「教育学特別研究」と3. 4年次の「演習」で複数の分野を選択して理解を深め、最終的に4年次の「教育総合演習」で知見を更に深め、各自問題意識に基づいて卒業論文を執筆します。</p> <p>「進路指導履修モデル」</p> <p>「進路指導原論」「進路指導の評価」「進路指導の組織運営」などの授業を通して、学校における進路指導の基本的な考え方やあり方の理解を深めます。また、「職業指導概論」「産業・職業情報分析」「職業選択と適性」「キャリアカウンセリング基礎演習」等の授業を通して、免許教科である「職業指導」の理論と方法技術を修得し、進路指導主事に必要な専門的な知識や指導力を養います。そして、小・中学校において児童生徒の将来の生活設計や、人間としての生き方、進路選択に関して適切な指導支援のできる教員の養成をめざしています。</p> <p>「心理学履修モデル」</p> <p>心理学の専門知識と方法論を、講義だけでなく体験的に学習します。1年次では、心理学の基礎知識を学び、2年次からは、発達・学習にかかわる心理検査の実施方法や心理学の研究手法も実際にデータを収集しながら習得します。具体的には、2年次で検査法と調査法、3年次で心理学実験の方法や観察法の習得を目指します。また、収集したデータはコンピュータで分析しレポートにまとめます。これら蓄積された知識や技術は卒業論文作成に生かされます。卒業論文では、教育に関する諸問題について各学生の関心のあることを取りあげ、指導教員の指導のもと作成を進め、教育に関連する諸問題について深く探求します。</p> | <p>本専攻では、教育について関心を持ち、教職への強い使命感・志を持って入学された学生に、複雑な教育と発達・学習をめぐる現代の諸課題に対し、専門的な対処能力を身につけた有能な教員の養成、ならびに教育に関するさまざまな分野で活躍できる人材の養成を目標としています。この目標を達成していくために、教育学や進路指導、心理学等の教育諸科学の研究を少人数で学ぶとともに、学校教育内外の実践的・臨床的な場面と向き合いながら高度な研究・教育活動へと学生を誘い、知的分析力と実践的力量の育成を目指しています。</p>                                                                                                                               |
| <b>情報専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>本専攻では、「情報活用能力の育成ができる」「ITを活用した授業ができる」「学校全体の情報化に中心的に貢献できる」高等学校または中学校の教員の養成を目標としています。</p> <p>教員への強い意志と関心を持ち、また情報科学はもちろんのこと、数学または技術にも強い興味を持つ者を望みます。</p>                                                                                               | <p>本専攻では、情報活用能力が高く、情報通信技術を活用した授業ができ、学校の情報化において中心的な役割を期待でき、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。</p> <p>教育目標としては、諸点についての能力を養成することを目指します。</p> <p>(1)教科内容学としての情報科学の基礎から応用</p> <p>(2)普通教科情報および専門教科情報を指導するための教科教育法</p> <p>(3)教育におけるICTの活用方法について</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>本専攻では、高等学校「情報」の教員になるための専攻科目として、定められた科目を基本としながら、情報活用能力を高め、情報通信技術を活かした授業ができ、学校の情報化において中心的な役割を果たせることをめざします。</p> <p>教員が児童・生徒に何かを教える場合、どのような教材を用いて、どのような方法で行うかが大切になります。そこで情報専攻では、情報を教えるための教材と指導法として、1年次では情報基礎の科目としてコンピュータ通論、プログラミング、2年次では情報通信ネットワーク、3年次ではコンピュータ社会論などを履修します。情報機器を利用して教えるための教材と指導法として、2年次では教育情報システム、3年次では教授学習論、コンピュータ利用教育、授業デザイン論などの教育工学の諸科目の履修を体系的に学習できるカリキュラムを用意しています。</p> |

|                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 3年次からは各自が学究したいテーマを選び、ゼミ形式で教員の指導を受けながら研究の方法を学ぶとともに、実践力を身に付けます。                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>国語・書道専攻</b>                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 本専攻では、中学校・高等学校の国語科、高等学校の書道の教員を養成することを目的としています。全教科の基盤に位置する国語科の重要性は、情報化社会といわれる現代においてますます高まって行くことと考えられます。当専攻では、国語・国文学や漢文学・書道に深い興味や関心を寄せ、それらを主体的に学んで行く意欲があり、知的冒険心が豊かで、将来教職に就くという意志をもった者を望みます。 | 本専攻では、国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育の領域に分かれ、それらに習熟した中学校・高等学校「国語科」の教員を育成することを目的としています。国語に関する高度な専門性を身につけるとともに、言語運用能力を高めるためのカリキュラムとなっています。教材開発能力・教材研究能力を養うとともに、授業を組織し展開できるようにします。上記目標のために、1年では、「初年次演習」として、国語の基礎的素養を身につけます。そのうえで、国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育それぞれの概説や演習に取り組み本格的に専門性を身につけるよう授業が配置されています。また、2年次よりそれぞれの領域のゼミナールに分かれて、専門性を養うことをねらいとし、卒業論文にまとめることになっています。また、2年から4年まで、「国語科教育」の授業が設定され、基礎・基本から教材研究・授業研究、そして評価まで包括的に教員としての資質が育成されるようカリキュラムが組まれています。4年では、「教職実践演習」により教員としての総合的な科目が設定されています。                                                                                                                                                                | 愛知教育大学の所定の単位を取得するとともに、国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育に関する広い教養と高い専門性を身につけることによって、教育現場を担うための優れた実践力とさまざまな職業を担えると認められる人材を育成します。                                                                                                                                                                                                                    |
| <b>社会専攻</b>                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 現代社会においては、少子・高齢化が進み、情報化、国際化が急速に進展しています。そのような状況のもとで社会のあるべき在り方について考えることは、我々にとって極めて重要な課題であります。本専攻では、大学における学問を通して、民主主義の精神を身に付け、将来、有為な教育者になろうという意欲のある者を望みます。社会科の各分野に関心を持っていることも望みます。           | 本専攻では、現代における人間と社会の広く深い理解に基づいて、将来の社会の形成者たるにふさわしい資質を備えた生徒を育成し、指導できる人材を養成することを目的としています。社会科を構成する科目全体の理解・指導力を養成するために、人間と社会のさまざまな側面を人文社会系諸科学（哲学、歴史学、地理学、社会科学）から深く学修また研究します。<br>具体的には、人文社会系諸科学として哲学、歴史学、地理学、社会科学（法律学・政治学・経済学・社会学）の基礎を1年次から3年次前半にかけて広く共通に修めると同時に、2年次以降は哲学、歴史学、地理学、社会科学のいずれかに軸足を置くことにより深く専門的に学んでいきます。と同時に、そのような人文社会系諸科学の成果を学校教育における実践に結びつけていく社会科教育学を学んでいきます。そして、4年次における卒業論文作成は社会専攻における勉学の総決算となるようなカリキュラム編成をしています。このような社会科を構成する人文社会系諸科学を深く学修し研究するとともに、それに基づいた社会科教育力と教育実践力を養成し、中等教育教員として不可欠な高い資質と能力を培います。あわせて、高等学校教員及び中高一貫教育に対応しうる教員の養成を行うことをめざしたカリキュラムとしても編成されています。                                                                  | 本専攻では、現代における人間と社会の広く深い理解に基づいて、将来の社会の形成者たるにふさわしい資質を備えた生徒を育成し、指導できる人材を養成することを目的としています。教育目標として、社会科を構成する科目全体の理解・指導力に加えて、人文社会系諸科学を軸として、下の諸点についての能力を養成することとしています。<br>・人文社会系諸科学の基本的な知見を持ち、議論を通じて論理的に思考することができる。<br>・空間的・時間的・人間的な諸要素（社会現象）に対する積極的な関心と認識能力を身につけ、それを中等社会科において適切に活用することができる。<br>・教育内容の背後にある専門的な知識を深く掘り下げ、その知識を教材として表現することができる。 |
| <b>数学専攻</b>                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 本専攻では、中学校・高等学校数学科教員の養成を目的としています。教員になる強い意志と数学に対する興味をあわせ持つ者を望みます。                                                                                                                           | 本専攻では、より高度な数学に対し数学専攻に高い関心を持ち、数学的活動の楽しさや深い数学的思考を生徒に伝えることのできる、中学校及び高等学校の教員を養成することを目指しています。卒業時には小・中・高の3枚の1種免許状を取得することが可能です。数学専攻では、免許法に定められた5種類の科目それぞれについて、初等的な内容から高度な数学まで学習できるようにカリキュラムが組まれています。「代数学」では、数と集合、線形代数学など、数学全体の基礎となる概念をはじめ、群・環・体などの代数系の学習をとおして、数学的構造に対する抽象的な思考を鍛錬します。「幾何学」では、抽象ベクトル空間論や位相幾何学などの学習をとおして、図形や空間の数学的取り扱いと、それらを把握する幾何学的感覚を養います。「解析学」では微分積分学、複素解析学、微分方程式などの学習をとおして、計算手法や連続・収束等の概念および自然現象のモデル化の手法を修得します。「確率・統計」では、確率分布や統計処理などの学習をとおして、不確実な事象や得られた統計データに対する数学的アプローチや分析法を身につけます。「コンピュータ」では、様々な数学的対象について、計算機による視覚的表現や数値実験をとおして理解を深めます。<br>これらに加え、教材研究や教科指導法に関する科目の学習をとおして数学教育に関する知識や理解を深め、数学的能力と教育的実践力を兼ね備えた教員を養成することを目指します。 | 本専攻では、数学科の指導をし、数学の面白さを伝えていくことに関心を持つ学生が求められています。数学教育の知識をもち、数学を指導する熱意がある中等教育の教員養成を目的としており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。<br>・数学の議論を通じて論理的に思考することができる【思考・判断】<br>・基本的な数学的知識を持ち数学の指導においてこれらを適切に活用することができる【知識・理解】<br>・数学的な技能や表現能力を身に付け、指導に活かせる【技能・表現】<br>・数学の理論や体系に関心を持つとともに、数学的な見方や考え方をさまざまな事象の考察に積極的・継続的に活用し、指導に活かそうとする【関心・態度】       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>理科専攻</b></p> <p>本専攻では、中学校教員を養成することを主体としつつ、高等学校、及び中高一貫教育に対応しうる教員の養成を目的としています。中等教育における理科教育は、「理科離れ」が指摘されている現状においては以前にも増して重要になっています。理科専攻では、将来理科関係の教職に就くことを考えており、自然科学への興味と探究心を持っている者を望みます。中等教育教員の果たすべき教育的役割を考えると、高校において外国語を含め広い分野の科目を履修した者を望みます。興味を持つ分野に応じて、物理、化学、生物、地学(地球環境)のいずれかを選択して受験してください。</p> | <p>本専攻では、小学校理科の内容よりも発展的であり高度な中・高等学校理科の内容に関する十分な理解と指導力を習得するために、物理学I、II、化学I、II、生物学I、II、地学I、IIの講義科目および物理、化学、生物、地学の各実験科目を履修する。本科目の履修を通して、今日の自然科学や科学技術を理解しさらに発展させていくための基礎能力の育成に向けて、教育現場で主導的な役割を果たせる能力の基盤を養うことを教育目標とします。第1学年から第2学年における科目履修を通じて理科共通の4分野に関する基本的な科学概念について理解を図り、基礎的な観察・実験能力を育成します。また、より学術的な視点から中・高等学校理科の内容を展開して指導できるよう、物理、化学、生物、地学の4領域に分かれて、それぞれの分野のより専門的な知識や高度な実験技術の習得を図ります。希望者は理科教育学領域を選択することができ、理科教育（理科教育原理、方法、教材の開発、評価など）に関する専門的な知識や能力の育成を図るようカリキュラムが組まれています。各分野のエキスパートとして十分な専門的能力が育成されるよう、初等教育教員養成課程のカリキュラムよりも多くの理科専攻科目を履修します。第4学年では、各専門分野（物理、化学、生物、地学、理科教育）で卒業論文を作成します。</p> | <p>本専攻では、自然科学と科学技術の観点から理科の本質を学び、自然を理解する感性と科学的な能力の育成に情熱を持つ中・高等学校の理科教員の養成をめざしています。以下の諸点について、十分な能力を養成することを教育目標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学の議論を通じて論理的に思考・判断することができる【思考・判断】</li> <li>・豊かな科学的知識を持ち、中・高等学校の理科教育においてこれらを適切に運用・展開させることができる【知識・理解】</li> <li>・より高度な科学的観察力や実験能力を身に付け、科学の概念や法則を用いて自然現象を適切に表現することができる【技能・表現】</li> <li>・自然の法則や体系に多くの関心を持ち、自然科学的な見方や考え方をさまざまな自然現象の考察に積極的・継続的に活用して理解を深めようとする【関心・態度】</li> </ul> |
| <p><b>音楽専攻</b></p> <p>本専攻では、将来、中学校・高等学校の教員を目指して、高度な音楽的技能の習得に自ら積極的、意欲的に取り組もうとする者及び大学で教養と、教育に関する専門的な知識を身につけたいと願う者を望みます。</p>                                                                                                                                                                             | <p>本専攻では、小学校音楽科の理解から中学校音楽科へと繋ぐ実践的強化を図るため、音楽研究科目を履修します。音楽研究科目においては、主に小・中学校音楽科における表現（歌唱、器楽、音楽づくり）と鑑賞活動に関わる多様な実践をとおして、音楽の興味深さと奥深さを体験し、教育現場での指導方法や教材研究について自らが探究し、思考できる能力の基礎を養うことを教育目標としています。履修方法は、第1学年から第2学年ではピアノ、声楽、管打楽器（希望する一つを選択）等のレッスンを受け、同時に音楽理論や作曲の基礎を学びます。第2学年から音楽科教育（教育原理、指導方法、教材開発、評価、模擬授業等）、指揮法、アンサンブル活動科目（合唱、合奏等）、そして音楽と人間、社会の関係を思考する音楽教養科目が設定されています。第3学年からはピアノ、声楽、管打楽器、作曲、音楽学・音楽教育学に分かれ、卒業研究に向けてそれぞれの分野のより専門的な知識や能力の育成を図るようカリキュラムが組まれています。</p>                                                                                                                                  | <p>本専攻では、大学生活を通じて、ピアノ、声楽、管打楽器等の技能と音楽知識、そして音楽以外の教育科目・教養科目を幅広く学び得た教養を背景に、音楽と人間、そして社会との関わりを見つめる豊かな感性と思考力を育む中学校教員の養成を目的としており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。</p> <p>音楽活動における理論と実践の関連性をふまえながら、論理的に思考することができる【思考・判断】</p> <p>基本的な音楽的知識をもち、中学校音楽科においてこれらを適切に運用することができる【知識・理解】</p> <p>音楽的実践を導くための技能をもち、音や音楽を表現することができる【技能・表現】</p> <p>音楽と人間、そして社会との関係に関心をもつとともに、音や音楽の表現方法を積極的に追求しようとする【関心・態度】</p>                                                 |
| <p><b>美術専攻</b></p> <p>本専攻では、制作活動や美術鑑賞など美術に対するさまざまな興味や関心を持ち、将来、中学校教員を目指す強い意志を持った者を望みます。</p>                                                                                                                                                                                                            | <p>本専攻では、美術教科の基礎を1～2年生で学びます。3年次からは専門科目を積み上げるカリキュラムを揃えています。美術教科を成す専門科目の履修を必須とした上で、初等教育教員養成課程・美術選修で開講されている小学校各教科の研究科目・教育科目を積み上げるカリキュラムを揃えています。このカリキュラムにより結果的には中学校教諭1種免許（美術）はもちろんですが、小学校教諭1種免許も取得できます。教育実習は、3年次に中学校で体験し（必修）、4年次に小学校に行きます（選択）。</p> <p>高学年次には、それまでに学んできた美術教科を成す各領域である、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史、美術教育の中から一つの各ゼミナールを選び、卒業制作として深く追究し結実させます。この成果は、例年、卒業制作展として、美術館で一般市民に公開しています。</p>                                                                                                                                                                                                      | <p>学校教育が担う「美術」教科は、決して「個性」や「才能」を前提として展開されるものであってはいけません。美術教科は、未来からの留学生である子どもたちに、構想する力を育む教科として築き上げたいものです。</p> <p>本専攻では美術教科を成す、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史の各領域について豊富な知識と造形力の鍛錬をするともに、美術を教えるマネジメント能力の育成も車の両輪として位置づけています。</p>                                                                                                                                                                                                                             |
| <p><b>保健体育専攻</b></p> <p>本専攻では、将来、中学校・高等学校教員になろうとする強い意志を持っており、保健体育やスポーツ科学に興味や関心を抱き、探究心を持っている者、および専門的技能や知識の習得に積極的に取り組む意欲を持っている者を望みます。</p>                                                                                                                                                               | <p>本専攻では、中学校の保健体育科について強化を図るため、保健体育科教育、体育学、運動学、学校保健、体育実技の各領域についての科目を履修します。これは、保健と体育に関する高い専門的知識と指導能力を持った教員を養成するためです。加えて、生徒の心と体の変化に関する洞察力や観察力を有し対処できる力を養成するため、これに関する基礎的・基本的なことから学びます。</p> <p>保健体育科教育学では、保健体育科教育の目標、内容、方法に関する様々な主張や理論の理解を通して、運動やスポーツの教育学的洞察力を養い、保健体育の授業に必要な資質と指導力を習得します。体育学では、個人間や社会におけるスポーツの関係、文化的スポーツの継承と創造、未来を展望できるスポーツリーダー等に関することがらを習得します。運動学では、力学、</p>                                                                                                                                                                                                                 | <p>本専攻では、中学校教員養成を主体としつつ、あわせて高等学校教員および今後展開が予想される中高一貫教育に積極的に対応しうる教員の養成を行うことを目指して保健体育専攻の学習を深めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育の学びを深めて論理的に思考することができる。</li> <li>・科学的知識を持ち、中学校あるいは高等学校の保健体育科教育において、これらを適切に運用することができる。</li> <li>・運動学的な観察や実験能力を身に付ける。</li> <li>・体育学の概念や学校保健の学びを通じて健康増進について適切に指導することができる。</li> <li>・保健体育に関心を持つとともに、科学的</li> </ul>                                                                               |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 解剖学、生理学などの基礎的知識を活用して、高い運動能力の発現を可能にする人体の機能について理解を深めます。学校保健では、発育発達や健康を促進させる教育の役割を理解し、そのための保健指導、保健学習、保健管理などについて学びます。体育実技では、中学校・高等学校の授業で扱われる運動やスポーツ種目についての技能を高めるとともに、技術やゲームの戦術構造の理解を深め、観察能力や指導力を身に付けます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | な見方や考え方を様々な運動や健康増進に応用できるような態度を身に付け、これを積極的・継続的に活用しようとする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>技術専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 本専攻では、学んだ科学的知識・技術を、実験・実習などにより実践的に検証したり、創造的な活動をする実行力が要求されます。また、本専攻の学生は、いくつかの分野の学問領域を履修することになっており、それらの履修内容を技術教育に生かすため、有機的に連携させる柔軟な発想と創意・工夫する能力も求められます。従って、本専攻は、積極的に学習する意欲のあることに加え、次に該当する者を望みます。<br>(1)科学技術に興味と関心を持っていること<br>(2)獲得した知識や技能を積極的に活用する行動力があること<br>(3)さまざまな課題解決のために、創意・工夫する豊かな感性を持っていること | 本専攻のカリキュラムは中学校技術教員に必要とされる免許法に定められた、技術に関する基本的な分野である、木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報の各分野の実習を含めた科目と技術科教育科目から構成されています。内容的には、現代社会に欠かせない高度な技術にわたる幅広い専門領域も含めて扱われています。それぞれの分野の講義科目で、基礎から先端技術にわたる幅広く深い知識を学び、演習科目では、技術に関する調査とプレゼンテーション、データ解析、討論等を通して技術に関する知識を深め、技術的な思考方法や創造性を身に付けます。そして、実習科目では、それぞれの分野のものづくりに関して、それぞれの材料の特徴にあわせた道具や機械を用いて、その基本的な使用法を学びながら、加工や栽培等のものづくりの実践的な技能を修得します。また、情報の処理と機械やロボット等の制御にかかわる技術とデータ分析に基づく設計を扱う力を修得します。これらの科目を履修することにより、技術に関する全般的で基本的な知識を修得するとともにものづくりに関する実践的な能力を確実に身に付けることができるようになっていきます。                                                         | 本専攻は、現代社会において欠かすことのできない科学技術への理解とものづくりに関する高い実践能力を伴った技術的素養を身につけるとともに、豊かな想像力と指導力をもった技術科の教員を養成することを目的としています。そのために、木材加工・金属加工・機械・電気・栽培・情報等の基礎的技術について実習や実験を含めて幅広く学ぶことを通じて、教員として求められる基礎的な知識と技能を身につけ、幅広い技術への関心と実践的態度に裏付けられた指導力を養います。さらに、現代の産業社会に必要な高度な技術についても学び研究を行う中で、教員・社会人として求められる高度で幅広い専門的な知識を身につけ、論理的な思考力・判断力とともに、豊かな創造力と実践的能力を養います。                              |
| <b>家庭専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 本専攻では、衣食住・家族・環境・福祉などの人間の生活とその教育について深く洞察し、理論的かつ実践的能力を身につけることをめざしています。それ故、生活に関わる諸問題に興味、関心を持ち、諸問題の創造的解決や人間尊重の立場に立つ「豊かな生活」を追求する意欲を持つ者で、生活とその教育について学んだ知見を生かして、将来教員を目指す強い意志を持っている者を望みます。                                                                                                               | 本専攻では、中学校家庭あわせて高等学校家庭についての学びの強化を図るための科目を配置しています。家庭科では、子どもが直面する様々な生活課題を取り上げ、解決方法について諸科学を駆使して探究し、合意を形成したり、行動したりすることが求められます。そこで、多面性をもち、多様に変化していく生活とそれを取り巻く諸関係の現状と課題について、教科教育学と教科内容学の観点から、多元的かつ専門的に探究できるように科目を設定しています。家庭科教育学では、中等家庭科の授業実践やプランの検討から家庭科教育の理論と評価、教材の開発、歴史的課題について学びます。希望者は授業研究の方法を学ぶことができます。家庭科内容学については、食物学、被服学、家庭経営学、保育学の各学修領域の基本的な諸科学の概念についての理解を図り、基礎的な実践的能力を育成するための科目が用意されています。希望に合わせ、より専門的な知識の習得や高度な実践的能力の習得を図ります。第3学年から、家庭科教育学、家庭科内容学の各学修領域の指導教員のもと、演習・実験実習を履修し、そこでの学習と連動させて卒業研究を行えるようにカリキュラムを組んでいます。                                            | 本専攻では、生活や家庭への理解促進を前提に、時代の求める心豊かで情熱を持った家庭科の中学校教員、併せて高等学校教員の養成を目的としており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。<br>・生活や家庭に関する多面的な議論を通じて、その実態や課題を論理的に思考することができる<br>・生活や家庭に関連した諸科学の基本的な知識を持ち中学校・高等学校家庭科教育においてこれらを適切に運用することができる<br>・生活に関連した実践的能力を身に付ける。<br>・生活や家庭に関連した諸科学の概念や法則を用いて、生活や家庭の諸側面を適切に表現することができる<br>・「生活」に関わる諸問題に関心を持ち、これらの創造的解決や人間尊重の立場に立つ「豊かな生活」を追求し続けようとする。 |
| <b>英語専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 本専攻では、実践的な高い英語力を身に付け、英語教育に精通するとともに、複眼的で柔軟な思考力を持って学校教育が直面している諸課題に対応できる中学校及び高等学校の英語教員の養成を目指しています。従って、当専攻では、教職に就く強い意志を有し、言葉（英語）及びその背景にある広い意味での文化に対する強い興味や探究心を抱き、また獲得した知識や技能を積極的に活用することに強い意欲を持つ者を望みます。                                                                                               | 本専攻では、教職に関わる科目に加え、英語についての強化を図るため英語教育学、英語学、英米文学に関する科目を履修します。英語教育科目においては、「主に、学校現場の英語授業に対応できるように、その意義、具体的な指導法、及び指導内容の留意点を理解するとともに、英語習得を科学的に捉える手法を学ぶ。以上により、教育現場での指導や教材開発について主導的な立場を担える能力の基盤を養う」ことを目標としています。<br>カリキュラムは、英語学、英米文学、英語科教育学、英語コミュニケーションを主要な柱として成り立っています。英語学では英語の音声、構造、意味を通時的・共時的、理論的・実践的に学びます。英米文学では言葉に対する想像力及び英文理解能力の向上を図るとともに、英語圏の国々の文学を通して文化・歴史・思想について多角的に学びます。英語科教育学では英語教授法の理論を踏まえ、学校現場との連携を進めながら、実践的指導力の習得を目指します。英語コミュニケーションではネイティブスピーカーによる英語での授業によって高いレベルのコミュニケーション能力を習得します。英語の分析能力、文化的背景知識、教授理論と指導技術、及び運用能力は英語教員が習得すべき専門領域の必須の要素です。英語専攻のカリキュラムは | 本専攻では、英語に関する高度な専門的知識と高い実践力を身につけ、英語教育に精通するとともに、柔軟で創造的な思考力を持つ中学校・高等学校教員の養成を目的としており、以下の諸点についての能力を養成することを教育目標としています。<br>・言語に対する深い知識を持ち、論理的に思考することができる。<br>・学校現場で英語学・英米文学の知識及び英語コミュニケーション力を適切に運用できる。<br>・英語を適切に運用するだけでなく、言語・文化的な背景知識も備えている。<br>・異言語・異文化に広く関心を持ち、多様なものの見方・考え方に柔軟かつ創造的に対応しようとする。                                                                     |

|                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                     | 講義・演習・ゼミナールを通じて、これらの要素の習得が効率的に達成され、さらに学ぶ者の主体的な学問研究能力が啓発されるように、系統性・体系性を考慮して有機的に編成されています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| アドミッションポリシー                                                                                                                                                                                                                                         | カリキュラムポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ディプロマポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 特別支援学校教員養成課程                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 本課程では、将来、教員、施設職員など、障害のある子ども・成人の支援に携わる仕事への就職を目標とし、教育・福祉・心理学に関心を持ち、ボランティア活動などの実践的活動に対して意欲的に参加しながら、自ら問題意識を高めていくことができる者を望みます。                                                                                                                           | 本課程では、小学校の全教科に関する科目に加え、多様な障害を持つ児童・生徒に、障害の状態に応じて適切に対応できる特別支援学校の教員を養成するため、知的障害教育領域・肢体不自由教育領域及び聴覚障害教育領域の3領域に関する専門科目を履修します。<br>1 年次前期においては、障害一般、特別支援教育についての基本的な知識と考え方について学びます。1 年次後期から3 年次後期にわたって、聴覚障害者教育、知的障害者教育、肢体不自由者教育に関する専門的な講義を総合的に履修します。また3 年次前期には、障害児・者施設における実習を通して、障害児・者に対する関心の幅を学校教育より広いものとします。4 年次においては、3 年次までの大学での講義で学んだことと小学校での教育実習の経験を基にして、特別支援学校での教育実習に臨み、実践的な指導力を身につけるとともに、視覚障害者教育、病弱者教育、重複障害者教育、言語障害者教育についての理解を深めます。さらに、大学生生活の集大成としての卒業論文を完成させます。                                                                                                                                                                | 本課程では、小学校全教科の指導力に加えて、多様な障害のある幼児・児童・生徒に、障害の状態に応じて適切に対応できる特別支援学校の教員を養成することを目的としています。その為、以下の諸点についての能力を養成することとしています。<br>・特別支援教育の議論を通じて論理的に思考すること。<br>・教育課程、指導法、心理学、生理・病理学など特別支援教育に関する幅広い知識を持ち、これらを障害の状態に応じて適切に運用すること。<br>・修得した専門的知識を実践活動において活かすこと。<br>・常に自らの実践活動を省察し、最新の研究知見等を踏まえて自らの実践活動を改善する態度を貫くこと。                                                                                                                           |
| アドミッションポリシー                                                                                                                                                                                                                                         | カリキュラムポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ディプロマポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 養護教諭養成課程                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 本課程は、学校で保健管理や保健教育などを担当する養護教諭の養成を目的としています。そのため、将来、養護教諭になろうとする強い意欲があることが最も大切な条件となります。子どものからだところこの健康問題への強い関心があり、人との関わりが好きで、何事にも積極的に取り組む姿勢を持っている者を望みます。また、入学後は、養護教諭に求められる基礎的な医学や看護学、教育保健学などを幅広く学習するので、そのために必要な学力（生物学や化学など理数系の科目を含む）や科学的探究心を持っている者を望みます。 | 養護教諭には採用当初から実践できる資質能力（心身の健康観察、救急処置、保健指導等による児童生徒等の健康の保持増進）だけでなく、学校現場での諸課題に適切に対応できる問題解決能力、自己教育力、企画・調整能力などを兼ね備えていることが求められています。これらの資質を有する人間性豊かな養護教諭を養成することが本課程の目的です。そのために本課程では、知識に関しては知っているだけでなく問題解決が図れること、態度・習慣に関しては理解するだけでなく行動化できること、技能に関してはまねるだけでなく実践化できるレベルまで深められることを重視しています。<br>履修にあたっては、第1 学年から「学校保健」や「学校保健実習」を配置する一方で、「衛生学及び公衆衛生学」「解剖学及び生理学」「微生物学」などの医科系の基礎的知識の理解を図っています。第2 学年以降は、「養護概説」「健康相談活動」「栄養学」「免疫学」「薬理概論」「精神保健」「看護学」を開設し、「養護活動実習」や「看護実習」「救急処置」などの実習科目を通して実践的技能の修得を図り、学外保健医療施設における「臨床実習」も行ってから養護実習に臨ませるなど、専門的な知識や技能の体系的な履修を図るようなカリキュラムが組まれています。                                                                      | 本課程では、児童生徒等の発育発達や心身の健康に関する専門教育の学習を深め、学校におけるすべての教育活動を通して現代的な健康課題に対応できる能力を備えた養護教諭の養成を目的としており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。<br>・健康に関する現代的課題に関心をもち、個人または集団の児童生徒等の健康情報を収集し、その「分析」から健康課題をとらえ、解決のための方法を実践する力を身に付ける。<br>・保健室を訪れた児童生徒等に接した時に必要な「心の健康問題と身体症状」に関する「知識」を理解し、これらの観察の仕方や受け止め方等についての確かな判断力と対応力といった「技能」を身に付ける。<br>・いじめなどの心の健康問題等への対応の観点から、心身両面の健康に関する専門的な「知識」を活かし、適切に対応する「技能」を身に付ける。<br>・保健主事登用に伴い、企画力、実行力、調整能力などを身に付ける。 |
| アドミッションポリシー                                                                                                                                                                                                                                         | カリキュラムポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ディプロマポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 現代学芸課程                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 国際文化コース                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 本コースでは、外国語のコミュニケーション能力を高めることに意欲的であり、日本及び世界各国の言語、文化や制度、あるいは政治や経済の国際的な動きに関心を持ち、これらの諸現象を多面的に理解しようとする旺盛な知的好奇心を有する者を望みます。                                                                                                                                | 本コースでは、国際共通語としての英語を中心に言語コミュニケーション能力の向上を図るとともに、欧米及びアジアの歴史・社会・文化についての理解を深めることにより「世界の中の日本」を多角的・複眼的に認識する能力を養成し、併せてグローバルな現代的課題の実践的解決に貢献しうる能力を養うことを教育目標としています。具体的なカリキュラムとしては、1 年次に文化研究や社会科学における研究の基礎となる科目を学びます。2 年次からは「アジア文化履修モデル」「欧米文化履修モデル」「国際社会履修モデル」のうちの一つに所属し、専門的な内容を学んでいきます。「アジア文化履修モデル」では、2 年次に中国語の基礎を学びます。3 年次には現代から古典に至る中国の政治・文化・社会について幅広く学び、また並行して中国語資料を取り扱うのに必要な能力を養成します。「欧米文化履修モデル」では、欧米の歴史・地理・思想・文学をはじめとする多様な科目を学生の関心に応じて履修するとともに、英語・ドイツ語・フランス語の実用的運用能力をネイティブ・スピーカーの指導の下で高めます。「国際社会履修モデル」では、2 年次に社会科学における広く多様な分野について学び、3 年次に法学、政治学、人類学、社会学等に分かれて各学問領域の方法論について実践的に習得します。4 年次には履修モデルごとに学生の希望に沿ってテーマと指導教員を選び、卒業研究に取り組みます。 | 本コースの目的は、豊かな言語コミュニケーション能力と異文化や国際社会のシステムについての高度な専門知識を備えた人材を育成することにあります。この目的を達成するため、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。<br>・国際的なコミュニケーション能力<br>・「世界の中の日本」を多角的・複眼的に認識する能力<br>・グローバルな現代的課題の実践的解決に貢献しうる能力                                                                                                                                                                                                                           |

|                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日本語教育コース                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>本コースでは、異文化の深い理解と豊かな国際感覚を備え、外国の成人、その子弟、帰国子女等に日本語を教えるための高度な専門性を備えた人材を育成することを目的としています。よって次の(1)から(3)に該当する者を望みます。</p> <p>(1) 日本の文化及び異文化に対する広い興味、関心を有していること</p> <p>(2) 日本語及び外国語についての高い関心を有していること</p> <p>(3) 外国語教育に対する適性を有していること</p>                                 | <p>本コースでは、文化庁『日本語教育のための教員養成について』(2000 年3 月)に基づく専攻科目の構成によって日本語教育の専門家を養成します。教室内での学習だけでなく、本学に在籍する留学生との交流や海外・国内の日本語教育機関での研修、地域在住外国人や県内の小中学校に在籍する外国人児童生徒に対する日本語支援ボランティア活動などを通して、国際的な視野と実践力を身に付ける機会を提供します。これらの活動は、授業の一環としても実施します。</p> <p>各学年の履修内容は以下のとおりです。まず1 年生では、日本語教師となるために必須の四つの分野(日本語教育学、日本語学、言語学、日本文化・異文化理解)の基礎的な科目を履修します。2 年生および3 年生では、上記四分野の専門的な内容を扱う科目を履修し、日本語教育の専門家としての知識や技能のほか、特に演習科目をとおして表現の能力を修得します。2 年生後期から3 年生前期にかけて行われる日本語教育実習は、知識を実践の場で試す機会となります。4 年生では、発展的な専攻科目の履修とともに、指導教員ごとに行われる卒業研究へ向けたテーマの追求が学習の中心になり、思考力や表現力を磨きます。</p> | <p>本コースでは、さまざまなタイプの日本語学習者(海外の学習者、日本で生活している定住者、外国籍の幼児・児童・生徒・学生)の需要に合わせて日本語教育を実践できる人材の育成を目的としており、日本語教育学、日本語学、言語学、日本文化・異文化理解の四つの分野における基礎的および専門的知識を修得したうえで、以下の能力を備えることを目標にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者のレベル、学習環境等に応じて学習内容、教材、教育方法を組み立て、それらを柔軟に改善していくことができる。</li> <li>・さまざまな問題に対して国際的な視野から考察することができる。</li> <li>・学校、職場、地域における多文化共生の推進に積極的に参加できる。</li> </ul> |
| 臨床福祉心理コース                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>多様な人々が対等な立場で互いに尊重しあい支えあって共に生きていく社会を実現するためには、解決すべき様々な心理的・社会的問題が存在しています。本コースでは、これら心理的・社会的問題の発見とその緩和・解消のために必要とされる総合的な知識と能力を養い、将来対人援助の分野で専門的・調整的役割を果たすことのできる優れた人材の養成を目的としています。</p> <p>従って、これらのことに対して強い関心を持ち、社会福祉学・臨床心理学などの学際的・実践的な視点から積極的に取り組む態度を持っている者を望みます。</p> | <p>本コースでは、多様な人々が対等な立場で互いに尊重し、支えあって共に生きていくような社会を実現する為に、社会福祉学と臨床心理学について、体系的かつ総合的に学ぶことによって現代社会に生きる人間のあり方についての理解を深めることを目的としています。そして、福祉、教育、保健、医療、矯正などの様々な領域での相談活動やソーシャルワークを行う専門職に相応しい人材を養成することを目指します。</p> <p>これらのことを達成するために、「人間理解」「生活のシステム」の科目区分を立て、臨床心理学と社会福祉学の二本柱を一体化させた形で学ぶことのできるカリキュラムを組んでいます。1、2 年次において、地域福祉論、臨床心理学などの基礎的な分野を履修した上で、2、3 年次にそれらの専門的科目に加えて、3 年次には、社会福祉実習、臨床心理実習の履修を進めるとともに卒業研究では、ゼミナール形式で論文を作成します。</p>                                                                                                                     | <p>本コースの目的は、広く人間の心身とその生活を統合的に学ぶという人間学的な視点から、病や障がいなどの心身問題や貧困や介護などの生活問題を支援する新たな専門性を確立することです。そのために、主に社会福祉学と臨床心理学のコラボレーションを通して、これを体系的かつ実践的に学び、さらには現場での実習や体験を重ねて、現代社会に生きる人間のあり方について広く理解を深めていきます。そして、福祉、教育、保健、医療、矯正などの様々な領域での相談支援や実践的活動に取り組む専門職の育成を目指します。</p>                                                                                                                        |
| 造形文化コース                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>本コースでは、(1)及び(2)に該当する者を望みます。</p> <p>(1)実技制作(金工・陶芸・染織・ガラス・プロダクトデザイン)と理論(西洋・日本美術史)の両面にわたって追求しようという情熱を持った者</p> <p>(2)豊かで柔軟な感性を持ち、優れた芸術作品や造形活動に対する興味と関心を持った意欲的な者</p>                                                                                               | <p>本コースでは、生涯教育に関する諸分野の内、美術・工芸分野における知識や技術を身につけ、指導的役割を果たせるようになることを教育目的としています。これを達成するために次のカリキュラムにより教育を行っています。</p> <p>1、2 年次までは実技や美術史の基礎から学び始めます。実技では「絵画Ⅰ・Ⅱ」「デザインⅠ・Ⅱ」等で描画力やデザイン能力を養うとともに、「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」で、1 年では4 種類、2 年では2 種類の工芸技法の基礎を学びます。美術史では「造形芸術概論」に始まり「芸術概論」「西洋美術史概論Ⅰ・Ⅱ」「日本美術史概論Ⅰ・Ⅱ」で、西洋と日本の美術史の基礎を学びます。</p> <p>3・4 年次では、専攻に分かれ、理論と実技の両面にわたる広い視野を持つとともに、各分野での技術や知識を深めます。実技分野では陶芸、染織、金工、ガラス、プロダクトデザインの中から一つを選択し、卒業研究では作品を制作します。美術史分野では西洋美術史か日本美術史を選択し、卒業研究では論文を作成します。</p>                                                                     | <p>本コースでは、生涯教育に関する諸分野の内、美術・工芸分野における知識や技術を身につけ、指導的役割を果たせるようになることを教育目的としています。本学に4 年以上在学し、『履修の手引き』に定める科目及び最低履修単位数を修得すると共に、本専攻の専門科目の履修を通じて、美術史や造形実技の分野で高度な専門性を身につけていると認められること、並びに卒業研究(論文・制作)の審査によって以下の点において、社会への貢献の水準に達していると認められることが、学位授与の要件である。</p> <p>①美術史に対する知識・理解並びに造形実技に対する高度な専門的技術や表現力</p> <p>②学際的に課題を追究する姿勢</p> <p>③問題発見や問題解決能力</p> <p>④論理的思考力・情報収集力や編集能力</p>               |
| 情報科学コース                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>本コースでは、情報科学の深い理解に基づく、豊かな発想、高い表現力と問題解決能力を備え、新しい社会を創造していける人材の育成を教育目標としています。</p> <p>こうしたことに強い関心を持ち、コンピュータや情報通信ネットワークの専門知識を活かしてIT産業やコンテンツ開発などの分野で活躍しようとするような強い意欲を持った者を望みます。</p>                                                                                   | <p>本コースでは、情報科学に関する幅広い専門知識・活用能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。教育目標としては、以下の諸点についての能力を養成することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報科学を中心とした幅広い専門知識と実践能力</li> <li>・情報収集力、情報発信力、コミュニケーション能力など、情報を集め表現する能力</li> <li>・論理的思考力、問題発見・分析・解決能力など、情報を生かした思考力</li> <li>・情報システムの本質的理解、及び、システム開発のための基礎能力</li> <li>・情報倫理、情報セキュリティなどを理解した管理運営能力</li> </ul>                                                                                                                                                                                 | <p>本コースでは、情報化社会に即戦力として貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>そのような人材の育成に向け、1、2 年次では、情報科学の基礎理論に加え、論理的思考力とプレゼンテーションスキル、さらに幅広い分野の基礎的な知識を身に付けます。3、4 年次ではそうした基礎に立って、より実践的・専門的な視点を学べるような授業科目を設けています。教育工学、プログラミング、情報通信ネットワーク、情報システム、情報メディア、認知科学など、情報科学の本質を理解し活用するための様々な科目を用意しています。3 年次からは各自が学究したいテーマを選び、ゼミ形式で教員の指導を受けながら研究の方法を学ぶとともに、実践力を身に付けます。</p>                                              |

| 自然科学コース 宇宙・物質科学専攻                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>本コースでは、自然科学と科学技術の発展が著しい現代において、最も基本となる自然科学に対する深い理解力を持ち、さまざまな場において、その力を生かして社会に貢献できる人材の養成を目的とします。そのため、現在特に興味を持っている物理・化学・生物・地学などの自然科学をさらに深く学びたいという意欲を持つ者を望みます。興味を持つ分野に応じて、宇宙・物質科学専攻と分子機能・生命科学専攻のいずれかを選択して受験してください。</p>                                     | <p>本専攻のカリキュラムでは、物理学と天文学（宇宙物理学）に基盤をもつ専門性の高い内容を学修します。本専攻では、「力学」「電磁気学」「熱統計力学」「量子力学」の物理学4分野と、「天文学」「宇宙物理学」「相対論」の宇宙科学3分野の計7分野を主に学びます。それぞれの分野は互いに独立ではなく、相互に重なる学修部分を持つので、学年進行に伴い学生は幅広く関連づけられた視野に立脚した専門的知識を修得することができます。</p> <p>1年次前期では、初年次演習およびコース共通である専門科目の「物理学」「化学」「生物学」「地学」、専攻科目では「物理数学Ⅰ」「物理数学演習」を学びます。後期には、教養科目およびコース共通の「化学実験」「物理学実験」、専攻科目では「物理数学Ⅱ」「力学演習」「力学Ⅰ」を学びます。</p> <p>2年次には、引き続き教養科目を学ぶと同時に、コース共通科目として「生物学実験」「地学実験」を学びます。専攻科目としては、「電磁気学Ⅰ、Ⅱ」「電磁気学演習」「基礎天文学Ⅰ」「基礎天文学Ⅱ」「熱統計力学」「熱統計力学演習」を学びます。</p> <p>3年次には、より専門性の高い実験「物質科学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」と「宇宙科学実験Ⅰ、Ⅱ」が始まります。また、専攻科目では「量子力学Ⅰ」「量子力学演習」「量子力学Ⅱ」「宇宙科学Ⅰ、Ⅱ」「相対論」を学びます。前期後半には学生の研究室配属が行われ、後期から研究室での研究活動が始まります。</p> <p>4年次には、配属された研究室ごとに行われるゼミナールや専門的講義が中心となり、各自がテーマを持って卒業研究に取り組んでいきます。10月上旬には、卒業研究の進捗状況を発表する「卒業研究中間発表会」が行われます。これには2年生と3年生も出席しますが、卒業研究の雰囲気体験や勉強意欲の動機づけになっています。2月中旬には、卒業研究の成果を発表する「卒業研究口頭発表会」が行われます。</p> | <p>本専攻では科学技術やその問題に自ら向き合える高い知識や技能を修得し、物理学と天文学（宇宙物理学）の複合領域で活躍できる以下のような能力の養成を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学や技術に関する議論を、背景となる基礎的・専門的知識を用いて、もしくは実験や観察を通して、論理的に思考することができる。【思考・判断】</li> <li>・豊かな人間性と幅広い現代的教養を修得するとともに、社会的な見地から科学と技術のあり方を考察する力を身につけている。【知識・理解】</li> <li>・「物理と宇宙」に関する広い知識・技術や探求能力を修得している。【技能・表現】</li> <li>・地球的・国際的視野ならびに地域に立脚した視野のもと、科学や技術に関する諸問題に関心を持ち、解決に向けて多角的に分析・考察しようとする能力がある。【関心・態度】</li> </ul> |
| 自然科学コース 分子機能・生命科学専攻                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>本コースでは、自然科学と科学技術の発展が著しい現代において、最も基本となる自然科学に対する深い理解力を持ち、さまざまな場において、その力を生かして社会に貢献できる人材の養成を目的とします。そのため、現在特に興味を持っている物理・化学・生物・地学などの自然科学をさらに深く学びたいという意欲を持つ者を望みます。興味を持つ分野に応じて、宇宙・物質科学専攻と分子機能・生命科学専攻のいずれかを選択して受験してください。</p>                                     | <p>本専攻のカリキュラムは、生命科学と分子機能科学に基盤をもつ専門性の高い内容を学修します。「細胞生物学」「遺伝学」「植物生理学」の生命科学3分野と、「生物有機化学」「生物物理化学」「有機化学」の分子機能科学3分野の計6分野は、互いにそれぞれ重なる学修部分をもち、学年進行とともに互いの重なりが理解を深めるきっかけとなります。</p> <p>1年次は、初年時演習および教養科目を含めた共通科目を中心に学び、専門科目では科学全般の基礎として「物理学」「化学」「生物学」「地学」と「化学実験」「物理学実験」を専攻共通として、コース科目として「分子生命基礎」「生物科学基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「基礎化学ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ」を学びます。</p> <p>2年次は、引き続き共通科目を学ぶと同時に、コース共通科目として「生物学実験」「地学実験」を学びます。専攻科目は、「細胞生物学」「遺伝学」「植物生理学」「生物有機化学」「生物物理化学」「有機化学」6分野の専門基礎的な講義を学修します。</p> <p>3年次から4年次では、3年次の前半に「細胞生物学」「遺伝学」「植物生理学」「生物有機化学」「生物物理化学」「有機化学」6分野の専門的な講義と実験を2年次に引き続き学修し、3年次後半より、卒業研究に必要な実験を学修し、集大成の卒業研究へと向かいます。</p> <p>4年次には、各自のテーマで卒業研究に取り組み、卒業論文を執筆します。</p>                                                                                                                                                                                                            | <p>本専攻では、科学技術やその問題に自ら向き合える高い知識や技能を修得し、化学と生命の複合領域で活躍できる以下のような能力の養成を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学やその技術の議論を、実験や観察もしくはその情報を通して論理的に思考することができる。【思考・判断】</li> <li>・豊かな人間性と幅広い教養を修得するとともに、社会的な見地から科学技術のあり方を考察する力を身につけている。【知識・理解】</li> <li>・「生命体と分子」に関する広い知識・技術や探求能力を修得している。【技能・表現】</li> <li>・幅広い地球的・国際的視野と同時に地域の視点に立ち、科学や技術の諸問題に関心を持ち、理解考察しようとする能力。【関心・態度】</li> </ul>                                               |
| アドミッションポリシー                                                                                                                                                                                                                                               | カリキュラムポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ディプロマポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 大学院教育学研究科（修士課程）                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>本学のアドミッション・ポリシーでは、平和で豊かな世界の実現に寄与し、幅広く深い教養、人間性及び総合的な判断力を身につけた教員・社会人を育成することを目的としています。</p> <p>大学院教育学研究科は、その基盤の上に、学校教育に関わる理論的、実践的な研究と教育及び人間・社会・自然に関する基礎的な研究と教育を行うことにより、実践力と専門的能力を備えた人、教育に関するさまざまな分野での発展に寄与できる人、社会のさまざまな分野における教育に携わる仕事のできる人の養成をめざしています。</p> | <p>修士課程は、教科専門並びに教育実践に拘わる研究能力を有する教員の育成を図ることを目的とします。併せて現代的課題の探求に取り組む学芸分野の有為な人材の育成をめざします。また、現職教員及び社会人においては、修士課程をさらなる専門性の向上を図る場として位置付けます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>修士課程の修了要件は、当該専攻に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。学位論文については、すべての専攻で審査における①評価項目、②評価基準、③評価方法が公表され、「愛知教育大学教育学研究科学位論文審査要項」に基づき学位授与の可否が審議決定されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |

| 発達教育科学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>基本理念と目標</b><br>教育という営み自体は、学校が制度として確立する以前の昔から人間がずっと行ってきたことだと考えられます。現代では教育というと学校教育のことを想定する場合が一般的ですが、実際には学校以外の場面で行われる教育的活動もたくさんあり、それぞれが人間の発達に重要な役割をはたしています。本領域は、そうした多岐にわたる教育的活動を、さまざまな観点から広く追究し、教育の諸実践に活かすことのできる知見を提供することを目標としています。本領域では、教育哲学・教育方法学・社会教育学・教育制度学・教育法学・教育社会学・キャリア発達研究などの諸学問分野を基礎としながら、誕生から死に至る間の、家庭・地域・学校・社会などのあらゆる場所における「人を育てる」営みについての、原理的・理論的・実証的・実践的な研究を進めます。そのうえで、これらについての深い洞察力を持った高度な職業人と研究者を養成します。 | 本領域の教育目的である「家庭・地域・学校・社会などのあらゆる場所における『人を育てる』営みについての原理的・理論的・実証的研究を進める」ために、また、学生の育成方針である「今日の教育現場の諸課題に科学的・実践的に対応できる人物を育てる」ために、本領域では、下記のような授業科目群及び科目を配置し、カリキュラムを編成しています。           1. 教育学領域科目<br>教育哲学特論・演習、教育思想特論・演習、日本教育史特論・演習、教育社会学特論・演習、教育方法学特論・演習、生活指導特論・演習、教育課程特論・演習、人格形成特論・演習、リテラシー教育特論・演習、教育制度学特論・演習、教育法学特論・演習、社会教育学特論・演習、キャリア・ガイダンス研究特論、キャリア・カウンセリング研究特論、キャリア発達研究演習、教育学研究特論など。           2. 教育心理学領域科目及び所属領域以外の領域科目<br>3. 教科教育専攻科目及び自由選択科目<br>4. 特別研究科目（「修士論文」指導）                                                                                                                                                              | 本領域では、教育哲学・教育史学・教育方法学・社会教育学・教育制度学・教育法学・教育社会学・キャリア発達研究などの諸学問分野を基礎としながら、誕生から死に至る間の、家庭・地域・学校・社会などのあらゆる場所における「人を育てる」営みについての原理的・理論的・実証的研究を進めることを目的としています。同時に、また、今日の教育現場の諸課題に科学的・実践的に対応できる学生を育成することをめざします。このような学びと活動を通して、以下のような人物を養成することを目標としています。           ① 教育現場において、主体的に課題を設定して改善に取り組む意欲・能力を有する人。<br>② 学校教育のみならず、社会教育、教育行政、福祉領域、少年司法、キャリア支援等に関わる高度な職業人。<br>③ 研究者としてのディシプリンを修得して、大学院博士後期課程へ進学する人。 |
| 教育心理学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>基本理念と目標</b><br>本領域では、教授・学習心理学、発達心理学、教育社会心理学、臨床心理学等の心理学の視点から、教育という多面的で重層的な活動や実態を、実験や調査等に基づき実証的にとらえることのできる人材の育成を目標としています。           大学院での研究活動としては、院生各自が抱えている心理学に関わる関心をもとに、実験、調査、観察、事例研究などを通して修士論文の作成をめざしています。                                                                                                                                                                                                         | 本領域では、心理学を構成する下記の各分野に関わる研究知見・技術の獲得、及び研究課題を自ら発見し、実証的に検討する能力の育成を目指します。           主に次の特論・演習を開設しています。           ・教授・学習心理学に関する特論・演習においては、児童生徒の学習のメカニズムやその支援としての教授活動の方法等について理解することを目指します。           ・発達心理学に関する特論・演習においては、人間の発達の変化に関連する諸現象を心理学的視点から深く解明することを目指します。           ・教育社会心理学に関する特論・演習においては、社会心理学の観点から教育問題を論理的に思考し、問題に対応できる能力の育成を目指します。           ・臨床心理学に関する特論・演習においては、事例研究や検査法等の専門的研究方法の習得および援助に関する実践的理解を深めることを目指します。           ・特別研究Ⅰ・Ⅱにおいては、毎週指導教員の指導を受けながら修士論文を作成するとともに、中間発表会をおこない、他の教員や大学院生から様々な意見を聞くことで研究への意欲・関心を高めるとともに自身の研究テーマについて論理的に思考する能力を養成します。           2年間の研究成果として修士論文の作成をおこないます。また、2年間のなかで研究成果を学会発表することも勧めています。 | 本領域では、様々な心理学の知見や技術をもとに学校教育に関わる諸問題を実証的に分析して、教育実践に応用できる教員の養成あるいは教育の発展に広く貢献できる人材の育成を目指しています。教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。           ・心理学の研究を通して、教育問題を論理的に思考することができる【思考・判断】<br>・教授・学習心理学、発達心理学、教育社会心理学、臨床心理学等の心理学の知識を持ち、学校教育に関わる諸問題に適切に運用できる【知識・理解】<br>・実験、調査、観察、事例研究、心理検査等の専門的研究方法を身につけ、学術的文章としてまとめることができる【技術・表現】<br>・心理学の諸分野について深く学び、研究する意欲を強く持ち、教育の問題に積極的・継続的に活用しようとする【関心・態度】               |
| 幼児教育                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>基本理念と目標</b><br>人間形成の基礎を培う乳幼児期の発達と教育を研究対象とする本領域は、幼児教育学、幼児心理学、保育内容学、児童福祉などの専門分野から構成されています。幼児を取り巻く社会や文化についての理解や、幼児教育の今日的課題への対処や改革、社会的な要請としての子育て支援や障がい児保育、幼・小の連携なども視野に入れています。           幅広い知識を習得するとともに、理論と実践との有機的連携を図り、幼児教育の創造開発に寄与できる高い専門性を有した保育者や研究者の育成、とりわけ保育者養成に携わる研究者を育成したいと考えています。また、現職の保育者を積極的に受け入れ、資質の向                                                                                                         | 本領域のカリキュラムは、幼児教育学、幼児心理学、保育内容学、児童福祉の分野の講義・演習で構成されています。幼児教育関連の研究者、もしくは研究者的な視点を有する実践者として、専門的な知識と広い見識とを併せ持つことが必要なため、4分野の講義・演習を全般的に履修することを推奨しています。幅広い分野の学生や社会人など、多様な背景を持つ入学者をも対象として、社会的ニーズを視野に入れた教育と研究を行い、考え方の多様性を知り、可能性を高めます。そのために、双方向的な授業、幼児教育現場との連携を図りながらの事例研究や調査など、柔軟かつ実践的な教育を実施しています。           同時に、それぞれの学生の関心を研究テーマへと焦点化するために、1年次より専攻する分野の教員を指導教員とします。具体的な課題を踏まえつつ、対象と                                                                                                                                                                                                                                                          | 本領域では、人間形成の基礎を培う乳幼児期の発達と教育・保育のあり方について、高度な専門性を必要とする職業を担うことのできる優れた能力を持った人材の育成を目指しており、教育目標として以下の能力を養成します。           ・乳幼児期の発達と教育・保育のあり方に対して創造的に思考し、深い洞察力を身につけている。<br>・乳幼児期の発達と教育・保育のあり方について、必要な基礎知識と専門知識を体系的に習得し、諸問題を解明することができる。<br>・乳幼児期の発達と教育・保育のあり方における実践と理論の有機的連携を図り、さまざまな事象や課題について実際に対応すること                                                                                                   |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>上を図り、幼児教育の現場に沿った実践的な課題解決能力と指導力が発揮できるように教育・研究を行います。</p> <p>こうした課題に応えられるカリキュラム編成をもとに、附属幼稚園や地域の幼稚園・保育所・施設などの実践に密接に関わることを意識して研究課題を追求していきます。研究対象の特性上、フィールドでの調査や観察、臨症的なアプローチ、統計などの様々な研究方法についても学びます。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育学、幼児心理学、保育内容学、児童福祉に関する基礎的知識を持ち、さらに専門的に研究することによって、子どもたちの能力や個性に応じた支援のできる知識と実践的な指導力を兼ね備えた保育者を志す人</li> <li>2. 幼児教育学、幼児心理学、保育内容学、児童福祉等の諸分野の専門性を深め、幼児教育の進展に寄与する研究者や、保育者養成校の教員を志す人</li> <li>3. 現職としての経験による実践的な課題を省察し、幼稚園、保育所、施設などの場で、豊かな学識とそれに基づく高い実践的力量を持ち、幼児に関わる様々な分野において中核的な立場での活躍を志す人</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>する研究方法を習得し、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力を培いながら、修士論文の作成につなげる研究を進めます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の発達と教育・保育に深い関心を持ち、新たな価値を創造しようとする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>生活科教育</p> <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>「生活科」や「総合的な学習」の実践では、子どもの興味・関心や身近な生活課題、教科横断的な課題などにもとづく体験的な学習、調査活動的な学習、問題解決的な学習などを重視します。子どもたちが自ら自分の願いや目当て、課題などを見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、これらをよりよく成就・解決したり、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組み、自分の生きがいや生き方を考えたりする学習を求めているからです。そして、今日の学校教育と学校改革においては、このような「生活科」及び「総合的な学習」の理論と実践が必要不可欠だと思われます。なぜなら、これらは子どもたちの「生きる力」を培う創造的な教育活動であり、教師の自己変革や授業改革、学級・学校づくり、教育の本質追究等にもつながる重要な教科や時間だからです。</p> <p>本領域は、これらの実践に必要な感性や情性、知性などが豊かで、高度な構想力や指導力、分析力などを発揮できる力量豊かな教師の養成を目指しています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>従来の伝統的な教科とは異なる生活科および総合的な学習の創設の趣旨や理念、その特質についての基本的な知識と理解を有する人。これらの教科等が目指している子ども像に共感し、その理論と実践を積極的に学び、それらを改善することに意欲のある人。その子ども像とは、自分や身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身と自分の生活について見つめ考える子ども、日常生活や社会の矛盾と問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む子どもです。そして、専門的知識・技能と研究能力をもち、さらに実践的力量のある教員を志す人。また、そのような教員の育成に携わる研究者を志す人を求めています。</p> | <p>本領域においては、生活科および総合的な学習の時間に関する原理的理解ならびに実践的応用力に関わる内容について取り上げ、次に示す科目を履修します。</p> <p>「生活科・総合的な学習授業研究」では、具体的な授業実践を取り上げ、事例分析を通して実践の豊かさを学びます。演習科目である「生活科・総合的な学習教材開発演習」「生活科・総合的な学習カリキュラム演習」「生活科・総合的な学習比較授業論演習」では、それぞれ教材論、カリキュラム論、授業論を取り上げ、大学院生の探究的な演習により授業を進めます。特論科目となる「生活科・総合的な学習教育課程特論」「生活科・総合的な学習内容学特論」では、最新の知見のみならず、歴史的・古典的な視点から国際的視点に至るまで幅広く講義し、生活科および総合的な学習の時間の原理的理解をめざします。</p> | <p>本領域においては、生活科・総合的な学習の特質である教科横断的な課題などに基づく体験的な学習、調査活動的な学習、問題解決的な学習について深い知識や興味を持った力量豊かな教師の養成を目的としています。領域においては、生活科や総合的な学習の理論と実践を学ぶことで、理論的研究だけでなく、実践に必要な感性や情性、知性など幅広い総合的な力量を備えた次のような人材の育成をめざしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然や社会、人の営みに関心を持ち、興味を持って自ら関わるができること</li> <li>・生活科・総合的な学習に関する基礎的理解を深め、教科・領域に関わる知識を深めること</li> <li>・生活科・総合的な学習の指導者として必要な技能および研究の方法を身につけること</li> </ul> |
| <p>日本語教育</p> <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>本領域の教育目標は、国内外の学校をはじめとするさまざまな教育機関で日本語教育や異文化間教育に従事する人材の養成であり、つねに広い視野に立った上で専門性を深める能力の育成を心掛けています。本領域は、教育の現代的課題である日本語教育に関する諸問題について、社会、文化、言語、教育などの広い視野から研究を深めるとともに、学校をはじめとする様々な教育機関で日本語教育に従事する人材の育成を目指します。また、</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>本領域においては、日本語教育学分野をはじめとして、言語学分野、日本語学分野の各分野の科目を履修することで、言語や日本語の実態についても理解と専門性を深められることを目指しています。また異文化理解のための科目を配置しており、国際理解についての幅広い姿勢と専門性を養うことができます。</p> <p>具体的には、異文化コミュニケーション特論、異文化間教育方法研究、日本語教育実践研究、日本語教育特別研究、言語科学方研究、対照言語学、言語政策論、言語文化史、日本語学特論、現代日本語研究などの科目を隔年で開講しており、各自の興味に従って選択し</p>                                                                                            | <p>本領域においては、国内外の学校をはじめとするさまざまな教育機関で日本語教育や異文化間教育に従事する人材を育成することを教育上の目標としています。日本語や日本文化をはじめとして、広く世界の諸言語・諸文化をめぐる問題への関心と広い視野に立った上で専門性を深め、教育目標として、以下の諸点についての能力を養成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な相互理解のあり方を考えることができる</li> <li>・言語や文化に関わる教育・研究の推進に</li> </ul>                                                                                                                        |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>近年、日本国内で増加している外国人児童生徒の教育についても、重点的な教育研究を行っています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>本領域では、次のような学生を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語や日本文化をはじめとして、広く世界の諸言語・諸文化をめぐる問題に関心を持てる人</li> <li>・外国人への日本語教育などを通じて、国際的な相互理解のあり方を考えることができる人</li> <li>・高度な専門知識を獲得し、学界、教育界や社会で求められている責任を果たし、言語や文化に関わる教育・研究の推進にかかわっていく意志と、職業人としての強い倫理を持てる人</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>つつ専門性を深めることができるようにカリキュラムが組まれています。</p> <p>大学院での研究の成果として、一年次から指導教員による助言のもとに修士論文の構想と作成に取り組みますが、授業だけにとどまらず、年に数回行われる勉強会を通して院生の自主的な研究態度と相互交流を図ります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>かわっていく高度な専門知識を獲得し、学界、教育界や社会で活躍できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人への日本語教育の方法を身につける</li> <li>・日本語や日本文化をはじめとして、広く世界の諸言語・諸文化への理解を深め、積極的に交流活動に参加しようとする</li> </ul>                                                                                                                                                                                          |
| <p><b>情報教育</b></p> <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>現在では、公立学校のほとんどがインターネットに接続されており、そのうち半数以上の学校が高速インターネットに接続されている。家庭においてもパソコンやスマートフォンを使ったインターネットの利用が広がっています。急激な情報化の流れのなかで、現代の子どもたちは、自分自身の安全を確保しつつ情報化社会に対応してゆく能力を身につけることが必要とされています。情報教育に関して適切な指導ができ、さらに、学校の情報環境を利用してさまざまな教科で、わかりやすい授業を展開できる教員が求められています。本領域の学生は、情報教育のあり方を含め、学校における情報教育に関する諸問題の研究とともに、広く情報技術を活用した教育支援のあり方、新しい指導法の開発の研究も行います。さらに、学校で必要とされる、サーバーの管理運営やメディア教材開発などの実践技術も修得します。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>本領域では、本学や他大学の学部からの進学者、現職教員や社会人など職業を持っている者、留学生など、多様な学生を受け入れています。</p> <p>本領域が期待するのは、情報教育関係の知識・研究態度を身につけ、学校や教育関連分野で情報教育の指導者・研究者となり得る人材です。具体的には、次のような学生像を想定してカリキュラムを組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育に興味のある者</li> <li>・わかりやすい授業を実践するための教材開発、情報機器を利用した授業実践・授業カリキュラムの開発に興味のある者</li> <li>・教育に有用なシステム開発に興味のある者</li> </ul> | <p>本領域では、学校や教育関連分野で情報教育の指導者、研究者となり得る人材、さまざまな教科で情報環境を利用した授業を展開できる人材を育成するために、主に次のような科目を履修することを課しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育特論等においては、学校における情報教育のあり方について学ぶ。</li> <li>・学習科学特論等においては、学習支援のツールとして利用されるシステムの開発について学ぶ。</li> <li>・教育工学特論等においては、教育環境の改善に役立つ教育工学的な手法について学ぶ。</li> <li>・メディア教育特論等においては、コンピュータを用いたメディア教材の開発について学ぶ。</li> <li>・教育システム開発特論・ネットワーク利用教育特論等においては、教育現場で使用する各種システムの開発、サーバーの管理運営等について学ぶ。</li> </ul> <p>学生は2年間の研究の成果として修士論文の作成を行なう。</p>                                                              | <p>本領域では、情報教育に関連する知識、研究態度を身につけ、学校や教育関連分野で情報教育の指導者、研究者となり得る人材を育成します。また、学校の情報環境を利用して、さまざまな教科で、わかりやすい授業を展開できる人材を育成します。教育目標としては、以下の諸点についての能力を養成することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育に関連する諸問題について探究する能力</li> <li>・情報技術を活用した教育支援のあり方や、情報機器を利用した授業カリキュラムについて探究する能力</li> <li>・わかりやすい授業を実践するためのメディア教材を開発する能力</li> <li>・学校で必要とされるサーバーの管理運営ができる能力</li> </ul> |
| <p><b>特別支援教育科学専攻</b></p> <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>平和に寄与し、幅広い教養・人間性及び総合的な判断力を身につける本学の教育理念を基盤にし、教育に関わる理論的・実践的研究を進め、実践力と専門的能力を備え教育の様々な分野で活躍できる人材の育成を目指す本学専攻科の理念を共有する本専攻は、特に障害者の教育と生涯にわたる支援に関わる取り組みについて、次のような基本理念と目標を持って有為な人材の育成に携わります。</p> <p>本専攻では、障害者のニーズに適切に対応でき、広範な実践的指導力を有する専門職、さらには障害者の教育や福祉に関する高度、かつ総合的・多面的・柔軟な研究を進展していく人材を養成することを目的としています。そのため、基礎から応用・実践学までの幅広い講義、教育・心理・福祉・医療の連携を重視した講義を開講するとともに、地域の教育・福祉機関と連携することで、高度な実践的指導力の育成を図っています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>特別支援教育科学専攻は、主として聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者に</p>                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>本専攻では、主として、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者についての教育(特別支援教育)と障害者の生涯に渡る支援(福祉)という二つの大きな柱に基づく専攻科目を履修します。特別支援教育科目においては、障害者の教育・指導法に加えて、心理・生理・病理に関する学びを通して、高度な専門的知識の修得を目指します。また、福祉科目においては臨床哲学やソーシャルワークといった対人援助の根幹にかかわる事項や実践活動について学びます。</p> <p>はじめの1年における教育目標は、学生が主体的に研究テーマを発掘し、修士論文の構想を固めることです。その為、特別支援教育と福祉に関する概念についての理解を図り、自らの研究テーマを多面的に捉える能力の基盤を養います。続く2年目では、文献講読や論文執筆と推敲を重ねた上で、特別支援教育科学の発展に寄与する研究論文を完成させます。尚、現職教員等の有職者に対しては、長期履修モデルで上記のプロセスをゆっくりと丁寧に進めていけるように指導を行います。</p> <p>つまり、本専攻では特別支援教育科学に関する専門的な知識や能力の育成を図るようカリキュラムが編成されているといえます。</p> | <p>本専攻では、特別支援教育及び福祉領域における教育・対人援助活動に高度な専門的知識と実践力を発揮する人材の育成を教育上の目的としています。その為、以下の諸点についての能力を育成することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育科学の研究を通じて、論理的・多面的に思考すること。</li> <li>・特別支援教育と福祉及びその近隣の学問(心理学など)における理論的知識を持ち、専門的な説明のみならず平易な言葉で説明すること。</li> <li>・修得した専門的知識を実践活動において活かすこと。</li> <li>・常に自らの実践活動を省察し、最新の研究知見等を踏まえて自らの実践活動を改善する態度を貫くこと。</li> </ul>       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ついで教育、障害者の生涯にわたる支援という視点に立つ福祉という二つの大きな柱によって構成されています。ゆえに、これらに関する基本的知識を有し、障害者の個々のニーズに応じた教育・福祉の研究並びに実践に強い意欲を示し、将来これらについての研究・実践における指導的立場を目指すものを望みます。また、学校教育法の一部改正により平成19年から開始された特別支援教育では、特別支援学校が障害児教育に関わる地域のセンターとして機能することが求められるようになり、更に小・中学校においても学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（AD/HD）、広汎性発達障害（PDD）などの発達障害児への積極的な支援が求められるようになりました。本専攻においても、これらの時代の要請に合わせ、個々のニーズに対応した教育の実現に強い意欲を示すものを望みます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 養護教育専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>本専攻は、全国に先駆けて1993年に新設したものであり、「養護教諭のあり方の基盤」となっている養護教諭論、養護活動特論、養護活動研究を主体とした『養護教育学』は教科の専門領域とは異なることから、養護教諭の専門について学び研究できる固有の専門領域が必要である」との理念のもとに設置しました。</p> <p>加えて、養護教諭には、学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの中核となって児童・生徒等の心身の健康の保持増進や、発育・発達への支援を行うことが求められています。そのために、本専攻では、健康に関連した諸科学の研究成果を活用して、多様な課題に対応できる高度な専門的知識と能力を有する養護教諭及び研究者を育成し、もって養護教育学および関連諸科学の発展に寄与することを目的とします。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 養護教育学や関連諸科学の基礎となる知識を有し、それらについてさらに深く学び研究する意欲を持っている人</li> <li>2) 関連諸科学の基本的学識を有し、教育現場における理論と実践を融合させる養護教育学研究に興味・関心を持っている人</li> <li>3) 教職の経験を生かした実践的研究を分析し、他校の実践に活用できるような理論を導き出すことに興味・関心を持っている人</li> <li>4) 教職をはじめ社会人としての経験をもとに、養護教育に関する専門的能力の向上を目指し、実践的能力や学術的能力の研鑽に意欲を持っている人</li> </ol> | <p>本専攻では、これからの時代を担っていくに足り得る高度な専門的能力を持ち、実践的研究能力を有する養護教諭及び研究者の育成を目指しています。また、現職養護教諭の再教育の場として、学校での保健管理と保健教育を担当する高度な能力を備えた養護教諭の養成を目的としています。学際的な学問である養護教育学及び基盤となっている学問である基礎医学、公衆衛生学、栄養学、臨床心理学、看護学、学校保健、小児保健などの諸分野の研究を推進し、それぞれの分野がもつ課題の解明を目指します。主に次の科目、「養護教育学特論・演習」「生体機能学特論・演習」「学校疾病学特論・演習」「学校栄養学特論・演習」「学校精神保健特論・演習」「学校看護学特論・演習」「学校保健特論・演習」「保健医科学特論・演習」「養護実践研究」を履修します。2年間の研究の成果として修士論文の作成を行います。修士論文の作成指導には、主指導教員1名・副指導教員2名の体制で指導に当たっています。養護教育講座の全教員参加の下で、入学年次の9月に研究計画発表会、修了予定年次の9月に修士論文中間発表会、2月に修士論文発表会を開催して、適宜指導・評価を行っています。また、指導教員以外の教員も、大学院生から要望がある場合は、担当授業時間中だけでなく随時、助言を与えたり指導に当たったりしています。</p>             | <p>養護教諭には、学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの理念のもとで児童生徒等の心身の健康の保持増進や発育発達の支援を行うことが求められます。そのために、本専攻では、健康に関連した諸科学の研究成果を活用して、多様な課題に対応できる高度な専門的知識と能力を有する養護教諭及び養護教育研究者の育成を目指しており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関する現代的課題の解決のために個人または集団の児童生徒の情報を収集し、健康課題をとらえて解決のために実践し、その内容を研究的に省察することができる。</li> <li>・保健室を訪れた児童生徒等に接した時に専門的知識を活用して適切な判断と対応を行い、その内容を研究的に省察することができる。</li> <li>・いじめなどの心の健康問題への対応において、心身両面の健康に関する専門的知識を活用し、他職種と連携して改善・解決にあたることことができる。</li> <li>・勤務校や養護教諭集団のなかでコーディネーターを発揮し、中核的な役割を担うことができる。</li> </ul> |
| 学校教育臨床専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>本専攻では、「ハートのある現場志向の臨床家育成」を基本理念に掲げ、教育臨床学・心理臨床学の知識や理論の習得のみならず、それらの知見に基づき、教育分野をはじめ、広く子どもたちへの援助が求められる福祉や司法、医療など様々な臨床分野において活躍できる、高度な専門性を身につけた心理臨床家の養成を目指しています。</p> <p>この理念のもと、大学院在学の間に、臨床実践に必要な心理臨床的な態度や姿勢、基本的な知識、心理面接ならびに心理検査を行う技能を身につけることを目指し、大学院修了後には様々な臨床現場において高い臨床実践能力を発揮できる人材の育成を目標にしています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>本専攻では、専門的な心理臨床の知見と臨床実践力によって、心理臨床現場を訪れる方々の心理的問題ならびにそれらを取り巻く家庭・地域・社会の諸問題に対応することのできる、専門家を志す人を求めています。</p> <p>具体的には、臨床心理学の知見だけでなく相談者や他領域の専門職の方とのやりとりか</p>                                                                                                                                                                                                                                          | <p>本専攻では、教育臨床学・心理臨床学の探求を通して、教育分野をはじめ、広く子どもたちへの援助が求められる福祉や司法、医療など様々な臨床現場においても活躍できる、高度な専門性を身につけてもらえるようカリキュラムを提供しています。</p> <p>臨床心理学特論、臨床心理学面接特論などの必修講義科目においては、臨床心理実践行為を行うに必要な知識や理論の習得を目指します。臨床心理査定演習、臨床心理面接演習などの演習科目においては、心理面接ならびに心理検査を行うのに必要な基本的な知識を押えた、専門的スキルを身につけることを目指します。臨床心理基礎実習及び臨床心理実習などの必修実習科目では、大学院在学のうちから臨床実践の基礎となるトレーニングを積みつつ、専門的知見を身につけるのに必要な臨床心理的研究・実践技能を養成することを目指します。また、学校臨床心理学実習においては、スクールカウンセラーを始めとする学校臨床現場の専門家を志すために必要な基本的な現場体験を通して、専門性をより深く考究することを目指します。その他に提供している選択必修科目においては、それぞれの専門領域において要請される心理臨床的な態度や姿勢、基本的な知識および現場で発揮する技能を身につけられるようになることを目指します。</p> <p>以上カリキュラムを通して、大学院修了後に臨床</p> | <p>本専攻では、教育臨床学・心理臨床学の幅広い知識や理論の習得を通して、それらの知見に基づきつつ、教育分野をはじめとする、広く子どもたちへの援助が求められる様々な臨床現場において活躍できる、高度な専門性を身につけた「ハートのある現場志向の臨床家育成」を目指しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な臨床実践力によって、臨床現場で出会う方々の心理的問題ならびに彼らを取り巻く家庭・地域・社会の諸問題を考え抜いて取り組むことができる【思考・判断】</li> <li>・専門的な知見によって、臨床現場を訪れる方々の心理的問題ならびにそれらを取り巻く家庭・地域・社会の諸問題を理解して対応することができる【知識・理解】</li> <li>・専門領域において十分に機能しつつも自らの能力に満足することなく、絶えず心理臨床家としての専門性を高める努力を惜しまない向上心を持っている【技能・表現】</li> <li>・現場で出会う相談者や他の専門職の方との遣り取りからも専門的知識を超えて学んでいこうとする謙虚でありながらも積極的な姿勢を持っている【関心・態度】</li> </ul>                 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>らも学んでいこうとする謙虚でありながらも積極的な姿勢、自らの能力に自己満足することなく絶えず心理臨床家としての専門性を高める努力を惜しまない向上心を持って、現場において心理臨床実践に取り組んでいこうと考えている熱意のある学生を求めます。特に、本専攻ではカリキュラムのなかに学内外の実習を多く取り入れておりますので、主体性や目的意識を持って実習に臨むことのできる意欲のある学生を求めています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>現場において即戦力として働けるようになることを目標にしています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 国語教育専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>国語教育専攻は、ことばとことばを生みだした人間・社会・自然に対する広い認識に立って、国語および国語にかかわる言語文化(国語学、国文学、漢文学、書写・書道)の諸領域について、各自が設定した中心的課題を深く考究する場です。同時に、学校教育における国語教育においては、児童・生徒一人ひとりに異なった現実(児童・生徒とそれを取りまく地域、学校、家庭)が存在し、その個別具体性に即した課題に応えていくことが要求されます。当専攻には、国語科内容学領域と国語科教育学領域とがあり、いずれかに所属し、学び研究していくことになりますが、両者はあいさえあう関係にあり、教育の現場で要求される実践力の向上をはかることともに、その基盤となる学問分野の研究能力をも高めていく必要があります。また、その研究能力は、教育の場における実際的な課題に直面して、真価が問われることにもなります。当専攻は、そうした活力ある研究能力を高める場であることを目指しています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>上記の理念と目標に掲げたように、目の前の現実的課題を直視するとともに、それを歴史的、社会的に広い視野に立って、積極的かつ創造的な態度で研鑽を積み意欲のある人、および、将来国語教育の現場に立ち、優れた実践力・研究能力で多様な問題に対応する熱意をもった、次のような人々を求めています。</p> <p>(1) 優れた国語教育の能力と実践性を持った教育者を志す人</p> <p>(2) 具体的な課題を持った意欲的な現職教員の方々</p> <p>(3) 創造性豊かな研究・開発能力を培い、国語教育の進展に寄与する研究者を志す人</p> <p>(4) 国語科内容学領域(国語学・国文学・書道・漢文学)を深く研究する意欲をもつ人</p> <p>(5) 国語科教育学・内容学に対する深い造詣を兼ね備え、社会のさまざまな分野での活躍を志す人</p> | <p><b>国語科教育学領域</b></p> <p>国語科教育学専攻は、ことばとことばを生みだした人間・社会・自然に対する広い認識に立って、国語および国語にかかわる言語文化(国語学、国文学、漢文学、書写・書道)の諸領域について、各自が設定した中心的課題を深く考究していきます。同時に、学校教育においては、児童・生徒一人ひとりに異なった現実が存在し、その個別具体性に即した課題に応えていくことが要求されますが、本専攻はことばを基盤とした教育課程をもってそのような高度専門職業人として求められる能力を養成します。</p> <p>国語科教育学特論Ⅰ～Ⅷ、国語科教育演習Ⅰ～Ⅵ、国語科授業研究Ⅰ・Ⅱ・・・国語科教育方法論、国語科授業研究及び教材論に関する講義及び演習等で、教育実践に関わる理論に基づいた確かな教科教育実践力を身につけます。</p> <p>国語学特論Ⅰ～Ⅴ、上代・中古文学特論Ⅰ・Ⅱ、中世文学特論Ⅰ・Ⅱ、近世文学特論Ⅰ・Ⅱ、近代文学特論Ⅰ～Ⅲ、漢文学特論Ⅰ～Ⅵ、書論・書道史Ⅰ・Ⅱほか・・・専門教科に関する学問上の専門知識を身につけます。</p> <p>以上の教育課程を経て、専門的知識と教育実践力を基盤とし、2年間の研究成果である修士論文の作成を行います。</p>                                                                                                                                          | <p>本専攻「国語科教育学領域」においては、高度専門職業人として必要な能力を持った教員の養成を目指し、国語科教育に関わる深い知識や研究能力、教育実践上の専門的知識を持った人材を育成することを教育上の目的としています。加えて「国語科内容学領域」との連携により、国語および国語にかかわる言語文化諸領域に対する深い知識や興味を基礎的素養として持った人材の育成を目指しており、修了までに以下の能力を身につけることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語文化諸科学の研究を通じて論理的な思考力を築き、教育実践を見据えた判断力を養う【思考・判断】</li> <li>・高度な言語文化科学的知識を持つと同時に、小・中・高の各学校の教育において適切に運用することのできる教育実践上の専門的知識をあわせ持つ【知識・理解】</li> <li>・人文社会科学的な見方や考え方を基本に、教科教育研究の履修を通じて、教育実践上の専門的な分析力や表現力を積極的・継続的に活用できる【技能・表現】</li> <li>・言語文化の法則や体系に対する関心、真理を追究する態度を持ち、専門的知識と実践力を基盤とした探究心を持つ【関心・態度】</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 国語科内容学領域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>国語科教育学専攻は、ことばとことばを生みだした人間・社会・自然に対する広い認識に立って、国語および国語にかかわる言語文化(国語学、国文学、漢文学、書写・書道)の諸領域について、各自が設定した中心的課題を深く考究していきます。同時に、学校教育においては、児童・生徒一人ひとりに異なった現実が存在し、その個別具体性に即した課題に応えていくことが要求されますが、本専攻はことばを基盤とした教育課程をもってそのような高度専門職業人として求められる能力を養成します。</p> <p>国語科内容学領域では、国語学、国文学、漢文学、書写・書道の各分野について、それぞれの下位諸分野の研究を推進しながら、それぞれの専門分野が持つ課題の解明を目指します。主に次の科目を履修します。</p> <p>主に次の科目を履修します。</p> <p>国語学特論Ⅰ～Ⅴ、同演習Ⅰ～Ⅴ、上代・中古文学特論Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ、中世文学特論Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ、近世文学特論Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ、近代文学特論Ⅰ～Ⅲ、同演習Ⅰ～Ⅲ、漢文学特論Ⅰ～Ⅵ、同演習Ⅰ～Ⅴ、書論・書道史特論Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ・・・専門教科に関する学問上の専門知識を身につけます。</p> <p>国語科教育特論Ⅰ～Ⅷ、国語科授業研究Ⅰ・Ⅱほか・・・国語科教育方法論、国語科授業研究及び教材論に関する講義などで、教育実践に関わる理論に基づいた確かな教科教育実践力を身につけます。</p> <p>以上の教育課程を経て、専門的知識と教育実践力を基盤とし、2年間の研究成果である修士論文の作成を行います。</p> | <p>本専攻「国語科内容学領域」においては、高度専門職業人として必要な能力を持った教員の養成を目指し、国語および国語にかかわる言語文化諸領域についての深い知識や研究能力を持った人材を育成することを教育上の目的としています。加えて「国語科教育学領域」との連携により、国語教育に対する深い知識や興味を基礎的素養として持った人材の育成を目指しており、修了までに以下の能力を身につけることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語文化諸科学の研究を通じて論理的に思考することができる【思考・判断】</li> <li>・高度な言語文化科学的知識を持ち、これらを小・中・高校の各学校の教育において適切に運用することができる【知識・理解】</li> <li>・人文社会科学的な見方や考え方に基づいた研究をすすめ、それを積極的・継続的に活用した専門的な分析力や表現力を身につける【技能・表現】</li> <li>・言語文化の法則や体系に対する関心、真理を追究する態度を持ち、専門的知識と実践力を基盤とした探究心を持つ【関心・態度】</li> </ul> <p>英語教育専攻は、学校教育に求められる教科専門並びに教育実践に関わる研究能力を有する教員の育成を目指します。この目的を達成するために、英語科教育学領域では小学校・中学校・高等学校における英語教育が抱える課題に取り組みながら、理論と応用能力を備えた英語教師の資質能力の向上を図ります。英語科内容学領域では、英語科教育学の基盤を形成する英米文学と英語学を深く探究し、教科の専門性を高め、理論と応用能力を備えた教員の資質向上を図ります。主に次の科目を開設します。英語科教育特論Ⅰ～Ⅳ、英語科教育研究Ⅰ～Ⅳ、国語科教育演習Ⅰ～Ⅲ、英語科授業研究Ⅰ・Ⅱ、小学校英語教育特論Ⅰ・Ⅱ、小学校英語教育研究Ⅰ・Ⅱでは、英語科教育方法論、英語科授業研</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 究及び教材論に関する講義や演習で、教育実践に関わる理論に基づいた教科教育実践力を身につけます。英米文学演習 I～IV、英米文学研究 I～IV、英米文学特論 I～IV、英語学特論I・II、英語学演習 I・II、言語理論 I・II、言語学特論 I・II、言語学演習 I・II、専門教科に関する学問上の専門知識を身につけます。以上の教育課程を経て、2年間の研究の成果として修士論文の作成を行います。                                                                                                                                                                                                                           |
| <b>英語教育専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>基本理念と目標</b><br>英語教育専攻の領域は大きく「英語科教育学」と「英語科内容学」に分かれ、英語科内容学はさらに英米文学と英語学に分かれます。<br>英語科教育学では理論と応用能力とを兼ね備えた英語教師の養成を目指します。また現職の教員との連携や、内外の研究成果を活用できるような環境を有しています。英語科内容学（英米文学）では、英文学・米文学・アイルランド文学を中心に、その背景となる歴史や文化も研究します。時間的・空間的に異なる背景を持った英語を研究することは、英語力を格段に向上させると同時に、文化の多様性に対する理解力を養うことにもつながります。英語科内容学（英語学）では英語という言語の特性を、歴史的、共時的に解明します。自分たちが教える英語ということの成り立ちや仕組みについて深く学ぶことは、確かな英語指導力を修得することに直結します。<br>以上の三分野が有機的に連携・協力することにより、修士レベルにふさわしい高度な職業人の養成を目指します。 | <b>英語科教育学</b><br>英語教育専攻は、学校教育に求められる教科専門並びに教育実践に関わる研究能力を有する教員の育成を目指します。この目的を達成するために、英語科教育学領域では小学校・中学校・高等学校における英語教育が抱える課題に取り組みながら、理論と応用能力を備えた英語教師の資質能力の向上を図ります。英語科内容学領域では、英語科教育学の基盤を形成する英米文学と英語学を深く探究し、教科の専門性を高め、理論と応用能力を備えた教員の資質向上を図ります。主に次の科目を開設します。英語科教育特論 I～IV、英語科教育研究 I～IV、英語科教育演習 I～III、英語科授業研究 I・II、小学校英語教育特論 I・II、小学校英語教育研究 I・II では、英語科教育方法論、英語科授業研究及び教材論に関する講義や演習で、教育実践に関わる理論に基づいた教科教育実践力を身につけます。英米文学演習 I～IV、英米文学研究 I～IV、英米文学特論 I～IV、英語学特論I・II、英語学演習 I・II、言語理論 I・II、言語学特論 I・II、言語学演習 I・II、専門教科に関する学問上の専門知識を身につけます。以上の教育課程を経て、2年間の研究の成果として修士論文の作成を行います。 | 本専攻「英語科教育学領域」においては、高度な能力を持った教員の養成と、人文社会科学諸分野についての深い知識や研究能力を持った人材を育成することを教育上の目的としています。加えて「英語科教育学領域」との連携により、英語教育に対する深い知識や興味を基礎的素養として持った人材の育成を目指しており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。<br>・言語文化の研究を通じて論理的に思考することができる。[思考・判断]<br>・高度な人文社会科学の知識を持ち、これらを小・中・高校の各学校の教育において適切に運用することができる。[知識・理解]<br>・人文社会科学の見方や考え方に基づいた研究によって、専門的な分析力や表現力を身につける。[技能・表現]<br>・言語文化における法則や体系、真理探究に対する関心を持ち、人文社会科学の専門知識やものの見方、考え方を積極的・継続的に活用しようとする。[関心・態度] |
| <b>期待する学生像</b><br>本専攻では、英語教育の分野で指導的な役割を果たせるような人材の育成を目指し、次のような学生を求めています。<br>①卓越した英語力、英語分析能力、言語分析能力を有し、それを教育現場に活用できる人。<br>②外国語教育に関する高度な専門知識を構築し、教育や研究の分野に貢献できる人。<br>③世界の歴史や文化、また社会に目を向け、高いグローバルリテラシーを有する人。<br>④国際交流に積極的に関わり、外国との相互理解を進める上での社会的な役割を果たせる人。<br>英語教育の具体的な諸問題に対して敏感であることはもちろん、高度な英語力と専門的知識、また応用能力を背景として、広い視野を持って問題解決にあたり、分野を先導していく意欲と能力を有する人材を求めます。                                                                                         | <b>英語科内容学</b><br>英語教育専攻は、学校教育に求められる教科専門並びに教育実践に関わる研究能力を有する教員の育成を目指します。この目的を達成するために、英語科教育学領域では小学校・中学校・高等学校における英語教育が抱える課題に取り組みながら、理論と応用能力を備えた英語教師の資質能力の向上を図ります。英語科内容学領域では、英語科教育学の基盤を形成する英米文学と英語学を深く探究し、教科の専門性を高め、理論と応用能力を備えた教員の資質向上を図ります。主に次の科目を開設します。英米文学演習I～IV、英米文学研究 I～IV、英米文学特論 I～IV、英語学特論I・II、英語学演習 I・II、言語理論 I・II、言語学特論 I・II、言語学演習 I・II、専門教科に関する学問上の専門知識を身につけます。英語科教育特論 I～IV、英語科教育研究 I～IV、英語科教育演習 I～III、英語科授業研究 I・II、小学校英語教育特論 I・II、小学校英語教育研究 I・II では、英語科教育方法論、英語科授業研究及び教材論に関する講義や演習で、教育実践に関わる理論に基づいた教科教育実践力を身につけます。以上の教育課程を経て、2年間の研究の成果として修士論文の作成を行います。  | 本専攻「英語科内容学領域」においては、高度な能力を持った教員の養成と、人文社会科学諸分野についての深い知識や研究能力を持った人材を育成することを教育上の目的としています。加えて「英語科教育学領域」との連携により、英語教育に対する深い知識や興味を基礎的素養として持った人材の育成を目指しており、教育目標として以下の諸点についての能力を養成することとしています。<br>・言語文化の研究を通じて論理的に思考することができる。[思考・判断]<br>・高度な人文社会科学の知識を持ち、これらを小・中・高校の各学校の教育において適切に運用することができる。[知識・理解]<br>・人文社会科学の見方や考え方に基づいた研究によって、専門的な分析力や表現力を身につける。[技能・表現]<br>・言語文化における法則や体系、真理探究に対する関心を持ち、人文社会科学の専門知識やものの見方、考え方を積極的・継続的に活用しようとする。[関心・態度] |
| <b>社会科教育専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>基本理念と目標</b><br>社会科教育専攻は、教育現場での社会科における指導的役割を担い、また広く社会科に関わる教育・研究活動を通して日本社会さらには国際社会に寄与できるような教員や研究者を育成することを目標としています。そのためには、現代社会の諸問題を多面的・多角的にとらえ、体系的に理解し、自らの見識をもって行動できるような、深い学識と優れた実践力を育てていくことが必要となります。<br>その課題を果たすために、社会科教育専攻では、社会科教育学領域と社会科内容学領域とに分かれて、それぞれの特色を生かして教育を進めることにしています。社会科教育学領域では教育現場との関わりを重視しつつ、教材や授業法の研究・開発など実践的な活動によって力量を高めていきます。社会科内容学領域では、哲学・倫理学、歴史学・民俗学、地理学・地誌学、社会科学、国際文化の5つの分野に分かれて教科の背景となる専門研究への理解を深めるとともに、広い教養に裏打                | <b>社会科教育学領域</b><br>社会科教育学領域では、一方では社会科の目標・内容・方法・組織形態、そして他方では児童生徒の社会的認識や社会意識の発達を考慮しながら、社会科教育や社会科授業の優れた担当者を育てるべく、カリキュラムを構成し、授業を実施します。特論科目では社会科教育の思想や理論を丁寧に学びます。演習や研究科目では社会科の授業実践について、主に文献や映像による授業記録の分析や考察を通して追究します。また小中学校等に出かけて、授業参観する機会も設けます。そのような学びを積み重ねることで、2年間の研究成果として修士論文の作成を行います。                                                                                                                                                                                                                                                                          | 社会科教育学領域においては、学習指導要領「社会編」に記載された目標を達成できる教員を育てることを教育上の目的としています。すなわち「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質を養う」ことができ、さらには小中学校等における社会科授業の計画と実践を指導する力量を有する人材の育成に全力を尽くします。より具体的にば次のような人格性を備えた人材です。<br>常に地域と国と世界を統一的に見とおして考え、判断できる【思考・判断】<br>偏狭なナショナリズムやレイシズムの根源や本質を正しく認識できる【知識・理解】<br>差別や不当な抑圧に沈黙せず、正義を発信し、その精神で行動できる【技能・表現】<br>さまざまな社会事象に関心と疑問をもち、追究することができる【関心・態度】                               |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ちされた知性を養っていきます。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>社会科教育専攻では、上記の目標に向かって、教員とともに学び、研鑽を積んでいくための意欲と能力を有する学生を求めています。そのため</p> <p>①平和で民主的な社会の形成に向けて寄与する意欲のある者</p> <p>②国際社会の中で生きる日本の将来に向けて貢献しようとする意欲のある者</p> <p>③社会科教育に関する高い専門性を修得するための意欲と能力のある者</p> <p>④学校教育の現場で、地域や保護者と協働して活動する意欲と能力のある者</p> <p>⑤郷土や地域への深い理解に立って次世代への教育にあたらうとする意欲と能力のある者などに該当する学生が望ましいことは勿論ですが、何よりも自らを高め、教育現場における社会科教育の中核的な役割を担う存在にならうとする熱意を持った学生を、われわれは求めて已みません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p><b>社会科内容学領域</b></p> <p>社会科内容学領域では、哲学・倫理学、歴史学・民俗学、地理学・地誌学、社会科学、国際文化の5分野で、幅広い専門の授業が開講されています。そこでは哲学史や思想史、日本の古代・中世史や民俗学、西洋近代史、人文地理学や地誌学、法学・政治学・社会学、日本・中国・欧米の社会文化研究など、多様な講義と演習によって、社会科の背景にひろがるさまざまな学問分野の魅力に触れることができます。それは院生にとって、自らの興味関心をより広めることにつながり、同時に教員として必須の深い知性・教養を培う過程にもなります。一方で、院生は各々の指導教員のもとで、自らの専攻する専門分野について深く学ぶことが保証されています。たとえば歴史学であれば、特論によってその該当する分野の研究状況や課題に視線を向け、さらに少人数の演習で専門的技術と論理的構成力を修得しつつ研究と発表を重ねるなど、教科の背景としての専門性を大きく高めることが可能です。その成果が、修士論文として結実することになっていきます。これらの授業と社会科教育学領域の授業をあわせて学ぶことにより、社会科という教科を深く理解し、児童生徒に対して優れた授業を行なっていくための能力を養成することを、社会科内容学領域では目指しています。</p> <p>社会科内容学領域では、幅広い教養を基盤としつつ、人文学・社会科学の専門分野にも深い見識を持ち、教育現場で社会科をはじめとする諸教科の指導を進めるにあたって、中核的な役割を担うことができるような教員の養成を、教育上の大きな目的としています。そのために社会科教育学領域とも密接に連携し、社会科教育への熱意と能力を基本的素養として高めるとともに、教科のバックボーンとしての専門的な知識と研究能力を育成することを目指しています。具体的にはその中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科とその内容を構成する学問的諸分野への興味や関心</li> <li>・専門的研究を進めるための知識や技術</li> <li>・それらを通した論理的思考能力</li> <li>・それらを教育現場で適切に運用し、児童生徒に伝える能力などを重視しています。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p><b>数学教育専攻</b></p> <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>数学的なものの考え方や知識が自然科学の根底を支え、人類の文明・文化の発展と繁栄を支えてきました。とりわけ、近代以降の科学技術の進歩は数学なくしては考えられません。今後も人類の歴史が存続するかぎり、新たな技術の理論的根底を支え、開発の推進力として数学の役割はますます大きくなって行くことでしょう。特に、情報化と国際化がますます進む現代にあつては、数学を学ぶことを通して得られる論理的な考え方や、普遍的で自由なものの見方が強く求められています。</p> <p>本専攻は、数学教育に関する理論的・実践的に高度な専門性を持つとともに、職場や地域の核となれるようなリダーシップを持った教員の育成や、数学をはじめとする自然科学の基礎、およびコンピュータ等に関する情報科学の基礎を身に付け、社会・文化の発展に寄与する人材を育成することを目標としています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度で専門的な職業人にふさわしい知識を持ち、教育活動を計画し実践できる教員を志し、教育の現場での活躍を志す人</li> <li>・社会の多様な要請に対応できる専門性と、教育に関する深い造詣を備え、さまざまな分野での活躍を志す人</li> <li>・児童・生徒はどのように算数・数学を理解していくのかに興味があり、その知見を生かした教え方を追究したい人</li> <li>・小学校、中学校、高等学校における算数・数学の内容と高度な数学との関係に興味を持ち、これからの教育ではどのような数学の内容・方法を教えていくべきかを追究したい人</li> <li>・新しい数学が、いかにして生まれ、そしてさまざまな領域でどう活用されているかを探究したい人</li> </ul> | <p><b>数学科教育学領域</b></p> <p>数学科教育学領域では、数学教育論、算数科教育方法論、数学科教育方法論、数学科教材論に関する科目を履修します。数学教育論の講義および演習では、数学教育の実践的研究とカリキュラムや授業開発について学びます。算数科教育方法論の講義および演習では、算数科の授業を行うための具体的な教材分析および授業設計の方法論について学びます。数学教育方法論の講義および演習では、作図ツールを中心とする数学教育におけるテクノロジー利用について幅広く学びます。数学科教材論の講義および演習では、数学科で扱われる教材の構成原理や指導配列について学びます。</p> <p>本領域では、これらの理論的科目に加え、「数学教育教材・授業研究」を必修科目として設定しています。この科目では、受講者が実際の小学校または中学校で授業を行います。授業を実施するための教材研究、授業実施後の授業研究も含め、数学教育学の理論だけでなく、それを教育現場で実践できる人材を養成するための授業内容になっています。</p> <p><b>数学科内容学領域</b></p> <p>数学科内容学領域では、代数学、幾何学、解析学、確率論、応用数学・情報科学に関する科目を履修します。代数学に関する科目の講義および演習では、等式に関する数学の能力を養成します。幾何学に関する科目の講義および演習では、図形に関する数学の能力を養成します。解析学に関する科目の講義および演習では、不等式に関する数学の能力を養成します。確率論に関する科目の講義および演習では、偶然の現象に関する数学の能力を養成します。応用数学・情報科学に関する科目の講義および演習では、実社会で数学をどのように役立てるかの能力を養成します。</p> <p>本領域では、これらの理論的科目に加え、「数学教育教材・授業研究」を必修科目として設定しています。この科目では、受講者が実際の小学校または中学校で授業を行います。授業を実施するための教材研究、授業実施後の授業研究も含め、数学教育学の理論だけでなく、それを教育現場で実践できる人材を養成するための授業内容になっています。</p> <p>数学科内容学領域においては、数学の研究を基にし、高度な能力を持った小・中・高等学校教員および教育の周辺分野の人材を育成することを目的としています。本領域は、以下の能力を持った人材を育成することを教育目標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的論証を正しく理解する能力を持ち、またそれらを小・中・高等学校の教育現場において実践することができる。【思考・判断】</li> <li>・数学教育学に関する正しい知識と理解を持ち、それらを小・中・高等学校の教育現場において実践することができる。【技能・表現】</li> <li>・算数・数学の授業を学問的に分析し、それを小・中・高等学校の教育現場において実践することができる。【関心・態度】</li> </ul> |
| <p><b>理科教育専攻</b></p> <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>本専攻は理科教育学領域ならびに理科内容学領域の教育研究活動を基盤に、高度な能力を持つ教員の養成と、理科の教育や内容に関する諸問題について深い知識や研究能力を持つ人材の育成を目的とする。</p> <p>&lt;理科教育学領域&gt;</p> <p>小・中・高等学校や社会教育施設での理科教育における教育目的・教科課程・指導方法・教材構成・認知心理・学習評価・教師教育等に関する諸問題の解決に向け、理論的・実証的な研究を推進できる専門的能力の育</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <p><b>理科教育学領域</b></p> <p>理科教育学領域では、教育目標の達成に向けて、次のような4系統の科目群を用意して、教育研究の遂行に資する基盤を育成しています。</p> <p>①理科教育の目的・目標やその到達のための内容構成、さらにそれらの時代変遷や国際比較の特徴について理解する講義・演習：理科カリキュラム論、理科教育史特論、理科教育特論演習、理科教育特論Ⅰ</p> <p>②児童生徒の科学観・科学知識の発達の特徴と理科授業での指導・評価の方法について理解する講義・演習：理科教育方法論Ⅰ・Ⅱ、理科教育方法論演習、理科教育特論Ⅱ</p> <p>理科教育学領域においては、理科教育における教育目的・教科課程・指導方法・教材構成・認知心理・学習評価・教師教育に関わる諸問題の解決に向け、理論的・実証的な研究を推進できる深い知識と専門的な能力を持つ教員等の人材を育成することを教育上の目的としています。教育目標として、以下の諸点について掲げています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科教育の理論的・実証的研究を通じて、教育的諸問題を論証でき【思考・判断】</li> <li>・自然科学や教授学の基礎知識を踏まえて、</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>成とともに、その成果に即した高度な教育実践を展開できる力量の獲得を目標とする。</p> <p>&lt;理科内容学領域&gt;</p> <p>小・中・高等学校における理科（物理学・化学・生物学・地学）の内容理解の深化および考察力の強化、現代的理科内容の研究力の確保を教育研究活動の重点的目標とする。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>本専攻の理科教育学領域ならびに理科内容学領域ではそれぞれ、次に示すような基礎的力量を持ち、高度専門的職業人を志して学修や研究の推進に意欲のある学生の入学を期待する。</p> <p>&lt;理科教育学領域&gt;</p> <p>初等・中等教育に関する基礎的な知識・技能や教育実践力を獲得した人で、理科教育に関する高度な専門知識・技能と教育実践研究力を持った学校教員やその育成に寄与する研究者を主に志す人。</p> <p>&lt;理科内容学領域&gt;</p> <p>自然科学に対する大きな興味と豊富な探究心を持ち、自然科学に関する十分な知識および考察力を有した人で、理科の内容研究の進展に寄与する学校教員や研究者、その専門知識に関連した職業人などへの志を持つ人。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>③理科教材の意義・取り扱いやその開発研究について理解する講義・演習：理科教材論Ⅰ～Ⅲ</p> <p>④理科の指導文脈や教育環境、学習文脈を読み解く授業研究の方法について理解する講義や理科指導実践の分析協議を行うことを主眼とする演習：理科授業研究特論Ⅰ・Ⅱ、理科授業研究演習、理科授業研究Ⅰ～Ⅳ</p> <p>このほか、2年間の研究の成果として修士論文の作成を行います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>教師・児童生徒や理科教育環境の状況を分析し、理科指導実践に関わる知識を高度に構築することができる【知識・理解】</p> <p>・理科指導実践やその分析に関わる専門的な研究方法や発表技法を理解し、使用できる【技能・表現】</p> <p>・小・中・高等学校や社会教育施設での理科教育の質的向上に関心を持ち、積極的・継続的に教育実践に関与して、自らの実践的指導力を向上できる【関心・態度】</p>                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>芸術教育専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <b>音楽分野</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>本分野は「音楽科教育学領域」と「音楽科内容学領域」の2領域からなります。どちらにおいても、社会の様々な場において音楽が抱えている多様な課題へ柔軟に対応できる能力を有した音楽教育の専門家、並びに音楽を通して社会に貢献する指導者の養成を目指しています。</p> <p>その基本理念は「包括的音楽性」を育てることにあります。包括的音楽性とは、ヨーロッパ音楽に偏ることなく多様なジャンルの音楽へ対応できる音楽性を追究するとともに、演奏や創作の技法、そして音楽を指導する方法論、さらにそれらを客観的に分析し考察するための手法を学ぶことで、音楽に対する感性を研ぎすまし追究していく中で得られる総合的な能力を指しています。</p> <p>よって本分野では、自身の専門性をより深めていくためにも、特定の専門分野に限定することなく幅広い視野をもち、多元的かつ多角的に課題へ取り組むことで包括的音楽性をより高めることを求めています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>音楽分野では以下のような資質と能力を具えている人物、またはそれらを身に付けようとする意志を有する人物を求めています。</p> <p>・将来、学校教員や社会における音楽指導者および研究者をめざすために必要な基本的音楽知識と技能を有している者。</p> <p>・人間としてあるべき倫理観と人権意識を常に高くもち、自らの教育経験と音楽経験を客観的に振り返りながら専門性と幅広い見識を追求しようとする者。</p> <p>・音楽科教育を中心とする理論と実践に関わる基礎的な研究能力を身につけるために、教育と研究活動を自ら推進していこうとする意欲のある者。</p> <p>・音楽と教科教育を架橋する専門的知識と教養の獲得を目指し、教育と研究に携わっていく者として絶えず向学心と探究心をもち続けながら、自らの専門的能力の研鑽に意欲的に取り組んで行こうとする強い意思のある者。</p> | <p><b>音楽科教育学領域</b></p> <p>音楽科教育学領域では、音楽教育の各分野において、その背景にある音楽科教育特論・音楽科教育演習・音楽科教育授業研究・音楽教育学研究方法・比較音楽教育演習・民族音楽教育特論などの諸分野の研究を推進し、それぞれの分野が持つ課題を解明するとともに、音楽を指導する方法論やそれらを客観的に分析し考察するために必要な知識と技術の習得をめざします。</p> <p>音楽科教育特論の科目では、音や音楽に対する知覚・認知や音楽行動について学びます。音楽科教育演習の科目では、音楽教育に関する現代的トピックスを取り上げて理解を深めます。音楽科教育授業研究の科目では、小中学校の音楽科授業を分析します。音楽教育学研究方法の科目では、音楽教育に関する研究手法を知り、資料やデータの収集、分析や考察の手法など具体的な研究の遂行方法について学びます。比較音楽教育演習の科目では主にフランスと日本音楽教育を比較することで音楽教育制度について視野を拡げます。民族音楽教育特論の科目では、日本音楽の指導法について学びます。さらに音楽科内容学領域の科目では、音楽に関する深い知識や技能を身に付けます。2年間の研究の成果として修士論文の作成を行います。</p> | <p>音楽科教育学領域においては、包括的音楽性の育成を基本理念とし、音楽が抱える多様な課題へ柔軟に対応できる能力を有した音楽教育の専門家養成を目的としています。加えて「音楽科内容学領域」との連携により、音楽に関する深い知識や技術を基礎的素養として学ぶことで、音楽を指導する方法論やそれらを客観的に分析し考察するための手法を有する人材の育成をめざしています。教育目標は以下のとおりです。</p> <p>音楽活動における理論と実践の関連性をふまえ、論理的に思考することができる【思考・判断】</p> <p>基本的な音楽的知識をもち、様々な指導場面においてこれらを適切に運用することができる【知識・理解】</p> <p>音楽的実践を導くための技能をもち、音や音楽を表現することができる【技能・表現】</p> <p>音楽と人間、そして社会の関係に関心をもつとともに、音や音楽の表現方法を積極的に追求しようとする【関心・態度】</p> |
| <b>音楽科内容学領域</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>音楽科内容学領域では、音楽科を構成する声楽・器楽・作曲・音楽学の各分野において、その背景にある声楽曲研究・日本歌曲演習・声楽演奏法研究・オペラ総合演習・鍵盤楽器アンサンブル研究・楽曲イメージ演奏法演習・ピアノ曲研究・伴奏法演習・楽曲分析論・作曲法演習・音楽学特論など音楽の諸分野の研究を推進し、各分野が持つ課題に関する技術と知識の習得をめざします。</p> <p>声楽曲研究・日本歌曲演習・声楽演奏法研究・オペラ総合演習の科目では、様々な種類の声楽曲のレッスンを受け、それぞれの演奏上の技術と知識の習得をめざします。鍵盤楽器アンサンブル研究・楽曲イメージ演奏法演習・ピアノ曲研究・伴奏法演習の科目では、様々な種類のピアノ曲のレッスンを受け、それぞれの演奏上の技術と知識の習得をめざします。楽曲分析論・作曲法演習の科目では、作曲に関する知識と技術の習得をめざします。音楽学特論の科目では、主に日本音楽に関する演奏上の技術と知識の習得をめざします。音楽科教育学領域の科目では、音楽を指導する方法論や</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>音楽科内容学領域では、音楽科を構成する声楽・器楽・作曲・音楽学の各分野において、その背景にある声楽曲研究・日本歌曲演習・声楽演奏法研究・オペラ総合演習・鍵盤楽器アンサンブル研究・楽曲イメージ演奏法演習・ピアノ曲研究・伴奏法演習・楽曲分析論・作曲法演習・音楽学特論など音楽の諸分野の研究を推進し、各分野が持つ課題に関する技術と知識の習得をめざします。</p> <p>声楽曲研究・日本歌曲演習・声楽演奏法研究・オペラ総合演習の科目では、様々な種類の声楽曲のレッスンを受け、それぞれの演奏上の技術と知識の習得をめざします。鍵盤楽器アンサンブル研究・楽曲イメージ演奏法演習・ピアノ曲研究・伴奏法演習の科目では、様々な種類のピアノ曲のレッスンを受け、それぞれの演奏上の技術と知識の習得をめざします。楽曲分析論・作曲法演習の科目では、作曲に関する知識と技術の習得をめざします。音楽学特論の科目では、主に日本音楽に関する演奏上の技術と知識の習得をめざします。音楽科教育学領域の科目では、音楽を指導する方法論や</p>                                                                                    | <p>音楽科内容学領域においては、包括的音楽性の育成を基本理念とし、音楽が抱える多様な課題へ柔軟に対応できる能力を有した演奏や創作の専門家養成を目的としています。加えて「音楽科教育学領域」との連携により、音楽を指導する方法論やそれらを客観的に分析し考察するための手法を基礎的素養として学ぶことで、多様なジャンルの音楽へ対応できる音楽性を有する人材の育成をめざしています。教育目標は以下のとおりです。</p> <p>音楽活動における理論と実践の関連性をふまえ、論理的に思考することができる【思考・判断】</p> <p>基本的な音楽的知識をもち、様々な指導場面においてこれらを適切に運用することができる【知識・理解】</p> <p>音楽的実践を導くための技能をもち、音や音楽を表現することができる【技能・表現】</p> <p>音楽と人間、そして社会の関係に関心をもつ</p>                            |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | それらを客観的に分析し考察するための手法を学びます。2年間の研究の成果として、演奏または作品発表に加え副論文の作成を行います。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | とともに、音や音楽の表現方法を積極的に追求しようとする【関心・態度】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <b>美術分野</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>基本理念と目標</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>本専攻は、美術・工芸分野での専門的な技能や指導力を持った学校教育者や、社会教育など様々な教育機関での教育者・指導者を育成することをめざしている。</p> <p>また、美術・工芸における創造性およびそれらの教育的な意味と価値を、幅広い作品制作と思索の積み重ねを通じて総合的に探求することを目的としている。</p> <p>本専攻は、美術科教育学領域と美術科内容学領域のふたつの大きな柱によって構成されている。</p> <p>このいずれかの領域を中心としながら、幅広い分野にわたる研究教育と実践体験を重ねることにより、様々な形で現代の社会に貢献できる人材を育成することが本専攻の目標である。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>すでに大学を卒業していることが前提であるので、この専攻で何をどのように学ぶかというしっかりした目的意識と、将来への展望を持つ学生が入学することを期待する。</p> <p>また美術とは、決して孤独な作業ではない。狭い意味では共同で作業をするものだし、広い意味では、教育機関・企業・自治体など様々な場所で、人々と手を取り合いながら、より豊かな社会をめざす営みでもある。そういう社会的な意識を持ち、美術を通じた社会貢献を目標とする学生を歓迎する。</p> <p>入学後は、本専攻の教員のひとりを主指導教員として研究を進めるので、本学出身者であっても他大学出身者であっても、入学した場合に自分の目標が本専攻で実現できるかどうかを、あらかじめ相談して確かめておくことが望ましい。</p> <p>学校教員の現職者はもちろん、一度大学を卒業し社会で経験を積んだ受験生も歓迎する。</p>                     | <b>美術科教育学領域</b> <p>本領域では、美術・工芸における、教育的な指導力や教育的な意義の理解力を養成するために、美術科教育学領域の授業科目を履修します。この領域の授業科目は、美術・工芸における教育的な側面を、歴史・理論・実践の各視点についてそれぞれ複数の科目からアプローチできるように設定されています。その履修を通じ、美術・工芸分野での専門的な技能や指導力を持ち、学校教育や社会教育などにかかわる教育機関で教育・指導に従事する人材を育成します。</p> <p>そして、美術科内容学領域との密接な連携をとることによって、美術・工芸を通じて社会へ関与しようとする意欲を涵養します。2年間の研究・履修の成果として修士論文の作成に取り組みます。</p>                                                                                                                                                           | <p>本領域では、美術・工芸分野での専門的な技能や指導力を持ち、学校教育や社会教育などにかかわる教育機関で教育・指導に従事する人材を育成することを、目的としています。そのために、以下の諸能力を養成することを目標としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 美術・工芸における教育的な指導力</li> <li>② 美術・工芸の教育的な意義の理解力</li> <li>③ 美術・工芸を通じて社会へ関与しようとする意欲</li> </ol>                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <b>美術科内容学領域</b> <p>本領域では、美術・工芸における創造力を養成するために、美術科内容学領域の授業科目を履修します。この領域の授業科目は、絵画・彫刻・工芸・デザイン・美術史の各分野について、それぞれ複数の科目からアプローチできるように設定されています。その履修を通じ、美術・工芸における創造性を幅広く総合的に探究します。</p> <p>そして、美術科教育学領域との密接な連携をとることによって、美術・工芸を通じて社会へ関与しようとする意欲を涵養します。2年間の研究・履修の成果として修士論文の作成に取り組みます。</p>                                                                                                                                                                                                                       | <p>本領域では、美術・工芸における創造性およびその教育的な意味と価値を、総合的に探究することを、目的としています。そのために、以下の諸能力を養成することを目標としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 美術・工芸における創造力</li> <li>② 美術・工芸の教育的な意義の理解力</li> <li>③ 美術・工芸を通じて社会へ関与しようとする意欲</li> </ol>                                                                                                                                                                                  |
| <b>保健体育専攻</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>基本理念と目標</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>保健体育専攻は、学校体育、運動・スポーツ・健康に関する複雑で多様な課題を積極的に解決できる高度な専門能力を備えた保健体育分野の専門家の育成をめざします。本専攻は「保健体育科教育学」と「保健体育科内容学」の二領域からなり、前者では、保健体育科の授業づくり・教材開発など、教育実践に直接寄与するテーマを取り扱い、幅広い教養と実践的思考に支えられた専門的学識と技量を体系的に修得します。後者は、保健体育科の教育内容の科学的な根拠を担う領域であり、体育・スポーツに関する課題に対して、体育学・運動学・学校保健学の三分野からのアプローチによる高度な専門的知識と研究手法、分析能力を身に付け、諸問題に対応できる能力を養います。</p> <p>大学院修了後は、学校教育において教科研究のリーダーとなりうる教員や、さらに保健体育分野における科学的な研鑽を積み重ねていける人材の育成を考えています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>保健体育分野にかかわる専門家を育成するために、次のような学生を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員および研究者をめざすための基礎的学識を有する者で、学校体育、運動・スポーツ・健康に関する問題に関心をもち、それらについてさらに学修することに意欲のある者</li> <li>・保健体育科の教育を中心に、教材開発力や実践能力を高め、学校現場における問題の解決に積極的に貢献しようとする者</li> <li>・教員をはじめ社会人としての経験をもとに、現場に求められる専門能力の一層の向上をめざし、その研鑽に努め、指導的立場を志す者</li> </ul> | <b>保健体育科教育学領域</b> <p>保健体育科教育学領域では、保健体育の学力を保証する高い授業実践力を養成するために、保健および体育科の目的・目標論、教科内容論、学習指導論、学習評価論、カリキュラム論、授業研究論、教師養成論に関する知識・技能を深める科目を設定して、これらから10単位を履修することになっています。</p> <p>また、授業づくりと指導の科学的根拠となる知識を修得するために、保健体育科内容学領域の科目を4単位履修することになっています。保健体育科内容学領域には、人文社会学的な分野として体育原論、体育史、体育社会学、体育心理学等に関する科目、自然科学的分野として身体運動学、運動生理学、体力トレーニング学、保健学等に関する科目を設定しています。</p> <p>これら二つの領域の講義と演習、および所属領域の特別研究を通じて得られた研究の成果を修士論文としてまとめ、分析能力、解決能力および発表能力を養います。なお、小学校、中学校、高校の派遣教員を受け入れるなど、学校と密接な関係を築きながら、学校教育の要請に応える研究を推進します。</p> | <p>保健体育科教育学領域においては、運動・健康・スポーツ諸科学についての理論に基づいた研究的態度を有する備えた指導的な教員、運動・スポーツ・健康の指導に関わる指導的な人材の育成を目的としています。この教育目的のために以下の諸点を養成目標にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育の授業づくりと運動・スポーツ・健康の指導問題を論理的に思考することができる。</li> <li>・専門的な科学的知識を持ち、強い責任感と倫理性をもってこれらを小・中・高校の各学校の教育において適切に用いることができる。</li> <li>・授業観察と運動観察および対話分析を志向することができる。</li> <li>・実践的思考に基づいて運動・スポーツ・健康の指導に関する課題を発見し、問題解決を提案することができる。</li> </ul> |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <b>保健体育科内容学領域</b> <p>保健体育学は、哲学・史学・社会学・心理学・生理学・バイオメカニクス・経営管理学・発育発達・測定評価・方法学・保健学・教科教育学など、人文・社会・自然科学の全ての学問に目を通し、体育・スポーツ・健康に関わる問題を捉えようとする応用学問と考えられます。本領域では、体育学・運動学・学校保健学分野を設け、以下に示す開講授業を通して、それぞれの学究的思考のもとに課題をみつけ、解明する能力を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育学（人文・社会科学的立場から体育・スポーツを探究する分野）：「体育学特論」「体育原論特論・演習」「体育社会学特論・演習」「体育心理学特論・演習」ほか</li> </ul>                                                                                                                                      | <p>保健体育科内容学領域では、学校体育、運動・スポーツ・健康に関する複雑・多様な課題に対し、積極的に解決できる高度な専門能力をもつ専門家を育成することを教育の目的としています。「保健体育科教育学領域」が教科研究に焦点をおくのに対して、本領域では体育学・運動学・保健学分野に細分化し、人文社会科学的、自然科学的、保健・環境・健康科学的立場から体育・スポーツに関わる諸問題に焦点をあて、研究と社会発信する能力を育成することを目標にしています。具体的には次の点を養成目標にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校体育、運動・スポーツ・健康に関する</li> </ul>                                                                                 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・保健体育科教育学・内容学のより高度な専門的知識や研究手法を学び、将来、保健体育分野のより高度な専門家としての道を歩むことに熱意のある者</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>・運動学（自然科学的立場からスポーツ科学を探究する分野）：「運動生理学特論・演習」「体力科学特論」「運動処方特論・演習」「身体科学実践演習」「運動方法学特論・演習」「健康行動学特論・演習」ほか</p> <p>・学校保健学（学校教育における子どもの発育と健康の問題を探究する分野で、人文・社会・自然科学のさまざまなアプローチを援用する）：「学校保健学特論・演習」「環境保健学特論」「心身健康科学特論」ほか</p> <p>2年間の学修と研究の成果として修士論文の作成を行います。また在学中、関連学会への参加及び発表を目指し、研究成果を社会に表現する方法を学びます。</p>                                                                                                                                                                                                                             | <p>研究を通じて論理的に思考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い学識、高度な科学的・実践的知識を持ち、これらを小・中・高の学校現場のさまざまな教育問題に適切に運用する。</li> <li>・保健体育科を中心に教材開発力や実践能力を高め、学校教育における問題解決に積極的に貢献する。</li> <li>・社会人入学者については、教員や社会人としての経験をもとに、現場に求められる専門能力の一層の向上と研鑽に努め、指導的立場を志向する。</li> </ul>                                                                                                                                                                 |
| 家政教育専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>人とモノがグローバルに行き交う現代にあつては、急激に変化する「生活」とそれを取り巻く人間関係や社会のあり方、人の生活と自然環境の関係を多面的に探究し、生活課題に主体的に共同で取り組み、「生活」を真に豊かなものに変えていくことが求められています。家政教育専攻は、この課題に向き合う教育・研究の在り方を追究することを目的として、「家庭科教育学領域」と「家庭科内容学領域」の二領域を設けています。「家庭科教育学領域」では、上記の課題に向き合う教育実践の創造のために教育理論、教育史、教育実践などの研究を中心にを行います。一方、「家庭科内容学領域」では、家庭科で追究される生活課題（例えば、消費社会や少子高齢社会における生活のあり方、環境と共生など）について、食物学、被服学、住居学、家族関係学、生活経営学、生活経済学、消費生活科学などの研究視点から探究します。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>家政教育専攻では、「生活」を探究することと、そのことを人が生涯追究し続ける「学びの営み」について深い洞察をもった、家庭科教員など学校教育・社会教育現場において活躍できる専門職、公務員など行政において人々の生活に関わる専門職、あるいはそれらの育成に寄与することのできる研究職などにつける人材の養成をめざしています。その目的のため、家政教育専攻では、以下のような高い志を持った学生を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の教員を志し、現代生活の諸課題を探究し、教育方法を開発することを志す人</li> <li>・高度の専門的知識と実践力を持った学校教育および社会教育の専門家を志す人</li> <li>・家庭科に関する高度な専門的知識と研究手法を身につけた専門的職業人を志す人</li> <li>・市民生活に関する高度な専門的知識を生かし、行政や地域に密着した公的な職業人を志す人</li> </ul> | <p><b>家庭科教育学領域</b></p> <p>家庭科教育学領域では、家庭科教育の理論と実践を検討し、家庭科の豊かな学びの創造や実践力を形成する目的で、主に以下の科目を履修します。家庭科教育学に関する科目として「家政教育史」、「家庭科教材研究特論」、「家庭科教育特論」、「家庭科教育演習」、「家庭科授業研究」、および「家庭科教育方法論」を開設しています。この中で「家庭科教材研究特論」は、家庭科内容学領域との間における学びと研究をつなぐ科目として位置づけられており、家庭科教育が対象とする各内容領域について、教材研究・教科内容研究や教科教育研究を行うために必要な理論と方法、プロセスを検討するとともに、現代の家庭科教育研究の課題を明らかにすることを目指しています。その他に、特別研究科目として「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を開設しています。この科目は、修士論文の研究指導のためのものであり、指導教員が直接、各自のテーマに即した指導を行います。また、論文作成の過程でその進捗状況を発表する機会を設け、家庭科内容学領域の教員からも指導・助言を受けます。</p>                                  | <p>家庭科教育学領域では、家庭科における教育理論、教育史、教育実践などの研究を中心に行うことにより、家庭科教育に関わる専門的な知識・技能・実践力を育成するとともに、複雑・多様化した現代社会における様々な生活諸課題の解決に向けて、高度な教育実践を展開できる人材の育成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的・多角的にとらえ、論理的・体系的に思考・判断することができる。</li> <li>・家庭科教育について理論的・実践的に高度な専門性をもっている。</li> <li>・高度な教育実践を展開するための技能を身につけている。</li> <li>・家庭科教育の理論を修得し、これを実践させていく強い意欲がある。</li> </ul>                                                                       |
| 家庭科内容学領域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>家庭科内容学領域では、家庭科内容についての高い専門的知識を持って現代の生活に関わる諸問題に適切に対応できる人材を育成する目的で、主に以下の科目を履修します。家庭科内容学に関する科目として食品学、栄養学、調理学、被服構成学、被服学、家族論、家庭経済学、住居学、生活環境学、および保育学の各分野について特論と演習を開設しており、自身の専門分野とその関連分野に該当する科目を選択して履修します。特論では各分野の高度な理論を学び、演習ではその理論の実践や応用を学ぶことによって、高度な専門的能力の形成を図ります。あわせて家庭科教育に関する科目を履修し、家庭科内容学における研究と教育を結びつけて探究する力を育成します。特に「家庭科教材研究特論」は、家庭科内容学領域の研究と教育を架橋する科目として位置づけられています。その他に、特別研究科目として「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を開設しています。この科目は、修士論文の研究指導のためのものであり、指導教員が直接、各自のテーマに即した指導を行います。また、論文作成の過程でその進捗状況を発表する機会を設け、内容関連分野および家庭科教育学領域の教員からも指導・助言を受けます。</p> | <p>家庭科内容学領域では、家庭科の内容に関わる諸分野（食物学、被服学、住居学、家族関係学、生活経営学、生活経済学、消費生活科学など）についての深い知識や研究能力を養い、家庭科で追究される生活課題（例えば、消費社会や少子高齢社会における生活のあり方、環境と共生など）に対応できる能力を持ち、さらにそれを家庭科教育に生かしていく高度な専門的能力を持った人材の育成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的・多角的にとらえ、論理的・体系的に思考・判断することができる。</li> <li>・家庭科の内容について高度な専門的知識を持ち、それを家庭科教育に展開する専門性を持っている。</li> <li>・研究を遂行していくために必要な基本的技能を十分に身につけている。</li> <li>・家庭科に関わる生活課題に関心があり、それを解決していく意欲がある。</li> </ul> |
| 技術教育専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p><b>基本理念と目標</b></p> <p>現代社会を主体的に、健全に生きるためには国民の一人ひとりが、ものづくりに関する実践的理解と技術的素養を身につけることが必要不可欠です。本専攻はこのような観点に立ち、製品の設計・加工技術、エネルギーの制御・利用技術、作物栽培等の生物育成技術、及びコンピュータ・情報通信技術など、生活及びものづくり＝生産活動の基盤となる技術を、教育・研究の対象とするとともに、成長期にある子どもの全人格的な発達を促す上で有効な技術教育のあり方や展開法等を重要な教育・研究課題としています。</p> <p><b>期待する学生像</b></p> <p>上記した観点からのより高度な理論的・教育的基盤を修得し、豊かな研究能力と教育実践力を身につけた人、そうした能力を有した有為な教員や研究者、技術者を志す人を求めます。</p> <p>とりわけ、学んだ科学的知識・技術を、実験・実習などにより実践的に検証したり、創造的な活動をする実行力が要求されます。ま</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p><b>技術科教育学領域</b></p> <p>本専攻では、技術と技術教育にかかわる各分野についての深い知識と理論に基づいた研究能力を身につけること、そして、それらの高度な能力を持った教員の養成と人材の育成を目的としています。そのため、中学校技術にかかわる木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報等の分野とその基礎科学に関する幅広く深い知識とともに、技術諸分野およびそれらの教育に関する課題についての理解・判断力、課題解決に向けての思考能力、新たな課題を発見し取り組む創造的能力、課題について適切に伝えることができる表現力、それぞれの専門分野に関する研究能力と関連する教材の研究開発能力等を身につけることを教育目標としています。そして上記に加えて、それぞれの研究課題に取り組む中で、技術科内容学領域では、選択した分野における先端の課題または教材開発等に関わる研究に必要な諸能力を修得します。</p>                                                                                                          | <p>本専攻では、技術と技術教育にかかわる各分野についての深い知識と理論に基づいた研究能力を身につけること、そして、それらの高度な能力を持った教員の養成と人材の育成を目的としています。そのため、中学校技術にかかわる木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報等の分野とその基礎科学に関する幅広く深い知識とともに、技術諸分野およびそれらの教育に関する課題についての理解・判断力、課題解決に向けての思考能力、新たな課題を発見し取り組む創造的能力、課題について適切に伝え議論できる表現力、それぞれの専門分野に関する研究能力と関連する教材の研究開発能力等を身につけることを教育目標としています。そして上記に加えて、それぞれの研究課題に取り組む中で、技術科教育学領域では、技術教育に関する研究に必要な諸能力を修得します。</p>                                                               |
| 技術科内容学領域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>本専攻では、教職に関する科目に加えて履修する専門科目において、技術と技術教育にかかわる深い知識</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>本専攻では、教職に関する科目に加えて履修する専門科目において、技術と技術教育に</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>た、本専攻では、電気、機械、木材加工、金属加工、栽培・飼育、情報等多くの分野に関する知識と技能が必要であり、それらを技術教育に生かすため、有機的に連携させる柔軟な発想と創意・工夫する能力も求められます。従って、特に本専攻では、積極的に学習する意欲のあることに加え、次に該当する者を望みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学技術に強い興味と関心を持っていること</li> <li>2. 獲得した知識や技能を積極的活用する行動力・実践力があること</li> <li>3. さまざまな課題解決のために、創意・工夫する豊かな感性と創造力を持っていること</li> <li>4. 技術教育につながる教育に関する基礎的知識ととりわけ子どもの発達への理解を持っていること</li> </ol> | <p>と理論に基づいた研究能力を身につけるために、中学校技術にかかわる木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報の各分野の専門研究を踏まえた知識に関する講義と演習、および、それぞれの分野の教育に関わる内容を踏まえた講義と演習からなる科目から構成されており、可能な限り全分野に渡る幅広い専門科目を履修することが専門的力量を高める上で求められます。そして、修士課程における最も重要な課題である修士論文の作成に向けて、それぞれの専門領域に関する課題についての研究を行う中で、研究に関する文献や論文を批判的に検討できること、実験や実習を含めた研究計画を策定し実施することができること、そして、それらを踏まえて新たな研究課題を創出できること等の研究者として必要な能力を身につけます。それは同時に、教員として求められる、現実社会で展開する様々な課題を解決しながら教材研究等の教育的課題を創出していくことができる研究的態度を中心とした高度な専門的能力を身につけることでもあり、また、社会人として求められる高度な専門的能力にもつながるものです。</p> | <p>かかわる深い知識と理論に基づいた研究能力を身につけるために、中学校技術にかかわる木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報の各分野の専門研究を踏まえた知識に関する講義と演習、および、それぞれの分野の教育に関わる内容を踏まえた講義と演習からなる科目から構成されており、可能な限り全分野に渡る幅広い専門科目を履修することが専門的力量を高める上で求められます。そして、修士課程における最も重要な課題である修士論文の作成に向けて、技術教育に関する課題についての研究を行う中で、研究に関する文献や論文を批判的に検討できること、実験や実習を含めた研究計画を策定し実施することができること、そして、それらを踏まえて新たな研究課題を創出できること等の研究者として必要な能力を身につけます。それは同時に、教員として求められる、現実社会で展開する様々な課題を解決しながら教材研究等の教育的課題を創出していくことができる研究的態度を中心とした高度な専門的能力を身につけることでもあり、また、社会人として求められる高度な専門的能力にもつながるものです。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| アドミッションポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | カリキュラムポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ディプロマポリシー |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <p>大学院教育学研究科（後期3年博士課程）</p> <p>共同教科開発学専攻は、愛知教育大学と静岡大学が共同して教育課程を構成している後期3年間のみの博士課程であり、教科専門と教科教育を融合・発展させた教科学と、教職専門を発展させた教育環境学とを有機的に融合させた教科開発学を独自の学問分野として確立することを目指し、子どもたちを取り巻く環境を視野に入れ、教科との関わりの中で学校教育が抱える複雑・多様化した諸課題に対応した研究を行います。</p> <p>本共同専攻は、教科学と教育環境学について高度・専門的な研究を行い、教科開発学の分野において自立して研究・実践でき、広く教育界に貢献し、大学教員を志向する人材を求めています。</p> | <p>共同教科開発学専攻における教育は、授業科目の履修と学位論文の作成に関する指導によって行います。学生の希望等を踏まえて決定した本籍を置く大学の研究指導教員を主指導教員とし、主指導教員の他に、両方の大学から少なくとも1名以上の副指導教員を配置し、3名以上の教員で指導します。このように共同大学院の特色を活かした指導体制を整え、様々な研究分野を包括する指導体制の充実を図っています。</p> <p>共同教科開発学専攻では、主指導教員は学位論文の指導のみならず、履修指導も行い、共同教科開発学専攻の学生は、主指導教員の指導の下に科目の履修方針を決めます。</p> <p>&lt;科目群&gt;</p> <p>共同教科開発学専攻の教育課程は、科目群として「教科開発学」に関する「基礎科目」、各分野の専門的な「分野科目」、各分野の総合的な「応用科目」の3つの科目で構成されています。</p> <p>&lt;基礎科目&gt;</p> <p>基礎科目の「教科開発学原論（2単位）」では、「教科開発学」の原理的諸課題や「教科開発学」の研究方法論を習得し、「教科開発学実践論（1単位）」では、大学教員としての教育実践力、教員FD等、実践的諸課題を探究します。これらの2科目は、必修です。その他も含めて基礎科目群からは、必修科目の2科目3単位を含め選択科目のうちから3単位、計6単位以上を選定して履修します。</p> <p>&lt;分野科目&gt;</p> <p>分野科目は、「教育環境学」と「教科学」の先進的かつ多様な知見を習得するとともに各教員の研究活動に基づく最先端の科目を「教科開発学」の分野科目として開講します。</p> <p>なお、分野科目は選択科目から10単位以上を取得する必要がありますが、「教育環境学」の分野科目のうちから2単位及び教育環境学分野以外の3分野の選択科目のうちから2単位の計4単位は必ず履修します。</p> <p>教育環境学分野では、マネジメント領域、教育方法領域、環境領域から科目を構成し、学校を取り巻く諸環境や利点を把握し、これらの知見を教科の開発研究に活用することを追求します。</p> <p>「教科学」は、「人文社会系」、「自然系」、「創造系」という三つの分野に分類し、「教育論」、「教育内容論」、「教材論」の三つの基本軸から科目を構成します。</p> <p>「教科学」では、教科内容を構成する学問の構築をめざし、教科のあり方・枠組そのものを分類し、人文社会系教科学、自然系教科学、創造系教科の各分野の先端的な知識を修得します。</p> <p>人文社会系教科学分野では、言語・多文化領域、歴史領域、風土領域から科目を構成し、教育方法・教材開発を行います。</p> <p>自然系教科学分野では、先端科学と教科内容領域、教材開発と学習支援領域、教育方法の開発領域から科目を構成し、先端科学技術と関連した自然系教科のカリキュラムを構築し、教育の情報化に対応した教育方法・教材開発を行います。</p> <p>創造系教科学分野では、生活力領域、身体領域、表現力領域科目を構成し、基礎的な生活力や健康・体力を備え、豊かな表現力を発揮できるような教育方法・教材開発を行います。</p> <p>&lt;応用科目&gt;</p> <p>応用科目では、全教員と全学生が一堂に会し、（1）教員がそれぞれの研究課題を提示し、学生と討議し、（2）学生自身が、「教科開発学とは何か」、「その研究方法と課題」について問いながら自己の研究課題を追求し、その成果をまとめて発表します。</p> <p>「教科開発学セミナーⅠ（2単位）」と「教科開発学セミナーⅡ（2単位）」は、必修です。応用科目群では、必修科目の2科目4単位以上を選定して履修します。</p> <p>（1）修了の要件</p> <p>学位の授与に当たっては、標準就業年限の3年以上（特に優れた研究業績をあげた者にあっては1年短縮可）在籍し、20単位以上（基礎科目は6単位以上、分野科目は10単位以上（「教育環境学」の分野科目のうちから2単位及び教育環境学分野以外の3分野の選択科目のうちから2単位の計4単位は必修）、応用科目は4単位以上）の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を中心として、関連分野についての口述試験または筆記試験に合格することが必要です。</p> <p>（2）学位論文</p> <p>学位論文は、本共同専攻の目標とするとともに、教員としての「教科開発学」を主領域として「教育環境学」及び「教科学」にかかわる実証的な内容とするものとなります。</p> <p>学位論文を提出するに当たっては、審査申請時に次の研究業績が求められます。</p> |           |

|                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①審査申請時まで、学位論文に関連する学位論文（レフリー付きのものに限る）を2本以上有すること（掲載可とされた論文を含む）<br>②上記の著作物が共著である場合は、原則としてファーストオースーであること（実質的な主たる研究者である場合を含む）。 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

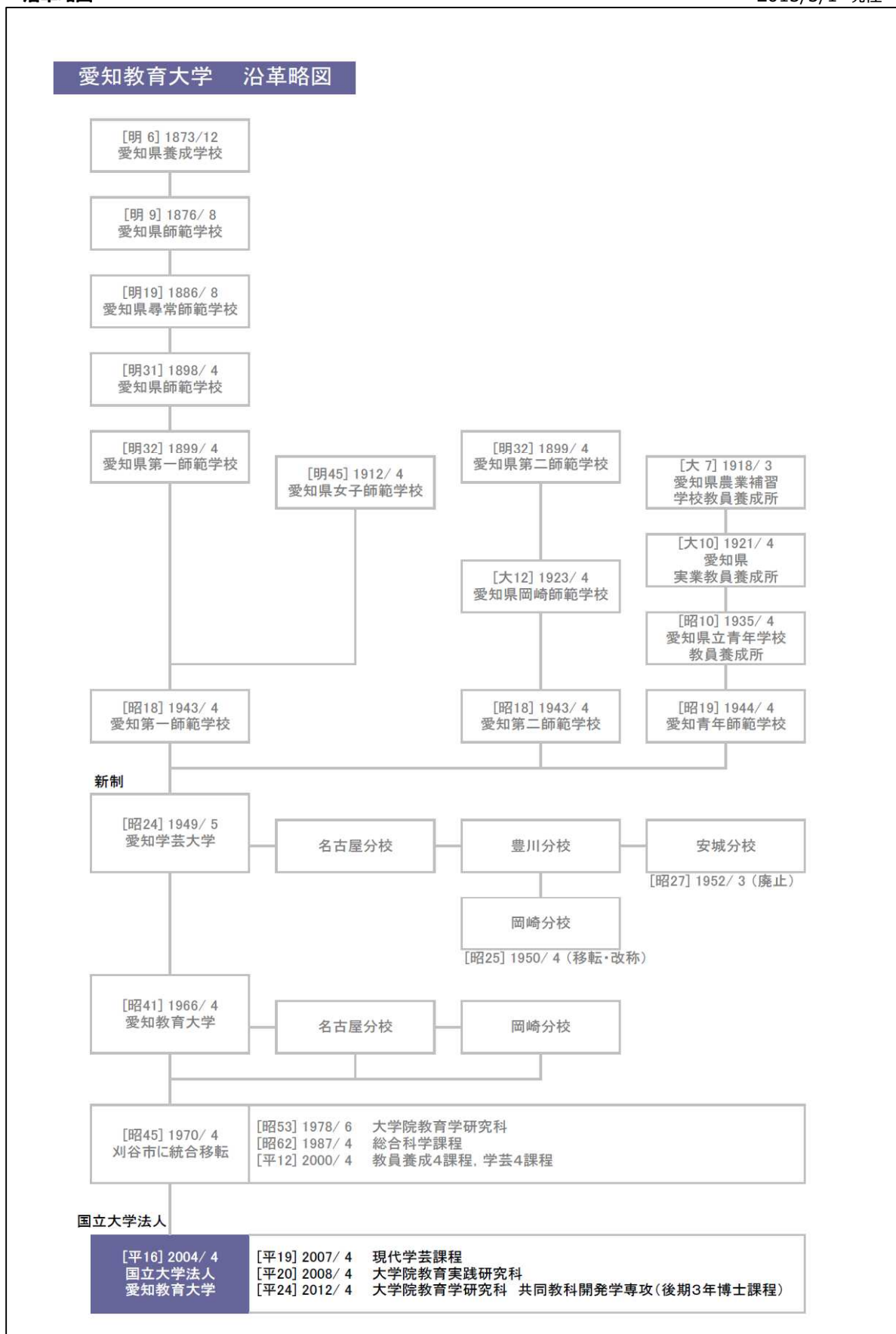
| アドミッションポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | カリキュラムポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ディプロマポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学院教育実践研究科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>本学教職大学院の教育上の目標は、学部直進者、社会人、現職教員すべてに対して教師の各ライフ・ステージで求められる「確かな学力」を身につけさせることのできる高い授業力、「豊かな人間性」を育成できるしっかりとした生徒指導・学級経営力を備え、学校において中核となって学校全体の活性化を図っていくことができるリーダーシップを修得した教師を学校現場に送り出すことにある。</p> <p>この目標を理解し、積極的に取り組むことができる資質能力があるか否かを入学者選抜において問う。具体的には次のような学生を入学させ、教育していきたいと考える。</p> <p>① 教職への熱意</p> <p>教育者としての使命感と責任感を持ち、教育という営みと人間の発達・成長について深く理解し、その上で教師という職業に強い熱意をもっていなければ、多くの課題を抱える教育現場において、その職責を果たすことができない。</p> <p>② 高い人権意識を持っていること</p> <p>ひとりひとりの子どもを理解し、その個性を大切に伸ばし、また、互いに生かし合い、尊重する集団を創るためには、欠くべからざる資質である。</p> <p>③ バランスが取れた反省的思考とポジティブ思考ができること</p> <p>教職は自律した専門職である。そのため、自らの行為に対して反省的に思考し、自らの次なる課題を見いだすことができなければ成長できない。しかしそれと同時に、常に前向きにものごとに取り組む姿勢がなければ日々子どもと向き合うことができない。</p> <p>④ (新人) 教職・教科・学級経営についての確かな基礎的知識</p> <p>教職大学院における学修は、専門職性を高めるため高いレベルの密度の濃い学修がもたらされる。そうした学修を行うためには十分なレディネスが必要である。</p> <p>(現職教員) 豊富な実践経験</p> <p>より高い実践力を修得するためには、学校現場で実際に何が求められているのかを経験から考える必要がある。そのためには、自らの経験を相対化して分析し、そこから一般化しなければならない。</p> | <p>教職実践専攻（教職大学院）では、学部直進者や社会人等を対象とする「教職実践基礎領域」と現職教員を対象とする「教職実践応用領域」の2つの履修上の区分を設け、それぞれに応じた教育課程を「理論と実践の融合」を図る基本的理念の下、共通科目、専門科目、実習科目の3つの科目区分により、体系的に編成しています。</p> <p>① 共通科目</p> <p>5領域にわたる10科目を設定し、すべてを教職実践応用領域と教職実践基礎領域のそれぞれの学生が協働して学びます。科目の内容の設定としては、「教師の基本」をテーマに、教職実践応用領域にあつては、これまで自らの実践を省察する機会とともに、教職実践基礎領域にあつては、基本を固めることを目的としています。</p> <p>② 専門科目</p> <p>教職実践応用領域は、自らの課題や所属する学校の課題に即して「授業づくり」「学級づくり」「学校づくり」の3つの履修モデルに分かれ、専門的・実践的・具体的な解決方法の企画・立案や、それらを校内で指導するために必要な理論化の力量を形成できるようにします。教職実践基礎領域は、共通科目の学習を継続・発展させ、教科指導と学級経営の両面から、技能化・理論化の双方向に往還できる力量を形成できるようにします。</p> <p>③ 実習科目</p> <p>教職実践応用領域は、「他校種実習」、「課題実践実習」、「メンター実習」を通して、自らの課題の解決へ取り組み、理論と実践の融合を図るとともに、小・中・高の連続性のあり方や同僚を支援する実践的な指導方法等を学びます。教職実践基礎領域は、「教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を通して、共通科目、専門科目で学んだ専門的理論や技術を実際の学級経営や教科指導で実践し、教師として取り組むべき課題を見つけます。</p> <p>以上の履修の成果は、「課題実践報告書（教職実践応用領域）」、「実習ポートフォリオ報告書（教職実践基礎領域）」を作成して提出します。</p> | <p>教職実践専攻（教職大学院）では、学校教育に関わる理論と実践の融合を基本とし、理論の応用並びに実践の理論化に関わる諸能力の修得によって実践的指導力を備えた教員を養成するとともに、一定の教職経験を有する現職教員に対しては、確かな指導理論と実践力・応用力を備え、指導的役割を果たし得る教員を養成することを教育目的としています。</p> <p>① 授業実践力 授業を「デザイン」する力、学習状況を適切に評価し、授業を進める力、授業と児童・生徒の学びを「振り返り」、改善する力等</p> <p>② 学級経営力 児童・生徒との良好な人間関係を構築する力、児童・生徒の思いや願いを理解し、適切に指導する力、学級経営・生徒指導・進路指導の課題を発見し、解決する力等</p> <p>③ 学校運営力 校務において何が必要かを考え、企画・立案する力、組織の一員として校務に参画、協力、運営する力、校務の問題点を的確に把握し、提案・改善する力等</p> |

| アドミッションポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | カリキュラムポリシー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特別支援教育特別専攻科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>1. 基本理念・目標</p> <p>特別支援教育の現場では、子どもたちの障害の多様化、重度化、重複化が進んでいます。特別支援教育特別専攻科では、子どもたちの能力や個性に応じた高度の教育的支援が実践できる教員の養成をめざします。</p> <p>本専攻科では、特別支援教育の充実に資するために、主に教員免許等を取得済の学生や現職教員を対象に、知的障害、肢体不自由、病弱に関する充実した専門教育を行い、実践的な指導力のある教員を養成します。</p> <p>2. 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育教員をめざすために必要な基礎学力があり、十分な教育実践力を身につけようとする意欲にあふれる人</li> <li>特別支援教育の教職に就くことを強く希望し、その意志を持ち続けることのできる人</li> <li>障がいのある子どもたちの成長にかかわることにやりがいと使命感を感じることができる人</li> <li>礼節を重んじ、コミュニケーションスキルに長けている人</li> <li>これまでの生活体験をとおして、学校や教育への親しみや関心を強く抱いている人</li> </ul> | <p>本専攻科では、多様な障害のある児童・生徒に、障害の状態に応じて適切に対応できる教員を養成するため、幅広い知識と実践力を修得することが求められています。</p> <p>1年間のカリキュラムにおいては、知的障害教育、肢体不自由教育、病弱教育を中心に、教育課程、指導法、心理・生理学など障害種別に多岐に渡って学修します。後期には、特別支援学校での教育実習に臨み、実践的な指導力を身につけます。</p> <p>特別支援教育を担う人材の育成という観点から、学生指導においても体験的・実践的な活動が重視されています。肢体不自由児や知的障害児への臨床動作法を用いた支援や、発達障害児のプレイセラピーやグループ療育などは、学生達の教育実践力を向上させる指導機会となっています。</p> <p>また上記に加えて、本専攻科では、愛知県内の現職教員が1年間の内地留学という形で在籍し、特別支援教育に関する専門性向上の場として指導が行われています。</p> |

## 2 沿革

## 沿革略図

2015/5/1 現在



## 第2章 管理運営体制

## 1 運営組織

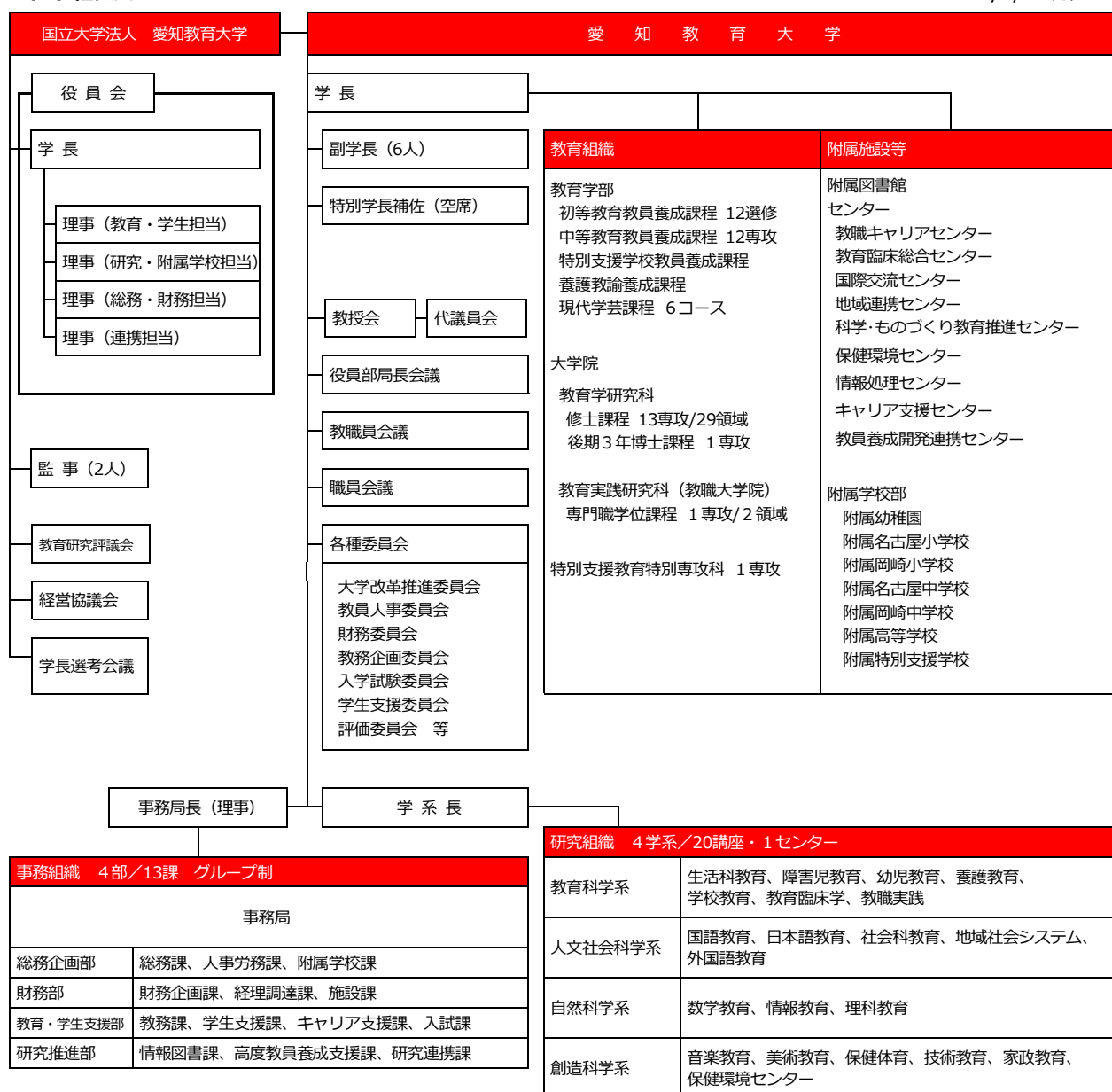
## (1) 役員名簿

2015/5/1 現在

|                         |        |
|-------------------------|--------|
| 学長                      | 後藤 ひとみ |
| 理事（教育・学生担当）・副学長（兼）      | 中田 敏夫  |
| 理事（研究・附属学校担当）・副学長（兼）    | 菅沼 教生  |
| 理事（総務・財務担当）・副学長・事務局長（兼） | 白石 薫二  |
| 理事（連携担当）                | 白井 正康  |
| 監事（非常勤）                 | 村上 文男  |
| 監事（非常勤）                 | 澤崎 忠昭  |

## (2) 組織図

2015/5/1 現在



## 2 各種会議開催状況

### ① 役員会（開催回数27回）

| 審 議 事 項（国立大学法人法第11条第2項）             | 審 議  | 報 告  |
|-------------------------------------|------|------|
| ①中期目標についての意見に関する事項                  | 4 件  | 0 件  |
| ②年度計画に関する事項                         | 4 件  | 1 件  |
| ③法人法により文部科学大臣の認可又は承認を受けなければならない事項   | 2 件  | 0 件  |
| ④予算の作成及び執行に関する事項                    | 18 件 | 16 件 |
| ⑤決算に関する事項                           | 1 件  | 2 件  |
| ⑥当該国立大学、学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項 | 1 件  | 0 件  |
| ⑦その他役員会が定める重要事項                     | 90 件 | 40 件 |

### ② 学長選考会議

国立大学法人法第12条第2項の規定に基づき、学長選考会議規程を定め、学長選考会議を運営しています。

2015年度は、国立大学法人法の改正に伴い本学の関係規程等も見直す必要が生じ、改正に向けた検討をするために前年度に引き続き4回開催しました。

### ③ 経営協議会（開催回数6回）

| 審 議 事 項（国立大学法人法第20条第4項）                                          | 審 議  | 報 告  |
|------------------------------------------------------------------|------|------|
| ①中期目標についての意見に関する事項のうち、国立大学法人の経営に関するもの                            | 2 件  | 0 件  |
| ②中期計画に関する事項のうち、国立大学法人の経営に関するもの                                   | 3 件  | 0 件  |
| ③年度計画に関する事項のうち、国立大学法人の経営に関するもの                                   | 2 件  | 2 件  |
| ④経営に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項<br>（学則、会計規程、役員報酬規程、職員の給与及び退職手当の支給基準など）  | 11 件 | 4 件  |
| ⑤翌年度予算                                                           | 2 件  | 3 件  |
| ⑥前年度決算                                                           | 1 件  | 3 件  |
| ⑦組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項<br>（自己点検・評価のうち、組織及び運営の状況に関する事項など） | 2 件  | 2 件  |
| ⑧その他国立大学法人の経営に関する重要事項                                            | 5 件  | 13 件 |

### ④ 教育研究評議会（開催回数11回）

| 審 議 事 項（国立大学法人法第21条第3項）                               | 審 議  | 報 告  |
|-------------------------------------------------------|------|------|
| ①中期目標についての意見に関する事項（国立大学法人の経営に関する部分を除く）                | 2 件  | 2 件  |
| ②中期計画及び年度計画に関する事項（国立大学法人の経営に関する部分を除く）                 | 4 件  | 5 件  |
| ③学則（国立大学法人の経営に関する部分を除く。）その他の教育研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項 | 41 件 | 14 件 |
| ④教員人事に関する事項                                           | 27 件 | 16 件 |
| ⑤教育課程の編成に関する方針に係る事項                                   | 0 件  | 1 件  |
| ⑥学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項                | 2 件  | 29 件 |
| ⑦学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に関する事項     | 14 件 | 5 件  |
| ⑧教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項                        | 3 件  | 3 件  |
| ⑨その他国立大学の教育研究に関する重要事項                                 | 9 件  | 42 件 |

### ⑤ 教授会（開催回数6回）

| 審 議 事 項（教授会規程第3条、教授会細則第1条）            | 審 議 | 報 告  |
|---------------------------------------|-----|------|
| ①学生の入学、卒業及び課程の修了（規程第3条第1項）            | 0 件 | 0 件  |
| ②学位の授与（規程第3条第2項）                      | 0 件 | 0 件  |
| ③教育課程の改編に関する事項（細則第1条第1号）              | 3 件 | 5 件  |
| ④教育研究に係る組織整備及び予算に関する事項（細則第1条第2号）      | 5 件 | 7 件  |
| ⑤教員の採用、昇進に係る教育研究業績に関する事項（細則第1条第3号）    | 5 件 | 0 件  |
| ⑥役員会、教育研究評議会、経営協議会から付託された事項（細則第1条第4号） | 0 件 | 0 件  |
| ⑦その他の事項                               | 0 件 | 46 件 |

### ⑥ 代議員会（開催回数15回）

| 審 議 事 項（代議員会規程第4条）               | 審 議  | 報 告 |
|----------------------------------|------|-----|
| ①学生の入学に関する事項                     | 20 件 | 0 件 |
| ②学生の卒業又は課程の修了に関する事項及び学位の授与に関する事項 | 2 件  | 0 件 |
| ③学生の退学、留学、休学、除籍その他学生の在籍に関する事項    | 12 件 | 3 件 |
| ④学生の懲戒に関する事項                     | 3 件  | 0 件 |
| ⑤その他教授会の議に基づき、教授会から委任された事項       | 0 件  | 3 件 |

### 3 教育組織

教育組織図

2015/5/1 現在

#### 愛知教育大学

##### 教育学部

- 初等教育教員養成課程
  - └ 幼児教育選修
  - └ 教育科学選修
  - └ 情報選修
  - └ 国語選修
  - └ 社会選修
  - └ 数学選修
  - └ 理科選修
  - └ 音楽選修
  - └ 美術選修
  - └ 保健体育選修
  - └ 家庭選修
  - └ 英語選修
- 中等教育教員養成課程
  - └ 教育科学専攻
  - └ 情報専攻
  - └ 国語・書道専攻
  - └ 社会専攻
  - └ 数学専攻
  - └ 理科専攻
  - └ 音楽専攻
  - └ 美術専攻
  - └ 保健体育専攻
  - └ 技術専攻
  - └ 家庭専攻
  - └ 英語専攻
- 特別支援学校教員養成課程
- 養護教諭養成課程
- 現代学芸課程
  - └ 国際文化コース
  - └ 日本語教育コース
  - └ 臨床福祉心理コース
  - └ 造形文化コース
  - └ 情報科学コース
  - └ 自然科学コース
    - └ 宇宙・物質科学専攻
    - └ 分子機能・生命科学専攻

##### 大学院教育学研究科（修士課程）

- 発達教育科学専攻
  - └ 教育学領域
  - └ 教育心理学領域
  - └ 幼児教育領域
  - └ 生活科教育領域
  - └ 日本語教育領域
  - └ 情報教育領域
- 特別支援教育科学専攻
  - └ 特別支援教育科学領域
- 養護教育専攻
  - └ 養護教育学領域
- 学校教育臨床専攻
  - └ 学校教育臨床領域
- 国語教育専攻
  - └ 国語科教育学領域
  - └ 国語科内容学領域
- 英語教育専攻
  - └ 英語科教育学領域
  - └ 英語科内容学領域
- 社会科教育専攻
  - └ 社会科教育学領域
  - └ 社会科内容学領域
- 数学教育専攻
  - └ 数学科教育学領域
  - └ 数学科内容学領域
- 理科教育専攻
  - └ 理科教育学領域
  - └ 理科内容学領域
- 芸術教育専攻
  - └ 音楽分野
    - └ 音楽科教育学領域
    - └ 音楽科内容学領域
  - └ 美術分野
    - └ 美術科教育学領域
    - └ 美術科内容学領域
- 保健体育専攻
  - └ 保健体育科教育学領域
  - └ 保健体育科内容学領域
- 家政教育専攻
  - └ 家庭科教育学領域
  - └ 家庭科内容学領域
- 技術教育専攻
  - └ 技術科教育学領域
  - └ 技術科内容学領域

##### 大学院教育学研究科（後期3年博士課程）

- └ 共同教科開発学専攻

##### 大学院教育実践研究科（専門職学位課程） （教職大学院）

- └ 教職実践専攻
  - └ 教職実践基礎領域
  - └ 教職実践応用領域

##### 特別支援教育特別専攻科

- └ 特別支援教育専攻

##### 附属図書館

##### センター

- 教職キャリアセンター
  - └ キャリア開発領域
    - └ F D 部門
    - └ 教科教育学研究部門
    - └ 愛知教育大学史資料部門
  - └ キャリア育成領域
    - └ 教育実習研究部門
    - └ 体験学習支援部門
  - └ キャリア高度化領域
    - └ 教員研修部門
- 教育臨床総合センター
  - └ こころの支援研究部門
  - └ そだちの支援研究部門

##### 国際交流センター

- └ 留学生支援・協定校交流支援部門
- └ 国際協力部門

##### 地域連携センター

- └ 学校教育支援部門
- └ 外国人児童生徒支援部門
- └ 企業連携・地域活性化部門

##### 科学・ものづくり教育推進センター

##### 保健環境センター

##### 情報処理センター

##### キャリア支援センター

##### 教員養成開発連携センター

##### 附属学校部

- └ 附属幼稚園
- └ 附属名古屋小学校
- └ 附属岡崎小学校
- └ 附属名古屋中学校
- └ 附属岡崎中学校
- └ 附属高等学校
- └ 附属特別支援学校

## 4 研究組織（教員組織）

研究組織（教員組織）

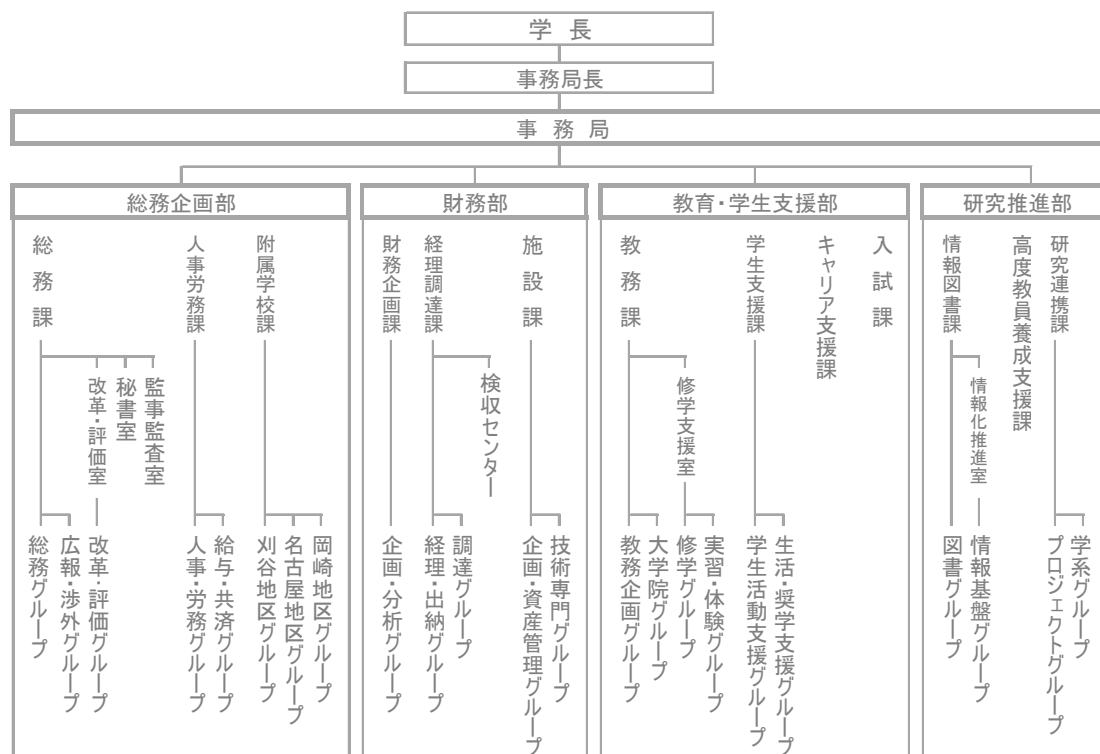
2015/5/1 現在

| 教育科学系      | 教育研究分野                                                                                                                                |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生活科教育講座    | 生活科教育                                                                                                                                 |
| 障害児教育講座    | 障害児教育学、障害児心理学、障害児病理、障害児保健、肢体不自由児教育、聴覚言語障害児教育、精神医学、発達・臨床心理学、社会福祉学、生涯教育、障害児治療教育学、障害児臨床心理学、障害児臨床教育学                                      |
| 幼児教育講座     | 幼児教育、幼児心理、保育内容の研究                                                                                                                     |
| 養護教育講座     | 養護学、衛生学、公衆衛生学、学校保健学、栄養学、解剖生理学、微生物学、免疫学、精神保健学、看護学                                                                                      |
| 学校教育講座     | 教育方法学、教育課程、教育実践学、集団教育学、道德教育、生活指導学、教育哲学、教育史、教育社会学、教育制度学、教育経営学、学校図書館学、社会教育学、職業指導、進路指導、キャリアガイダンス、教育心理学、学習心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学、人間関係、生涯教育 |
| 教育臨床学講座    | 教育臨床実践学、学校社会臨床学、学校心理学、臨床心理学、教育心理学                                                                                                     |
| 教職実践講座     | 教職実践学                                                                                                                                 |
| 人文社会科学系    | 教育研究分野                                                                                                                                |
| 国語教育講座     | 国語学、国文学、漢文学、書道、国語科教育、中国文学、中国哲学、東洋学、国際理解教育                                                                                             |
| 日本語教育講座    | 言語学、日本語学、日本語教育学、日本文化、国際理解教育                                                                                                           |
| 社会科教育講座    | 歴史学、哲学、倫理学、宗教学、思想学、比較文化、社会科教育、環境教育、国際理解教育                                                                                             |
| 地域社会システム講座 | 地理学、地誌、法律学、政治学、社会学、経済学、社会科学、民俗学、環境教育、国際理解教育                                                                                           |
| 外国語教育講座    | 英語学、英米文学、英語コミュニケーション、比較文化、言語学、社会学、ドイツ文学、フランス文学、英語科教育、国際理解教育                                                                           |
| 自然科学系      | 教育研究分野                                                                                                                                |
| 数学教育講座     | 代数学、幾何学、解析学、位相数学、応用数学、確率論、統計学、コンピュータ、情報数学、数学科教育、情報教育                                                                                  |
| 情報教育講座     | 情報教育、情報工学、情報科学、情報社会学、認知科学、情報数学                                                                                                        |
| 理科教育講座     | 基礎物理学、応用物理学、無機物理化学、有機化学、分類形態学、生理生態学、天文・地球物理学、地質鉱物学、理科教育、環境教育、地球環境論                                                                    |
| 創造科学系      | 教育研究分野                                                                                                                                |
| 音楽教育講座     | 声楽、器楽、作曲・指揮法、音楽理論、音楽史、音楽科教育                                                                                                           |
| 美術教育講座     | 美術科教育、絵画、彫刻、デザイン、美術理論・美術史、総合造形                                                                                                        |
| 保健体育講座     | 体育実技、体育学、運動学、衛生学・公衆衛生学、学校保健学、保健体育科教育                                                                                                  |
| 技術教育講座     | 木材加工、金属加工、機械、電気、工学、栽培、情報基礎、工業科教育、技術科教育                                                                                                |
| 家政教育講座     | 生活経営、被服学、食物学、住居学、保育学、生活環境情報、家庭科教育、生涯教育                                                                                                |
| 保健環境センター   | 精神医学、労働衛生学                                                                                                                            |

## 5 事務組織

事務組織図

2015/5/1 現在



## 第3章 大学教員、教育支援者の構成

## 1 大学教員

## (1) 専任教員

## ① 教育学部専任教員

2015/5/1 現在 (単位: 人)

| 課 程          | 大学設置<br>基準上の<br>必要教員数 | 専任教員数    |     |     |    |    |     | 入学<br>定員 | 教員1人<br>当たり<br>学生数 |
|--------------|-----------------------|----------|-----|-----|----|----|-----|----------|--------------------|
|              |                       | 特別<br>教授 | 教授  | 准教授 | 講師 | 助教 | 計   |          |                    |
| 初等教育教員養成課程   | 33                    | 1        | 18  | 13  | 8  | 4  | 44  | 392      | 8.9                |
| 中等教育教員養成課程   | 45                    | 4        | 60  | 30  | 15 | 3  | 112 | 186      | 1.7                |
| 特別支援学校教員養成課程 | 5                     | 0        | 3   | 2   | 1  | 1  | 7   | 25       | 3.6                |
| 養護教諭養成課程     | 3                     | 0        | 3   | 4   | 0  | 0  | 7   | 40       | 5.7                |
| 現代学芸課程       | 25                    | 3        | 19  | 25  | 9  | 2  | 58  | 232      | 4.0                |
| 全収容定員に応じた教員数 | 33                    | —        | —   | —   | —  | —  | —   | —        | —                  |
| 合 計          | 144                   | 8        | 103 | 74  | 33 | 10 | 228 | 875      | 3.8                |

※ 特別支援教育特別専攻科担当教員を含む。

## ② 大学院教育学研究科専任教員 (大学院設置基準)

2015/5/1 現在 (単位: 人)

| 専 攻        | 大学院設置基準上の必要教員数 |              |     | 専任教員配置状況   |              |     | 入学<br>定員 | 研究指導教員<br>1人当たり<br>学生数 |
|------------|----------------|--------------|-----|------------|--------------|-----|----------|------------------------|
|            | 研究指導<br>教員     | 研究指導<br>補助教員 | 基準計 | 研究指導<br>教員 | 研究指導<br>補助教員 | 計   |          |                        |
| 発達教育科学専攻   | 6              | 4            | 10  | 17         | 22           | 39  | 20       | 1.2                    |
| 特別支援教育科学専攻 | 3              | 2            | 5   | 6          | 4            | 10  | 5        | 0.8                    |
| 養護教育専攻     | (設置審査申請時の人数)   |              | 9   | 3          | 4            | 7   | 3        | 1.0                    |
| 学校教育臨床専攻   | (設置審査申請時の人数)   |              | 7   | 2          | 2            | 4   | 8        | 4.0                    |
| 国語教育専攻     | 4              | 3            | 7   | 8          | 2            | 10  | 5        | 0.6                    |
| 英語教育専攻     | 3              | 2            | 5   | 7          | 4            | 11  | 4        | 0.6                    |
| 社会科教育専攻    | 6              | 6            | 12  | 13         | 11           | 24  | 9        | 0.7                    |
| 数学教育専攻     | 4              | 3            | 7   | 7          | 7            | 14  | 7        | 1.0                    |
| 理科教育専攻     | 6              | 6            | 12  | 15         | 13           | 28  | 13       | 0.9                    |
| 芸術教育専攻     | 8              | 6            | 14  | 13         | 6            | 19  | 14       | 1.1                    |
| 保健体育専攻     | 4              | 3            | 7   | 10         | 6            | 16  | 6        | 0.6                    |
| 家政教育専攻     | 4              | 3            | 7   | 5          | 3            | 8   | 3        | 0.6                    |
| 技術教育専攻     | 3              | 2            | 5   | 3          | 3            | 6   | 3        | 1.0                    |
| 修士課程 小 計   | 51             | 40           | 107 | 109        | 87           | 196 | 100      | 0.9                    |
| 共同教科開発学専攻  | 3              | 3            | 6   | 10         | 3            | 13  | 4        | 0.4                    |
| 博士課程 小 計   | 3              | 3            | 6   | 10         | 3            | 13  | 4        | 0.4                    |
| 合 計        | 54             | 43           | 113 | 119        | 90           | 209 | 104      | 0.9                    |

## ③ 大学院教育実践研究科 (教職大学院) 専任教員 (専門職大学院設置基準)

2015/5/1 現在 (単位: 人)

| 専 攻    | 専門職大学院設置基準上の<br>必要教員数                 |    | 専任教員数    |    |     |           |    | うち<br>実務家 | 入学<br>定員 | 教員1人<br>当たり<br>学生数 |
|--------|---------------------------------------|----|----------|----|-----|-----------|----|-----------|----------|--------------------|
|        |                                       |    | 特別<br>教授 | 教授 | 准教授 | みなし<br>専任 | 計  |           |          |                    |
| 教職実践専攻 | 教 授 6人以上<br>実務家 5人以上<br>(うちみなし専任3人以内) | 11 | 1        | 5  | 4   | 5         | 15 | 9         | 50       | 3.3                |
|        | うち他学部等専任算入教員3人以内                      |    | 0        | 1  | 0   | 0         | 1  | 0         | —        | —                  |

## (2) 本務教員

## ① 教育組織別本務教員

2015/5/1 現在 (単位: 人)

|              | 合計  |    |     | 特別教授 |   |   | 教授  |    |     | 准教授 |    |    | 講師 |   |    | 助教 |   |    | 特別助手 |   |   |
|--------------|-----|----|-----|------|---|---|-----|----|-----|-----|----|----|----|---|----|----|---|----|------|---|---|
|              | 男   | 女  | 計   | 男    | 女 | 計 | 男   | 女  | 計   | 男   | 女  | 計  | 男  | 女 | 計  | 男  | 女 | 計  | 男    | 女 | 計 |
| 教育組織         | 205 | 45 | 250 | 8    | 1 | 9 | 101 | 12 | 113 | 60  | 21 | 81 | 28 | 8 | 36 | 7  | 3 | 10 | 1    |   | 1 |
| 教育学部         | 190 | 42 | 232 | 7    | 1 | 8 | 95  | 11 | 106 | 54  | 20 | 74 | 26 | 7 | 33 | 7  | 3 | 10 | 1    |   | 1 |
| 大学院教育学研究科    | 4   |    | 4   |      |   |   | 1   |    | 1   | 2   |    | 2  | 1  |   | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 大学院教育実践研究科   | 10  |    | 10  | 1    |   | 1 | 4   |    | 4   | 4   |    | 4  | 1  |   | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 保健環境センター     | 1   | 2  | 3   |      |   |   | 1   | 1  | 2   |     | 1  | 1  |    |   |    |    |   |    |      |   |   |
| 教員養成開発連携センター |     | 1  | 1   |      |   |   |     |    |     |     |    |    | 1  | 1 |    |    |   |    |      |   |   |

## ② 講座等別本務教員

2015/5/1 現在(単位:人)

|              | 合計  |    |     | 特別教授 |   |   | 教授  |    |     | 准教授 |    |    | 講師 |   |    | 助教 |   |    | 特別助手 |   |   |
|--------------|-----|----|-----|------|---|---|-----|----|-----|-----|----|----|----|---|----|----|---|----|------|---|---|
|              | 男   | 女  | 計   | 男    | 女 | 計 | 男   | 女  | 計   | 男   | 女  | 計  | 男  | 女 | 計  | 男  | 女 | 計  | 男    | 女 | 計 |
| 研究組織         | 205 | 45 | 250 | 8    | 1 | 9 | 101 | 12 | 113 | 60  | 21 | 81 | 28 | 8 | 36 | 7  | 3 | 10 | 1    |   | 1 |
| 教育科学系        | 51  | 15 | 66  | 2    |   | 2 | 23  | 3  | 26  | 17  | 8  | 25 | 7  | 4 | 11 | 2  |   | 2  |      |   |   |
| 生活科教育講座      | 3   |    | 3   |      |   |   | 2   |    | 2   | 1   |    | 1  |    |   |    |    |   |    |      |   |   |
| 障害児教育講座      | 10  | 2  | 12  | 1    |   | 1 | 5   |    | 5   | 2   | 2  | 4  | 1  |   | 1  | 1  |   | 1  |      | 1 |   |
| 幼児教育講座       | 2   | 3  | 5   |      |   |   | 1   | 1  | 2   |     | 2  | 2  |    |   |    | 1  |   | 1  |      |   |   |
| 養護教育講座       | 5   | 2  | 7   |      |   |   | 2   | 1  | 3   | 3   | 1  | 4  |    |   |    |    |   |    |      |   |   |
| 学校教育講座       | 17  | 8  | 25  |      |   |   | 8   | 1  | 9   | 5   | 3  | 8  | 4  | 4 | 8  |    |   |    |      |   |   |
| 教育臨床学講座      | 4   |    | 4   |      |   |   | 1   |    | 1   | 2   |    | 2  | 1  |   | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 教職実践講座       | 10  |    | 10  | 1    |   | 1 | 4   |    | 4   | 4   |    | 4  | 1  |   | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 人文社会科学系      | 55  | 10 | 65  | 3    |   | 3 | 29  | 2  | 31  | 13  | 7  | 20 | 8  | 1 | 9  | 2  |   | 2  |      |   |   |
| 国語教育講座       | 14  | 1  | 15  | 1    |   | 1 | 8   |    | 8   | 3   | 1  | 4  | 2  |   | 2  |    |   |    |      |   |   |
| 日本語教育講座      | 3   | 3  | 6   |      |   |   | 2   | 1  | 3   | 1   | 1  | 2  |    | 1 | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 社会科教育講座      | 11  | 3  | 14  | 1    |   | 1 | 6   |    | 6   | 1   | 3  | 4  | 2  |   | 2  | 1  |   | 1  |      |   |   |
| 地域社会システム講座   | 10  | 1  | 11  |      |   |   | 6   |    | 6   | 2   | 1  | 3  | 2  |   | 2  |    |   |    |      |   |   |
| 外国語教育講座      | 17  | 2  | 19  | 1    |   | 1 | 7   | 1  | 8   | 6   | 1  | 7  | 2  |   | 2  | 1  |   | 1  |      |   |   |
| 自然科学系        | 58  | 4  | 62  | 1    |   | 1 | 25  |    | 25  | 20  | 2  | 22 | 10 |   | 10 | 2  | 2 | 4  |      |   |   |
| 数学教育講座       | 16  | 1  | 17  |      |   |   | 6   |    | 6   | 5   |    | 5  | 5  |   | 5  |    | 1 | 1  |      |   |   |
| 情報教育講座       | 11  | 2  | 13  |      |   |   | 4   |    | 4   | 6   | 2  | 8  | 1  |   | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 理科教育講座       | 31  | 1  | 32  | 1    |   | 1 | 15  |    | 15  | 9   |    | 9  | 4  |   | 4  | 2  | 1 | 3  |      |   |   |
| 創造科学系        | 41  | 15 | 56  | 2    | 1 | 3 | 24  | 7  | 31  | 10  | 4  | 14 | 3  | 2 | 5  | 1  | 1 | 2  | 1    |   | 1 |
| 音楽教育講座       | 3   | 3  | 6   |      |   |   | 2   | 1  | 3   | 1   | 1  | 2  |    | 1 | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 美術教育講座       | 14  | 1  | 15  | 1    | 1 | 2 | 8   |    | 8   | 4   |    | 4  | 1  |   | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 保健体育講座       | 14  | 2  | 16  | 1    |   | 1 | 7   | 1  | 8   | 3   |    | 3  | 2  |   | 2  | 1  | 1 | 2  |      |   |   |
| 技術教育講座       | 7   |    | 7   |      |   |   | 4   |    | 4   | 2   |    | 2  |    |   |    |    |   |    | 1    |   | 1 |
| 家政教育講座       | 2   | 7  | 9   |      |   |   | 2   | 4  | 6   |     | 2  | 2  |    | 1 | 1  |    |   |    |      |   |   |
| 保健環境センター     | 1   | 2  | 3   |      |   |   | 1   | 1  | 2   |     | 1  | 1  |    |   |    |    |   |    |      |   |   |
| 教員養成開発連携センター |     | 1  | 1   |      |   |   |     |    |     |     |    |    | 1  | 1 |    |    |   |    |      |   |   |
| 教員養成開発連携センター |     | 1  | 1   |      |   |   |     |    |     |     |    |    | 1  | 1 |    |    |   |    |      |   |   |

## (3) 取得学位等の構成

## ① 大学教員取得学位

2015/5/1 現在(単位:人)

| 取得学位(最上位) | 特別教授 | 教授      | 准教授    | 講師     | 助教 | 助手 | 合計       |
|-----------|------|---------|--------|--------|----|----|----------|
| 学 士       | 2    | 3       | 3 (2)  |        |    |    | 8 (2)    |
| 修 士       | 4    | 55 (5)  | 32 (4) | 12 (2) | 3  |    | 106 (11) |
| 博 士       | 3    | 55      | 46     | 24     | 7  |    | 135      |
| 専門職学位(修士) |      |         |        |        |    |    |          |
| 合 計       | 9    | 113 (5) | 81 (6) | 36 (2) | 10 |    | 249 (13) |

\* 1人につき最上位の学位を計上。外国の学位の場合は最も該当する学位とする。

\* ( ) は本学で取得した人数で内数。

## ② 大学教員専門分野

2015/5/1 現在 (単位: 人)

| 専門分野 *    | 合計 |   |    | 特別教授 |   | 教授 |   | 准教授 |   | 講師 |   | 助教 |   | 助手 |   |
|-----------|----|---|----|------|---|----|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|
|           | 男  | 女 | 計  | 男    | 女 | 男  | 女 | 男   | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 |
| 文学関係      | 20 | 2 | 22 | 2    |   | 11 |   | 5   | 2 | 1  |   | 1  |   |    |   |
| 史学関係      | 4  |   | 4  |      |   | 3  |   |     |   | 1  |   |    |   |    |   |
| 哲学関係      | 6  | 1 | 7  |      |   | 2  |   | 2   |   | 1  | 1 | 1  |   |    |   |
| 人文科学その他   | 9  | 3 | 12 |      |   | 3  |   | 3   | 2 | 3  | 1 |    |   |    |   |
| 法学・政治学関係  | 4  |   | 4  |      |   | 3  |   |     |   | 1  |   |    |   |    |   |
| 商学・経済学関係  | 1  |   | 1  |      |   |    |   |     |   | 1  |   |    |   |    |   |
| 社会学関係     | 3  | 3 | 6  | 1    |   |    | 1 | 2   | 2 |    |   |    |   |    |   |
| 社会科学その他   | 1  | 1 | 2  |      |   |    |   |     |   | 1  | 1 |    |   |    |   |
| 数学関係      | 13 | 1 | 14 |      |   | 4  |   | 5   |   | 4  |   |    |   | 1  |   |
| 物理学関係     | 10 |   | 10 | 1    |   | 4  |   | 2   |   | 2  |   | 1  |   |    |   |
| 化学関係      | 6  |   | 6  |      |   | 4  |   | 2   |   |    |   |    |   |    |   |
| 生物関係      | 5  | 1 | 6  |      |   | 2  |   | 2   |   | 1  |   |    |   | 1  |   |
| 地学関係      | 5  |   | 5  |      |   | 3  |   | 2   |   |    |   |    |   |    |   |
| 原子力理学関係   |    |   |    |      |   |    |   |     |   |    |   |    |   |    |   |
| 理学その他     |    | 1 | 1  |      |   |    |   |     | 1 |    |   |    |   |    |   |
| 電気通信工学関係  | 7  |   | 7  |      |   | 2  |   | 5   |   |    |   |    |   |    |   |
| 応用化学関係    | 1  |   | 1  |      |   |    |   | 1   |   |    |   |    |   |    |   |
| 工学その他     | 5  | 2 | 7  |      |   | 3  |   | 1   | 2 | 1  |   |    |   |    |   |
| 農学関係      | 1  |   | 1  |      |   | 1  |   |     |   |    |   |    |   |    |   |
| 医学        | 3  | 1 | 4  |      |   | 2  | 1 | 1   |   |    |   |    |   |    |   |
| 保健その他     | 1  | 3 | 4  |      |   | 1  | 1 |     | 2 |    |   |    |   |    |   |
| 家政学関係     |    | 1 | 1  |      |   |    |   |     | 1 |    |   |    |   |    |   |
| 食物学関係     | 2  | 1 | 3  |      |   | 2  |   |     | 1 |    |   |    |   |    |   |
| 被服学関係     |    | 1 | 1  |      |   |    | 1 |     |   |    |   |    |   |    |   |
| 住居学関係     |    |   |    |      |   |    |   |     |   |    |   |    |   |    |   |
| 家政その他     |    | 1 | 1  |      |   |    | 1 |     |   |    |   |    |   |    |   |
| 教育学関係     | 34 | 7 | 41 |      |   | 17 | 1 | 12  | 4 | 5  | 2 |    |   |    |   |
| 教員養成関係    | 31 | 9 | 40 | 2    |   | 20 | 4 | 5   | 3 | 3  | 2 | 1  |   |    |   |
| 体育学関係     | 12 | 2 | 14 | 1    |   | 6  | 1 | 3   |   | 1  |   | 1  | 1 |    |   |
| 教育その他     | 4  | 1 | 5  |      |   | 1  |   | 1   | 1 | 1  |   | 1  |   |    |   |
| 美術関係      | 8  | 1 | 9  | 1    | 1 | 4  |   | 2   |   | 1  |   |    |   |    |   |
| デザイン関係    | 2  |   | 2  |      |   | 1  |   | 1   |   |    |   |    |   |    |   |
| 音楽関係      | 4  | 2 | 6  |      |   | 2  | 1 | 1   |   |    | 1 | 1  |   |    |   |
| 人文・社会科学関係 | 2  |   | 2  |      |   |    |   | 2   |   |    |   |    |   |    |   |

\* 専門分野は、「学校教員統計調査」で使用されるコードの「中分類」で集計。

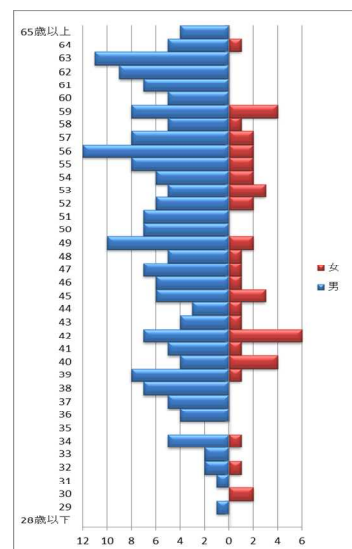
## (4) 年齢構成・男女構成

## ① 大学教員男女別年齢分布

(単位: 人)

| 年齢    | 男   | 女  | 計   | 比率    |
|-------|-----|----|-----|-------|
| 65 以上 | 4   | 0  | 4   | 1.6%  |
| 64~60 | 37  | 1  | 38  | 15.2% |
| 59~55 | 41  | 11 | 52  | 20.8% |
| 54~50 | 31  | 7  | 38  | 15.2% |
| 49~45 | 34  | 8  | 42  | 16.8% |
| 44~40 | 23  | 13 | 36  | 14.4% |
| 39~35 | 24  | 1  | 25  | 10.0% |
| 34~30 | 10  | 4  | 14  | 5.6%  |
| 29~25 | 1   | 0  | 1   | 0.4%  |
| 24 以下 | 0   | 0  | 0   | 0.0%  |
| 合計    | 205 | 45 | 250 |       |

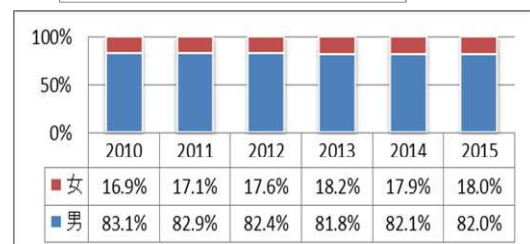
※年齢は、5月1日現在在籍者の年度末年齢で計上。



## ② 2010~2015年度大学教員男女比率の状況

2015/5/1 現在 (単位: 人)

| 年度   | 男   | 女  | 計   |
|------|-----|----|-----|
| 2010 | 212 | 43 | 255 |
| 2011 | 209 | 43 | 252 |
| 2012 | 206 | 44 | 250 |
| 2013 | 202 | 45 | 247 |
| 2014 | 202 | 44 | 246 |
| 2015 | 205 | 45 | 250 |



## (5) 新規採用・退職状況

新規採用・退職状況 (単位：人)

| 年 度  | 新規採用者数 |   |    | 退職者数 |   |    |
|------|--------|---|----|------|---|----|
|      | 男      | 女 | 計  | 男    | 女 | 計  |
| 2010 | 8      | 3 | 11 | 17   | 3 | 20 |
| 2011 | 15     | 3 | 18 | 14   | 3 | 17 |
| 2012 | 11     | 5 | 16 | 16   | 2 | 18 |
| 2013 | 11     | 4 | 15 | 15   | 3 | 18 |
| 2014 | 16     | 0 | 16 | 13   | 2 | 15 |
| 2015 | 15     | 3 | 18 | 13   | 3 | 16 |

## (6) 長期研修制度等の実施状況

長期研究・長期研修、サバティカル制度の取得状況 (単位：人)

| 年 度  | 長期研究・長期研修制度 |      |      |    | サバティカル制度 |      |      |    |
|------|-------------|------|------|----|----------|------|------|----|
|      | 大学教員        | 附属教員 | 事務職員 | 合計 | 大学教員     | 附属教員 | 事務職員 | 合計 |
| 2010 | —           | —    | —    | —  | 1        | 0    | 0    | 1  |
| 2011 | 0           | 0    | 0    | 0  | 3        | 0    | 1    | 4  |
| 2012 | 0           | 0    | 0    | 0  | 1        | 0    | 0    | 1  |
| 2013 | 0           | 0    | 0    | 0  | 1        | 0    | 0    | 1  |
| 2014 | 0           | 0    | 0    | 0  | 0        | 0    | 0    | 0  |
| 2015 | 0           | 0    | 0    | 0  | 1        | 0    | 0    | 1  |

## (7) 兼職の状況

2011～2015年度学外兼業の状況

| 兼業先又は内容等      | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
|---------------|------|------|------|------|------|
| 国立大学法人        | 41   | 43   | 43   | 47   | 56   |
| 公私立大学（短大含む）   | 107  | 114  | 101  | 114  | 115  |
| 専修学校・専門学校     | 17   | 11   | 11   | 14   | 15   |
| 審議会委員等（教育委員会） | 50   | 47   | 49   | 65   | 75   |
| 〃（地方公共団体）     | 44   | 44   | 37   | 57   | 54   |
| 〃（その他）        | 19   | 17   | 19   | 25   | 29   |
| 国の機関          | 11   | 24   | 38   | 28   | 39   |
| 講習会・研修会講師     | 7    | 4    | 10   | 3    | 5    |
| 病院・診療所等       | 7    | 5    | 7    | 8    | 8    |
| その他           | 4    | 2    | 4    | 10   | 0    |
| 計             | 317  | 311  | 318  | 371  | 396  |

## 2 兼務教員（非常勤講師）

2015年度非常勤講師のべ採用数

2015/3/31 現在 (単位：人)

|        | 男   | 女   | 計   |
|--------|-----|-----|-----|
| 教育学部   | 231 | 151 | 382 |
| 教養科目   | 11  | 3   | 14  |
| 幼児教育   | 7   | 9   | 16  |
| 教育科学   | 20  | 11  | 31  |
| 特別支援教育 | 3   | 2   | 5   |
| 養護     | 1   | 11  | 12  |
| 生活科教育  | 3   | 4   | 7   |
| 臨床福祉心理 | 7   | 5   | 12  |
| 国語     | 11  | 16  | 27  |
| 社会     | 29  | 11  | 40  |
| 英語     | 7   | 11  | 18  |
| 国際文化   | 24  | 9   | 33  |
| 日本語教育  | 3   | 5   | 8   |
| 数学     | 9   | 0   | 9   |
| 理科     | 18  | 4   | 22  |
| 情報教育   | 9   | 3   | 12  |
| 情報科学   | 4   | 0   | 4   |
| 自然科学   | 9   | 4   | 13  |
| 音楽     | 2   | 10  | 12  |
| 美術     | 13  | 1   | 14  |
| 保健体育   | 23  | 14  | 37  |
| 技術     | 6   | 1   | 7   |
| 家政     | 2   | 13  | 15  |
| 造形文化   | 10  | 4   | 14  |

|             | 男   | 女   | 計   |
|-------------|-----|-----|-----|
| 大学院教育学研究科   | 28  | 6   | 34  |
| 発達教育科学      | 9   | 2   | 11  |
| 特別支援教育科学    | 1   | 1   | 2   |
| 養護教育        | 1   | 0   | 1   |
| 学校教育臨床      | 3   | 1   | 4   |
| 国語教育        | 4   | 0   | 4   |
| 英語教育        | 0   | 0   | 0   |
| 社会科教育       | 1   | 0   | 1   |
| 数学教育        | 1   | 0   | 1   |
| 理科教育        | 4   | 0   | 4   |
| 芸術教育        | 0   | 2   | 2   |
| 保健体育        | 2   | 0   | 2   |
| 家政教育        | 0   | 0   | 0   |
| 技術教育        | 2   | 0   | 2   |
| 大学院教育実践研究科  | 4   | 0   | 4   |
| 特別支援教育特別専攻科 | 4   | 0   | 4   |
| その他         | 31  | 16  | 47  |
| 教育実習        | 25  | 7   | 32  |
| 6年一貫教員養成コース | 0   | 1   | 1   |
| 国際交流センター    | 0   | 3   | 3   |
| 免許状更新講習     | 6   | 5   | 11  |
| 合 計         | 298 | 173 | 471 |

## 3 研究員

| 年 度  | 所 属                       | 実人数(人) |   | 合 計 |
|------|---------------------------|--------|---|-----|
|      |                           | 男      | 女 |     |
| 2010 | 教育学部・教育実践研究科              | 2      | 0 | 2   |
| 2011 | "                         | 2      | 1 | 3   |
| 2012 | "                         | 1      | 4 | 5   |
| 2013 | "                         | 0      | 5 | 5   |
| 2014 | 教育学部・教育実践研究科・教員養成開発連携センター | 1      | 4 | 5   |
| 2015 | 教育学部・教育実践研究科・教員養成開発連携センター | 2      | 1 | 3   |

## 4 ティーチングアシスタント (TA)

ティーチングアシスタント (TA) 活用状況

当該年度 年間累計

| 年 度  | 所 属          | 実人数(人) |    | 合 計 | 従事時間数    |
|------|--------------|--------|----|-----|----------|
|      |              | 男      | 女  |     |          |
| 2010 | 教育学研究科(修士課程) | 11     | 8  | 19  | 707.0 h  |
| 2011 | "            | 13     | 18 | 31  | 1242.0 h |
| 2012 | "            | 11     | 14 | 25  | 1072.0 h |
| 2013 | "            | 13     | 8  | 21  | 878.0 h  |
| 2014 | "            | 10     | 10 | 20  | 776.0 h  |
| 2015 | "            | 9      | 5  | 14  | 882.0 h  |

## 5 事務職員

## (1) 現員数

事務職員・技術職員・非常勤職員の現員数

2015/5/1 現在 (単位:人)

| 部 課 名     | 事務職員(常勤職員) |     |      |           |       |     |       |     |     |     |     | 非常勤職員 |     |     |
|-----------|------------|-----|------|-----------|-------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|
|           | 事務局長       | 部長  | 課長   | 副課長<br>室長 | 係長    | 主任  | 係員    | その他 | 男   | 女   | 計   | 男     | 女   | 計   |
|           | 男 女        | 男 女 | 男 女  | 男 女       | 男 女   | 男 女 | 男 女   | 男 女 | 男 女 | 男 女 | 計   | 男 女   | 男 女 | 計   |
| 合 計       | (1)        | 4   | 11 2 | 13 1      | 43 13 | 5 3 | 21 32 | 1   | 97  | 52  | 149 | 36    | 84  | 120 |
| 事務局長      | (1)        |     |      |           |       |     |       |     | (1) |     | (1) |       |     |     |
| 総務企画部     |            | 1   | 2 1  | 3 1       | 11 5  | 2 2 | 3 9   |     | 22  | 18  | 40  | 10    | 40  | 50  |
| 部長        |            | 1   |      |           |       |     |       |     | 1   |     | 1   |       |     |     |
| 総務課       |            |     | 1    | 2 1       | 2 3   | 1   | 1 2   |     | 7   | 6   | 13  | 2     | 5   | 7   |
| 人事労務課     |            |     | 1    | 1         | 4     | 1 1 | 2 3   |     | 8   | 5   | 13  | 1     | 1   | 2   |
| 附属学校課     |            |     | 1    |           | 1     |     | 1     |     | 2   | 1   | 3   |       |     |     |
| 附属幼稚園     |            |     |      |           |       |     |       |     |     |     |     |       | 6   | 6   |
| 附属名古屋小学校  |            |     |      |           | 1     |     | 1     |     | 1   | 1   | 2   | 1     | 7   | 8   |
| 附属岡崎小学校   |            |     |      |           |       | 1   |       |     |     | 2   | 2   | 1     | 9   | 10  |
| 附属名古屋中学校  |            |     |      |           | 1     |     | 1     |     |     | 2   | 2   | 1     | 2   | 3   |
| 附属岡崎中学校   |            |     |      |           | 1     |     | 1     |     | 1   | 1   | 2   | 1     | 6   | 7   |
| 附属高等学校    |            |     |      |           | 1     |     |       |     | 1   |     | 1   | 1     | 1   | 2   |
| 附属特別支援学校  |            |     |      |           | 1     |     |       |     | 1   |     | 1   | 2     | 3   | 5   |
| 財務部       |            | 1   | 3    | 2         | 10 1  | 2   | 8 5   |     | 26  | 6   | 32  | 2     | 5   | 7   |
| 部長        |            | 1   |      |           |       |     |       |     | 1   |     | 1   |       |     |     |
| 財務企画課     |            |     | 1    | 1         | 2     |     | 3 1   |     | 7   | 1   | 8   |       | 1   | 1   |
| 経理調達課     |            |     | 1    |           | 3 1   | 1   | 3 2   |     | 8   | 3   | 11  | 1     | 3   | 4   |
| 施設課       |            |     | 1    | 1         | 4     | 1   | 2 2   |     | 9   | 2   | 11  | 1     | 1   | 2   |
| 財務部付      |            |     |      |           | 1     |     |       |     | 1   |     | 1   |       |     |     |
| 教育・学生支援部  |            | 1   | 3 1  | 4         | 12 2  |     | 7 9   | 1   | 27  | 13  | 40  | 16    | 10  | 26  |
| 部長        |            | 1   |      |           |       |     |       |     | 1   |     | 1   |       |     |     |
| 教務課       |            |     | 1    | 2         | 7     |     | 3 6   |     | 13  | 6   | 19  |       | 3   | 3   |
| 学生支援課     |            |     | 1    | 1         | 1 2   |     | 2 1   | 1   | 4   | 5   | 9   |       | 5   | 5   |
| 入試課       |            |     | 1    | 1         | 2     |     | 1 1   |     | 5   | 1   | 6   |       | 1   | 1   |
| キャリア支援課   |            |     | 1    |           | 2     |     | 1 1   |     | 4   | 1   | 5   | 16    | 1   | 17  |
| 研究推進部     |            | 1   | 3    | 4         | 10 5  | 1 1 | 3 9   |     | 22  | 15  | 37  | 8     | 29  | 37  |
| 部長        |            | 1   |      |           |       |     |       |     | 1   |     | 1   |       |     |     |
| 情報図書課     |            |     | 1    | 1         | 2 3   | 1   | 2 6   |     | 6   | 10  | 16  |       | 7   | 7   |
| 高度教員養成支援課 |            |     | 1    | 1         | 2 1   |     | 1 1   |     | 5   | 2   | 7   | 2     | 10  | 12  |
| 研究連携課     |            |     | 1    | 2         | 3     | 1   | 1     |     | 7   | 1   | 8   | 4     | 3   | 7   |
| 教育系担当係    |            |     |      |           | 1     |     |       |     |     | 1   | 1   | 1     | 2   | 3   |
| 人文社会系担当係  |            |     |      |           | 1     |     | 1     |     | 1   | 1   | 2   |       | 2   | 2   |
| 自然系担当係    |            |     |      |           | 1     |     |       |     | 1   |     | 1   | 1     | 2   | 3   |
| 創造系担当係    |            |     |      |           | 1     |     |       |     | 1   |     | 1   |       | 3   | 3   |

\* 事務職員・研究員は正規・常勤の人数で、休職者を含み代替職員は含まない。

\* 役職を兼務していても一つの主たる所属・役職のみに計上。ただし、理事が兼務している事務局長は( )で表示し合計に含まない。

\* 人事交流者(他大学等に出向中の者、他大学等から受入れている者)は、本学に籍がある場合のみ計上。

\* 非常勤職員も一つの主たる所属先のみに計上し、休職者等は含まない。

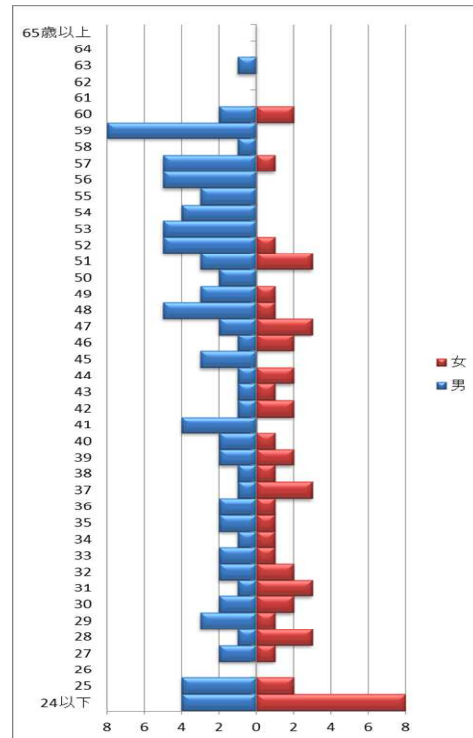
## (2) 年齢構成・男女構成

## ① 事務職員男女別年齢分布

(単位：人)

| 年度    | 男  | 女  | 計   | 比率    |
|-------|----|----|-----|-------|
| 65以上  | 0  | 0  | 0   | 0%    |
| 64～60 | 3  | 2  | 5   | 3.4%  |
| 59～55 | 22 | 1  | 23  | 15.4% |
| 54～50 | 19 | 4  | 23  | 15.4% |
| 49～45 | 14 | 7  | 21  | 14.1% |
| 44～40 | 9  | 6  | 15  | 10.1% |
| 39～35 | 8  | 8  | 16  | 10.7% |
| 34～30 | 8  | 9  | 17  | 11.4% |
| 29～25 | 10 | 7  | 17  | 11.4% |
| 24以下  | 4  | 8  | 12  | 8.1%  |
| 合計    | 97 | 52 | 149 |       |

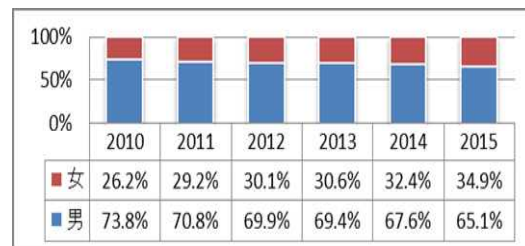
※年齢は、5月1日在籍者の年度末年齢で計上



## ② 2010～2015年度事務職員男女比率の状況

2015/5/1 現在 (単位：人)

| 年齢   | 男   | 女  | 計   |
|------|-----|----|-----|
| 2010 | 104 | 37 | 141 |
| 2011 | 97  | 40 | 137 |
| 2012 | 100 | 43 | 143 |
| 2013 | 100 | 44 | 144 |
| 2014 | 96  | 46 | 142 |
| 2015 | 97  | 52 | 149 |



## (3) 新規採用・退職状況

新規採用・退職状況

(単位：人)

| 年度   | 新規採用者数 |   |    | 退職者数 |   |    |
|------|--------|---|----|------|---|----|
|      | 男      | 女 | 計  | 男    | 女 | 計  |
| 2010 | 2      | 7 | 9  | 9    | 0 | 9  |
| 2011 | 4      | 3 | 7  | 8    | 0 | 8  |
| 2012 | 7      | 2 | 9  | 4    | 1 | 5  |
| 2013 | 5      | 3 | 8  | 10   | 1 | 11 |
| 2014 | 6      | 3 | 9  | 9    | 1 | 10 |
| 2015 | 9      | 6 | 15 | 3    | 8 | 11 |

## (4) 研修等状況

## ① 2015年度 事務系職員研修状況（本学主催分）

| 研修会名                   | 開催期間                    | 研修形式 | 受講者数 |
|------------------------|-------------------------|------|------|
| 新採用職員研修会               | 2015/4/1(水)～2015/4/2(木) | 対面式  | 17人  |
| 法人文書管理研修               | 2015/9/24(木)            | "    | 43人  |
| 法人文書管理研修               | 2015/9/28(月)            | "    | 42人  |
| 業務遂行に対しての意識改革の研修 10/19 | 2015/10/19(月)           | "    | 57人  |
| 業務遂行に対しての意識改革の研修 11/5  | 2015/11/5(木)            | "    | 66人  |
| 法人文書管理研修               | 2015/11/13(金)           | "    | 12人  |
| 個人情報保護・情報セキュリティセミナー    | 2015/11/25(水)           | "    | 58人  |
| 図解思考力向上研修              | 2015/12/14(月)           | "    | 34人  |
| 危機管理セミナー               | 2016/1/20(水)            | "    | 32人  |
| 物品購入及び工事等の契約関係研修会      | 2016/1/21(木)            | "    | 32人  |
| 企画力向上研修                | 2016/2/18(木)            | "    | 20人  |
| コンプライアンス研修             | 2016/2/19(金)            | "    | 29人  |
| アクションラーニング研修           | 2016/3/23(水)            | "    | 5人   |
| アクションラーニング研修           | 2016/3/24(木)            | "    | 6人   |

## ② 2010～2015年度研修参加実績（主催別）

（単位：人）

| 年度   | 本学  | 行政機関独立法等 | その他民間等 | 計   |
|------|-----|----------|--------|-----|
| 2010 | 67  | 55       | 24     | 146 |
| 2011 | 69  | 88       | 28     | 185 |
| 2012 | 50  | 49       | 30     | 129 |
| 2013 | 194 | 55       | 32     | 281 |
| 2014 | 106 | 51       | 78     | 235 |
| 2015 | 453 | 95       | 63     | 611 |

## 第4章 教育活動

### 1 学生の受入

#### (1) 入試日程

| 平成28年度教育学部入学者選抜試験 |        |                          |                          |               |
|-------------------|--------|--------------------------|--------------------------|---------------|
| 入試の種類             |        | 出 願                      | 試 験                      | 発 表           |
| 一般入試              | 前 期    | 2016/1/25(月) - 2/3(水)    | 2016/2/25(木) - 2/26(金)   | 2016/3/8(火)   |
|                   | 後 期    | 2016/1/25(月) - 2/3(水)    | 2016/3/12(土)             | 2016/3/23(水)  |
| 特別入試              | 推薦A    | 2015/11/2(月) - 11/9(月)   | 2015/11/28(土) - 11/29(日) | 2015/12/14(月) |
|                   | 推薦B    | 2016/1/18(月) - 1/22(金)   | 2016/1/30(土)             | 2016/2/10(水)  |
|                   | 高大連携   | 2015/11/2(月) - 11/9(月)   | 2015/11/25(水)            | 2015/12/14(月) |
|                   | 帰国子女   | 2015/10/19(月) - 10/22(木) | 2015/11/18(水)            | 2015/12/14(月) |
|                   | 外国人留学生 | 2016/1/18(月) - 1/22(金)   | 2016/2/26(金)             | 2016/3/8(火)   |
|                   | 編入学    | 実施せず                     |                          |               |

| 平成28年度大学院教育学研究科（修士課程）入学者選抜試験 |     |                         |                        |               |
|------------------------------|-----|-------------------------|------------------------|---------------|
| 入試の種類                        |     | 出 願                     | 試 験                    | 発 表           |
| 一般選抜・特例措置選抜                  | 第1次 | 2015/8/17(月) - 8/24(月)  | 2015/9/26(土) - 9/27(日) | 2015/10/16(金) |
|                              | 第2次 | 2015/12/1(火) - 12/10(木) | 2016/2/6(土) - 2/7(日)   | 2016/2/19(金)  |
| 外国人特別選抜                      | 第1次 | 2015/8/17(月) - 8/24(月)  | 2015/9/27(日)           | 2015/10/16(金) |
|                              | 第2次 | 2015/12/1(火) - 12/10(木) | 2016/2/7(日)            | 2016/2/19(金)  |

| 平成28年度大学院教育学研究科（後期3年博士課程）入学者選抜試験 |                        |              |               |
|----------------------------------|------------------------|--------------|---------------|
| 入試の種類                            | 出 願                    | 試 験          | 発 表           |
| 一般選抜                             | 2015/9/28(月) - 10/6(火) | 2015/11/7(土) | 2015/11/11(水) |

| 平成28年度教育実践研究科（教職大学院）入学者選抜試験 |     |                          |                        |               |
|-----------------------------|-----|--------------------------|------------------------|---------------|
| 入試の種類                       |     | 出 願                      | 試 験                    | 発 表           |
| 推薦選抜<br>一般選抜<br>社会人特例措置選抜   | 前 期 | 2015/8/17(月) - 8/24(月)   | 2015/9/19(土) - 9/20(日) | 2015/10/16(金) |
|                             | 後 期 | 2015/10/26(月) - 10/30(金) | 2015/11/22(日)          | 2015/12/14(月) |
|                             | 第2次 | 2016/1/18(月) - 1/25(月)   | 2016/2/6(土)            | 2016/2/19(金)  |

\*前期試験日／（基礎領域）学部直進者推薦選抜、社会人特例措置選抜は、9/19(土)、（応用領域）現職教員は、9/20(日)に実施。

| 平成28年度特別支援教育特別専攻科入学者選抜試験 |     |                         |               |               |
|--------------------------|-----|-------------------------|---------------|---------------|
| 入試の種類                    |     | 出 願                     | 試 験           | 発 表           |
| 一般選抜                     | 第1次 | 2015/10/28(水) - 11/4(水) | 2015/11/19(木) | 2015/12/14(月) |

#### (2) 広報活動の取組

| 進学相談支援プロジェクト |                                                                                                                                                                                       |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 制度概要         | 高校生が「将来、教員になりたい」、「専門基礎を学びたい」という気持ちを高めるために、本学の教職員（役員部局長会議構成員及び学生支援部職員）が直接高校に訪問し、本学の教員養成や教員の魅力及び現代学芸課程の教育内容を伝え、語ることで本校の教育内容をより深く理解し、関心を高めるきっかけづくりを行うもの。2013年度から実施。（「高校訪問プロジェクト」に代わるもの。） |
| 2015年度実績     | 県内46校に進学相談会を打診。うち、5校で実施。                                                                                                                                                              |
| 進学相談会等       |                                                                                                                                                                                       |
| 概 要          | 各高等学校及び受験産業が主催                                                                                                                                                                        |
| 2015年度実績     | 年間54件、1682人の高校生等に「大学案内」「入学者選抜要項」等を用いて大学の概要、入試方法、就職状況などについて広報を行ったほか、各募集要項、入学者選抜要項を愛知県内及び近隣他県の高等学校等に一斉送付した。                                                                             |

## (3) 入学者選抜の実施状況

平成28年度教育学部入学者選抜実施状況 &lt;2015年度実施&gt;

(単位:人)

|              | 入学<br>定員 | 志願者      | 倍率   | 合格者     | 入学者 | 男   | 女   | 充足率     |
|--------------|----------|----------|------|---------|-----|-----|-----|---------|
| 教育学部         | 875      | 3237 (7) | 3.70 | 993 (1) | 947 | 411 | 536 | 108.2 % |
| 教員養成課程       | 643      | 2124 (2) | 3.30 | 725     | 707 | 316 | 391 | 110.0 % |
| 初等教育教員養成課程   | 392      | 1169 (2) | 2.98 | 433     | 426 | 186 | 240 | 108.7 % |
| 幼児教育選修       | 18       | 75       | 4.17 | 20      | 20  |     | 20  | 111.1 % |
| 教育科学選修       | 22       | 89       | 4.05 | 25      | 25  | 7   | 18  | 113.6 % |
| 情報選修         | 10       | 22       | 2.20 | 10      | 10  | 7   | 3   | 100.0 % |
| 国語選修         | 53       | 163      | 3.08 | 58      | 58  | 19  | 39  | 109.4 % |
| 社会選修         | 60       | 179      | 2.98 | 67      | 64  | 42  | 22  | 106.7 % |
| 数学選修         | 51       | 181      | 3.55 | 56      | 55  | 43  | 12  | 107.8 % |
| 理科選修         | 57       | 89       | 1.56 | 61      | 61  | 38  | 23  | 107.0 % |
| 音楽選修         | 25       | 70       | 2.80 | 26      | 26  | 3   | 23  | 104.0 % |
| 美術選修         | 25       | 70       | 2.80 | 27      | 27  | 4   | 23  | 108.0 % |
| 保健体育選修       | 36       | 148 (1)  | 4.11 | 40      | 38  | 21  | 17  | 105.6 % |
| 家庭選修         | 29       | 66       | 2.28 | 34      | 34  | 1   | 33  | 117.2 % |
| 英語選修         | 6        | 17 (1)   | 2.83 | 9       | 8   | 1   | 7   | 133.3 % |
| 中等教育教員養成課程   | 186      | 636      | 3.42 | 219     | 210 | 124 | 86  | 112.9 % |
| 教育科学専攻       | 6        | 20       | 3.33 | 8       | 8   | 3   | 5   | 133.3 % |
| 情報専攻         | 10       | 33       | 3.30 | 13      | 12  | 10  | 2   | 120.0 % |
| 国語・書道専攻      | 19       | 66       | 3.47 | 22      | 22  | 13  | 9   | 115.8 % |
| 社会専攻         | 16       | 66       | 4.13 | 20      | 17  | 12  | 5   | 106.3 % |
| 数学専攻         | 30       | 143      | 4.77 | 35      | 32  | 25  | 7   | 106.7 % |
| 理科専攻         | 32       | 69       | 2.16 | 35      | 34  | 22  | 12  | 106.3 % |
| 音楽専攻         | 6        | 19       | 3.17 | 7       | 6   | 2   | 4   | 100.0 % |
| 美術専攻         | 6        | 24       | 4.00 | 8       | 8   | 1   | 7   | 133.3 % |
| 保健体育専攻       | 26       | 96       | 3.69 | 28      | 28  | 18  | 10  | 107.7 % |
| 技術専攻         | 10       | 57       | 5.70 | 13      | 13  | 7   | 6   | 130.0 % |
| 家庭専攻         | 10       | 18       | 1.80 | 13      | 13  | 2   | 11  | 130.0 % |
| 英語専攻         | 15       | 25       | 1.67 | 17      | 17  | 9   | 8   | 113.3 % |
| 特別支援学校教員養成課程 | 25       | 188      | 7.52 | 29      | 27  | 6   | 21  | 108.0 % |
| 養護教諭養成課程     | 40       | 131      | 3.28 | 44      | 44  |     | 44  | 110.0 % |
| 現代学芸課程       | 232      | 1113 (5) | 4.80 | 268 (1) | 240 | 95  | 145 | 103.4 % |
| 国際文化コース      | 72       | 423 (3)  | 5.88 | 81 (1)  | 72  | 26  | 46  | 100.0 % |
| 日本語教育コース     | 20       | 84       | 4.20 | 24      | 22  | 5   | 17  | 110.0 % |
| 臨床福祉心理コース    | 20       | 105      | 5.25 | 22      | 21  | 3   | 18  | 105.0 % |
| 造形文化コース      | 30       | 140 (1)  | 4.67 | 34      | 33  | 3   | 30  | 110.0 % |
| 情報科学コース      | 40       | 152      | 3.80 | 49      | 41  | 29  | 12  | 102.5 % |
| 自然科学 (宇宙・物質) | 25       | 103      | 4.12 | 29      | 26  | 18  | 8   | 104.0 % |
| 自然科学 (分子・生命) | 25       | 106 (1)  | 4.24 | 29      | 25  | 11  | 14  | 100.0 % |

\* 本表には、編入学試験を含まない。

\* ( )は外国人留学生を示し、外数。

\* 志願者倍率(倍) = 志願者 ÷ 入学定員(志願者に外国人留学生を含まない。)

\* 入学定員充足率(%) = 入学者 ÷ 入学定員(入学者に外国人留学生を含む。)

\* 自然科学(宇宙・物質)は、自然科学コース 宇宙・物質科学専攻の略。

\* 自然科学(分子・生命)は、自然科学コース 分子機能・生命科学専攻の略。

平成28年度大学院教育学研究科入学者選抜実施状況＜2015年度実施＞

(単位:人)

|            | 入学<br>定員 | 志願者     | 倍率   | 合格者     | 入学者    | 男      | 女      | 充足率     |
|------------|----------|---------|------|---------|--------|--------|--------|---------|
| 教育学研究科     | 104      | 154 (7) | 1.48 | 110 (5) | 95 (5) | 44 (3) | 51 (2) | 96.2 %  |
| 修士課程       | 100      | 143 (7) | 1.43 | 106 (5) | 91 (5) | 41 (3) | 50 (2) | 96.0 %  |
| 発達教育科学専攻   | 20       | 23 (1)  | 1.15 | 18 (1)  | 15 (1) | 10     | 5 (1)  | 80.0 %  |
| 教育学領域      | —        | 3       | —    | 2       | 2      | 2      | —      | —       |
| 教育心理学領域    | —        | 6       | —    | 3       | 2      | 2      | —      | —       |
| 幼児教育領域     | —        | 5       | —    | 4       | 4      | 1      | 3      | —       |
| 生活科教育領域    | —        | 3       | —    | 3       | 3      | 3      | —      | —       |
| 日本語教育領域    | —        | 5 (1)   | —    | 5 (1)   | 3 (1)  | 1      | 2 (1)  | —       |
| 情報教育領域     | —        | 1       | —    | 1       | 1      | 1      | —      | —       |
| 特別支援教育科学専攻 | 5        | 3       | 0.60 | 2       | 2      | —      | 2      | 40.0 %  |
| 養護教育専攻     | 3        | 5       | 1.67 | 5       | 5      | —      | 5      | 166.7 % |
| 学校教育臨床専攻   | 8        | 32      | 4.00 | 17      | 13     | 1      | 12     | 162.5 % |
| 国語教育専攻     | 5        | 6       | 1.20 | 6       | 5      | 4      | 1      | 100.0 % |
| 英語教育専攻     | 4        | 5       | 1.25 | 4       | 4      | 2      | 2      | 100.0 % |
| 社会科教育専攻    | 9        | 9 (3)   | 1.00 | 7 (1)   | 4 (1)  | 3 (1)  | 1      | 55.6 %  |
| 数学教育専攻     | 7        | 4 (1)   | 0.57 | 3 (1)   | 3 (1)  | 3 (1)  | —      | 57.1 %  |
| 理科教育専攻     | 13       | 17 (1)  | 1.31 | 13 (1)  | 12 (1) | 9 (1)  | 3      | 100.0 % |
| 芸術教育専攻     | 14       | 20      | 1.43 | 16      | 14     | 1      | 13     | 100.0 % |
| 音楽分野       | —        | 6       | —    | 6       | 5      | —      | 5      | —       |
| 美術分野       | —        | 14      | —    | 10      | 9      | 1      | 8      | —       |
| 保健体育専攻     | 6        | 12      | 2.00 | 12      | 11     | 5      | 6      | 183.3 % |
| 家政教育専攻     | 3        | 2 (1)   | 0.67 | 0 (1)   | 0 (1)  | —      | 0 (1)  | 33.3 %  |
| 技術教育専攻     | 3        | 5       | 1.67 | 3       | 3      | 3      | —      | 100.0 % |
| 後期3年博士課程   | 4        | 11      | 2.75 | 4       | 4      | 3      | 1      | 100.0 % |
| 共同教科開発学専攻  | 4        | 11      | 2.75 | 4       | 4      | 3      | 1      | 100.0 % |

\* 共同教科開発学専攻には、静岡大学分を含まない。

\* ( )は外国人留学生を示し、外数。

\* 志願者倍率(倍) = 志願者 ÷ 入学定員(志願者に外国人留学生を含まない。)

\* 入学定員充足率(%) = 入学者 ÷ 入学定員(入学者に外国人留学生を含む。)

平成28年度大学院教育実践研究科(教職大学院)入学者選抜＜2015年度実施＞

(単位:人)

|          | 入学<br>定員 | 志願者 | 倍率   | 合格者 | 入学者 | 男  | 女  | 充足率    |
|----------|----------|-----|------|-----|-----|----|----|--------|
| 教職実践研究科  |          |     |      |     |     |    |    |        |
| 教職実践専攻   | 50       | 57  | 1.14 | 54  | 48  | 23 | 25 | 96.0 % |
| 教職実践応用領域 | —        | 15  | —    | 15  | 15  | 12 | 3  | —      |
| 前期試験     | —        | 15  | —    | 15  | 15  | 12 | 3  | —      |
| 後期試験     | —        | —   | —    | —   | —   | —  | —  | —      |
| 教職実践基礎領域 | —        | 42  | —    | 39  | 33  | 11 | 22 | —      |
| 前期試験     | —        | 26  | —    | 24  | 20  | 8  | 12 | —      |
| 後期試験     | —        | 15  | —    | 14  | 12  | 3  | 9  | —      |
| 第2次      | 若干名      | 1   | —    | 1   | 1   | —  | 1  | —      |

\* 志願者倍率(倍) = 志願者 ÷ 入学定員

\* 入学定員充足率(%) = 入学者 ÷ 入学定員

\* 基礎領域には、6年一貫教員養成コースの入学者選抜を含む。

平成28年度特別支援教育特別専攻科入学者選抜＜2015年度実施＞

(単位:人)

|             | 入学<br>定員 | 志願者 | 倍率   | 合格者 | 入学者 | 男  | 女  | 充足率     |
|-------------|----------|-----|------|-----|-----|----|----|---------|
| 特別支援教育特別専攻科 |          |     |      |     |     |    |    |         |
| 特別支援教育専攻    | 30       | 44  | 1.47 | 35  | 30  | 13 | 17 | 100.0 % |
| 第1次         | 30       | 44  | 1.47 | 35  | 30  | 13 | 17 | 100.0 % |

\* 志願者倍率(倍) = 志願者 ÷ 入学定員

\* 入学定員充足率(%) = 入学者 ÷ 入学定員

## 2 学生数

## (1) 入学定員、収容定員

教育学部入学定員・収容定員

(単位:人)

|              | 入学定員 |      |      |      |      |      | 収容定員  |       |       |       |       |       |
|--------------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|              | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2010  | 2011  | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  |
| 教育学部         | 875  | 875  | 875  | 875  | 875  | 875  | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 3,500 | 3,500 |
| 教員養成課程       | 643  | 643  | 643  | 643  | 643  | 643  | 2,572 | 2,572 | 2,572 | 2,572 | 2,572 | 2,572 |
| 初等教育教員養成課程   | 392  | 392  | 392  | 392  | 392  | 392  | 1,568 | 1,568 | 1,568 | 1,568 | 1,568 | 1,568 |
| 中等教育教員養成課程   | 186  | 186  | 186  | 186  | 186  | 186  | 744   | 744   | 744   | 744   | 744   | 744   |
| 特別支援学校教員養成課程 | 25   | 25   | 25   | 25   | 25   | 25   | 75    | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   |
| 障害児教育教員養成課程  | —    | —    | —    | —    | —    | —    | 25    | —     | —     | —     | —     | —     |
| 養護教諭養成課程     | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 160   | 160   | 160   | 160   | 160   | 160   |
| 現代学芸課程(新課程)  | 232  | 232  | 232  | 232  | 232  | 232  | 928   | 928   | 928   | 928   | 928   | 928   |
| 現代学芸課程       | 232  | 232  | 232  | 232  | 232  | 232  | 928   | 928   | 928   | 928   | 928   | 928   |
| 国際理解教育課程     | —    | —    | —    | —    | —    | —    | —     | —     | —     | —     | —     | —     |
| 生涯教育課程       | —    | —    | —    | —    | —    | —    | —     | —     | —     | —     | —     | —     |
| 情報教育課程       | —    | —    | —    | —    | —    | —    | —     | —     | —     | —     | —     | —     |
| 環境教育課程       | —    | —    | —    | —    | —    | —    | —     | —     | —     | —     | —     | —     |

大学院教育学研究科入学定員・収容定員

(単位:人)

|            | 入学定員 |      |      |      |      |      | 収容定員 |      |      |      |      |      |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|            | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
| 教育学研究科     | 100  | 100  | 104  | 104  | 104  | 104  | 200  | 200  | 204  | 208  | 212  | 212  |
| 修士課程       | 100  | 100  | 100  | 100  | 100  | 100  | 200  | 200  | 200  | 200  | 200  | 200  |
| 発達教育科学専攻   | 20   | 20   | 20   | 20   | 20   | 20   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   |
| 特別支援教育科学専攻 | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 養護教育専攻     | 3    | 3    | 3    | 3    | 3    | 3    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    |
| 学校教育臨床専攻   | 8    | 8    | 8    | 8    | 8    | 8    | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   |
| 国語教育専攻     | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 英語教育専攻     | 4    | 4    | 4    | 4    | 4    | 4    | 8    | 8    | 8    | 8    | 8    | 8    |
| 社会科教育専攻    | 9    | 9    | 9    | 9    | 9    | 9    | 18   | 18   | 18   | 18   | 18   | 18   |
| 数学教育専攻     | 7    | 7    | 7    | 7    | 7    | 7    | 14   | 14   | 14   | 14   | 14   | 14   |
| 理科教育専攻     | 13   | 13   | 13   | 13   | 13   | 13   | 26   | 26   | 26   | 26   | 26   | 26   |
| 芸術教育専攻     | 14   | 14   | 14   | 14   | 14   | 14   | 28   | 28   | 28   | 28   | 28   | 28   |
| 保健体育専攻     | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 12   | 12   | 12   | 12   | 12   | 12   |
| 家政教育専攻     | 3    | 3    | 3    | 3    | 3    | 3    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    |
| 技術教育専攻     | 3    | 3    | 3    | 3    | 3    | 3    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    |
| 後期3年博士課程   | —    | —    | 4    | 4    | 4    | 4    | —    | —    | 4    | 8    | 12   | 12   |
| 共同教科開発学専攻  | —    | —    | 4    | 4    | 4    | 4    | —    | —    | 4    | 8    | 12   | 12   |

大学院教育実践研究科(教職大学院)入学定員・収容定員

(単位:人)

| 教育実践研究科 | 入学定員 |      |      |      |      |      | 収容定員 |      |      |      |      |      |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|         | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
| 教職実践専攻  | 50   | 50   | 50   | 50   | 50   | 50   | 100  | 100  | 100  | 100  | 100  | 100  |

特別支援教育特別専攻科入学定員・収容定員

(単位:人)

| 特別支援教育特別専攻科 | 入学定員 |      |      |      |      |      | 収容定員 |      |      |      |      |      |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|             | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
| 特別支援教育専攻    | 30   | 30   | 30   | 30   | 30   | 30   | 30   | 30   | 30   | 30   | 30   | 30   |

## (2) 在籍者数

## ① 全学集計表

教育学部在籍者数

各年度 5/1 現在 (単位: 人)

|              | 2010  | 2011  | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  | 内 訳 |     |     |       |  | 男     | 女     |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|--|-------|-------|
|              |       |       |       |       |       |       | 1年  | 2年  | 3年  | 4年    |  |       |       |
| 教育学部         | 3,892 | 3,949 | 3,976 | 3,985 | 3,958 | 3,901 | 942 | 939 | 949 | 1,071 |  | 1,797 | 2,104 |
| 教員養成課程       | 2,836 | 2,885 | 2,916 | 2,919 | 2,899 | 2,863 | 698 | 692 | 692 | 781   |  | 1,383 | 1,480 |
| 初等教育教員養成課程   | 1,706 | 1,736 | 1,751 | 1,760 | 1,743 | 1,721 | 423 | 416 | 418 | 464   |  | 814   | 907   |
| 中等教育教員養成課程   | 844   | 858   | 869   | 864   | 866   | 855   | 203 | 206 | 202 | 244   |  | 547   | 308   |
| 特別支援学校教員養成課程 | 81    | 109   | 111   | 112   | 113   | 111   | 27  | 27  | 29  | 28    |  | 22    | 89    |
| 障害児教育教員養成課程  | 26    | 3     | 2     | —     | —     | —     | —   | —   | —   | —     |  | —     | —     |
| 養護教諭養成課程     | 179   | 179   | 183   | 183   | 177   | 176   | 45  | 43  | 43  | 45    |  | 0     | 176   |
| 現代学芸課程 (新課程) | 1,056 | 1,064 | 1,060 | 1,066 | 1,059 | 1,038 | 244 | 247 | 257 | 290   |  | 414   | 624   |
| 現代学芸課程       | 1,006 | 1,046 | 1,051 | 1,063 | 1,059 | 1,038 | 244 | 247 | 257 | 290   |  | 414   | 624   |
| 国際理解教育課程     | 14    | 5     | 4     | 2     | —     | —     | —   | —   | —   | —     |  | —     | —     |
| 生涯教育課程       | 8     | 6     | 2     | 1     | —     | —     | —   | —   | —   | —     |  | —     | —     |
| 情報教育課程       | 17    | 6     | 3     | —     | —     | —     | —   | —   | —   | —     |  | —     | —     |
| 環境教育課程       | 11    | 1     | —     | —     | —     | —     | —   | —   | —   | —     |  | —     | —     |

大学院教育学研究科在籍者数

各年度 5/1 現在 (単位: 人)

|             | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 内 訳 |     |    |    |     | 社会人 | うち教員 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|----|----|-----|-----|------|
|             |      |      |      |      |      |      | 1年  | 2年  | 3年 | 男  | 女   |     |      |
| 教育学研究科      | 304  | 301  | 288  | 238  | 212  | 204  | 88  | 108 | 8  | 86 | 118 | 58  | 18   |
| 修士課程        | 304  | 301  | 284  | 230  | 200  | 188  | 84  | 104 | —  | 80 | 108 | 42  | 13   |
| 発達教育科学専攻    | 52   | 55   | 62   | 49   | 43   | 37   | 13  | 24  | —  | 18 | 19  | 13  | 1    |
| 学校教育専攻 (旧)  | 3    | 2    | —    | —    | —    | —    | —   | —   | —  | —  | —   | —   | —    |
| 特別支援教育科学専攻  | 8    | 5    | 5    | 8    | 9    | 5    | 0   | 5   | —  | 1  | 4   | 2   | 1    |
| 障害児教育専攻 (旧) | 3    | —    | —    | —    | —    | —    | —   | —   | —  | —  | —   | —   | —    |
| 養護教育専攻      | 10   | 12   | 10   | 5    | 3    | 4    | 3   | 1   | —  | 1  | 3   | 0   | 0    |
| 学校教育臨床専攻    | 35   | 39   | 30   | 20   | 20   | 24   | 13  | 11  | —  | 2  | 22  | 5   | 0    |
| 国語教育専攻      | 11   | 12   | 11   | 6    | 7    | 5    | 1   | 4   | —  | 3  | 2   | 0   | 0    |
| 英語教育専攻      | 12   | 11   | 10   | 9    | 6    | 5    | 1   | 4   | —  | 2  | 3   | 1   | 0    |
| 社会科教育専攻     | 40   | 48   | 53   | 38   | 21   | 23   | 13  | 10  | —  | 17 | 6   | 6   | 6    |
| 数学教育専攻      | 26   | 23   | 17   | 13   | 10   | 8    | 5   | 3   | —  | 5  | 3   | 1   | 1    |
| 理科教育専攻      | 26   | 21   | 25   | 27   | 25   | 18   | 8   | 10  | —  | 12 | 6   | 4   | 2    |
| 芸術教育専攻      | 39   | 42   | 34   | 31   | 30   | 34   | 16  | 18  | —  | 6  | 28  | 6   | 1    |
| 保健体育専攻      | 30   | 23   | 18   | 14   | 15   | 16   | 8   | 8   | —  | 10 | 6   | 3   | 1    |
| 家政教育専攻      | 3    | 3    | 5    | 6    | 8    | 5    | 0   | 5   | —  | 0  | 5   | 1   | 0    |
| 技術教育専攻      | 6    | 5    | 4    | 4    | 3    | 4    | 3   | 1   | —  | 3  | 1   | 0   | 0    |
| 後期3年博士課程    | —    | —    | 4    | 8    | 12   | 16   | 4   | 4   | 8  | 6  | 10  | 16  | 5    |
| 共同教科開発学専攻   | —    | —    | 4    | 8    | 12   | 16   | 4   | 4   | 8  | 6  | 10  | 16  | 5    |

大学院教育実践研究科 (教職大学院) 在籍者数

各年度 5/1 現在 (単位: 人)

|          | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 内 訳 |    |    |    | 社会人 | うち教員 |
|----------|------|------|------|------|------|------|-----|----|----|----|-----|------|
|          |      |      |      |      |      |      | 1年  | 2年 | 男  | 女  |     |      |
| 教職実践専攻   | 82   | 89   | 83   | 91   | 105  | 99   | 43  | 56 | 58 | 41 | 32  | 29   |
| 教職実践基礎領域 | 46   | 55   | 53   | 60   | 73   | 70   | 28  | 42 | 40 | 30 | 3   | 0    |
| 教職実践応用領域 | 36   | 34   | 30   | 31   | 32   | 29   | 15  | 14 | 18 | 11 | 29  | 29   |

特別支援教育特別専攻科在籍者数

年度 5/1 現在 (単位: 人)

|          | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 内 訳 |    |     |      |
|----------|------|------|------|------|------|------|-----|----|-----|------|
|          |      |      |      |      |      |      | 男   | 女  | 社会人 | うち教員 |
| 特別支援教育専攻 | 30   | 25   | 23   | 30   | 27   | 34   | 16  | 18 | 14  | 6    |

## ② 外国人留学生数

教育学部外国人留学生在籍者数

2015/5/1 現在 (単位:人)

| 教育学部         | 1 年   | 2 年   | 3 年   | 4 年   | 合 計   |       |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|              | 2 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 6 (0) | 2 (0) | 7 (0) |
| 教員養成課程       | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 1 (0) |
| 初等教育教員養成課程   | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 1 (0) |
| 中等教育教員養成課程   | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 特別支援学校教員養成課程 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 養護教諭養成課程     | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 現代学芸課程       | 2 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 5 (0) | 2 (0) | 6 (0) |
| 現代学芸課程       | 2 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 5 (0) | 2 (0) | 6 (0) |

\* ( )は国費留学生を内数で示す。

大学院教育学研究科外国人留学生在籍者数

2015/5/1 現在 (単位:人)

| 教育学研究科     | 1 年   | 2 年   | 3 年   | 合 計   |       |        |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
|            | 7 (0) | 9 (1) | 0 (0) | 9 (0) | 7 (1) | 16 (1) |
| 修士課程       | 7 (0) | 9 (1) | —     | 9 (0) | 7 (1) | 16 (1) |
| 発達教育科学専攻   | 2 (0) | 4 (1) | —     | 2 (0) | 4 (1) | 6 (1)  |
| 特別支援教育科学専攻 | 0 (0) | 0 (0) | —     | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |
| 養護教育専攻     | 1 (0) | 0 (0) | —     | 0 (0) | 1 (0) | 1 (0)  |
| 学校教育臨床専攻   | 0 (0) | 0 (0) | —     | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |
| 国語教育専攻     | 0 (0) | 0 (0) | —     | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |
| 英語教育専攻     | 0 (0) | 0 (0) | —     | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |
| 社会科教育専攻    | 1 (0) | 5 (0) | —     | 4 (0) | 2 (0) | 6 (0)  |
| 数学教育専攻     | 1 (0) | 0 (0) | —     | 1 (0) | 0 (0) | 1 (0)  |
| 理科教育専攻     | 1 (0) | 0 (0) | —     | 1 (0) | 0 (0) | 1 (0)  |
| 芸術教育専攻     | 1 (0) | 0 (0) | —     | 1 (0) | 0 (0) | 1 (0)  |
| 保健体育専攻     | 0 (0) | 0 (0) | —     | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |
| 家政教育専攻     | 0 (0) | 0 (0) | —     | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |
| 技術教育専攻     | 0 (0) | 0 (0) | —     | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |
| 後期3年博士課程   | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |
| 共同教科開発学専攻  | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |

\* ( )は国費留学生を内数で示す。

\* 正規学生のみ計上。

## (3) 定員の充足状況

定員充足率

各年度 5/1 現在 (単位: %)

|              | 入学定員充足率 (過去5年間) |       |       |       |       |       |       | 収容定員充足率 |
|--------------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
|              | 2010            | 2011  | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  | 平均    | 2015    |
| 教育学部         | 109.0           | 113.0 | 109.1 | 109.4 | 107.8 | 107.7 | 109.3 | 111.5   |
| 教員養成課程       | 108.2           | 114.2 | 109.8 | 108.7 | 108.1 | 108.6 | 109.6 | 111.3   |
| 初等教育教員養成課程   | 108.4           | 112.8 | 108.9 | 108.0 | 106.4 | 107.9 | 108.7 | 109.8   |
| 中等教育教員養成課程   | 107.5           | 117.7 | 114.0 | 109.7 | 111.3 | 109.1 | 111.6 | 114.9   |
| 特別支援学校教員養成課程 | 108.0           | 112.0 | 100.0 | 116.0 | 112.0 | 108.0 | 109.3 | 111.0   |
| 養護教諭養成課程     | 110.0           | 112.5 | 105.0 | 107.5 | 107.5 | 112.5 | 109.2 | 110.0   |
| 現代学芸課程 (新課程) | 111.2           | 109.9 | 107.3 | 111.2 | 106.9 | 105.2 | 108.6 | 111.9   |
| 現代学芸課程       | 111.2           | 109.9 | 107.3 | 111.2 | 106.9 | 105.2 | 108.6 | 111.9   |
| 教育学研究科       | 119.0           | 128.0 | 117.3 | 81.7  | 85.6  | 84.6  | 102.7 | 96.2    |
| 修士課程         | 119.0           | 128.0 | 118.0 | 81.0  | 85.0  | 84.0  | 102.5 | 94.0    |
| 発達教育科学専攻     | 80.0            | 120.0 | 145.0 | 70.0  | 80.0  | 65.0  | 93.3  | 92.5    |
| 特別支援教育科学専攻   | 60.0            | 0.0   | 60.0  | 60.0  | 60.0  | 0.0   | 40.0  | 50.0    |
| 養護教育専攻       | 133.3           | 133.3 | 66.7  | 33.3  | 33.3  | 100.0 | 83.3  | 66.7    |
| 学校教育臨床専攻     | 225.0           | 200.0 | 150.0 | 112.5 | 137.5 | 162.5 | 164.6 | 150.0   |
| 国語教育専攻       | 80.0            | 140.0 | 60.0  | 60.0  | 80.0  | 20.0  | 73.3  | 50.0    |
| 英語教育専攻       | 150.0           | 75.0  | 75.0  | 50.0  | 50.0  | 25.0  | 70.8  | 62.5    |
| 社会科教育専攻      | 177.8           | 300.0 | 211.1 | 100.0 | 55.6  | 144.4 | 164.8 | 127.8   |
| 数学教育専攻       | 157.1           | 114.3 | 85.7  | 57.1  | 42.9  | 71.4  | 88.1  | 57.1    |
| 理科教育専攻       | 76.9            | 69.2  | 123.1 | 100.0 | 84.6  | 61.5  | 85.9  | 69.2    |
| 芸術教育専攻       | 150.0           | 121.4 | 107.1 | 78.6  | 121.4 | 114.3 | 115.5 | 121.4   |
| 保健体育専攻       | 116.7           | 166.7 | 116.7 | 116.7 | 133.3 | 133.3 | 130.6 | 133.3   |
| 家政教育専攻       | 33.3            | 66.7  | 66.7  | 100.0 | 100.0 | 0.0   | 61.1  | 83.3    |
| 技術教育専攻       | 66.7            | 33.3  | 33.3  | 66.7  | 33.3  | 100.0 | 55.6  | 66.7    |
| 後期3年博士課程     | —               | —     | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 133.3   |
| 共同教科開発学専攻    | —               | —     | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 133.3   |

| 教育実践研究科     | 2010  | 2011 | 2012 | 2013  | 2014  | 2015  | 平均   | 2015  |
|-------------|-------|------|------|-------|-------|-------|------|-------|
| 教職実践専攻      | 90.0  | 70.0 | 66.0 | 100.0 | 104.0 | 86.0  | 86.0 | 99.0  |
| 特別支援教育特別専攻科 | 2010  | 2011 | 2012 | 2013  | 2014  | 2015  | 平均   | 2015  |
| 特別支援教育専攻    | 100.0 | 83.3 | 76.7 | 100.0 | 86.7  | 113.3 | 93.3 | 113.3 |

\* 入学定員充足率(%) = 入学者 ÷ 入学定員

\* 収容定員充足率(%) = 在籍者 ÷ 収容定員 (国立大学法人評価で用いられる基準: 90%以上)

\* 平均入学定員充足率(%) = 各年度の入学定員充足率の計 ÷ 6年 (大学機関別認証評価で用いられる基準: 70%以上130%未満)

\* 現代学芸課程 (新課程) 全体の収容定員充足率の算定に、改組前の国際理解教育課程 (旧) 及び生涯教育課程 (旧) の数値を含む。

## 定員超過率

各年度 5/1 現在 (単位: 人)

|                | ①<br>収容定員 | ②<br>在学者数 | ③<br>長期履修<br>算定人数 | ④<br>外国人留学生<br>(国費等) | ⑤<br>休学者 | ⑥<br>留年者<br>2年以内 | ⑦<br>超過率<br>算定人数 | ⑧<br>収容定員<br>超過率 (%) |
|----------------|-----------|-----------|-------------------|----------------------|----------|------------------|------------------|----------------------|
| <b>教育学部</b>    |           |           |                   |                      |          |                  |                  |                      |
| 2010           | 3,500     | 3,892     | 3,892             | 5                    | 45       | 79               | 3,768            | 107.7 %              |
| 教員養成課程         | 2,572     | 2,836     | 2,836.00          | —                    | 27       | 41               | 2,768            | 107.6 %              |
| 現代学芸課程         | 928       | 1,056     | 1,056.00          | —                    | 18       | 38               | 1,000            | 107.8 %              |
| 2011           | 3,500     | 3,949     | 3,949             | 6                    | 48       | 82               | 3,819            | 109.1 %              |
| 教員養成課程         | 2,572     | 2,885     | 2,885.00          | —                    | 38       | 55               | 2,792            | 108.6 %              |
| 現代学芸課程         | 928       | 1,064     | 1,064.00          | —                    | 10       | 27               | 1,027            | 110.7 %              |
| 2012           | 3,500     | 3,976     | 3,976             | 9                    | 63       | 68               | 3,845            | 109.9 %              |
| 教員養成課程         | 2,572     | 2,916     | 2,916.00          | —                    | 40       | 38               | 2,838            | 110.3 %              |
| 現代学芸課程         | 928       | 1,060     | 1,060.00          | —                    | 23       | 30               | 1,007            | 108.5 %              |
| 2013           | 3,500     | 3,985     | 3,985             | 9                    | 78       | 84               | 3,823            | 109.2 %              |
| 教員養成課程         | 2,572     | 2,919     | 2,919             | —                    | 49       | 51               | 2,819            | 109.6 %              |
| 現代学芸課程         | 928       | 1,066     | 1,066             | —                    | 29       | 33               | 1,004            | 108.2 %              |
| 2014           | 3500      | 3958      | 3958              | 8                    | 51       | 72               | 3835             | 109.6 %              |
| 教員養成課程         | 2572      | 2899      | 2899              | —                    | 30       | 41               | 2828             | 110.0 %              |
| 現代学芸課程         | 928       | 1059      | 1059              | —                    | 21       | 31               | 1007             | 108.5 %              |
| 2015           | 3500      | 3901      | 3901              | 9                    | 60       | 71               | 3770             | 107.7 %              |
| 教員養成課程         | 2572      | 2863      | 2863              | —                    | 39       | 43               | 2781             | 108.1 %              |
| 現代学芸課程         | 928       | 1038      | 1038              | —                    | 21       | 28               | 989              | 106.6 %              |
| 2010 教育学研究科    | 200       | 304       | 288               | 0                    | 11       | 10               | 267              | 133.5 %              |
| 修士課程           | 200       | 304       | 288               | 0                    | 11       | 10               | 267              | 133.5 %              |
| 通常 (2年)        | —         | 215       | 215.00            | —                    | —        | 10               | —                | —                    |
| 小学校教員免許取得 (3年) | —         | 54        | 54.00             | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (3年)      | —         | 8         | 5.28              | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (4年)      | —         | 27        | 13.50             | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 2011 教育学研究科    | 200       | 301       | 288               | 1                    | 16       | 11               | 260              | 130.0 %              |
| 修士課程           | 200       | 301       | 288               | 1                    | 16       | 11               | 260              | 130.0 %              |
| 通常 (2年)        | —         | 224       | 224.00            | —                    | —        | 11               | —                | —                    |
| 小学校教員免許取得 (3年) | —         | 47        | 47.00             | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (3年)      | —         | 9         | 5.94              | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (4年)      | —         | 21        | 10.50             | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 2012 教育学研究科    | 204       | 288       | 278               | 1                    | 10       | 7                | 260              | 127.5 %              |
| 修士課程           | 200       | 284       | 274               | 1                    | 10       | 7                | 256              | 128.0 %              |
| 通常 (2年)        | —         | 217       | 217.00            | —                    | —        | 7                | —                | —                    |
| 小学校教員免許取得 (3年) | —         | 44        | 44.00             | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (3年)      | —         | 8         | 5.28              | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (4年)      | —         | 15        | 7.50              | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 後期3年博士課程       | 4         | 4         | 4                 | 0                    | 0        | 0                | 4                | 100.0 %              |
| 通常 (3年)        | 4         | 4         | 4                 | 0                    | 0        | 0                | 4                | —                    |
| 2013 教育学研究科    | 208       | 238       | 231               | 0                    | 11       | 6                | 214              | 102.9 %              |
| 修士課程           | 200       | 230       | 223               | 0                    | 11       | 6                | 206              | 103.0 %              |
| 通常 (2年)        | —         | 180       | 180.00            | —                    | —        | 6                | —                | —                    |
| 小学校教員免許取得 (3年) | —         | 34        | 34.00             | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (3年)      | —         | 5         | 3.30              | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (4年)      | —         | 11        | 5.50              | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 後期3年博士課程       | 8         | 8         | 8                 | 0                    | 0        | 0                | 8                | 100.0 %              |
| 通常 (3年)        | 8         | 8         | 8                 | 0                    | 0        | 0                | 8                | —                    |
| 2014 教育学研究科    | 212       | 212       | 204               | 1                    | 11       | 4                | 188              | 88.7 %               |
| 修士課程           | 200       | 200       | 193               | 1                    | 11       | 4                | 177              | 88.5 %               |
| 通常 (2年)        | —         | 156       | 156.00            | —                    | —        | 4                | —                | —                    |
| 小学校教員免許取得 (3年) | —         | 28        | 28.00             | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (3年)      | —         | 5         | 3.30              | —                    | —        | 0                | —                | —                    |
| 長期履修 (4年)      | —         | 11        | 5.50              | —                    | —        | 0                | —                | —                    |

|               |     |     |        |   |    |   |     |         |
|---------------|-----|-----|--------|---|----|---|-----|---------|
| 後期3年博士課程      | 12  | 12  | 11     | 0 | 0  | 0 | 11  | 91.7 %  |
| 通常（3年）        | —   | 8   | 8      | — | —  | 0 | —   | —       |
| 長期履修（4年）      | —   | 4   | 3      | — | —  | 0 | —   | —       |
| 2015 教育学研究科   | 212 | 204 | 195    | 1 | 10 | 8 | 174 | 82.1 %  |
| 修士課程          | 200 | 188 | 180    | 1 | 9  | 6 | 162 | 81.0 %  |
| 通常（2年）        | —   | 147 | 147.00 | — | —  | 5 | —   | —       |
| 小学校教員免許取得（3年） | —   | 23  | 23.00  | — | —  | 1 | —   | —       |
| 長期履修（3年）      | —   | 5   | 3.30   | — | —  | 0 | —   | —       |
| 長期履修（4年）      | —   | 13  | 6.50   | — | —  | 0 | —   | —       |
| 後期3年博士課程      | 12  | 16  | 15     | 0 | 1  | 2 | 12  | 100.0 % |
| 通常（3年）        | —   | 11  | 11.00  | — | —  | 2 | —   | —       |
| 長期履修（4年）      | —   | 5   | 3.75   | — | —  | 0 | —   | —       |
| 教育実践研究科       |     |     |        |   |    |   |     |         |
| 2010          | 100 | 82  | 80     | 0 | 1  | 0 | 79  | 79.0 %  |
| 2011          | 100 | 89  | 87     | 0 | 3  | 0 | 84  | 84.0 %  |
| 2012          | 100 | 83  | 82     | 0 | 3  | 2 | 77  | 77.0 %  |
| 2013          | 100 | 91  | 91     | 0 | 1  | 0 | 90  | 90.0 %  |
| 2014          | 100 | 105 | 105    | 0 | 1  | 1 | 103 | 103.0 % |
| 2015          | 100 | 99  | 99     | 0 | 1  | 0 | 98  | 98.0 %  |
| 特別支援教育特別専攻科   |     |     |        |   |    |   |     |         |
| 2010          | 30  | 30  | 30     | 0 | 0  | 0 | 30  | 100.0 % |
| 2011          | 30  | 25  | 25     | 0 | 0  | 0 | 25  | 83.3 %  |
| 2012          | 30  | 23  | 23     | 0 | 0  | 0 | 23  | 76.7 %  |
| 2013          | 30  | 30  | 30     | 0 | 1  | 1 | 28  | 93.3 %  |
| 2014          | 30  | 27  | 27     | 0 | 0  | 1 | 26  | 86.7 %  |
| 2015          | 30  | 34  | 34     | 0 | 0  | 0 | 34  | 113.3 % |

\* 平成20年2月14日19文科高第715号通知「国立大学の学部における定員超過の抑制について(通知)」に基づき算出（基準定員超過率110%、国立大学法人評価の定員超過率の上限値130%）

\* ③長期履修算定人数は、長期履修3年 = 在籍者×2/3、長期履修4年 = 在籍者×2/4、左記以外は②在学者数と同じ人数。

教育学部では長期履修制度を行っていないため、②在学者数と同じ人数。

\* ④外国人留学生（国費等）は、国費留学生、外国人政府派遣留学生、大学間交流協定等に基づく私費留学生の合計人数。

\* ⑥留年生2年以内は、単位不足による履修年限超過者のうち、修業年限を超える在籍期間が2年以内の者の人数。

\* ⑦超過率算定人数は、③長期履修算定人数 - (④外国人+⑤休学者+⑥留年生) の人数。

\* ⑧収容定員超過率は、⑦超過率算定人数 ÷ ①収容定員。

#### （４）休学者数、退学者数、除籍者数、留年者数

休学者・退学者・除籍者・留年者及びその理由

(単位：人)

|             | 当該年度 5/1 現在 |      |          |      |      |      | 当該年度 4/1 ~ 3/31 累計 |      |      |      |      |      |
|-------------|-------------|------|----------|------|------|------|--------------------|------|------|------|------|------|
|             | 在学者         |      | 留年者      |      | 休学者  |      | 休学者                |      | 退学者  |      | 除籍者  |      |
|             | 2014        | 2015 | 2014     | 2015 | 2014 | 2015 | 2014               | 2015 | 2014 | 2015 | 2014 | 2015 |
| 教育学部        | 3958        | 3901 | 134      | 127  | 51   | 60   | 72                 | 45   | 27   | 16   | 5    | 7    |
| 教員養成課程      | 2899        | 2863 | 77       | 79   | 30   | 39   | 41                 | 29   | 13   | 12   | 2    | 4    |
| 1年          | 695         | 698  | —        | —    | 1    | 1    | 2                  | 3    | 3    | 2    | 0    | 1    |
| 2年          | 695         | 692  | —        | —    | 2    | 1    | 3                  | 1    | 1    | 0    | 0    | 1    |
| 3年          | 704         | 692  | —        | —    | 2    | 2    | 3                  | 13   | 1    | 0    | 1    | 0    |
| 4年          | 805         | 781  | 77       | 79   | 25   | 35   | 33                 | 12   | 8    | 10   | 1    | 2    |
| 現代学芸課程      | 1059        | 1038 | 57       | 48   | 21   | 21   | 31                 | 16   | 14   | 4    | 3    | 3    |
| 1年          | 248         | 244  | —        | —    | 1    | —    | 1                  | 2    | 1    | 0    | 0    | 0    |
| 2年          | 257         | 247  | —        | —    | 2    | 2    | 3                  | 3    | 2    | 0    | 0    | 1    |
| 3年          | 247         | 257  | —        | —    | 4    | —    | 8                  | 7    | 5    | 3    | 0    | 0    |
| 4年          | 307         | 290  | 57       | 48   | 14   | 19   | 19                 | 4    | 6    | 1    | 3    | 2    |
| 休学・退学・除籍の理由 |             |      | 経済事情     |      |      |      | 9                  | 1    | 0    | 1    | 0    | 0    |
|             |             |      | 家庭の事情    |      |      |      | 2                  | 0    | 1    | 3    | 0    | 0    |
|             |             |      | 一身上の都合   |      |      |      | 31                 | 17   | 0    | 1    | 0    | 0    |
|             |             |      | 私費留学     |      |      |      | 24                 | 22   | 0    | 0    | 0    | 0    |
|             |             |      | 傷病       |      |      |      | 6                  | 5    | 0    | 0    | 0    | 0    |
|             |             |      | 方針変更     |      |      |      | 0                  | 0    | 26   | 11   | 0    | 0    |
|             |             |      | 授業料未納    |      |      |      | 0                  | 0    | 0    | 0    | 4    | 6    |
|             |             |      | 死亡又は行方不明 |      |      |      | 0                  | 0    | 0    | 0    | 0    | 1    |
|             |             |      | その他      |      |      |      | 0                  | 0    | 0    | 0    | 1    | 0    |
|             | 在学者         |      | 留年者      |      | 休学者  |      | 休学者                |      | 退学者  |      | 除籍者  |      |
|             | 2014        | 2015 | 2014     | 2015 | 2014 | 2015 | 2014               | 2015 | 2014 | 2015 | 2014 | 2015 |
| 教育学研究科      | 212         | 204  | 35       | 20   | 12   | 14   | 20                 | 15   | 16   | 5    | 0    | 1    |
| 修士課程        | 200         | 188  | 35       | 16   | 12   | 13   | 19                 | 12   | 16   | 4    | 0    | 1    |
| 1年          | 85          | 84   | —        | —    | 1    | 0    | 7                  | 1    | 9    | 1    | 0    | 0    |
| 2年          | 115         | 104  | 35       | 16   | 11   | 13   | 12                 | 11   | 7    | 3    | 0    | 1    |

|             |     |    |   |   |   |   |          |    |   |    |   |   |   |
|-------------|-----|----|---|---|---|---|----------|----|---|----|---|---|---|
| 後期3年博士課程    | 12  | 16 | — | 4 | 0 | 1 | 1        | 3  | 0 | 1  | 0 | 0 |   |
| 1年          | 4   | 4  | — | — | 0 | 0 | 0        | 0  | 0 | 0  | 0 | 0 |   |
| 2年          | 4   | 4  | — | — | 0 | 0 | 1        | 2  | 0 | 0  | 0 | 0 |   |
| 3年          | 4   | 8  | — | 4 | 0 | 1 | 0        | 1  | 0 | 1  | 0 | 0 |   |
| 教育実践研究科     | 105 | 99 | 7 | 7 | 1 | 1 | 2        | 1  | 4 | 6  | 0 | 0 |   |
| 1年          | 52  | 58 | — | — | 0 | 0 | 1        | 0  | 3 | 5  | 0 | 0 |   |
| 2年          | 53  | 41 | 7 | 7 | 1 | 1 | 1        | 1  | 1 | 1  | 0 | 0 |   |
| 専攻科         | 27  | 34 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0        | 0  | 0 | 0  | 0 | 0 |   |
| 休学・退学・除籍の理由 |     |    |   |   |   |   | 経済事情     | 1  | 1 | 0  | 1 | 0 | 0 |
|             |     |    |   |   |   |   | 家庭の事情    | 4  | 4 | 1  | 0 | 0 | 0 |
|             |     |    |   |   |   |   | 一身上の都合   | 11 | 9 | 0  | 1 | 0 | 0 |
|             |     |    |   |   |   |   | 私費留学     | 1  | 0 | 0  | 0 | 0 | 0 |
|             |     |    |   |   |   |   | 傷病       | 3  | 1 | 0  | 0 | 0 | 0 |
|             |     |    |   |   |   |   | 方針変更     | 0  | 0 | 19 | 9 | 0 | 0 |
|             |     |    |   |   |   |   | 授業料未納    | 0  | 0 | 0  | 0 | 0 | 1 |
|             |     |    |   |   |   |   | 死亡又は行方不明 | 0  | 0 | 0  | 0 | 0 | 0 |
|             |     |    |   |   |   |   | その他      | 2  | 1 | 0  | 0 | 0 | 0 |

\* 教育学部の留年者は4年を超えて在籍している者を計上し、在学期間不足（休学等）と単位不足の両方を含んだ人数。

（2014年内訳：在学期間不足52人、単位不足 82人（履修年限超過2年以内72人、3年以上10人））

（2015年内訳：在学期間不足36人、単位不足 91人（履修年限超過2年以内71人、3年以上20人））

\* 大学院の留年者は、修士課程の場合は2年、博士課程の場合は3年、専攻科の場合は1年を超えて在籍している者を計上しているため、長期履修3年、4年が含まれた人数となっている。

### （5）卒業・修了者数

卒業（修了）者・卒業（修了）延期者

（単位：人）

|                | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 卒業・修了月 |     | 延期者（判定時） |      |     |
|----------------|------|------|------|------|------|------|--------|-----|----------|------|-----|
|                |      |      |      |      |      |      | 9月     | 3月  | 期間不足     | 単位不足 | 合計  |
| 教育学部           | 903  | 910  | 923  | 931  | 967  | 951  | 11     | 940 | 40       | 65   | 105 |
| 教員養成課程         | 669  | 666  | 683  | 693  | 717  | 705  | 4      | 701 | 21       | 45   | 66  |
| 初等教育教員養成課程     | 406  | 406  | 406  | 424  | 435  | 426  | 3      | 423 | 7        | 23   | 30  |
| 中等教育教員養成課程     | 194  | 196  | 205  | 193  | 208  | 211  | 1      | 210 | 12       | 19   | 31  |
| 特別支援学校教員養成課程   | —    | 23   | 28   | 27   | 28   | 26   | 0      | 26  | 0        | 2    | 2   |
| 障害児教育教員養成課程    | 23   | 1    | 1    | —    | —    | —    | —      | —   | —        | —    | —   |
| 養護教諭養成課程       | 46   | 40   | 43   | 49   | 46   | 42   | 0      | 42  | 2        | 1    | 3   |
| 現代学芸課程（新課程）    | 234  | 244  | 240  | 238  | 250  | 246  | 7      | 239 | 19       | 20   | 39  |
| 現代学芸課程         | 208  | 236  | 236  | 238  | 250  | 246  | 7      | 239 | 19       | 20   | 39  |
| 国際理解教育課程       | 8    | 1    | 1    | —    | —    | —    | —      | —   | —        | —    | —   |
| 生涯教育課程         | 2    | 3    | 1    | —    | —    | —    | —      | —   | —        | —    | —   |
| 情報教育課程         | 8    | 3    | 2    | —    | —    | —    | —      | —   | —        | —    | —   |
| 環境教育課程         | 8    | 1    | —    | —    | —    | —    | —      | —   | —        | —    | —   |
| 教育学研究科         | 126  | 126  | 128  | 109  | 84   | 72   | 2      | 70  | 27       | 12   | 39  |
| 修士課程           | 126  | 126  | 128  | 109  | 84   | 71   | 2      | 69  | 25       | 7    | 32  |
| 発達教育科学専攻       | 20   | 20   | 25   | 21   | 17   | 16   | 1      | 15  | 6        | 2    | 8   |
| 学校教育専攻（旧）      | 1    | 2    | —    | —    | —    | —    | —      | —   | —        | —    | —   |
| 特別支援教育科学専攻     | 2    | 2    | 0    | 2    | 3    | 1    | 0      | 1   | 4        | 0    | 4   |
| 障害児教育専攻（旧）     | 3    | —    | —    | —    | —    | —    | —      | —   | —        | —    | —   |
| 養護教育専攻         | 2    | 4    | 6    | 3    | 2    | 1    | 0      | 1   | 0        | 0    | 0   |
| 学校教育臨床専攻       | 12   | 21   | 18   | 11   | 9    | 11   | 0      | 11  | 0        | 0    | 0   |
| 国語教育専攻         | 6    | 4    | 8    | 3    | 3    | 4    | 0      | 4   | 0        | 0    | 0   |
| 英語教育専攻         | 4    | 4    | 3    | 4    | 2    | 3    | 0      | 3   | 1        | 0    | 1   |
| 社会科教育専攻        | 19   | 13   | 23   | 21   | 10   | 4    | 1      | 3   | 3        | 2    | 5   |
| 数学教育専攻         | 10   | 11   | 8    | 6    | 6    | 3    | 0      | 3   | 0        | 0    | 0   |
| 理科教育専攻         | 13   | 10   | 8    | 11   | 11   | 9    | 0      | 9   | 1        | 0    | 1   |
| 芸術教育専攻         | 14   | 22   | 14   | 18   | 10   | 10   | 0      | 10  | 5        | 3    | 8   |
| 保健体育専攻         | 17   | 11   | 11   | 7    | 6    | 6    | 0      | 6   | 2        | 0    | 2   |
| 家政教育専攻         | 2    | 0    | 2    | 1    | 3    | 2    | 0      | 2   | 3        | 0    | 3   |
| 技術教育専攻         | 1    | 2    | 2    | 1    | 2    | 1    | 0      | 1   | 0        | 0    | 0   |
| 後期3年博士課程       | —    | —    | —    | —    | 0    | 1    | 0      | 1   | 2        | 5    | 7   |
| 共同教科開発学専攻      | —    | —    | —    | —    | 0    | 1    | 0      | 1   | 2        | 5    | 7   |
| 教育実践研究科 教職実践専攻 | 27   | 36   | 38   | 33   | 45   | 43   | 0      | 43  |          |      |     |
| 教職実践応用領域       | 16   | 18   | 16   | 13   | 18   | 14   | 0      | 14  | 0        | 0    | 0   |
| 教職実践基礎領域       | 11   | 18   | 22   | 20   | 27   | 29   | 0      | 29  | 0        | 0    | 0   |
| 特別支援教育特別専攻科    | 29   | 25   | 22   | 29   | 27   | 34   | 0      | 34  |          |      |     |
| 特別支援教育専攻       | 29   | 25   | 22   | 29   | 27   | 34   | 0      | 34  | 0        | 0    | 0   |

\* 後期3年博士課程は2012年度設置。

## 3 教育課程

## (1) 教育学部の履修基準（課程別）

(数値：単位数)

|        |              | 教員養成課程         |                |                  |              | 現代学芸課程  |
|--------|--------------|----------------|----------------|------------------|--------------|---------|
|        |              | 初等教育教員<br>養成課程 | 中等教育教員<br>養成課程 | 特別支援学校<br>教員養成課程 | 養護教諭<br>養成課程 |         |
| 共通科目   | 教養科目         | 12             | 12             | 12               | 12           | 12      |
|        | 日本国憲法        | 2              | 2              | 2                | 2            | 2       |
|        | 情報教育入門       | 2              | 2              | 2                | 2            | 2       |
|        | 外国語科目        | 6              | 6              | 6                | 6            | 6       |
|        | スポーツ科目       | 2              | 2              | 2                | 2            | 2       |
|        | 初年次演習        | 1              | 1              | 1                | 1            | 1       |
| 専門教育科目 | 教科研究科目       | 6 ～ 13         | 0 ～ 2          | 10               | －            | －       |
|        | 共通基礎専門科目     | －              | －              | －                | －            | 6       |
|        | 専攻科目         |                |                |                  |              |         |
|        | 教科専攻科目       |                |                |                  |              |         |
|        | 教育科学専攻科目     |                |                |                  |              |         |
|        | 幼児教育選修科目     |                |                |                  |              |         |
|        | 情報専攻科目       |                |                |                  |              |         |
|        | 特別支援教育専攻科目   |                |                |                  |              |         |
|        | 養護教育専攻科目     |                |                |                  |              |         |
|        | 教職科目         |                |                |                  |              |         |
|        | 教科教育科目       |                |                |                  |              |         |
|        | 保育内容研究科目     |                |                |                  |              |         |
|        | 教育科目         |                |                |                  |              |         |
|        | 教科又は教職に関する科目 |                |                |                  |              |         |
|        | 養護又は教職に関する科目 |                |                |                  |              |         |
|        | 卒業研究         | 6              | 6              | 6                | 6            | 10      |
| 自由科目   |              | 20 ～ 29        | 16 ～ 24        | 3                | 20           | 21 ～ 25 |
| 合 計    |              | 128            | 128            | 128              | 128          | 128     |

## (2) 授業形態の組合せ・バランス

2015 年度授業形態比率

| 教育学部         |        |        |        |        |        |        |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 授業形態         | 共通科目   | 専門教育科目 |        |        |        |        |
|              |        | 初等     | 中等     | 特別支援   | 養護     | 現代学芸   |
| 講義           | 48.0 % | 44.2 % | 39.0 % | 75.0 % | 50.0 % | 52.4 % |
| 演習           | 52.0 % | 38.4 % | 41.5 % | 20.8 % | 15.0 % | 34.6 % |
| 実験・実習・実技     | 0 %    | 17.4 % | 19.5 % | 4.2 %  | 35.0 % | 13.0 % |
| 教育学研究科（修士課程） |        |        |        |        |        |        |
| 授業形態         | 比率     | 開設科目数  |        |        |        |        |
| 講義           | 52.9 % | 515    |        |        |        |        |
| 演習           | 45.1 % | 439    |        |        |        |        |
| 実験・実習・実技     | 2.1 %  | 20     |        |        |        |        |
| 合 計          |        | 974    |        |        |        |        |

2015年度教育学研究科（修士課程）開講状況

| 開設形態別   |       |        |       |        |        |       |         |        |     |
|---------|-------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|--------|-----|
|         | 前 期   |        |       | 後 期    |        |       | 合 計     |        |     |
|         | 開講数   | 未開講    | 開設数   | 開講数    | 未開講    | 開設数   | 開講数     | 未開講    | 開設数 |
| 通 常     | 128   | 46     | 174   | 115    | 51     | 166   | 243     | 97     | 340 |
| 土 曜     | 6     | 1      | 7     | 7      | 1      | 8     | 13      | 2      | 15  |
| 夜 間     | 41    | 57     | 98    | 43     | 53     | 96    | 84      | 110    | 194 |
| 集 中     | 33    | 8      | 41    | 25     | 6      | 31    | 58      | 14     | 72  |
| 合 計     | 208   | 112    | 320   | 190    | 111    | 301   | 398     | 223    | 621 |
| 受講者数別   |       |        |       |        |        |       |         |        |     |
|         | 開 講 数 |        | 比 率   | 開 講 数  |        | 比 率   | 開 講 数   |        | 比 率 |
|         | 11人以上 | 33     |       | 18     | 9.5 %  |       | 51      | 12.8 % |     |
| 10人以下   | 175   | 84.1 % |       | 172    | 90.5 % |       | 347     | 87.2 % |     |
| 合 計     | 208   |        |       | 190    |        |       | 398     |        |     |
| 受講者数    |       | 総人数    |       | 平均受講者数 |        | 総人数   |         | 平均受講者数 |     |
| 受講者のべ人数 |       | 955 人  | 4.6 人 | 738 人  |        | 3.9 人 | 1,693 人 | 4.3 人  |     |

## (3) 教育実地研究(教育実習)の実施状況

教育実地研究(教育実習)一覧

| 実習の種類    | 教員養成課程 |      |      |      | 現代学芸課程 | 実習校 |     |     |      |      | 実施時期・期間        |        |                | 実習の目的                                           |
|----------|--------|------|------|------|--------|-----|-----|-----|------|------|----------------|--------|----------------|-------------------------------------------------|
|          | 初等教育   | 中等教育 | 特別支援 | 養護教諭 |        | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 特別支援 | 1年次            | 3年次    | 4年次            |                                                 |
| 基礎実習     | ○      | ○    | ○    | ○    |        | ◇   | ◇   | ◇   | ◇    | ◇    | 9月3日間<br>又は5日間 |        |                | 学校・教師・子ども理解のための観察実習                             |
| 主免実習     | ◎      | ◎    |      |      |        | □   | □   | □   | ◇    |      |                | 10月3週間 |                | 教師の仕事や使命の理解、指導実務能力の獲得、教職適正確認のための実習              |
| 基礎免実習    |        |      | ◎    |      |        | □   |     |     |      |      |                | 10月3週間 |                | "                                               |
| 養護実習     |        |      |      | ◎    |        | □   |     |     |      |      |                | 10月4週間 |                | 養護教諭としての役割理解、教師の仕事や使命の理解、指導実務能力の獲得、教職適正確認のための実習 |
| 隣接校種実習   | ○      | ○    |      |      |        |     | □   | □   | □    |      |                |        | 6月2週間          | 隣接校種の理解、主免実習の深化・拡充の実習                           |
| 副免実習     |        |      | ○    |      |        |     | □   |     |      |      |                |        | 6月3週間          | "                                               |
| 特別支援教育実習 |        |      | ◎    |      |        |     |     |     |      | □    |                |        | 6月3週間          | 障害児の理解と指導資質向上の実習                                |
| 導入実習     |        |      |      |      | ○      |     | ◇   | ◇   |      |      | 9月1日間<br>又は5日間 |        |                | 学校・教師・子ども理解のための観察実習                             |
| 教育実習     |        |      |      | ○    |        |     | □   | □   |      |      |                |        | 6月2週間<br>又は3週間 | 教師の仕事や使命の理解、指導実務能力の獲得、教職適正確認のための実習              |

\* ◎ 必修科目 ○ 選択科目 □ 附属学校&amp;協力校 ◇ 附属学校

\* 1つの実習で複数の実習期間が設定されているのは、所属する教育課程や取得する教員免許状の種類等の違いによるもの。

2015年度教育実地研究(教育実習)実施状況集計表

| 実習の種類    | 実 習 生 数 (のべ人数) |      |      |      |        |     |       | 実 習 校 数 |     |     |      |      |       |
|----------|----------------|------|------|------|--------|-----|-------|---------|-----|-----|------|------|-------|
|          | 教員養成課程         |      |      |      | 現代学芸課程 | 専攻科 | 合計(人) | 学校種     |     |     |      |      | 合計(校) |
|          | 初等教育           | 中等教育 | 特別支援 | 養護教諭 |        |     |       | 幼稚園     | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 特別支援 |       |
| 主免実習     | * 432          | 209  | -    | -    | -      | -   | 641   | }       |     |     |      |      |       |
| 基礎免実習    | -              | -    | 29   | -    | -      | -   | 29    |         | 6   | 235 | 90   | 1    | 2     |
| 養護実習     | -              | -    | -    | 44   | -      | -   | 44    |         |     |     |      |      |       |
| 隣接校種実習   | 354            | 149  | -    | -    | -      | -   | 503   |         |     |     |      |      |       |
| 副免実習     | -              | -    | -    | 27   | -      | -   | 27    | }       | -   | 12  | 199  | 20   | -     |
| 教育実習     | -              | -    | -    | -    | 89     | -   | 89    |         |     |     |      |      |       |
| 特別支援教育実習 | -              | -    | 25   | -    | -      | 34  | 59    |         | -   | -   | -    | 19   | 19    |
| 小計       | 786            | 358  | 54   | 71   | 89     | 34  | 1,392 |         | 6   | 247 | 289  | 21   | 21    |
| 基礎実習     | 422            | 199  | 25   | 45   | -      | -   | 691   |         | 1   | 2   | 2    | 1    | 1     |
| 導入実習     | -              | -    | -    | -    | 119    | -   | 119   |         | -   | -   | 2    | 1    | -     |
| 小計       | 422            | 199  | 25   | 45   | 119    | 0   | 810   |         | 1   | 2   | 4    | 2    | 1     |
| 合計       | 1,208          | 557  | 79   | 116  | 208    | 34  | 2,202 |         | 7   | 249 | 293  | 23   | 22    |

\* 主免実習に参加した初等教育教員養成課程 432人には、小学校教員免許取得コースに在籍する大学院生19人を含む。

主免実習・基礎免実習・養護実習

| 実習校種     | 実習校数 | 実 習 生 数 (人) |      |            |           | 合計(人)    |
|----------|------|-------------|------|------------|-----------|----------|
|          |      | 主免実習(3週間)   |      | 基礎免実習(3週間) | 養護実習(4週間) |          |
|          |      | 初等教育        | 中等教育 | 特別支援       | 養護教諭      |          |
| 幼稚園      | 6    | 21          |      |            |           | 21       |
| 愛知県内協力園  | 5    | 8           |      |            |           | 8        |
| 附属幼稚園    | 1    | 13          |      |            |           | 13       |
| 小学校      | 235  | (19) 411    |      | 27         | 44        | (19) 482 |
| 愛知県協力学校  | 216  | 247         |      | 20         | 39        | 306      |
| 名古屋市協力学校 | 17   | 61          |      | 1          | 0         | 62       |
| 附属名古屋小学校 | 1    | (12) 55     |      | 3          | 2         | (12) 60  |
| 附属岡崎小学校  | 1    | (7) 48      |      | 3          | 3         | (7) 54   |
| 中学校      | 90   |             | 199  |            |           | 199      |
| 愛知県協力学校  | 76   |             | 105  |            |           | 105      |
| 名古屋市協力学校 | 12   |             | 21   |            |           | 21       |
| 附属名古屋中学校 | 1    |             | 37   |            |           | 37       |
| 附属岡崎中学校  | 1    |             | 36   |            |           | 36       |
| 高等学校     | 1    |             | 10   |            |           | 10       |
| 附属高等学校   | 1    |             | 10   |            |           | 10       |
| 聾学校      | 2    |             |      | 2          |           | 2        |
| 愛知県協力学校  | 2    |             |      | 2          |           | 2        |
| 合計       | 334  | (19) 432    | 209  | 29         | 44        | (19) 714 |

- \* 主免実習、基礎免実習、養護実習は、卒業要件となる校種の教育実習で、3年次に教員養成4課程の学生が履修する必修科目
- \* 教師の仕事や使命の理解、指導実務能力の獲得、教職適正確認が目的
- \* 実施期間 3週間：2015. 9.28(月) ～ 10.16(金)
- \* ( )は小免取得コースに在籍する大学院生19人（教育学研究科7人、教育実践研究科12人）を示し内数。
- \* 基礎免実習において、聴覚障害を持っている学生は聾学校にて実習を行う。

## 隣接校種実習・副免実習・教育実習

| 実習校種     | 実習校数 | 実 習 生 数 (人)  |              |              |              |              | 合計 (人) |
|----------|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------|
|          |      | 隣接校種実習       |              | 副免実習         | 教育実習         |              |        |
|          |      | 2 週間<br>初等教育 | 2 週間<br>中等教育 | 3 週間<br>養護教諭 | 3 週間<br>現代学芸 | 2 週間<br>現代学芸 |        |
| 小学校      | 12   | 16           | 120          |              |              |              | 136    |
| 愛知県協力学校  | 0    |              |              |              |              |              | 0      |
| 名古屋市協力学校 | 10   |              | 25           |              |              |              | 25     |
| 附属名古屋小学校 | 1    | 11           | 49           |              |              |              | 60     |
| 附属岡崎小学校  | 1    | 5            | 46           |              |              |              | 51     |
| 中学校      | 199  | 338          | 3            | 27           | 55           |              | 423    |
| 愛知県協力学校  | 180  | 236          | 2            | 21           | 29           |              | 288    |
| 名古屋市協力学校 | 17   | 52           |              | 3            | 5            |              | 60     |
| 附属名古屋中学校 | 1    | 28           |              | 1            | 10           |              | 39     |
| 附属岡崎中学校  | 1    | 22           | 1            | 2            | 11           |              | 36     |
| 高等学校     | 20   |              | 26           |              | 14           | 20           | 60     |
| 愛知県協力学校  | 14   |              | 4            |              |              | 11           | 15     |
| 名古屋市協力学校 | 2    |              |              |              | 1            | 1            | 2      |
| 私立協力学校   | 3    |              |              |              |              | 3            | 3      |
| 附属高等学校   | 1    |              | 22           |              | 13           | 5            | 40     |
| 合計       | 231  | 354          | 149          | 27           | 69           | 20           | 619    |

- \* 隣接校種実習、副免実習、教育実習は、隣接校種の理解、主免実習の深化・拡充を目的として、4年次に履修する選択科目
- \* 隣接校種実習は初等教育教員養成課程及び中等教育教員養成課程の学生が、副免実習は養護教諭養成課程の学生が、それぞれ副免許状を取得するために履修
- \* 教育実習は現代学芸課程の学生のうち、中学校及び高等学校の1種免許状の取得希望者が3週間の実習を履修し、高等学校1種免許状のみの取得希望者は2週間の実習を行う。
- \* 実施期間 3週間：2015. 6.1(月) ～ 6.19(金) / 実施期間 2週間：2015. 6.1(月) ～ 6.12(金)

## 特別支援教育実習

| 実習校種     | 実習校数 | 実 習 生 数 (人) |            | 合計 (人) |
|----------|------|-------------|------------|--------|
|          |      | 3週間<br>特別支援 | 2週間<br>専攻科 |        |
| 特別支援学校   | 5    | 16          |            | 16     |
| 愛知県協力学校  | 4    | 7           |            | 7      |
| 附属特別支援学校 | 1    | 9           |            | 9      |
| 聾学校      | 5    | 9           |            | 9      |
| 愛知県協力学校  | 5    | 9           |            | 9      |
| 特別支援学校   | 14   |             | 34         | 34     |
| 愛知県協力学校  | 11   |             | 18         | 18     |
| 名古屋市協力学校 | 2    |             | 4          | 4      |
| 附属特別支援学校 | 1    |             | 12         | 12     |
| 合計       | 24   | 25          | 34         | 59     |

- \* 特別支援教育実習は、特別支援学校教員養成課程の学生が4年次の6月に3週間、特別支援教育特別専攻科の学生は10月に2週間の実習を履修する必修科目
- \* 障害児の理解と指導資質向上が目的
- \* 実施期間3週間：2015. 6.1(月) ～ 6.19(金)
- \* 実施期間2週間：2015. 9. 28(月) ～ 10.9(金)

## 基礎実習

| 実習校種     | 実 習 生 数 (人) |             |             |             | 合計 (人)  |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|
|          | 3日間<br>初等教育 | 3日間<br>中等教育 | 5日間<br>特別支援 | 3日間<br>養護教諭 |         |
| 附属幼稚園    | 20          |             |             |             | 20      |
| 附属名古屋小学校 | 229         |             |             | 15          | 244     |
| 附属岡崎小学校  | 173         |             | 25          | 12          | 210     |
| 附属名古屋中学校 |             | 58          |             | 12          | 70      |
| 附属岡崎中学校  |             | 51          |             | 6           | 57      |
| 附属高等学校   |             | 90          |             |             | 90      |
| 附属特別支援学校 |             |             | (25)        |             | (25)    |
| 合計       | 422         | 199         | 25(25)      | 45          | 691(25) |
| 在籍者数     | 423         | 203         | 27          | 45          | 698     |
| 参加率 (%)  | 99.8        | 98.0        | 92.6        | 100         | 99.0    |

- \* 基礎実習は、教員養成4課程の学生が1年次に履修する選択科目
- \* 「観察・参加」を主とした教育実習であり、本学の附属学校で実施
- \* 実施期間：2015.9.3(木)～18(金)のうち3日間又は5日間。なお、特別支援学校実習は9.8(火)～9.9(水)。
- \* ( )は、特別支援学校教員養成課程の学生で附属岡崎小学校の実習参加者として計上した者を再掲。

## 導入実習

| 実習校種     | 実習生数(人)  |         | 合計(人) |
|----------|----------|---------|-------|
|          | 5日間/現代学芸 | 1日/現代学芸 |       |
| 附属名古屋中学校 | 33       |         | 33    |
| 附属岡崎中学校  | 21       |         | 21    |
| 附属高等学校   | 40       | 25      | 65    |
| 合計       | 94       | 25      | 119   |

\* 実施期間5日間：2015.9.14(月)～9.29(火)

\* 実施期間1日：2015.9.14(月)

\* 導入実習は、現代学芸課程の学生のうち教育職員免許状の取得希望者を対象に、本学附属学校で5日間の実習を行う選択科目。ただし、高等学校1種免許状のみの取得希望者は1日の実習を行う。

\* 「観察」的な実習を中心に「教師の使命・仕事」及び「生徒理解・授業づくり」を省察し、教育という営みをとらえ直し、教育者としての自覚やその資質の向上を図る土台を築くことが目標。

## (4) 介護等体験活動の実施状況

## 2015年度 介護等体験実施状況

| 受入機関等        | 受入機関数 | 参加人数 |
|--------------|-------|------|
| 本学附属特別支援学校   | 1     | 671  |
| 県内公立特別支援学校   | 4     | 97   |
| 県内社会福祉施設     | 79    | 743  |
| 特別養護老人ホーム    | 14    | 120  |
| 養護老人ホーム      | 4     | 30   |
| 老人デイサービスセンター | 18    | 156  |
| 児童発達支援センター   | 5     | 44   |
| 障害者支援施設      | 15    | 150  |
| 地域活動支援センター   | 0     | 0    |
| 児童養護施設       | 2     | 23   |
| 障害児入所支援施設    | 1     | 10   |
| 母子生活支援施設     | 3     | 27   |
| 乳児院          | 1     | 11   |
| 生活介護施設       | 16    | 172  |

\* 介護等体験は、これから教員を目指す学生が、障害のある児童や生徒が学ぶ学校で介護や介助、交流等を自らの体験として持つとともに、この体験を今後の教育活動に生かすことを期待して行われるもの。

\* 介護等体験の内容としては、障害者、高齢者等に対する直接的な介護、介助のほか、話し相手、散歩の付き添い、行事の補助、掃除、洗濯など、交流体験をはじめとする幅広い活動内容となっている。

\* 本学では、教員養成課程（特別支援学校教員養成課程を除く）の学生は1年次に附属特別支援学校で2日間、2年次に県内の社会福祉施設で5日間の体験を実施している。また、現代学芸課程の学生は、3年次に県内の公立特別支援学校で2日間、県内の社会福祉施設で5日間の体験を実施している。

## (5) 教育実践研究科（教職大学院）学校実習の実施状況

| 科目名称        | 単位数 | 配当<br>年次 | 受講者(人) |    | 実習実施（配当）先                                                                      | 実施時期等                                                                                       |
|-------------|-----|----------|--------|----|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |     |          | 基礎     | 応用 |                                                                                |                                                                                             |
| 特別課題実習(基礎)  | 1   | 1        | 29     | —  | 豊田市立東保見小学校                                                                     | ①10/13(火)・10/16(金)・10/20(火)・10/23(金)<br>②10/27(火)・10/30(金)・11/6(金)・11/10(火)<br>※ ①②のいずれかで受講 |
| 特別課題実習(応用A) | 1   | 1        | —      | 15 | 豊田市立西保見小学校                                                                     |                                                                                             |
| 他校種実習       | 1   | 1        | —      | 11 | 名古屋市立明倫小学校 始め連携協力校<br>11校（小3校、中8校）                                             | 10/13(火)・10/16(金)・10/20(火)・10/23(金)                                                         |
| 教師力向上実習Ⅰ    | 4   | 2        | 29     | —  | 名古屋市立平和小学校 始め連携協力校<br>27校（小20校、中6校、高1校）                                        | ①5/11(月)～6/5(金) ②6/1(月)～6/26(金)<br>※ 基本日程①②のいずれかで受講（4週）                                     |
| 教師力向上実習Ⅱ    | 4   | 2        | 29     | —  | 名古屋市立平和小学校 始め連携協力校<br>27校（小20校、中6校、高1校）                                        | ①9/28(月)～10/23(金) ②10/5(月)～10/30(金)<br>※ 基本日程①②のいずれかで受講（4週）                                 |
| 教師力向上実習Ⅲ    | 1   | 2        | 29     | —  | 応用領域学生の現任校14校<br>（小10校、中4校）                                                    | ①11/9(月)～11/13(金)<br>②11/16(月)～11/20(金)<br>※ 基本日程①②のいずれかで受講（2週）                             |
| メンター実習      | 2   | 2        | —      | 14 | ※両実習の履修者がペアを組んで行う。                                                             | ※ メンター実習には、事前事後のメンティー指導や校内調整活動を含む。                                                          |
| 課題実践実習      | 6   | 2        | —      | 14 | 応用領域学生の現任校14校<br>（小10校、中4校）                                                    | 前期を通じて実施（270時間）                                                                             |
| 多様なフィールド実習  | 1   | 2        | 28     | 5  | 刈谷市中央図書館 始め連携協力(社会教育系)機関6機関（16人配当）<br>名古屋子ども適応相談センター 始め連携協力(社会福祉系)機関8機関（17人配当） | 前期の7～9月において1週間実施                                                                            |
| 開講 9科目      | のべ数 |          | 144    | 59 | 109 機関                                                                         |                                                                                             |
|             | 実数  |          | 58     | 29 | 63 機関                                                                          |                                                                                             |

\* 教職実践専攻の「学校における実習科目」の実施にあたっては、実習実施要項（各実習の目的、課題、指導と評価、評価観点と方法などを明示）を定めて、学生及び連携協力校へ配付し、実習についての理解を図っている。また、実習履修要件（事前の単位修得等の要件）を設け、各実習のための準備時間を担保し、資質・能力の修得目標が達成できるように留意している。

## (6) 多様なニーズ、社会的動向等への取組

## ① 6年一貫教員養成コース

|                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>設置</b>                                                                                                                                                                                                   |
| 2006年4月                                                                                                                                                                                                     |
| <b>目的</b>                                                                                                                                                                                                   |
| 4年間の学部教育で培う教員としての資質に加えて、実践力・企画力・コミュニケーション能力・研究能力・組織力等の高度な教職専門能力を養成すること                                                                                                                                      |
| <b>特色</b>                                                                                                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院修了6年次までの一貫した研究指導が受けられ、計画的な実践研究、理論研究が受けられます。</li> <li>・教育の現代的課題、学校現場や授業・教師の資質能力に対する知見を深める課題実習・テーマ実習や、海外で研修する海外教育研究Ⅰ、Ⅱをはじめとする本コース独自の授業が予定されています。</li> </ul>        |
| <b>目指す能力の育成</b>                                                                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践活動における実践力・コミュニケーション能力（実践力）</li> <li>・総合的・長期的な視点に立つ単元の企画・開発能力（企画力）</li> <li>・教育実践に関する高度な研究能力（研究能力）</li> <li>・以上の能力を踏まえたリーダーシップ（組織力）</li> </ul>                   |
| <b>コースの編成</b>                                                                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・本コースは、教員養成課程の2年次生を対象に15人程度を募集し、3年次から本コースに所属となります。</li> <li>・教育課程は、それぞれの所属課程・専攻等の教育課程に基づき履修し、3年次及び4年次で課題実習、テーマ実習等を履修しながら大学院へとつないでいく6年間を通したプログラムが設定されています。</li> </ul> |

コース進学状況（学部3年次）（単位：人）

| コース進学年次 | コース進学者数 |
|---------|---------|
| 2010    | 14      |
| 2011    | 9       |
| 2012    | 7       |
| 2013    | 5       |
| 2014    | 2       |
| 2015    | 8       |

学部から大学院への進学状況

（単位：人）

| 年 度  | 教育学研究科<br>進学者 | 教育実践研究科<br>進学者 ※ | 大学院<br>進学辞退者 |
|------|---------------|------------------|--------------|
| 2010 | 7             | -----            | 2            |
| 2011 | 4             | -----            | 1            |
| 2012 | 6             | 0                | 6            |
| 2013 | 6             | 0                | 1            |
| 2014 | 4             | 2                | 1            |
| 2015 | 2             | 0                | 0            |

※ 2012年度大学院進学者から6年一貫教員養成コースと教育実践研究科の接続を開始

## ② 小学校教員免許取得コース

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>設置</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2005年4月（教職大学院は2008年4月）                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>概要</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 教員養成大学・学部以外では取得が困難な小学校教員免許を持たない大学卒業生の、小学校教員免許取得のニーズに応えるため、大学院の合格（入学）者が、別途申請の上、許可された場合に、大学院で小学校教員免許取得に必要な学部の科目を履修することができるコースを設置した。（大学院教育実践研究科にあっては、教職実践基礎領域のみ）。                                                                                                                                               |
| <b>特色</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の大学院教育学研究科（修士課程）または大学院教育実践研究科（教職大学院）の履修とともに、小学校教員免許状の取得に必要な学部の科目を履修する必要から修業年限を3年とし、単位修得上支障がないように配慮している。</li> <li>・このコースの大学院を修了することにより修士（修士課程）若しくは教職修士（教職大学院）の学位と共に、小学校教諭専修免許を取得する資格が得られる。（ただし、修士課程の特別支援教育科学専攻、養護教育専攻、英語教育専攻及び技術教育専攻においては、小学校教諭1種免許となる。）</li> </ul> |

小学校教員免許取得コース入学者数

（単位：人）

| 年 度  | 教育学研究科<br>入学者数 | 内 訳 |       | 教育実践研究科<br>入学者数 | 内 訳 |       |
|------|----------------|-----|-------|-----------------|-----|-------|
|      |                | 他大学 | 本学卒業生 |                 | 他大学 | 本学卒業生 |
| 2010 | 13             | 9   | 4     | 12              | 12  | 0     |
| 2011 | 16             | 14  | 2     | 9               | 8   | 1     |
| 2012 | 13             | 12  | 1     | 5               | 4   | 1     |
| 2013 | 5              | 5   | 0     | 9               | 8   | 1     |
| 2014 | 10             | 9   | 1     | 12              | 11  | 1     |
| 2015 | 6              | 6   | 0     | 11              | 11  | 0     |

教員免許を全く取得していない場合の単位修得例（教育実践研究科を除く）

（数値：単位数）

| 学 年 | 教育学研究科 | 学 部 | 合 計 |
|-----|--------|-----|-----|
| 1年次 | 4      | 41  | 45  |
| 2年次 | 18     | 20  | 38  |
| 3年次 | 8      | —   | 8   |
| 計   | 30     | 61  | 91  |

## ③ 単位認定の実施状況

## 教育学部

| ① 入学前の既修得単位の認定 |      |       |       |         |         |        |
|----------------|------|-------|-------|---------|---------|--------|
| 年 度            | 認定者数 | 1～4単位 | 5～9単位 | 10～14単位 | 15～19単位 | 20単位以上 |
| 2011           | 3    | 1     | 1     | 0       | 0       | 1      |
| 2012           | 1    | 0     | 0     | 1       | 0       | 0      |
| 2013           | 3    | 0     | 1     | 2       | 0       | 0      |
| 2014           | 1    | 1     | 0     | 0       | 0       | 0      |
| 2015           | 3    | 1     | 2     | 0       | 0       | 0      |

| ② 大学以外の教育施設等における学修の単位認定 |      |     |     |     |     |     |                 |                  |
|-------------------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----------------|------------------|
| 年 度                     | 認定者数 | 1単位 | 2単位 | 3単位 | 4単位 | 英 検 | トーフル<br>(TOEFL) | トーイック<br>(TOEIC) |
| 2011                    | 40   | 12  | 28  | 0   | 0   | 0   | 1               | 39               |
| 2012                    | 64   | 17  | 46  | 1   | 0   | 0   | 0               | 64               |
| 2013                    | 58   | 20  | 37  | 0   | 1   | 0   | 0               | 58               |
| 2014                    | 19   | 12  | 6   | 1   | 0   | 0   | 1               | 18               |
| 2015                    | 13   | 7   | 4   | 2   | 0   | 0   | 0               | 13               |

| ③ 海外留学中に修得した単位の認定 |      |       |       |         |         |        |
|-------------------|------|-------|-------|---------|---------|--------|
| 年 度               | 認定者数 | 1～4単位 | 5～9単位 | 10～14単位 | 15～19単位 | 20単位以上 |
| 2011              | 2    | 1     | 0     | 1       | 0       | 0      |
| 2012              | 1    | 0     | 0     | 1       | 0       | 0      |
| 2013              | 0    | 0     | 0     | 0       | 0       | 0      |
| 2014              | 3    | 2     | 1     | 0       | 0       | 0      |
| 2015              | 1    | 1     | 0     | 0       | 0       | 0      |

| ④ 単位互換に関する包括協定により修得した単位の認定 |      |     |     |     |     |       |
|----------------------------|------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 年 度                        | 認定者数 | 1単位 | 2単位 | 3単位 | 4単位 | 5単位以上 |
| 2011                       | 3    | 0   | 2   | 0   | 0   | 1     |
| 2012                       | 4    | 0   | 3   | 0   | 1   | 0     |
| 2013                       | 2    | 0   | 1   | 0   | 1   | 0     |
| 2014                       | 3    | 0   | 3   | 0   | 0   | 0     |
| 2015                       | 5    | 0   | 4   | 0   | 0   | 1     |

\* 海外に留学して履修した授業科目や他大学等において履修した授業科目については、60 単位を超えない範囲で本学において履修したものとみなして  
います（学則第 69 条～第 71 条）。

\* 特に、「英語コミュニケーション」及び「外国語科目」については、大学以外の教育施設等における学修の単位認定を認めています。

## 大学院（教育学研究科（修士課程）及び教育実践研究科（教職大学院））

| ① 他の大学院において履修した授業科目の認定    |                |                |                 |                     |       |                 |                     |
|---------------------------|----------------|----------------|-----------------|---------------------|-------|-----------------|---------------------|
| 年 度                       | 教育学研究科（修士課程）   |                |                 | 教育実践研究科（教職大学院）      |       |                 |                     |
|                           | 認定者数           | 1～5単位          | 6～10単位          | 認定者数                | 1～5単位 | 6～10単位          |                     |
| 2011                      | 0              | 0              | 0               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| 2012                      | 0              | 0              | 0               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| 2013                      | 0              | 0              | 0               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| 2014                      | 0              | 0              | 0               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| 2015                      | 0              | 0              | 0               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| ② 入学前の既修得単位の認定            |                |                |                 |                     |       |                 |                     |
| 年 度                       | 教育学研究科（修士課程）   |                |                 | 教育実践研究科（教職大学院）      |       |                 |                     |
|                           | 認定者数           | 1～5単位          | 6～10単位          | 認定者数                | 1～5単位 | 6～10単位          |                     |
| 2011                      | 0              | 0              | 0               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| 2012                      | 0              | 0              | 0               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| 2013                      | 1              | 0              | 1               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| 2014                      | 0              | 0              | 0               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| 2015                      | 1              | 0              | 1               | 0                   | 0     | 0               |                     |
| ③ 実習科目の履修免除に伴う認定（教職大学院のみ） |                |                |                 |                     |       |                 |                     |
| 年 度                       | 教育実践研究科（教職大学院） |                |                 |                     |       |                 |                     |
|                           | 教育実践応用領域       |                |                 | 教育実践基礎領域            |       |                 |                     |
|                           | 認定者数           | 他校種実習<br>（1単位） | 特別課題実習<br>（1単位） | 多様なフィールド<br>実習（1単位） | 認定者数  | 特別課題実習<br>（1単位） | 多様なフィールド<br>実習（1単位） |
| 2011                      | 18             | 5              | 0               | 13                  | 0     | 0               | 0                   |
| 2012                      | 20             | 6              | 0               | 14                  | 2     | 0               | 2                   |
| 2013                      | 21             | 8              | 0               | 13                  | 0     | 0               | 0                   |
| 2014                      | 16             | 4              | 2               | 10                  | 1     | 0               | 1                   |
| 2015                      | 16             | 4              | 0               | 12                  | 2     | 0               | 2                   |

\* 他大学等において履修した授業科目や本学入学前に他の大学院等において履修した授業科目については、10 単位を超えない範囲で本学において履修したものとみなしています（学則第 85 条～第 86 条）。

\* 教職大学院においては、入学前の教員実務経験等により、実習科目の一部で履修を免除することができます。（学則第 87 条第 5 項、愛知教育大学教育実践研究科履修規程第 8 条）

## ④ 編入学の実施状況

## 3年次編入学（養護教諭養成課程）入学状況

| 入学年度         | 入学者数 | 出身大学   | 内訳     |
|--------------|------|--------|--------|
| 2010         | 2人   | 国立大学 1 | 私立大学 1 |
| 2011         | 2人   | 国立大学 1 | 私立短大 1 |
| 2012         | 2人   | 国立大学 0 | 私立大学 2 |
| 2013         | 2人   | 国立大学 1 | 私立大学 1 |
| 2014         | 1人   | 国立大学 0 | 私立大学 1 |
| 2015年度から取りやめ |      |        |        |

\*養護教諭養成課程においてのみ、若干名の3年次編入学生を受け入れています。受入例は、2年間で学生が卒業できるよう時間割編成等の配慮を行っています。

## ⑤ インターンシップの実施状況

## 2015年度インターンシップ実施状況

参加人数 63人

| 所 属          | 学年 | 性別 | 体験先               | 受入期間                     | 実働日数 | 参加動機              |
|--------------|----|----|-------------------|--------------------------|------|-------------------|
| 初等教員養成課程     |    |    |                   |                          |      |                   |
| 教育科学選修       | 3  | 男  | 文部科学省初等中等教育局参事官   | 7月13日～7月24日              | 9    | 大学からの募集案内         |
| 教育科学選修       | 3  | 女  | 法務省名古屋少年鑑別所       | 8月5日～8月7日                | 3    | 大学からの募集案内         |
| 教育科学選修       | 3  | 女  | 岐阜市役所科学館          | 8月6日～8月12日               | 7    | 大学からの募集案内         |
| 教育科学選修       | 3  | 女  | 岐阜県庁健康福祉部女性の活躍推進課 | 8月17日～8月20日              | 4    | 岐阜県インターンシップ推進協議会  |
| 国語選修         | 3  | 女  | 豊田市役所とよた市民活動センター  | 9月16日～9月20日              | 5    | 大学からの募集案内         |
| 国語選修         | 3  | 男  | 刈谷市役所教育総務課、学校教育課  | 2月12日, 2月15日, 2月18日      | 3    | 大学からの募集案内         |
| 社会選修         | 2  | 男  | オオサカヤKiriri       | 8月11日～9月30日              | 12   | 大学からの募集案内         |
| 社会選修         | 3  | 男  | 一宮市役所図書館          | 8月13日～8月15日, 8月18日～8月20日 | 6    | 大学からの募集案内         |
| 社会選修         | 3  | 男  | 刈谷市役所都市整備課        | 8月17日～8月20日              | 4    | 大学からの募集案内         |
| 音楽選修         | 3  | 女  | 名古屋市役所緑区総務課       | 8月10日～9月7日               | 10   | 東海地域インターンシップ推進協議会 |
| 音楽選修         | 3  | 女  | 豊橋市役所こども未来館       | 8月28日～9月8日               | 10   | 個人応募(HP)          |
| 美術選修         | 3  | 女  | 刈谷市役所美術館          | 2月11日, 2月23日, 2月28日      | 3    | 大学からの募集案内         |
| 家庭選修         | 3  | 女  | 豊田信用金庫            | 8月10日～8月14日              | 5    | 豊田市雇用対策協会         |
| 家庭選修         | 3  | 女  | 蒲郡市役所総務部防災課       | 9月7日～9月10日               | 4    | 大学からの募集案内         |
| 中等教員養成課程     |    |    |                   |                          |      |                   |
| 教育科学専攻       | 3  | 女  | 小牧市役所こども未来部こども政策課 | 8月10日～8月21日              | 10   | 大学からの募集案内         |
| 国語・書道専攻      | 3  | 女  | 愛知労働局職業安定部職業対策課   | 9月7日～9月18日               | 10   | 東海地域インターンシップ推進協議会 |
| 国語・書道専攻      | 3  | 女  | 神奈川県庁県民局青少年センター   | 8月8日                     | 1    | 大学からの募集案内         |
| 数学専攻         | 2  | 女  | 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 | 2月8日～2月19日               | 9    | 大学からの募集案内         |
| 数学専攻         | 3  | 女  | 豊田市役所とよた市民活動センター  | 9月9日～9月12日, 9月16日        | 5    | 大学からの募集案内         |
| 数学専攻         | 3  | 女  | 岡崎信用金庫            | 2月3日～2月5日                | 3    | 個人応募              |
| 理科専攻         | 3  | 男  | 刈谷市役所公園緑地課        | 2月1日～2月4日                | 4    | 大学からの募集案内         |
| 理科専攻         | 4  | 男  | 竹島水族館             | 7月13日～7月27日              | 10   | 個人応募              |
| 技術専攻         | 3  | 男  | 刈谷市役所福祉総務部福祉総務課   | 9月8日, 9月9日, 9月11日        | 3    | 大学からの募集案内         |
| 家庭専攻         | 3  | 女  | 尾張旭市役所人事課         | 9月2日～9月3日                | 2    | 個人応募(HP)          |
| 家庭専攻         | 3  | 女  | 刈谷市役所こども課         | 1月18日～1月22日              | 5    | 大学からの募集案内         |
| 特別支援学校教員養成課程 |    |    |                   |                          |      |                   |
|              | 3  | 女  | 碧海信用金庫            | 2月2日～2月8日                | 5    | 大学からの募集案内         |
|              | 3  | 男  | 刈谷市役所教育総務課、学校教育課  | 2月12日, 2月15日, 2月18日      | 3    | 大学からの募集案内         |
| 養護教諭養成課程     |    |    |                   |                          |      |                   |
|              | 3  | 女  | 法務省瀬戸少年院          | 8月5日～8月7日                | 3    | 大学からの募集案内         |
| 現代学芸課程       |    |    |                   |                          |      |                   |
| 国際文化コース      | 3  | 女  | 愛知教育大学            | 8月20日～8月28日              | 7    | 大学からの募集案内         |
| 国際文化コース      | 3  | 女  | 高岡市役所観光課          | 8月24日～8月28日              | 5    | 富山県インターンシップ推進協議会  |
| 国際文化コース      | 3  | 女  | 豊川市役所市民部市民協働国際課   | 8月24日～8月28日              | 5    | 個人応募(HP)          |
| 国際文化コース      | 3  | 女  | 豊田市役所とよた市民活動センター  | 9月9日～9月14日               | 5    | 大学からの募集案内         |
| 国際文化コース      | 3  | 男  | 豊田市役所障がい福祉課       | 9月18日, 9月24日             | 2    | 大学からの募集案内         |
| 国際文化コース      | 3  | 女  | 豊橋市役所消防本部総務課      | 9月7日～9月18日               | 10   | 個人応募(HP)          |
| 国際文化コース      | 3  | 女  | 郡上市役所観光課          | 9月7日～9月11日               | 5    | 個人応募(HP)          |
| 国際文化コース      | 3  | 女  | 刈谷市役所長寿課          | 8月18日～8月20日              | 3    | 大学からの募集案内         |

|           |   |   |                    |                                                          |    |                  |
|-----------|---|---|--------------------|----------------------------------------------------------|----|------------------|
| 国際文化コース   | 3 | 女 | 豊田市役所とよた市民活動センター   | 2月17日～2月22日,<br>2月24日                                    | 5  | 大学からの募集案内        |
| 国際文化コース   | 3 | 女 | 刈谷市役所広報聴課          | 2月15日～2月19日                                              | 5  | 大学からの募集案内        |
| 国際文化コース   | 3 | 女 | 岡崎信用金庫             | 2月9日, 2月10日,<br>2月12日                                    | 3  | 個人応募             |
| 国際文化コース   | 3 | 女 | 岡崎信用金庫             | 2月9日, 2月10日,<br>2月12日                                    | 3  | 個人応募             |
| 国際文化コース   | 3 | 女 | 合資会社くすや呉服店         | 9月2日～2月29日                                               | 67 | 大学からの募集案内        |
| 国際文化コース   | 4 | 女 | (株)エイビス            | 9月7日～2月26日                                               | 51 | 大学からの募集案内        |
| 日本語教育コース  | 3 | 男 | 安城市役所市民生活部市民協働課    | 1月21日～1月24日,<br>1月31日, 2月12日,<br>2月13日                   | 7  | 個人応募(HP)         |
| 臨床福祉心理コース | 3 | 女 | 刈谷市役所長寿課           | 2月8日, 2月9日                                               | 2  | 大学からの募集案内        |
| 臨床福祉心理コース | 3 | 女 | 刈谷市役所長寿課           | 2月8日, 2月9日                                               | 2  | 大学からの募集案内        |
| 臨床福祉心理コース | 3 | 女 | 刈谷市役所生活福祉課, 福祉総務課  | 2月9日, 2月10日,<br>2月12日                                    | 3  | 大学からの募集案内        |
| 臨床福祉心理コース | 3 | 女 | 刈谷市役所福祉総務課, 生活福祉課  | 2月9日, 2月10日,<br>2月12日                                    | 3  | 大学からの募集案内        |
| 造形文化コース   | 3 | 女 | 岐阜市役所都市計画課         | 8月24日～8月28日                                              | 5  | 大学からの募集案内        |
| 造形文化コース   | 3 | 女 | 豊田市役所産業部ものづくり産業振興課 | 2月15日～2月19日                                              | 5  | 大学からの募集案内        |
| 造形文化コース   | 3 | 女 | 瀬戸市役所まるとミュージアム課    | 1月27日～1月30日                                              | 4  | 個人応募(HP)         |
| 造形文化コース   | 3 | 女 | 刈谷市役所文化振興課         | 1月26日, 1月28日,<br>1月29日                                   | 3  | 大学からの募集案内        |
| 情報科学コース   | 3 | 女 | 名古屋市役所熱田区総務課       | 8月31日～9月4日,<br>8月24日～8月28日                               | 10 | 東海地域イターンシップ推進協議会 |
| 情報科学コース   | 3 | 男 | 豊橋市役所教育部科学教育センター   | 8月22日～9月4日                                               | 10 | 個人応募(HP)         |
| 情報科学コース   | 3 | 女 | 岐阜信用金庫             | 8月17日～8月21日                                              | 5  | 個人応募(マイナビ)       |
| 自然科学コース   | 2 | 女 | 愛知教育大学             | 8月20日～8月28日                                              | 7  | 大学からの募集案内        |
| 自然科学コース   | 3 | 女 | 一宮市役所健康づくり課        | 9月3日～9月7日,<br>9月9日                                       | 4  | 大学からの募集案内        |
| 自然科学コース   | 3 | 女 | 豊田市役所とよた市民活動センター   | 9月24日～9月28日                                              | 5  | 大学からの募集案内        |
| 自然科学コース   | 3 | 女 | 刈谷市役所こども課          | 8月24日～8月28日                                              | 5  | 大学からの募集案内        |
| 自然科学コース   | 3 | 女 | 刈谷市役所農政課           | 8月18日, 8月19日,<br>8月21日                                   | 3  | 大学からの募集案内        |
| 自然科学コース   | 3 | 女 | 刈谷市役所農政課           | 8月21日, 8月22日,<br>8月25日                                   | 3  | 大学からの募集案内        |
| 自然科学コース   | 3 | 女 | 北名古屋市役所総務部市民活動推進課  | 9月10日, 9月11日,<br>9月14日, 9月17日,<br>9月18日, 9月24日,<br>9月29日 | 7  | 大学からの募集案内        |
| 教育学研究科    |   |   |                    |                                                          |    |                  |
| 社会科教育専攻   | 1 | 女 | 刈谷市役所教育部教育総務課      | 8月19日～8月21日                                              | 3  | 大学からの募集案内        |
| 保健体育専攻    | 1 | 男 | 刈谷市役所スポーツ課         | 2月4日～2月7日                                                | 4  | 大学からの募集案内        |

インターンシップ参加者推移状況

(単位:人)

| 年 度  | 参加者数 | 課 程 別 内 訳 |        |        | 業 種 別 内 訳 |     |
|------|------|-----------|--------|--------|-----------|-----|
|      |      | 教員養成課程    | 現代学芸課程 | 教育学研究科 | 官 公 庁     | 企 業 |
| 2010 | 12   | 4         | 8      | 0      | 8         | 4   |
| 2011 | 14   | 6         | 8      | 0      | 10        | 4   |
| 2012 | 13   | 2         | 11     | 0      | 8         | 5   |
| 2013 | 20   | 8         | 12     | 0      | 17        | 3   |
| 2014 | 46   | 23        | 23     | 0      | 23        | 23  |
| 2015 | 63   | 28        | 33     | 2      | 51        | 12  |

## (7) 単位の実質化への配慮 (年間授業予定)

## 2015年度(平成27年度) 学部授業予定

| 月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 週  | 日     | 摘                                                           | 要                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|-------------------------------------------------------------|------------------|
| 4月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 1  | 8～10  | 在学生ガイダンス<br>4年生……3月27日(金)<br>3年生……3月30日(月)<br>2年生……3月31日(火) | (休日)             |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 2  | 13～17 | 入学式……………4月6日(月)                                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 3  | 20～24 | 新入生ガイダンス……………4月6日(月)・7日(火)                                  |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 4  | 27～1  | 授業開始……………4月8日(水)                                            |                  |
| 5月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 5  | 7～8   |                                                             | 4月29日(水) 昭和の日    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 6  | 11～15 | 大学祭(全学休講)……………5月14日(木)～5月15日(金)                             | 5月4日(月) みどりの日    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 7  | 18～22 |                                                             | 5月5日(火) こどもの日    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 8  | 25～29 |                                                             | 5月6日(水) 振替休日     |
| 6月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 9  | 1～5   | 隣接校種実習(小・中・高) ……6月1日(月)～6月12日(金)                            |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 10 | 8～12  | 特別支援教育実習……………6月1日(月)～6月19日(金)                               |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 11 | 15～19 | 副免実習(養護教諭課程) ……6月1日(月)～6月19日(金)                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 12 | 22～26 | 教育実習(現代学芸課程) ……6月1日(月)～6月19日(金)                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 13 | 29～3  |                                                             |                  |
| 7月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 14 | 6～10  |                                                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 15 | 13～17 |                                                             | 7月20日(月) 海の日     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 16 | 21～24 | <b>注意：7月23日(木)は月曜日の授業日</b>                                  |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 17 | 27～31 |                                                             |                  |
| 8月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 18 | 3～7   |                                                             |                  |
| ○ 夏季休業……………8月7日(金)～9月30日(水)<br><b>→夏季休業中の行事</b><br>①第4学年の授業日数不足による授業日…8月31日(月)～9月11日(金)<br>②9月卒業予定者卒業研究<br>研究業績提出期間……………8月3日(月)～8月20日(木) 正午<br>③教育実習事前指導日……………8月21日(金)・24日(月)・25日(火)<br>④教育実地研究(基礎実習)……………9月7日(月)・8日(火)・10日(木)・11日(金)[名小]<br>9月7日(月)～9月10日(木)[岡小]<br>9月17日(木)・18日(金)[岡中]<br>9月4日(金)・8日(火)・14日(月)・15日(火)[名中]<br>9月15日(火)～9月18日(金)[高校]<br>9月8日(火)・9日(水)[特別支援]<br>9月3日(木)・4日(金)[幼稚園]<br>⑤導入実習(現代学芸課程)……………9月14日(月)～9月29日(火) |    |       |                                                             |                  |
| 前期成績報告期限 — 4年生分……9月18日(金), 1～3年生分……8月21日(金)<br>前期成績公開……………9月24日(木)<br>9月卒業式……………9月30日(水)<br>後期授業開始……………10月1日(木)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |    |       |                                                             |                  |
| 9月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |    |       |                                                             |                  |
| 10月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 19 | 1～2   |                                                             | 10月12日(月) 体育の日   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 20 | 5～9   |                                                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 21 | 13～16 | 教育実地研究                                                      |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 22 | 19～23 | 主免実習(小・中・高) ……9月28日(月)～10月16日(金)                            |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 23 | 26～30 | 主免実習(幼)……………9月28日(月)～10月23日(金)                              |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 24 | 2～6   | 基礎実習(小)……………9月28日(月)～10月16日(金)                              |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 25 | 9～13  | 養護実習……………9月28日(月)～10月23日(金)                                 |                  |
| 11月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 26 | 16～20 |                                                             | 11月3日(火) 文化の日    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 27 | 24～27 |                                                             | 11月23日(月) 勤労感謝の日 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 28 | 30～4  |                                                             |                  |
| 12月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 29 | 7～11  | 卒業研究                                                        |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 30 | 14～18 | 研究業績提出期間                                                    | 12月23日(水) 天皇誕生日  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 31 | 21～25 | 文科系……………12月10日(木)～1月12日(火) 正午                               |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |    |       | 理科系……………1月5日(火)～2月1日(月) 正午                                  |                  |
| ○ 冬季休業……………12月28日(月)～1月1日(金)<br>○ 臨時休講……………1月15日(金)～1月18日(月)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |    |       |                                                             |                  |
| <b>注意：10月15日(木), 11月26日(木), 1月22日(金)は月曜日の授業日</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |       |                                                             |                  |
| 12月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |    |       |                                                             | 1月11日(月) 成人の日    |
| 平成28年1月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 32 | 4～8   |                                                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 33 | 12～15 |                                                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 34 | 18～22 |                                                             | 2月11日(木) 建国記念の日  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 35 | 25～29 |                                                             |                  |
| 2月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 36 | 1～5   |                                                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 37 | 8～12  |                                                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 38 | 15～19 |                                                             |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 39 | 22～26 |                                                             |                  |
| 3月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 40 | 29～1  |                                                             |                  |
| ○ 学期末休業……………2月8日(月)～3月31日(木)<br><b>→学期末休業中の行事</b><br>①教員養成4課程第3学年の授業日数不足による授業日……2月8日(月)～2月23日(火)<br><b>注意：2月22日(月)は木曜日の授業日。2月23日(火)は金曜日の授業日。</b><br>※卒業研究成績提出期限……………2月22日(月)<br>後期成績報告期限 4年生分……………2月12日(金)<br>1～3年生分……………3月11日(金)<br>卒業式……………3月23日(水)                                                                                                                                                                                    |    |       |                                                             |                  |

(注) 補講日は、休業中又は第5限に適宜実施する。

\* 各学期の授業期間 前期：4月8日～8月6日 後期：10月1日～翌年2月6日

## (8) 教育活動に係る管理運営

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| <b>教務企画委員会</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |
| <b>概要</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |
| 大学の学部、大学院及び専攻科の教育内容、実施体制及び教育課程に関する企画立案を行う組織として、教務企画委員会を設置しています。委員会は、教育担当理事を委員長として、学長が指名した学系長、各学系選出の教育研究評議会評議員、代議員会代議員、各センターから選出された教員、教務課職員で構成しています。さらに、その下に、共通科目、教育実習の改善・点検・円滑な運営に関する事項、時間割編成・シラバスの作成等授業運営に関する事項及びカリキュラムの立案・検討・評価・改善等に関する専門的事項を検討するため、各種の専門委員会を設置しており、教育における大学の取組を不断に点検するとともに、その具体化を図っています。 |       |
| 2015年度実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 11回開催 |
| <b>愛知教育大学・静岡大学共同教科開発学専攻連絡協議会</b>                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |
| <b>概要</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |
| 大学院設置基準第31条第1項に基づき、静岡大学大学院教育学研究科との共同教育課程として2012年4月に設置された共同教科開発学専攻（後期3年博士課程）では、同条第2項に基づく構成大学院の協議の場として、愛知教育大学・静岡大学共同教科開発学専攻連絡協議会を設けています。この連絡協議会が共同専攻の管理運営に係る案件の審議を担い、本学教授会及び静岡大学大学院教育学研究科委員会から権限の一部委譲を受けて、議決・実施しています。同連絡協議会は、各構成大学の共同専攻を担当する専任教員等を構成員とし、月1回程度の頻度で遠隔テレビ会議システムを用いて開催しています。                      |       |
| 2015年度実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 12回開催 |
| <b>教職大学院運営協議会</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |
| <b>概要</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |
| 教育実践研究科（教職大学院）における教育研究及び組織運営について協議し、教職大学院の目標達成に資することを目的として、教職大学院運営協議会を設置しています。教職大学院運営協議会は、研究科長（学長）を始めとする学内委員28人に加えて愛知県教育委員会3人、名古屋市教育委員会1人及び協力校の校長3人の学外委員で構成されています。なお、教職大学院に係る案件の本学としての意思決定は、各分野の全学委員会、教育研究評議会及び教授会等の審議機関を経て、役員会において行われることとなります。                                                             |       |
| 2015年度実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 1回開催  |
| <b>教育実践研究科会議</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |
| <b>概要</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |
| 教育実践研究科（教職大学院）の人事、教学、入試等の実務案件を発議するための機関として、教職大学院運営協議会の下に教育実践研究科会議を置いています。研究科会議の運営は、教育実践研究科会議内規を根拠とし、あらかじめ定める事項については、運営協議会から審議を委託され、かつ、研究科会議の議決をもって運営協議会の議決とすることができる旨が定められており、実質的な管理運営の中核として機能しています。なお、教育実践研究科会議の下には、カリキュラム・授業運営、実習、入試・広報の各部会が置かれ、それぞれの所掌に応じて、研究科会議に諮る案件の原案作成等を担っています。                       |       |
| 2015年度実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 13回開催 |

## 4 成績評価

成績評価方法

成績評価基準にしたがって、授業の出欠状況、レポート、中間テスト最終試験の組み合わせにより、成績（S、A、B、C、D）を判定しています。

GPA制度

2008年度から教育改善・学びの支援システムの充実の一環として、学生の履修した授業の成績評点の平均値をデータ化して、学生の履修・学習・進路等の指導・支援活動に活用するGPA（Grade Point Average）制度を導入しています。本学のGPA値は、以下の計算によって求められた数値です。

GPA値 = 
$$\frac{\text{成績に応じた指標値（S=4、A=3、B=2、C=1、D=0）} \times \text{その科目の単位数の合計}}{\text{指定した期間に履修した単位数の合計}}$$

2015年度からGPA値が2.0以下の学生については、指導教員による修学指導が実施され、その指導内容の報告を修学支援に活用しています。

2015年度指導実績

965人

学生からの成績評価の申立て手続き

学生への成績通知は、学期ごとに指定された公開日に、ウェブサイト上の教務システムにより通知（公開）しています。成績の内容に疑義がある場合は、成績公開日から10日以内に授業担当教員へ学生自身が直接申し出る（担当教員との連絡が困難である場合は、教務課へ学生自身が所定の方法により申し出る）ことができます。

申立件数

| 年度   | 教育学部 | 教育学研究科<br>（修士課程） | 教育学研究科<br>（後期3年博士課程） | 教育実践研究科 | 特別支援教育<br>特別専攻科 |
|------|------|------------------|----------------------|---------|-----------------|
| 2010 | 21   | 0                | —                    | 0       | 0               |
| 2011 | 40   | 1                | —                    | 0       | 0               |
| 2012 | 57   | 1                | 0                    | 0       | 0               |
| 2013 | 52   | 1                | 0                    | 0       | 0               |
| 2014 | 35   | 0                | 0                    | 0       | 0               |
| 2015 | 45   | 0                | 0                    | 1       | 0               |

## 5 学習成果

## (1) 教育職員免許状及び保育士の資格取得状況

2015年度教育職員免許状・保育士資格取得状況

(単位：人)

|              | 卒業者 | 取得者 | 教育職員免許状 取得状況 |    |     |     |    |     |     |     |     |     |      | 保育士 |      |
|--------------|-----|-----|--------------|----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|
|              |     |     | 小学校          |    |     | 中学校 |    |     | 高校  | 幼稚園 |     |     | 特別支援 |     | 養護教諭 |
|              |     |     | 1種           | 2種 | 計   | 1種  | 2種 | 計   | 1種  | 1種  | 2種  | 計   | 1種   |     | 1種   |
| 教育学部 (%)     | 951 | 783 | 611          | 14 | 625 | 667 | 50 | 717 | 650 | 22  | 108 | 130 | 2.5  | 4.3 | 2.2  |
| 教員養成課程 (%)   | 705 | 698 | 611          | 14 | 625 | 600 | 50 | 650 | 566 | 22  | 108 | 130 | 24   | 41  | 21   |
| 初等教育教員養成課程   | 426 | 424 | 423          | 0  | 423 | 366 | 24 | 390 | 331 | 22  | 93  | 115 | 0    | 0   | 21   |
| 中等教育教員養成課程   | 211 | 209 | 164          | 14 | 178 | 209 | 3  | 212 | 210 | 0   | 0   | 0   | 0    | 0   | 0    |
| 特別支援学校教員養成課程 | 26  | 24  | 24           | 0  | 24  | 0   | 23 | 23  | 0   | 0   | 15  | 15  | 24   | 0   | 0    |
| 養護教諭養成課程     | 42  | 41  | 0            | 0  | 0   | 25  | 0  | 25  | 25  | 0   | 0   | 0   | 0    | 41  | 0    |
| 現代学芸課程 (%)   | 246 | 85  | 0            | 0  | 0   | 67  | 0  | 67  | 84  | 0   | 0   | 0   | 0    | 0   | 0    |
| 現代学芸課程       | 246 | 85  | 0            | 0  | 0   | 67  | 0  | 67  | 84  | 0   | 0   | 0   | 0    | 0   | 0    |

\* 取得者は、小・中・高・幼・特支・養護のいずれかの教育職員免許状取得者の実人数を示す（保育士は除く）。

\* 障害児教育教員養成課程（旧）卒業者は特別支援学校教員養成課程に、学芸4課程（旧）卒業者は、現代学芸課程に集計。

2015年度教育職員免許状・保育士資格取得状況

(単位：人)

|            | 修了者 | 取得者 | 教育職員免許状 取得状況 |            |            |        |          |          | 保育士    |
|------------|-----|-----|--------------|------------|------------|--------|----------|----------|--------|
|            |     |     | 小学校専修        | 中学校専修      | 高等学校専修     | 幼稚園専修  | 特別支援専修   | 養護教諭専修   |        |
| 教育学研究科 (%) | 55  | 32  | 41.8<br>23   | 54.5<br>30 | 52.7<br>29 | －<br>－ | 1.8<br>1 | 1.8<br>1 | －<br>－ |
| 特別支援教育科学専攻 | 1   | 1   | 0            | 0          | 0          | 0      | 1        | 0        | 0      |
| 養護教育専攻     | 1   | 1   | 0            | 1          | 1          | 0      | 0        | 1        | 0      |
| 学校教育臨床専攻   | 11  | 0   | 0            | 0          | 0          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 国語教育専攻     | 4   | 4   | 4            | 4          | 4          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 英語教育専攻     | 3   | 2   | 0            | 2          | 2          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 社会科教育専攻    | 4   | 0   | 0            | 0          | 0          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 数学教育専攻     | 3   | 2   | 2            | 2          | 2          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 理科教育専攻     | 9   | 7   | 6            | 7          | 7          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 芸術教育専攻     | 10  | 7   | 4            | 6          | 6          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 保健体育専攻     | 6   | 6   | 6            | 6          | 6          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 家政教育専攻     | 2   | 1   | 1            | 1          | 1          | 0      | 0        | 0        | 0      |
| 技術教育専攻     | 1   | 1   | 0            | 1          | 0          | 0      | 0        | 0        | 0      |

\* 取得者は、小・中・高・幼・特支・養護のいずれかの教育職員免許状取得者の実人数を示す（保育士は除く）。

\* 教育学研究科は、保育士免許の認定課程ではない。

\* 共同教科開発学専攻（後期3年博士課程）は、教育職員免許状の認定課程でない。

2015年度教育職員免許状・保育士資格取得状況

(単位：人)

| 教育実践研究科   | 修了者 | 取得者                     | 教育職員免許状 取得状況 |            |             |            |        |        | 保育士 |
|-----------|-----|-------------------------|--------------|------------|-------------|------------|--------|--------|-----|
|           |     |                         | 小学校専修        | 中学校専修      | 高等学校専修      | 幼稚園専修      | 特別支援専修 | 養護教諭専修 |     |
| 教職実践専攻（％） | 43  | 29                      | 72.4<br>21   | 86.2<br>25 | 100.0<br>29 | 〔認定課程でない。〕 |        |        |     |
| 教職実践応用領域  | 14  | 〔応用領域（現職教員）学生は一括申請対象外。〕 |              |            |             |            |        |        |     |
| 教職実践基礎領域  | 29  | 29                      | 21           | 25         | 29          |            |        |        |     |

\* 小・中・高いずれかの教育職員免許状授与の大学一括申請を行った分について計上。

\* 取得者数の、全体は実人数、校種別は延べ人数（=件数）である。取得割合（%）は、基礎領域の修了者に対する値である。

2015年度教育職員免許状取得状況

(単位：人)

| 特別支援教育特別専攻科 | 修了<br>者 | 取得<br>者 | 教育職員免許状 取得状況 |  |
|-------------|---------|---------|--------------|--|
|             |         |         | 特別支援学校       |  |
|             |         |         | 1種           |  |
| 教職実践専攻 (%)  | 34      | 34      | 100.0<br>34  |  |

## (2) 学生授業アンケートの実施

授業アンケートは科目を3グループに分けて、3年かけて全科目のアンケートを実施し、その後に分析の年を1年加え、4年を1サイクル（2014年度はカリキュラム改訂のため特別に共通科目、初年次演習のアンケートを実施）として行っています。各授業のアンケート結果については、教員個々に知らせ、それを受けての自己評価書を各教員が作成することにより、授業改善に生かせるように取り組んでいます。

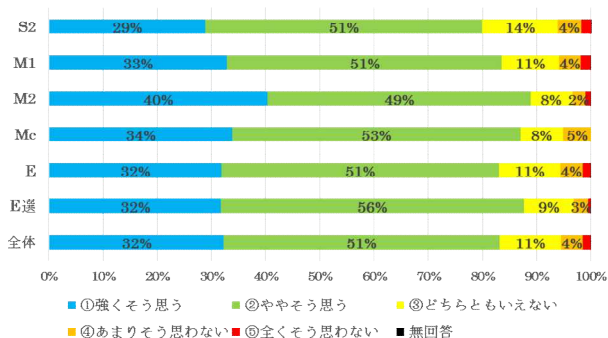
2015年度は、教職関係科目についてアンケート項目を設定し、授業アンケートを実施しました。

### 2015年度アンケート実施状況

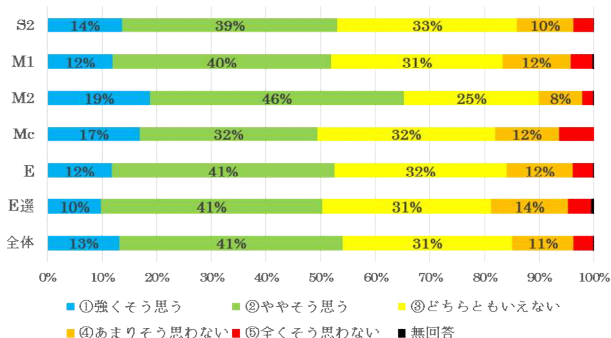
| 対象科目                                 | 対象授業数 | 対象学生数(延べ人数)(A) | 回答数(B) | 回収率(B/A) |
|--------------------------------------|-------|----------------|--------|----------|
| 教科研究科目(S2)                           | 172   | 8509人          | 7226   | 84.9%    |
| 教科教育科目<br>(M1:小学校)<br>(M2:中学校及び高等学校) | 206   | 9294人          | 7965   | 85.7%    |
| 保育内容研究科目(MC)                         | 5     | 101人           | 77     | 76.2%    |
| 教育科目(E、E選)                           | 189   | 9559人          | 7689   | 80.4%    |

### 集計結果

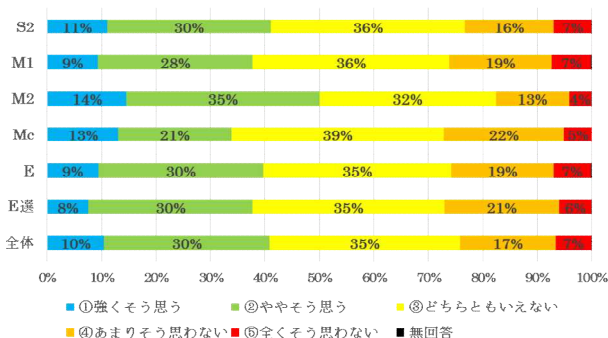
問1 この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた。



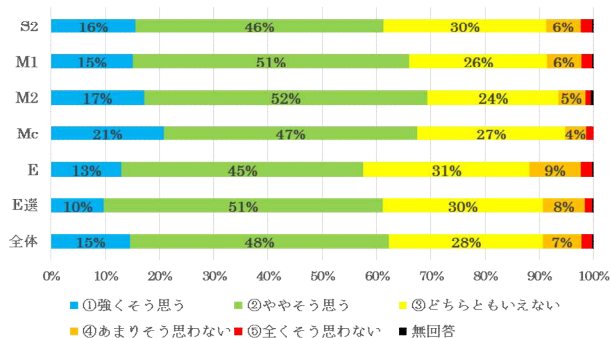
問2 授業で提示された課題・参考文献・資料などを自ら検索・参照した上で、自分で問題点を深く考えた。さらに、その考えに基づき行動した。



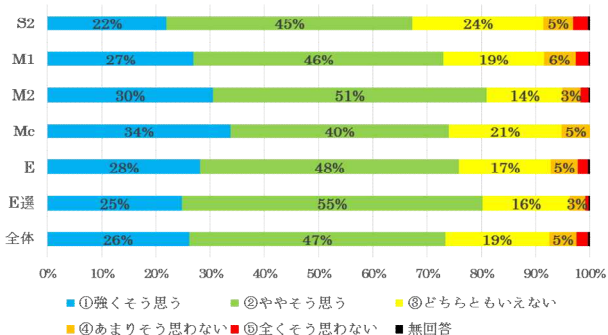
問3 授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した。



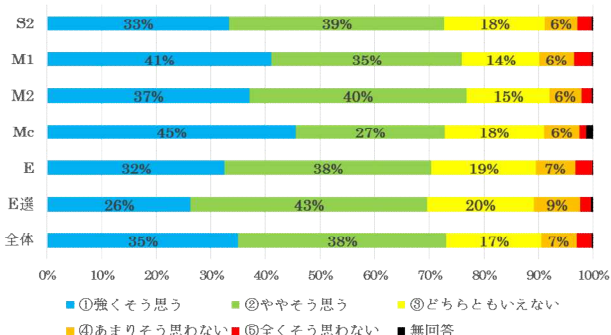
問4 授業で修得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる。



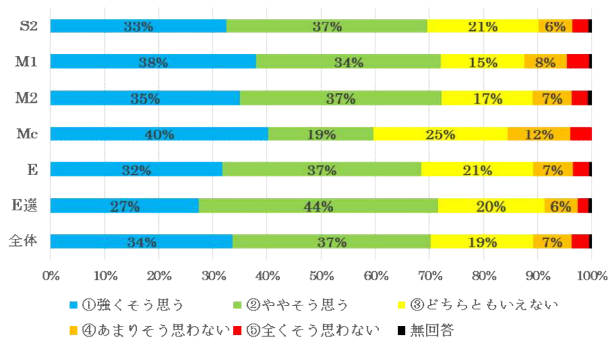
問5 授業を受けたことで、多様な考え方ができるようになった。



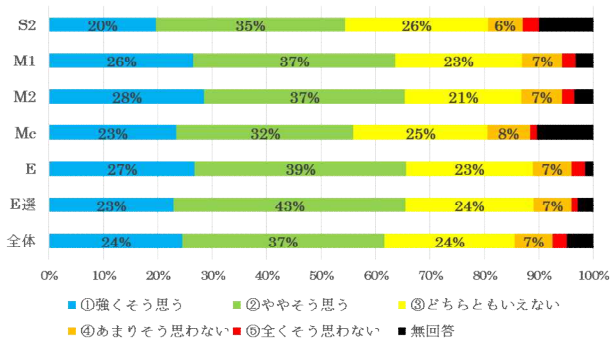
問6 教員の話し方は聞き取りやすい。



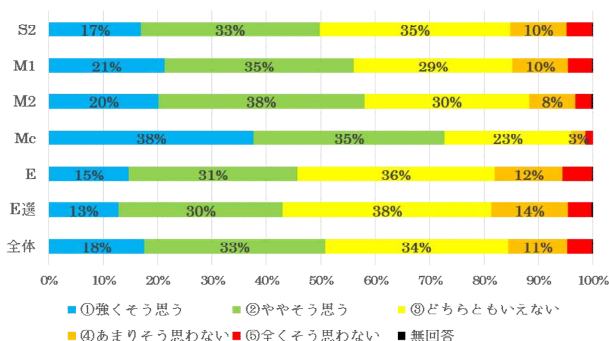
問7 教員の説明はわかりやすい。



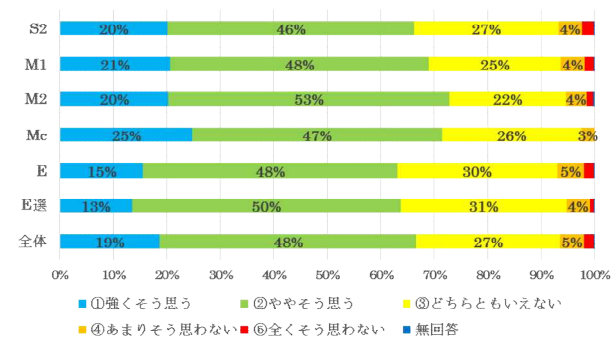
問8 【板書や補助資料を使う場合】板書、プロジェクター、配布資料等がわかりやすい。(使わない場合は無記入)



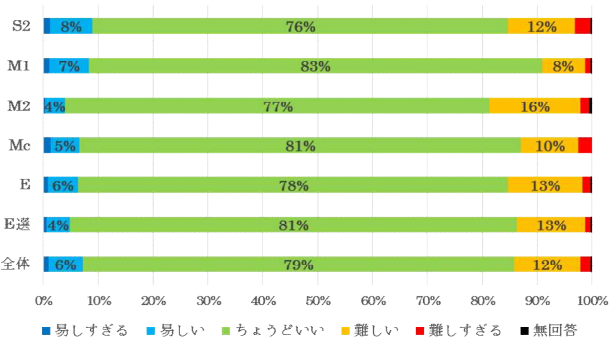
問9 教員とのコミュニケーション（質疑、討論コメント用紙、ネットなどで）はうまくとれている。



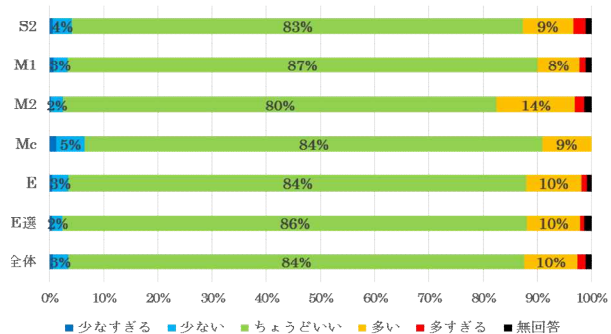
問10 この授業の教育目標が達成できたと思いますか



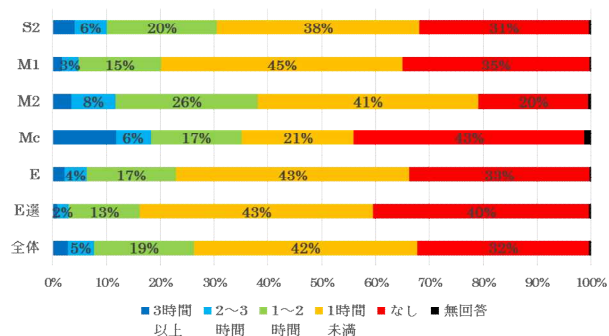
問11 授業の難易度



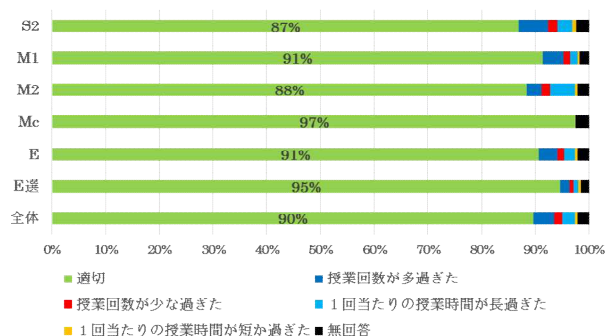
問12 一回当たりで扱われる授業内容の量



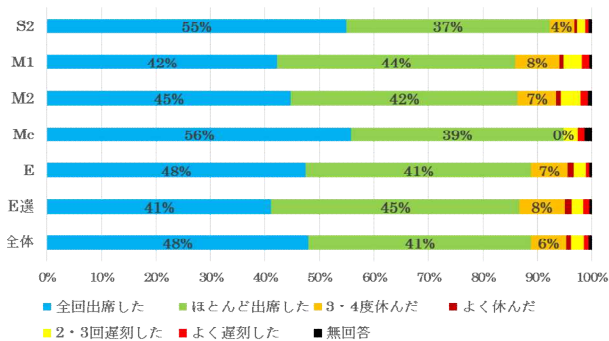
問13 この授業のための週当たりの学習時間（課題・レポートに費やす時間も含む）



問14 この授業の回数・時間



問 15 あなたはこの授業に毎回出席しましたか。(複数回答可)



授業アンケート実施科目計画表

| 2013 年度              | 2014 年度             | 2015 年度  | 2016 年度 |
|----------------------|---------------------|----------|---------|
| 教養科目(L)<br>初年次演習(FS) | 共通科目*1<br>初年次演習(FS) | 教職関係科目*2 | 専門科目*3  |

\*1 共通科目…教養科目(L)、日本国憲法(CJ)、情報教育入門(C)、外国語科目(F)、スポーツ科目(Sp)

\*2 教職関係科目…教科研究科目(S2)、小学校の教科教育科目(M1)、中学校及び高等学校の教科教育科目(M2)、保育内容研究科目(MC)、教育科目(E)

\*3 専門科目…教科専攻科目(S)、教育科学専攻科目(Se)、幼児教育選修科目(Sc)、情報専攻科目(Si)、特別支援教育専攻科目(Ss)、養護教育専攻科目(Sh)、現代学芸課程専攻科目(MS)

## 6 学生支援

### (1) 相談体制

学生相談体制(相談窓口)

2015/3/31現在

| 相談内容            | 担当係                                |
|-----------------|------------------------------------|
| 修学相談            | 教務課                                |
| 授業・成績関係 学部、専攻科  | 修学支援担当                             |
| 授業・成績関係 大学院     | 大学院担当、教職大学院担当                      |
| 休学・退学・転学関係      | 修学支援担当                             |
| 教育実習関係          | 教育実習担当                             |
| 介護等体験関係         | 介護等体験担当                            |
| 経済・生活相談         | 学生支援課                              |
| 授業料免除・徴収猶予関係    | 奨学支援担当                             |
| 奨学金関係           | 奨学支援担当                             |
| 学生寮・住居関係        | 保健・寮務担当                            |
| 課外活動・ボランティア活動関係 | 課外教育担当                             |
| 学生生活全般          | 学生企画担当                             |
| 海外留学・国際交流相談     | 高度教員養成支援課<br>国際交流担当(国際交流センター)      |
| 就職・進路相談         | キャリア支援課(教員就職特任指導員、事務職員、キャリアカウンセラー) |
| 健康相談            | 保健環境センター(医師、保健師、看護師、臨床心理士)         |
| ハラスメント相談        | 学内ハラスメント相談員                        |
| 学生相談(何でも相談)     | 学生支援課 なんでも相談室                      |

### (2) 修学支援

| 実施日(対象者)                     | ガイダンス名称(説明者)              | ガイダンスの内容                                                         |
|------------------------------|---------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 教育学部                         |                           |                                                                  |
| 2015/3/27(金)<br>(教員養成課程4年)   | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)        | ・4年次の履修方法を説明<br>・卒業要件の確認方法と卒業研究について説明<br>・教育職員免許状の資格要件確認方法について説明 |
| 2015/3/27(金)<br>(現代学芸課程4年)   | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)        | ・4年次の履修方法を説明<br>・卒業要件の確認方法と卒業研究について説明<br>・教育職員免許状の資格要件確認方法について説明 |
| 2015/3/27(金)<br>(4年 各専攻コース別) | 専攻コース別ガイダンス<br>(各専攻コース教員) | ・専攻コースの授業及び履修について説明                                              |
| 2015/3/30(月)<br>(教員養成課程3年)   | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)        | ・3年次の履修方法を説明<br>・卒業要件の確認方法について説明<br>・教育職員免許状の資格要件単位取得について説明      |
| 2015/3/30(月)<br>(現代学芸課程3年)   | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)        | ・3年次の履修方法を説明<br>・卒業要件の確認方法について説明                                 |

|                                |                                 |                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2015/3/30(月)<br>(3年 各専攻コース別)   | 専攻コース別ガイダンス<br>(各専攻コース教員)       | ・専攻コースの授業及び履修について説明                                                                                                                                                       |
| 2015/3/31(火)<br>(2年)           | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)              | ・2年次の履修方法を説明<br>・卒業要件の確認方法について説明<br>・教育職員免許状の資格要件単位取得について説明                                                                                                               |
| 2015/3/31(火)<br>(2年 各専攻コース別)   | 専攻コース別ガイダンス<br>(各専攻コース教員)       | ・専攻コースの授業及び履修について説明                                                                                                                                                       |
| 2015/4/7 (火)<br>(1年)           | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)              | ・授業、履修、成績及び単位について説明<br>・1年次の履修方法を説明<br>・卒業要件について説明<br>201 教室 (幼児教育、教育科学、特別支援、養護教育)<br>301 教室 (国語、社会、英語)<br>411 教室 (数学、理科)<br>421 教室 (音楽、美術、保健体育、技術、家庭)<br>431 教室 (現代学芸課程) |
| 2015/4/7 (火)<br>(1年 各専攻コース別)   | 専攻コース別ガイダンス<br>(各専攻コース教員)       | ・専攻コース教員の紹介<br>・専攻コースの特色について説明<br>・専攻コースの授業及び履修について説明                                                                                                                     |
| 教育学研究科 (修士課程)                  |                                 |                                                                                                                                                                           |
| 2015/4/6 (月) 夜<br>(1年 昼夜開講コース) | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)              | ・授業、履修、成績及び単位について説明<br>・修了要件、専修免許状について説明                                                                                                                                  |
| 2015/4/7 (火)<br>(1年)           | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)              | ・授業、履修、成績及び単位について説明<br>・修了要件、専修免許状について説明                                                                                                                                  |
| 2015/4/7 (火)<br>(1年)           | 専攻別ガイダンス<br>(専攻・領域教員)           | ・専攻、領域教員の紹介<br>・専攻、領域の特色について説明<br>・専攻、領域の授業及び履修について説明                                                                                                                     |
| 教育学研究科 (後期3年博士課程)              |                                 |                                                                                                                                                                           |
| 2015/4/5 (日) 午前<br>(1年)        | 合同ガイダンス<br>(専攻教員、教務課職員)         | ・専攻の特色について説明<br>・授業、履修、成績及び単位について説明                                                                                                                                       |
| 2015/4/5 (日) 午後<br>(全学年)       | 合同ガイダンス<br>(専攻教員、教務課職員)         | ・専攻教員の紹介<br>・履修、研究、学位取得について説明                                                                                                                                             |
| 2015/4/5 (日) 午後<br>(全学年)       | 分野別ガイダンス<br>(各分野教員)             | ・分野教員の紹介<br>・履修、研究、論文執筆、学生生活等の相談                                                                                                                                          |
| 教育実践研究科 (教職大学院)                |                                 |                                                                                                                                                                           |
| 2015/4/6 (月)<br>(1年 教職実践基礎領域)  | 教務・専攻領域ガイダンス<br>(教務課職員、教職大学院教員) | ・授業、実習、履修、成績及び単位について説明<br>・修了要件、専修免許状について説明                                                                                                                               |
| 2015/4/7 (火)<br>(1年 教職実践応用領域)  | 教務・専攻領域ガイダンス<br>(教務課職員、教職大学院教員) | ・授業、実習、履修、成績及び単位について説明<br>・修了要件、専修免許状について説明                                                                                                                               |
| 特別支援教育特別専攻科                    |                                 |                                                                                                                                                                           |
| 2015/4/7 (火)<br>(全員)           | 専攻科ガイダンス<br>(専攻科担当教員)           | ・履修内容について説明                                                                                                                                                               |
| 2015/4/7 (火)<br>(全員)           | 教務ガイダンス<br>(教務課職員)              | ・授業、履修、成績及び単位について説明<br>・修了要件、専修免許状について説明<br>・教育実習について説明                                                                                                                   |

### (3) 経済支援

#### ① 入学料免除

2015年度入学料免除実施状況

(単位: 人)

| 所 属           | 入<br>学<br>者 | 申<br>請<br>者 | 免除許可者  |        |        |           |     |    |    | 計         | 免除金額<br>合 計<br>(円) |
|---------------|-------------|-------------|--------|--------|--------|-----------|-----|----|----|-----------|--------------------|
|               |             |             | 全<br>免 | 半<br>免 | 一<br>部 | 免除金額 (千円) |     |    |    |           |                    |
|               |             |             |        |        |        | 150       | 110 | 70 |    |           |                    |
| 教育学部          | 942         | 4           | 3      | 0      | 1      | 0         | 0   | 1  | 4  | 916,000   |                    |
| 1年次 入学者       | 942         | 4           | 3      | 0      | 1      | 0         | 0   | 1  | 4  | 916,000   |                    |
| 教育学研究科 (修士課程) | 80          | 15          | 0      | 0      | 14     | 3         | 5   | 6  | 14 | 1,420,000 |                    |
| 普通入学          | 80          | 15          | 0      | 0      | 14     | 3         | 5   | 6  | 14 | 1,420,000 |                    |
| 教育学研究科 (博士課程) | 4           | 1           | 0      | 0      | 1      | 0         | 1   | 0  | 1  | 110,000   |                    |
| 愛知教育大学        | 4           | 1           | 0      | 0      | 1      | 0         | 1   | 0  | 1  | 110,000   |                    |
| 教育実践研究科       | 43          | 4           | 0      | 0      | 3      | 1         | 2   | 0  | 3  | 370,000   |                    |
| 普通入学          | 43          | 4           | 0      | 0      | 3      | 1         | 2   | 0  | 3  | 370,000   |                    |
| 特別支援教育特別専攻科   | 34          | 1           | 1      | 0      | 0      | 0         | 0   | 0  | 1  | 58,400    |                    |
| 附属学校          | 264         | 0           | 0      | 0      | 0      | 0         | 0   | 0  | 0  | 0         |                    |
| 幼稚園           | 53          | 0           | 0      | 0      | 0      | 0         | 0   | 0  | 0  | 0         |                    |
| 高等学校          | 200         | 0           | 0      | 0      | 0      | 0         | 0   | 0  | 0  | 0         |                    |
| 特別支援学校高等部     | 11          | 0           | 0      | 0      | 0      | 0         | 0   | 0  | 0  | 0         |                    |

\* 6年一貫教員養成コース進学者(教育学研究科(修士課程): 4人、教育実践研究科: 0人)は、入学料不要のため除く。

| 2015年度 入学科  |           |             |          |
|-------------|-----------|-------------|----------|
| 教育学部        | 282,000 円 | 附属幼稚園       | 31,300 円 |
| 大学院         | 282,000 円 | 附属高等学校      | 56,400 円 |
| 特別支援教育特別専攻科 | 58,400 円  | 附属特別支援学校高等部 | 2,000 円  |

## ② 授業料免除

2015年度授業料免除実施状況

(単位:人)

| 所 属             | 在 学 者 | 申 請 者 | 前 期  |     |     |     |     | 申 請 者 | 後 期  |     |     |     |     | 申 請 者 | 合計   |     |     |     |     | 免除金額<br>合 計<br>(円) |
|-----------------|-------|-------|------|-----|-----|-----|-----|-------|------|-----|-----|-----|-----|-------|------|-----|-----|-----|-----|--------------------|
|                 |       |       | 免除許可 |     |     |     | 計   |       | 免除許可 |     |     |     | 計   |       | 免除許可 |     |     |     | 計   |                    |
|                 |       |       | 全 免  | 半 免 | 一 部 | 教 職 |     |       | 全 免  | 半 免 | 一 部 | 教 職 |     |       | 全 免  | 半 免 | 一 部 | 教 職 |     |                    |
| 教育学部            | 3,901 | 340   | 247  | 63  | 0   | 0   | 310 | 351   | 255  | 64  | 12  | 0   | 331 | 691   | 502  | 127 | 12  | 0   | 641 | 152,612,850        |
| 1 年             | 942   | 68    | 49   | 9   | 0   | 0   | 58  | 68    | 47   | 11  | 3   | 0   | 61  | 136   | 96   | 20  | 3   | 0   | 119 | 28,676,250         |
| 2 年             | 939   | 80    | 57   | 16  | 0   | 0   | 73  | 94    | 64   | 22  | 3   | 0   | 89  | 174   | 121  | 38  | 3   | 0   | 162 | 37,784,850         |
| 3 年             | 949   | 93    | 67   | 20  | 0   | 0   | 87  | 92    | 68   | 19  | 2   | 0   | 89  | 185   | 135  | 39  | 2   | 0   | 176 | 41,576,450         |
| 4 年             | 1,071 | 99    | 74   | 18  | 0   | 0   | 92  | 97    | 76   | 12  | 4   | 0   | 92  | 196   | 150  | 30  | 4   | 0   | 184 | 44,575,300         |
| 教育学研<br>究科(修士)  | 188   | 38    | 22   | 13  | 0   | 0   | 35  | 39    | 27   | 9   | 2   | 0   | 38  | 77    | 49   | 22  | 2   | 0   | 73  | 16,259,900         |
| 1 年             | 84    | 17    | 8    | 7   | 0   | 0   | 15  | 15    | 10   | 5   | 0   | 0   | 15  | 32    | 18   | 12  | 0   | 0   | 30  | 6,429,600          |
| 2 年             | 104   | 21    | 14   | 6   | 0   | 0   | 20  | 24    | 17   | 4   | 2   | 0   | 23  | 45    | 31   | 10  | 2   | 0   | 43  | 9,830,300          |
| 教育学研<br>究科(博士)  | 16    | 1     | 1    | 0   | 0   | 0   | 1   | 1     | 1    | 0   | 0   | 0   | 1   | 2     | 2    | 0   | 0   | 0   | 2   | 535,800            |
| 1 年             | 4     | 1     | 1    | 0   | 0   | 0   | 1   | 1     | 1    | 0   | 0   | 0   | 1   | 2     | 2    | 0   | 0   | 0   | 2   | 535,800            |
| 2 年             | 4     | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0                  |
| 3 年             | 8     | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0                  |
| 教育実践<br>研究科     | 99    | 38    | 7    | 2   | 0   | 29  | 38  | 38    | 7    | 1   | 0   | 29  | 37  | 76    | 14   | 3   | 0   | 58  | 75  | 8,340,350          |
| 1 年             | 43    | 20    | 4    | 1   | 0   | 15  | 20  | 20    | 4    | 0   | 0   | 15  | 19  | 40    | 8    | 1   | 0   | 30  | 39  | 4,505,050          |
| 2 年             | 56    | 18    | 3    | 1   | 0   | 14  | 18  | 18    | 3    | 1   | 0   | 14  | 18  | 36    | 6    | 2   | 0   | 28  | 36  | 3,835,300          |
| 特別支援教育<br>特別専攻科 | 34    | 1     | 1    | 0   | 0   | 0   | 1   | 1     | 1    | 0   | 0   | 0   | 1   | 2     | 2    | 0   | 0   | 0   | 2   | 273,900            |
| 附属<br>幼稚園       | 126   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0                  |
| 3 歳児            | 20    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0                  |
| 4 歳児            | 51    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0                  |
| 5 歳児            | 55    | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     | 0    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0                  |

\* 附属学校については、高等学校、特別支援学校高等部は、高等学校等就学支援金で措置されるため、授業料免除制度に該当するのは幼稚園のみ。

| 2015年度 授業料      |             | 半期分       | 年 額       |        | 半期分       | 年 額       |
|-----------------|-------------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|
| 教育学部            |             | 267,900 円 | 535,800 円 | 附属幼稚園  | 36,600 円  | 73,200 円  |
| 特別支援教育特別専攻科     |             | 136,950 円 | 273,900 円 |        |           |           |
| 大学院〔修士課程、教職大学院〕 |             |           |           |        |           |           |
| 通常の課程           |             | 267,900 円 | 535,800 円 | 長期履修3年 | 178,600 円 | 357,200 円 |
| 小免コース           | 2009年度以降 入学 | 267,900 円 | 535,800 円 | 長期履修4年 | 133,950 円 | 267,900 円 |
|                 | 2008年度以前 入学 | 178,600 円 | 357,200 円 |        |           |           |
| 大学院〔博士課程〕       |             |           |           |        |           |           |
| 通常の課程           |             | 267,900 円 | 535,800 円 | 長期履修4年 | 200,925 円 | 401,850 円 |

## ③ 奨学金貸与

2015年度(独)日本学生支援機構 奨学金採用者/貸与者 状況

在学者:2015/5/1 現在(単位:人)

| 所 属        | 在 学 者 | 2015/4/1 ~ 2016/3/31の実績 |          |          |          |     |          |          |          |     |     | 2016年3月更新時       |          |                  |       |
|------------|-------|-------------------------|----------|----------|----------|-----|----------|----------|----------|-----|-----|------------------|----------|------------------|-------|
|            |       | 採 用 者                   |          |          |          |     |          |          |          |     |     | 貸 与 者            |          |                  |       |
|            |       | 第一種(無利息)                |          |          |          |     | 第二種(利息付) |          |          |     |     | 第一種<br>(無利<br>息) | 返還<br>免除 | 第二種<br>(利息<br>付) | 合計    |
|            |       | 予約<br>採用                | 在学<br>採用 | 返還<br>免除 | 緊急<br>採用 | 計   | 予約<br>採用 | 在学<br>採用 | 応急<br>採用 | 計   | 合計  |                  |          |                  |       |
| 教育学部       | 3,892 | 93                      | 54       | —        | 0        | 147 | 80       | 34       | 0        | 114 | 261 | 541              | —        | 499              | 1,040 |
| 1年         | 940   | 93                      | 47       | —        | 0        | 140 | 80       | 25       | 0        | 105 | 245 | 139              | —        | 103              | 242   |
| 2年         | 939   | —                       | 3        | —        | 0        | 3   | —        | 5        | 0        | 5   | 8   | 146              | —        | 117              | 263   |
| 3年         | 948   | —                       | 3        | —        | 0        | 3   | —        | 1        | 0        | 1   | 4   | 118              | —        | 145              | 263   |
| 4年         | 1,065 | —                       | 1        | —        | 0        | 1   | —        | 3        | 0        | 3   | 4   | 138              | —        | 134              | 272   |
| 教育学研究科(修士) | 172   | 4                       | 17       | 8        | 0        | 29  | 1        | 1        | 0        | 2   | 31  | 42               | 6        | 4                | 46    |
| 1年         | 77    | 4                       | 15       | —        | 0        | 19  | 1        | 1        | 0        | 2   | 21  | 19               | —        | 2                | 21    |
| 2年         | 95    | —                       | 2        | 8        | 0        | 10  | —        | 0        | 0        | 0   | 10  | 23               | 6        | 2                | 25    |
| 教育学研究科(博士) | 16    | 0                       | 0        | 0        | 0        | 0   | 0        | 0        | 0        | 0   | 0   | 1                | 1        | 0                | 1     |
| 1年         | 4     | 0                       | 0        | —        | 0        | 0   | 0        | 0        | 0        | 0   | 0   | 0                | —        | 0                | 0     |
| 2年         | 4     | —                       | 0        | 0        | 0        | 0   | —        | 0        | 0        | 0   | 0   | 0                | —        | 0                | 0     |
| 3年         | 8     | —                       | 0        | 0        | 0        | 0   | —        | 0        | 0        | 0   | 0   | 1                | 1        | 0                | 1     |
| 教育実践研究科    | 99    | 1                       | 6        | 3        | 0        | 10  | 0        | 2        | 0        | 2   | 12  | 18               | 2        | 3                | 21    |
| 1年         | 43    | 1                       | 6        | —        | 0        | 7   | 0        | 2        | 0        | 2   | 9   | 7                | —        | 2                | 9     |
| 2年         | 56    | —                       | 0        | 3        | 0        | 3   | —        | 0        | 0        | 0   | 3   | 11               | 2        | 1                | 12    |
| 特別専攻科      | 34    | 0                       | 0        | 0        | 0        | 0   | 0        | 0        | 0        | 0   | 0   | 0                | —        | 0                | 0     |
| 1年         | 34    | —                       | 0        | —        | 0        | 0   | —        | 0        | 0        | 0   | 0   | 0                | —        | 0                | 0     |

\* 本表は、奨学金の対象とならない外国人留学生を除いた人数。

\* 併用貸与者(第一種と第二種の両方を貸与)は、第一種、第二種のそれぞれに計上。

| 第一種(無利息)     | 貸与月額                                                                                       | 貸与期間(緊急採用の場合を除く) |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 大 学          | 自宅通学者は、30,000円、45,000円から選択可<br>自宅外通学者は、30,000円、45,000円、51,000円から選択可                        | 48か月             |
| 大学院          | 修士は50,000円、88,000円から選択可<br>博士は80,000円、122,000円から選択可                                        | 修士24か月<br>博士36か月 |
| 第二種(利息付)     | 貸与月額                                                                                       | 貸与期間(応急採用の場合を除く) |
| 大 学          | 3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択可                                                                 | 48か月             |
| 大学院          | 5万円、8万円、10万円、13万円、15万円から選択可                                                                | 修士24か月、博士36か月    |
| 予約採用         | 入学前の申込で、進学前の在学前にて奨学金申請を行うもの。                                                               |                  |
| 在学採用         | 入学後に大学を通じて奨学金申請を行うもの。                                                                      |                  |
| 緊急採用<br>応急採用 | 家計の急変(家計支持者が失職・病氣・事故・会社倒産・死別又は離別・災害等)で奨学金を緊急に必要とする場合のもの。<br>緊急採用は第一種、応急採用は、第二種。            |                  |
| 返還免除         | 大学院第一種貸与者であって、在学中に特に優れた業績をあげた者として機構が認定した場合に奨学金の全部又は一部の返還が免除される制度。なお、申請にあたっては大学からの推薦が必要となる。 |                  |

## (4) 生活支援

健康管理・健康相談

|                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 保健環境センター                                                                                                         |
| 利用時間                                                                                                             |
| 月～金曜日 8:30～17:00                                                                                                 |
| スタッフ・職員構成(15人)                                                                                                   |
| センター長(教授・兼任1人) 医師(教授2人) 環境安全学専門教員(准教授1人)<br>看護師・保健師(常勤1人、非常勤1人) 臨床心理士(非常勤2人)<br>事務係長(事務・兼任1人) センター業務兼務者(事務・兼任6人) |

## 障害のある学生に対する支援

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>概要</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 「修学特別支援プログラム」については2年目となった2015年度は、修学特別支援プログラム連絡会を2回開催した。<br>主な内容としては本年度から開始した学内フークスタディ（学生のピアサポートによる学習支援）について、学生相談窓口のあり方について、発達障害学生支援のためのガイドブック作成等について学生支援策を検討した。                                                                                                                                                                                                                  |
| <b>支援内容</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 「てくてく」によるノートテイク、パソコンテイク、TAによる実験補助等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <b>情報保障支援学生団体「てくてく」支援内容</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年の登録者は約160人</li> <li>・日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan、事務局：筑波技術大学）の連携大学として、学内での支援活動のほか、地域その他機関からの要請により、学外での研修会等も行っている。</li> <li>○他大学での交流会（本学の現状報告や、IPTalkの説明・デモ等、交流会）</li> <li>○他大学での研修会（本学の現状報告や、IPTalkの説明・デモ等）</li> <li>○東海地区聴覚障害学生高等教育支援連絡会</li> <li>○愛知県立岡崎聾学校高等部での愛知教育大学の情報保障説明会（本学の現状報告や、IPTalkの説明・デモ等、聾学校生徒との交流会）</li> </ul> |
| <b>その他の支援</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンテイク用ソフトを装備したノートPC10台保有</li> <li>・式典や授業時、必要に応じて学外団体に手話通訳を依頼</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                |

## 7 学生生活

## (1) 課外活動の状況

## ① 課外活動団体と加入者数

2015/6/1 現在（在学者数：4,238人）

|             | 体育系団体  | 文化系団体  | 計      |
|-------------|--------|--------|--------|
| 団体数（未公認を含む） | 57     | 34     | 91     |
| 加入者数（人）     |        |        |        |
| 男           | 1,085  | 402    | 1,487  |
| 女           | 911    | 700    | 1,611  |
| 計           | 1,996  | 1,102  | 3,098  |
| 加入率         | 47.1 % | 26.0 % | 73.1 % |

\* 加入者数、在学者数は、学部・大学院・専攻科の総計

\* 加入率は、加入者数（計）÷ 在学者数 で算出

## ② 2015年度課外活動実績

第64回東海地区国立大学体育大会成績一覧表

2015年度 幹事大学：名古屋工業大学

| 順位  | 男子団体                          | 女子団体                  |
|-----|-------------------------------|-----------------------|
| 1 位 | 陸上競技 準硬式野球 ソフトテニス<br>バレーボール   | 陸上競技 水泳 バレーボール アーチェリー |
| 2 位 | バドミントン ハンドボール 剣道 馬術<br>アーチェリー | 硬式テニス バスケットボール 体操     |
| 3 位 | サッカー 空手道                      | バドミントン                |

\* 第3位までを記載。

## (2) 大学祭、子どもまつり開催状況

## ① 第46回大学祭 テーマ「バイキング」

日時：2015年5月14（木）～5月17日（日）

参加：学生 約4,000人

| 企画名     | 実施日             | 企画名      | 実施日             |
|---------|-----------------|----------|-----------------|
| スポーツの祭典 | 5/14（木）～5/15（金） | 大学紹介     | 5/16（土）～5/17（日） |
| ミニゲーム   | 5/14（木）～5/17（日） | 放送       | 5/16（土）～5/17（日） |
| 夜祭り     | 5/16（土）         | 模擬店      | 5/16（土）～5/17（日） |
| お笑い     | 5/17（日）         | フリーマーケット | 5/16（土）～5/17（日） |
| ステージ    | 5/16（土）～5/17（日） |          |                 |

## ② 第46回子どもまつり

日時：2015年5月10日（日）

| 企画名         | 企画名            | 企画名    |
|-------------|----------------|--------|
| ミニゲーム       | バルーンアート        | 人形劇    |
| カラフルいろいろランド | さかなつり          | わくわく教室 |
| オカリナ教室      | どうぶつえんだZOO（ぞお） | 折り染め   |
| コンサート       |                |        |

## ③ 秋祭 テーマ「マジカルボックス～愛教秋のつめ合わせ～」

日時：2015年11月14日（土）～11月15日（日）

| 企画名     | 実施日               | 企画名   | 実施日               |
|---------|-------------------|-------|-------------------|
| スポーツの祭典 | 11/14（土）～11/15（日） | ミニゲーム | 11/14（土）～11/15（日） |
| ステージ    | 11/14（土）～11/15（日） | 出店    | 11/14（土）～11/15（日） |

## ④ 第39回冬の子どもまつり

日時：2015年12月13日（日） 参加：学生 約25人、子ども 約300人

| 企画名   | 企画名   | 企画名     |
|-------|-------|---------|
| ミニゲーム | 人形劇   | オカリナ教室  |
| 宝探し   | ボール投げ | 体を動かす遊び |

## 8 卒業者・修了者の進路・就職の状況

## (1) キャリア支援の実施状況

2015年度就職活動支援策一覧

| 開催月 | 対象職種 |     |    | 開催回数 | 就職活動支援 対応内容                  | 対象学年 |    |    |    |
|-----|------|-----|----|------|------------------------------|------|----|----|----|
|     | 教員   | 公務員 | 企業 |      |                              | 1年   | 2年 | 3年 | 4年 |
| 合計  | 64   | 43  | 39 | 893  | 事業名称                         | 18   | 22 | 89 | 54 |
| 4月  | 教    |     |    | 19   | 教員就職相談員による就職指導               |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 33   | 教員就職相談員による面接指導               |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 1    | 願書の書き方ガイダンス                  |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 3    | 教員採用試験模擬試験                   |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 3    | 県外教採学内説明会                    |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   |    | 1    | 公務員採用試験模擬試験                  |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   | 企  | 6    | 企業等就職相談員による就職進路相談            | 1    | 2  | 3  | 4  |
|     |      |     | 企  | 1    | 企業就職ガイダンス（インターンシップ説明会①）      |      | 2  | 3  |    |
|     |      |     | 企  | 1    | 企業就職ガイダンス（社会人準備講座）           |      |    | 3  |    |
|     |      |     |    | 28   | 教員就職特任指導員による就職指導             |      |    | 3  | 4  |
| 5月  | 教    |     |    | 14   | 教員就職相談員による面接指導               |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 1    | 教員就職ガイダンス（募集要項説明会）           |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 2    | 教員就職ガイダンス（模擬面接）              |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 2    | 教員就職ガイダンス（集団討論）              |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 4    | 県外教採学内説明会                    |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 3    | 教員採用試験模擬試験                   |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 1    | 教員採用試験直前アドバイスセミナー            |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 4    | 愛知県教員採用試験直前対策講座              |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 4    | 名古屋市教員採用試験直前対策講座             |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   |    | 1    | 公務員採用試験模擬試験                  |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   |    | 4    | 公務員採用試験直前対策講座                |      |    |    | 4  |
|     |      |     | 企  | 1    | 企業就職ガイダンス（就活準備スタートアップ講座）     |      |    | 3  |    |
|     |      |     | 企  | 1    | 企業就職ガイダンス（インターンシップ説明会②）      |      | 2  | 3  |    |
|     |      | 公   | 企  | 5    | 企業等就職相談員による就職進路相談            | 1    | 2  | 3  | 4  |
| 6月  | 教    |     |    | 33   | 教員就職特任指導員による就職指導             |      |    | 3  | 4  |
|     | 教    |     |    | 35   | 教員就職相談員による面接指導               |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 1    | 教員採用試験模擬試験                   |      |    |    | 4  |
|     | 教    | 公   | 企  | 1    | キャリア・デザインガイダンス               | 1    |    |    |    |
|     |      | 公   |    | 1    | 公務員採用試験模擬試験                  |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   |    | 1    | 公務員論文対策                      |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   | 企  | 7    | 企業等就職相談員による就職進路相談            | 1    | 2  | 3  | 4  |
|     |      | 公   |    | 1    | 公務員就職ガイダンス（公務員採用試験の仕組みと心構え）  |      |    | 3  |    |
| 7月  |      |     | 企  | 1    | 企業就職ガイダンス（自己分析）              |      |    | 3  |    |
|     | 教    |     |    | 36   | 教員就職特任指導員による就職指導             |      |    | 3  | 4  |
|     | 教    |     |    | 78   | 教員就職相談員による面接指導               |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 1    | 教員採用試験模擬試験                   |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 1    | 教員就職ガイダンス（愛知県教員採用試験の傾向と対策）   |      |    | 3  |    |
|     | 教    |     |    | 1    | 教員就職ガイダンス（教員になるために今からやるべきこと） |      | 2  |    |    |
|     |      | 公   |    | 1    | 公務員採用試験模擬試験                  |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   |    | 1    | 集団討論対策                       |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   |    | 2    | 公務員採用試験対策講座                  |      |    | 3  |    |
|     |      | 公   | 企  | 5    | 企業等就職相談員による就職進路相談            | 1    | 2  | 3  | 4  |
|     |      | 公   | 企  | 3    | 学卒ジョブサポーター就職支援               |      |    |    | 4  |
| 8月  | 教    |     |    | 1    | 新入職生講座                       | 1    | 2  | 3  | 4  |
|     | 教    |     |    | 27   | 教員就職特任指導員による就職指導             |      |    | 3  | 4  |
|     | 教    |     |    | 60   | 教員就職相談員による面接指導               |      |    |    | 4  |
|     | 教    |     |    | 7    | 教員採用試験対策講座（教職教養＋一般教養コース）     |      |    | 3  |    |
|     |      | 公   |    | 1    | 公務員採用試験模擬試験                  |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   |    | 1    | 集団討論対策                       |      |    |    | 4  |
|     |      | 公   |    | 6    | 公務員採用試験対策講座                  |      |    | 3  |    |
|     |      | 公   | 企  | 4    | 企業等就職相談員による就職進路相談            | 1    | 2  | 3  | 4  |

|     |       |    |                                        |   |   |   |   |
|-----|-------|----|----------------------------------------|---|---|---|---|
| 9月  | 教     | 6  | 教員採用試験対策講座（教職教養＋一般教養コース）               | 3 |   |   |   |
|     | 公     | 6  | 公務員採用試験対策講座                            | 3 |   |   |   |
|     | 企     | 1  | 秋の学内合同企業説明会                            |   |   | 4 |   |
|     | 公 企   | 2  | 企業等就職相談員による就職進路相談                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10月 | 教     | 1  | 教員就職ガイダンス（教員を目指す者への心構え2）               | 3 |   |   |   |
|     | 教     | 1  | 教採再チャレンジガイダンス                          |   |   | 4 |   |
|     | 教     | 2  | 教員採用試験対策講座（教職教養＋一般教養コース）               | 3 |   |   |   |
|     | 教     | 1  | 教員採用試験対策講座（教職教養コース）                    | 3 |   |   |   |
|     | 公     | 4  | 公務員採用試験対策講座                            | 3 |   |   |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業就職ガイダンス（SPI ガイダンス）                   | 3 |   |   |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業等就職相談員による就職進路相談                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11月 | 教     | 42 | 教員就職特任指導員による就職指導                       |   |   | 3 | 4 |
|     | 教     | 3  | 県外教採学内説明会                              | 1 | 2 | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業等就職相談員による就職進路相談                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
|     | 教     | 7  | 教員採用試験対策講座（教職教養＋一般教養コース）               |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 8  | 教員採用試験対策講座（教職教養コース）                    |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 1  | 教員採用試験学習スタートアドバイスセミナー                  |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 7  | 公務員採用試験対策講座                            |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 1  | 公務員就職ガイダンス（公務員採用試験の実施状況と対策、合格体験談）      |   | 2 | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業就職ガイダンス（企業研究）                        |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業等就職ガイダンス（女子学生のための就職ガイダンス）            |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業就職ガイダンス（人事担当者から見た就職活動と内定者の就職活動報告）    |   |   | 3 |   |
|     | 教 公 企 | 1  | 2年生ガイダンス                               |   | 2 |   |   |
| 12月 | 教     | 3  | 県外教採学内説明会                              | 1 | 2 | 3 |   |
|     | 教     | 44 | 教員就職特任指導員による就職指導                       |   |   | 3 | 4 |
|     | 教     | 1  | 教員就職ガイダンス（体験報告）                        |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 7  | 教員採用試験対策講座（教職教養＋一般教養コース）               |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 6  | 教員採用試験対策講座（教職教養コース）                    |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 1  | 教員採用試験模擬試験                             |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 2  | 企業等就職相談員による就職進路相談                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
|     | 公     | 1  | 公務員就職ガイダンス（各機関の公務員採用試験の概要等）            |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 1  | 公務員採用試験模擬試験                            |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 7  | 公務員採用試験対策講座                            |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業就職ガイダンス（エントリーシート講座）                  |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | SPI 模擬試験ガイダンス                          |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 2  | 業界研究セミナー                               |   |   | 3 |   |
| 1月  | 教     | 36 | 教員就職特任指導員による就職指導                       |   |   | 3 | 4 |
|     | 教     | 4  | 県外教採学内説明会                              |   |   | 3 | 4 |
|     | 教     | 1  | 教員就職ガイダンス（夢の実現！先生になろう）                 | 1 |   |   |   |
|     | 教     | 1  | 教員就職ガイダンス（教職の魅力について）                   |   | 2 |   |   |
|     | 教     | 1  | 教員就職ガイダンス（教採本番に向けて）                    |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 6  | 教員採用試験対策講座（教職教養＋一般教養コース）               |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 5  | 教員採用試験対策講座（教職教養コース）                    |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 1  | 教員採用試験模擬試験                             |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 5  | 企業等就職相談員による就職進路相談                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
|     | 公     | 1  | 公務員採用試験模擬試験                            |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 6  | 公務員採用試験対策講座                            |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | SPI 模擬試験                               |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業就職ガイダンス（面接対策講座）                      |   |   | 3 |   |
|     | 教 公 企 | 10 | 就活必勝講座                                 |   |   | 3 |   |
| 2月  | 教     | 45 | 教員就職特任指導員による就職指導                       |   |   | 3 | 4 |
|     | 教     | 1  | 県外教採学内説明会                              | 1 | 2 | 3 |   |
|     | 公 企   | 5  | 企業等就職相談員による就職進路相談                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
|     | 教     | 5  | 教員採用試験セミナー                             |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 2  | 教員採用試験対策講座（教職教養＋一般教養コース）               |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 5  | 教員採用試験対策講座（教職教養コース）                    |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 1  | 教員採用試験模擬試験                             |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 1  | 公務員採用試験模擬試験                            |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 7  | 公務員採用試験対策講座                            |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | 企業就職ガイダンス（就活スタート直前＋学内企業研究セミナー100%活用講座） |   |   | 3 |   |
| 3月  | 教     | 52 | 教員就職特任指導員による就職指導                       |   |   | 3 | 4 |
|     | 公 企   | 7  | 企業等就職相談員による就職進路相談                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
|     | 教     | 4  | 教員採用試験小学校全科講座                          |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 5  | 教職教養総まとめ講座                             |   |   | 3 |   |
|     | 教     | 1  | 教員採用試験模擬試験                             |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 9  | 公務員採用試験模擬試験                            |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 2  | 公務員採用試験対策講座                            |   |   | 3 |   |
|     | 公     | 1  | 公務員セミナー                                |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 2  | 企業研究セミナー                               |   |   | 3 |   |
|     | 公 企   | 1  | 就活必勝講座                                 |   |   | 3 |   |

\* 大学院学生の進路及び就職活動への取組は、学部学生と一体的に実施

## (2) 進路・就職状況

2015 年度卒業・修了生進路状況

2016/5/1 現在

| 課程等     | 卒業・修了者数 | 就職   |      |     |     |     |           |       |       |      |       |       |             |         |       |      |     |     | その他 |    |     |     |  |
|---------|---------|------|------|-----|-----|-----|-----------|-------|-------|------|-------|-------|-------------|---------|-------|------|-----|-----|-----|----|-----|-----|--|
|         |         | 就職教員 |      |     | 企業等 |     |           |       |       |      |       |       |             |         |       |      |     |     | 官公庁 | 合計 | 進学者 | その他 |  |
|         |         | 正規教員 | 臨時教員 | 小計  | 建設業 | 製造業 | 電気・ガス・熱供給 | 卸売・小売 | 保険・金融 | 不動産業 | 運輸・通信 | 医療・福祉 | 宿泊業・飲食サービス業 | 教育・学習支援 | サービス業 | 左記以外 | 小計  |     |     |    |     |     |  |
|         |         |      |      |     |     |     |           |       |       |      |       |       |             |         |       |      |     | その他 |     |    |     |     |  |
| 教育学部    | 951     | 348  | 143  | 491 | 9   | 27  | 2         | 23    | 19    | 7    | 49    | 19    | 3           | 17      | 22    | 8    | 205 | 100 | 796 | 93 | 62  | 155 |  |
| 教員養成課程  | 705     | 330  | 131  | 461 | 1   | 9   | 1         | 14    | 9     | 2    | 17    | 7     | 0           | 13      | 9     | 5    | 87  | 68  | 616 | 58 | 31  | 89  |  |
| 現代学芸課程  | 246     | 18   | 12   | 30  | 8   | 18  | 1         | 9     | 10    | 5    | 32    | 12    | 3           | 4       | 13    | 3    | 118 | 32  | 180 | 35 | 31  | 66  |  |
| 教育学研究科  | 71      | 28   | 15   | 43  | 0   | 1   | 0         | 0     | 0     | 1    | 1     | 5     | 0           | 0       | 1     | 2    | 11  | 0   | 54  | 1  | 16  | 17  |  |
| 教育実践研究科 | 43      | 34   | 8    | 42  |     |     |           |       |       |      |       |       |             |         |       |      | 0   | 0   | 42  | 0  | 1   | 1   |  |

\* 本表は、2015年9月卒業・修了者を含む。

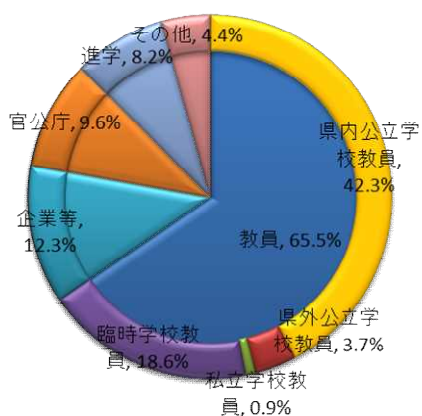
\* 保育士は教員として計上。

\* 大学院修了生で、現職教員等すでに就業している社会人も就職者として職種別に計上。

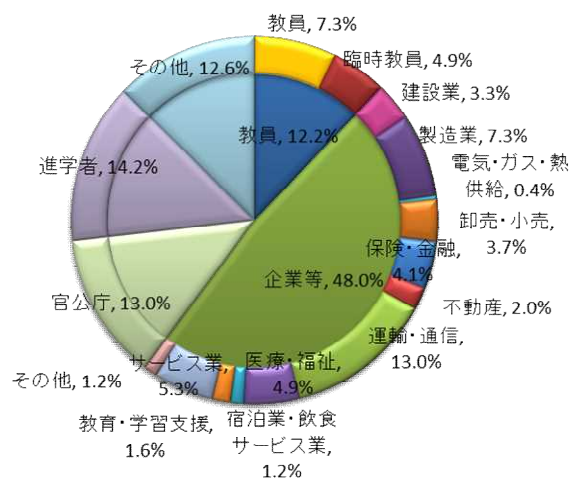
\* 教育学研究科正規教員には、国立学校教員、日本人学校教員及び海外の学校教員等を含む。

\* その他は、企業等（臨時）・官公庁（臨時）、無職（アルバイト・パート・未定を含む）、大学院・専攻科以外の学校種への進学、海外留学者が該当する。

教員養成課程 705名



現代学芸課程 246名



就職状況・進学状況・就職率 5年推移 (2010～2015年度)

各年度 5/1 現在 (単位: 人)

| 教育課程                 | 卒業年度<br>修了年度 | 卒業者<br>修了者<br>a | 進学者<br>b | 就職希望者<br>c = a - b | 就職者<br>d | 就職率                    |                      |
|----------------------|--------------|-----------------|----------|--------------------|----------|------------------------|----------------------|
|                      |              |                 |          |                    |          | 進学者を除く<br>就職希望者<br>d/c | 全ての<br>卒業・修了者<br>d/a |
| 教育学部                 | 2010         | 903             | 78       | 825                | 741      | 89.8 %                 | 82.1 %               |
|                      | 2011         | 910             | 93       | 817                | 736      | 90.1 %                 | 80.9 %               |
|                      | 2012         | 923             | 79       | 844                | 781      | 92.5 %                 | 84.6 %               |
|                      | 2013         | 931             | 71       | 860                | 754      | 87.7 %                 | 81.0 %               |
|                      | 2014         | 967             | 79       | 888                | 821      | 92.5 %                 | 84.9 %               |
|                      | 2015         | 951             | 93       | 858                | 796      | 92.8 %                 | 83.7 %               |
| 教員養成課程               | 2010         | 669             | 49       | 620                | 569      | 91.8 %                 | 85.1 %               |
|                      | 2011         | 666             | 63       | 603                | 555      | 92.0 %                 | 83.3 %               |
|                      | 2012         | 683             | 52       | 631                | 592      | 93.8 %                 | 86.7 %               |
|                      | 2013         | 693             | 49       | 644                | 578      | 89.8 %                 | 83.4 %               |
|                      | 2014         | 717             | 52       | 665                | 630      | 94.7 %                 | 87.9 %               |
|                      | 2015         | 705             | 58       | 647                | 616      | 95.2 %                 | 87.4 %               |
| 現代学芸課程               | 2010         | 234             | 29       | 205                | 172      | 83.9 %                 | 73.5 %               |
|                      | 2011         | 244             | 30       | 214                | 181      | 84.6 %                 | 74.2 %               |
|                      | 2012         | 240             | 27       | 213                | 189      | 88.7 %                 | 78.8 %               |
|                      | 2013         | 238             | 22       | 216                | 176      | 81.5 %                 | 73.9 %               |
|                      | 2014         | 250             | 27       | 223                | 191      | 85.7 %                 | 76.4 %               |
|                      | 2015         | 246             | 35       | 211                | 180      | 85.3 %                 | 73.2 %               |
| 教育学研究科<br>(修士課程)     | 2010         | 126             | 3        | 123                | 95       | 77.2 %                 | 75.4 %               |
|                      | 2011         | 126             | 4        | 122                | 96       | 78.7 %                 | 76.2 %               |
|                      | 2012         | 128             | 0        | 128                | 93       | 72.7 %                 | 72.7 %               |
|                      | 2013         | 109             | 0        | 109                | 79       | 72.5 %                 | 72.5 %               |
|                      | 2014         | 84              | 2        | 82                 | 66       | 80.5 %                 | 78.6 %               |
|                      | 2015         | 71              | 1        | 70                 | 54       | 77.1 %                 | 76.1 %               |
| 教育学研究科<br>(後期3年博士課程) | 2014         | —               | —        | —                  | —        | —                      | —                    |
|                      | 2015         | 1               | 0        | 1                  | 1        | 100.0 %                | 100.0 %              |
| 教育実践研究科<br>(教職大学院)   | 2010         | 27              | 0        | 27                 | 26       | 96.3 %                 | 96.3 %               |
|                      | 2011         | 36              | 0        | 36                 | 35       | 97.2 %                 | 97.2 %               |
|                      | 2012         | 38              | 0        | 38                 | 38       | 100.0 %                | 100.0 %              |
|                      | 2013         | 33              | 0        | 33                 | 33       | 100.0 %                | 100.0 %              |
|                      | 2014         | 45              | 0        | 45                 | 45       | 100.0 %                | 100.0 %              |
|                      | 2015         | 43              | 0        | 43                 | 42       | 97.7 %                 | 97.7 %               |

\* 本表は「大学概要2016」の内容によるものであり、9月卒業・修了者及び外国人留学生を含む。

\* 大学院修了生で、現職教員等すでに就業している社会人も就職者として計上。

\* 進学者は、教育学部は大学院又は専攻科への進学、大学院は大学院博士課程への進学についてのみ計上。

**(3) 教員就職の状況**

就職教員就職ランキング (3月卒・修のみ) 5年推移 (2010～2015年度)

卒業次年度 9/30 現在 (単位: 人)

| 教育課程             | 卒業年度<br>修了年度 | 卒業者<br>修了者<br>a(d+e+f) | 教員計 |     | 教員以外<br>c | 就職者<br>d(b+c) | 進学者<br>e | 未就職<br>f | 教員<br>就職率<br>b/a | 全国順位 |
|------------------|--------------|------------------------|-----|-----|-----------|---------------|----------|----------|------------------|------|
|                  |              |                        | 正規  | 臨時  |           |               |          |          |                  |      |
| 教育学部             | 2010         | 886                    | 352 | 172 | 524       | 220           | 744      | 82       | 59.1 %           | —    |
|                  | 2011         | 897                    | 313 | 199 | 512       | 220           | 732      | 97       | 57.1 %           | —    |
|                  | 2012         | 908                    | 349 | 188 | 537       | 247           | 784      | 79       | 59.1 %           | —    |
|                  | 2013         | 917                    | 322 | 202 | 524       | 247           | 771      | 71       | 57.1 %           | —    |
|                  | 2014         | 948                    | 342 | 181 | 523       | 299           | 822      | 77       | 55.2 %           | —    |
|                  | 2015         | 935                    | 343 | 144 | 487       | 320           | 807      | 90       | 52.1 %           | —    |
| 教員養成課程           | 2010         | 664                    | 324 | 153 | 477       | 97            | 574      | 52       | 71.8 %           | 3位   |
|                  | 2011         | 659                    | 281 | 183 | 464       | 91            | 555      | 67       | 70.4 %           | 6位   |
|                  | 2012         | 673                    | 316 | 174 | 490       | 104           | 594      | 52       | 72.8 %           | 4位   |
|                  | 2013         | 683                    | 299 | 189 | 488       | 100           | 588      | 49       | 71.4 %           | 3位   |
|                  | 2014         | 708                    | 321 | 166 | 487       | 145           | 632      | 52       | 68.8 %           | 8位   |
|                  | 2015         | 701                    | 326 | 133 | 459       | 166           | 625      | 58       | 65.5 %           | 9位   |
| 現代学芸課程           | 2010         | 222                    | 28  | 19  | 47        | 123           | 170      | 30       | 21.2 %           | —    |
|                  | 2011         | 238                    | 32  | 16  | 48        | 129           | 177      | 30       | 20.1 %           | —    |
|                  | 2012         | 235                    | 33  | 14  | 47        | 143           | 190      | 27       | 20.0 %           | —    |
|                  | 2013         | 224                    | 23  | 13  | 36        | 137           | 173      | 22       | 16.1 %           | —    |
|                  | 2014         | 240                    | 21  | 15  | 36        | 154           | 190      | 25       | 15.0 %           | —    |
|                  | 2015         | 234                    | 17  | 11  | 28        | 154           | 182      | 32       | 12.0 %           | —    |
| 教育学研究科<br>(修士課程) | 2010         | 112                    | 55  | 25  | 80        | 20            | 100      | 2        | 71.4 %           | —    |
|                  | 2011         | 121                    | 38  | 30  | 68        | 24            | 92       | 4        | 56.2 %           | —    |
|                  | 2012         | 128                    | 43  | 16  | 59        | 43            | 102      | 0        | 46.1 %           | —    |
|                  | 2013         | 109                    | 40  | 22  | 62        | 17            | 79       | 0        | 56.9 %           | —    |
|                  | 2014         | 74                     | 30  | 16  | 46        | 19            | 65       | 2        | 62.2 %           | —    |

|                      |      |    |    |    |    |    |    |   |   |         |   |
|----------------------|------|----|----|----|----|----|----|---|---|---------|---|
|                      | 2015 | 64 | 28 | 10 | 38 | 23 | 61 | 1 | 2 | 59.4 %  | — |
| 教育学研究科<br>(後期3年博士課程) | 2014 | —  | —  | —  | —  | —  | —  | — | — | —       | — |
|                      | 2015 | 2  | 0  | 0  | 0  | 2  | 2  | 0 | 0 | 0 %     | — |
| 教育実践研究科<br>(教職大学院)   | 2010 | 27 | 25 | 1  | 26 | 0  | 26 | 0 | 1 | 96.3 %  | — |
|                      | 2011 | 36 | 29 | 6  | 35 | 0  | 35 | 0 | 1 | 97.2 %  | — |
|                      | 2012 | 38 | 30 | 7  | 37 | 1  | 38 | 0 | 0 | 97.4 %  | — |
|                      | 2013 | 33 | 29 | 4  | 33 | 0  | 33 | 0 | 0 | 100.0 % | — |
|                      | 2014 | 45 | 35 | 8  | 43 | 2  | 45 | 0 | 0 | 95.6 %  | — |
|                      | 2015 | 43 | 33 | 9  | 42 | 1  | 43 | 0 | 0 | 97.7 %  | — |

\* 人数、全国順位は、文部科学省「教員養成学部調査」の内容であり、9月卒業・修了者及び外国人留学生は含まない。

\* 教員は、幼、小、中、中等、高、特別支援学校の教員のみとし、大学教員や保育士等は教員以外に計上。

\* 大学院修了生で、現職教員等すでに就業している社会人も就職者として計上した。

\* 進学者は、教育学部は大学院又は専攻科への進学者を、大学院は大学院博士課程への進学者を計上した。

## 9 ファカルティ・ディベロップメント活動（FD 活動）

2015 年度実施状況

|              | 開催日程                    | 題 目                     | 内 容                                                                                                                                                                                                           | 参加人数 |
|--------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 教育学部         |                         |                         |                                                                                                                                                                                                               |      |
| 1            | 2015/5/13～<br>2015/5/15 | 新採用教員 F D               | 「教育大学職員として、どのように教育・研究を行ったらよいか」をテーマにしたグループワーク、本学附属特別支援学校、附属岡崎小学校及び刈谷市立朝日小学校・雁が音中学校を訪問し、校長先生の講話、授業参観及び教員との意見交換会を実施した。                                                                                           | 19   |
| 2            | 2015/5/16               | 化学ゼミナール I               | 教員と受講学生が安全に楽しい理科実験の授業ができる先生を目指す学生のための大学の授業を公開する。出前化学実験の実践として行っている、化学マジックなどの実験を行う。                                                                                                                             | 49   |
| 3            | 2015/7/8                | 教職大学院における授業改善に関する F D   | 「授業アンケートにもとづく授業改善に関する協議」および「理論と実践の融合を図るための授業に関する協議」を目的に開催した。また、協議の対象となる授業「カリキュラムの開発と評価」を設定し、教職大学院の教員が参観した。                                                                                                    | 15   |
| 4            | 2015/7/25・<br>2015/7/26 | 学生による F D 活動（模擬授業）の実施   | 本学のオープンキャンパスにおいて、学生による模擬授業を実施した。                                                                                                                                                                              | —    |
| 5            | 2015/8/5                | 情報教育講座による F D（メディア制作 A） | 現代学芸課程 情報科学コースの授業「メディア制作 A」は、受講学生たちがデジタル機器を用いて映像作品を制作し、上映会を実施した。                                                                                                                                              | —    |
| 6            | 2015/9/2・<br>2015/9/3   | 学生 F D サミット             | 教員2名と学生6名が「学生FDサミット2015夏 学生FDしていますか？ー本当に大学が“よく”なっている！ー」（2015年9月2日(水)、3日(木)、追手門学院大学）に参加し、オープンキャンパスの実践を中心に発表しました。                                                                                               | 8    |
| 7            | 2015/9/24               | 教職実践演習 F D              | 全学FD「教職実践演習FD」が開催されました。パネルディスカッションにより、eポートフォリオおよび「教育実習記録」を教職実践演習において如何に活用するのかが検討されました。野田敦敬副学長、片山悠樹教員、平野俊英教員、伊深祥子教員、水川敬章教員がパネリストとして登壇し、各教員がそれぞれの教育実践演習の内容や立場に鑑みながら、eポートフォリオおよび「教育実習記録」を活用するための方法について議論が行われました。 | —    |
| 8            | 2016/1/27               | 全学 F D 講演会              | 第一共通棟201教室において、埴雅典先生（山梨大学大学教育センター長）をお招きし、全学FD講演会「学生の主体的・協調的な学びを引き出す反転授業～山梨大学における実践例～」を開催しました。反転授業とは、教室における学習と自宅学習の役割を入れ替えた授業の名称です。つまり、学生は自宅でビデオ授業を視聴し、教室では他の学生と協働して課題に取り組みます。                                 | 70   |
| 9            | 2016/3/12・<br>2016/3/13 | 学生 F D サミット             | 教員1名と学生7名が、「学生FDサミット2016春 学生×教員×職員 足りない色は、補えばいい。」（2016年3月12日(土)、13日(日)、日本大学文理学部キャンパス）に参加し、ポスターセッション等を行いました。                                                                                                   | 8    |
| 10           | 2015/5/29～<br>2016/2/4  | 学部・教職大学院授業公開            | 19件の学部授業と7件の教職大学院授業が公開されました。授業公開者に加え、教育学部の授業には延べ94名、教職大学院の授業には延べ22名の教員が参観しました。教育学部の参観者数は昨年度の67名と比べ、大きく増加しました。                                                                                                 | 116  |
| 教育学研究科（修士課程） |                         |                         |                                                                                                                                                                                                               |      |
| 1            | 2016/2/29               | 教育学研究科における修了生支援         | 既設大学院FD「教育学研究科における修了生支援」が開催されました。佐々木徹郎自然科学系長の趣旨説明の後、中山弘之教員（教職実践講座）により、教職実践研究科の取り組みの報告、三原幹生教員（保健体育講座）による教育学研究科の現状、保健体育専攻の現状について報告がありました。その後、参加者によるディスカッションが行われました。最後に、野田副学長から、まとめと今後の課題が述べられました。               | —    |
| 教育学研究科（博士課程） |                         |                         |                                                                                                                                                                                                               |      |
| 1            | 2016/3/6                | 第6回教科開発学研究会「教科開発学を創る」   | 教育未来館において、午前、2つの分科会に分かれて、合計7本の研究発表が行われた。午後、「共同大学院設立後4年間を振り返り、今後の方向性について考える」をテーマにシンポジウムを行った。                                                                                                                   | 40   |
| 教職大学院        |                         |                         |                                                                                                                                                                                                               |      |
| 1            | 2015/7/8                | 教職大学院における授業改善に関する F D   | 「授業アンケートに基づく授業改善に関する協議」及び「理論と実践の融合を図るための授業に関する協議」を行った。                                                                                                                                                        | 14   |
| 2            | 2016/2/23               | 教職大学院の学校実習の成果と課題        | はじめに、「教職大学院の学校実習を中心とした学びについて」をテーマに8名の大学院生による研究報告を行った。次に、「教職大学院での学びをよりよくするために」をテーマに全体討論を行った。最後に、代表により討論のまとめを行った。                                                                                               | —    |

## 10 教育研究基金を活用した活動

| 設立                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                |                                    |             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------|-------------|
| 2005年10月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                |                                    |             |
| 教育研究基金                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                |                                    |             |
| 概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                |                                    |             |
| <p>国の運営費交付金や学生の授業料等に依存するのみでなく、新たな財政的基盤を確立し、教育研究の一層の充実と様々な活動を通じて、教員養成を主軸に本学の存在感を一段と高めていく趣旨で創設。</p> <p>一口5,000円の一般的な寄附と、原則として4年間継続して一定額を寄附いただく特別会員制度による寄附の2種類があり、寄附いただいた方々は「AUEクラブ」会員として登録し、希望により本学ウェブサイト（AUEクラブ会員名簿）に掲載している。また、10万円以上の高額寄附者については、本学本部棟ロビーの「教育研究基金寄附者」一覧に氏名を記載している。</p>                                                                                               |                |                                    |             |
| 教育研究基金による実施事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                |                                    |             |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>国際交流の推進に関する支援事業 <ol style="list-style-type: none"> <li>交流協定大学からの留学生受け入れ事業</li> <li>交流協定大学への留学希望学生に対する留学支援事業（学部学生に限る）</li> <li>交流協定大学等の協力による海外学校体験事業</li> </ol> </li> <li>学生支援事業 <ol style="list-style-type: none"> <li>課外活動等支援</li> <li>愛知教育大学学生表彰規程第2条（表彰の基準）該当学生等への報奨金</li> <li>優秀学生に対する学長表彰</li> </ol> </li> <li>その他特に必要と認める事業</li> </ol> |                |                                    |             |
| 収支・活動実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                |                                    |             |
| 収入額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | (単位：円)         | 支出額（主な事業内容）                        | (単位：円)      |
| 前年度繰越                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 55,983,297     | 交流協定大学からの留学生受け入れ事業                 | 2件 300,000  |
| 基金受入額                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 4,193,000      | 交流協定大学への留学希望学生に対する留学支援事業（学部学生に限る。） | 0件          |
| 企業団体                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 7件 510,000     | 交流協定大学等の協力による海外学校体験事業              | 0件          |
| 個人会員                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 289件 3,683,000 | 課外活動等支援                            | 2件 40,000   |
| 運用益                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 103,032        | 愛知教育大学学生表彰規程第2条（表彰の基準）該当学生等への報奨金   | 6件 30,000   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                | 優秀学生に対する学長表彰                       | 11件 110,000 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                | その他事業等                             | 0件          |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                | 振込手数料                              | 35,127      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                | 消耗品等                               | 326,141     |
| 合計                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 60,279,329     | 合計                                 | 841,268     |

## 第5章 研究活動

### 1 研究活動の状況

#### (1) 研究プロジェクトの状況

##### ① 特別経費

2015年度運営費交付金（特別経費）採択一覧

|   | 採択期間              | 事業名・概要                                                                                                                                                                                                                                                                         | 研究活動支援体制<br>2015年度 予算（千円）                                                         |
|---|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 2014<br>－<br>2017 | <b>グローバル人材育成を主軸とした教員養成等プログラムの開発</b><br>－海外教育実習、体験型教育及び英語コミュニケーション能力と指導力養成カリキュラムの構築－<br>教員養成大学の特性を活かし、国際社会で活躍できる人材を目的として、グローバル教育及び英語コミュニケーション能力と指導力養成カリキュラムの構築、海外での教育実習、留学・短期交流プログラムの開発・拡充及び機会を付与する。更に、TOEFL等による将来の教員の英語力育成と評価の研究開発プログラム及び、聴覚障害者や英語が苦手な学生等の支援と開発プログラムを構築し、提案する。 | 高度教員養成支援課、財務企画課、研究連携課人文社会系担当が連携して支援。<br><b>運営費交付金 9,224</b><br><b>学内負担額 2,500</b> |

##### ② 大学改革推進等補助金

|   | 採択期間              | 事業名・概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 研究活動支援体制<br>2015年度 予算（千円）                                                                                                                         |
|---|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 2012<br>－<br>2016 | <b>愛知県内教員養成高度化支援システムの構築</b><br>本連携事業は、中教審答申を受け、現職教員並びに新任教員の「教員養成の修士レベル化」を一層推進するため、愛知県内の国公立大学33大学が構成する「愛知教員養成コンソーシアム」に参加する国公立の5大学が、県内における教員養成の高度化を既存の大学院修士課程との連携を図りながら、学士課程および修士課程における教員養成プログラムを構想する取組です。このプログラムでは、各大学の特徴を活かし各大学の独自性を保ちながら、一部を共同授業として展開し、教員養成としての質の保証を目指し、愛知県総合教育センターや名古屋学校教育センターと連携し、現職教員の研修プログラム（修士レベル）の確立を通して、県内の小、中、高等学校教員の資質能力の向上改善を目指します。また、教員としての諸資格（社会教育主事、学校図書館司書教諭、学芸員等）の取得を図り、多様で個性的な教員の養成を目指しています。 | 研究連携課を中心に、教務課、財務企画課と連携して支援。<br><b>大学改革推進等補助金 17,335</b><br>連携校名：愛知教育大学、愛知県立大学、桜花学園大学、名古屋学芸大学、名城大学<br>連携機関：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県博物館協会、愛知県学校図書館研究会 |

\* 特別経費のほか、文部科学省の大学改革推進等補助金として（2012年度）「大学間連携共同教育推進事業」に、本学が代表校となり愛知県内国公立5大学が「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」の取組を共同申請し、採択されました。本取組は、当該事業に対して全国各大学等から153件の申請があり、49件が選定されたうちの1件です。

##### ③ 国立大学改革強化推進補助金

|   | 採択期間              | 事業名・概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 研究活動支援体制<br>2015年度 予算（千円）                                                                              |
|---|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 2012<br>－<br>2017 | <b>大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築－教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト－</b><br>本連携事業は、教員養成教育が共通して抱える諸課題を協働で解決できる体制を整備するとともに、全国の教員養成系大学・学部とのネットワーク化を図り、日本における教員養成の高度化支援システムを構築し、HATO 四大学が連携することにより、各大学の強みを生かしつつ教員養成機能の強化・充実を図ること、更には、全国の教員養成系大学・学部と連携・協力を促進し、日本の教員養成の諸課題に積極的に対応することを目的とします。<br>教員養成開発連携機構、教員養成開発連携センター及び部門の設置<br>教員養成開発連携機構の下で4大学が事業を共有し協働するため、各大学に教員養成開発連携センターを設置し、実施課題の解決のため、以下3部門を各センターに共通して設置しました。その他特別プロジェクトがあります。<br><b>IR (Institutional Research) 部門</b><br>教員を目指す学生の一定水準の質を確保するためのプログラム開発及び学生の学習成果の調査、分析、改善プログラムの共同開発に向けた先行調査などを推進し、教員養成系のIRネットワーク構築（IR コンソーシアムの設置を含む）を目指し、教員養成機能の強化に取り組めます。<br><b>研修・交流支援部門</b><br>教員養成の国際化を目指したSD、FD研修の共同実施と研修プログラム等の開発及び教員養成系大学・学部の交流・相互支援による教員養成相互支援ネットワークの構築に取り組みます。<br><b>先導的実践プログラム部門</b><br>四大学のそれぞれの強みを生かし特色ある取り組みを進め、全国の教員養成系大学・学部にも普及するための先導的実践プログラムの開発事業を行います。<br>本学担当プロジェクト<br>・理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクト<br>・外国人児童生徒学習支援プロジェクト | 研究連携課を中心に、教務課、財務企画課と連携して支援。<br><b>国立大学改革強化推進補助金 2015年度 27,071</b><br>連携校名：愛知教育大学、東京学芸大学、北海道教育大学、大阪教育大学 |

|   |                   |                                                                                                                                                     |                                                                                                            |
|---|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |                   | ・特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト<br><br><b>特別プロジェクト</b><br>本学担当プロジェクト<br>・教員の魅力プロジェクト                                                                        |                                                                                                            |
| 2 | 2012<br>-<br>2017 | <b>アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進</b><br>本事業は、アジアを中心とする世界を舞台に、困難な課題に立ち向かう指導者層の育成を目指し、近隣大学と協働して、海外教育研究拠点を活用し、体験教育を核とした教育プログラムを開発・実施することを目的としています。 | 高度教員養成支援課、国際交流センター、財務企画課と連携して支援。<br><b>国立大学改革強化推進補助金</b><br><b>2015年度 10,000</b><br>連携校名：愛知教育大学、名古屋大学、三重大学 |

\* 1のHATOプロジェクトは、大規模教員養成系単科大学である北海道教育大学（H）、愛知教育大学（A）、東京学芸大学（T）、大阪教育大学（O）（この四大学「HATO」と呼ぶ）による連携事業。

\* 2は、名古屋大学、三重大学、愛知教育大学の三大学連携事業です。

## （2）学長裁量経費等の採択状況

### ① 学長裁量経費（プロジェクト経費）

| 設 備 品 名                   | 所 属 | 研究代表者 | 採択額(千円) |
|---------------------------|-----|-------|---------|
| 2015年度は、財政等の事情により公募を見送った。 |     |       |         |
| 合 計                       |     |       | 0 千円    |

\* 学長裁量経費（プロジェクト経費）は、教育研究活動の一層の活性化を目的として、今後の発展が期待できる研究テーマを支援するものであり、学長裁量経費として認められた予算を原資に、学内公募により優れたプロジェクトを選定、経費配分する。公募分野は、教育改善経費、附属学校との共同プロジェクト経費及び附属学校教員の研究支援経費、学外連携推進事業経費の3つがある。

### ② 大学教育研究重点配分経費

| 公募分野   | 研究課題名                                              | 所 属        | 研究代表者      | 採択額(千円) |
|--------|----------------------------------------------------|------------|------------|---------|
| 教育改善分野 | 学童保育でのボランティア活動による学生の意識変化                           | 学校教育講座     | 小嶋佳子       | 210千円   |
| 教育改善分野 | 附属学校におけるアンケート調査を用いたいじめ・不登校予防法の開発と実践介入に関する研究        | 学校教育講座     | 大村 恵       | 1,000千円 |
| 教育改善分野 | 現場から「外国人児童生徒支援」についてお話を伺う                           | 日本語教育講座    | 川口直巳       | 190千円   |
| 教育改善分野 | CLILを活用した小学校英語教育の研究－教育実践カリキュラム開発                   | 外国語教育講座    | ライアン・アンソニー | 1,000千円 |
| 教育改善分野 | 教員養成系大学院における実践的指導力育成と地域防災教育の展開に関する基礎的研究－学校現場との往還から | 地域社会システム講座 | 伊藤貴啓       | 685千円   |
| 教育改善分野 | HATO附属学校間連携プロジェクト FDコンテンツの作成                       | 理科教育講座     | 戸谷義明       | 200千円   |
| 教育改善分野 | ICTを活用した教員養成の高度化・グローバル化に対応した実践研究                   | 情報教育講座     | 江島徹郎       | 996千円   |
| 教育改善分野 | ICTを活用したプロジェクトのシームレスな連携を目指した実践研究                   | 情報教育講座     | 梅田恭子       | 836千円   |
| 教育改善分野 | 体育授業研究の活性化に向けた附属名古屋小学校との連携に関する調査研究                 | 保健体育講座     | 鈴木一成       | 282千円   |
| 教育改善分野 | 学級力に着目した学級経営を普及・発展させるための調査研究                       | 技術教育講座     | 磯部征尊       | 1,000千円 |
| 研究発展分野 | 高密度クォーク物質におけるカイラル結晶秩序                              | 理科教育講座     | 阿武木啓朗      | 400千円   |
| 研究発展分野 | カンドル理論への組合せ論の活用                                    | 数学教育講座     | 井上 歩       | 630千円   |

|            |                                                             |          |               |          |
|------------|-------------------------------------------------------------|----------|---------------|----------|
| 研究発展分野     | 高齢者のロコモティブシンドローム予防を目的とした身体活動レベルおよび筋の質的・量的評価                 | 保健体育講座   | 寺本圭輔          | 590千円    |
| 研究発展分野     | 不活動による下肢骨格筋の萎縮に対するβ2作動薬投与の回復促進作用                            | 保健体育講座   | 鈴木英樹          | 280千円    |
| 研究発展分野     | 子育て・子育てをめぐるジェンダー関係と援助ネットワークの日韓比較<br>－量的・質的データ・セットの作成・分析・公表－ | 家政教育講座   | 山根真理          | 460千円    |
| 教育研究成果公表分野 | 発達障害理解推進ミュージカル                                              | 教育臨床センター | 祖父江典人<br>吉岡恒生 | 1,437千円  |
| 合 計        |                                                             |          |               | 10,196千円 |

\* 大学教育研究重点配分経費は、中期目標・中期計画の取組との関連を明確にした個人又はグループの研究テーマの支援を目的として、大学教育研究費の一部を原資に、学内公募により優れたプロジェクトを選定、経費配分する。公募分野は、教育改善分野（共通教育、専門教育（教員養成4課程）、大学院教育）、研究発展分野、教育研究成果報告分野の3つがある。

### （3）外部研究資金獲得状況

#### ① 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業申請・採択状況

採択金額（単位：千円）

| 研究種目       | 2014年度採択分 |     |      |         | 2015年度採択分 |     |      |         |
|------------|-----------|-----|------|---------|-----------|-----|------|---------|
|            | 申請件数      |     | 採択件数 |         | 申請件数      |     | 採択件数 |         |
|            | 新規        | 継続  | 件数   | 採択金額    | 新規        | 継続  | 件数   | 採択金額    |
| 科学研究費      | 107       | 64  | 83   | 104,260 | 99        | 50  | 77   | 91,780  |
| 新学術領域研究    | 3         | 0   | 0    | 0       | 1         | 0   | 0    | 0       |
| 基盤研究（A）    | 1         | 0   | 0    | 0       | ※1        | 0   | 0    | 0       |
| 基盤研究（B）    | 5         | 3   | 3    | 14,560  | 8         | 2   | 2    | 10,010  |
| 基盤研究（C）    | 72        | 43  | 58   | 69,420  | 61        | 38  | 54   | 61,230  |
| 挑戦的萌芽研究    | 6         | 1   | 2    | 2,210   | 9         | 1   | 3    | 2,470   |
| 若手研究（A）    | 1         | 0   | 1    | 1,430   | 0         | 1   | 1    | 1,040   |
| 若手研究（B）    | 19        | 17  | 19   | 16,640  | 19        | 8   | 17   | 17,030  |
| 研究活動スタート支援 | (2)       | (0) | (0)  | (0)     | (2)       | (0) | (1)  | (1,300) |
| 研究成果公開促進費  | 5         | 0   | 3    | 4,000   | 1         | 0   | 1    | 1,600   |
| 学術図書       | 5         | 0   | 3    | 4,000   | 1         | 0   | 1    | 1,600   |
| 国際共同研究加速基金 | -         | -   | -    | -       | 1         | -   | 0    | 0       |
| 国際共同研究強化   | -         | -   | -    | -       | 1         | -   | 0    | 0       |
| 合 計        | 112       | 64  | 86   | 108,260 | 101       | 50  | 78   | 93,380  |

\* 申請件数は、表示年度の前年度に申請した件数。当該年度に申請する研究種目は（ ）で表示し、合計には含まない。

\* 採択金額は、当該年度分の配当予定額を計上。（教員の異動状況を反映しているため、申請件数と合わない場合がある。）

※ 2015年度申請の基盤研究（A）は、静岡大学との共同申請（申請期間：静岡大学）。

#### ② 受託研究、共同研究、受託事業

2015年度受託研究費受入状況

契約金額（単位：千円）

| No. | 受託先                           | 研究題目                                                      | 研究者名   | 契約金額                   | 競争的 |
|-----|-------------------------------|-----------------------------------------------------------|--------|------------------------|-----|
| 1   | 武豊町                           | 「シロバナナガバノイシモチソウ群落」の株数回復の取組み                               | 渡邊 幹男  | 150                    |     |
| 2   | 豊明市                           | ナガバノイシモチソウ群落の多様性及びクローン構造の解析                               | 渡邊 幹男  | 150                    |     |
| 3   | 豊明市                           | 大狭間湿地水量等調査委託                                              | 渡邊 幹男  | 250                    |     |
| 4   | (独) 科学技術振興機構<br>【戦略的創造研究推進事業】 | 理論化学計算を利用した反応触媒作用の解析および合理的設計のための情報創出、特に分子性酸触媒の設計に向けての構造計算 | 赤倉 松次郎 | 1,443<br>(前年度契約)<br>*1 | ○   |
| 5   | (株)新興出版啓林館                    | デジタル教科書用ソフト開発                                             | 飯島 康之  | 322                    |     |
| 合 計 |                               |                                                           |        | 2,315                  |     |

\*1 複数年契約で、事業年度ごとに金額が変更契約されるもの。

\* 競争的資金としては、科学研究費助成事業のほか、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の「戦略的創造研究推進事業」をはじめ、公募・審査の過程を経て採択された研究を対象に集計。

\* 計6件（地方公共団体3件(550千円)、その他2件(1,765千円)）。うち、複数年契約1件、競争的資金1件。

2015年度共同研究費受入状況

契約金額（単位：千円）

| No. | 受託先      | 研究題目                            | 研究者名  | 契約金額  | 競争的 |
|-----|----------|---------------------------------|-------|-------|-----|
| 1   | 自然科学研究機構 | 溶液NMRの共同利用促進のための講習会およびソフトウェアの導入 | 中野 博文 | 1,350 |     |
| 合 計 |          |                                 |       | 1,350 |     |

2015年度受託事業費受入状況

契約金額(単位:千円)

| No. | 受託先                      | 事業名                                                                    | 事業担当                            | 契約金額   | 競争的 |
|-----|--------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|--------|-----|
| 1   | 文部科学省初等中等教育局             | 学校図書館司書教諭講習実施経費                                                        | 高度教員養成支援課                       | 630    | ○   |
| 2   |                          | 幼稚園教員資格認定試験実施経費                                                        | 教務課                             | 1,834  | ○   |
| 3   |                          | 平成27年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業(発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)      | 研究連携課                           | 9,374  | ○   |
| 4   |                          | 平成27年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業(発達障害理解推進拠点事業)                | 高度教員養成支援課                       | 3,262  | ○   |
| 5   |                          | 平成27年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業(発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業) | 高度教員養成支援課                       | 6,554  | ○   |
| 6   | 刈谷市 知立市 豊田市 豊明市          | 外国人児童生徒のための教材開発・学習支援                                                   | 研究連携課                           | 4,000  |     |
| 7   | 刈谷市                      | 「ものづくり体験教室」開催事業                                                        | 樋口 一成                           | 156    |     |
| 8   | 国立教育政策研究所                | 意識的に吟味した考えを表現できる子どもの育成                                                 | 附属名古屋中学校                        | 268    |     |
| 9   | 愛知県(愛知県教育委員会)            | あいち理数教育推進事業 知の探求講座                                                     | 自然科学系担当                         | 359    |     |
| 10  | 愛知県                      | あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業                                                   | 研究連携課                           | 1,090  |     |
| 11  | (株)吉見製作所                 | 「形状記憶合金による医療用機器部品製造の自立化に向けた試作開発」                                       | 北村 一浩                           | 440    | ○   |
| 12  | (独)日本学術振興会               | 平成27年度ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)               | 高橋 真聡<br>星 博幸                   | 660    | ○   |
| 13  | 刈谷市都市施設管理協会              | 親子体験教室(愛知教育大学協力)開催事業                                                   | 山下 順平<br>樋口 一成<br>岩山 勉<br>清水 秀己 | 156    |     |
| 14  | 中部電力株式会社                 | 「小中学校教員向け『電気事業に関する授業実施のための図解集』の作成」                                     | 研究連携課                           | 1,080  |     |
| 15  | (公財)ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) | 平成27年度「日本/ユネスコパートナーシップ事業」(APSUnivNetユネスコスクール交流会開催・会議及び全国大会等参加)         | 研究連携課                           | 616    |     |
| 16  | 株式会社中日新聞社                | 次世代教育「NIEの新たなカリキュラム開発」および「補助教材等作成」プロジェクト                               | 研究連携課                           | 600    |     |
| 17  | 独立行政法人国際交流基金             | 国内大学連携事業「海外日本語インターンプログラム」                                              | 高度教員養成支援課                       | 429    | ○   |
| 18  | 国立研究開発法人科学技術振興機構         | 中高生の科学研究実践活動推進プログラム(学校活動型)                                             | 附属高等学校                          | 500    |     |
| 合 計 |                          |                                                                        |                                 | 32,008 |     |

\* 競争的資金としては、科学研究費助成事業のほか、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の「戦略的創造研究推進事業」をはじめ、公募・審査の過程を経て採択された研究を対象に集計。

\* 計18件(地方公共団体等10件(27,527千円)、その他8件(4,481千円))。うち、競争的資金8件。

※契約金額の合計は32,005,533円だったが、四捨五入の合計の関係で32,008千円という形となった。

## ③ 寄附金

2015年度研究活動に係る寄附金受入状況

寄附金額(単位:千円)

| No. | 寄附者等                    | 研究題目                             | 研究者名   | 寄附金額  |
|-----|-------------------------|----------------------------------|--------|-------|
| 1   | ユケン工業株式会社 代表取締役<br>小島憲和 | 機能性有機物の研究に関する研究助成                | 中野 博文  | 300   |
| 2   | 愛知県立半田高等学校 校長 澤田<br>哲   | NMR の測定に関する研究助成                  |        | 30    |
| 3   |                         |                                  |        | 20    |
| 4   |                         |                                  |        | 20    |
| 5   |                         |                                  |        | 30    |
| 6   |                         |                                  |        | 20    |
| 7   |                         |                                  |        | 20    |
| 8   | 黒川 雅幸                   | 安心ネットづくり促進協議会「2014 年度研究支援（助成）」   | 黒川 雅幸  | 500   |
| 9   | 公益財団法人 電気通信普及財団 研究調査助成  | 700                              |        |       |
| 10  | 生鷹 亜樹子                  | 公益財団法人交流協会 共同研究助成事業              | 生鷹 亜樹子 | 540   |
| 11  | 株式会社太陽機構                | 湿地性植物の遺伝子解析に関する研究                | 渡邊 幹男  | 250   |
| 12  | 愛知みどりの会                 | 愛知県生物多様性調査助成金                    |        | 200   |
| 13  |                         | 愛知県生物多様性調査助成金                    | 加藤 淳太郎 | 100   |
| 14  | 磯部 征尊                   | 公益財団法人大幸財団 平成 27 年度 人文・社会科学系学術助成 | 磯部 征尊  | 1,000 |
| 15  | 株式会社テクノ中部               | ピオトップ計画に関する調査，研究への助成金            | 澤 正実   | 250   |
| 合 計 |                         |                                  |        | 3,980 |

## （４）研究成果の公表とその現状

### ① 研究者総覧システム

|      |                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 正式公開 | 2009年9月                                                                                                       |
| 公開内容 | 本学全教員のプロフィール、研究業績、教育業績、社会活動及び管理運営実績情報等                                                                        |
| URL  | <a href="http://souran.aichi-edu.ac.jp/souran/index.html">http://souran.aichi-edu.ac.jp/souran/index.html</a> |

### ② 学術情報リポジトリ

|      |                                                                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 正式公開 | 2009年1月                                                                                                                         |
| 概 要  | 本学における教育・研究活動により創造された教育・研究成果及び本学が所蔵する学術情報資料を、電子的な形式で恒久的に蓄積・保存し、ネットワークを通じて学内外に無償で発信・提供することにより、本学の教育・研究の発展に資するとともに、社会に対する貢献を果たすもの |
| 公開内容 | 紀要、論文、学長裁量経費や大学教育研究重点配分経費の成果報告書、学位論文の抄録、教員インタビュー等                                                                               |
| URL  | <a href="http://repository.aichi-edu.ac.jp/">http://repository.aichi-edu.ac.jp/</a>                                             |

学術情報リポジトリ登録状況

論文登録数：毎月末現在累計

|       | 増加数 | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    |
|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 論文登録数 | 503 | 5,045 | 5,091 | 5,103 | 5,107 | 5,107 | 5,170 | 5,176 | 5,176 | 5,185 | 5,186 | 5,186 | 5,476 |

学術情報リポジトリダウンロード状況

ダウンロード件数：月間累計

|          | 計         | 4月     | 5月      | 6月      | 7月      | 8月     | 9月     | 10月     | 11月     | 12月    | 1月      | 2月     | 3月     |
|----------|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|---------|--------|---------|--------|--------|
| ダウンロード件数 | 1,216,851 | 87,632 | 120,549 | 154,930 | 134,317 | 86,268 | 86,450 | 107,657 | 107,288 | 90,770 | 105,275 | 74,061 | 61,654 |

### ③ 愛知教育大学出版会

|                    |                                                |
|--------------------|------------------------------------------------|
| 設 立                | 2005年6月                                        |
| 形 態                | 法人の内部組織。国立大学法人愛知教育大学が、自らの責任において主体的に出版会の運営にあたる。 |
| 販売方法               | 愛知教育大学生協同組合及びAmazon（2011年度に法人登録及び商品登録）         |
| 刊行物<br>(2015年度末現在) | 69件（販売品52件、非売品17件）                             |

### ④ 特色ある研究の公表及びアカデミックカフェの実施

| 特色ある研究の公表 |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概 要       | 教員養成系大学にあって幅広い分野の研究が行われていることを社会に発信するとともに、学内外から直接的・間接的フィードバックを得ることで更なる研究の活性化を図っている                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 2015 年度実績 | 副学長・美術教育講座 松本 昭彦 教授<br>「絵の見方・描き方・教え方」<br>教職実践講座 萬屋 育子 特任教授<br>「増え続ける子どもの虐待、私たちにできることは ～発見、対応から支援、予防まで～」                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| URL       | http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/research/tokushoku.html                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| アカデミックカフェ |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 概 要       | 地域に役立つ大学を目標に、市民や学生が、コーヒーを片手に大学教員と最先端の学問や研究について気軽に語り合うもの。高度な専門知識に関する市民からの素朴な質問やユニークな意見に対して、研究者として大学教員が分かりやすく説明し、大学に対して親しみを感じてもらおう場として、また、生涯教育の場としても活用されるよう心がけて実施する。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 2015 年度実績 | 第 9 回                                                                                                                                                              | 日 時 2015 年 7 月 13 日（月） 17:15～19:00<br>場 所 愛知教育大学教育未来館 3 階多目的ホール<br>講 師 松本 昭彦 教授（愛知教育大学 副学長・美術教育講座）<br>演 題 「絵の見方・描き方・教え方」<br>概 要 研究紹介として、①絵の分類、そして今 ②キミ子方式 ③肖像画とイラスト ④これから絵を描こうと思っているあなたへ というテーマで講演を行った。その後、二人ずつペアになって互いの似顔絵を描く実技を行った。<br>対 象 教職員・学生・学外の一般の方<br>参加人数 約 60 人                                                                    |
|           | 第 10 回                                                                                                                                                             | 日 時 2016 年 1 月 26 日（火） 17:15～19:00<br>場 所 愛知教育大学教育未来館 3 階多目的ホール<br>講 師 萬屋 育子 特任教授（愛知教育大学 教職実践講座）<br>演 題 「増え続ける子どもの虐待、私たちにできることは ～発見、対応から支援、予防まで～」<br>概 要 次の内容について、萬屋特任教授が出会った事例などを交えながら講演を行った。<br>Ⅰ 児童相談所の現状、役割<br>Ⅱ 児童相談所の「赤ちゃん縁組」の取り組み－虐待死亡年齢最多 0 歳 0 ヶ月 0 日児への対応<br>Ⅲ 保護した子どもたちに安心安全な生活を－児童養護施設での取り組み<br>対 象 教職員・学生・学外の一般の方<br>参加人数 約 30 人 |

## (5) 研究活動に係る管理運営

| 大型設備等共同利用推進委員会                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要                                                                                                                                                                |
| 大型設備等の共同利用を推進し、教育・研究活動に活かすために、科学・ものづくり教育推進センターの理系機器共同利用部門を廃止し、従来の理系機器に特定した共同利用から、全ての設備を対象とした大型設備等共同利用推進委員会を2015年4月1日に設置し、現有設備について調査を実施するとともに、共同利用に関する取扱要領を制定しました。 |

理系機器登録利用状況

2016/3/31 現在

| 機 器 名                           | 型 式                        | 研究目的              |     | 教育目的 | 備考                    |
|---------------------------------|----------------------------|-------------------|-----|------|-----------------------|
|                                 |                            | 学内者 <sup>*1</sup> | 学外者 | *2   |                       |
| 01 分析電子顕微鏡                      | 日本電子(株)製 JEM-2100          | 36回               | 0回  | 8回   |                       |
| 02 超伝導核磁気共鳴装置                   | Bruker Biospin製 AVANCE III | 769回              | 79回 | 27回  |                       |
| 03 液体窒素貯槽                       | ダイヤ冷機工業製 DTL-3型            | 213回              | 0回  | 0回   |                       |
| 04 ストップフロー分光光度計<br>(多目的光分析計測装置) | ユニソク RSP-1000T3 03AI       | 150回              | 5回  | 0回   |                       |
| 05 遺伝子解析システム                    | ベックマン製 Optoma L-70 他       | 100回              | 0回  | 0回   |                       |
| 06 フローサイトメーター                   | Partec社製 CyFlow space型     | 1,590回            | 0回  | 0回   |                       |
| 07 磁化率異方性測定システム                 | AGICO社製                    | 30回               | 0回  | 0回   |                       |
| 08 フーリエ変換赤外分光光度計                | 日本分光製FT-IR-660 PLUS(v)     | 12回               | 0階  | 0回   |                       |
| 09 60cm天体望遠鏡                    | 西村製作所製                     | 8回                | 1回  | 28回  | 地域貢献等目的12回<br>(一般公開等) |

\*1 卒業研究を含む

\*2 授業や学生実験など。卒業研究を除く

## 2 講座等別研究者一覧

研究者総数 251人 (2015/5/1 現在)

| 教育科学系 70人          |                      |                                     |  |
|--------------------|----------------------|-------------------------------------|--|
| 生活科教育講座 3人         | 専門分野                 | 研究分野を表すキーワード                        |  |
| ノダ アツノリ<br>野田 敦敬   | 生活科教育                | 教科教育                                |  |
| ナカノ シンジ<br>中野 真志   | 教育学                  | 生活科教育、総合的な学習、教育方法、カリキュラム理論          |  |
| カノウ セイジ<br>加納 誠司   | 教育学、教科教育学            | 生活科教育、総合的な学習教育、授業研究、幼小連携、小中一貫教育     |  |
| 障害児教育講座 12人        | 専門分野                 | 研究分野を表すキーワード                        |  |
| ツヅキ シゲユキ<br>都築 繁幸  | 聴覚障害学、発達障害学、障害者比較教育学 | 特別なニーズ教育、コミュニケーション方法、読み書き指導、障害者高等教育 |  |
| マスダ タツロウ<br>増田 樹郎  | 社会福祉学、臨床哲学、場所論、ケア学   | 福祉、ケア、場所、コミュニケーション                  |  |
| ツネツグ キンヤ<br>恒次 欽也  | 特別支援教育               | 育児不安、父子関係、発達臨床                      |  |
| オダ ヨシアキ<br>小田 候朗   | 聴覚障害教育、聴覚障害学、手話学     | 言語指導、コミュニケーション、手話                   |  |
| ヨシオカ ツネオ<br>吉岡 恒生  | 臨床心理学、特別支援教育         | 臨床心理学、特別支援教育                        |  |
| モリサキ ヒロシ<br>森崎 博志  | 特別支援教育               | 発達支援、発達臨床                           |  |
| サノ マキ<br>佐野 真紀     | 社会福祉学、ソーシャルワーク       | ソーシャルワーク、ソーシャルワーク教育、コミュニケーション論      |  |
| イワタ ヨシナリ<br>岩田 吉生  | 特別支援教育               | 聴覚言語障害、障害者心理                        |  |
| アオヤギ マユミ<br>青柳 まゆみ | 特別支援教育               | 視覚障害教育、障害学生支援                       |  |
| イツカ カズヒロ<br>飯塚 一裕  | 臨床心理学、特別支援教育         | 自閉症、発達障害、プレイセラピー                    |  |
| イワミツ ケンジ<br>岩満 賢次  | 社会福祉、地域福祉、福祉政策       | 社会的排除、ローカルガバナンス、住民参加、地域福祉           |  |
| アイバ ダイスケ<br>相羽 大輔  | 特別支援教育、福祉教育          | 援助要請、障害開示、障害学生支援                    |  |
| 幼児教育講座 5人          | 専門分野                 | 研究分野を表すキーワード                        |  |
| オガワ ヒデヒコ<br>小川 英彦  | 児童福祉、障害児保育           | 障害児教育、発達障害、幼児、社会的養護、授業研究            |  |
| アライ ミホコ<br>新井 美保子  | 教育学                  | 保育・幼児教育学                            |  |

|                     |     |                                      |                                            |
|---------------------|-----|--------------------------------------|--------------------------------------------|
| ハヤシ マキコ<br>林 牧子     | 准教授 | 社会心理学                                | 発達心理学                                      |
| スズキ ユウコ<br>鈴木 裕子    | 准教授 | 身体教育学、保育内容学（健康・表現）、身体表現              | 幼児、保育内容、身体表現、身体活動、身体的な相互行為、模倣、遊び、ところとからだ   |
| フモト ヨウスケ<br>麓 洋介    | 助教  | 音楽表現教育                               | 音楽表現、聴覚と視覚、作曲、編曲、劇音楽                       |
| 養護教育講座              | 7人  | 専 門 分 野                              | 研究分野を表すキーワード                               |
| フルタ マサシ<br>古田 真司    | 教授  | 応用健康科学、教科教育学、公衆衛生学・健康科学              | 学校保健学、健康管理学、保健教育                           |
| サクラギ ソウキチ<br>桜木 惣吉  | 教授  | 実験心理学、生理人類学、生理学一般                    | 生理学、生理人類学、心理生理学                            |
| フジイ チエ<br>藤井 千恵     | 教授  | 地域看護学                                | 地域看護学                                      |
| フクダ ヒロミ<br>福田 博美    | 准教授 | 地域・老年看護学                             | 養護教諭、子ども、医療的ケア、症状                          |
| イガラシ テツヤ<br>五十嵐 哲也  | 准教授 | 臨床心理学、教育心理学                          | 教育臨床的課題についての実証研究と臨床実践                      |
| ヤマダ コウヘイ<br>山田 浩平   | 准教授 | 健康・スポーツ科学、応用健康科学                     | 学校保健学、健康教育学                                |
| オカモト アキラ<br>岡本 陽    | 准教授 | 細菌学（含真菌学）、分子生物学、食品科学、分析化学            | 病原微生物、質量分析、プロテオミクス                         |
| 学校教育講座              | 25人 | 専 門 分 野                              | 研究分野を表すキーワード                               |
| オガタ カズオ<br>尾形 和男    | 教授  | 教育心理学                                | 父親の役割と子どもの発達、家族と父親の発達、父親の協力と家族成員の適応、家族システム |
| サカヤナギ ツネオ<br>坂柳 恒夫  | 教授  | キャリア・カウンセリング、キャリア・ガイダンス（キャリア教育・進路指導） | キャリア、キャリア発達、キャリア理論                         |
| コヤス ジュン<br>子安 潤     | 教授  | 教育方法学・教育課程                           | 教育課程、学力、教育方法、授業づくり                         |
| クリヤマ カズヒロ<br>栗山 和広  | 教授  | 教育心理学、教授心理学、発達心理学                    | 学習支援、数理解                                   |
| シモムラ ミカリ<br>下村 美刈   | 教授  | 心理学、臨床心理学                            | トラウマケア、子どもと家族の支援、心理アセスメント                  |
| オオムラ メグミ<br>大村 恵    | 教授  | 教育学                                  | 青年期教育、社会教育                                 |
| マツバラ ノブツグ<br>松原 信継  | 教授  | 教育法学、教育行政学、教師論                       | 共同統治、法化、強い民主主義、メディアエーション、教師の専門職性           |
| ノビラ シンジ<br>野平 慎二    | 教授  | 教育哲学                                 | 教育哲学、教育思想史                                 |
| タクボ キヨシ<br>田久保 清志   | 准教授 | 教育方法学                                | 生活指導、特別活動                                  |
| ユゲ ヨウコ<br>弓削 洋子     | 准教授 | 社会心理学、教育心理学                          | 学級経営、教師の指導性、学級コンサルテーション、対人認知               |
| スズキ ノブコ<br>鈴木 伸子    | 准教授 | 臨床心理学                                | 心の健康支援、対人葛藤解決、臨床心理アセスメント                   |
| ヤマグチ タダス<br>山口 匡    | 教授  | 教育学                                  | 教育哲学、教育思想、道徳教育                             |
| イシダ ヤスヒコ<br>石田 靖彦   | 准教授 | 社会心理学、教育心理学                          | 学級集団、適応、親密化、社会的比較                          |
| コジマ ヨシコ<br>小嶋 佳子    | 准教授 | 発達心理学、社会心理学                          | 他者感情の推測、向社会的行動の発達、社会的感情                    |
| フジキ ダイスケ<br>藤木 大介   | 准教授 | 実験心理学                                | 認知心理学、言語心理学                                |
| タケカワ シンヤ<br>竹川 慎哉   | 准教授 | 教育方法学、カリキュラム研究、リテラシー教育               | 批判的リテラシー教育、幼児期リテラシー、教育方法、カリキュラム、授業         |
| チョウ ギョニア<br>趙 卿我    | 講師  | 教育方法学、教育課程                           | カリキュラム論、学力、教育評価論                           |
| タカハシ ヤスコ<br>高橋 靖子   | 講師  | 臨床心理学                                | 発達臨床心理学、アタッチメント、発達障害、子育て支援、連携              |
| タカツナ ムツミ<br>高綱 睦美   | 講師  | 教育心理学                                | キャリア教育、学校進路指導、キャリア発達                       |
| ショウジマ アキコ<br>生島 亜樹子 | 講師  | 学校経営、教育課程経営、教師教育                     | 学校経営、教育課程、総合的学習                            |
| ウエダ タクヤ<br>上田 琢哉    | 講師  | 臨床心理学                                | 心理療法、教育相談、グループワーク                          |
| ナカイ ダイスケ<br>中井 大介   | 准教授 | 発達心理学、教育心理学、学校心理学                    | 青年期、信頼感、教師、重要な他者                           |
| カタヤマ ユウキ<br>片山 悠樹   | 講師  | 教育社会学                                | 教育知識、職業教育、中退、学校から職業への移行                    |
| クロカワ マサユキ<br>黒川 雅幸  | 講師  | 社会心理学                                | 仲間関係、いじめ                                   |

|                      |      |                                          |                                                                          |
|----------------------|------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| キョウメン テツオ<br>京免 徹雄   | 講師   | キャリア教育、比較教育学                             | 職業指導、キャリア形成、社会的資質、フランス                                                   |
| 教育臨床学講座              | 4人   | 専 門 分 野                                  | 研究分野を表すキーワード                                                             |
| ソブエ ノリヒト<br>祖父江 典人   | 教授   | 臨床心理学、精神分析学                              | 臨床心理学、精神分析学                                                              |
| ヒロセ コウイチ<br>廣瀬 幸市    | 准教授  | 臨床心理学                                    | 心理療法                                                                     |
| ミタニ セイヤ<br>三谷 聖也     | 准教授  | 臨床心理学                                    | 心理療法                                                                     |
| ハラダ ムネタダ<br>原田 宗忠    | 講師   | 精神分析の心理療法、児童養護施設の心理臨床、<br>高齢者臨床、自尊感情の変動性 | 投影同一化、可能性空間、間主観性                                                         |
| 教職実践講座               | 14人  | 専 門 分 野                                  | 研究分野を表すキーワード                                                             |
| シミズ ヒロシ<br>志水 廣      | 特別教授 | 科学教育                                     | 数学教育学                                                                    |
| ナカツマ マサヒコ<br>中妻 雅彦   | 教授   | 教育学、教科教育学                                | 教育方法、教師教育、社会科教育、授業研究、総合学<br>習                                            |
| サトウ ヨウイチ<br>佐藤 洋一    | 教授   | 言語技術教育、授業研究、<br>学力・評価論、日本近現代文学           | リテラシー、習得・活用、言語教育、描写                                                      |
| スズキ ケンジ<br>鈴木 健二     | 教授   | 学級経営、道徳教育、教材論、授業論                        | 学級経営、教材開発、教科書研究、授業研究                                                     |
| クラモト テツオ<br>倉本 哲男    | 教授   | カリキュラム・教育方法学、教育経営学、アメ<br>リカ教育学           | Curriculum Management、Lesson Study、Action<br>Research、サービス・ラーニング、EdD の成立 |
| カワキタ ミノル<br>川北 稔     | 准教授  | 社会学、教育社会学                                | 社会問題の社会学、家族支援、フィールドワーク（質<br>的調査）、ひきこもり、不登校                               |
| タキタ ケンジ<br>瀧田 健司     | 准教授  | 学級経営、理科教育、環境教育、教員研修                      | 学級経営、授業研究、理科教育、環境教育、総合的な<br>学習の時間、防災教育、教員研修                              |
| ムラカミ ヒロシ<br>村上 洋     | 准教授  | 理科教育、環境教育、情報教育                           | 理科教育、環境教育、情報教育                                                           |
| ナカヤマ ヒロユキ<br>中山 弘之   | 准教授  | 教育学                                      | 社会教育、キャリア教育、道徳教育                                                         |
| マツイ タカヒコ<br>松井 孝彦    | 講師   | 教科教育学、外国語教育                              | 英語科教育                                                                    |
| ヨロズヤ イクコ<br>萬屋 育子    | 特任教授 | 児童福祉(生活支援)                               | 児童相談、児童虐待防止、社会的養護、里親、養子縁<br>組                                            |
| スギウラ ヒロユキ<br>杉浦 宏幸   | 特任教授 | 学校づくり、教育法規                               | 学校経営、教育法規                                                                |
| ヤマウチ マサオ<br>山内 雅夫    | 特任教授 | 学校づくり、学校経営                               | 学校経営                                                                     |
| ヤマダ アツオ<br>山田 淳夫     | 特任教授 | 学校経営、教育施策、教育法規                           | 学校の法的責任、裁判事例、学校経営                                                        |
| 人文社会科学系 65人          |      |                                          |                                                                          |
| 国語教育講座               | 15人  | 専 門 分 野                                  | 研究分野を表すキーワード                                                             |
| イマイ ショウノスケ<br>今井 正之助 | 特別教授 | 日本文学                                     | 平家物語、太平記、太平記評判書                                                          |
| タカセ ショウイチ<br>高瀬 正一   | 教授   | 日本語学                                     | 日本語学史                                                                    |
| サトウ ユタカ<br>佐藤 豊      | 教授   | 中国近代思想、中国近代史                             | 辛亥革命、梁啓超、章太炎、章士釗                                                         |
| ウドウ ユタカ<br>有働 裕      | 教授   | 日本文学、教科教育学                               | 古典文学、古典文学教育、文学教育、<br>近世文学、井原西鶴、国語教育史                                     |
| タンドウ ヒロフミ<br>丹藤 博文   | 教授   | 教科教育学（国語科教育学）                            | 文学教育、日本近代文学、教材研究、<br>授業研究、日本児童文学、言語学、読者論                                 |
| キムラ ヒロアキ<br>木村 博昭    | 教授   | 書道、書道史、書論、書道科教育                          | 書道、手書き文字、書体、書写                                                           |
| ヤジマ マサヒロ<br>矢島 正浩    | 教授   | 日本語学                                     | 国語史、文法史、近代語、近世語                                                          |
| タグチ ヒサユキ<br>田口 尚之    | 教授   | 日本文学                                     | 国文学、日本文学、上代、古代、中古、平安、<br>王朝、近世、江戸、和歌、物語、歌謡、邦楽                            |
| キヌカワ アキヒト<br>衣川 彰人   | 教授   | 美学・美術史                                   | 書道、書道史                                                                   |
| タザワ モトヒサ<br>田澤 基久    | 准教授  | 日本文学                                     | 日本近代文学、大正文学、私小説                                                          |
| ドウソノ ヨシコ<br>堂園 淑子    | 准教授  | 中国文学                                     | 中国文学、六朝、南朝                                                               |
| オクダ コウジ<br>奥田 浩司     | 准教授  | 日本近現代文学、アニメーション文化学                       | 日本近現代文学、ジブリアニメ、植民地                                                       |
| スズキ タツアキ<br>鈴木 達明    | 准教授  | 中国哲学、中国文学                                | 中国哲学史、中国文学、先秦、諸子百家、道家思<br>想、黄老                                           |

|                       |      |                                                        |                                         |
|-----------------------|------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| ミズカワ ヒロフミ<br>水川 敬章    | 講師   | 日本文学                                                   | 日本近現代文学、日本近現代文化                         |
| スナガワ セイジ<br>砂川 誠司     | 講師   | 教科教育学                                                  | 国語教育、メディア・リテラシー                         |
| 日本語教育講座               | 6人   | 専 門 分 野                                                | 研究分野を表すキーワード                            |
| タムラ ケンイチ<br>田村 建一     | 教授   | ドイツ語学、社会言語学、<br>ツングース語学                                | ルクセンブルク語、言語政策、<br>ツングース諸語               |
| イナバ ミドリ<br>稲葉 みどり     | 教授   | 言語学                                                    | 言語習得                                    |
| キタノ ヒロアキ<br>北野 浩章     | 教授   | 言語学、日本語学                                               | フィリピン言語学、日本語学、談話と文法、<br>言語類型論           |
| トキ ルミエ<br>土岐 留美江      | 准教授  | 日本語学                                                   | 日本語史、モダリティ研究                            |
| ウエダ タカヒト<br>上田 崇仁     | 准教授  | 日本語教育学                                                 | 日本語教育史、外国人児童生徒支援、<br>教材分析               |
| カワグチ ナオミ<br>川口 直巳     | 講師   | 日本語教育学                                                 | 外国人児童生徒支援、ビジネス日本語                       |
| 社会科教育講座               | 14人  | 専 門 分 野                                                | 研究分野を表すキーワード                            |
| フナオ ヒデシ<br>船尾 日出志     | 特別教授 | 教育学                                                    | 社会科教育学                                  |
| ニシミヤ ヒデキ<br>西宮 秀紀     | 教授   | 日本古代史                                                  | 律令制、神祇祭祀、地域史                            |
| クロカワ トモブミ<br>黒川 知文    | 教授   | 宗教史、西洋史                                                | ユダヤ史、キリスト教史、文明論                         |
| マエダ ツトム<br>前田 勉       | 教授   | 日本思想史                                                  | 哲学、宗教史、日本史                              |
| マツシマ シュウイチ<br>松島 周一   | 教授   | 日本中世史                                                  | 武家政権、貴族政権、愛知県、軍記物語                      |
| ツチャ タケシ<br>土屋 武志      | 教授   | 日本史、教科教育学、学校教育学、教科教育                                   | 社会科教育、歴史教育、学習コミュニケーション、授<br>業開発         |
| ヨシダ ケンタロウ<br>吉田 健太郎   | 准教授  | 哲学・倫理学                                                 | 哲学・哲学史・倫理学                              |
| コンドウ ヒロユキ<br>近藤 裕幸    | 教授   | 教科教育学、地理学                                              | 社会科教育、地理教育                              |
| ミネサキ ヒロコ<br>嶺崎 寛子     | 准教授  | 宗教人類学、中東地域研究、ジェンダー論                                    | イスラーム、ジェンダー、法識字、ファトワー、アフ<br>マディーヤ教団     |
| マジマ キヨコ<br>真島 聖子      | 准教授  | 社会科教育                                                  | 社会科、教科教育、公民科                            |
| イマムラ ケンイチロウ<br>今村 健一郎 | 講師   | 哲学                                                     | 所有、刑罰                                   |
| ホリウチ マユミ<br>堀内 真由美    | 准教授  | イギリス植民地研究                                              | 植民地責任、イギリス帝国、ジェンダー、「人種」                 |
| ワタナベ ヒデユキ<br>渡邊 英幸    | 講師   | 東洋史（中国史）                                               | 中国古代史、先秦史、秦漢史、東アジア史                     |
| ミヤムラ ユウスケ<br>宮村 悠介    | 助教   | 倫理学                                                    | 倫理学，倫理思想史，近代哲学，現象学                      |
| 地域社会システム講座            | 11人  | 専 門 分 野                                                | 研究分野を表すキーワード                            |
| ワタナベ マサヒロ<br>渡辺 雅弘    | 教授   | 西洋政治思想史、洋学史                                            | エビクロス、保守主義、A.D.リンゼイ、<br>エビクロス邦文献研究史     |
| イワサキ キミヤ<br>岩崎 公弥     | 教授   | 人文地理学、地理学                                              | 歴史地理学、地誌学                               |
| アオシマ サトシ<br>青嶋 敏      | 教授   | 基礎法学、民事法学                                              | 法人法、信託法、土地法                             |
| キヨタ ユウジ<br>清田 雄治      | 教授   | 法律学（憲法）                                                | 個人情報保護、フランス、<br>コミュニケーションの自由            |
| ノジ ツネアリ<br>野地 恒有      | 教授   | 文化人類学・民俗学                                              | 日本文化、海洋性、漁業、観賞用動植物、<br>教科開発学、地域誌学、移住と開発 |
| イトウ タカヒロ<br>伊藤 貴啓     | 教授   | 地理学、人文地理学、教科開発学                                        | 食と農の地理学、ヨ-ロッパ地誌、教科開発学                   |
| イシマル ヒロシ<br>石丸 博      | 准教授  | 社会学                                                    | 社会学                                     |
| ナカスジ ユキコ<br>中筋 由紀子    | 准教授  | 社会学                                                    | 比較社会学、文化の社会学                            |
| アベ リョウゴ<br>阿部 亮吾      | 准教授  | 人文地理学、都市地理学、社会・文化地理学                                   | 移民、エスニシティ、多文化共生、多文化主義、名古<br>屋市都市論       |
| フクダ ヒロシ<br>福田 宏       | 講師   | 政治学，国際関係（戦間期における地域統合<br>論），中・東欧の近現代政治史（チェコとスロ<br>ヴァキア） | ハプスブルク帝国，ナショナリズム，中欧                     |
| ニシオ ケイイチロウ<br>西尾 圭一郎  | 講師   | 国際金融                                                   | 国際通貨システム，ドル本位制，アジア経済，金融<br>教育           |

| 外国語教育講座            | 19人  | 専 門 分 野                                           | 研究分野を表すキーワード                                              |
|--------------------|------|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| ナカムラ マサヒロ<br>中村 正廣 | 特別教授 | ヨーロッパ語系文学                                         | 19世紀アメリカ文学                                                |
| ナヤ マサヒロ<br>納谷 昌宏   | 教授   | 言語学 , ドイツ語教育                                      | 言語学 , ドイツ語学 , ドイツ語教育                                      |
| コイズミ ナオン<br>小泉 直   | 教授   | 英語学                                               | 統語論・意味論                                                   |
| タカハシ ミユキ<br>高橋 美由紀 | 教授   | 英語教育、小学校英語教育、<br>アジア諸国の言語教育、社会言語学、<br>応用言語学、外国語教育 | 応用言語学、英語教育、小学校外国語教育、<br>地域研究、東南アジア地域研究                    |
| ルンズ, アトニー・チャールズ    | 教授   | 言語学、英語学、外国語教育                                     | CALL、教育実習                                                 |
| ドウキ カズヒロ<br>道木 一弘  | 教授   | ヨーロッパ語系文学、<br>各国文学・文学論                            | イギリス文学、アイルランド文学、<br>文学理論、物語論 (narratology)、<br>ジェイムズ・ジョイス |
| ジ エイコク<br>時 衛国     | 教授   | 中国語学、日本語学、文学、翻訳、<br>対照言語学                         | 程度副詞の対照研究                                                 |
| オザキ シュンスケ<br>尾崎 俊介 | 教授   | ヨーロッパ語系文学                                         | アメリカ文学・アメリカ文化                                             |
| タケウチ タカアキ<br>建内 高昭 | 教授   | 外国語教育、教科教育学                                       | リスニング、教員養成                                                |
| ハマサキ ミチヨ<br>濱崎 通世  | 准教授  | 言語学、英語学                                           | 英語学、統語論                                                   |
| マヤノ, オリバー, ルドヴィック  | 准教授  | ドイツ語教育、ドイツ現代文学、<br>交通地理学                          | 外国語教育、語彙、推理小説、公共交通、<br>ライトレールトランジット、鉄道、バス                 |
| コヅカ ヨシタカ<br>小塚 良孝  | 准教授  | 英語史、英語学                                           | 歴史言語学、文献学                                                 |
| ルス, アントワーヌ・ピエール    | 准教授  | フランス現代史                                           | 国際関係、第4共和政                                                |
| ライオン, アンリ・ジョエル     | 准教授  | 応用言語学、英語教育、<br>教員養成教育実習                           | 外国語談話分析、外国教育実習システム、<br>非母語話者の英会話コーパスを構築する                 |
| ニイ キミコ<br>二井 紀美子   | 准教授  | 教育学                                               | 社会教育、比較教育                                                 |
| フジワラ ヤスヒロ<br>藤原 康弘 | 准教授  | 英語教育、社会言語学、語用論、コーパス言語学                            | 国際英語、コーパス言語学、語用論、第二言語習得                                   |
| タグチ タツヤ<br>田口 達也   | 講師   | 応用言語学、第二言語習得、<br>リサーチメソッド                         | 第二言語習得、モチベーション、<br>学習ストラテジー、量的・質的研究手法                     |
| ペネ, ジェームス          | 講師   | 英語教育学                                             |                                                           |
| フクダ ヤスヒサ<br>福田 泰久  | 助教   | ヨーロッパ語系文学 , 各国文学・文学論                              | イギリス文学 , イギリス児童文学                                         |
| <b>自然科学系 62人</b>   |      |                                                   |                                                           |
| 数学教育講座             | 17人  | 専 門 分 野                                           | 研究分野を表すキーワード                                              |
| ササキ テツロウ<br>佐々木 徹郎 | 教授   | 数学教育学                                             | 教科教育、算数科、数学科、認識論                                          |
| イイジマ ヤスユキ<br>飯島 康之 | 教授   | 科学教育                                              | 数学教育                                                      |
| ウエムラ ヒデアキ<br>植村 英明 | 教授   | 解析学基礎                                             | 確率解析、マリアヴァン解析                                             |
| タケウチ ヨシヒロ<br>竹内 義浩 | 教授   | 位相幾何学                                             | 多様体、軌道体                                                   |
| オダニ ケンジ<br>小谷 健司   | 教授   | 常微分方程式、数学教材研究                                     | 常微分方程式、数学教材研究                                             |
| ヤマダ アツシ<br>山田 篤史   | 教授   | 科学教育、教科教育学                                        | 数学教育、数学的問題解決、表象/表現                                        |
| ハシモト ユキヒロ<br>橋本 行洋 | 准教授  | 数学一般 (含確率論・統計数学)、大域解析学                            | 代数的確率論、擬周期集合、語の組合せ論、標準数系、<br>一様分布論                        |
| アサイ ノブヒロ<br>浅井 暢宏  | 准教授  | 解析学基礎                                             | 無限次元解析学、量子確率論、数理論理学、直交多項式論                                |
| イチノベ クニオ<br>市延 邦夫  | 准教授  | 微分方程式論                                            | 漸近解析、k-総和法、初期値問題                                          |
| キシ ヤスヒロ<br>岸 康弘    | 准教授  | 代数学                                               | 数論                                                        |
| アオヤマ カズヒロ<br>青山 和裕 | 准教授  | 統計科学、科学教育                                         | 数学教育学、統計教育                                                |
| イノウエ アユム<br>井上 歩   | 講師   | 低次元位相幾何学 (結び目理論)                                  | カンドル理論、コンピュータグラフィクス                                       |
| ノザキ ヒロシ<br>野崎 寛    | 講師   | 代数的組合せ論                                           | アソシエーションスキーム、対称空間、デルサルトル理論、符号理論                           |

|                    |      |                                  |                                                            |
|--------------------|------|----------------------------------|------------------------------------------------------------|
| サクマ ノリヨシ<br>佐久間 紀佳 | 講師   | 数学一般（含確率論・統計数学）                  | 無限分解可能分布、レヴィ過程、自由確率論                                       |
| タカイ ゴロウ<br>高井 吾朗   | 講師   | 教科教育学                            | 数学教育                                                       |
| スタ ショウ<br>須田 庄     | 講師   | 代数的組合せ論                          | アソシエーションスキーム、デザイン、コード                                      |
| イド アヤコ<br>井戸 絢子    | 助教   | 位相幾何学                            | 3次元多様体、Heegaard 分解、ヘンベル距離、曲線複体                             |
| 情報教育講座             | 13人  | 専 門 分 野                          | 研究分野を表すキーワード                                               |
| ナカツ ナラオ<br>中津 梶男   | 教授   | 情報学基礎、メディア情報学・データベース、教育学         | データベース、計算機利用教育                                             |
| ナカニシ ヒロブミ<br>中西 宏文 | 教授   | 知能情報学、図書館情報学・人文社会情報学、教育学         | 情報システム開発、コンピュータ利用教育                                        |
| ササキ モリトシ<br>佐々木 守寿 | 教授   | ファジィ集合論                          | ファジィ集合、ファジィ演算                                              |
| ノザキ ヒロナリ<br>野崎 浩成  | 教授   | 図書館情報学・人文社会情報学、教育学、社会心理学         | 教育学、教育・社会系心理学、日本語教育                                        |
| イトウ トシカズ<br>伊藤 俊一  | 准教授  | 認知科学、言語学、日本語学、実験心理学              | 自然言語処理                                                     |
| エジマ テツロウ<br>江島 徹郎  | 准教授  | 教育学、メディア教育                       | 教育メディア、教員養成、国際交流                                           |
| ヤスモト タイチ<br>安本 太一  | 准教授  | ソフトウェア                           | 記号処理、並列処理                                                  |
| マツナガ ユタカ<br>松永 豊   | 准教授  | 知能情報学、人工知能、人工生命、プログラミング教育        | ニューロコンピューティング、遺伝的アルゴリズム                                    |
| ウメダ キョウコ<br>梅田 恭子  | 准教授  | 教育学                              | 教育の情報化、情報モラル教育                                             |
| フクイ シンジ<br>福井 真二   | 准教授  | 知覚情報処理                           | コンピュータビジョン、パターン認識                                          |
| サイトウ ヒトミ<br>齋藤 ひとみ | 准教授  | 認知科学、教育学                         | 情報探索行動、学習                                                  |
| タカハシ タケユキ<br>高橋 岳之 | 准教授  | 情報工学                             | 情報システム、情報セキュリティ                                            |
| フクタ ヨウジ<br>福田 洋治   | 講師   | 情報セキュリティ                         | 暗号解析、デジタル署名、鍵共有、情報秘匿、迷惑メールフィルタリング、ネットワークコーディング、デジタルフォレンジクス |
| 理科教育講座             | 32人  | 専 門 分 野                          | 研究分野を表すキーワード                                               |
| ヤザキ タイチ<br>矢崎 太一   | 特別教授 | 音響物理学、熱音響工学                      | 熱音響振動、熱音響冷凍機、非線形音響現象                                       |
| カワムラ ヨシナリ<br>河村 善也 | 教授   | 文化財科学、地質学、層位・古生物学                | 脊椎動物、化石、新生代、層序、遺跡                                          |
| ミウラ コウジ<br>三浦 浩治   | 教授   | 表面科学                             | 摩擦、ナノ科学                                                    |
| ミヤケ アキラ<br>三宅 明    | 教授   | 岩石学、地質学、鉱物学                      | 領家帯、変成作用、鉱物成長                                              |
| トヤ ヨシアキ<br>戸谷 義明   | 教授   | 科学教育、有機化学、生物生産化学・生物有機化学          | 化学（科学）教育、生物有機化学、有機化学                                       |
| イナモ マサヒコ<br>稲毛 正彦  | 教授   | 無機化学                             | 無機化学、錯体化学、光化学                                              |
| ナカジマ キヨヒコ<br>中島 清彦 | 教授   | 錯体化学、有機金属化学                      | 遷移金属錯体、有機金属化合物                                             |
| サワ マサミ<br>澤 正実     | 教授   | 発生遺伝学                            | 発生生物学、遺伝学                                                  |
| コダマ コウイチ<br>児玉 康一  | 教授   | 素粒子・原子核物理学                       | 素粒子、原子核、エマルション                                             |
| タカハシ マサアキ<br>高橋 真聡 | 教授   | 宇宙物理学、天文学、ブラックホール物理学、一般相対論       | ブラックホール、一般相対論、高エネルギー天体物理学、磁気流体力学、磁気圏                       |
| イワヤマ ツトム<br>岩山 勉   | 教授   | ナノ材料、物性、量子ビーム科学                  | 半導体光物性、ビーム物性、シリコンフォトニクス                                    |
| ワタナベ ミキオ<br>渡邊 幹男  | 教授   | 生物学                              | 分子系統学、種子植物                                                 |
| ナカノ ヒロフミ<br>中野 博文  | 教授   | 生物有機化学、有機化学、機能物質化学、生体関連化学、生物分子科学 | 糖質科学、反応活性中間体                                               |
| トダ シゲル<br>戸田 茂     | 教授   | 固体地球物理学、物理探査学                    | 地殻構造、活断層、地震探査、重力探査                                         |
| オオシカ キヨユキ<br>大鹿 聖公 | 教授   | 科学教育、教科教育学                       | 理科教育、生物教材、環境教育                                             |

|                       |      |                                                |                                     |
|-----------------------|------|------------------------------------------------|-------------------------------------|
| イトウ マサト<br>伊東 正人      | 准教授  | 素粒子論                                           | 宇宙論                                 |
| アカクラ マツジロウ<br>赤倉 松次郎  | 准教授  | 物理化学、有機化学、無機化学、合成化学、高分子化学、機能物質化学、環境関連化学、有機合成化学 | 有機合成化学、高分子合成化学、理論計算化学               |
| ヒラノ トシヒデ<br>平野 俊英     | 教授   | 科学教育、教科教育学                                     | 理科教育方法学、教師教育                        |
| カトウ ジュンタロウ<br>加藤 淳太郎  | 准教授  | 植物遺伝学                                          | DNA 含量、倍数性、種間雑種                     |
| ホシ ヒロユキ<br>星 博幸       | 准教授  | 固体地球惑星物理学、地質学、層位・古生物学                          | 層位学、古地磁気学、テクトニクス                    |
| タグチ マサカズ<br>田口 正和     | 准教授  | 気象・海洋物理・陸水学                                    | 気候力学                                |
| ミヤカワ タカヒコ<br>宮川 貴彦    | 准教授  | 物性 II、原子・分子・量子エレクトロニクス・プラズマ                    | 冷却原子分子気体、ボースアインシュタイン凝縮、極性フェルミ気体     |
| ヒノ カズユキ<br>日野 和之      | 准教授  | ナノ材料・ナノバイオサイエンス                                | クラスター                               |
| オサ マサシ<br>長 昌史        | 准教授  | 物理化学、高分子化学、高分子・繊維材料                            | 物理化学、高分子物性、水溶性高分子                   |
| ウエノ ヒロノリ<br>上野 裕則     | 准教授  | 細胞生物学                                          | 細胞、細胞骨格、細胞運動、モーター蛋白質、纖毛・鞭毛          |
| ハバ ヨシト<br>幅 良統        | 講師   | X線天文学                                          | X線、銀河、活動的銀河核、ブラックホール                |
| トクラ ノリマサ<br>戸倉 則正     | 講師   |                                                |                                     |
| アブキ ヒロアキ<br>阿武木 啓朗    | 講師   | 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理                               | 素粒子、原子核、ハドロン物理、QCD 物質               |
| シマダ トモヒコ<br>島田 知彦     | 講師   | 生物多様性・分類、生態・環境                                 | 両生類、幼生、ボルネオ島、系統推定、隠蔽種、農事暦、愛知県       |
| ツネキ シヅカ<br>常木 静河      | 助教   | 植物系統分類学、進化生態学                                  | 局所適応、海洋島、植物、生態的種分化、生物多様性、繁殖戦略       |
| マサダ ヨウヘイ<br>政田 洋平     | 助教   | 天文学、宇宙物理、プラズマ科学、形質科学                           | 天体物理学、太陽天体プラズマ物理学、太陽物理学、数値流体力学      |
| エンドウ ヨウスケ<br>遠藤 優介    | 助教   | 科学教育、教科教育学                                     | 理科教育、化学教育                           |
| 創造科学系 56人             |      |                                                |                                     |
| 音楽教育講座 6人             |      | 専門分野                                           | 研究分野を表すキーワード                        |
| タケモト キョウコ<br>武本 京子    | 教授   | 音楽教育法、ピアノ演奏法                                   | 楽曲イメージ奏法、イメージ奏法                     |
| ハヤシ コウイチ<br>林 剛一      | 教授   | 音楽教育（声楽）                                       | 発声法、歌曲・オペラ演奏法、合唱指導法                 |
| シンザンオウ マサカズ<br>新山王 政和 | 教授   | 科学教育、実験心理学、教科教育学                               | 音楽科教育、演奏学(管楽器)、音楽心理学                |
| ハシモト ゴウ<br>橋本 剛       | 准教授  | 作曲・指揮                                          | 作曲、指揮、劇音楽、単旋律の合唱化                   |
| コウ ハナコ<br>國府 華子       | 准教授  | 教育学、教科教育学                                      | 音楽科教育、ピアノ教育、音楽教育史                   |
| キンバラ サトコ<br>金原 聡子     | 講師   | 音楽教育（声楽）                                       | 演奏研究、歌唱指導                           |
| 美術教育講座 15人            |      | 専門分野                                           | 研究分野を表すキーワード                        |
| ナカシマ ハレミ<br>中島 晴美     | 特別教授 | 現代陶芸                                           | 工芸的造形                               |
| イソベ ヒロシ<br>磯部 洋司      | 教授   | 美術科教育                                          | 美術教育史                               |
| アサノ カズオ<br>浅野 和生      | 教授   | ビザンティン美術史                                      | ビザンティン、美術、地中海、中世                    |
| トミヤマ クニオ<br>富山 邦夫     | 教授   | デザイン教育、新聞活用学習、広告コミュニケーション                      | デザイン教育、NIE（エヌ・アイ・イー）                |
| マツモト アキヒコ<br>松本 昭彦    | 教授   | 教科教育                                           | 絵画制作、絵画教育                           |
| タケイ ヒトシ<br>竹井 史       | 教授   | 美術教育学、幼児の造形・遊び、教科教育学                           | 美術教育学                               |
| エンドウ トオル<br>遠藤 透      | 教授   | 鋳造                                             | 鋳造作品                                |
| ヒグチ カズナリ<br>樋口 一成     | 教授   | 教科教育学                                          | 工作・工芸教育、工作、工芸、構成、クラフト、美術、図画工作、教材、木工 |
| タカス ジュン<br>鷹巣 純       | 教授   | 仏教絵画史                                          | 日本、東アジア、仏教、絵画、中世、図像学                |

|                     |      |                                                                      |                                                      |
|---------------------|------|----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 材料, 工機・メカニクス        | 特別教授 | 染織                                                                   | 織組織、先染、北欧、テキスタイルデザイン                                 |
| ヤスダ アツオ<br>安田 篤生    | 准教授  | 美学・美術史                                                               | 日本美術史                                                |
| ササキ マサヒロ<br>佐々木 雅浩  | 准教授  | ガラス工芸                                                                | ガラス、工芸、芸術、造形、美術                                      |
| イド マサノブ<br>井戸 真伸    | 准教授  | プロダクトデザイン                                                            | プロダクトデザイン、インダストリアルデザイン、デザイン理論、アフオーダンス                |
| スギバヤシ ヒデヒコ<br>杉林 英彦 | 准教授  | 教育工学、美学・美術史、教科教育学                                                    | 美術教育、美術鑑賞、評価方法                                       |
| ナガエ トモヒサ<br>永江 智尚   | 講師   | 教科教育学                                                                | 彫塑実技、彫塑造形論、彫塑教育論                                     |
| 保健体育講座              | 16人  | 専 門 分 野                                                              | 研究分野を表すキーワード                                         |
| キトウ ノブカズ<br>鬼頭 伸和   | 特別教授 | スポーツ科学、<br>環境生理学(含む体力医学)、サッカー                                        | 運動生理学、運動制御、視覚入力、<br>基礎的運動、基本技術、<br>間欠の高強度持久能力、サッカー科学 |
| カスガ ノリカツ<br>春日 規克   | 教授   | スポーツ科学、運動生理学                                                         | 骨格筋                                                  |
| サカタ トシヒロ<br>坂田 利弘   | 教授   | 公衆衛生学、保健科教育学                                                         | 視覚負担、教科内容、教材                                         |
| スズキ ヒデキ<br>鈴木 英樹    | 教授   | スポーツ科学                                                               | 骨格筋                                                  |
| ツツイ セイジロウ<br>筒井 清次郎 | 教授   | スポーツ科学                                                               | 体育学、運動学習、スポーツ心理学                                     |
| モリ ユウジ<br>森 勇示      | 教授   | 体育科教育学                                                               | 体育授業研究、教師力量形成                                        |
| タカハシ ユウコ<br>高橋 裕子   | 教授   | 学校保健                                                                 | 学校衛生史                                                |
| イシカワ タカシ<br>石川 恭    | 教授   | 西洋史、社会学、教育学                                                          | 遊び、文化、余暇教育                                           |
| ウエハラ サトミ<br>上原 三十三  | 教授   | スポーツ科学                                                               | 発生運動学                                                |
| ミハラ ミキオ<br>三原 幹生    | 准教授  | 身体教育学                                                                | 体育哲学                                                 |
| テラモト ケイスケ<br>寺本 圭輔  | 准教授  | スポーツ科学                                                               | 運動生理学、身体組成、発育発達、水泳                                   |
| スズキ カズナリ<br>鈴木 一成   | 講師   | 体育科教育学                                                               | 体育、授業、現職教育                                           |
| ヨリズミ カズアキ<br>頼住 一昭  | 准教授  | スポーツ科学                                                               | スポーツ史                                                |
| ヤマシタ ジュンペイ<br>山下 純平 | 講師   | スポーツ科学                                                               | ハンドボール、投動作、スポーツ教育、コーチング                              |
| ナフタ リョウタ<br>縄田 亮太   | 助教   | スポーツ科学、体育科教育学                                                        | バレーボール、バイオメカニクス、コーチング、<br>教材研究                       |
| ナルセ マミ<br>成瀬 麻美     | 助教   | 舞踊教育                                                                 | ダンス、体育科教育学                                           |
| 技術教育講座              | 7人   | 専 門 分 野                                                              | 研究分野を表すキーワード                                         |
| シミズ ヒデキ<br>清水 秀己    | 教授   | 科学教育、応用物性・結晶工学、<br>電子・電気材料工学                                         | 電子・電気材料工学、応用物性・結晶工学、<br>技術教育、工業教育                    |
| オオタ コウイチ<br>太田 弘一   | 教授   | 技術教育、農学、栽培学                                                          | 技術、教育、農学、栽培、園芸                                       |
| ホンダ ミツマサ<br>本多 満正   | 教授   | 教科教育学                                                                | 教材開発、教師教育                                            |
| カマダ トシユキ<br>鎌田 敏之   | 准教授  | コンピュータサイエンス教育、計測・制御を用<br>いたプログラミング教育、プログラミング言語、<br>情報教育、計算機科学、情報技術教育 | プログラミング、計測と制御、教育データマイニング                             |
| キタムラ カズヒロ<br>北村 一浩  | 教授   | 機能材料・デバイス、金属物性                                                       | 形状記憶合金、金属物性、機能材料                                     |
| イソベ マサタカ<br>磯部 征尊   | 准教授  | 科学教育、教科教育学                                                           | 技術科教育、技術教育、カリキュラム、比較研究、教<br>育評価、工夫・創造、ルーブリック         |
| カトウ ヒデオ<br>加藤 英雄    | 特別助手 | 教科教育                                                                 | 技術教育                                                 |
| 家政教育講座              | 9人   | 専 門 分 野                                                              | 研究分野を表すキーワード                                         |
| ハヤセ カズトシ<br>早瀬 和利   | 教授   | 食生活学                                                                 | 栄養学                                                  |
| カトウ ショウコ<br>加藤 祥子   | 教授   | 被服構成学                                                                | 縫製、パターン、布                                            |
| ヤマダ アヤ<br>山田 綾      | 教授   | 教科教育(家庭科教育)、教育方法学                                                    | 教科教育、家庭科教育、教育方法学                                     |

|                 |     |                 |                        |
|-----------------|-----|-----------------|------------------------|
| ヤマネ マリ          | 教授  | 社会学             | 家族社会学、ジェンダー研究          |
| 山根 真理           |     |                 |                        |
| セキネ ミキ          | 教授  | 家政学             | 生活経営学                  |
| 関根 美貴           |     |                 |                        |
| イタクラ コウイチ       | 教授  | 食品学             | 食品化学                   |
| 板倉 厚一           |     |                 |                        |
| アオキ カホリ         | 准教授 | 教育方法学、家庭科教育     | 生活科学、戦後初期家庭科、城戸幡太郎     |
| 青木 香保里          |     |                 |                        |
| ツツイ カズミ         | 准教授 | 食生活学            | 食物、調理                  |
| 筒井 和美           |     |                 |                        |
| イブカ ショウコ        | 講師  | 家庭科教育           | 授業研究、ナラティブアプローチ、評価     |
| 伊深 祥子           |     |                 |                        |
| 保健環境センター        | 3人  | 専 門 分 野         | 研究分野を表すキーワード           |
| タナカ ミカ          | 教授  | 精神健康学           | 学校保健、精神医学              |
| 田中 生雅           |     |                 |                        |
| タナカ ユウジ         | 教授  | 内科学、学校保健        | 重症難病、自律神経、地域医療、学校保健    |
| 田中 優司           |     |                 |                        |
| サカキバラ ヨウコ       | 准教授 | 地球化学、環境保全、環境安全学 | 環境安全学、環境教育、安全衛生教育      |
| 榊原 洋子           |     |                 |                        |
| 教員養成開発連携センター 1人 |     |                 |                        |
| 教員養成開発連携センター    | 1人  | 専 門 分 野         | 研究分野を表すキーワード           |
| タケ ヒロコ          | 講師  | 比較教育学           | スウェーデン、教育、質保証、グローバルな視野 |
| 武 寛子            |     |                 |                        |

\* 研究者総数は、本務教員数に特任教員を加えた人数を計上。

## 第6章 地域連携・社会貢献

## 1 非正規学生の受入状況

2015年度非正規学生受入状況

| 5/1現在の在籍数と年間受入数 | 教育学部 |    | 教育学研究科 |    | 教育実践研究科 |    | 所属なし |     | 合計  |     |
|-----------------|------|----|--------|----|---------|----|------|-----|-----|-----|
|                 | 5/1  | 年間 | 5/1    | 年間 | 5/1     | 年間 | 5/1  | 年間  | 5/1 | 年間  |
| 合計              | 35   | 47 | 13     | 15 | 0       | 0  | 3    | 3   | 51  | 68  |
| 一般学生            | 11   | 11 | 1      | 3  | 0       | 0  | 3    | 3   | 15  | 20  |
| 研究生             | 3    |    |        | 2  |         |    |      |     | 3   | 5   |
| 科目等履修生          | 8    | 11 | 1      | 1  |         |    |      |     | 9   | 12  |
| 大学院特別研究学生       |      |    |        |    |         |    |      |     |     |     |
| 特別聴講学生          |      |    |        |    |         |    |      |     |     |     |
| 内地留学生           |      |    |        |    |         |    | 3    | 3   | 3   | 3   |
| (特殊教育内地留学生)     |      |    |        |    |         |    |      |     |     |     |
| (現職教員派遣内地留学生)   |      |    |        |    |         |    | (3)  | (3) | (3) | (3) |
| 外国人留学生          | 24   | 36 | 12     | 12 | 0       | 0  | 0    | 0   | 36  | 48  |
| 研究生             | 2    | 5  |        |    |         |    |      |     | 2   | 5   |
| 科目等履修生          | 1    | 2  | 1      |    |         |    |      |     | 2   | 2   |
| 大学院特別研究学生       |      |    |        |    |         |    |      |     |     |     |
| 特別聴講学生          | 21   | 29 |        | 1  |         |    |      |     | 21  | 30  |
| 教員研修留学生         |      |    | 11     | 11 |         |    |      |     | 11  | 11  |

( )は内地留学生の内訳で内数

## 2 公開講座

2015年度公開講座開設状況

| 公開講座規程での公開講座の種類         | 開設講座  | 実施講座  | 受講者   |
|-------------------------|-------|-------|-------|
| <1> 一般公開講座              | 12 講座 | 11 講座 | 85 人  |
| <2> 現職教育公開講座            | 6 講座  | 5 講座  | 28 人  |
| <3> 免許法認定公開講座           | 7 講座  | 7 講座  | 334 人 |
| <4> 連携公開講座 (連携 7 市(ほか)) | 16 講座 | 16 講座 | 339 人 |
| 公開講座 合計                 | 41 講座 | 39 講座 | 786 人 |

2015年度 公開講座開設一覧

| 番号                         | 講座名 (講師)                                          | 受講対象者                         | 会場     | 開設日                              |                                                       | 時間 (h) | 受講料 (円) | 定員 (人) | 受講者 (人) |
|----------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------|--------|----------------------------------|-------------------------------------------------------|--------|---------|--------|---------|
| 総 計                        |                                                   |                               |        | 開設数 41                           | 実施数 39                                                | 233.5  |         | 1569   | 786     |
| <1> 一般公開講座 ① 愛知教育大学主催の公開講座 |                                                   |                               |        | 開設数 11                           |                                                       | 50.5   |         | 209    | 83      |
| 1                          | 日本語教育を学ぼう<br>(上田 崇仁)                              | 一般の方                          | 愛知教育大学 | 06/20(土)<br>07/18(土)<br>08/01(土) | 13:00～<br>14:30                                       | 4.5    | 3080    | 6      | 8       |
| 2                          | 無線 LAN の基礎<br>(安本 太一)                             | 一般の方                          | 愛知教育大学 | 07/04(土)                         | 9:30～<br>14:30                                        | 4      | 3080    | 6      | 4       |
| 3                          | 子どもを活かす授業名人への道<br>ー授業コミュニケーション入門ー<br>(土屋 武志)      | 教育に関心のある方<br>・<br>小・中学校教員の方   | 愛知教育大学 | 07/11(土)                         | 13:30～<br>16:00                                       | 2.5    | 3080    | 15     | 5       |
| 4                          | 海外の文化と教育に触れる<br>ー留学生によるプレゼンテーションを中心にー<br>(稲葉 みどり) | 一般の方                          | 愛知教育大学 | 07/05(日)                         | 10:00～<br>16:10                                       | 5      | 3080    | 12     | 0       |
| 5                          | ガラス工芸入門<br>(佐々木 雅浩)                               | 一般の方<br>(小学生以上)<br>*小学生は保護者同伴 | 愛知教育大学 | 07/19(日)<br>07/20(月・祝日)          | 7月19日は<br>13:00～<br>17:00<br>7月20日は<br>9:30～<br>12:30 | 7      | 6170    | 20     | 7       |
| 6                          | 真夏の整数論<br>(岸 康弘) (野崎 寛)                           | 高校生                           | 愛知教育大学 | 07/28(火)<br>07/29(水)             | 13:00～<br>15:30                                       | 5      | 770     | 35     | 30      |
| 7                          | 歌唱法入門<br>(金原 聡子)                                  | 一般の方                          | 愛知教育大学 | 08/01(土)                         | 10:00～<br>12:30                                       | 2.5    | 3080    | 20     | 9       |
| 8                          | 市民・ボランティアのための傾聴講座ー基礎編ー<br>(佐野 真紀)                 | 一般の方                          | 愛知教育大学 | 08/01(土)                         | 10:00～<br>16:00                                       | 5      | 3080    | 30     | 6       |
| 9                          | 市民・ボランティアのための傾聴講座ー実践編ー<br>(佐野 真紀)                 | 一般の方                          | 愛知教育大学 | 08/22(土)                         | 10:00～<br>16:00                                       | 5      | 3080    | 30     | 3       |

|                                       |                                                         |                                                |                                   |                                              |                                                                        |       |       |     |     |
|---------------------------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-------|-------|-----|-----|
| 10                                    | 指揮法入門<br>(橋本 剛)                                         | 一般の方<br>(中学生以上)                                | 愛知教育大学                            | 08/27(木)                                     | 10:30～<br>16:30                                                        | 5     | 3080  | 20  | 8   |
| 11                                    | 外国にルーツをもつ子ども達の<br>抱える問題<br>(川口 直巳)                      | 一般の方                                           | 愛知教育大学                            | 10/31(土)                                     | 10:00～<br>16:00                                                        | 5     | 3080  | 15  | 3   |
| <1> 一般公開講座 ② 豊田市と大学との共催公開講座           |                                                         |                                                |                                   |                                              |                                                                        | 開設数 1 | 3     | 20  | 2   |
| 12                                    | 日本語教育を考えよう<br>(上田 崇仁)                                   | 一般の方                                           | 産業文化センター                          | 05/23(土)<br>05/30(土)                         | 14:00～<br>15:30                                                        | 3     | 3080  | 20  | 2   |
| <2> 現職教育公開講座 ① 教員対象の公開講座              |                                                         |                                                |                                   |                                              |                                                                        | 開設数 6 | 30    | 260 | 28  |
| 13                                    | 学級経営と授業を変える「学級力」<br>(磯部 征尊)                             | 小・中・高等学校の学<br>校教育関係者または、<br>学校教育に興味・関心<br>のある方 | 愛知教育大学                            | 06/20(土)                                     | 9:00～<br>12:00                                                         | 3     | 3080  | 80  | 4   |
| 14                                    | 箱庭療法を体験しよう<br>(上田 琢哉)                                   | 小・中・高等学校<br>教員の方                               | 愛知教育大学                            | 08/01(土)                                     | 10:00～<br>16:00                                                        | 5     | 3080  | 10  | 7   |
| 15                                    | 学級経営と授業を変える「学級力」<br>(磯部 征尊)                             | 小・中・高等学校の学<br>校教育関係者または、<br>学校教育に興味・関心<br>のある方 | 愛知教育大学                            | 08/07(金)                                     | 9:00～<br>12:00                                                         | 3     | 3080  | 80  | 7   |
| 16                                    | 小・中学校におけるキャリア教育の<br>具体的展開<br>(坂柳 恒夫) (高綱 睦美)<br>(京免 徹雄) | 教員の方                                           | 愛知教育大学                            | 08/10(月)<br>08/11(火)                         | 13:30～<br>16:30<br>9:30～<br>16:30                                      | 9     | 6170  | 30  | 6   |
| 17                                    | iPadを使った図形指導の実際<br>-作図ツール GC/html5 を使って<br>(飯島 康之)      | 現職教員・教育に関心<br>がある方                             | 愛知教育大学                            | 11/21(土)                                     | 10:00～<br>15:00                                                        | 4     | 3080  | 30  | 4   |
| 18                                    | 校務の情報化<br>-エクセルの表計算を学ぼう-<br>(齋藤 ひとみ)                    | 教員の方                                           | 愛知教育大学                            | 12/19(土)                                     | 9:30～<br>16:30                                                         | 6     | 6170  | 30  | 0   |
| <3> 免許法認定公開講座 ① 特別支援学校教諭免許状取得のための公開講座 |                                                         |                                                |                                   |                                              |                                                                        | 開設数 6 | 90    | 420 | 316 |
| 19                                    | 知的障害者教育総論 A<br>(恒次 欽也)                                  | 特別支援学校教諭一種<br>及び二種免許状の取得<br>を希望される方            | 愛知教育大学                            | 06/20(土)<br>06/21(日)                         | 9:10～<br>16:30                                                         | 15    | 7200  | 70  | 49  |
| 20                                    | 特別支援教育基礎論 A<br>(飯塚 一裕)                                  | 特別支援学校教諭一種<br>及び二種免許状の取得<br>を希望される方            | 愛知教育大学                            | 06/27(土)<br>06/28(日)                         | 9:10～<br>16:30                                                         | 15    | 7200  | 70  | 71  |
| 21                                    | 肢体不自由者教育総論 A<br>(森崎 博志)                                 | 特別支援学校教諭一種<br>及び二種免許状の取得<br>を希望される方            | 愛知教育大学                            | 08/29(土)<br>08/30(日)                         | 9:10～<br>16:30                                                         | 15    | 7200  | 70  | 66  |
| 22                                    | 知的障害者教育総論 I<br>(吉岡 恒生)                                  | 特別支援学校教諭一種<br>及び二種免許状の取得<br>を希望される方            | 愛知教育大学                            | 10/10(土)<br>10/11(日)                         | 9:10～<br>16:30                                                         | 15    | 7200  | 70  | 42  |
| 23                                    | 聴覚障害者教育課程・指導法概論 A<br>(小田 俊朗)                            | 特別支援学校教諭一種<br>及び二種免許状の取得<br>を希望される方            | 愛知教育大学                            | 10/31(土)<br>11/01(日)                         | 9:10～<br>16:30                                                         | 15    | 7200  | 70  | 56  |
| 24                                    | 聴覚障害者心理・生理・病理概論 A<br>(岩田 吉生)                            | 特別支援学校教諭一種<br>及び二種免許状の取得<br>を希望される方            | 愛知教育大学                            | 11/14(土)<br>11/15(日)                         | 9:10～<br>16:30                                                         | 15    | 7200  | 70  | 32  |
| <3> 免許法認定公開講座 ② 養護教諭専修免許状取得のための公開講座   |                                                         |                                                |                                   |                                              |                                                                        | 開設数 1 | 30    | 30  | 18  |
| 25                                    | 学校疾病学演習 I<br>(古田 真司)                                    | 養護教諭一種免許状を<br>有する方                             | 愛知教育大学                            | 08/01(土)<br>08/02(日)<br>08/08(土)<br>08/09(日) | 10:05～<br>17:15<br>8:25～<br>14:50<br>10:05～<br>17:15<br>8:25～<br>14:50 | 30    | 10280 | 30  | 18  |
| <4> 各市と大学との連携公開講座 ① 刈谷市と大学との連携公開講座    |                                                         |                                                |                                   |                                              |                                                                        | 開設数 4 | 7     | 200 | 73  |
| 26                                    | 不登校の支援(発達障害を抱える子<br>どもも含む)を考える<br>(原田 宗忠)               | 刈谷市、知立市、高浜<br>市、東浦町在住・在勤<br>の方                 | 中央生涯学習セン<br>ター (刈谷市総合<br>文化センター内) | 05/16 (土)                                    | 10:00～<br>12:00                                                        | 2     | 300   | 50  | 28  |
| 27                                    | 国指定天然記念物小堀西池の力キツ<br>バタ群落の現状と保全<br>(渡邊 幹男)               | 刈谷市、知立市、高浜<br>市、東浦町在住・在勤<br>の方                 | 中央生涯学習セン<br>ター (刈谷市総合<br>文化センター内) | 06/06 (土)                                    | 10:00～<br>11:30                                                        | 1.5   | 300   | 50  | 17  |
| 28                                    | 子育て・子育ての「現在」を考える<br>-ジェンダーとネットワークの視<br>点から-<br>(山根 真理)  | 刈谷市、知立市、高浜<br>市、東浦町在住・在勤<br>の方                 | 中央生涯学習セン<br>ター (刈谷市総合<br>文化センター内) | 06/13 (土)                                    | 13:30～<br>15:00                                                        | 1.5   | 300   | 50  | 12  |
| 29                                    | ソーシャルワーカーを知ろう<br>(岩満 賢次)                                | 刈谷市、知立市、高浜<br>市、東浦町在住・在勤<br>の方                 | 中央生涯学習セン<br>ター (刈谷市総合<br>文化センター内) | 11/07 (土)                                    | 10:00～<br>12:00                                                        | 2     | 300   | 50  | 16  |
| <4> 各市と大学との連携公開講座 ② 知立市と大学との連携公開講座    |                                                         |                                                |                                   |                                              |                                                                        | 開設数 2 | 3     | 60  | 44  |
| 30                                    | 明治を知ろう<br>-全国の方言と標準語の確立-<br>(中田 敏夫)                     | 知立市、刈谷市、高浜<br>市、東浦町在住・在勤<br>の方                 | 知立市<br>中央公民館                      | 07/18 (土)                                    | 10:00～<br>11:30                                                        | 1.5   | 300   | 30  | 21  |
| 31                                    | ユダヤ人の歴史と思想<br>(黒川 知文)                                   | 知立市、刈谷市、高浜<br>市、東浦町在住・在勤<br>の方                 | 知立市<br>中央公民館                      | 09/11 (金)                                    | 10:00～<br>11:30                                                        | 1.5   | 300   | 30  | 23  |

| <4> 各市と大学との連携公開講座 ③ 豊明市と大学との連携公開講座  |                                                                                                                                    |                                             |                      | 開設数 2                            |                 | 4.5 |     | 80  | 19 |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------|----------------------------------|-----------------|-----|-----|-----|----|
| 32                                  | 豊明市における湧水湿地の現状と保全<br>(渡邊 幹男)                                                                                                       | どなたでも（ただし小学生は親子参加とする）                       | 豊明市立南部公民館およびバスでの現地見学 | 08/22（土）<br>08/23（日）             | 9:30～<br>11:00  | 3   | 600 | 30  | 5  |
| 33                                  | 余暇と生きがい<br>(石川 恭)                                                                                                                  | どなたでも                                       | 豊明市立南部公民館            | 12/01（火）                         | 14:00～<br>15:30 | 1.5 | 300 | 50  | 14 |
| <4> 各市と大学との連携公開講座 ④ 安城市と大学との連携公開講座  |                                                                                                                                    |                                             |                      | 開設数 2                            |                 | 3   |     | 80  | 48 |
| 34                                  | 平城京の歩き方<br>(西宮 秀紀)                                                                                                                 | 安城市内在住・在勤の方                                 | 安城市文化センター            | 08/29（土）                         | 10:00～<br>11:30 | 1.5 | 300 | 40  | 33 |
| 35                                  | 特命全権大使のみたオランダの現在<br>(伊藤 貴啓)                                                                                                        | 安城市内在住・在勤の方                                 | 安城市文化センター            | 10/17（土）                         | 10:00～<br>11:30 | 1.5 | 300 | 40  | 15 |
| <4> 各市と大学との連携公開講座 ⑤ 碧南市と大学との連携公開講座  |                                                                                                                                    |                                             |                      | 開設数 2                            |                 | 3   |     | 60  | 24 |
| 36                                  | 地域の歴史・文化について「民俗学」してみよう<br>(野地 恒有)                                                                                                  | 一般の方（碧南市内在住・在勤問わず）                          | 碧南市文化会館              | 05/16（土）                         | 13:30～<br>15:00 | 1.5 | 300 | 30  | 10 |
| 37                                  | お父さんの子育てと子ども・家族の変化<br>(尾形 和男)                                                                                                      | 一般の方（碧南市内在住・在勤問わず）                          | 碧南市文化会館              | 09/12（土）                         | 13:30～<br>15:00 | 1.5 | 300 | 30  | 14 |
| <4> 各市と大学との連携公開講座 ⑥ 高浜市と大学との連携公開講座  |                                                                                                                                    |                                             |                      | 開設数 1                            |                 | 1.5 |     | 30  | 7  |
| 38                                  | 待つこと、聞くこと、問いかけること<br>(子安 潤)                                                                                                        | どなたでも                                       | 高浜市やきもの里かわら美術館       | 11/08(日)                         | 13:30～<br>15:00 | 1.5 | 300 | 30  | 7  |
| <4> 各市と大学との連携公開講座 ⑦ みよし市と大学との連携公開講座 |                                                                                                                                    |                                             |                      | 開設数 2                            |                 | 3.5 |     | 60  | 49 |
| 39                                  | 先端科学技術と日常生活の関わり<br>(岩山 勉)                                                                                                          | 一般の方（みよし市内在住・在勤問わず）                         | みよし市学習交流センター         | 06/27（土）                         | 13:00～<br>14:30 | 1.5 | 300 | 30  | 21 |
| 40                                  | 長い時間スケールで見る地球、生命、地球環境<br>(星 博幸)                                                                                                    | 小学校5年生以上の一般の方（みよし市内在住・在勤問わず。ただし小学生は親子参加とする） | みよし市学習交流センター         | 10/17（土）                         | 13:00～<br>15:00 | 2   | 300 | 30  | 28 |
| <4> 名古屋生涯学習推進センターとの大学連携講座           |                                                                                                                                    |                                             |                      | 開設数 1                            |                 | 4.5 |     | 60  | 75 |
| 41                                  | 親子で学ぼう！<br>「ダンスでコミュニケーション」<br>(成瀬 麻美)<br>「タンポポからわかる生物多様性～タンポポすごろくをつかって生物多様性を学ぶ～」<br>(渡邊 幹男)<br>「ことばを学ぶポイント～日本語教育の視点から～」<br>(上田 崇仁) | 小学生とその親                                     | イーブルなごや              | 06/06（土）<br>06/20（土）<br>07/11（土） | 13:30～<br>15:00 | 4.5 | 0   | 30組 | 75 |

### 3 地域連携フォーラム

#### 地域連携フォーラム2015

| テーマ 教員養成大学における企業連携の可能性 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 趣 旨                    | <p>いま、教育改革をめぐって改めて企業連携がクローズアップされています。次期学習指導要領改訂に向けては、「人生を主体的に切り拓くための学び」を実現するため、学校教育に外の風、すなわち、変化する社会の動きを取り込み、世の中と結びついた授業を実施していくことが強調されています。教員養成に関しても、社会性や地域と連携する力の育成を目指して、「社会とつながる」教育課程のマネジメントが要請されます。</p> <p>こうした今日的課題に応えるために、教育研究と教師教育を本務とする教員養成大学は、どのようにして企業連携を推進していくとよいだろうか。現在、愛知教育大学では、中部電力（株）との連携のもと「電気に関する授業づくり」に、また（株）中日新聞社との連携のもと「NIEのカリキュラム開発」に取り組んでいます。本フォーラムでは、これらの実践事例を手がかりとして、教員養成大学と企業の両者にとって魅力のある連携の在り方について考えていきます。</p> |
| 開催日時                   | 平成28年1月23日（土） 13:00～16:00                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 開催場所                   | 愛知教育大学 教育未来館3階 多目的ホール                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 参加者数                   | 59人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| プログラム                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 開会あいさつ                 | <p>地域連携センター長／理事(連携担当) 白井 正康</p> <p>総合司会：地域連携センター 副センター長 早瀬 和利</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 第Ⅰ部                    | <p>講 演：「学校教育における企業連携の現状」</p> <p>趣旨説明：京免 徹雄（愛知教育大学）</p> <p>実践報告1：中部電力株式会社 広報部 村瀬 直利、名古屋支店総務部 町田 玲子</p> <p>実践報告2：中日新聞社 サービス・PR委員会 山田 伝夫、NIE事務局（愛知教育大学非常勤講師） 川本 公子</p>                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 第Ⅱ部                    | <p>パネルディスカッション：「学校は企業とどう関係を構築すべきかー教員養成大学の役割ー」</p> <p>パネリスト：町田 玲子（中部電力）、川本 公子（中日新聞）、浜下 洋之（高浜市立翼小学校、愛知教育大学大学院）、</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|     |                                                  |
|-----|--------------------------------------------------|
|     | 梅田 恭子（愛知教育大学）、京免 徹雄（愛知教育大学）<br>進 行：土屋 武志（愛知教育大学） |
| 総 括 | 地域連携センター 企業連携・地域活性化部門代表 渡邊 幹男                    |

#### 4 教員免許状更新講習

2015年度教員免許状更新講習対面講習実施状況

【受講対象者区分別】

(単位：人)

| 対象者区分                     | 受講者数 |     |       |
|---------------------------|------|-----|-------|
|                           | 夏期   | 冬期  | 合計    |
| 合計                        | 942  | 167 | 1,109 |
| 現職教員                      | 845  | 137 | 982   |
| 職種 内訳                     | 845  | 137 | 982   |
| 教諭                        | 647  | 110 | 757   |
| 養護教諭                      | 38   | 2   | 40    |
| 栄養教諭                      | 17   | 1   | 18    |
| 助教諭                       | 1    |     | 1     |
| 講師（非常勤講師）                 | 101  | 10  | 111   |
| 養護助教諭                     |      |     |       |
| 実習助手                      | 2    | 1   | 3     |
| 寄宿舎指導員                    |      |     |       |
| 学校栄養職員                    | 3    | 1   | 4     |
| 養護職員                      |      |     |       |
| その他（保育士含）                 | 36   | 12  | 48    |
| 勤務校種 内訳                   | 845  | 137 | 982   |
| 幼稚園                       | 13   | 1   | 14    |
| 小学校                       | 299  | 37  | 336   |
| 中学校                       | 198  | 34  | 232   |
| 高等学校                      | 229  | 43  | 272   |
| 中等教育学校                    | 5    | 2   | 7     |
| 特別支援学校                    | 68   | 8   | 76    |
| その他                       | 33   | 12  | 45    |
| 教員採用内定者                   |      |     |       |
| 講師登録者 ※                   | 43   | 20  | 63    |
| 教員勤務経験者                   | 54   | 10  | 64    |
| その他                       |      |     |       |
| ※ 教員として任命又は雇用される（見込みのある）者 |      |     |       |

【都道府県別】

(単位：人)

| 都道府県   | 受講者数 |     |       |
|--------|------|-----|-------|
|        | 夏期   | 冬期  | 合計    |
| 合計     | 942  | 167 | 1,109 |
| 北海道    | 0    | 0   | 0     |
| 東北     | 1    | 0   | 1     |
| 宮城県    | 1    |     | 1     |
| 関東     | 4    | 1   | 5     |
| 千葉県    | 1    |     | 1     |
| 東京都    | 2    | 1   | 3     |
| 神奈川県   | 1    |     | 1     |
| 北陸・甲信越 |      | 2   | 2     |
| 長野県    |      | 2   | 2     |
| 東海     | 932  | 157 | 1,089 |
| 岐阜県    | 9    | 6   | 15    |
| 静岡県    | 4    | 2   | 6     |
| 愛知県    | 901  | 144 | 1,045 |
| 三重県    | 18   | 5   | 23    |
| 近畿     | 3    | 7   | 10    |
| 滋賀県    |      | 1   | 1     |
| 京都府    | 1    | 2   | 3     |
| 大阪府    | 1    | 2   | 3     |
| 兵庫県    | 1    | 1   | 2     |
| 奈良県    |      | 1   | 1     |
| 中国     | 0    | 0   | 0     |
| 四国     | 1    | 0   | 1     |
| 高知県    | 1    |     | 1     |
| 九州     | 1    | 0   | 1     |
| 宮城県    | 1    |     | 1     |
| その他    | 0    | 0   | 0     |

【修了確認期限別】

(単位：人)

| 修了確認期限     |                     | 受講者数 |     |       |
|------------|---------------------|------|-----|-------|
|            |                     | 夏期   | 冬期  | 合計    |
| 合計         |                     | 942  | 167 | 1,109 |
| 2016年3月31日 |                     | 299  | 55  | 354   |
| 35歳        | 1980/4/2 - 1981/4/1 | 74   | 9   | 83    |
| 45歳        | 1970/4/2 - 1971/4/1 | 62   | 14  | 76    |
| 55歳        | 1960/4/2 - 1961/4/1 | 75   | 2   | 77    |
| 上記以外の年齢    |                     | 88   | 30  | 118   |

|                         |     |     |     |
|-------------------------|-----|-----|-----|
| 2017年3月31日              | 643 | 112 | 755 |
| 34歳 1981/4/2 - 1982/4/1 | 174 | 58  | 232 |
| 44歳 1971/4/2 - 1972/4/1 | 233 | 33  | 266 |
| 54歳 1961/4/2 - 1962/4/1 | 236 | 21  | 257 |

## 2015年度教員免許状更新講習対面講習開設一覧

[開講期間]夏期講習：2015/8/7～8/20 冬期講習：2015/12/19～12/26

(単位：人)

| 開講日                  | 講 習 名                           | 募集定員  | 受講者数  | 欠席者数 |
|----------------------|---------------------------------|-------|-------|------|
| 対面講習                 | 総計                              | 3,920 | 2,770 | 9    |
| 夏期講習                 | 合計                              | 3,420 | 2,479 | 8    |
| 必修領域                 | 小計                              | 800   | 679   | 1    |
| 8月7日(金)<br>8月8日(土)   | 1 教育の最新事情①                      | 300   | 252   |      |
| 8月10日(月)             | 2 教育の最新事情②                      | 200   | 198   | 1    |
| 8月11日(火)             | 3 教育の最新事情③                      | 100   | 76    |      |
| 8月16日(日)<br>8月17日(月) | 4 教育の最新事情④                      | 200   | 153   |      |
| 選択領域                 | 小計                              | 2,620 | 1,800 | 7    |
| 8月7日(金)              | 1 幼児理解と幼児教育A                    | 30    | 29    |      |
|                      | 2 養護教諭が行う「保健教育」の基礎と実践           | 50    | 20    |      |
|                      | 3 記者に学ぶコミュニケーション能力              | 50    | 48    | 2    |
|                      | 4 小学校社会科副読本の利用                  | 50    | 19    |      |
|                      | 5 中国の言語と文化                      | 20    | 7     |      |
|                      | 6 ことばと文化                        | 20    | 9     |      |
|                      | 7 小学校動物教材の飼育、観察法                | 30    | 15    |      |
|                      | 8 小中学校理科(地質、地形、岩石、火山、地震)        | 30    | 12    |      |
|                      | 9 試行錯誤できる工作・工芸教材について            | 25    | 25    | 1    |
|                      | 10 家庭科における被服の学び                 | 25    | 25    |      |
| 8月8日(土)              | 11 特別支援教育の現代的課題 保護者への対応を中心に     | 50    | 50    |      |
|                      | 12 幼児理解と幼児教育B                   | 30    | 28    |      |
|                      | 13 ストレスの生理学的基礎と心理学的対応           | 50    | 22    |      |
|                      | 14 漢文教育(臥薪嘗胆)                   | 50    | 18    | 1    |
|                      | 15 教育現場におけるパソコン実践活用法            | 30    | 30    |      |
| 8月9日(日)              | 16 生活科授業づくりの基礎・基本               | 50    | 47    |      |
|                      | 17 日本近現代文学・文化の諸相                | 50    | 38    |      |
|                      | 18 教育現場におけるパソコン実践活用法            | 30    | 30    |      |
|                      | 19 地域の学習資源を活用した授業づくり 1          | 40    | 40    |      |
|                      | 20 地域の歴史・文化を「民俗学」から学ぶ           | 50    | 30    |      |
| 8月10日(月)             | 21 算数科授業における練り上げの意味と取り入れ方       | 50    | 26    |      |
|                      | 22 学校現場で実践できる疾病予防と生活習慣          | 50    | 20    |      |
|                      | 23 外国にルーツをもつ子ども達への日本語教育         | 50    | 50    |      |
|                      | 24 教育現場におけるパソコン実践活用法            | 50    | 21    |      |
|                      | 25 イオン化傾向・酸化還元と水道水中のカルシウムイオンの定量 | 30    | 11    |      |
|                      | 26 理科授業を活性化させる科学的な体験活動          | 50    | 30    |      |
|                      | 27 ものづくりと技術教育A                  | 30    | 11    |      |
|                      | 28 小中高家庭科の教材研究・授業づくり            | 50    | 18    |      |
| 8月11日(火)             | 29 発達障害の理解と支援                   | 50    | 50    |      |
|                      | 30 生徒の表現力、話し合い活動を促進する数学指導法      | 50    | 22    |      |
|                      | 31 数と図形の発見、解釈そして表現              | 50    | 12    |      |

|                        |    |                             |     |     |     |   |
|------------------------|----|-----------------------------|-----|-----|-----|---|
|                        | 32 | コンピュータネットワークの基礎             | 50  | 42  |     |   |
|                        | 33 | 教育現場におけるパソコン実践活用法           | 50  | 32  |     |   |
| 8月16日(日)               | 34 | 社会科と教育学の視点でのドイツ             | 50  | 27  |     |   |
|                        | 35 | 教育現場におけるパソコン実践活用法           | 30  | 閉講  |     |   |
| 8月17日(月)               | 36 | 読み書きの発達とその指導                | 50  | 50  |     |   |
|                        | 37 | 生かそう「教育に新聞を」                | 50  | 49  | 1   |   |
|                        | 38 | 「活用」を意識した算数指導のポイント          | 50  | 30  |     |   |
|                        | 39 | 教育現場におけるパソコン実践活用法           | 30  | 28  |     |   |
|                        | 40 | ここまでで頑張ろう！リコーダーとピアノ初級       | 30  | 30  |     |   |
|                        | 41 | 体育の技術指導法                    | 40  | 28  |     |   |
|                        | 42 | 家庭科における食物の学び                | 50  | 42  |     |   |
| 8月18日(火)               | 43 | キャリア教育のあり方・進め方              | 50  | 49  |     |   |
|                        | 44 | 税の専門家と協働する租税教育 1            | 30  | 12  |     |   |
|                        | 45 | 教育現場におけるパソコン実践活用法           | 50  | 47  |     |   |
|                        | 46 | やってみよう！リコーダーとピアノ応用発展        | 30  | 30  |     |   |
|                        | 47 | ヨーロッパ近代美術の鑑賞                | 50  | 31  |     |   |
| 8月19日(水)               | 48 | 聴覚障害児の教育                    | 50  | 29  | 1   |   |
|                        | 49 | 学校臨床における心                   | 50  | 50  |     |   |
|                        | 50 | 『枕草子』と『徒然草』                 | 50  | 36  |     |   |
|                        | 51 | 教育現場におけるパソコン実践活用法           | 50  | 38  |     |   |
|                        | 52 | 小・中学校分野(物理分野)               | 30  | 19  |     |   |
|                        | 53 | アートゲームー鑑賞学習のヒントー            | 40  | 37  |     |   |
|                        | 54 | 運動指導法A(器械運動・水泳)             | 40  | 18  |     |   |
| 8月20日(木)               | 55 | 「21世紀型能力」を育てる国語科授業開発・評価     | 40  | 34  |     |   |
|                        | 56 | 学ぼう「子どもが取り組む新聞作り」のコツ        | 50  | 25  |     |   |
|                        | 57 | 小学校外国語活動と小中連携の英語教育の指導法と理論   | 40  | 40  |     |   |
|                        | 58 | 算数科における「数と計算」の指導について        | 50  | 31  |     |   |
|                        | 59 | 教育現場におけるパソコン実践活用法           | 30  | 9   |     |   |
|                        | 60 | 電子黒板とタブレットを活用した授業づくり        | 30  | 29  | 1   |   |
|                        | 61 | 小学校向け分野教材(化学分野)             | 30  | 21  |     |   |
|                        | 62 | 中学校の教員に対する音楽科実技講習           | 30  | 30  |     |   |
|                        | 63 | 日頃体育の授業づくり                  | 50  | 14  |     |   |
| 冬期講習                   |    |                             | 合計  | 500 | 291 | 1 |
| 必修領域                   |    |                             | 小計  | 100 | 79  | 1 |
| 12月19日(土)<br>12月20日(日) | 1  | 教育の最新事情⑤                    | 100 | 79  | 1   |   |
| 選択領域                   |    |                             | 小計  | 400 | 212 | 0 |
| 12月23日<br>(水・祝日)       | 1  | 教育現場におけるパソコン実践活用法           | 30  | 29  |     |   |
|                        | 2  | 小学校外国語活動と小中連携の英語教育の指導法と理論 2 | 40  | 33  |     |   |
|                        | 3  | 保健体育実践プログラムのワークショップ         | 50  | 18  |     |   |
|                        | 4  | 納得ある理解をつくる理科の表現指導と評価        | 50  | 閉講  |     |   |
|                        | 5  | 運動指導法B(球技・ダンス)              | 30  | 閉講  |     |   |
| 12月25日(金)              | 6  | 地域の学習資源を活用した授業づくり 2         | 40  | 38  |     |   |
| 12月26日(土)              | 7  | ガラス工芸                       | 30  | 25  |     |   |
|                        | 8  | 教育臨床学                       | 50  | 49  |     |   |
|                        | 9  | 視覚障害指導法-見やすい・触りやすい教材-       | 50  | 12  |     |   |
|                        | 10 | 税の専門家と協働する租税教育 2            | 30  | 8   |     |   |

## 2015 年度教員免許状更新講習 e ラーニング講習実施状況

【試験会場別】

(単位：人)

| 試験会場                 | 受講申込者数 |
|----------------------|--------|
| 合計                   | 2,173  |
| 1 北海道 札幌アスティ 45 (札幌) | 244    |
| 2 北海道 旭川実業高等学校 (旭川)  | 77     |
| 3 北海道 とかちプラザ (帯広)    | 66     |
| 4 東京都 東京学芸大学 (小金井)   | 455    |
| 5 愛知県 愛知教育大学 (刈谷)    | 687    |
| 6 石川県 金沢大学 (金沢)      | 307    |
| 7 兵庫県 関西学院大学 (西宮)    | 337    |

注 受講申込者数は、KAGAC 連携の4大学全ての受講申込者を計上。

また、受講申込者数であり欠席者も含まれる。

KAGAC 連携大学

東京学芸大学、金沢大学、愛知教育大学、千歳科学技術大学

【都道府県別】

(単位：人)

| 都道府県   | 受講申込者数 | 都道府県 | 受講申込者数 | 都道府県   | 受講申込者数 |
|--------|--------|------|--------|--------|--------|
| 北海道    | 380    | 福井県  | 47     | 四国     | 9      |
| 東北     | 23     | 山梨県  | 24     | 徳島県    | 7      |
| 青森県    | 4      | 長野県  | 16     | 愛媛県    | 2      |
| 宮城県    | 8      | 東海   | 692    | 九州     | 6      |
| 秋田県    | 2      | 岐阜県  | 9      | 福岡県    | 4      |
| 山形県    | 1      | 静岡県  | 29     | 熊本県    | 2      |
| 福島県    | 8      | 愛知県  | 622    | その他    | 2      |
| 関東     | 398    | 三重県  | 32     | シンガポール | 1      |
| 茨城県    | 6      | 近畿   | 316    | 中国     | 1      |
| 栃木県    | 4      | 滋賀県  | 20     | 合計     | 2,173  |
| 群馬県    | 10     | 京都府  | 18     |        |        |
| 埼玉県    | 48     | 大阪府  | 74     |        |        |
| 千葉県    | 52     | 兵庫県  | 169    |        |        |
| 東京都    | 203    | 奈良県  | 33     |        |        |
| 神奈川県   | 75     | 和歌山県 | 2      |        |        |
| 北陸・甲信越 | 336    | 中国   | 11     |        |        |
| 新潟県    | 10     | 島根県  | 1      |        |        |
| 富山県    | 63     | 岡山県  | 8      |        |        |
| 石川県    | 176    | 広島県  | 2      |        |        |

## 2015年度教員免許状更新講習eラーニング講習開設一覧

[受講期間] 2015/6/15～8/22 [修了認定試験] 2015/8/22

(単位：人)

| 受講期間                      | 科目 | 講 習 名                         | 受講者数  | 不合格者 | 未完了者 | 欠席者数 |
|---------------------------|----|-------------------------------|-------|------|------|------|
| eラーニング講習                  | 番号 | 総計                            | 7,812 | 47   |      | 98   |
| 必修領域                      |    | 小計                            | 1,927 | 3    |      | 21   |
| 06/15(月)<br>～<br>08/22(土) | 01 | 社会・子どもの変化と教育の課題               | 1,927 | 3    |      | 21   |
| 選択領域                      |    | 小計                            | 5,885 | 44   |      | 77   |
| 06/15(月)<br>～<br>08/22(土) | 01 | 学校でしかできない不登校未然防止と登校支援         | 432   | 3    |      | 3    |
|                           | 02 | 発達障害の子どもたちの理解と支援              | 761   | 8    |      | 5    |
|                           | 03 | 「道徳」教育・「倫理」教育と中国思想            | 65    |      |      | 1    |
|                           | 04 | 漢語発音のための中国語発音基礎講座             | 32    |      |      |      |
|                           | 05 | 授業に役立つ漢詩名作鑑賞入門                | 72    |      |      | 1    |
|                           | 06 | 現代漢字の基礎知識                     | 106   | 1    |      |      |
|                           | 07 | 生活科への理解                       | 125   | 1    |      | 1    |
|                           | 08 | 音楽科授業の活性化に効果的な方策と使える指導スキル     | 128   |      |      |      |
|                           | 09 | 生活環境・生活習慣の変化を踏まえた生徒指導         | 248   | 7    |      | 3    |
|                           | 10 | 子どもの権利のための学校と地域の協働            | 69    |      |      | 1    |
|                           | 11 | 「第二の地球」はあるか？                  | 55    | 2    |      |      |
|                           | 12 | 総合的な学習の時間における国際理解教育           | 127   | 3    |      | 2    |
|                           | 13 | 成長・発達とビタミン ～葉酸を中心に～           | 102   |      |      | 1    |
|                           | 14 | 新学習指導要領に対応するための確立研修について       | 52    | 1    |      | 1    |
|                           | 15 | 情報技術者育成のための基本情報処理             | 22    |      |      |      |
|                           | 16 | ICTを活用した数学授業実践                | 77    |      |      | 2    |
|                           | 17 | 光科学の基礎と応用への招待                 | 19    |      |      |      |
|                           | 18 | 基本的人権の現在                      | 74    | 2    |      | 1    |
|                           | 19 | 心理学入門～人間の記憶・言語・思考のふしぎを探る～     | 266   |      |      | 5    |
|                           | 20 | 教師のための表計算入門（Excel2007）        | 663   | 3    |      | 9    |
|                           | 21 | 教師のための文章処理入門（Word2007）        | 466   |      |      | 3    |
|                           | 22 | Web とその作成                     | 76    |      |      | 3    |
|                           | 23 | 宇宙と素粒子                        | 36    | 1    |      |      |
|                           | 24 | 成績評価のための統計学講座                 | 107   | 1    |      | 2    |
|                           | 25 | 学校における消費者教育                   | 51    |      |      | 3    |
|                           | 26 | 持続可能な社会のためのエネルギー利用技術          | 42    |      |      |      |
|                           | 27 | 子どもに対するがん教育のためのがんに関する基礎知識     | 67    |      |      | 2    |
|                           | 28 | 高校数学のつぼ                       | 85    | 1    |      | 3    |
|                           | 29 | 雇用のルール                        | 50    | 3    |      | 1    |
|                           | 30 | バイオへの誘い                       | 47    |      |      | 1    |
|                           | 31 | 放射能と放射線の基礎知識                  | 24    | 1    |      |      |
|                           | 32 | ICTを活用した「アクティブ・ラーニング型」学力授業法   | 41    |      |      | 3    |
|                           | 33 | やさしい児童期・思春期の精神医学～その深層心理と心の病気～ | 276   | 1    |      | 3    |
|                           | 34 | 学校現場のメンタルヘルス                  | 256   | 2    |      | 6    |
|                           | 35 | 授業に活かすプレゼンテーション               | 476   | 1    |      | 6    |
|                           | 36 | お母さんと語る環境問題                   | 90    | 2    |      | 3    |
|                           | 37 | 子ども達と一緒に語る資源とエネルギー            | 104   |      |      | 1    |
|                           | 38 | 電磁気お役立ちメニュー                   | 47    |      |      |      |
|                           | 39 | 風景のサイエンス                      | 49    |      |      | 1    |

## 5 相談事業

### (1) 心理教育相談

相談件数

| 区分           | 件数     | 備考                                     |
|--------------|--------|----------------------------------------|
| 新規 受理件数      | 32 件   | (2014年 53件)                            |
| 昨年度からの引き継ぎ件数 | 80 件   |                                        |
| 合 計          | 112 件  |                                        |
| 面接 延べ回数      | 1310 回 | (内訳) 大学院生 689 回、研究協力員 508 回、講座教員 113 回 |

#### ① 相談内容別

| 相談内容        | 件数    | 比率     |
|-------------|-------|--------|
| 不登校・登校渋り    | 43 件  | 32.1 % |
| 発達に関する相談    | 28 件  | 20.9 % |
| 対人関係        | 14 件  | 10.4 % |
| 情緒不安定       | 7 件   | 5.2 %  |
| 場面緘黙・緘黙傾向   | 2 件   | 1.5 %  |
| 家族関係        | 6 件   | 4.5 %  |
| 引きこもり       | 4 件   | 3.0 %  |
| 自分自身について    | 5 件   | 3.7 %  |
| 対人不安・対人恐怖   | 1 件   | 0.7 %  |
| 将来への不安      | 5 件   | 3.7 %  |
| 非行・怠学・生活の乱れ | 2 件   | 1.5 %  |
| 育児不安        | 4 件   | 3.0 %  |
| 虐待          | 0 件   | 0.0 %  |
| トラウマ        | 0 件   | 0.0 %  |
| 強迫傾向        | 5 件   | 3.7 %  |
| 心身症         | 0 件   | 0.0 %  |
| その他の不安・恐怖   | 0 件   | 0.0 %  |
| パニック        | 2 件   | 1.5 %  |
| うつ          | 1 件   | 0.7 %  |
| 家庭内暴力       | 1 件   | 0.7 %  |
| その他         | 4 件   | 3.0 %  |
| 合 計         | 134 件 |        |

#### ② 相談者年齢別

| 年齢区分        | 人数    | 比率     |
|-------------|-------|--------|
| 乳幼児         | 6 人   | 4.5 %  |
| 小学生         | 18 人  | 13.4 % |
| 中学生         | 11 人  | 8.2 %  |
| 高校生         | 15 人  | 11.2 % |
| 大学生         | 0 人   | 0.0 %  |
| 学生以外未成年     | 2 人   | 1.5 %  |
| 20代(学生以外)   | 7 人   | 5.2 %  |
| 30代(学生以外)   | 22 人  | 16.4 % |
| 40代(学生以外)   | 37 人  | 27.6 % |
| 50代(学生以外)   | 13 人  | 9.7 %  |
| 60代以上(学生以外) | 3 人   | 2.2 %  |
| 合 計         | 134 人 |        |

#### ③ 面接形態別

| 面接形態                         | 件数    | 比率     |
|------------------------------|-------|--------|
| 個人面接 (子どものみ、保護者のみのカウンセリング)   | 21 件  | 15.7 % |
| 並行面接 (子どもと保護者と並行して行うカウンセリング) | 107 件 | 79.8 % |
| 家族面接 (家族が来訪し、家族面接となる場合)      | 4 件   | 3.0 %  |
| その他 (心理検査など)                 | 2 件   | 1.5 %  |
| 合 計                          | 134 件 |        |

### (2) 発達支援相談

相談件数

| 区分           | 件数   |
|--------------|------|
| 新規 受理件数      | 22 件 |
| 昨年度からの引き継ぎ件数 | 52 件 |
| 合 計          | 74 件 |

#### ① 相談内訳別

| 相談内容        | 件数   | 比率     |
|-------------|------|--------|
| 発達障害        | 71 件 | 92.2 % |
| 知的障害        | 3 件  | 3.9 %  |
| 教員コンサルテーション | 3 件  | 3.9 %  |
| 合 計         | 77 件 |        |

#### ② 相談者年齢別

| 年齢区分            | 人数   | 比率     |
|-----------------|------|--------|
| 乳幼児(就学前)        | 21 人 | 28.3 % |
| 児童(小学生)         | 34 人 | 45.9 % |
| 生徒(中学生)         | 9 人  | 12.2 % |
| 生徒(高校生)         | 7 人  | 9.5 %  |
| 乳幼児、児童、生徒を除く未成年 | 1 人  | 1.4 %  |
| 成人              | 2 人  | 2.7 %  |
| 合 計             | 74 人 |        |

#### ③ 面接形態別

| 面接形態        | 件数   | 比率     |
|-------------|------|--------|
| 親単独面接       | 11 件 | 13.9 % |
| 親子並行面接      | 63 件 | 79.7 % |
| 心理検査        | 2 件  | 2.5 %  |
| 教員コンサルテーション | 3 件  | 3.8 %  |
| 合 計         | 79 件 |        |

## ④月別面接回数

| 実施  | 回数     | 比率     |
|-----|--------|--------|
| 4月  | 63 回   | 4.6 %  |
| 5月  | 122 回  | 8.8 %  |
| 6月  | 159 回  | 11.5 % |
| 7月  | 156 回  | 11.3 % |
| 8月  | 38 回   | 2.7 %  |
| 9月  | 115 回  | 8.3 %  |
| 10月 | 134 回  | 9.7 %  |
| 11月 | 151 回  | 10.9 % |
| 12月 | 123 回  | 8.9 %  |
| 1月  | 92 回   | 6.7 %  |
| 2月  | 155 回  | 11.2 % |
| 3月  | 74 回   | 5.4 %  |
| 合 計 | 1382 回 |        |

## 6 大学と県教育委員会との連携推進会議

本会議は愛知県内に所在する4年制大学、関係教育機関、愛知県及び愛知県教育委員会により構成され、2011年度に設置されました。

今年度の会議は、2016年1月27日（水）に愛知県自治センターで開催され、本学から白井理事（連携担当）が出席しました。

会議では、高校生が大学の授業を体験する、「あいちの大学『学び』フォーラム」の実施結果が示されました。このフォーラムには、本学から2012年度以降、毎回講師を派遣しています。

なお、高大連携を実施している高等学校の割合が目標値を上回ったことから、本フォーラムの開催は今年度の実施をもって終了することの説明がありました。

次いで、今後の大学と県教育委員会との連携について協議され、2016年度以降は設定したテーマ毎に分科会を設置（初年度は1つ）していくことになりました。

## 7 社会連携事業

## 科学・ものづくり教育推進に関する拠点づくりの取組事業【運営費交付金（特別経費）】

訪問科学実験

（単位：人）

| 実施日     | 実施会場                   | 参加学生数 | 教員 | 参加者数  |      |
|---------|------------------------|-------|----|-------|------|
|         |                        |       |    | 児童・生徒 | 保護者等 |
| 4月 22日  | 刈谷市立住吉小学校              | 19    | 1  | 90    | 少数   |
| 5月 5日   | 生命の海科学館                | 5     | 1  | 50    | 50   |
| 27日     | 刈谷市立かりがね小学校            | 20    | 1  | 141   | －    |
| 6月 3日   | 刈谷市立富士松北小学校            | 11    | 1  | 71    | －    |
| 17日     | 刈谷市立朝日小学校              | 10    | 1  | 105   | －    |
| 20日     | 東浦町立緒川小学校              | 25    | 1  | 262   | 262  |
| 7月 1日   | 刈谷市立日高小学校              | 11    | 1  | 93    | －    |
| 11日     | 名古屋市立平和が丘小学校           | 12    | 1  | 80    | 40   |
| 18日     | 刈谷駅前商店街スペーススクエア内       | 5     | 1  | 20    | 少数   |
| 8月 12日  | 刈谷市中央児童館（夢と学びの科学体験館）   | 8     | 1  | 多数    | 多数   |
| 15日     | 生命の海科学館サイエンスショー        | 5     | 1  | 多数    | 多数   |
| 22日     | 西尾市立中畑小学校              | 12    | 1  | 65    | 15   |
| 22日     | 大阪教育大学「子と親の楽しいかがく教室」   | 3     | 1  | 多数    | 多数   |
| 26日     | 知立市教育委員会生涯学習スポーツ課生涯学習係 | 13    | 1  | 30    | －    |
| 30日     | 名古屋市立玉川小学校             | 19    | 1  | 80    | 50   |
| 9月 19日  | 稲沢市立大里東中学校             | 5     | 1  | 60    | －    |
| 10月 4日  | 青少年のための科学の祭典（東京学芸大学）   | 7     | 1  | 多数    | 多数   |
| 18日、19日 | 刈谷市創意工夫展               | 7     | 1  | 多数    | 多数   |
| 11月 8日  | とよたものづくりフェスタ           | 7     | 1  | 多数    | 多数   |
| 21日     | 科学・ものづくりフェスタ           | 54    | 20 | 多数    | 多数   |
| 23日     | 名古屋市立城北小学校             | 31    | 1  | 150   | 80   |
| 28日     | 尾張旭市本地原小学校             | 17    | 1  | 100   | 80   |
| 12月 13日 | 知多児童センター               | 12    | 1  | 100   | －    |
| 16日     | 刈谷市立小坂江小学校             | 12    | 1  | 113   | －    |
| 19日     | 北盛いれあいセンター（かきつばた）      | 7     | 1  | 20    | 20   |
| 1月 13日  | 刈谷市立平成小学校              | 12    | 1  | 76    | －    |
| 2月 10日  | 刈谷市立衣浦小学校              | 10    | 1  | 75    | －    |
| 20日     | あいさい土曜学習「ホタルの話と科学実験」   | 10    | 1  | 30    | 少数   |
| 20日     | 東海中学・高等学校サタデープログラム     | 8     | 1  | 多数    | 多数   |
| 3月 9日   | 碧南市立鷺塚小学校              | 9     | 1  | 121   | －    |

## ものづくり教室

(単位：人)

| 実施日     | 実施会場          | 参加学生数 | 教員・支援員 | 参加者数 |
|---------|---------------|-------|--------|------|
| 6月 20日  | 愛知教育大学        | 6     | 1      | 10   |
| 27日     | 富士松北小学校       | 9     | 2      | 18   |
| 7月 4日   | 愛知教育大学        | 6     | 1      | 11   |
| 11日     | 愛知教育大学        | 6     | 1      | 11   |
| 31日     | 豊田地域文化広場      | 10    | 2      | 69   |
| 10月 31日 | 刈谷市北部生涯学習センター | 4     | 1      | 6    |
| 11月 7日  | 刈谷市産業振興センター   | 16    | 3      | 48   |
| 8日      | トヨタスポーツセンター   | 6     | 1      | 102  |
| 21日     | 愛知教育大学        | 26    | 3      | 106  |
| 1月 9日   | 愛西市文化センター     | 17    | 3      | 32   |
| 2月 20日  | 刈谷市スペースAqua   | 4     | 1      | 50   |

## 理科実験プレ教員セミナー

(単位：人)

| 実施日      | イベント名            | 内容  | 講座数 | 教員 | 受講学生数    |
|----------|------------------|-----|-----|----|----------|
| 12月 26日  | 第18回理科実験プレ教員セミナー | 小学校 | 4   | 4  | (学外5) 10 |
| 2月 29日   | 第19回理科実験プレ教員セミナー | 小学校 | 4   | 4  | (学外1) 9  |
| 3月7日～10日 | 第20回理科実験プレ教員セミナー | 中学校 | 8   | 8  | 10       |

## 理科観察実験指導力向上セミナー

(単位：人)

| 実施日    | 内容          | 講座数 | 教員 | 協力学生数 | 受講数     |
|--------|-------------|-----|----|-------|---------|
| 8月 25日 | 物理・化学・生物・地学 | 4   | 4  | —     | 現職教員 15 |

## 8 施設開放

## (1) 附属図書館

## 附属図書館学外者利用状況

各年度 4/1～3/31 累計

| 年 度  | 入館者数 (人) | 貸出人数 (人) | 貸出冊数 (冊) | 開館日数 (日) | うち    | 開館時間 (h) | うち    |
|------|----------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|
|      |          |          |          |          | 時間外 * |          | 時間外 * |
| 2010 | 1,861    | 613      | 1,180    | 289      | 217   | 2,907    | 1,155 |
| 2011 | 2,274    | 664      | 1,273    | 293      | 228   | 2,980    | 1,212 |
| 2012 | 2,101    | 559      | 1,141    | 294      | 228   | 2,995    | 1,211 |
| 2013 | 3,009    | 510      | 1,052    | 286      | 223   | 2,927    | 1,183 |
| 2014 | 2,174    | 545      | 1,102    | 291      | 234   | 2,981    | 1,213 |
| 2015 | 2,777    | 739      | 1,534    | 292      | 238   | 3,016    | 1,264 |

\* 時間外 開館日数は、平日 17:00-22:00 の延長開館した日数、及び土・日・祝日の開館日の合計日数。

\* 時間外 開館時間は、平日 17:00-22:00 の延長時間、及び土・日・祝日 11:00-17:00 の合計時間数。

## (2) 体育施設

## 体育施設開放状況

| 使用場所     | 施設の概要               | 使用料 *1 | 貸出件数 (年度別) |      |      |      |      |      |
|----------|---------------------|--------|------------|------|------|------|------|------|
|          |                     |        | 2010       | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
| 陸上競技場    | 400m 8レーン、100m 9レーン | 2,600  | 32         | 37   | 34   | 30   | 26   | 18   |
| 野球場      | 1 面                 | 1,300  | 0          | 3    | 3    | 1    | 2    | 1    |
| 運動場土面    | サッカー場 1 面           | 600    | 8          | 3    | 6    | 10   | 5    | 5    |
| テニスコート   | 全天候型 2 面            | 1,400  | 0          | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    |
| 第一体育館 *2 | バスケットコート 2 面        | 2,100  | 1          | 0    | 1    | 1    | 0    | 1    |
| 第二体育館    | バレーボールコート 2 面       | 1,300  | 0          | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    |
| 合 計      |                     |        | 41         | 43   | 44   | 42   | 33   | 25   |

\*1 1時間当たりの使用料で、光熱水料及び消費税を含む。2015年度(5月1日)の料金。単位(円)。

\*2 競技場面積2分の1の範囲内で利用するときは、使用料は2分の1。

## 9 ボランティア活動

## (1) 東日本大震災教育復興支援ボランティア

宮城教育大学教育復興支援センターとの連携により、2015年度は次の事業を実施しました。

| 活動日         | 派遣場所           | 派遣人数   | 活動内容                          |
|-------------|----------------|--------|-------------------------------|
| 8/2(日)～7(金) | 宮城県名取市立関上中学校   | 学生 5 人 | ・夏季休業中における自学自習への支援<br>・課外活動支援 |
| 9/1(火)～4(金) | 宮城県南三陸町立志津川中学校 | 学生 3 人 | ・教育環境整備、その他手伝い                |

**(2) 一般ボランティア**

教育委員会・学校・役所・企業等からのボランティア募集による依頼により、希望学生を派遣しました。

| 募集先        | 事業名                       | ボランティア学生数 |
|------------|---------------------------|-----------|
| 学校関係       |                           |           |
| 岡崎市教育委員会   | 学校支援員                     | 1人        |
| 名古屋市       | 土曜学習いきいきサポーター             | 10人       |
| 清須市教育委員会   | 学校支援学生ボランティア              | 3人        |
| 日進市教育委員会   | 学校教育支援学生サポーター             | 9人        |
| 豊明市立中央小学校  | 授業支援ボランティア                | 8人        |
| 富士松中学校     | 学校支援ボランティア                | 5人        |
| 福祉関係       |                           |           |
| トヨタ自動機株式会社 | 第22回福祉ふれあいフェスティバル in シャイン | 4人        |
| 知立市社会福祉協議会 | 知立市健康まつり                  | 2人        |

**(3) 外国人児童・生徒支援ボランティア**

近隣市への学生派遣状況【学部生・大学院生のボランティア登録者数：189人】

**【小中学校での個別支援】****①刈谷市**

| 学校名          | 派遣依頼数 | ボランティア学生数 | 支援児童生徒数 |
|--------------|-------|-----------|---------|
| 朝日小学校        | 13人   | 2人        | 6人      |
| 小垣江小学校       | 2人    | 2人        | 2人      |
| 小垣江東小学校      | 3人    | 3人        | 3人      |
| 小高原小学校       | 3人    | 1人        | 1人      |
| かりがね小学校      | 49人   | 7人        | 7人      |
| 東刈谷小学校       | 6人    | 4人        | 4人      |
| 日高小学校        | 1人    | 1人        | 1人      |
| 富士松北小学校      | 1人    | 1人        | 1人      |
| 富士松東小学校      | 1人    | 1人        | 1人      |
| 富士松南小学校      | 1人    | 1人        | 1人      |
| 平成小学校        | 3人    | 3人        | 3人      |
| 住吉小学校        | 1人    | 1人        | 1人      |
| 朝日中学校        | 1人    | 1人        | 1人      |
| 雁が音中学校       | 4人    | 1人        | 1人      |
| 刈谷東中学校       | 2人    | 2人        | 2人      |
| 小学校12校、中学校3校 | 91人   | 31人       | 35人     |

**②知立市**

| 学校名          | 派遣依頼数 | ボランティア学生数 | 支援児童生徒数 |
|--------------|-------|-----------|---------|
| 猿渡小学校        | 2人    | 2人        | 2人      |
| 知立小学校        | 1人    | 1人        | 1人      |
| 知立南小学校       | 3人    | 3人        | 3人      |
| 来迎寺小学校       | 1人    | 1人        | 1人      |
| 放課後学習支援教室みらい |       | 1人        |         |
| 小学校4校、ほか1か所  | 7人    | 8人        | 7人      |

**③豊田市**

| 学校名               | 派遣依頼数      | ボランティア学生数 | 支援児童生徒数    |
|-------------------|------------|-----------|------------|
| 堤小学校              | 5人         | 5人        | 5人         |
| 若園小学校             | 1人         | 1人        | 1人         |
| 大林小学校             | 2人         | 1人        | 2人         |
| 前林中学校             | 2人         | 2人        | 2人         |
| 末野原中学校            | 1人         | 1人        | 1人         |
| 保見中学校             | 4学級        | 3人        | 4学級        |
| ことばの教室 西保見教室      |            | 1人        |            |
| ことばの教室 野見教室       |            | 3人        |            |
| 小学校3校、中学校3校、ほか2か所 | 11人<br>4学級 | 17人       | 11人<br>4学級 |

**④豊明市**

| 学校名   | 派遣依頼数 | ボランティア学生数 | 支援児童生徒数 |
|-------|-------|-----------|---------|
| 豊明中学校 | 17人   | 3人        | 17人     |
| 中学校1校 | 17人   | 3人        | 17人     |

豊明中学校は放課後教室への学生派遣を行った。

## 【集団支援】

## ①知立市立知立東小学校 マスマス教室

日時：水曜日 14:50～15:30

対象児童：87人（2年生45人、3年生42人）

実施回数：12回（1学期6回、2学期6回）

ボランティア学生：延べ117人

## ②豊明市立双峰小学校 放課後日本語教室

日時：水曜日 15:05～15:50

対象児童：20人（1年生10人、2年生5人、3年生5人）

実施回数：年間13回（1学期2回、2学期7回、3学期4回）

ボランティア学生数：延べ88人

## 【土曜親子日本語教室】

日時：土曜日 14:30～16:00（前期4～8月、後期10～1月）

場所：愛知教育大学第二人文棟

（前期）

実施回数：13回

登録者：前期 延べ286人（大人クラス182人、子どもクラス104人）

（後期）

実施回数：15回

登録者：後期 延べ178人（大人クラス121人、子どもクラス57人）

## 10 教育機関等との連携

## （1）愛知県総合教育センターとの連携・協働の取組

2015年度 教員派遣実績

（単位：人）

|      | 研修・講座名      | コース等            | 派遣延べ人数 |
|------|-------------|-----------------|--------|
| 基本研修 | 小中学校初任者研修   |                 | 1      |
|      | 特別支援学校初任者研修 |                 | 1      |
|      | 新規採用養護教諭研修  |                 | 1      |
|      | 5年経験者研修     | 栄養教諭5年経験者研修     | 1      |
|      | 10年経験者研修    | 小中学校10年経験者研修    | 25     |
|      |             | 高等学校10年経験者研修    | 10     |
|      |             | 特別支援学校10年経験者研修  | 2      |
| 課題研修 | 学校教育相談基礎講座  |                 | 1      |
|      | 小学校外国語活動講座  |                 | 1      |
| 専門研修 | 算数・数学科講座    | A：小学校コース        | 1      |
|      |             | B：中学校コース        | 1      |
|      | 生活科講座       |                 | 1      |
|      | 音楽科講座       |                 | 1      |
|      | 図画工作・美術科講座  |                 | 1      |
|      | 技術科講座       |                 | 2      |
|      | 保健体育科講座     | A：小・中学校コース      | 4      |
|      |             | B：高等学校特別支援学校コース | 2      |
|      | 学校教育相談発展講座  |                 | 1      |
| 合 計  |             |                 | 57     |

## （2）近隣市町村・教育委員会等との連携協力関係

| 区 分    | 締 結 先                          | 協定内容                       | 締結年月     |
|--------|--------------------------------|----------------------------|----------|
| 包括協定   | 1 刈谷市                          | 連携協力に関する包括協定               | 2010年 3月 |
|        | 2 知立市                          | 〃                          | 2010年12月 |
|        | 3 安城市                          | 〃                          | 2011年 1月 |
|        | 4 みよし市                         | 〃                          | 2012年 3月 |
|        | 5 豊明市                          | 〃                          | 2012年 7月 |
| 連携・協定等 | 1 刈谷駅前商店街振興組合、刈谷商工会議所、刈谷市      | 刈谷市中心市街地活性化のための連携・協力に関する協定 | 2009年11月 |
|        | 2 愛知県総合教育センター                  | 連携・協働に関する協定                | 2011年 3月 |
|        | 3 名古屋市教育局                      | 相互連携に関する協定                 | 2014年 7月 |
|        | 4 藤田保健衛生大学                     | 連携に関する協定                   | 2015年 3月 |
|        | 5 東三河地区5市（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市） | 相互連携に関する協定                 | 2016年 2月 |
| 共同研究等  | 1 エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ（株）        | ICT教育における共同研究等の実施に関する協定    | 2014年12月 |

|           |   |          |          |          |
|-----------|---|----------|----------|----------|
| 教育委員会との覚書 | 1 | 刈谷市教育委員会 | 連携に関する覚書 | 2005年 3月 |
|           | 2 | 知立市教育委員会 |          | 2005年 7月 |
|           | 3 | 豊明市教育委員会 |          | 2005年 7月 |
|           | 4 | 豊田市教育委員会 |          | 2006年 1月 |
|           | 5 | 碧南市教育委員会 |          | 2011年11月 |
|           | 6 | 高浜市教育委員会 |          | 2011年12月 |

### （３）愛知教員養成コンソーシアムの活動状況

愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会（会長校：本学）は、愛知県内で教員養成を行っている大学・学部間の連携を図り、愛知県・名古屋市を中心とする東海地域の小中学校教員の需要供給に適切に応えることを目的として、2005年度に愛知学長懇話会の下に設置されました。

2015年度も本学主導で積極的な活動を行い、「愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会」を開催し、教員養成と教育課程の今後の動向、愛知県・名古屋市の教員採用の動向や大学間連携共同教育推進事業の取組について、講演会や情報交換が行われました。出席者数は、参加大学からの出席者及び本学の陪席者等を含め、96人でした。

#### 第9回愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会

日 時： 2016年3月10日（木）14:00 - 16:30

場 所： 愛知教育大学本部棟3階 第一会議室・第五会議室

基調講演： 教員養成と教育課程の今後の動向について

講師：文部科学省初等中等教育局 主任視学官 清原 洋一 氏

協 議 等： 1. 次年度の教員採用について

(1) 愛知県の教員採用について

講師：愛知県教育委員会教職員課 主査 石川 雅春 氏

(2) 名古屋市の教員採用について

講師：名古屋市教育委員会教職員課 管理主事 橋本 新 氏

2. 本連絡協議会の事業について

(1) 「大学間連携共同教育推進事業」の進捗状況について

(2) 教師の魅力向上に関する取組について

(3) その他

愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会 参加大学一覧（2015年度）

| 大 学 名      |            |             |           |
|------------|------------|-------------|-----------|
| 1 名古屋大学    | 11 愛知文教大学  | 21 東海学園大学   | 31 日本福祉大学 |
| 2 愛知教育大学   | 12 愛知みずほ大学 | 22 同朋大学     | 32 人間環境大学 |
| 3 愛知県立大学   | 13 愛知学院大学  | 23 名古屋外国語大学 | 33 名城大学   |
| 4 愛知県立芸術大学 | 14 桜花学園大学  | 24 名古屋学院大学  |           |
| 5 名古屋市立大学  | 15 金城学院大学  | 25 名古屋学芸大学  |           |
| 6 愛知大学     | 16 至学館大学   | 26 名古屋経済大学  |           |
| 7 愛知学泉大学   | 17 椋山女学園大学 | 27 名古屋芸術大学  |           |
| 8 愛知工業大学   | 18 星城大学    | 28 名古屋女子大学  |           |
| 9 愛知産業大学   | 19 中京大学    | 29 名古屋造形大学  |           |
| 10 愛知淑徳大学  | 20 中部大学    | 30 南山大学     |           |

## 第7章 国際交流

## 1 留学生の受入状況

## ① 外国人留学生在籍者

(単位:人)

| 所属別        | 2015/5/1 現在 |   |    |     |    |    |     |    |    | 2015/4/1 ~ 2016/3/31 累計 |   |    |     |    |    |     |    |    |
|------------|-------------|---|----|-----|----|----|-----|----|----|-------------------------|---|----|-----|----|----|-----|----|----|
|            | 国 費         |   |    | 私 費 |    |    | 合 計 |    |    | 国 費                     |   |    | 私 費 |    |    | 合 計 |    |    |
|            | 男           | 女 | 計  | 男   | 女  | 計  | 男   | 女  | 計  | 男                       | 女 | 計  | 男   | 女  | 計  | 男   | 女  | 計  |
| 総計         | 5           | 7 | 12 | 18  | 30 | 48 | 23  | 37 | 60 | 5                       | 7 | 12 | 20  | 42 | 62 | 25  | 49 | 74 |
| 教育学部       |             |   |    | 3   | 9  | 12 | 3   | 9  | 12 |                         |   |    | 4   | 12 | 16 | 4   | 12 | 16 |
| 正規学生       |             |   |    | 2   | 7  | 9  | 2   | 7  | 9  |                         |   |    | 2   | 7  | 9  | 2   | 7  | 9  |
| 非正規学生      | -           | - | -  | 1   | 2  | 3  | 1   | 2  | 3  | -                       | - | -  | 2   | 5  | 7  | 2   | 5  | 7  |
| 研究生        | -           | - | -  | 1   | 1  | 2  | 1   | 1  | 2  | -                       | - | -  | 2   | 3  | 5  | 2   | 3  | 5  |
| 科目等履修生     | -           | - | -  |     | 1  | 1  |     | 1  | 1  | -                       | - | -  |     | 2  | 2  |     | 2  | 2  |
| 大学院教育学研究科  |             | 1 | 1  | 9   | 6  | 15 | 9   | 7  | 16 |                         | 1 | 1  | 9   | 7  | 16 | 9   | 8  | 17 |
| 正規学生       |             | 1 | 1  | 9   | 6  | 15 | 9   | 7  | 16 |                         | 1 | 1  | 9   | 7  | 16 | 9   | 8  | 17 |
| 非正規学生      |             |   |    |     |    |    |     |    |    |                         |   |    |     |    |    |     |    |    |
| 研究生        |             |   |    |     |    |    |     |    |    |                         |   |    |     |    |    |     |    |    |
| 科目等履修生     | -           | - | -  |     |    |    |     |    |    | -                       | - | -  |     |    |    |     |    |    |
| その他        | 5           | 6 | 11 | 6   | 15 | 21 | 11  | 21 | 32 | 5                       | 6 | 11 | 7   | 23 | 30 | 12  | 29 | 41 |
| 特別聴講学生     |             |   |    | 6   | 15 | 21 | 6   | 15 | 21 |                         |   |    | 7   | 23 | 30 | 7   | 23 | 30 |
| 教員研修留学生    | 5           | 6 | 11 | -   | -  | -  | 5   | 6  | 11 | 5                       | 6 | 11 | -   | -  | -  | 5   | 6  | 11 |
| 国籍別 総計     | 5           | 7 | 12 | 18  | 30 | 48 | 23  | 37 | 60 | 5                       | 7 | 12 | 20  | 41 | 61 | 25  | 48 | 73 |
| アジア        | 3           | 6 | 9  | 18  | 29 | 47 | 21  | 35 | 56 | 3                       | 6 | 9  | 19  | 38 | 57 | 22  | 44 | 66 |
| パキスタン      |             | 3 | 3  |     |    |    |     | 3  | 3  |                         | 3 | 3  |     |    |    |     | 3  | 3  |
| ミャンマー      | 1           |   | 1  |     | 1  | 1  | 1   | 1  | 2  | 1                       |   | 1  |     | 2  | 2  | 1   | 2  | 3  |
| タイ         |             |   |    | 1   | 3  | 4  | 1   | 3  | 4  |                         |   |    | 1   | 6  | 7  | 1   | 6  | 7  |
| インドネシア     | 2           |   | 2  | 1   | 2  | 3  | 3   | 2  | 5  | 2                       |   | 2  | 1   | 2  | 3  | 3   | 2  | 5  |
| 韓国         |             | 1 | 1  | 3   |    | 3  | 3   | 1  | 4  |                         | 1 | 1  | 3   | 1  | 4  | 3   | 2  | 5  |
| 中国         |             | 2 | 2  | 11  | 18 | 29 | 11  | 20 | 31 |                         | 2 | 2  | 12  | 21 | 33 | 12  | 23 | 35 |
| カンボジア      |             |   |    | 2   |    | 2  | 2   |    | 2  |                         |   |    | 2   |    | 2  | 2   |    | 2  |
| その他（アジア地域） |             |   |    |     | 5  | 5  |     | 5  | 5  |                         |   |    |     | 6  | 6  |     | 6  | 6  |
| アフリカ       | 1           |   | 1  |     |    |    | 1   |    | 1  | 1                       |   | 1  |     |    |    | 1   |    | 1  |
| ガーナ        | 1           |   | 1  |     |    |    | 1   |    | 1  | 1                       |   | 1  |     |    |    | 1   |    | 1  |
| 北米         |             |   |    | 1   | 1  |    | 1   | 1  |    |                         |   |    | 1   | 1  | 2  | 1   | 1  | 2  |
| アメリカ合衆国    |             |   |    | 1   | 1  |    | 1   | 1  |    |                         |   |    | 1   | 1  | 2  | 1   | 1  | 2  |
| 中南米        | 1           | 1 | 2  |     |    |    | 1   | 1  | 2  | 1                       | 1 | 2  |     | 1  | 1  | 1   | 2  | 3  |
| コスタリカ      |             | 1 | 1  |     |    |    |     | 1  | 1  |                         | 1 | 1  |     |    |    |     | 1  | 1  |
| ブラジル       |             |   |    |     |    |    |     |    |    |                         |   |    | 1   | 1  |    |     | 1  | 1  |
| ボリビア       | 1           |   | 1  |     |    |    | 1   |    | 1  | 1                       |   | 1  |     |    |    | 1   |    | 1  |
| ヨーロッパ      |             |   |    |     |    |    |     |    |    |                         |   |    | 1   | 1  |    | 1   | 1  |    |
| ドイツ        |             |   |    |     |    |    |     |    |    |                         |   |    | 1   | 1  |    | 1   | 1  |    |

\* 中東、オセアニアからの留学生なし。

## ② 留学生支援

## 外国人留学生チューターの配置実績

| 年度   | 専門分野<br>チューター | 日本語<br>チューター | 備 考                                                                                  |
|------|---------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 2011 | 39            | 0            | 専門分野チューターと日本語チューターを兼務させたため、日本語チューター募集なし。<br>日本語能力を確認し、日本語チューターが必要な留学生にのみ日本語チューターを配置。 |
| 2012 | 35            | 11           |                                                                                      |
| 2013 | 32            | 31           |                                                                                      |
| 2014 | 45            | 41           |                                                                                      |
| 2015 | 43            | 41           |                                                                                      |

\* 専門分野チューター：留学生の専攻に関係する学生      日本語チューター：日本語教育講座の学生

## 2 在学生の海外留学

## 海外派遣実績

(単位:人)

| 派遣先大学          | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
|----------------|------|------|------|------|------|
| 韓国 晋州教育大学校     | 2    | 1    | 3    | 2    | 1    |
| 中国 東北師範大学      |      | 1    | 2    |      |      |
| 中国 湖南師範大学      |      |      |      | 1    |      |
| 台湾 台湾師範大学      |      | 1    |      |      | 1    |
| 米国 ボールステイト大学   |      | 2    | 2    | 1    | 1    |
| 英国 ニューマン大学     | 5    | 3    | 1    | 2    | 1    |
| ドイツ フライブルク教育大学 | 1    | 3    |      | 1    | 2    |
| 合計             | 8    | 11   | 8    | 7    | 6    |

### 3 国際学術交流協定締結校

#### (1) 締結状況

2015年度 国際学術交流協定締結校

2016/3/31 現在

| 国際学術交流協定締結校 |                         | 合計 22 校 | 協定内容<br>学術   学生 | 締結年月               |
|-------------|-------------------------|---------|-----------------|--------------------|
| アジア         |                         | 16 校    |                 |                    |
| タイ          | AUE・ラチャパット・コンソーシアム (9校) |         | ○               | 1996年 5月 (2004年改訂) |
| インドネシア      | 国立スラバヤ大学                |         | ○               | 2005年 3月           |
|             | 国立ジョグジャカルタ大学            |         | ○               | 2009年11月 (2014年改訂) |
| 香港          | 香港教育大学                  |         | ○               | 2008年 5月 (2015年改訂) |
| 韓国          | 晋州教育大学校                 |         | ○               | 1997年 5月 (2007年改訂) |
|             | 光州教育大学校                 |         | ○               | 2011年 6月           |
| モンゴル        | モンゴル国立教育大学              |         | ○               | 2015年 3月           |
| ベトナム        | ハノイ教育大学                 |         | ○               | 2003年10月           |
| 中国          | 南京師範大学                  |         | ○               | 1988年11月 (2011年改訂) |
|             | 東北師範大学                  |         | ○               | 2010年 4月           |
|             | 湖南師範大学                  |         | ○               | 2012年 3月           |
| カンボジア       | 国立教育研究所                 |         | ○               | 2014年 7月           |
| 台湾          | 国立彰化師範大学                |         | ○               | 2004年 5月           |
|             | 国立聯合大学                  |         | ○               | 2006年11月           |
|             | 国立台湾師範大学                |         | ○               | 2011年 8月           |
|             | 国立台北教育大学                |         | ○               | 2012年 3月           |
| 北米          |                         | 2 校     |                 |                    |
| アメリカ合衆国     | ボールステイト大学               |         | ○               | 1988年 5月 (2000年改訂) |
|             | ニューヨーク州立大学フレドニア校        |         | ○               | 1988年 6月 (2014年改訂) |
| 中南米         |                         | 1 校     |                 |                    |
| ブラジル        | サンパウロ大学                 |         | ○               | 2013年 1月           |
| ヨーロッパ       |                         | 3 校     |                 |                    |
| 英国          | ニューマン大学                 |         | ○               | 2003年 3月 (2015年改訂) |
| ドイツ         | フライブルク教育大学              |         | ○               | 2006年 3月           |
| ロシア         | モスクワ教育大学                |         | ○               | 1994年 3月 (2003年改訂) |

\* 協定内容 **学術交流**：学術交流に関する協定（学生交流を含む） **学生交流**：学生交流計画に関する協定

\* 中東、アフリカ、オセアニアには国際学術交流協定締結校なし。

#### (2) 単位互換

2015年度単位認定の状況

(単位：人)

| 国際学術交流<br>協定締結校 | 認定者数 | 備 考        |
|-----------------|------|------------|
| 晋州教育大学校         | 12   | 2013年 9月調印 |

#### (3) 研究者等の受入状況

協定校からの招へい教職員受入実績

(単位：人)

| 国名     | 計      | 2011  | 2012   | 2013  | 2014 | 2015 |
|--------|--------|-------|--------|-------|------|------|
| 計      | 31 (4) | 9 (1) | 11 (1) | 9 (2) | 2    | 3    |
| 中国     | 8 (1)  | 3 (1) | 2      | 2     | 1    | 1    |
| 韓国     | 6      | 2     | 2      | 2     |      |      |
| 台湾     | 7 (2)  |       | 5      | 2 (2) |      | 1    |
| インドネシア | 6      | 2     | 1      | 2     | 1    |      |
| タイ     | 3 (1)  | 2     | 1 (1)  |       |      | 1    |
| ブラジル   | 1      |       |        | 1     |      |      |

\*( )は事務職員の受入人数を内数で示す。

## 4 大学間交流行事

### ① 受入行事

2015年度大学間交流受入行事

| 受入年月    | 行事等                               |
|---------|-----------------------------------|
| 2015年5月 | 晋州教育大学校（韓国）との学生交流プログラム            |
| 5月      | ボールステイト大学（アメリカ）との学生交流プログラム        |
| 6月      | 彰化師範大学（台湾）との学生交流プログラム             |
| 7月      | ニューマン大学（イギリス）との学生交流プログラム          |
|         | チェンライ・ラチャバット大学（タイ）の教員訪問団との交流プログラム |
| 10月     | 東アジア教員養成国際シンポジウム主催                |
| 11月     | モンゴル国立教育大学（モンゴル）との学生交流プログラム       |
|         | 湖南師範大学（中国）との学生交流プログラム             |
| 1月      | 晋州教育大学校（韓国）の職員との交流プログラム           |
| 2月      | スラタニー・ラチャバット大学（タイ）の教員訪問団との交流プログラム |
|         | 晋州教育大学校（韓国）の職員との交流プログラム           |

### ② 派遣行事

2015年度大学間交流派遣行事

| 受入年月    | 行事等                                         |
|---------|---------------------------------------------|
| 2015年8月 | グローバル人材育成プロジェクト（オーストラリア）                    |
| 9月      | 晋州教育大学校（韓国）との学生交流プログラム                      |
| 10月     | スラバヤ大学（インドネシア）で日本語インターンプログラム                |
|         | 日韓教育大学学長懇談会へ参加（韓国）                          |
| 12月     | 湖南師範大学（中国）との学生交流プログラム                       |
|         | 光州教育大学校（韓国）との学生交流プログラム                      |
| 1月      | 国立教育研究所（カンボジア）での教育実地研修                      |
| 2月      | スラタニー・ラチャバット大学（タイ）で日本語インターンプログラム            |
|         | チェンライ・ラチャバット大学（タイ）で日本語インターンプログラム            |
|         | ラチャバット・ラチャナカリン大学（タイ）で日本語インターンプログラム          |
|         | ハノイ教育大学（ベトナム）との学生交流プログラム                    |
|         | チェンライ・ラチャバット大学（タイ）との学生交流プログラム               |
|         | スラタニー・ラチャバット大学（タイ）への国際交流センター委員の訪問・リクルート活動   |
|         | ラチャバット・ラチャナカリン大学（タイ）への国際交流センター委員の訪問・リクルート活動 |
| 3月      | モンゴル国立教育大学（モンゴル）との学生交流プログラム                 |
|         | フライブルク大学（ドイツ）三大学連携事業による研修                   |
|         | 国立ジョグジャカルタ大学（インドネシア）への国際交流センター委員の訪問・リクルート活動 |
|         | 国立スラバヤ大学（インドネシア）への国際交流センター委員の訪問・リクルート活動     |

### ③ AUEサマースクール等（日本語集中研修基礎コース）

| 行事名       | 計  | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
|-----------|----|------|------|------|------|------|
| 計         | 22 | 2    | 2    | 0    | 7    | 11   |
| サマースクール   | 20 | —    | 2    | (4)  | 7    | 11   |
| ウインタースクール | 2  | 2    | (2)  | —    | —    | —    |

\* ( )は最低実施定員に満たなかったため未実施。外数。

## 5 外国人教員の採用状況

外国人教員在籍状況

2016/3/31 現在（単位：人）

| 国籍        | 教授 | 准教授   | 講師 | 合計    | 採用日        | 任期   | 分野             |
|-----------|----|-------|----|-------|------------|------|----------------|
| フランス共和国   |    | 1     |    | 1     | 1994. 4. 1 | 任期なし | フランス語・フランス現代社会 |
| 連合王国      | 1  |       |    | 1     | 2000. 4. 1 | 〃    | 英語・言語学         |
| 中華人民共和国   | 1  |       |    | 1     | 2001. 4. 1 | 〃    | 中国語            |
| オーストラリア   |    | 1     |    | 1     | 2002. 4. 1 | 〃    | 英語科教育          |
| ドイツ連邦共和国  |    | 1     |    | 1     | 2004. 4. 1 | 〃    | ドイツ語・ヨーロッパ事情   |
| フィンランド共和国 |    | 1 (1) |    | 1 (1) | 2009. 4. 1 | 〃    | 造形（染織）         |
| カナダ       |    |       | 1  | 1     | 2014. 4. 1 | 〃    | 英語教育           |
| 韓国        |    | 1 (1) |    | 1 (1) | 2015. 4. 1 | 〃    | 教育方法学          |
| 合計        | 2  | 5 (2) | 1  | 8 (2) |            |      |                |

\* ( )は女性的人数で内数。

外国人非常勤講師採用状況

2016/3/31 現在（単位：人）

| 国 籍      | 合 計   | 分 野      |
|----------|-------|----------|
| 中華人民共和国  | 2 (1) | 国際文化, 美術 |
| アメリカ合衆国  | 2     | 英語、国際文化  |
| ブラジル     | 1 (1) | 国際文化     |
| ドイツ連邦共和国 | 1     | 国際文化     |
| フランス共和国  | 1     | 国際文化     |
| 韓国       | 1 (1) | 国語       |
| 合 計      | 8 (3) |          |

\* ( )は女性の人数で内数。

## 第8章 附属施設の概要

### 1 附属図書館

#### ① 施設規模

| 各フロア集計 | 延床面積<br>(㎡) | 閲覧座席数<br>(席) | 収納可能冊数<br>(冊) | 情報コンセント |       |
|--------|-------------|--------------|---------------|---------|-------|
|        |             |              |               | 有線ポート数  | 無線LAN |
| 合計     | 5,861       | 453          | 711,511       | 130     | ○     |
| 1階     | 1,933       | 0            | 499,300       | 0       |       |
| 書庫     | 1,535       |              | 499,300       |         |       |
| その他    | 398         |              |               |         |       |
| 2階     | 1,945       | 129          | 84,600        | 0       | ○     |
| 閲覧室    | 931         | 97           | 64,600        | 0       | ○     |
| 自由閲覧室  | 64          | 32           |               |         |       |
| 書庫     | 134         |              | 20,000        |         |       |
| 事務室    | 286         |              |               |         |       |
| その他    | 530         |              |               |         |       |
| 3階     | 1,928       | 324          | 127,611       | 130     | ○     |
| 閲覧室    | 1,190       | 324          | 127,611       | 130     | ○     |
| その他    | 738         |              |               |         |       |
| 屋上     | 55          | 0            | 0             | 0       |       |
| 塔屋     | 55          |              |               |         |       |

#### ② 開館状況

(年度累計)

|                                                                                                                                                 | 平 日    | うち時間外 | 土 曜  | 日・祝日 | 合 計    | 休館日数 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------|------|------|--------|------|
| 開館日数                                                                                                                                            | 219日   | 165日  | 31日  | 42日  | 292日   | 74日  |
| 開館時間数                                                                                                                                           | 2,547h | 795h  | 217h | 252h | 3,016h | —    |
| 通常開館 平日 月～金 9:00～17:00<br>延長開館 平日 月～金 17:00～22:00 平日 月～金 17:00～19:00<br>休日 土 11:00～18:00 休日 日・祝日 11:00～17:00<br>* 休業期間中又は行事等により、開館日及び開館時間の変更あり。 |        |       |      |      |        |      |

#### ③ 利用状況

(年度累計)

|             | 利用者別   |         |          |        | 合計         |
|-------------|--------|---------|----------|--------|------------|
|             | 教職員    | 学生      | 学内者      | 学外者    |            |
| 入館者数        | —      | —       | 208,252人 | 2,777人 | 211,029人   |
| 平 日         | —      | —       | 196,715人 | 2,059人 | 198,774人   |
| 土日祝         | —      | —       | 11,537人  | 718人   | 12,255人    |
| 貸出冊数        | 5,820冊 | 54,321冊 | 60,141冊  | 1,534冊 | 61,675冊    |
| 平 日         | 5,097冊 | 49,697冊 | 54,794冊  | 1,081冊 | 55,875冊    |
| 土日祝         | 723冊   | 4,624冊  | 5,347冊   | 453冊   | 5,800冊     |
| 参考業務        | 954件   | 1,409件  | 2,363件   | 1,241件 | 3,604件     |
| 相互利用件数      | 897件   | 830件    | 1,727件   | 1,005件 | 2,732件     |
| 相互貸借        | 169件   | 75件     | 244件     | 407件   | 651件       |
| 受付          | —      | —       | —        | 407件   | 407件       |
| 依頼          | 169件   | 75件     | 244件     | —      | 244件       |
| 文献複写        | 728件   | 755件    | 1,483件   | 598件   | 2,081件     |
| 学内受付        | 172件   | 0件      | 172件     | 2件     | 174件       |
| 学外受付        | —      | —       | —        | 596件   | 596件       |
| 依頼          | 556件   | 755件    | 1,311件   | —      | 1,311件     |
| レファレンス件数    | 22件    | 546件    | 568件     | 28件    | 596件       |
| 所在調査        | 6件     | 198件    | 204件     | 10件    | 214件       |
| 事項調査        | 2件     | 18件     | 20件      | 1件     | 21件        |
| 利用指導        | 14件    | 330件    | 344件     | 17件    | 361件       |
| その他         | 0件     | 0件      | 0件       | 0件     | 0件         |
| その他件数       | 35件    | 33件     | 68件      | 208件   | 276件       |
| 謝絶、紹介状受付件数等 | 35件    | 33件     | 68件      | 208件   | 276件       |
| 学術情報リポジトリ   | —      | —       | —        | —      | 1,216,851件 |
| ダウンロード件数    | —      | —       | —        | —      | 1,216,851件 |

\*ダウンロード件数：検索サイト（Google、Yahoo等）による巡回アクセス数は含まない。

## ④ 蔵書状況

2010～2015年度の図書等蔵書数

(各年度累計)

| 項目名            | 2010    | 2011    | 2012    | 2013    | 2014    | 2015    |
|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 図書 蔵書冊数        | 640,575 | 634,710 | 633,127 | 630,409 | 631,917 | 632,057 |
| 和書             | 496,248 | 495,662 | 493,459 | 496,500 | 500,523 | 500,948 |
| 洋書             | 144,327 | 139,048 | 139,668 | 133,909 | 131,394 | 131,109 |
| 雑誌             | 10,486  | 10,480  | 10,494  | 10,528  | 10,544  | 10,565  |
| 和雑誌            | 8,653   | 8,652   | 8,662   | 8,695   | 8,701   | 8,713   |
| 洋雑誌            | 1,833   | 1,828   | 1,832   | 1,833   | 1,843   | 1,852   |
| 電子ジャーナル契約数     | 4,421   | 4,435   | 5,896   | 6,038   | 6,417   | 6,269   |
| うち外国書          | 3,998   | 4,003   | 3,915   | 3,918   | 4,233   | 4,022   |
| 視聴覚資料点数        | 1,257   | 1,369   | 1,496   | 1,685   | 1,711   | 1,825   |
| 学術情報リポジトリ 登録件数 | 2,874   | 3,621   | 4,025   | 4,367   | 4,973   | 5,476   |

## ⑤ 受入状況

2010～2015年度の図書等受入数

(各年度累計)

| 年 度          | 2010  | 2011   | 2012   | 2013  | 2014  | 2015  | 合計     | 平均    |
|--------------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 図書受入冊数 (冊)   | 7,676 | 10,474 | 10,738 | 8,469 | 8,681 | 7,736 | 53,774 | 8,962 |
| 和 書          | 6,858 | 9,211  | 9,943  | 7,548 | 7,874 | 7,115 | 48,549 | 8,091 |
| 洋 書          | 818   | 1,263  | 795    | 921   | 807   | 621   | 5,225  | 871   |
| 雑誌受入種類数 (種類) | 2,377 | 2,087  | 1,722  | 1,401 | 1,924 | 1,596 | 11,107 | 1,851 |
| 和雑誌          | 2,124 | 1,859  | 1,485  | 1,214 | 1,732 | 1,429 | 9,843  | 1,640 |
| 洋雑誌          | 253   | 228    | 237    | 187   | 192   | 167   | 1,264  | 211   |

## ⑥ 2015年度アイ♥スペース使用状況

|    | 使用期間            | タイトル                      | 主 催 者           | 使用目的  |
|----|-----------------|---------------------------|-----------------|-------|
| 1  | 2015. 4.22      | 春のランチタイムコンサート             | 音楽教育講座          | コンサート |
| 2  | 4.17-5.11       | 「能の展示・仕舞発表」               | 能楽部             | 展示・仕舞 |
| 3  | 4.3-4.17        | 選書ツアー                     | 附属図書館           | 展示    |
| 4  | 5.27            | 豆本ワークショップ                 | 附属図書館           | 展示    |
| 5  | 7.24-8.6        | ガラス造形展                    | 美術教育講座          | 展示    |
| 6  | 5.14-7.3        | 種プロジェクト                   | 附属図書館           | 展示    |
| 7  | 5.20-7.3        | 絵本の展示                     | 附属図書館           | 展示    |
| 8  | 6.17            | 和漢籍ミニレクチャー                | 附属図書館           | セミナー  |
| 9  | 6.26            | 学生による学習サポート講座 (第1回ミニセミナー) | 学生支援課           | セミナー  |
| 10 | 7.17            | 混声合唱団学内演奏会                | 混声合唱団           | コンサート |
| 11 | 7.6-9.7         | 第2回比較読みの勧め                | 国語非常勤講師         | 展示    |
| 12 | 7.29            | 学生による学習サポート講座 (第2回ミニセミナー) | 学生支援課           | セミナー  |
| 13 | 10.21           | アクティブラーニングセミナー            | 附属図書館           | セミナー  |
| 14 | 10.14-10.21     | 工芸展                       | 美術教育講座          | 展示    |
| 15 | 9.7-10.9        | 選書ツアー選定本展示                | 附属図書館           | 展示    |
| 16 | 10.13-10.21     | 金工作品展                     | 美術教育講座          | 展示    |
| 17 | 10.29-10.30     | マジックショー                   | 学生支援課           | コンサート |
| 18 | 11.5-11.20      | 風景写生展                     | 美術教育講座          | 展示    |
| 19 | 11.11           | 秋のランチタイムコンサート             | 音楽教育講座          | コンサート |
| 20 | 11.27-12.25     | BOOKナビ拡大版                 | 附属図書館           | 展示    |
| 21 | 12.11-2016.1.14 | みんなのおすすめ本紹介               | 附属図書館           | 展示    |
| 22 | 12.21-12.25     | 「ふくしのはなし」                 | 臨床福祉心理コース<br>3年 | 展示    |
| 23 | 12.10-2016.2.15 | 第3回比較読みの勧め                | 国語非常勤講師         | 展示    |
| 24 | 1.19-1.29       | 写真展                       | 写真サークルRAW       | 展示    |
| 25 | 1.18-1.29       | 私の省工ネ宣言!!                 | 財務企画課           | 展示    |
| 26 | 2.1-2.8         | ガラス造形展                    | 美術教育講座          | 展示    |
| 27 | 2.22-3.28       | I C T 機器展示会in附属図書館        | 附属図書館           | 展示    |

## 2 センター

### 組織図

|                  |                |       |               |                              |
|------------------|----------------|-------|---------------|------------------------------|
| 教職キャリアセンター       |                | センター長 | 担当教員          | 担当教員                         |
|                  | 教科教育学研究部門      | 野田敦敬  | 丹藤博文          | 杉林英彦<br>高井吾朗                 |
|                  | FD部門           |       | 小谷健司<br>江島徹郎  | 砂川誠司<br>水川敬章                 |
|                  | 教育実習研究部門       |       | 竹川慎哉          | 高綱睦美<br>松井孝彦                 |
|                  | 体験学習支援部門       |       | 加納誠司          |                              |
|                  | 教員研修部門         |       | 飯塚康之<br>磯部征尊  |                              |
| 教育臨床総合センター       |                | センター長 | 担当教員          | 担当教員                         |
|                  | こころの支援研究部門     | 祖父江典人 | 廣瀬幸市          | 三谷聖也                         |
|                  | そだちの支援研究部門     |       | 吉岡恒生          | 飯塚一裕                         |
| 国際交流センター         |                | センター長 | 担当教員          | 担当教員                         |
|                  | 留学生支援・協定校交流推進部 | 清水秀己  | 小塚良孝<br>加藤淳太郎 | 岩満賢次<br>北野浩章<br>青山和裕<br>縄田亮太 |
|                  | 国際協力部門         |       |               |                              |
| 地域連携センター         |                | センター長 | 担当教員          | 担当教員                         |
|                  | 地域連携部門         | 白井正康  |               | 渡邊幹男<br>山下純平                 |
|                  | 外国人児童生徒支援部門    |       |               | 上田崇仁                         |
| 科学・ものづくり教育推進センター |                | センター長 | 担当教員          | 担当教員                         |
|                  | 理系機器共同利用部門     | 岩山勉   |               |                              |
|                  | 科学・ものづくり教育推進部門 |       |               | 児玉康一<br>加藤淳太郎                |

### (1) 教職キャリアセンター

教職キャリアセンターは、本学におけるこれまでの研究と実践の実績をもとに、教員養成における「実践力の育成」「高度化の推進」「再教育の支援」を柱とし、学生の実践力向上機能、研究機能、現職教員の再教育機能の養成を目的として、2015 年4月に旧大学教育研究センター及び旧教員養成高度化センターから組織改編した。当センターは、以下の5つの部門で活動し、年3回程度のセンター担当教員によるセンター会議を開催している。また、各部門での取り組みの成果をセンター紀要として発行し、創刊号は16の論文を掲載予定である。

#### ① FD部門

大学および大学院の設置基準の趣旨を踏まえつつ、本学としての組織的なFDの体制づくりの支援と実施に取り組むとともに学生の学習支援を行っている。

#### 1. 全学FD集会等

次の2回の全学FD集会と1回の大学院FD集会を実施しました。

| 実施日  | 題名                                                                  | 実施組織                 | 参加教員数 |
|------|---------------------------------------------------------------------|----------------------|-------|
| 9/24 | 教職実践演習FD                                                            | 時間割編成専門委員会           | 42    |
| 1/27 | 全学FD講演会<br>「学生の主体的・協調的な学びを引き出す反転授業～山梨大学における実践例～」<br>講演者：塙 雅典 山梨大学教授 | 教職キャリアセンター<br>FD部門   | 59    |
| 2/29 | 大学院教育学研究科FD「教育学研究科における修了生支援」                                        | 大学院教育学研究科<br>運営専門委員会 | 40    |
| 参加者計 |                                                                     |                      | 141   |

参加教員数には、学長・理事・非常勤講師を含む。

## (1) 教職実践演習FD

2015年9月24日(木)15時より第一共通棟303教室において、全学の教職実践FDが開催されました。パネルディスカッションにより、eポートフォリオおよび「教育実習記録」を教職実践演習において如何に活用するのかが検討されました。野田敦敬副学長、片山悠樹教員、平野俊英教員、伊深祥子教員、水川敬章教員がパネリストとして登壇し、各教員がそれぞれの教育実践演習の内容や立場に鑑みながら、eポートフォリオおよび「教育実習記録」を活用するための方法について議論が行われた。

## (2) 全学FD講演会

2016年1月27日(水)13時30分より第一共通棟201教室において、埴雅典先生(山梨大学大学教育センター長)を招き、全学FD講演会「学生の主体的・協調的な学びを引き出す反転授業～山梨大学における実践例～」を開催した。反転授業とは、教室における学習と自宅学習の役割を入れ替えた授業のことである。つまり、学生は自宅でビデオ授業を視聴し、教室では他の学生と協働して課題に取り組む。講演会は、小谷健司教員(FD部門)の司会で、後藤ひとみ学長による開会挨拶、江島徹郎教員(FD部門)による講師紹介と趣旨説明があった。埴先生のご講演は、山梨大学におけるご自身の実践を含む、興味深く参考になる内容であった。60分の講演、30分の質疑応答の後、野田敦敬センター長による閉会の辞があった。参加者は本学教員59名(学長・理事含む)、事務職員9名、学生2名の合計70名でした。たくさんの教職員が参加し、充実した講演会となった。

## (3) 既設大学院FD

2016年2月29日(月)に、教育学研究科の修士生支援の取り組みについてのFDを開催した。佐々木徹郎自然科学系学系長の趣旨説明の後、先行して4年前から、修士生フォローアップ研修会を年1回開催している教職実践研究科の中山弘之教員から事例紹介があった。また、保健体育専攻の取り組みを三原幹生教員より、各専攻での取り組みの総括と自専攻での取り組みや今後の課題についての報告があった。その後、質疑応答、意見交換を行い、最後に、野田敦敬副学長がまとめを行い閉会した。

## 2. 新採用教員FD

2015年5月13日(水)に3時間のFD研修会を実施した。前半は小谷教員(教職キャリアセンターFD部門)の司会で、本学卒業生・修士生でもある3名の先生に「本学OBとして本学教員に望むこと」のテーマで話をしてもらった。後半は江島教員(同)の司会で、「教育大学教員として、どのように教育・研究を行ったらよいか」をテーマとしてKJ法によるグループワークを行った。

5月14日(木)午前は、附属特別支援学校と附属岡崎小学校を訪問した。5月15日(金)午前は2グループに分かれて、刈谷市立朝日小学校と雁が音中学校を訪問した。各学校では、校長先生からの講話を聞いた後、授業を参観、その後、教員との意見交換会を行った。

## 3. 授業公開

次の18個の学部授業と7個の教職大学院授業が公開された。教育学部の授業には延べ92名、教職大学院の授業には延べ22名の教員が参観した。

## 4. 授業アンケート

2014年度の共通科目に続き、2015年度は教職科目・教科研究科目についてアンケートを実施した。前期分・後期分のアンケートの集計結果と教員による自己評価書をFD部門のホームページに公開した。

## 5. 同一名称科目間の成績分布の公表

同一名称科目間の成績分布の統計データをFD部門のホームページに掲載した。さらに、このデータを基に、各科目グループでFDを行ってもらうよう依頼した。

## 6. 大学での学びのためのTIPS集

「学生のホームページ利用実態調査」を学務ネット上で実施し、その回答に基づき、大学での学びのために学生たちが情報収集に困難を抱えている点をまとめた。また、それをもとに、有用なホームページ等のリンクを中心とした「大学での学びのためのTIPS集」を作成した。調査結果、およびTIPS集を、FD部門のホームページに公開した。

## 7. 学生FD組織「あいこね」

今年度は、教員2名と学生6名が「学生FDサミット2015夏 学生FDしていますか?—本当に大学が“よく”なっている! ?—」(2015年9月2日(水)、3日(木)、追手門学院大学)に参加した。

## ② 教科教育学研究部門

教科教育学研究部門では、各教科の教科教育担当教員や大学院生などの参加をえて、毎月一回の研究会と年一回のシンポジウムあるいは講演会を開催している。また、部門誌である「SCOPEⅢ」を発行し、県内のすべての小・中学校に配付し、教育実践に有用な情報を提供している。すべての学年・すべての教科で発行されている教科書も整備しており閲覧することが可能である。

## 1. 講演会

日 時：2015年9月30日(水) 10:30～12:00

会 場：教育未来館3階 多目的ホール

テーマ：わたしたちはどのように「判断」しているのか ～論理的思考から批判的思考へ～

講 師：山梨大学教育人間科学部 教授 岩永正史 氏

## 2. 部門誌「SCOPEⅢ」第6号を発行

テーマ「アクティブ・ラーニングと教科教育」、県内の全小中学校等に配付

## 3. 大学・附属学校共同研究会

16分科会・5プロジェクトで大学教員と附属学校教員が共同研究を実施

夏期一斉研究会 2015年8月5日(水) 12分科会・2プロジェクト

## 4. 環境整備

小学校用教科書(2015年度使用) 48種253点を購入し、教育未来館3階に配架した

## 5. 月例会

○ 5月例会 2015年5月27日(水) 教科教育学研究部門の役割分担

○ 6月例会 2015年6月24日(水) 大学附属学校共同研究代表会を兼ねる

○ 7月例会 2015年7月22日(水) 情報交換会

○ 10月例会

日 時: 2015年10月28日(水)16:40- 報告者: 加納誠司 准教授(生活科教育講座)

話題提供: 「生活科・総合的学習の充実がアクティブ・ラーニングの実現を促進する

ー実践分析から見えてきた成果と課題ー」

○ 11月例会

日 時: 2015年11月18日(水) 16:40- 報告者: 遠藤優介 助教(理科教育講座)

話題提供: 「育成すべき資質・能力をベースとした教育課程編成の基底と教科における具現化ードイツの科学教育を事例としてー」

○ 1月例会

日 時: 2016年1月27日(水) 16:40- 報告者: 本多満正 教授(技術教育講座)

話題提供: 「社会的ものづくりを捉える技術科の授業」

○ 2月例会 2016年2月26日(金) 情報交換会

## 6. 国立大学教育実践研究関連センター協議会総会

第87回 2015年9月24日 横浜国立大学/第88回 2016年2月16日 東京学芸大学

## ③ 教育実習研究部門

教育実習部門では、教育実習の意義とその実施形態等を教員養成の理念に基づきながら研究し、他の研究部門とも連携しつつ、効果的で質の高い教育実習のあり方について研究している。

運営は、おおよそ二月に一度ペースで部門会議を開催し、部門所属の教員による報告とディスカッションによって進めてきた。今年度は、教育実習手引き(総論編)の検討、および教育実習の評価方法に研究課題を設定し、検討を進めてきた。

## 1. 部門会議

○ 2015年7月16日 役割決め

○ 2015年9月 8日 教育実習手引き(一般編)の検討を行い、改訂作業に向けて修正点を明らかにした。

○ 2015年12月16日 教大協 教育実習部門会議への参加報告。他大学の取り組みについて意見交流を行い、教育実習研究についての方向性について議論した。

○ 2016年2月1日 教育実習の評価方法としてのパフォーマンス評価について、所属教員のレポートをもとにディスカッションを行った。また、28年度の研究課題について検討した。

## 2. その他

平成27年度全国教育実習研究部門 第29回総会(埼玉大学)に参加し、他大学との教育実習に対する取り組みなどを伺うとともに、情報交換を行った。教育実地研究専門委員会に部門代表1名が毎回参加した。

## ④ 体験学習支援部門

2016年度から試行実施となる「学校サポート活動Ⅰ」について、実施要項の作成、評価方法及び活動記録や活動報告書等の様式の検討を行った。また、学校等、サポート活動を行うための受け入れ先の整備に努めた。

○ 2015年8月3日(月) 教務企画委員会ワーキング

「学校サポート活動Ⅰ」実施要項(案)、評価方法及び活動記録や活動報告書等の様式について検討した。

○ 2015年10月7日(水) 教務企画委員会

「学校サポート活動Ⅰ」実施要項(案)、評価方法及び活動記録や活動報告書等の様式について検討した。

○ 2015年11月6日(金) 教務企画委員会

「学校サポート活動Ⅰ」実施要項(案)、評価方法及び活動記録や活動報告書等の様式について、前回教務企画委員会及び11月4日開催の役員部局長会議の意見を踏まえ再度検討した結果、原案どおり承認され、11月11日開催の教育研究評議会へ提案することとした。

○ 2015年11月11日(水) 教育研究評議会

学校サポート活動Ⅰ実施要項(案)について、教務企画委員会委員長から、次年度からの実施にあたり、実施の趣旨、対象学年、サポート活動先、実施期間、活動時間数・回数、活動内容、同等事業参加の置き換え、参加手続き方法、活動記録・評価方法、及び履修上の位

置付け・単位数等について説明があり、確認及び一部修正のうえ、了承された。

○ 2月4日（木） 「学校サポート活動Ⅰ」説明会

教員養成課程1年生を対象に説明会を実施し、「学校サポート活動Ⅰ」の概要と受け入れ先の状況について説明した。2月末までに活動先希望状況を把握し、その後受け入れ先と調整を行った。

## ⑤ 教員研修部門

教員研修部門では、本年度は愛知県総合教育センターと本学とで連携している教員研修に新たに愛知県の政令指定都市である名古屋市教育センターを加え、この3者において「学び続ける教員像」を確立するための現職教員の研修実施と再教育拠点づくりを目的として活動した。

### 1. 会議(研究・研修)の実施について

#### (1) 第1回愛知県総合教育センター・愛知教育大学教員研修連携協議会

日 時：2015年5月27日(水) 10:00～12:00

会 場：愛知県総合教育センター 第1会議室

議 題：・連携協議会設置要綱について

- ・研修プログラム開発の取組みについて
- ・愛知教育大学における研修講師及び会場借用予定について
- ・その他

#### (2) 2015年度現職教員研修担当者会議

日 時：2015年6月24日(水) 13:30～15:00

会 場：愛知教育大学 教育未来館3階多目的ホール

議 題：・全体会・本年度の趣旨説明(大学と教育センターとの連携等について)

- ・研修アンケートやビデオ撮影について
- ・質疑応答
- ・研修・講座打ち合わせ(各担当)

#### (3) 2015年度教員研修の実施

日 時：主に2015年7月～9月

会 場：愛知県総合教育センター・愛知教育大学等

講 師：愛知県総合教育センター指導主事・愛知教育大学教員等

#### (4) 教員研修における先進地域の研修視察の実施Ⅰ

日 時：2015年9月13日(日)～14日(月)

(愛知県総合教育センター・名古屋市教育センター・愛知教育大学の3者で合同視察団を編成し、実施した。)

場 所：・国立大学法人大阪大学中ノ島センターサテライトキャンパス

・国立大学法人兵庫教育大学

#### (5) 教員研修における先進地域の研修視察の実施Ⅱ

日 時：2015年9月28日(月)

(愛知県教育委員会・愛知県総合教育センター・愛知教育大学の3者で合同視察団を編成し、実施した。)

場 所：横浜市教育委員会教職員人事部教職員育成課

#### (6) 第2回愛知県総合教育センター・名古屋市教育センター・愛知教育大学教員研修連携協議会

日 時：2015年10月16日(金) 14:00～16:00

会 場：愛知教育大学 本部棟 第5会議室

\*名古屋市教育センター委員紹介

議 題：・10年教員経験者研修(教科指導研修)の評価等のまとめについて

- ・教員研修における先進地域の研修視察報告について
- ・研修ビデオ(デジタルコンテンツ)の作成について
- ・年度の方向性について
- ・その他

#### (7) 2015年度10年経験者教員研修の中間報告会(教科指導研修編)

日 時：2016年2月3日(水) 13:00～14:30

会 場：愛知教育大学 教育未来館3階多目的ホール

議 題：・研修アンケート分析と考察の中間報告について

- ・参考として研修プランの紹介について
- ・参考として研修ビデオ(デジタルコンテンツ)の紹介について
- ・質疑応答

## (8) 第3回愛知県総合教育センター・名古屋市教育センター・愛知教育大学教員研修連携協議会

日 時：2016年3月4日(金) 10:00～12:00

会 場：愛知教育大学 本部棟 第5会議室

議 題：・本年度の研修の総括について  
・次年度の協議会と研修計画等について  
・その他

## (9) その他WG会議・研究等

○ 2015年5月21日(木) 17:30～19:30 愛知教育大学にて

内 容：・ 連携協議会の運営について  
・ 連携協議会の議題調整等について

○ 2015年6月10日(水) 16:00～17:30 愛知県総合教育センターにて

内 容：・ 2015年度教員研修担当者会議の事前打ち合わせについて  
・ 2015年度研修実施等について

○ 2015年12月1日(火) 10:00～12:00 愛知県総合教育センターにて

内 容：・ 研修アンケート中間報告(案)について  
・ 連携協議会の運営について  
・ 連携協議会の議題調整等について

○ 2016年2月23日(火) 18:00～20:00 愛知教育大学にて

内 容：・ 連携協議会の運営について  
・ 連携協議会の議題調整等について  
・ 研修アンケートの分析とそれに基づく研修プラン参考例について  
・ 研修ビデオ(デジタルコンテンツ)の研究について  
・ 次年度の具体的な取り組みについて

## (2) 教育臨床総合センター

教育臨床及び発達臨床に関わる理論的、実践的及び学際的研究を行うとともに、学校教育の諸問題に適切に対処することのできる教員及び援助専門職者の養成に寄与することを目的としています。

## ① 部門共通の活動

1. 『教育臨床総合センター紀要第5号』の発行 (こころの支援研究部門 6本・そだちの支援研究部門 3本)

2. 発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業に関する3プロジェクト

## (1) 報告書

- ・「発達障害のライフデザイン支援 成果報告書」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業) 三谷聖也責任編集
- ・「発達障害を抱える児童も含めたすべての児童にとって、入学から卒業まで一貫して生活しやすい通常学級における支援方法の開発」  
(発達障害早期支援研究事業) 五十嵐哲也責任編集
- ・「児童、生徒、保護者、教員、地域住民も含めたすべてのひとにとっての発達障害の理解のために」(発達障害理解推進拠点事業) 祖父江典人責任編集

## (2) リーフレット

- ・「発達障害のライフデザイン支援 基本篇」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業) 三谷聖也責任編集
- ・「発達障害のライフデザイン支援 事例篇」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業) "
- ・「発達障害のライフデザイン支援 連携支援篇」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業) "
- ・「発達障害教職員のための -教えて、はじめ先生-」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業) "
- ・「不登校と発達障害の理解と支援 -ライフデザイン支援シートの活用」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業) "
- ・「発達障害の入り口支援——学校における実践の一助として」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業) "
- ・「『感覚』ってなんだろう？」(H27発達障害早期支援研究事業) 五十嵐哲也責任編集
- ・「特別支援教育関連の最近の動向」(H27発達障害理解推進拠点事業) 三谷聖也責任編集

## 3. 公開講演会事業

本年度は、発達障害理解推進拠点事業との共同のもと、下記講演会を行った。本講演会の成果は、リーフレットとしてH28年度中に発刊され、HPにもアップされる予定である。

・日 時 平成27年12月19日(土) 15:00～18:00

・場 所 愛知教育大学 教育未来館3階 多目的ホール

・内 容 「発達障害を巡る現代社会シンポジウム」

挨拶 後藤ひとみ(愛知教育大学学長)

シンポジスト

榎本 和 (特定医療法人共和会共和病院)：児童精神科医の立場から

- 下村美川（愛知教育大学学校教育講座 教授）：病院臨床心理士の立場から  
 小崎 真（豊明市教育委員会指導主事）：現場教員の立場から  
 指定討論者  
 飯塚一裕（愛知教育大学障害児教育講座 講師）  
 弓川信明（豊明市立豊明中学校 特別支援教育コーディネータ）

#### 4. SOBA活動

##### （1）SOBA（Symposium of Bullying in Aichi）の概要

学生を主体としたボランティア団体であり、「いじめ」や不登校などにより弱い立場に置かれた子どもに寄り添う活動をめざしている。

##### （2）活動内容

###### ○ 例会（毎週火曜日）

子どもや若者同士で互いの問題を解決する「ピア・サポート」的活動について学習している。具体的テーマとして、発達障害のある子どもの支援、ソーシャルスキルやエンカウンターにかかわるコミュニケーションワークの実践など。

###### ○ しえんサロン（7月）

学生、教員、地域の学校・NPO 関係者などが集った学習会を開催している。今年度は「個性の強い子どもを地域で支える会」代表の出口咲織氏を招き、発達障害のある子どもについて子育ての苦労、学校との関係や、NPOにおける親同士の支え合いについてお話をうかがい、子どもの支援や保護者とのかかわりについて学んだ。

###### ○ キッズクラブでのプログラム実施（1月）

刈谷市の NPO 法人「子育て・子育て NPO スコップ」によって行われている子育て支援事業、「キッズクラブ」（子どもを対象とした市内での活動）において、工作とレクリエーションのプログラムを用意し、学生主体で実施した。

###### ○ 『SOBA活動報告書』第13号 2016年3月

#### 5. 教育臨床カフェの活動

##### （1）教育臨床カフェの概要

大学院教育学研究科学校教育臨床専攻の大学院生とSOBAのメンバーによる共同運営。学生主体によるアクティブラーニングによる学びや知識の交流の拠点づくりをめざし企画活動を実施。心理教育や支援者支援という包括的な活動のテーマを掲げ、教育支援人材が学校教育にどのように貢献できるかを探求することを目的としている。

##### （2）活動内容

###### ○ 教育臨床カフェ第1回 「スマホと教育——子どもにスマホの使い方をどう教えますか？」

日時：2014年5月22日

場所：教育未来館2階多目的指導室

参加者：13名

\*本活動の様子は KATCH（ケーブルテレビ局）にて放送（2015年5月28日17：30～）

###### ○ 教育臨床カフェ第2回 「教室で使える発達障害入門」

日時：2015年11月11日

講師：飯塚一裕講師（障害児教育講座）

場所：教育未来館多目的ホール

参加者：43名

\*本活動は文部科学省平成27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業の一環で開催

#### ② こころの支援研究部門

##### 1. センター協力員対象事例検討会

本事業は教育臨床総合センター・センター協力員を対象とした卒業教育事業である。学校教育臨床専攻の修了生の約9割は、本専攻修了後、臨床心理士資格試験を受験し、資格を取得してスクールカウンセラーや児童心理司、医療、福祉、司法関係などの多岐にわたる心理臨床領域で就業をしている。現行の規定では臨床心理士資格は5年更新制であり、資格取得後も定期的な継続を必須とするものである。本事業はこうした実情を鑑み卒業教育活動を充実すべく、主に学校教育臨床専攻の修了生（教育臨床総合センター・センター協力員登録をした者も含む）を対象に、学内外の講師をコメンテータとして招き年間10回実施される事例検討会である。

本検討会の世話人は同センター協力員、関根樹氏、高橋元氏が担当し、顧問は教育臨床研究部門担当教員 廣瀬幸市准教授が担当をした。本事業は、臨床心理士の資質向上ならびに東海地方の教育医療機関をはじめとするさまざまな組織におけるメンタルヘルス向上に寄与する間接支援としても意義あるものと思われる。

- |              |        |       |                     |
|--------------|--------|-------|---------------------|
| 第1回：27.4.24  | コメンテータ | 廣瀬幸市  | （本学教育臨床学講座准教授）      |
| 第2回：27.5.22  | コメンテータ | 三谷聖也  | （本学教育臨床学講座准教授）      |
| 第3回：27.6.26  | コメンテータ | 前田 章  | （愛知学院大学学生相談室・臨床心理士） |
| 第4回：27.7.24  | コメンテータ | 高橋蔵人  | （西山クリニック・臨床心理士）     |
| 第5回：27.9.11  | コメンテータ | 山内恵理子 | （京ヶ峰岡田病院・臨床心理士）     |
| 第6回：27.10.23 | コメンテータ | 石黒直生  | （刈谷病院・臨床心理士）        |

- 第7回：27.11.27 コメンテータ 高橋蔵人 (西山クリニック・臨床心理士)  
 第8回：28.1.22 コメンテータ 三谷聖也 (本学教育臨床学講座准教授)  
 第9回：28.2.19 コメンテータ 山内恵理子 (京ヶ峰岡田病院・臨床心理士)  
 第10回：28.3.18 コメンテータ 廣瀬幸市 (本学教育臨床学講座准教授)

## 2. 心理教育相談室スタッフ対象事例検討会

本事業は、教育臨床総合センター教育臨床研究部門の下位組織である心理教育相談室の相談室スタッフ対象の研修事業である。本事例検討会は心理教育相談室長原田宗忠講師を中心に心理教育相談室に関わる全相談室スタッフによって組織されており、本事例検討会への一定回数以上の参加が当相談室スタッフの登録の必要要件となっている。ここでは心理教育相談室の事例検討を通して心理教育相談活動の質的向上を目指すとともに、同相談室の枠組みやルールについてスタッフ間で共有を図っている。

- 第1回：27.4.18 コメンテータ 原田宗忠 (本学教育臨床学講座講師)  
 第2回：27.6.20 コメンテータ 祖父江典人 (本学教育臨床学講座教授)  
 第3回：27.7.25 コメンテータ 三谷聖也 (本学教育臨床学講座准教授)  
 第4回：27.10.10 コメンテータ 廣瀬幸市 (本学教育臨床学講座准教授)  
 第5回：27.12.5 コメンテータ 原田宗忠 (本学教育臨床学講座講師)

## 3. リカレント教育に関する事業（内地留学生関連事業）

愛知県教育委員会との連携事業として内地留学生3名（愛知県総合教育センターの長期研修制度を利用）を受け入れており、当センターにて教育相談等に関する研修ならびに研究指導を行っている。本学への内地留学の期間は約1年間で、水・木・金は本学で研修・研究を行い、月・火は愛知県総合教育センターにて相談活動を中心に行っている。本事業はこころの支援研究部門担当教員の廣瀬幸市准教授、同担当教員祖父江典人教授、松原正明客員准教授を中心に、教育臨床学講座の三谷聖也准教授、原田宗忠講師の協力を得て行われた。各内地留学生の氏名および研究テーマは以下の通りであった。本事業は愛知県における教員のリカレント教育ならびに教育相談の機能向上として意義があったと思われる。

- ・重久 奈美 「若手教員の悩みに関する考察」
- ・吉野 直子 「若手教員の悩みに関する考察」
- ・加藤 珠枝 「若手教員の悩みに関する考察」

加えて、愛知県総合教育センターとの共同研究「教育相談における校内支援体制に関する質的研究」の顧問アドバイザーを担当教員 廣瀬幸市准教授が担当した。

## 4. 心理教育相談室における相談活動

心理教育相談室の相談活動の詳細は、「06章 地域連携・社会貢献」を参照のこと。

## 5. アイリスパートナー派遣事業

平成19年度より学校教育臨床専攻臨床心理学コースの大学院生を不登校児童・生徒支援ならびに学級適応支援として各附属学校に派遣している。加えて平成22年度より豊明市教育委員会との共同事業として、豊明市内の小学校への派遣も実施している。

（附属学校への派遣）

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 附属岡崎小学校（大学院生5名）  | ＜担当教員＞ 祖父江典人教授 |
| 附属岡崎中学校（大学院生2名）  | ＜担当教員＞ 原田宗忠講師  |
| 附属名古屋小学校（大学院生3名） | ＜担当教員＞ 祖父江典人教授 |

（豊明市教育委員会との共同事業）

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 豊明中央小学校（大学院生3名） | ＜担当教員＞ 廣瀬幸市准教授 |
| 豊明小学校（大学院生2名）   | ＜担当教員＞ 三谷聖也准教授 |

本事業の成果や意義の学内外への発信は、日本心理臨床学会第34回秋季大会にて（日時：平成27年9月18日～20日／会場：神戸国際会議場）において本実習にかかる大学院生によるポスター発表がなされた。

題目：『小学校における学級通信の在り方——学校臨床実習の活動から——』

発表者：新井あゆか・玉衛 薫・白石 梓・牧島 京・祖父江典人・原田宗忠

## 6. いじめ防止のための附属校への支援プロジェクト

平成24年度後期よりいじめの未然防止のために継続的アセスメント事業を附属学校と共同で実施している。昨年度も教育臨床学講座の原田宗忠講師の協力を得て、附属学校において3度のアンケート調査を実施し、クラス別にフィードバックを行った。また、附属学校内の心の健康推進連絡会において、調査全体の結果の報告と、事例検討を行った。

## ③ そだちの支援研究部門

### 1. 発達支援相談室における相談活動

平成25年度より年度登録制になり、初回面接は無料であるが、継続相談を希望する利用者は、年度登録料（3000円）を振り込んだ上で年度登録することにより、平成27年度は年度登録制3年目である。平成25年度は、障害児教育棟（現特別支援教育棟）の耐震工事のため夏季2ヵ月余りの休室を余儀なくされ、相談件数は56件（セッション総数792件）にとどまったが、平成26年度は相談件数68件（セッション総数1239件）、平成27年度は相談件数74件（セッション総数1382件）と順調な伸びを見せている。詳細については、後述の「平成27年度 発達支援相談室活動報告」を参考にされたい。また、グループプレイセラピー、アセスメント事業については、項を改めて下記に記す。

## 2. グループプレイセラピー

発達支援相談室では平成21年12月より、対人関係・集団場面での問題を抱える子どもを対象としたグループプレイセラピーを開始した。平成27年度は平成27年5月～平成28年2月の期間に計12回実施している。27年度グループプレイセラピーの参加対象児は10名で、全員が発達障害の診断を受けているか、もしくは発達障害の傾向を指摘されている。対象児の年齢について、小学校2年生～6年生であり、彼らは通常の学級あるいは特別支援学級に在籍している。

相談室にセラピスト登録している特別支援学校教員養成課程や特別専攻科の学生が、スタッフとして対象児の担当や全体のプログラム進行などの役割を担っている。なお対象児の保護者に対して、別室において教員によるグループカウンセリング等を実施している。

## 3. アセスメント事業

相談室に来談しているクライアント（多くはその保護者）や他機関からの依頼に基づき、発達検査や知能検査を実施した上で、クライアントのアセスメントを行っている。相談室に来談するクライアントの多くが発達障害を有すると思われる子どもであるため、主にWISC-IV知能検査を実施している。なお検査実施の理由のほとんどが、「小学校や中学校における学業面の困難さ」である。検査実施後は検査結果と所見を保護者に説明し、子どもの状態像の説明や関わり方のアドバイスなどを行う。また必要に応じて、他機関の紹介や、学校教員へのコンサルテーション、相談室における発達支援を実施している。

## 4. 発達障害児への学校支援ボランティア派遣

平成18年度（当時障害児治療教育センターの事業）より引き続いて、発達障害児のための学校支援ボランティア派遣事業を行っている。平成27年度は、近隣の小学校1校に8名の学生を派遣した。この事業に関連し、ボランティア実践をふりかえり、今後の支援に役立てるため、教員（吉岡恒生教授）の指導のもとでグループワークが計8回開催された。

## 5. 研修活動

発達支援相談室の活動に携わる教員・セラピスト・学生セラピストが参加するケースカンファレンスを、金曜日午後5時40分～8時に行っている。平成27年度は計14回実施された。

## 6. 社会貢献・地域連携活動

以下では、部門の担当教員（飯塚一裕講師・吉岡恒生教授）が実施した、学会発表や講演会、地域連携事業などについて主なものを記す。

## 飯塚講師

- ・6月7日（日）、9月6日（日）、12月6日（日）、3月6日（日） NHK子どもの発達相談会（NHK名古屋放送局） 講師
- ・6月13日（土）、9月19日（土） 平成27年度豊田市就学相談会（パルクとよた） 相談員
- ・6月24日（水）、2月9日（火） 愛知県立佐織特別支援学校 学校関係者評価委員会 評議員
- ・8月17日（月）～22日（土） 平成27年度佐賀県心理リハビリテーション研修会（佐賀県波戸岬少年自然の家） 研修会講師
- ・8月28日（金） 平成27年度海部地方現職教育研究 特別支援教育部会研修会（佐織特別支援学校） 講師
- ・9月2日（水）、10月21日（水）、11月18日（木） 碧南市就学支援委員会（碧南市役所） 委員
- ・11月4日（金） 特別支援教育巡回相談（岡崎市立生平小学校）
- ・1月20日（水） 碧南市特別支援教育連携協議会（碧南市役所） 委員
- ・2月5日（金） 愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン）

「障害の特性に応じた指導に関する研究」研究発表会（愛知県立佐織特別支援学校） 助言者

## 吉岡教授

- ・4月21日（火）から月1回12回 刈谷市中央子育て支援センター「らっこちゃんルーム」 相談員・講師
- ・5月28日（木） 小学校入学に向けての座談会（NPO 法人きらら） アドバイザー
- ・6月2日（木）、11月30日（月） 特別支援教育巡回訪問（刈谷市立富士松小学校） 相談員
- ・7月8日（水）、2月26日（金） 平成27年度岡崎市特別支援連携協議会 会長
- ・7月21日（火）、11月26日（木） 平成27年度第1回西三河特別支援連携協議会（西三河総合庁舎） 会長
- ・7月29日（水） 教育相談発展講座「いじめ・不登校などの諸問題を考える」（愛知県総合教育センター） 講師
- ・8月2日（日） 「発達障害支援におけるタテの連携を考える」（平成27年度文部科学省委託事業発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業）（愛知教育大学教育未来館） コメンテーター
- ・8月19日（水） 全附属東海地区研究協議会（附属岡崎小学校） 助言者
- ・8月25日（火） 特別支援教育現職研修会（刈谷市立富士松小学校） 講師
- ・9月15日（火）、3月15日（火） 岡崎市特別支援教育専門家チーム会議（岡崎市教育相談センター） 講師
- ・9月25日（金） 愛知県総合教育センター特別支援教育相談事例会議 助言者
- ・9月26日（土）、10月24日（土） 専門家による教育相談会（岡崎市） 専門委員
- ・10月2日（金）、11月4日（水）、12月2日（水） 岡崎市教育支援委員会（岡崎市総合学習センター） 委員
- ・10月21日（水）、12月4日（金） 特別支援教育巡回訪問（岡崎市立夏山小学校） 相談員
- ・10月23日（金） 特別支援教育現職研修会（愛知県立春日井高等特別支援学校） 講師
- ・11月4日（水）、5日（木） 特別支援教育巡回訪問（岡崎市立常盤中学校） 相談員
- ・11月6日（金） 附属特別支援学校特別支援教育研究協議会 助言者・共同研究者
- ・11月27日（金） 豊明市特別支援教育現職研修会（豊明市役所） 講師
- ・2月11日（木・祝） 第80回臨床心理士研修会（臨床心理士資格認定協会・ANAクラウンプラザホテル広島） 講師

### (3) 国際交流センター

愛知教育大学における留学生の支援、国際協力及び国際学術交流協定締結校との交流・連携を推進し、これらの活動を全学体制の下に開発することを通して、21世紀に相応しい多文化交流及び国際的連帯に資することを目的としています。

#### ① 留学生支援・協定校交流支援部門

外国人留学生の教育の円滑な運営及び充実改善に関する事項、並びに海外留学に関する事項を支援すると同時に、世界各国の大学との協定締結、学生交流、学術交流に関する事項を推進支援しています。

- 日本語に関わる支援として実施している日本語補講において、留学生の日本語能力に応じたクラス分けの授業、eラーニング学習による弱点の補強や語彙取得等を実施しました。
- 近隣市の国際交流協会主催による各種行事及び地元企業との交流会への参加支援を実施しました。
- 国際交流センター指導の下、学生ボランティアの企画・立案により留学生見学旅行（伊勢方面）を実施しました。
- 「国際学術交流協定校からの教職員招へいに関する実施要項」に基づき、協定校から教職員3名を招へいしました。
- グローバル人材育成を主軸とした大学独自の教員養成SVプログラムや、協定校への派遣SVプログラムを実施し、協定校へ計81人の学生を派遣しました。
- 協定校との受入SSプログラムを実施し、学生58人を受入れました。
- 国際交流基金日本語インターンプログラムを実施し、学生3名がタイ・チャパット3大学で日本語教育実習を行いました。

#### ② 国際協力部門

国際交流の在り方の検討及び措置、並びに発展途上国をはじめとする国際的な教育協力支援を行っています。

### (4) 地域連携センター

教育関連諸機関等との連携協力を維持・発展させ、幅広い研究分野を有する愛知教育大学の特性を活かした社会貢献を行い、地域社会の要請に応えるとともに、地域連携の総合的発展に向けた創造的な取り組みを行うことを目的としています。

- 地域連携フォーラムの開催：「教員養成大学における企業連携の可能性」
- 広報誌の発行：地域連携センターリーフレット  
広報誌「ちいきの大学」を12月、3月に発行

#### ① 学校教育支援部門

2015年度 教育関係機関との連携事業一覧

| 連携依頼先         | 事業名等                       | 実績等              |
|---------------|----------------------------|------------------|
| 愛知県教育委員会      | 県内教育委員会地域教育連携推進協議会         |                  |
|               | あいちの大学『学び』フォーラム            | 教員派遣 1人          |
| 愛知県総合教育センター   | 10年経験者研修（ほか）               | 教員派遣 延べ57人       |
| 名古屋市教育委員会     | 連携推進協議会                    |                  |
| 名古屋市教育センター    | コンピュータ講座                   |                  |
|               | 10年経験者研修                   |                  |
|               | ICTを活用した教育推進自治体応援事業推進会議    |                  |
| 安城市教育センター     | 小中学校教員研修への講師派遣             |                  |
|               | 教員研修海外派遣事業に関する指導           |                  |
| 県内外高等学校       | 高校訪問授業                     | 31校（受講者 約1,345人） |
| 愛知県内小中学校及び幼稚園 | 学校教育支援データベースによる地域貢献、各種講師派遣 |                  |

- 東三河5市教育委員会と相互連携に関する協定を締結
- 学校教育支援データベース2015年度版（PDF版）作成
- 公開講座（教員対象）：現職教育公開講座 5講座実施 受講者28人  
免許法認定公開講座 7講座実施 受講者334人
- 愛知県ユネスコスクール指導者交流会 参加者（学外）37人

#### ② 外国人児童生徒支援部門

2015年度学部生・大学院生のボランティア登録者数：189人

| 事業名等        | 実績等                         |
|-------------|-----------------------------|
| 小中学校等での個別支援 | 小学校19校、中学校7校、その他3（派遣学生59人）  |
| 刈谷市         | 小学校12校、中学校3校（派遣学生31人）       |
| 知立市         | 小学校4校、その他1（派遣学生8人）          |
| 豊田市         | 小学校3校、中学校3校、その他2（派遣学生17人）   |
| 豊明市         | 中学校1校（派遣学生3人）               |
| 集団支援        | 2校（知立市及び豊明市）25回（派遣学生のべ205人） |

- 土曜親子日本語教室：土曜日の14:30～16:00に本学にて日本語教室を開催。
- 「愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム」の常時開設：リソースルームでは、外国人児童生徒支援に関する調査、教材開発、研修会講師派遣、講演会の実施、学生ボランティア派遣、教材・参考書籍等の公開、外国人児童生徒教育支援に関する相談等を実施しました。
- リソースルーム講演会の開催：「外国にルーツのある若者の進学・進路問題」をテーマに講演会を開催しました。（2015/12/12）
- H A T Oプロジェクト「外国人児童生徒学習支援プロジェクト」の主幹校として参加大学と連携した活動を進めています。

### ③ 企業連携・地域活性化部門

#### 2015年度 地域との連携事業一覧

| 連携依頼先         | 事業名等                        | 実績等                                                                          |
|---------------|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 愛知県           | あいちスポーツコミッションへの登録           |                                                                              |
|               | 全国都市緑化あいちフェア参加              |                                                                              |
|               | 委員会等への教員派遣                  | 環境教育等推進協議会 など                                                                |
| 愛知県教育委員会      | 【受託事業】あいち理数教育推進事業「知の探究講座」   |                                                                              |
|               | あいちの大学『学び』フォーラム             |                                                                              |
|               | 子供の体力向上コンソーシアム事業            |                                                                              |
|               | 体育スポーツ実践講座                  |                                                                              |
|               | 委員会等への教員派遣                  | 教育振興基本計画検討会議 など                                                              |
| 愛知県生涯学習推進センター | 生涯学習地域連携講座                  | 知多市、碧南市                                                                      |
| 名古屋市          | 委員会等への教員派遣                  | 子どものまちサミット企画委員会 など                                                           |
| 名古屋市教育委員会     | 連携公開講座「親子で学ぼう！」（3回講座）       | 1講座（受講者75人）                                                                  |
|               | 子供の体力向上コンソーシアム事業            |                                                                              |
|               | 大学連携懇談会                     |                                                                              |
|               | 「全国学力・学習状況調査報告書」の監修         |                                                                              |
| 一宮市教育委員会      | 保護者向け講座「お母さんの勉強教室」への講師派遣    |                                                                              |
| 豊明市           | 「全国都市緑化あいちフェア」への講師派遣        |                                                                              |
|               | 委員会等への教員派遣                  | 総合計画表紙等デザイン二次選考会審査委員 など                                                      |
| 豊明市教育委員会      | 【受託事業】外国人児童生徒のための教材開発・学習支援  |                                                                              |
|               | 連携公開講座                      | 2講座（受講者19人）                                                                  |
| 日進市           | 委員会等への教員派遣                  | 環境まちづくり評価委員会 など                                                              |
| 豊橋市           | 市民向け講座                      |                                                                              |
| 碧南市教育委員会      | 連携公開講座                      | 2講座（受講者24人）                                                                  |
| 刈谷市           | 【受託事業】ものづくり体験教室（南部生涯学習センター） | 6回開催                                                                         |
|               | 【受託事業】親子体験教室（北部生涯学習センター）    | 6回開催                                                                         |
|               | 西池等水質浄化事業                   |                                                                              |
|               | 職員研修における講師派遣                |                                                                              |
|               | 「子育てカレッジ」講座                 | 5回講座                                                                         |
|               | 生き物（植物）調査                   |                                                                              |
|               | 「刈谷産業まつり」出展協力               |                                                                              |
|               | 早期療育事業に対する指導援助              |                                                                              |
|               | 子育て支援事業                     |                                                                              |
|               | 委員会等への教員派遣                  | 情報公開・個人情報保護審査会、総合評価審査委員会、行政評価委員会、自治基本条例検証委員会、共存・協働のまちづくり推進委員会、男女共同参画推進懇話会 など |
| 井ヶ谷町（刈谷市）     | 牛池水質浄化事業                    |                                                                              |
| 刈谷市教育委員会      | 【受託事業】外国人児童生徒のための教材開発・学習支援  |                                                                              |
|               | 連携公開講座（総合文化センター）            | 4講座（受講者73人）                                                                  |
|               | 「生涯学習フェスティバル」ものづくり教室        |                                                                              |
|               | 訪問科学実験                      |                                                                              |
|               | 発達障害外国人への学習支援               |                                                                              |
| 豊田市           | 共催公開講座                      | 1講座（受講者2人）                                                                   |
| 豊田市教育委員会      | 【受託事業】外国人児童生徒のための教材開発・学習支援  |                                                                              |
| 安城市           | 「やさしい日本語」研修への講師派遣           |                                                                              |
|               | 委員会等への教員派遣                  | さわやかロゴマーク審査員 など                                                              |
| 安城市教育委員会      | 連携公開講座                      | 2講座（受講者48人）                                                                  |
|               | 教員派遣研究生への指導・助言              | 受入人数 6名                                                                      |
|               | 指導講話                        |                                                                              |
|               | 委員会等への教員派遣                  | 生涯学習推進計画策定委員会、学校給食協会 など                                                      |
| 知立市           | 生涯学習講座「高齢者教室」への講師派遣         | 2講座                                                                          |
|               | 「生涯学習推進講座」への講師派遣            | 6講座                                                                          |
|               | 「知を立てる講座」への講師派遣             | 4講座                                                                          |
|               | 「未就学児・小学低学年向け体力づくり教室」への講師派遣 | 10回講座                                                                        |
|               | 「小中学生を対象としたダンス教室」への講師派遣     | 10回講座                                                                        |
|               | 夏休みフレンドスクール（小学生対象）への講師派遣    |                                                                              |
|               | メンタルヘルス相談員                  |                                                                              |
|               | 委員会等への教員派遣                  | スポーツ推進審議会、環境審議会 など                                                           |

|                      |                                                  |                                                                                |
|----------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 知立市教育委員会             | 【受託事業】外国人児童生徒のための教材開発・学習支援                       |                                                                                |
|                      | 連携公開講座                                           | 2講座（受講者44人）                                                                    |
|                      | スポーツ教室講師派遣                                       | 2講座（各10回）                                                                      |
| 高浜市教育委員会             | 連携公開講座                                           | 1講座（受講者7人）                                                                     |
| みよし市                 | 委員会等への教員派遣                                       | 「みよし美術展」審査委員、悠学カレッジ運営委員会、まち・ひと・しごと創生会議 など                                      |
| みよし市教育委員会            | 連携公開講座                                           | 2講座（受講者49人）                                                                    |
|                      | 委員会等への教員派遣                                       | 教育基本計画策定委員会、いじめ問題対策委員会、いじめ問題調査委員会、スポーツ推進審議会など                                  |
| 刈谷駅前商店街振興組合          | 刈谷市中心市街地活性化事業                                    | 刈谷市中心市街地活性化のための四者協定連絡会、訪問科学実験、刈谷駅前美術展示作品の提供、子ども向けワークショップ、クリスマスコンサート、ものづくり教室 など |
| 藤田保健衛生大学             | 医教連携に関する協定                                       | 発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業、食物アレルギーなどの子どもの健康課題等に対する共同研究                             |
| トヨタ車体（株）             | 刈谷ふれ愛パークを利用した環境学習取組                              |                                                                                |
| IT・ティ・テラ・ング・システムズ（株） | ICT教育における共同研究等の実施に関する協定                          |                                                                                |
| 中部電力（株）              | 【受託事業】小中学校教員向け「電気事業に関する授業実施のための図解集」の作成           |                                                                                |
| （株）中日新聞社             | 【受託事業】次世代教育「N I Eの新たなカリキュラム開発」および「補助教材等作成」プロジェクト |                                                                                |
| 日本青年会議所              | 委員会等への教員派遣                                       | 愛知ブロック大会審査員 など                                                                 |

- 公開講座（一般対象）：一般公開講座 11講座実施 受講者85人  
 連携公開講座 16講座実施 受講者339人

## （5）科学・ものづくり教育推進センター

科学的探求力をはじめとする高い知識と指導力を持った教員を養成するための科学・ものづくり教育の推進を支援するとともに、学校教育現場及び地域における科学・ものづくり教育の向上と活性化を図ることを目的とする。併せて、愛知教育大学（以下「本学」という。）の教員及び学生の研究に資するための理系機器の充実・整備と共同利用を図ることを目的とする。

### 科学・ものづくり教育推進部門

地域や学校における科学・ものづくり教育の向上と活性化を図るために、科学・ものづくりに関する高度な知識と強い指導力を持った教員を養成することを支援する部門です。

2015 年度 科学・ものづくり教育推進に関する拠点づくりの取組事業一覧

| 事業名等            | 実績等                              |
|-----------------|----------------------------------|
| 訪問科学実験          | 30 回（学生 597 人、参加児童・生徒等約 3,000 人） |
| ものづくり教室         | 11 回（学生 110 人、参加者 463 人）         |
| 理科実験プレ教員セミナー    | 3 回 16 講座（受講学生数 29 人）            |
| 理科観察実験指導力向上セミナー | 1 回 4 講座（受講者 15 人）               |

## （6）保健環境センター

本学の保健及び環境に関する専門的業務を行い、学生及び職員の健康安全並びに環境の保全を図ることを目的としています。

### ① 2015 年度保健環境センター利用者数

累計（単位：人）

| 区 分  | 傷病  | 内 科 |     |     | 休養室利用 | 健康相談  | 身体的 | 精神的 | その他 | 健康診断  | 定期健診  | クラブ健診 | 医療機関紹介 | 診断書発行 | その他来所者 | 計      |
|------|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|--------|-------|--------|--------|
|      |     | 内 科 | 外 科 | その他 |       |       |     |     |     |       |       |       |        |       |        |        |
| 学生   | 271 | 131 | 132 | 8   | 72    | 723   | 365 | 300 | 58  | 4,100 | 4,062 | 38    | 32     | 11    | 5,306  | 10,515 |
| 男    | 94  | 44  | 50  | 0   | 17    | 317   | 187 | 108 | 22  | 1,887 | 1,865 | 22    | 9      | 2     | 1,959  | 4,285  |
| 女    | 177 | 87  | 82  | 8   | 55    | 406   | 178 | 192 | 36  | 2,213 | 2,197 | 16    | 23     | 9     | 3,347  | 6,230  |
| 大学職員 | 33  | 16  | 12  | 5   | 8     | 227   | 76  | 71  | 80  | 0     | 0     | 0     | 8      | 2     | 1,100  | 1,378  |
| その他  | 26  | 14  | 11  | 1   | 11    | 64    | 11  | 9   | 44  | 0     | 0     | 0     | 1      | 0     | 426    | 528    |
| 合計   | 330 | 161 | 155 | 14  | 91    | 1,014 | 452 | 380 | 182 | 4,100 | 4,062 | 38    | 41     | 13    | 6,832  | 12,421 |

- \* 学生は、正規学生（学部、大学院、専攻科）及び非正規学生（研究生、科目等履修生等）の合計。  
 \* 大学職員は、理事等、大学教員、附属学校教員、事務職員、非常勤講師、非常勤職員の合計。  
 \* その他は、保護者、学外者等の合計。  
 \* クラブ健診は、競技会参加のための事前健康健診をクラブ・サークルの依頼で行った場合などが該当。

## ② 2011～2015 年度健康相談件数

|      | 2011 年度 |     |     |     |      |     | 2012 年度 |     |     |     |      |     | 2013 年度 |     |     |     |      |     |
|------|---------|-----|-----|-----|------|-----|---------|-----|-----|-----|------|-----|---------|-----|-----|-----|------|-----|
|      | 合計      | 学生  |     |     | 大学職員 | その他 | 合計      | 学生  |     |     | 大学職員 | その他 | 合計      | 学生  |     |     | 大学職員 | その他 |
|      |         | 計   | 男   | 女   |      |     |         | 計   | 男   | 女   |      |     |         | 計   | 男   | 女   |      |     |
| 健康相談 | 1,835   | 630 | 224 | 406 | 918  | 287 | 1,158   | 621 | 222 | 399 | 415  | 122 | 926     | 612 | 224 | 388 | 256  | 58  |
| 身体的  | 418     | 255 | 144 | 111 | 140  | 23  | 528     | 335 | 160 | 175 | 143  | 50  | 368     | 304 | 126 | 178 | 52   | 12  |
| 精神的  | 639     | 224 | 30  | 194 | 341  | 74  | 318     | 195 | 17  | 178 | 120  | 3   | 271     | 210 | 54  | 156 | 60   | 1   |
| その他  | 778     | 151 | 50  | 101 | 437  | 190 | 312     | 91  | 45  | 46  | 152  | 69  | 287     | 98  | 44  | 54  | 144  | 45  |

|      | 2014 年度 |     |     |     |      |     | 2015 年度 |     |     |     |      |     |
|------|---------|-----|-----|-----|------|-----|---------|-----|-----|-----|------|-----|
|      | 合計      | 学生  |     |     | 大学職員 | その他 | 合計      | 学生  |     |     | 大学職員 | その他 |
|      |         | 計   | 男   | 女   |      |     |         | 計   | 男   | 女   |      |     |
| 健康相談 | 1,032   | 769 | 232 | 537 | 223  | 40  | 1,014   | 723 | 317 | 406 | 227  | 64  |
| 身体的  | 501     | 434 | 161 | 273 | 48   | 19  | 452     | 365 | 187 | 178 | 76   | 11  |
| 精神的  | 368     | 295 | 58  | 237 | 71   | 2   | 380     | 300 | 108 | 192 | 71   | 9   |
| その他  | 163     | 40  | 13  | 27  | 104  | 19  | 182     | 58  | 22  | 36  | 80   | 44  |

- \* 学生は、正規学生（学部、大学院、専攻科）及び非正規学生（研究生、科目等履修生等）の合計。  
 \* 大学職員は、理事等、大学教員、附属学校教員、事務職員、非常勤講師、非常勤職員の合計。  
 \* その他 は、保護者、学外者等の合計。

## (7) 情報処理センター

学内共同利用施設として、本学の研究教育及び学術情報処理に資するほか、学内の情報システムの円滑な運用を図ることを目的としています。

## ① 施設等の概要

| 棟名        | 階   | 室名             | 収容定員 | 設備                 | ノートPC用設備 |    |
|-----------|-----|----------------|------|--------------------|----------|----|
|           |     |                |      |                    | 有線       | 無線 |
| 情報処理センター棟 | 3 階 | 第 1 教育用コンピュータ室 | 50人  | 教師用PC 1 台、演習用PC50台 | —        | ○  |
|           |     | 第 2 教育用コンピュータ室 | 20人  | 情報コンセント20個         | ○        | ○  |
|           |     | 第 3 教育用コンピュータ室 | 18人  | 情報コンセント14個         | ○        | ○  |
|           | 2 階 | マルチメディア演習室     | 30人  | 教師用PC 1 台、演習用PC30台 | —        | ○  |
|           | 1 階 | コンピュータ講義室      | 54人  | 情報コンセント54個         | ○        | ○  |

## ② 講習会等の実施状況

## 情報セキュリティ関係講習会

| 講習会                 | タイトル                   | 対象         | 講師               | 人数                         |
|---------------------|------------------------|------------|------------------|----------------------------|
| 新任者講習               | 「情報セキュリティについて」         | 新任職員       | ICT 教育基盤センタースタッフ | 事務職員 10 人                  |
| 情報セキュリティ講習会         | 「全学総括責任者向け情報セキュリティ講習会」 | 全学総括責任者    | 情報化推進副室長         | 役職員 1 人                    |
| 情報セキュリティ講習会         | 「役職者向け情報セキュリティ講習会」     | 役職者        | 全学総括責任者（総務担当理事）  | 役職者全員                      |
| システム管理者向け講習会        | 「サーバ管理の事例紹介」           | システム管理者    | ICT 教育基盤センタースタッフ | 教員 5 人、事務職員 11 人、その他 2 人   |
| 個人情報保護・情報セキュリティセミナー | 「事例に学ぶ情報漏洩の脅威と対策」      | 教職員、学生、学外者 | NTT 西日本          | 教員 138 人、事務職員 68 人、学外者 2 人 |
| 情報セキュリティ講習会         | 「情報セキュリティについて」         | 職員         | ICT 教育基盤センタースタッフ | 事務職員 15 人                  |

## ③ 障害関係

## 2015年度ネットワーク障害件数

|          | 件数  | 主な内容 |
|----------|-----|------|
| 幹線ネットワーク | 0 件 |      |
| 支線ネットワーク | 0 件 |      |

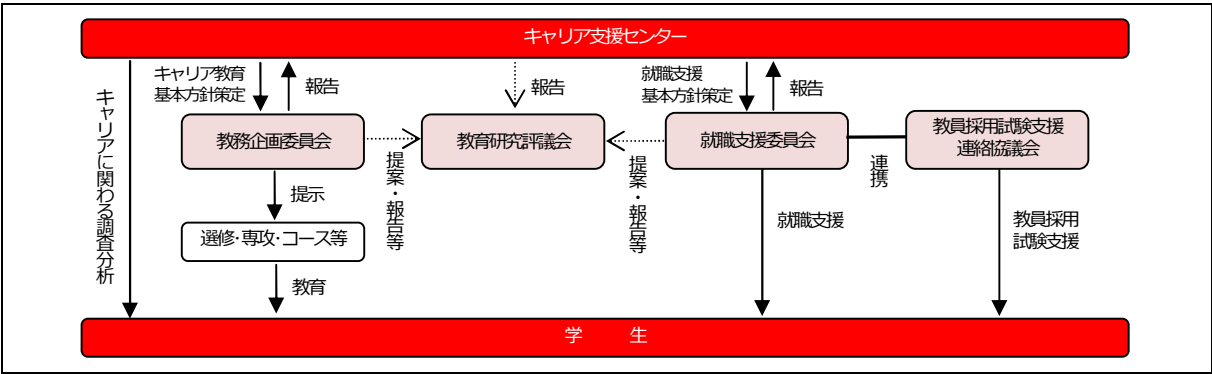
## 2015年度システム障害件数

| 件数  | 主な内容      |
|-----|-----------|
| 2 件 | メール送受信の遅延 |

(8) キャリア支援センター

本学学生の主体的なキャリア設計及び就職活動等に関する基本方針の策定等を行うことを目的としています。

① 支援体制



② 支援プログラム

キャリア形成支援プログラム

|         |        | 1年生                                                 | 2年生                                                     | 3年・院1年生                                                | 4年・院2年生                                                                | 就職・進学後                                             |
|---------|--------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 学生の目標   |        | 大学生活を考える<br>自分を知る                                   | 将来の目標づくりに取り組む<br>職業観を育成する                               | 進路の目標をしぼり、就職・進学に備えるそして行動する                             | 進路を決定し、就職・進学を確定する                                                      | 理想の就職・進学の実現を図る                                     |
|         |        | ■キャリア発達が生涯にわたることを理解する                               | ■自分と将来のキャリアの関係について考える                                   | ■自己分析やキャリア体験を通して、職業選択や就職に必要な力を身につける                    | ■自分のキャリアプランニングと職業を結びつけ、卒業後の進路・就職を決定する                                  | ■働くことを通して社会に貢献し、自己表現する                             |
|         |        | ■大学4年間の生活設計とキャリア発達に関する視野を広げる                        | ■ビジョンを描き、社会生活を送るのに必要な社会常識や基本的なスキルを身につける                 | ■ライフプランニングという視点を持って自分のライフスタイルを検討する                     | ■モチベーションを維持しながら、社会へ出るために必要な準備をする                                       | ■大学院では専門的研究能力を深化させる                                |
|         |        | ■新しい生活環境に慣れ、大学生活を過ごすうえで目標を待つ                        | ■やらなければならない新しい課題が比較的に少なく、怠けることもでき、ルーズになりやすいので気をつける      | ■心の中に抱えている将来像と、具体的な職業選択を結びつける作業をする                     | ■焦りの中で目先の選択に振り回され、今どこに就職するかということだけが、優先しないように気をつける                      | ■職業人として自己形成をしていく                                   |
|         |        | ■世の中にどんな仕事があるか興味を持って、視野を広げるように心がける                  | ■時間をかけて自分を見つめる貴重な時期なので、将来への充電期間と捉える                     | ■社会の中での自分の位置、社会のどのあたりに着地したらよいかを考え、将来へ向けての舵をとる          | ■課題に取り組むことが新鮮で楽しい体験となり、それを乗り越えることによってひとまわり大きくなると考える                    | ■学問の消費者から、学問の生産者へ転換する                              |
|         |        | ■目標がある程度明確な人も、改めて他にどんな可能性があるのか再検討してみる               | ■アルバイトやボランティア活動は、自分の興味・関心のある分野について直接検討することができるので、積極的に行う | ■ゼミでの人間関係が始まる時期であり、教員、先輩、同僚との将来につながる人間関係を大切に           | ■自分の選んだ道が正しかったか、社会に入ってからやっていけるかなど、卒業を前にして決定した進路が本当に自分にふさわしいかどうか問い直してみる |                                                    |
|         |        |                                                     | ■進路変更については、本当にこれ以上勉学を続けて行くことは不可能なのか、真に解決する選択なのか検討して決定する | ■人生設計を立ててみる。長期的な展望に立って、職業生活、家庭生活、余暇生活など、トータル・ライフを考えてみる |                                                                        |                                                    |
| 大学の支援体制 | 教育     | キャリアデザインⅠ「将来の自分」                                    | キャリアデザインⅡ「仕事と自分」                                        | キャリアデザインⅢ「マネージメントと自分」                                  | キャリアデザインⅣ「社会的ネットワークと自分」                                                |                                                    |
|         | 体験     | 基礎実習                                                | 介護等体験                                                   | 主免実習・養護実習・基礎実習                                         | 隣接校種実習・副免実習・特別支援教育実習・応用実習・現代学芸課程学生の実習                                  |                                                    |
|         | ガイダンス等 | 基礎学力の啓発                                             |                                                         | 教員就職ガイダンス<br>公務員就職ガイダンス<br>企業就職ガイダンス                   | 教員就職ガイダンス<br>公務員就職ガイダンス<br>教員採用試験対策講座<br>教員採用試験面接指導                    | 就職・進学後のフォローアップ<br>就職・転職希望者の相談・情報提供<br>学校臨時講師の求人先紹介 |
|         |        | 就職ガイダンス                                             |                                                         | インターンシップガイダンス                                          | 教員採用試験セミナー<br>教員採用試験模擬試験<br>教員採用試験集中講座<br>教員採用試験面接指導                   |                                                    |
|         | 相談     | ボランティア活動の推奨・促進                                      |                                                         |                                                        |                                                                        |                                                    |
|         |        | 就職・進路相談（キャリア支援課スタッフ、就職支援委員、キャリアカウンセラーによる個別の就職・進路相談） |                                                         |                                                        |                                                                        | 進路先での適応支援                                          |

## 就職支援プログラム

| 学年 | 月  | 教員                                                                                                                           | 公務員                                                             | 企業                                                                                                 |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3年 | 4  |                                                                                                                              |                                                                 | ■第1回ガイダンス<br>・インターンシップ説明会①<br>■第2回ガイダンス<br>・社会人準備講座                                                |
|    | 5  |                                                                                                                              |                                                                 | ■第3回ガイダンス<br>・就活スタート講座<br>■第4回ガイダンス<br>・インターンシップ説明会②                                               |
|    | 6  |                                                                                                                              | ■第1回ガイダンス<br>・公務員採用試験の仕組み<br>■公務員採用試験対策講座                       | ■第5回ガイダンス<br>・自己分析講座                                                                               |
|    | 7  | ■第1回ガイダンス<br>・教員を目指す者の心構え1                                                                                                   | ■公務員採用試験対策講座                                                    |                                                                                                    |
|    | 8  | ■教員採用試験対策講座                                                                                                                  | ■公務員採用試験対策講座                                                    |                                                                                                    |
|    | 9  | ■教員採用試験対策講座                                                                                                                  | ■公務員採用試験対策講座                                                    |                                                                                                    |
|    | 10 | ■第2回ガイダンス<br>・教員を目指す者の心構え2<br>■教員採用試験対策講座                                                                                    | ■公務員採用試験対策講座                                                    | ■第6回ガイダンス<br>・企業研究講座                                                                               |
|    | 11 | ■教員採用試験学習スタートアドバイスセミナー<br>■教員採用試験対策講座                                                                                        | ■公務員採用試験対策講座<br>■第2回ガイダンス<br>・公務員採用試験の実施状況・対策<br>・公務員採用試験合格体験報告 | ■第7回ガイダンス<br>・SPI ガイダンス<br>■第8回ガイダンス<br>・女子学生のためのガイダンス<br>■第9回ガイダンス<br>・企業人事担当者の講演<br>・内定者就職活動体験報告 |
|    | 12 | ■第3回ガイダンス<br>・教員採用試験受験体験報告<br>・講話 教員採用試験に向けて<br>■教員採用試験対策講座<br>■教員採用試験模擬試験                                                   | ■第3回ガイダンス<br>・各機関の公務員採用試験の概要等<br>■公務員採用試験対策講座<br>■公務員採用試験模擬試験   | ■第10回ガイダンス<br>・エントリーシート講座                                                                          |
|    | 1  | ■第4回ガイダンス<br>・教員採用試験情報提供<br>■教員採用試験対策講座<br>■教員採用試験模擬試験                                                                       | ■公務員採用試験模擬試験<br>■公務員採用試験対策講座                                    | ■第11回ガイダンス<br>・面接対策講座<br>■就活必勝講座                                                                   |
|    | 2  | ■小論文添削指導（教員採用セミナー）<br>■教員採用試験対策講座<br>■教員採用試験模擬試験                                                                             | ■公務員採用試験模擬試験<br>■公務員採用試験対策講座                                    | ■第12回ガイダンス<br>・就活スタート直前＋学内企業研究セミナー100%活用講座<br>■就活必勝講座                                              |
|    | 3  | ■教員採用試験小学校全科講座<br>■教員採用試験模擬試験<br>■教職教養ラストサポート講座<br>■願書の書き方ガイダンス<br>■願書指導<br>■教員採用試験模擬試験                                      | ■公務員採用試験模擬試験<br>■公務員採用試験対策講座<br>■公務員セミナー<br>■公務員採用試験模擬試験        | ■集団面接・個人面接＋ES 練習会<br>■企業研究セミナー                                                                     |
| 4年 | 4  |                                                                                                                              |                                                                 |                                                                                                    |
|    | 5  | ■第1回ガイダンス<br>・県、名古屋市募集要項説明会<br>■第2回ガイダンス<br>・模擬面接<br>■面接指導<br>■教員採用試験直前アドバイスセミナー<br>■愛知県直前対策講座<br>■名古屋市直前対策講座<br>■教員採用試験模擬試験 | ■公務員採用試験模擬試験<br>■公務員採用試験直前対策講座                                  |                                                                                                    |
|    | 6  | ■面接指導<br>■教員採用試験模擬試験                                                                                                         | ■公務員採用試験模擬試験                                                    |                                                                                                    |
|    | 7  | ■面接指導<br>■教員採用試験模擬試験                                                                                                         | ■公務員採用試験模擬試験<br>■集団討議・面接練習会                                     |                                                                                                    |
|    | 8  | ■面接指導                                                                                                                        | ■公務員採用試験模擬試験<br>■集団討議・面接練習会                                     |                                                                                                    |
|    | 9  |                                                                                                                              |                                                                 | ■学内合同企業説明会                                                                                         |

## 卒業後支援プログラム

本学を卒業し、教員、公務員、企業等に就業し、その後、転職したい場合、また本学や他の大学院等に進学し、その後に就職等を考えている場合、必要に応じて必要な情報提供や支援を行い、卒業後も就職活動を支援していきます。

具体的には、教員や公務員を途中で退職し、その後、復帰したい場合、必要な情報提供やセミナーを開催し、就職していくための窓口相談等を行います。また、地域の教育機関からの非常勤講師募集等の情報を集約し、卒業生に情報提供します。

## ③ 支援状況

## 2015 年度就職活動支援実施状況

|      | 対象職種 |     |    |       |    | 計   |
|------|------|-----|----|-------|----|-----|
|      | 教員   | 公務員 | 企業 | 企業公務員 | 共通 |     |
| 開催回数 | 712  | 75  | 47 | 53    | 6  | 893 |

## (9) 教員養成開発連携センター

国立大学法人北海道教育大学（H）、国立大学法人愛知教育大学（A）、国立大学法人東京学芸大学（T）、国立大学法人大阪教育大学（O）の強みを生かしつつ教員養成機能の強化・充実を図ることを目的とした「大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築－教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト－」の活動拠点となり、全国の教員養成系大学・学部と連携・協力を促進し、教員養成の諸課題に積極的に対応することを目的としています。

## ① IR部門

教員を目指す学生の一定水準の質を確保するためのプログラム開発及び学生の学習成果の調査、分析、改善プログラムの共同開発に向けた先行調査などを推進し、教員養成系の IR ネットワーク構築（IR コンソーシアムの設置を含む）を目指し、教員養成機能の強化に取り組めます。

## ② 研修・交流支援部門

教員養成の国際化を目指した SD、FD 研修の共同実施と研修プログラム等の開発及び教員養成系大学・学部の交流・相互支援による教員養成相互支援ネットワークの構築に取り組めます。

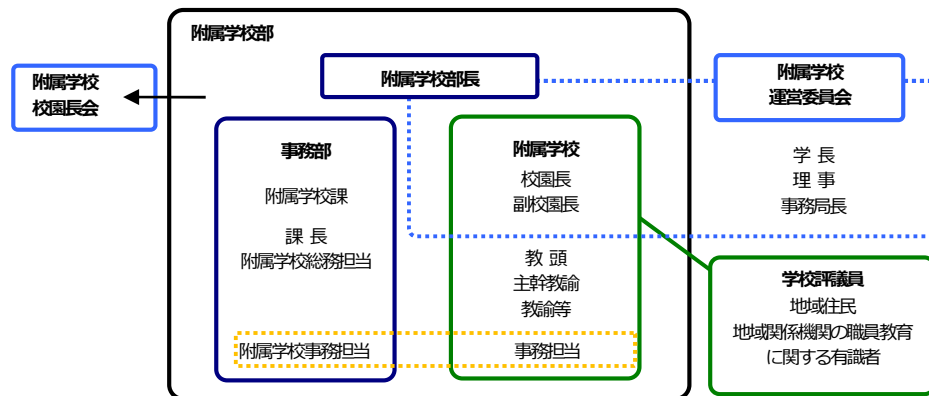
## ③ 先導的実践プログラム部門

4 大学のそれぞれの強みを生かし特色ある取り組みを進め、全国の教員養成系大学・学部に普及するための先導的実践プログラムの開発事業を行います。

## 第9章 附属学校

### 1 附属学校の活動状況

附属学校部組織図



附属学校規模

2015/5/1 現在

| 学校名      | 学級数    | 児童・生徒等<br>収容定員 | 教員定員 |    |    |     |    |     | 合計  |
|----------|--------|----------------|------|----|----|-----|----|-----|-----|
|          |        |                | 副校長  | 教頭 | 主幹 | 教諭  | 養護 | 栄養教 |     |
| 附属幼稚園    | 5      | 140            | 1    | 0  | 0  | 5   | 0  | 0   | 6   |
| 附属名古屋小学校 | 21 (3) | 770 (45)       | 1    | 1  | 1  | 31  | 1  | 1   | 36  |
| 附属岡崎小学校  | 18     | 660            | 1    | 1  | 1  | 21  | 1  | 0   | 25  |
| 附属名古屋中学校 | 12 (3) | 480 (45)       | 1    | 1  | 1  | 27  | 1  | 0   | 31  |
| 附属岡崎中学校  | 12     | 480            | 1    | 1  | 1  | 22  | 1  | 0   | 26  |
| 附属高等学校   | 15     | 600            | 1    | 1  | 1  | 31  | 1  | 0   | 35  |
| 附属特別支援学校 | 9      | 60             | 1    | 1  | 1  | 24  | 1  | 1   | 29  |
| 合計       | 92 (6) | 3,190 (90)     | 7    | 6  | 6  | 161 | 6  | 2   | 188 |

\* 教諭には、大学教員が兼務する校長は除く。

\* ( ) は帰国子女学級に係る学級数、人数を外数で示す。帰国子女学級の1クラス定員は、小学校・中学校とも15人。

\* 小学校・中学校・高校の一般学級は1学級40人定員。2012年度入学者より小学校は1学級35人定員に改正。

\* 附小の一般学級は3学級と4学級の学年で編成。2015年度は3学級学年が1・2・6年、4学級学年が3・4・5年。

\* 特別支援学校は小学部・中学部・高等部で構成され、障害種別はいずれも知的障害。小学部は2学年で1学級の複式学級。

\* 幼稚園は3歳児1学級20人、4歳児・5歳児は2学級60人ずつ。2012年度より4歳児からの入学定員を50人から40人に改正。

#### (1) 附属幼稚園

##### ① 教育目標

- ・心もからだもたくましい子どもを育てる。
- ・感性豊かで思いやりのある子どもを育てる。
- ・自分で考え行動し、やりぬく子どもを育てる。

##### ② 平成28年度入園児選抜状況〈2015年度実施〉

- [出願資格] 入学時に幼稚園へ入園する年令に達する見込みの幼児  
園が指定する小学校区に保護者と居住する者  
保護者等が付き添って、徒歩または公共交通機関で登降園できる幼児
- [選抜方法] 第1次：面接及びグループ遊び 第2次：抽選

(単位：人)

|       | 入学定員 | 志願者 | 受験者 (A) | 合格者 (B) | 合格倍率 (A/B) | 入学者 |
|-------|------|-----|---------|---------|------------|-----|
| 附属幼稚園 | 60   | 94  | 89      | 55      | 1.62 倍     | 55  |
| 3歳児   | 20   | 56  | 52      | 20      | 2.60 倍     | 20  |
| 4歳児   | 40   | 38  | 37      | 35      | 1.06 倍     | 35  |

\* 2012年度から、4歳児の入学定員は50人から40人に改正。

##### ③ 在籍者数 (2015/5/1 現在)

(単位：人)

|       | 学級数 | 在 籍 者 |    |     |
|-------|-----|-------|----|-----|
|       |     | 男     | 女  | 計   |
| 附属幼稚園 | 5   | 77    | 49 | 126 |
| 3歳児   | 1   | 10    | 10 | 20  |
| 4歳児   | 2   | 35    | 16 | 51  |
| 5歳児   | 2   | 32    | 23 | 55  |

##### ④ 園児の転出入等

(単位：人)

|       | 転・編入学 | 転・退学 |
|-------|-------|------|
| 3～5歳児 | 3     | 7    |

## ⑤ 卒園児の進路（卒園児 54 人）〈2016年3月卒園児〉

附属名古屋小学校 54 人、県内小学校 0 人、県内私立小学校 0 人

## ⑥ 研究活動

研究発表会 2015年11月12日（木） 参加者 411 人

主 題 「学びと育ち」の連続性を見通した幼児期の教育を考える（3 年次／研究期間 3 年）

副 題 学びの連続性を支える力に目を向けて

## ⑦ 教育実習等受入

愛知教育大学実習生 33 人、他大学実習生 0 人

## ⑧ 国際交流

特にありません。

## ⑨ 自己評価及び学校関係者評価

## 保護者への学校評価アンケートからの自己評価と改善の取組

学校評価アンケートを保護者へ依頼し、本園の教育目標や子どもの成長、教育内容への理解、安全管理等について、成果と次年度への課題を明らかにしています。そして、それらを基に、職員会議等で次年度の充実に向けて方策を検討しています。

2015 年度も、アンケートのどの項目についても 100%に近い肯定的な回答をいただきました。本園の教育に対して、一定の理解と評価を得られたと考えており、基本的な教育内容を堅持していくことを確認しています。

自由記述の部分では、園運営や保育活動等に対してプラスの感想と併せて、改善を望む内容もあり、次年度に向けた改善を検討しました。

また、学校評議員会を2回開催し、園の運営についての報告を行うとともに意見をいただき、上記アンケートの結果をはじめとして全体には、順調に運営されていることが確認・評価されました。

今後も、保護者が感じている戸惑いや、不安・負担を理解し改善すべきところは改善するように努め、親子ともに楽しく通える幼稚園を目指したいと思います。

## (2) 附属名古屋小学校

## ① 教育目標

- ・健康で 心の豊かな子
- ・まことを求め 正しいことを守る子
- ・よく考え 実践する子
- ・人を敬い 助け合う子

## ② 平成28年度入学者選抜状況〈2015年度実施〉

- 一般学級** [出願資格] 入学時に小学校へ入学する年齢に達する見込みの者  
学校が指定する小学校区に居住する者  
[選抜方法] 第1次：調査 第2次：抽選
- 帰国児童学級** [出願資格] 日本国籍を有する者  
本人の海外生活が2年以上、かつ、帰国後1年以内の者  
在留国で現地校又は国際学校に通学していた者  
当該学年の年齢に達する見込みの者  
保護者とともに居住し、通学時間が1時間程度の者  
[選抜方法] 筆答を含む現状調査及び保護者を含む面接

一般学級

(単位：人)

|          | 入学定員 | 志願者 | 受験者 (A) | 合格者 (B) | 合格倍率 (A/B) | 入学者 |
|----------|------|-----|---------|---------|------------|-----|
| 附属名古屋小学校 | 105  | 170 | 159     | 102     | 1.56 倍     | 102 |
| 一般外部     |      | 116 | 105     | 48      | 2.19 倍     | 48  |
| 連絡進学     |      | 54  | 54      | 54      | 1.00 倍     | 54  |

\* 2016年度の学級編成は、3学級編成が1・2・3年、4学級編成が4・5・6年。2016年度入学定員：35人×3学級＝105人

帰国児童学級（4月入学時）

(単位：人)

|          | 収容定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
|----------|------|-----|-----|-----|-----|
| 附属名古屋小学校 | 45   | 13  | 13  | 13  | 13  |
| 4 学年     | 15   |     |     |     |     |
| 5 学年     | 15   | 6   | 6   | 6   | 6   |
| 6 学年     | 15   | 7   | 7   | 7   | 7   |

\* 5・6 学年は、収容定員に満たない人数を募集。

## ③ 在籍者数 (2015/5/1 現在)

(単位: 人)

|          | 学級数    | 在 籍 者   |         |          |
|----------|--------|---------|---------|----------|
|          |        | 男       | 女       | 計        |
| 附属名古屋小学校 | 21 (3) | 368 (7) | 366 (8) | 734 (15) |
| 1 学年     | 3      | 51      | 51      | 102      |
| 2 学年     | 3      | 50      | 48      | 98       |
| 3 学年     | 4      | 67      | 66      | 133      |
| 4 学年     | 4 (1)  | 64      | 61      | 125      |
| 5 学年     | 4 (1)  | 78 (2)  | 80 (2)  | 158 (4)  |
| 6 学年     | 3 (1)  | 58 (5)  | 60 (6)  | 118 (11) |

\* ( )は帰国児童学級に係る学級数、人数を外数で示す。

## ④ 児童の転出入等

(単位: 人)

|        | 転・編入学 | 転・退学 |
|--------|-------|------|
| 一般学級   | 10    | 10   |
| 帰国児童学級 | 12    | 0    |

## ⑤ 卒業生の進路 (卒業生131人) 〈2016年3月卒業生〉

附属名古屋中学校 79人、県内公立中学校 2人、県内私立中学校 41人、他の国立大学附属中学校 0人

## ⑥ 研究活動

研究発表会 2015年6月2日(火) 参加者920人

主 題 「これからの社会を生き抜く子」の育成

副 題 各教科が設定した「これからの社会を生き抜く子」に迫るために必要な力と姿

## ⑦ 教育実習等受入

愛知教育大学実習生 365人、他大学実習生 1人

## ⑧ 国際交流

本校では、2002年度に韓国の晋州教育大学校附設初等学校との間で国際交流に関する協定を締結し、以来、お互いの文化を理解・尊重し合える国際性豊かな子どもの育成を目指し、児童の作品交流、学校間の情報交換を通して、日韓の相互交流を行っています。

## ⑨ その他の活動

本校は、PTA 活動がさかんで、毎年 PTA 主催のペア学年合同親子行事を行っています。

2015年度も「防犯教室」あり「影絵体験」ありと、親子が一緒に楽しんだり学んだりできる内容でした。

## ⑩ 自己評価及び学校関係者評価

すべての教職員で、学期ごとに教育活動を見直すための自己評価活動を行っています。

2015年度は特に、登下校時の安全対策や教育相談活動に課題が見られました。そこで、保護者とともに通学路を点検する活動を実施し、危険箇所の確認や乗車マナーなどを保護者と共に確認することで、意識を向上させることができました。

また、教育相談について一人一人の子どもたちに担任が直接話を聞く時間を確保する等、内容を充実させることで、日々の生活の中で担任と保護者や子どもたちとの関わりを増やし、信頼を高めることもできています。

一方、学校関係者評価として、保護者を対象としたアンケート調査を行っており、保護者から高い評価を得ることができました。

これらの評価活動は、学校評議員会へ報告し、様々な意見を取り入れることで改善に生かしています。このように評価活動を通して、今後も、子どもたちにとってよりよい学校となるよう、学校全体で努めていきたいと考えています。

## (3) 附属岡崎小学校

## ① 教育目標

- ・生活のなかから問題を見つけ、自ら生活を切り拓いていくことのできる児童の育成
- ・経験や体験を重視し、事実をもとに問題の解決を図ろうとする児童の育成
- ・友だちの気持ちを思いやり、互いに磨き合おうとする児童の育成

## ② 平成28年度入学者選抜状況 〈2015年度実施〉

一般学級 [出願資格] 入学時に小学校へ入学する年齢に達する見込みの者

岡崎市内に保護者とともに居住する者

[選抜方法] 第1次: 面接、教育テスト 第2次: 抽選

(単位: 人)

|         | 入学定員 | 志願者 | 受験者 (A) | 合格者 (B) | 合格倍率 (A/B) | 入学者 |
|---------|------|-----|---------|---------|------------|-----|
| 附属岡崎小学校 | 105  | 127 | 124     | 105     | 1.18 倍     | 104 |
| 一般外部    |      | 127 | 124     | 105     | 1.18 倍     | 104 |

\* 2016年度入学定員: 35人×3学級=105人

## ③ 在籍者数 (2015/5/1 現在)

(単位: 人)

|         | 学級数 | 在 籍 者 |     |     |
|---------|-----|-------|-----|-----|
|         |     | 男     | 女   | 計   |
| 附属岡崎小学校 | 18  | 309   | 297 | 606 |
| 1 学年    | 3   | 51    | 54  | 105 |
| 2 学年    | 3   | 48    | 49  | 97  |
| 3 学年    | 3   | 46    | 51  | 97  |
| 4 学年    | 3   | 45    | 44  | 89  |
| 5 学年    | 3   | 72    | 41  | 113 |
| 6 学年    | 3   | 47    | 58  | 105 |

## ④ 児童の転出入等

(単位: 人)

|      | 転・編入学 | 転・退学 |
|------|-------|------|
| 一般学級 | 8     | 4    |

## ⑤ 卒業生の進路 (卒業生105人) (2016年3月卒業生)

附属岡崎中学校87人、県内公立中学校5人、県内私立中学校11人、県外公立中学校1人、県外私立中学校1人

## ⑥ 研究活動

研究発表会 2015年6月3日(水) 参加者 838人

主 題 自らの意思で判断・決定していく子ども(3年次/研究期間5年)

副 題 「学びの自覚」を促し、よりよい判断・決定につながる教師支援

## ⑦ 教育実習等受入

愛知教育大学実習生 326人、他大学実習生 0人

## ⑧ 国際交流

ボールステイト大学附属パリス校(USAインディアナ州)と1997年に国際学術交流協定を締結し、以降、子供たちが相互に訪問し、交流を深めています。

2015年には、パリス校から児童16人、教員3人が来訪し、児童との交流や地元である岡崎市との交流が行われました。授業では、音楽や習字などで日本の文化を伝え、交流をしました。また、大学へも出向いて、学長との懇談や大学生による日本文化体験が行われ、来訪メンバーにとっても貴重な体験となりました。

## ⑨ 自己評価及び学校関係者評価

2014年度の評価項目を継続しつつ教育活動の更なる見直しを図るとともに、「英語活動の充実」「清掃活動の充実」に関する評価項目の改善を図り、より信頼される学校、開かれた学校、魅力ある学校づくりの推進という視点で評価を行いました。これにより、2015年の学校評価では、次の3点が課題となり、次年度に向けて次のような対策を考えました。

## ・英語活動の充実について

英語の教科化への動きのなかで、本校も教育課程上の英語教育の位置づけを見直し、英語タイムを設定して取り組んできました。また、研究部とも連携して英語教育の推進を模索してきました。5、6年生の英語の教科化に向けた教科論の作成や英語活動や英語タイムの活動計画を見直し、職員の共通理解を図って取り組めるようにしました。

## ・清掃活動の充実について

教師の1学期の学級及び学校の清掃指導に対する不満足感が表れていました。これまでの教職経験からの期待、学校の一体的な清掃指導のあり方など、もっと改善できるのではないかと教師の意識が感じられました。再度、共通理解を図り、清掃内容の明確化、清掃道具の扱いなどの指導を全教師が意識して取り組むようにしました。

## ・子どもの規範意識の向上について

子どもたちの自主的な活動のなかで規範意識が高まるように、児童会を中心とする委員会活動を通して、附属小のきまりを守る意識を高めていくことで、子どもの自主的な活動のなかで規範意識が育めるようにしました。学校生活のなかでも、図書館や職員室、玄関や廊下、トイレなど、みんなが共同で使う場所、たくさんの人々が通る場所などの公的空間や場所に対して、使い方やその場でのマナーについて学年に応じて意識して行動できるように取り組むようにしました。また、毎月の一斉下校日には、上級生が中心になり、公共のマナーの向上を図れるようにしました。

学校評議員会では、これらの報告に対し、子どもの登下校指導など安全対策や安全意識の向上への指図があり、次年度に向けて登下校指導の改善を図っていくことが課題となりました。また、愛知教育大学附属岡崎小学校いじめ防止基本方針を報告し、いじめアンケート調査や校内組織のあり方について意見を求め、今後の検討課題としました。

学校評価の詳細は、本校ウェブサイトに掲載しています。

## (4) 附属名古屋中学校

## ① 教育目標

人格の完成を目指し、平和国家・民主社会の形成者として、心身ともに健全な人間を育成する。

- ・創造の精神を尊び、真理をかぎりなく求める人間
- ・自己の言行に責任をもち、信実を貫く人間(信実とは信義・誠実の意味である)
- ・美を愛し、豊かな心情を育てる人間
- ・心身を鍛え、たくましい実行力を身に付ける人間
- ・奉仕の精神を重んじ、働くことに喜びを見いだす人間

## ② 平成28年度入学者選抜状況（2015年度実施）

- 一般学級** [出願資格] 入学時に中学校へ入学する年齢に達する見込みの者  
保護者とともに居住し、通学時間が1時間程度の者  
[選抜方法] 第1次：適性検査 第2次：抽選
- 帰国生徒学級** [出願資格] 本人の海外生活が3年以上、かつ、帰国後1年以内の者  
在留国で現地校又は国際学校に通学していた者  
当該学年の年齢に達する見込みの者  
保護者とともに居住し、通学時間に無理のない者  
[選抜方法] 1年生：国語、算数、面接（本人及び保護者）  
2・3年生：国語、数学、英語、面接

一般学級

(単位：人)

|          | 入学定員 | 志願者 | 受験者 (A) | 合格者 (B) | 合格倍率 (A/B) | 入学者 |
|----------|------|-----|---------|---------|------------|-----|
| 附属名古屋中学校 | 160  | 247 | 247     | 160     | 1.54 倍     | 159 |
| 一般外部     |      | 179 | 179     | 92      | 1.95 倍     | 91  |
| 連絡進学     |      | 68  | 68      | 68      | 1.00 倍     | 68  |

\* 2016年度入学定員：40人×4学級＝160人

帰国生徒学級（4月入学時）

(単位：人)

|          | 収容定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
|----------|------|-----|-----|-----|-----|
| 附属名古屋中学校 | 45   | 13  | 13  | 13  | 13  |
| 1学年 一般外部 |      | 2   | 2   | 2   | 2   |
| 1学年 連絡進学 | 15   | 11  | 11  | 11  | 11  |
| 2学年      | 15   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 3学年      | 15   | 0   | 0   | 0   | 0   |

\* 2・3学年は、収容定員に満たない人数を募集。

## ③ 在籍者数（2015/5/1 現在）

(単位：人)

|          | 学級数    | 在 籍 者   |          |          |
|----------|--------|---------|----------|----------|
|          |        | 男       | 女        | 計        |
| 附属名古屋中学校 | 12 (3) | 233 (8) | 243 (17) | 476 (25) |
| 1学年      | 4 (1)  | 75 (2)  | 83 (4)   | 158 (6)  |
| 2学年      | 4 (1)  | 78 (2)  | 80 (3)   | 158 (5)  |
| 3学年      | 4 (1)  | 80 (4)  | 80 (10)  | 160 (14) |

\* ( )は帰国生徒学級に係る学級数、人数を外数で示す。

## ④ 生徒の転出入等

(単位：人)

|        | 転・編入学 | 転・退学 |
|--------|-------|------|
| 一般学級   | 6     | 6    |
| 帰国生徒学級 | 10    | 0    |

## ⑤ 卒業生の進路（卒業生175人）〈2016年3月卒業生〉

附属高等学校 8人、県内公立高校 80人、県内私立高校 71人、県外公立高校 0人、県外私立高校 6人、  
他の国立大学附属高校 8人、海外 2人

## ⑥ 研究活動

- 研究発表会 2015年10月2日（金） 参加者 777人  
主 題 意識的に吟味した考えを表現することができる子どもの育成（2年次／研究期間4年）  
副 題 批判的思考を用いた授業の創造

## ⑦ 教育実習等受入

愛知教育大学実習生 74人、他大学実習生 0人

## ⑧ 国際交流

2012年度まで、本校同窓会を通じてハーバード大学生との交流会を一般生徒の国際理解教育を兼ねて実施していましたが、2013年度から名古屋大学の留学生との交流会を実施しています。帰国生徒学級の1年生が、1年生の一般学級から参加者を募り、ゲームやクイズなどを留学生と楽しむ機会となっています。帰国学級生徒は、企画・運営をし、通訳を担うことで、身に付けた語学力を発揮する場となっています。

また、1年に3回外国語補充として、名古屋大学の留学生と自己紹介やフリートーキングの時間を設け、帰国学級生徒が海外で身に付けた語学力の伸長・活用を図っています。

## ⑨ その他の活動

- ・2015年度から3年間、国立教育政策研究所教育課程研究センター事業である教育課程研究指定校として委嘱を受けました。研究課題「論理的思考」について調査研究を行い、研究成果を2月の研究協議会で報告しました。
- ・ICT教育の一層の推進を目標に、2015年度はタブレットPCを45台追加購入し、授業や学校行事等で効果的に活用しています。その結果、同一時間帯に2学級の生徒全員が使用できる環境が整いました。
- ・2年生徒6名が「あいち科学の甲子園ジュニア2015」でグランプリ賞を獲得しました。愛知代表として、12月の「第3回

科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場し、優秀な成績を収めました。

- ・生徒会役員と3年会長が協力して、「インターネットとの関わり方」をテーマに全校生徒を対象とした様々な取組をすすめ、「附中版インターネット利用時の五つの心構え」を創り上げました。

#### ⑩ 自己評価及び学校関係者評価

##### ・自己評価

行事後や前後期の節目に校内の反省・意見を集約し、見解と今後の取組についてまとめ全教員で共有しました。12月には育友会役員・委員を対象に保護者アンケートを行い、集計結果と自己評価結果を2月の育友会役員・委員総会で報告しました。本年度の重点努力目標を踏まえ、2015年度はアンケート項目を3項目変更し、適切に評価できるように工夫しました。5段階評価で各項目を合わせた平均値が4.4であり、昨年度より0.1ポイント上がりました。この結果から本校が心掛けている自主性を大切にした教師と生徒が共に創り上げる授業、行事や日々の活動について保護者からの理解が得られていると思われます。しかし、「子どもは、意欲的に授業に取り組んでいる」「附中は危険箇所や破損箇所がないよう子どもたちの安全に配慮している」の項目の点数が下がったことは、真摯に受け止め原因を分析する必要があると思います。

##### ・学校関係者評価

2月の学校評議員会の折に、保護者アンケートと教職員アンケートの集計結果を踏まえた自己評価について報告し、学校関係者（学校評議員で構成）から学校運営全般について意見を聴取しています。

- ・授業を参観し、5月と比較して温かい人間関係の中で授業が進められていることが感じられた。そのことが高い評価結果に結びついていると思う。
- ・教員アンケートと保護者アンケート結果の大きなズレに注目し、その分析と具体的な方策を考えてほしい。「公共の意識」については、教員の評価が低い。保護者が子どもたちを客観的に見ていくことが大切であると思う。
- ・保護者・教職員ともに学校のプラス面について記述することは、学校の良さを更に伸ばしていくという観点から好ましい評価の仕方である。なお、保護者の改善点や自由記述の内容については、個人的な考えなのか、全体に当てはまるものなのか、精査することが必要である。
- ・同じアンケート項目による過去との比較は大切であるが、新たな視点から評価を得ることにより発見できることがある。適宜アンケート項目の内容について見直しを図ってほしい。
- ・学校関係者の意見を踏まえた改善策
  - ・評価のための評価にならないように、また、附属名古屋中学校の良さを一層伸ばすためにアンケートの内容や対象を見直し、実効性のある学校評価のあり方についての研究を進めていきます。
  - ・「公共の意識」に関して教職員の評価が低い理由は、一年間に数件ではあるが地下鉄のマナーの悪さについて指摘する電話が入るからだと思われます。今後も定期的に地下鉄の駅の巡回を行うとともに、学校外でのマナーについて指導していきたいと思っています。
  - ・「子どもは、意欲的に授業に取り組んでいる」については、家庭での子どもの声を基に保護者が評価しているからだと思われます。子どもたちが保護者に「意欲的に取り組んでいる」と自信をもって話せるようなよりよい授業を目指し、課題設定や学習活動などを見直していきたいと思っています。
  - ・安心・安全な環境については、毎月全教員で施設設備の点検を実施し、危険箇所の改善に努めています。また、国費や後援会費を有効活用し予算の範囲内でできることから改修・修繕を実施しています。そうした具体的な内容をHP等で保護者に伝え、理解を図ることが大切であると思います。
  - ・高い評価を得たインターネットとの関わり方の取組については、青少年が事件に巻き込まれたりいじめにつながったりする事例が多いことから、単年度限りの取組にならないよう子どもたちへの啓発の仕方を工夫していきたいと思っています。
- ・評価結果等の公表方法
  - 2月の育友会役員・委員総会で報告しています。今後、よりよい公表のあり方について検討していきたいと思っています。

#### (5) 附属岡崎中学校

##### ① 教育目標

われらの学園

- ・学問と勤労を愛する学園
- ・自由と規律を重んじる学園
- ・楽しく 協力しあう学園
- ・健康で 明るい学園
- ・人と物をだいにする学園

##### ② 平成28年度入学者選抜状況（2015年度実施）

**一般学級** [出願資格] 入学時に中学校へ入学する年齢に達する見込みの者  
保護者とともに居住し、通学時間が1時間以内の者  
[選抜方法] 学力検査（国語、社会、算数、理科）、面接

（単位：人）

|         | 入学定員 | 志願者 | 受験者 (A) | 合格者 (B) | 合格倍率 (A/B) | 入学者 |
|---------|------|-----|---------|---------|------------|-----|
| 附属岡崎中学校 | 160  | 191 | 189     | 160     | 1.18 倍     | 160 |
| 一般外部    |      | 104 | 102     | 73      | 1.40 倍     | 73  |
| 連絡進学    |      | 87  | 87      | 87      | 1.00 倍     | 87  |

\* 2016年度入学定員：40人×4学級＝160人

## ③ 在籍者数 (2015/5/1 現在)

(単位: 人)

|         | 学級数 | 在 籍 者 |     |     |
|---------|-----|-------|-----|-----|
|         |     | 男     | 女   | 計   |
| 附属岡崎中学校 | 12  | 236   | 238 | 474 |
| 1 学年    | 4   | 80    | 79  | 159 |
| 2 学年    | 4   | 76    | 80  | 156 |
| 3 学年    | 4   | 80    | 79  | 159 |

## ④ 生徒の転出入等

(単位: 人)

|      | 転・編入学 | 転・退学 |
|------|-------|------|
| 一般学級 | 0     | 0    |

## ⑤ 卒業生の進路 (卒業生 159人) (2016年3月卒業生)

附属高等学校 3人、県内公立高校 95人、県内私立高校 54人、県外私立高校 3人、  
他の国立大学附属高校 0人、高等専門学校 3人、海外進学 1人、その他 0人

## ⑥ 研究活動

授業研究会 2015年10月6日(火) 参加者 1,206人  
主 題 生き方の探究(5年次/研究期間5年)  
副 題 「学んだこと」を行動につなげる中で、成長し続ける子ども

## ⑦ 教育実習等受入

愛知教育大学実習生 36人、他大学実習生 0人

## ⑧ 国際交流

2005年度より、マレーシアの私立校スリ・クアラルンプール・セカンダリー・スクールとの交流を続けています。相互交流を基本とし、親善訪問団を受け入れ、海外派遣訪問を実施してきました。7月末から8月にかけて海外派遣訪問を行い、交流を深めています。また、10月末から11月初旬かけて親善訪問団として、スリ・クアラルンプール・セカンダリー・スクールの生徒と教員の訪問を受け、生徒会の運営による全校でのウェルカムセレモニーや教室での交流を行っています。また岡崎市に住んでいる留学生を授業に招待して交流を深めています。

## ⑨ その他の活動

## ・科学教育活動

日頃から力を入れている理科教育の活動が認められ様々な賞を受賞しています。

今年度の主な受賞歴は次のとおりです。

- ・第46回市村アイデア賞市村アイデア優秀賞
- ・第17回全国ジュニア発明展優良賞
- ・あいち科学の甲子園ジュニア2015敢闘賞

## ⑩ 自己評価及び学校関係者評価

学校の評価活動として、教員の自己評価に加え、保護者と生徒を対象に無記名のアンケート調査を2015年11月下旬に行いました。概要は次のとおりです。

生徒のアンケート結果からは、「授業で子どもを育てていく」視点から反省すべき点が多く見つかりました。これに対し、研究の基盤となっている、「はじめに子どもありき」の教育を、再度、見直しました。そして、本校が大切にしている生活教育のもと、子どもを主体とした問題解決型の学習の充実に向け、次の点に取り組んでいきます。

- ・子どもにしっかりと寄り添い、子どもの思いや考え、願いを的確に捉えて、次の授業計画に盛り込む。
- ・子どもに寄り添う時間を生み出すために、学年主任や教科主任を中心に時間をコーディネートし、先を見通した取り組みを進める。

保護者のアンケート結果からは、学校の情報をもっと知りたいという声が多いことが分かりました。これについて、教職員は生徒をとらえて確実に行っていると感じていますが、家庭側ではそのように受け取られていないことが判りました。保護者が必要としている情報が、十分伝わっていないことから、「教員 → 子ども → 保護者」のラインがうまく機能していないこと等が考えられます。これには、思春期にある中学生の特性として保護者に話にくい状況があることが考えられます。そこで、ホームページを活用した情報の発信や学年通信の充実を図ることで対応し、保護者と学校の信頼関係を構築しています。

また、部活動の機能が十分でないと考えている声が多いことが分かりました。これまでも教員が十分に活動を見守れたわけではありませんが、キャプテンを中心に練習メニューを考え、仲間との充実した時間を過ごしていました。附属岡崎中学校の部活動のあり方を、子どもも教員ももう一度、見直す必要があります。その中で、子どもが、自分たちがつくりあげる部活動という意識で取り組むという自治意識育成の視点をもって今後も取り組んでいきます。

教員の自己評価からは、「学校は生徒の将来に必要な技能を身につける教育活動を行っている」の数値が上がっており、自信をもって教育活動が行われていることを裏付けています。しかし、子どもが主体となるべき授業がこぞんまりとしてきてはいないかと危惧される一面があることは否めません。ダイナミックで魅力ある授業の展開、その中でのびのびと力を伸ばす子どもの姿を大切にしたいと考えます。そのためには先に述べた問題解決型の学習による授業を充実させることが必要となります。さらに、取り上げる教材や単元も、新規性、提案性のあるものをつくり上げることが必要であり、教員が日々の教材研究に励むことが重要と考えます。

そして、これらの活動に対する学校関係者評価の概要は次のとおりです。

- ・子どもの価値観が昔と今とは違う。しかし、授業という活躍の場を保障することが大切であることは変わらない。
- ・「学校に来るのが楽しい」という項目の、親と子と教師の認識のズレをどのように捉えていくかが大切である。
- ・大人が、教員が、これくらいだろうと限界を決めない。子どもはどこまでやれるのだろうとわくわくしながら楽しむもの。自分のことばで語る子を育てたい。
- ・市内の他の中学校との比較で親は考えてしまうが、成果を性急に求めないことが大切である。
- ・就職した長男は、職場で「どうしたら自分の考えを伝えられるか」と考えるようになったのは、附岡中で学んだからと言って。やはり、すぐに成果、結論が出るようなものではない。成人式などでアンケートをとってみると検証できるかもしれない。負ばかりを捉えるのではなく、附岡中のよさを拡大することを考えていくことで評価が上がるのではないか。
- ・部活動のあり方については、学校の基本的な方針が保護者に伝わるよう部活動の位置づけを明確にしておく必要がある。

このような学校評議員会の議論をもとに、今後、次の点に取り組んでいきます。

- ・部活動の方針は、今後、大きく変更されるものではない。学校説明会等を活用し、本校の実情を入学希望者に伝えるとともに、それに変わる本校の魅力を発信する。
- ・在校生に附属中で学ぶことの価値を実感させる。そのために、卒業生を招くなど、本校に関わりのある方からの話を聞く機会を設けることを検討する。また、子ども主体の授業を引き続き展開する。なお、その中で「教師のあり方」をしっかりと見直し、子どもの思いを大切にしたい学習が展開できるように改善する。

これら一連の評価活動を基に、子どもが心から楽しみ、自らの成長を喜び、満足できた実践であったか、これらがすべての項目の数値を上げる要因であることを真摯に受け止め、普段の教育活動の中で改善策を考えていく必要があることを念頭に学校運営を進めます。

## (6) 附属高等学校

### ① 教育目標

- ・あたたかい人間になろう
- ・たくましい人間になろう
- ・おおらかな人間になろう

### ② 平成28年度入学者選抜状況（2015年度実施）

#### 一般選抜

- [出願資格] 愛知県内の中学校を卒業（見込みを含む）し、入学後、愛知県内に保護者とともに居住し、自宅から通学する者  
[選抜方法] 書類審査及び学力検査（国語、数学、英語（リスニング含））、面接

#### 推薦選抜

- [出願資格] 愛知県内の中学校を卒業する見込みの者で、一般選抜の出願資格を満たし、中学校長が推薦する者  
[選抜方法] 書類審査、作文、面接

#### 海外帰国生徒選抜

- [出願資格] 海外の学校生活が2年以上であり、帰国後2年以内での者で、中学校を卒業（見込みを含む）し、入学後、愛知県内に保護者と共に居住し、自宅から通学する者  
[選抜方法] 書類審査及び学力検査（国語、数学、英語（リスニング含む））、面接

#### 附属中学校連絡入学選抜

- [出願資格] 愛知教育大学の附属中学校を卒業する見込みの者で、中学校長が推薦する者  
[選抜方法] 書類審査、課題作文、面接

（単位：人）

|             | 入学定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 合格倍率   | 入学者 |
|-------------|------|-----|-----|-----|--------|-----|
| 附属高等学校      | 200  | 264 | 263 | 200 | 1.32 倍 | 200 |
| 一般選抜        |      | 187 | 186 | 128 | 1.45 倍 | 128 |
| 推薦選抜        |      | 70  | 70  | 65  | 1.08 倍 | 65  |
| 海外帰国生徒選抜    |      | 1   | 1   | 1   | 1.00 倍 | 1   |
| 附属中学校連絡入学選抜 |      | 6   | 6   | 6   | 1.00 倍 | 6   |

\* 2016年度入学定員：40人×5学級＝200人

### ③ 在籍者数（2015/5/1 現在）

（単位：人）

|        | 学級数 | 在 籍 者 |     |     |
|--------|-----|-------|-----|-----|
|        |     | 男     | 女   | 計   |
| 附属高等学校 | 15  | 228   | 367 | 595 |
| 1 学年   | 5   | 77    | 123 | 200 |
| 2 学年   | 5   | 76    | 125 | 201 |
| 3 学年   | 5   | 75    | 119 | 194 |

### ④ 生徒の転出入等

（単位：人）

|      | 転・編入学 | 転・退学 |
|------|-------|------|
| 一般学級 | 0     | 5    |

## ⑤ 卒業生の進路（卒業生 193人）〈2016年3月卒業生〉

国立大学 33人、公立大学 6人、県内私立大学 108人、県外私立大学 13人、短期大学 8人、専修学校 15人  
就職 1人、その他 9人

## ⑥ 研究活動

研究発表会 2015年11月11日（水） 参加者 155人  
主 題 自立した学びのために（3年次／継続研究）  
副 題 学びの喜びを感じられる授業開発

## ⑦ 教育実習等受入

愛知教育大学実習生 183人、他大学実習生 2人

## ⑧ 国際交流

2008年に大韓民国ソウル市の建国大学校師範大学附属高等学校と国際学術交流協定を締結しました。これは、1988年の海外修学旅行に始まる訪問活動により、1990年から交流先の教員が毎年来校し、相互交流が続いたことから締結したものです。しかし、新型インフルエンザの世界的大流行の影響から、2009年以降の交流活動は途絶えており、現在に至っています。

一方、2014年度からオーストラリアのメルボルンにある男女共学の私立学校 Ivanhoe Grammar School との交流事業を始めました。2015年度は本校からは1年生及び2年生の6人を夏季休業中の17日間派遣しました。また、ホームステイ先のホストファミリーが2016年1月に派遣生徒宅でホームステイを行いながら、本校を訪問し、授業を通して研修を行いました。総合的な学習の時間に、生徒が留学生に百人一首を紹介したり、書道では筆の持ち方や書き方を教えました。また、英語落語家を招いて実演や指導も行いました。日本文化の理解を深めると共に、本校生徒にとっても異文化交流や英語活用能力の向上に役立つものと期待されます。

## ⑨ その他の活動

## ・中高生の科学研究実践活動推進プログラム

高校と大学等が連携・協働し、高校生自ら課題を発見し、科学的な手法にしたがって進める「科学研究実践活動」の継続的な取り組みを推進する目的で設けられた科学技術振興機構の次世代人材育成事業です。本校は2015年度に採択され、次の4つの研究に取り組んでいます。

- ① 再分化によるカキソバタの保全
- ② 自らの体を知り、自らを伸ばすスポーツ科学への挑戦
- ③ 宇宙天気予報から南極と北極のオーロラ比較
- ④ 屋上の遮熱効果に関する研究

## ・高大連携事業

附属高校が大学の敷地内にあるというメリットを活かし、大学と協働ですすめている「高大接続」についての研究事業です。将来教職を志望する者を対象に、多角的に学問の面白さに触れさせる観点から、まず、2年生の希望者が大学教員による講義「スクール」を18講座受講します。3年生では、2年次に18講座を受講した者の中から、大学で志望する専門分野とそれ以外の2分野を加えて、大学教員による講義「チャレンジ」を受講します。これは、小学校教員の養成を主とする大学の幅広い研究分野を体験した後、自分が望む専門分野を中心に大学の学びを意識しながら学習を進めるものですが、将来、教職を目指すために教員養成大学へ進学するための準備段階となります。2015年度は、「スクール」に54人、「チャレンジ」には11人が参加しました。

## ・愛知教育大学研究室訪問

2015年度から第1学年の200名が愛知教育大学の研究室を訪問し、大学での講義や実験等を直接体験する取組を行っています。幅広い分野の研究に触れることで、生徒の興味・関心を引き出し、物事を深く考える姿勢を養うことを目的としています。事後のアンケートでも9割の生徒が「良かった」と答えています。

## ・サタデー・ボランティア

2002年度から、「共生の心を育む」ことを目的として、主に土曜日を活動日として、予め登録した生徒対象でボランティア活動を行ってきました。しかし、最近は部活動が活発となり、登録者が参加できないケースが増えたため2014年度から全体に案内をするようにしました。内容は、地域の資源回収、ゴミ拾い、福祉施設での手伝いや社会福祉協議会と連携した活動などです。2015年度は、8回のボランティア活動を実施し、のべ53人が参加しました。

## ・ユネスコスクール

「平和教育」「国際理解・貢献」「地域理解・貢献」の3つの柱を作り、2年生の沖縄への修学旅行での世界遺産についての理解と平和学習、オーストラリアのメルボルンにある Ivanhoe Grammar School との交流活動、そして、地域の資源回収活動や資源保護活動を行いました。これらの活動が評価され、2014年からユネスコスクールとして認定され、ESDに関わる活動の推進を図っています。

## ・ICT活用

2015年度にiPadが45台配備され、普通教室においても生徒全員が、一人一台のタブレットを使って授業を行うことが可能となりました。地歴公民科では政治・経済の授業で「株式学習ゲーム」に使用したり、地理の授業でワールドカフェ方式を取り入れた「ワールドツアー」（世界の観光業）を行ったり、家庭科で料理レシピのコミュニティウェブサイトを利用した事前調べなど、様々な授業にiPadを取り入れて、活用しています。

## ⑩ 自己評価及び学校関係者評価

## ・教職員の自己点検評価

生徒指導面では遅刻者数や身だしなみ等の項目で比較的良好な状態が保たれていると評価しています。学習面では、週課題やS Tテストなど計画的に実施できていますが、やや形骸化している部分もあり、そろそろ検討の時期に来ているという指摘があります。また、学校行事について生徒の主体性を生かした取組や精選が課題としてあげられます。研究促進という観点からは、教職員間で、研究に対する温度差が見られるため、より一層の研究意識の醸成や情報提供等を行っていく必要があると考えています。

## ・保護者による学校評価

2015年度から保護者による学校評価アンケートを実施しました。学習指導、生徒指導、進路指導に対する評価はおおむね良好でしたが、本校の教育活動方針やP T A活動内容についての認知度は低い結果となりました。従って、学校から外部への情報発信を活発に行う必要があると考えています。

## ・学校評議員による学校評価

落ち着いた良い学校というイメージがある一方、他の普通高校にはない附属高校の特色が出せると良いという意見がありました。また、主権者教育に向けて高校での役割が今後大きくなると予想できるので、しっかり取り組んで欲しいという要望を頂きました。全国的に不登校の生徒が増加しているため、楽しく学校に通える環境作りに力を入れて欲しいという要望も頂きました。

## (7) 附属特別支援学校

## ① 教育目標

子どもの発達に応じ、基礎的な生活能力および態度を養い、情操を高め、一人一人が可能性を十分発揮して、社会で自立できる力を育てる。

## ② 平成28年度入学者選抜状況（2015年度実施）

[出願資格] 知的な障害のある者で、小学校・中学校・高等学校に準ずる教育を受けることが適当であり、次に該当する者。

**小学部** 入学時に小学校へ入学する年令に達する見込みであり、かつ、通学時間が約1時間以内に居住し、安全に通学できる者

**中学部** 入学時に中学校へ入学する年令に達する見込みであり、かつ、通学時間が約1時間以内に居住し、安全に通学できる者

**高等部** 中学校又は特別支援学校中学部を卒業、又は、3月に卒業見込みであり、かつ、通学時間が約1時間30分以内に居住し、安全に通学できる者

[選抜方法] 次の結果をもとに、総合的に判断し、決定する。

集団での行動観察、学習能力検査等

社会生活能力や家庭状況についての面接（保護者及び本人）

医師の問診（内科、整形外科、精神科）

(単位：人)

|          | 入学定員 | 志願者 | 受験者 (A) | 合格者 (B) | 合格倍率 (A/B) | 入学者 |
|----------|------|-----|---------|---------|------------|-----|
| 附属特別支援学校 | 17   | 18  | 18      | 18      | 1.00 倍     | 18  |
| 小学部      | 3    | 1   | 1       | 1       | 1.00 倍     | 1   |
| 中学部      | 6    | 5   | 5       | 5       | 1.00 倍     | 5   |
| 一般外部     |      | 3   | 3       | 3       | 1.00 倍     | 3   |
| 連絡進学     |      | 2   | 2       | 2       | 1.00 倍     | 2   |
| 高等部      | 8    | 12  | 12      | 12      | 1.00 倍     | 12  |
| 一般外部     |      | 7   | 7       | 7       | 1.00 倍     | 7   |
| 連絡進学     |      | 5   | 5       | 5       | 1.00 倍     | 5   |

## ③ 在籍者数（2015/5/1 現在）

(単位：人)

|          | 学級数 | 在 籍 者 |    |    |
|----------|-----|-------|----|----|
|          |     | 男     | 女  | 計  |
| 附属特別支援学校 | 9   | 44    | 16 | 60 |
| 小学部      | 3   | 11    | 3  | 14 |
| 1 学年     | 1   | 0     | 2  | 2  |
| 2 学年     |     | 2     | 0  | 2  |
| 3 学年     | 1   | 3     | 0  | 3  |
| 4 学年     |     | 2     | 0  | 2  |
| 5 学年     | 1   | 2     | 1  | 3  |
| 6 学年     |     | 2     | 0  | 2  |
| 中学部      | 3   | 14    | 1  | 15 |
| 1 学年     | 1   | 4     | 1  | 5  |
| 2 学年     | 1   | 5     | 0  | 5  |
| 3 学年     | 1   | 5     | 0  | 5  |
| 高等部      | 3   | 19    | 12 | 31 |
| 1 学年     | 1   | 6     | 5  | 11 |
| 2 学年     | 1   | 8     | 2  | 10 |
| 3 学年     | 1   | 5     | 5  | 10 |

## ④ 児童・生徒の転出入等

(単位：人)

|     | 転・編入学 | 転・退学 |
|-----|-------|------|
| 小学部 | 0     | 0    |
| 中学部 | 0     | 0    |
| 高等部 | 0     | 0    |

## ⑤ 卒業生の進路（卒業生：小学部 2人、中学部 5人、高等部 10人）〈2016年3月卒業生〉

小学部 本校中学部 2人

中学部 本校高等部 5人

高等部 就職 2人、その他 8人（障害者支援施設 8人）

## ⑥ 研究活動

研究発表会 2015年11月6日（金） 参加者 400人

主 題 自ら学ぶ子どもの姿を求めて（1年次／研究期間5年）

副 題 子どもをとらえる視点

## ⑦ 教育実習等受入

愛知教育大学実習生 28人、他大学実習生 0人

## ⑧ 国際交流

特記事項なし

## ⑨ その他の活動

情報教育の重要性をふまえ、文部科学省への申請によって、高等部生徒に1台ずつタブレットを用意することができた。高等部3年を中心に、それぞれの子どもたちの発達段階や能力に応じて、タブレットを使用している。また、タブレットのみならず、パソコンの操作やその他周辺機器の扱いなど、子どもの就労も意識して、その子に合わせた情報教育を行うことができています。

## ⑩ 自己評価及び学校関係者評価

本校では、よりよい学校づくりのため、自己評価（本校教職員）と併せて、学校とともに子どものことを考え、それぞれの立場や視点から意見を聴取して学校関係者評価（保護者、学校評議員）を2015年2月に実施しました。評価結果の概要と今後の方針は、次のとおりです。

## ・教職員の自己点検・評価

ほとんどの項目で高い評価となりましたが、2014年度同様「外部機関との連携」の評価は低いものでした。

このことに関し、保護者とともに子どもが利用している医療機関を訪問し、指導・助言を受ける機会を設けました。引き続き教職員全員の意識を高める必要があると認識しています。

## ・保護者による評価

教育活動は、高い評価を得ました。また、学校運営や父母教師会活動についても概ね高評価でした。これは、保護者会や学級通信の充実を図った結果と考えています。

一方、学校評議員や関係諸機関との連携については、分からないという回答が多く見られました。これは、学校評議員会は保護者が直接参加する機会ではないためと考えます。学校評議員会の意見を父母教師会役員・理事会を通じて、全保護者に伝える機会を設けたいと考えています。

## ・学校評議員による評価

一人一人の子どもを大切に指導や地域の特別支援教育の推進など、学校の運営方針については高い評価でした。

また、研究に対する取り組みには一定の評価を得ましたが、発達障がいや特別支援教育について教職員が今まで以上に学び、日々の教育に活かしてほしいとの意見がありました。これについては、今後、大学の障害児教育講座等へ働きかけたいと考えています。

なお、「平成27年度学校評価のためのアンケート」結果については、本校のウェブサイトに掲載しています。

## 2 年度計画の実施状況

年度計画への取組、教職員の労働環境・安全対策向上を図る取組及び教育研究活動を推進する取組は以下のとおりです。

## (1) 年度計画への取組状況

## ① 附属学校規則の見直し

附属名古屋中学校では、2学期制を実施し、前期と後期の間に2日間の休業日設けていることから、附属学校の休業日に秋季休業を追記しました。

## ② 危機管理マニュアルの見直し

事故発生時における大学と附属学校の対応マニュアル及び重大事故が発生したときの対応マニュアルを策定しました。

## ③ ESDに関するユネスコのイベントへの参加

ESDに関するユネスコの各種イベントに次のとおり児童生徒や教諭が積極的に参加しました。

・平成27年度愛知県ユネスコスクール交流会のポスターセッションに附属岡崎中学校の生徒が参加し、同校の特色ある取り組みについて発表しました。

・愛知県ユネスコスクール指導者交流会において、附属名古屋小学校及び附属岡崎中学校の教諭がユネスコスクール活動の実践

発表を行いました。

#### ④ 教育実習環境の改善検討

大学教員と協働して教育実習の事前指導の充実策を検討するとともに、附属学校教員を含めたFDを開催しました。

#### ⑤ 大学教員の附属学校教員との教育研究活動推進

学長裁量経費の獲得により、大学教員が附属学校に出向いて活動する旅費を支援したことで、延べ162名の大学教員が各附属学校の教育研究発表会へ参加し、研究交流を深めることができました。

#### ⑥ 附属学校の教育研究、教育実習等の内容のまとめ及び地域貢献度の検証

附属学校における教育研究、教育実習、評価活動等を自己点検評価報告書にまとめました。

#### ⑦ 附属学校のいじめ防止対策の検討

附属学校において、いじめ問題プロジェクト（担当：教育臨床総合センター及び教職実践講座）による「いじめ・不登校に関わるアンケート」を実施しました。

#### ⑧ 附属学校の組織・運営の見直し

昨年度提出された附属学校の新たな活性化案について、実施に向けた検討を始めました。

### (2) 教職員の労働環境・安全対策向上を図る取組状況

附属学校教員の労働環境について、勤務に関するアンケートを実施、業務改善に向けた基本方針を策定し、学校毎に業務改善策を取り纏めることとしました。

また、仙台市教育委員会学校教育部学びの連携推進室の室長を講師に招き「東日本大震災 子どもたちを支え続けて」をテーマに附属学校の安全対策に関する研修会を行いました。

### (3) 教育研究活動を推進する取組状況

国レベルの拠点校、地域のモデル校に向けて、国の教育研究開発学校等の公募に関する各種情報を収集し、各附属学校に周知・提供しました。これに対し、国が公募する「平成27年度教育課程研究指定校事業」に附属名古屋中学校、「平成27年度中高生の科学研究実践活動推進プログラム」に附属高等学校が応募し、2校とも採択されテーマに基づいた研究活動が行われました。また、昨年度採択された附属名古屋中学校の「ICTを活用した教育の推進に資する実証事業」の研究成果を、12月5日に開催された「eスクールステップアップ・キャンプ2015」において、同校の教諭がデジタルポスターセッションを行いました。

このほか、次年度に向けて文部科学省の「平成28年度学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」に、岡崎地区附属学校（附属岡崎小学校、附属岡崎中学校、附属特別支援学校）が応募、「平成28年度研究開発学校事業」に名古屋地区附属学校（附属幼稚園、附属名古屋小学校、附属名古屋中学校）が応募する等、2015年度の採択実績を励みとして各附属学校の研究活動が活発化しています。

一方、科学研究費助成事業（奨励研究）では、附属学校全体の申請件数が、2014年度57件でしたが2015年度は60件に増加し、採択件数は3件となりました。2011年度（2010年度募集）から申請件数の増加を目指し、申請内容を充実させるため申請のポイントや資料作成方法等に関する説明会を行いました。

2015年度 科学研究費助成事業（奨励研究）採択状況

（申請：2014年度）

| 区 分      | 申請状況   |         |           | 採択状況   |          |          |
|----------|--------|---------|-----------|--------|----------|----------|
|          | 件数 (a) | 教員数 (b) | 申請率 (a/b) | 件数 (c) | 採択率(c/a) | 内定額 (千円) |
| 附属幼稚園    | 0      | 6       | 0%        | 0      | 0%       | 0        |
| 附属名古屋小学校 | 12     | 36      | 33%       | 2      | 16%      | 1,000    |
| 附属岡崎小学校  | 10     | 25      | 40%       | 0      | 0%       | 0        |
| 附属名古屋中学校 | 2      | 31      | 6%        | 0      | 0%       | 0        |
| 附属岡崎中学校  | 18     | 26      | 69%       | 1      | 5%       | 600      |
| 附属高等学校   | 9      | 35      | 25%       | 0      | 0%       | 0        |
| 附属特別支援学校 | 9      | 29      | 31%       | 0      | 0%       | 0        |
|          | 60     | 188     | 31%       | 3      | 5%       | 1600     |

\* 教員数は、2015/5/1 現在の現員数で、校長を除く。

この他、2012年度の附属高等学校、2013年度の附属岡崎小学校、2014年度附属名古屋中学校に続き、附属名古屋小学校の教員が、長年にわたる教育研究の成果を認められ、2015年度文部科学大臣優秀教員として表彰されました。附属学校の教員が国の優秀教員として4年連続して表彰されたことは、附属学校教員の教育研究推進への大きな励みとなっています。

## 第10章 施設・設備

### 1 施設整備の状況

#### (1) 教育研究活動に必要な施設・設備の状況

##### ① 土地面積、校舎面積 2015/5/1 現在

| 土地面積     | 大学キャンパス                | 設置基準*1                |
|----------|------------------------|-----------------------|
| 校舎敷地面積   | 213,696 m <sup>2</sup> |                       |
| 運動場用地    | 106,346 m <sup>2</sup> |                       |
| 校地面積 計   | 320,042 m <sup>2</sup> | 38,420 m <sup>2</sup> |
| その他 敷地面積 | 117,352 m <sup>2</sup> |                       |
| 合 計      | 437,394 m <sup>2</sup> |                       |

\*1 大学設置基準第37条により必要とされる土地面積

##### 2015/5/1 現在

| 校舎面積     | 大学キャンパス               | 設置基準*2               |
|----------|-----------------------|----------------------|
| 必置施設校舎   | 62,072 m <sup>2</sup> |                      |
| なるべく設置校舎 | 567 m <sup>2</sup>    |                      |
| 校舎面積 計   | 62,639 m <sup>2</sup> | 15,012m <sup>2</sup> |
| その他 建物面積 | 21,693 m <sup>2</sup> |                      |
| 合 計      | 84,332 m <sup>2</sup> |                      |

\*2 大学設置基準第37条の2により必要とされる校舎面積

##### ② 講義室等

2015/5/1 現在

| 教員研究室 | 大学設置基準 36条1項2号 施設 |       |       | 大学設置基準 36条4項 施設 |        |
|-------|-------------------|-------|-------|-----------------|--------|
|       | 講義室               | 演習室   | 実験実習室 | 情報処理学習施設        | 語学学習施設 |
| 292 室 | 69 室              | 128 室 | 250 室 | 13 室            | 8 室    |

##### ③ 体育施設

| 運動施設等       | 面 積 (m <sup>2</sup> ) | 主な用途                     |
|-------------|-----------------------|--------------------------|
| 第一体育館       | 1,400                 | バスケットボールコート2面設置可能        |
| 第二体育館       | 1,199                 | バレーボールコート2面設置可能          |
| 体育館附属棟      | 773                   | 卓球台10台設置可能               |
| 武道場・柔道場・剣道場 | 575                   | 柔道、剣道各一試合可能              |
| トレーニングセンター棟 | 463                   | トレーニング                   |
| 陸上競技場       | —                     | 400m 8レーン、100m 9レーン、全天候型 |
| 野球場         | —                     | 野球場1面                    |
| サッカー場・ラグビー場 | —                     | サッカー場2面、ラグビー場1面          |
| ハンドボール場     | —                     | ハンドボール場2面                |
| 水泳プール       | —                     | 50m 9レーン                 |
| テニスコート      | —                     | 全天候2面、クレー10面             |

#### (2) 耐震化等の整備状況

##### ① 耐震化の整備状況 (2009年度末～2015年度末の比較)

| 耐震改修状況<br>主な改修施設 | 2009年度末 (第1期末) |        | 2015年度末 |        |
|------------------|----------------|--------|---------|--------|
|                  | 総面積            | 耐震化率   | 総面積     | 耐震化率   |
| 大学               | 81,641㎡        | 83.6%  | 85,668㎡ | 100.0% |
| 附属学校             | 42,383㎡        | 87.47% | 42,437㎡ | 100.0% |
| 附属幼稚園            | 913㎡           | 100.0% | 913㎡    | 100.0% |
| 附属名古屋小学校         | 7,218㎡         | 88.72% | 7,232㎡  | 100.0% |
| 附属岡崎小学校          | 7,014㎡         | 78.76% | 7,014㎡  | 100.0% |
| 附属名古屋中学校         | 7,569㎡         | 84.15% | 7,569㎡  | 100.0% |
| 附属岡崎中学校          | 6,533㎡         | 87.12% | 6,546㎡  | 100.0% |
| 附属高等学校           | 9,143㎡         | 100.0% | 9,143㎡  | 100.0% |
| 附属特別支援学校         | 3,993㎡         | 73.67% | 4,020㎡  | 100.0% |

##### ② 障害者支援設備 整備状況

2016/3/31 現在

| 設備名                        | 達成率 *1  |        |        |
|----------------------------|---------|--------|--------|
|                            | 大 学     | 附属学校   | 合 計    |
| 身障者トイレ                     | 93.8 %  | 71.4 % | 87.0 % |
| エレベーター／車椅子用階段昇降機／車椅子用段差解消機 | 85.7 %  | 25.0 % | 72.2 % |
| スロープ                       | 100.0 % | 28.6 % | 81.5 % |
| 自動ドア                       | 84.2 %  | 28.6 % | 69.2 % |
| 専用駐車場                      | 36.8 %  | 0.0 %  | 26.9 % |
| 視覚障害者誘導用ブロック               | 35.7 %  | 0.0 %  | 23.8 % |

\*1 達成率 大学：設置済建物数 ÷ 設置対象建物数 附属学校：設置済学校数 ÷ 設置対象学校数

## (3) 講義室の使用状況

2015年度全学共通講義室授業使用状況（集中講義等を除く）

\* 稼働率(%)=使用状況 ÷ 年間時限数36

## ① 第一共通棟

| 室名  | 稼働率<br>(%) | 収容<br>人数 | 室名  | 稼働率<br>(%) | 収容<br>人数 | 室名  | 稼働率<br>(%) | 収容<br>人数 |
|-----|------------|----------|-----|------------|----------|-----|------------|----------|
| 103 | 97.2       | 64       | 201 | 88.9       | 204      | 301 | 80.6       | 200      |
| 104 | 91.7       | 64       | 202 | 63.9       | 40       | 303 | 77.8       | 126      |
| 105 | 94.4       | 64       | 203 | 83.3       | 64       | 304 | 88.9       | 64       |
| 106 | 19.4       | 64       | 204 | 83.3       | 64       | 305 | 80.6       | 64       |
| 107 | 88.9       | 64       | 205 | 80.6       | 64       | 306 | 88.9       | 64       |
| 108 | 91.7       | 64       | 206 | 83.3       | 64       | 307 | 75.0       | 64       |
| 109 | 88.9       | 64       | 207 | 86.1       | 64       | 308 | 83.3       | 64       |
| 111 | 69.4       | 72       | 208 | 86.1       | 64       | 309 | 75.0       | 64       |
| 112 | 77.8       | 72       | 209 | 94.4       | 64       | 310 | 77.8       | 90       |
| 113 | 83.3       | 63       | 210 | 91.7       | 90       | 311 | 80.6       | 90       |
| 114 | 86.1       | 90       | 211 | 91.7       | 90       | 312 | 80.6       | 90       |
| 115 | 75.0       | 90       | 212 | 94.4       | 90       | 313 | 63.9       | 56       |
|     |            |          | 213 | 86.1       | 90       | 314 | 50.0       | 56       |
|     |            |          | 214 | 86.1       | 90       | 315 | 58.3       | 56       |
|     |            |          | 215 | 80.6       | 90       |     |            |          |

## ② 第二共通棟

| 室名  | 稼働率<br>(%) | 収容<br>人数 |
|-----|------------|----------|
| 411 | 50.0       | 204      |
| 412 | 52.8       | 72       |
| 421 | 50.0       | 204      |
| 422 | 52.8       | 80       |
| 431 | 55.6       | 303      |

## ③ 教育未来館

| 室名  | 稼働率<br>(%) | 収容<br>人数 |
|-----|------------|----------|
| 2 A | 41.7       | 64       |
| 3 A | 72.2       | 24       |
| 3 B | 30.6       | 24       |
| 3 C | ※          | 104      |

\* 106 講義室は、自習室 A としても併用している。

\* 3C 講義室は、就職相談対応に充てられた。

## (4) 自主的学習環境スペースの整備状況

自主的学習環境スペース（全学共通）設置状況

2016/3/31 現在

| 棟名             | 目的・用途                               | 室名・設備状況                                                                     | 利用状況                                                                |
|----------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 第一共通棟          | 学習<br>学習<br>学習 休息<br>学習 休息<br>学習 休息 | 自習室 A (106)<br>自習室 B (110)<br>2F リフレッシュスペース<br>3F リフレッシュスペース<br>1F 中庭ウッドデッキ | 学習用個人机 64 席<br>PC、プリンタ設置<br>丸テーブル・椅子<br>丸テーブル・椅子<br>屋外テーブル・椅子       |
| 教育未来館          | 学習<br>学習<br>学習 休息                   | 教職大学院第 1 学生自習室<br>教職大学院第 2 学生自習室<br>2F ホール                                  | 机、椅子、PC、プリンタ、無線 LAN、ホワイトボード<br>机、椅子、PC、プリンタ、無線 LAN、ホワイトボード<br>丸テーブル |
| 附属図書館          | 学習<br>学習 休息<br>学習 休息                | 2F 自由閲覧室 32 席<br>2F 玄関入口ラウンジ<br>玄関前広場                                       | 無線 LAN<br>無線 LAN、テーブル・椅子、TV<br>屋外テーブル・椅子                            |
| I C T 教育基盤センター | 学習<br>学習<br>学習<br>学習                | 2F 第 1 P C ルーム<br>3F 第 2 P C ルーム<br>3F 第 3 P C ルーム<br>3F 第 4 P C ルーム        | PC 50 台、無線 LAN<br>無線 LAN<br>PC 30 台、無線 LAN<br>無線 LAN                |
| 大学会館           | 休息                                  | 1F ホール・共同談話室                                                                | 開館時間 9:00~20:00                                                     |
| 第一福利施設         | 休息                                  | くつろぎラウンジ                                                                    | テーブル・椅子                                                             |
| 第二福利施設         | 学習                                  | 2F 学習スペース                                                                   | 無線 LAN、プロジェクター・スクリーン                                                |
| 美術第一実習棟        | 休息                                  | 2F ラウンジ                                                                     | テーブル・椅子                                                             |

## (5) 改修工事等の実施状況

| 施設整備費補助金                                                         | 学内経費                     |
|------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| ① (井ヶ谷) 教育総合棟改修                                                  | ① (井ヶ谷) 自然科学棟等ひる石除去      |
| ② (井ヶ谷) 教育総合棟外部パブリックスペース整備                                       | ② (六供) 附属岡崎小学校屋上防水       |
| ③ (井ヶ谷) 大学会館耐震改修                                                 | ③ (大幸) 照明設備改修 (附属名古屋中学校) |
| ④ 非構造部材耐震対策 (附属岡崎中学校屋内運動場, 附属岡崎小学校体育館, 附属特別支援学校体育館, 附属名古屋中学校体育館) | ④ (大幸) 照明設備改修 (附属名古屋小学校) |
| 国立大学財務・経営センター施設費交付事業費                                            | ⑤ (井ヶ谷) 講堂床改修            |
| ① 非構造部材耐震対策 (附属岡崎小学校特別教室)                                        | 寄附金                      |
| ② (井ヶ谷) 保健環境センター棟内装改修                                            | ① 厩舎新営                   |
| 目的構立金                                                            |                          |
| ① (井ヶ谷) 学生寮管理棟改修                                                 |                          |
| ② (井ヶ谷) 大学会館便所等改修                                                |                          |
| 運営費交付金                                                           |                          |
| ① (井ヶ谷) 情報処理センター棟内装改修                                            |                          |

## 2 中期的視点における施設整備計画

### ① キャンパスマスタープラン

愛知教育大学施設整備計画（マスタープラン） 計画項目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1 施設整備の基本方針</b><br>「愛知教育大学の理念・目標」<br><b>2 施設整備の考え方</b><br>(1) キャンパス計画図（ゾーニング）（大学・附属学校）<br>(2) 保存緑地及び駐車場計画<br><b>3 老朽改善・耐震補強の施設整備計画</b><br>(1) 施設の老朽状況について<br>(2) 施設の耐震補強について<br><b>4 建物の施設整備計画</b><br>(1) 建物整備計画図（大学・附属学校）<br><b>5 基幹整備の基本方針</b><br>(1) 電気設備の整備計画<br>(2) 情報通信の整備計画<br>(3) 機械設備の整備計画<br><b>6 体育施設の整備計画</b><br><b>7 構内サイン計画</b><br><b>8 身障者対策の整備計画</b><br><b>9 施設マネジメントの体制</b><br><b>10 施設や基盤整備の整備に当たっての現在の問題点</b> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### ② キャンパス整備6ヶ年計画

愛知教育大学 キャンパス整備6ヶ年計画（2010～2015年度） 計画項目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| はじめに～キャンパス整備6ヶ年計画の主旨<br><b>1. キャンパス整備6ヶ年計画の基本目標</b><br>1.1 計画の作成の経緯<br>1.2 キャンパス整備6ヶ年計画のコンセプト<br>1.3 実行力のあるプランとするために<br>1.4 キャンパス整備6ヶ年計画の考え方<br><b>2. キャンパス整備6ヶ年計画</b><br><b>2.1 安全対策・機能改善プラン</b><br>2.1.1 耐震補強<br>2.1.2 屋上防水<br>2.1.3 外壁・外部建具<br>2.1.4 インフラ<br>2.1.4.1 電気設備<br>2.1.4.2 給水設備<br>2.1.4.3 排水設備<br>2.1.4.4 ガス設備<br>2.1.5 体育施設<br>2.1.6 障害者対策<br>2.1.7 災害時緊急対策<br>2.1.7.1 消火設備<br>2.1.7.2 火災報知・非常放送・発電設備<br><b>2.2 居住環境改善プラン</b><br>2.2.1 便所改修<br>2.2.2 内装改修 | <b>2.3 省エネルギー・環境改善プラン</b><br>2.3.1 照明設備等省エネ対策<br>2.3.2 空調設備省エネ対策<br>2.3.3 ボイラ設備省エネ対策<br>2.3.4 交通対策<br>2.3.5 広場・緑地<br>2.3.6 サイン<br><b>2.4 建物新営プラン</b><br>2.4.1 建物新営プラン<br><b>3. 施設整備維持管理プラン</b><br><b>3.1 保全業務</b><br>電気・電話・防火防災設備保全業務について<br>給水設備・排水処理施設保全業務について<br>空気調和設備・ボイラ設備保全業務について<br>エレベータ保全業務について<br>植栽維持管理について<br>包括的な保守管理について<br><b>4. まとめ</b><br><b>4.1 キャンパス整備6ヶ年計画のまとめ</b><br><b>4.2 施設整備費概算要求事業について</b> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 3 その他の施設・設備

#### ① 講堂

施設内容等

| 施設内容 | 主な設備  |                        | 主な用途    |
|------|-------|------------------------|---------|
|      | (1階)  | ステージ、ホール、ロビー、映写室、会議室   |         |
|      | (中2階) | 音響室、調光室                |         |
|      | (2階)  | ホール、ロビー、休憩室、サイドスポット室   |         |
| 収容定員 | ホール   | 1304席 (1階1022席、2階282席) | 会議室 24席 |

#### ② 大学会館

施設内容等

| 施設内容 | 主な設備      |                          | 主な用途 |
|------|-----------|--------------------------|------|
|      | 大集会室 (2F) | 舞台・音響・照明等、机、椅子           |      |
|      | 中集会室 (2F) | 机、椅子                     |      |
|      | 和室 (2F)   | 炉 (15畳2間)                |      |
| 収容定員 | 大集会室      | 300人 / 中集会室 72人 / 和室 48人 |      |

#### ③ 福利施設

施設内容等

|        | 主な設備    |                                |
|--------|---------|--------------------------------|
|        | 第一福利施設  | 購買、書籍、旅行サービス、食堂、生協本部           |
| 第二福利施設 | (1F) 食堂 | (2F) 自主的学習スペース (プロジェクター、スクリーン) |

#### ④ 課外活動施設等

施設内容等

|           | 主な設備                                    | 主な用途                   |
|-----------|-----------------------------------------|------------------------|
| 体育系クラブハウス | 23室                                     | クラブ・サークル活動の集会等         |
| 文化系クラブハウス | 32室                                     | クラブ・サークル活動の集会等         |
| 文化系サークル棟  | 共同制作室 (180㎡)、練習室 (大60㎡)、印刷室 (小8㎡)       | クラブ・サークル活動の印刷業務、集会、練習等 |
| 弓道場       | 的場からの (安土) まで28m                        | 弓道の練習及び大会の場、活動の集会等     |
| 洋弓場       | 一面芝生、的場からの最大90m                         | 洋弓の練習及び大会の場、活動の集会      |
| 馬場        | 厩舎1棟 (馬4頭収容)、部室、馬用の洗場                   | 馬術の練習の場及び馬の飼育、活動の集会    |
| 庄内川艇庫     | (1階) ボート収納倉庫<br>(2階) 2部屋、台所、風呂場、トイレ、洗面所 | 庄内川練習後の休憩及び集会          |

#### ⑤ 伊良湖臨海教育実験実習施設

施設内容等

|      |                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所在地  | 愛知県田原市伊良湖町宮下2914-1                                                                          |
| 施設内容 | 宿泊室：和室 (8畳) 定員5人4室、和室 (6畳) 定員4人2室、広間 (20畳) 定員12人1室<br>その他：実験実習室、準備室、厨房、食堂、浴室、事務室、管理人室、シャワー室 |
| 宿泊定員 | 40人                                                                                         |
| 使用料  | 本学学生・職員等1人1日450円 (1泊2日900円) *冷暖房費別途                                                         |

利用状況

|        | 2010  | 2011  | 2012 | 2013  | 2014 | 2015 |
|--------|-------|-------|------|-------|------|------|
| 延べ利用者数 | 814人  | 701人  | 586人 | 537人  | 528  | 569  |
| 利用率    | 12.8% | 13.6% | 9.7% | 10.0% | 8.9% | 9.7% |
| 施設稼働率  | 5.7%  | 4.9%  | 4.1% | 3.7%  | 3.7% | 4.0% |

\* 利用率 = 利用日数 ÷ 利用可能日数 × 100

\* 施設稼働率 = 延べ利用者数 ÷ (収容定員 × 利用可能日数) × 100

## ⑥ 合宿所

## 施設内容等

|      |                                                       |
|------|-------------------------------------------------------|
| 所在地  | 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1（愛知教育大学キャンパス内）                           |
| 施設内容 | 宿泊室：和室（30畳）2間1室、和室（15畳）1室、和室（32.5畳）2間1室<br>その他：炊事室、浴室 |
| 宿泊定員 | 40人                                                   |

## 利用状況

|        | 2010  | 2011   | 2012   | 2013   | 2014   | 2015   |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 延べ利用者数 | 7102人 | 11198人 | 13414人 | 13024人 | 10886人 | 10853人 |
| 利 用 率  | 79.4% | 108.9% | 118.4% | 112.8% | 107.6% | 119.5% |
| 施設稼働率  | 49.5% | 77.8%  | 93.4%  | 90.7%  | 76.4%  | 76.6%  |

\* 利 用 率 = 利用日数 ÷ 利用可能日数 × 100 （利用日数は1日の利用団体数（クラブ・サークル活動等）でカウント）

\* 施設稼働率 = 延べ利用者数 ÷ (収容定員 × 利用可能日数) × 100

## ⑦ 井ヶ谷荘

## 施設内容等

|      |                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 所在地  | 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1（愛知教育大学キャンパス内）                                     |
| 施設内容 | 宿泊室：和室（10畳）定員3人2室、洋室（9㎡）定員1人3室<br>その他：談話室、浴室（共同）、便所（共同）、洗面所、喫煙室 |
| 宿泊定員 | 9人                                                              |
| 使用料  | 1人1泊 1,540円 1泊全室貸切 10,280円                                      |

## 利用状況

|        | 2010  | 2011  | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 延べ利用者数 | 493人  | 589人  | 584人  | 762人  | 743人  | 1173人 |
| 利 用 率  | 36.2% | 41.6% | 43.4% | 59.9% | 50.6% | 65.1% |
| 施設稼働率  | 15.5% | 18.5% | 18.6% | 24.3% | 23.7% | 37.0% |

\* 利 用 率 = 利用日数 ÷ 利用可能日数 × 100

\* 施設稼働率 = 延べ利用者数 ÷ (収容定員 × 利用可能日数) × 100

## ⑧ 学生寮

## 学生寮入居状況

2015/5/1 現在

| 区 分 | 施設規模  |       | 入居状況  |       | 利用率    |        |
|-----|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
|     | 部屋数   | 収容定員  | 入居部屋数 | 入居者数  | 部屋利用率  | 定員充足率  |
|     | a     | b     | A     | B     | A / a  | B / b  |
| 合計  | 192 室 | 192 人 | 192 室 | 191 人 | 100.0% | 99.5%  |
| 男子寮 | 64    | 64    | 64    | 64    | 100.0% | 100.0% |
| A棟  | 32    | 32    | 32    | 32    | 100.0% | 100.0% |
| B棟  | 32    | 32    | 32    | 32    | 100.0% | 100.0% |
| 女子寮 | 128   | 128   | 127   | 127   | 99.2%  | 99.2%  |
| C棟  | 32    | 32    | 32    | 32    | 100.0% | 100.0% |
| D棟  | 32    | 32    | 31    | 31    | 96.9%  | 96.9%  |
| E棟  | 32    | 32    | 32    | 32    | 100.0% | 100.0% |
| F棟  | 32    | 32    | 32    | 32    | 100.0% | 100.0% |

|          | A棟                                | B棟                 | C棟                 | D棟                 | E棟                 | F棟       |
|----------|-----------------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|----------|
| 構造 / 間取り | 全棟共通：鉄筋4階建 / 洋間 14㎡（約 8.5畳）設備部分含。 |                    |                    |                    |                    |          |
| 建築年      | 1970年<br>(2013年改修)                | 1969年<br>(2014年改修) | 1969年<br>(2015年改修) | 1969年<br>(2013年改修) | 1970年<br>(2014年改修) | 2012年    |
| 居住可能学生   | 男子                                | 男子                 | 女子                 | 女子                 | 女子                 | 女子       |
| 寮費（1人部屋） | 19,500 円                          | 19,500 円           | 19,500 円           | 19,500 円           | 19,500 円           | 19,500 円 |

\*全棟1人部屋。

\*寮費には、共益費、光熱水料等を含む。ただし、NHK受信料、インターネット使用料は除く。

## ⑨ 国際交流会館

国際交流会館入居状況

2015/5/1 現在

| 区分       | 施設規模       |             | 入居状況         |             | 利用率              |                  |
|----------|------------|-------------|--------------|-------------|------------------|------------------|
|          | 部屋数<br>(a) | 収容定員<br>(b) | 入居部屋数<br>(A) | 入居者数<br>(B) | 部屋利用率<br>(A)/(a) | 定員充足率<br>(B)/(b) |
| 合計       | 30 室       | 42 人        | 23 室         | 29 人        | 76.7 %           | 69.0 %           |
| 単身棟      | 24 室       | 24 人        | 20 室         | 20 人        | 83.3%            | 83.3%            |
| 留学生      | 21 室       | 21 人        | 19 室         | 19 人        | 90.5%            | 90.5%            |
| 研究者      | 3 室        | 3 人         | 1 室          | 1 人         | 33.3%            | 33.3%            |
| 夫婦家族棟    | 6 室        | 18 人        | 3 室          | 9 人         | 50.0%            | 50.0%            |
| 1LDK 夫婦室 | 3 室        | 6 人         | 1 室          | 1 人         | 33.3%            | 16.7%            |
| 2LDK 家族室 | 3 室        | 12 人        | 2 室          | 8 人         | 66.7%            | 66.7%            |

\* 建築年 1998年(平成10年) 鉄筋3階建て

\* 使用料(光熱費等経費を除く)

● 留学生 寄宿料(月額)  
 単身室 ¥4,700  
 夫婦室 ¥11,900  
 家族室 ¥14,200

● 研究者 使用料(月額)  
 単身室 ¥7,927  
 夫婦室 ¥16,753  
 家族室 ¥22,809

## ⑩ アイソトープ実験施設

施設規模等

構 造 : 鉄筋コンクリート2階建

外 装 : タイル貼付 内 装 : 床ビニルシート、壁 VE 塗装、天井ケイカル板 VE 塗装

| 管理区域  |                   | 244 m <sup>2</sup> | 非管理区域             |       | 60 m <sup>2</sup> |
|-------|-------------------|--------------------|-------------------|-------|-------------------|
| 汚染検査室 | 8 m <sup>2</sup>  | 暗室                 | 7 m <sup>2</sup>  | 玄関ホール | 22 m <sup>2</sup> |
| 第一実験室 | 35 m <sup>2</sup> | 貯蔵室                | 10 m <sup>2</sup> | 管理室   | 18 m <sup>2</sup> |
| 第二実験室 | 68 m <sup>2</sup> | 廃液保管室              | 10 m <sup>2</sup> | 便所    | 7 m <sup>2</sup>  |
| 測定室   | 22 m <sup>2</sup> | 廃棄作業室              | 9 m <sup>2</sup>  | 空調機械室 | 13 m <sup>2</sup> |
| 低温室   | 13 m <sup>2</sup> | 排風機械室              | 17 m <sup>2</sup> |       |                   |

|      |          |                                                                                                                                                                                                          |
|------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 機械設備 | 空 調      | 集中型および各室個別空調                                                                                                                                                                                             |
|      | 換 気      | 管理区域系統 非管理区域系統                                                                                                                                                                                           |
|      | 排水設備     | 床下原水槽 3 m <sup>3</sup> 、貯留槽 10 m <sup>3</sup> 2 基、希釈槽 20 m <sup>3</sup> 1 基                                                                                                                              |
|      | 排気設備     | プレフィルター、高性能フィルター、チャコールフィルター各 4 系列                                                                                                                                                                        |
|      | モニター     | β線水モニター、γ線水モニター、β線ガスモニター、ヨウ素モニター、ルームガスモニター、ルームヨウ素モニター、HFC モニター                                                                                                                                           |
| 主な設備 | 集中管理システム | 出入り管理、排水管理、モニター管理、RI 管理                                                                                                                                                                                  |
|      |          | ドラフト、安全キャビネット、クリーンベンチ、炭酸ガスインキュベーター、高速 液体クロマトグラフィー、オートクレーブ、冷却遠心機、卓上遠心機、微量高速遠心機、純水製造装置、製氷機、乾燥器、恒温槽、凍結乾燥機、フリーザー (-80℃、-20℃)、冷蔵庫、分光光度計、蛍光光度計、電子天秤、PCR装置、有機廃液焼却装置、動物乾燥機、液体シンチレーションカウンター、GM管式計数器、サーベイメーター、鉛貯蔵箱 |

RI業務従事者数

|    |         | 2013 | 2014 | 2015 |
|----|---------|------|------|------|
| 学内 | 教員      | 8人   | 7人   | 12人  |
|    | 学生・大学院生 | 34人  | 36人  | 30人  |
| 学外 | 共同研究者   | 4人   | 2人   | 1人   |

## ⑪ 自然観察実習園

2015 年度利用実績

| 区分 | 講座等   | 使用責任者                 | 目 的                         | 申込面積 | 使用面積 |
|----|-------|-----------------------|-----------------------------|------|------|
| 畑  | 生活科教育 | 野田 敦敬                 | 「生活科研究BI」(前期)での野菜の栽培(主に夏野菜) | 100  | 100  |
|    | 生活科教育 | 野田 敦敬                 | 大学院生の教材開発研究での野菜等の栽培         | 50   | 50   |
|    | 生活科教育 | 野田 敦敬<br>(非常勤:齊藤 朋子)  | 「生活科研究BI」(前期)での主に夏野菜の栽培     | 100  | 100  |
|    | 幼児教育  | 新井美保子(非常勤<br>講師 市橋正一) | 夏野菜の栽培(実習用)                 | 50   | 50   |
|    | 幼児教育  | 新井美保子(非常勤<br>講師 市橋正一) | 夏野菜の栽培(埋め立て部分)              | 50   | 50   |
|    | 理科教育  | 加藤 淳太郎                | 実習で使用                       | 100  | 100  |
|    | 理科教育  | 澤 正実                  | 実験動物(カブラノバチ)飼育のためのダイコン栽培    | 50   | 50   |
|    | 理科教育  | 渡邊 幹男                 | 研究材料のアブラナ科植物の栽培             | 100  | 100  |

|         |       |                       |                                             |     |     |
|---------|-------|-----------------------|---------------------------------------------|-----|-----|
|         | 技術教育  | 太田 弘一                 | 栽培実習Ⅰ、Ⅱ、栽培演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究のための栽培及び説明用 免許更新講習での観察用 | 60  | 60  |
|         | 理科教育  | 大鹿 聖公                 | 大学院生及び学部生の研究、教育の一環としての野菜栽培 サツマイモ、ジャガイモ      | 50  | 50  |
|         | 附属幼稚園 | 園長:太田 弘一              | 自然に親しむ(サツマイモ、ジャガイモ)                         | 180 | 180 |
| 水田      | 技術教育  | 太田 弘一                 | 栽培実習Ⅰ、Ⅱ、栽培演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究のための栽培及び説明用             | 800 | 800 |
| 温室      | 理科教育  | 加藤 淳太郎                | ラン科植物の研究栽培                                  | —   | —   |
|         | 技術教育  | 太田 弘一                 | 栽培実習                                        | —   | —   |
| ビニールハウス | 理科教育  | 加藤 淳太郎                | 実習で使用                                       | —   | —   |
|         | 技術教育  | 太田 弘一                 | 栽培実習Ⅰ、Ⅱ、栽培演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究のための栽培及び説明用             | —   | —   |
| 実習講義室   | 生活科教育 | 野田 敦敬                 | 前期 月曜1限                                     | —   | —   |
|         | 生活科教育 | 野田 敦敬<br>(非常勤:斉藤朋子)   | 前期 月曜2限                                     | —   | —   |
|         | 理科教育  | 加藤 淳太郎                | 通年 水曜1・2限                                   | —   | —   |
|         | 幼児教育  | 新井美保子(非常勤<br>講師 市橋正一) | 前期 火曜2限                                     | —   | —   |
|         | 技術教育  | 太田 弘一                 | 前期 水曜1・2限 後期 火曜2・4限                         | —   | —   |

## 生産物の販売実績

各年度3/31現在

| 品 名           | 2012 年度 |         | 2013 年度 |         | 2014 年度 |         | 2015 年度 |         |
|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|               | 販売量     | 販売収益(円) | 販売量     | 販売収益(円) | 販売量     | 販売収益    | 販売量     | 販売収益(円) |
| さつまいも         | 112kg   | 38,080  | 58kg    | 20,300  | 54kg    | 19,980  | 50kg    | 12,000  |
| じゃがいも         | 105kg   | 25,200  | 87kg    | 10,440  | 297kg   | 47,190  | 52kg    | 16,640  |
| アイガモ卵         | 361 個   | 18,050  | 58 個    | 2,900   | —       | —       | —       | —       |
| 玄米 (合鴨農法)     | 275kg   | 112,500 | —       | —       | 75kg    | 30,000  | —       | —       |
| 玄米            | —       | —       | —       | —       | —       | —       | 175kg   | 70,000  |
| サニーレタス        | 43 個    | 6,160   | —       | —       | —       | —       | —       | —       |
| 大根            | 423 本   | 21,150  | 131 本   | 6,550   | 296 本   | 17,760  | 230 本   | 13,800  |
| なす            | 10.9kg  | 19,110  | —       | —       | —       | —       | —       | —       |
| ブロッコリー        | 105 個   | 8,400   | —       | —       | —       | —       | 162 個   | 9,120   |
| もち米 (1.4kg入り) | 196 袋   | 70,560  | 199 袋   | 83,580  | 183 袋   | 76,860  | 165 袋   | 62,700  |
| 合 計           |         | 319,210 |         | 123,770 |         | 191,790 |         | 184,260 |

## 報告書等

- ・自然観察実習園ニュース第61号  
記事内容：養蚕考（技術委教育講座 太田弘一）
- ・自然観察実習園報告No.36  
「中学校技術科生物育成での校内への畑づくりからの授業実践」（太田弘一、河村隆信、堀田洋平）  
「中学校技術生物育成栽培での生ゴミ堆肥からの土づくりと栽培学習に向けての作物栽培の検討」（太田弘一、前田泰寿）

## ⑫ 生駒野外実習地

## 利用実績

- ・技術専攻「栽培演習」でのサツマイモ苗植付け実習、除草管理、機械による収穫観察・作業など、大規模圃場での作業学習。
- ・芋掘り・焼芋大会（2015年11月23日 参加者：学内構成員家族の参加 約93人、近隣住民 約12人）

## 生産物の販売実績

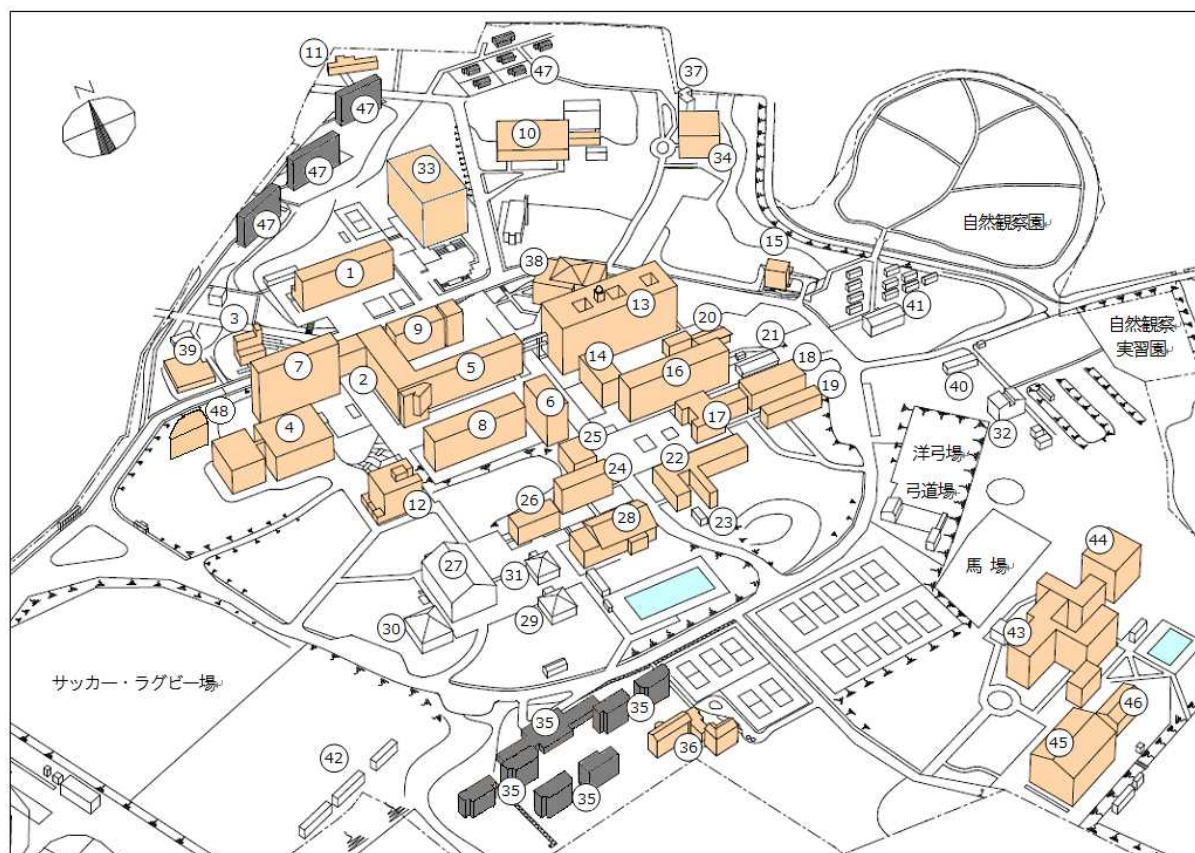
各年度3/31現在

| 品 名   | 2012 年度 |         | 2013 年度 |         | 2014 年度 |         | 2015 年度 |         |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|       | 販売量     | 販売収益(円) | 販売量     | 販売収益(円) | 販売量     | 販売収益(円) | 販売量     | 販売収益    |
| 玄米    | 900kg   | 154,800 | 930 kg  | 155,000 | —       | —       | —       | —       |
| さつまいも | 10.5k   | 4,200   | 103 kg  | 10,300  | —       | —       | —       | —       |
| じゃがいも | 295.5   | 48,060  | 459 kg  | 62,200  | 41kg    | 6,970   | 400kg   | 87,200  |
| タマネギ  | 75kg    | 7,500   | 268 kg  | 32,160  | 106kg   | 18,000  | 192kg   | 36,480  |
| かぼちゃ  | —       | —       | —       | —       | 84kg    | 23,250  | —       | —       |
| 合 計   |         | 214,560 |         | 259,660 |         | 48,220  |         | 123,680 |

## ⑬ ICT環境

学内情報ネットワーク接続エリア配置図

2016/3/31 現在


 接続エリア
  民間回線

|              |               |                    |              |
|--------------|---------------|--------------------|--------------|
| 1 本部棟        | 14 演習棟        | 27 第一体育館           | 40 学生合宿所     |
| 2 学生サポートセンター | 15 アイソトープ実験施設 | 28 第二体育館           | 41 文化系サークル棟  |
| 3 健康支援センター棟  | 16 美術・技術・家政棟  | 29 武道館             | 42 運動系クラブハウス |
| 4 附属図書館      | 17 美術第一実験棟    | 30 トレーニングセンター棟     | 43 附属高等学校校舎  |
| 5 第一共通棟      | 18 美術第二実習棟    | 31 体育館附属棟          | 44 " 特別教室    |
| 6 第二共通棟      | 19 美術第三実習棟    | 32 教育実験実習棟         | 45 " 体育館     |
| 7 第一人文棟      | 20 技術第一実習棟    | 33 講堂              | 46 " 武道場     |
| 8 第二人文棟      | 21 技術第二実習棟    | 34 大学会館            | 47 職員住宅      |
| 9 教育交流館      | 22 音楽棟        | 35 学生寮             | 48 教育未来館     |
| 10 特別支援教育棟   | 23 音楽練習棟      | 36 国際交流会館          |              |
| 11 心理教育相談棟   | 24 養護教育一号棟    | 37 非常勤講師宿泊棟 (井ヶ谷荘) |              |
| 12 人文・情報棟    | 25 養護教育二号棟    | 38 第一福利施設          |              |
| 13 自然科学棟     | 26 保健体育棟      | 39 第二福利施設          |              |

## 無線LANアクセスエリア

2016/3/31 現在

| 棟名      | 室名                                                           |
|---------|--------------------------------------------------------------|
| 1 本部棟   | 第一会議室<br>第二会議室<br>第三会議室<br>第五会議室                             |
| 4 附属図書館 | 2 F 本館<br>2 F 新館<br>2 F ホール<br>2 F 自由閲覧室<br>3 F 本館<br>3 F 新館 |

| 棟名         | 室名                                                                             |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 8 第二人文棟    | 人文社会科学系セミナー室 E<br>人文社会科学系セミナー室 F<br>人文社会科学系セミナー室 G                             |
| 9 教育交流館    | 2 F 第1PCルーム<br>3 F 第2PCルーム<br>3 F 第3PCルーム<br>3 F 第4PCルーム<br>1 F アクティブラーニングスペース |
| 17 美術第一実習棟 | 美術演習室 I (203教室)<br>美術演習室 II (201教室)                                            |

|         |                                                                                                                                                              |            |                                                                                                                                                                              |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 第一共通棟 | 201 教室<br>301 教室<br>302 教室<br>303 教室<br>304 教室<br>305 教室<br>306 教室<br>307 教室<br>308 教室<br>309 教室<br>310 教室<br>311 教室<br>312 教室<br>313 教室<br>314 教室<br>315 教室 |            | 学生実習室U (209教室)<br>図画工作実習室U (213教室)<br>図画工作実習室T (223教室)<br>リフレッシュスペース                                                                                                         |
| 6 第二共通棟 | 412教室<br>422教室                                                                                                                                               | 18 美術第二実習棟 | ガラス実習室 (119教室)<br>造形文化演習室 (201教室)<br>プロダクトデザイン実習室 T (207教室)<br>絵画演習室U (213教室)                                                                                                |
| 7 第一人文棟 | 教育科学系セミナー室A<br>教育科学系セミナー室B<br>人文社会科学系セミナー室A<br>人文社会科学系セミナー室B<br>人文社会科学系セミナー室C<br>人文社会科学系セミナー室D                                                               | 34 大学会館    | 1 F<br>2 F                                                                                                                                                                   |
|         |                                                                                                                                                              | 39 第二福利施設  | 2 F                                                                                                                                                                          |
|         |                                                                                                                                                              | 48 教育未来館   | オープンコーナー (各階)<br>1 F プロジェクト研究室<br>1 F 会議室<br>2 F 多目的指導室<br>2 F 基礎領域学生自習室<br>2 F 応用領域学生自習室<br>2 F 講義室D<br>3 F 講義室A<br>3 F 講義室B<br>3 F 講義室C<br>3 F 多目的ホール<br>3 F 共同大学院共同研究スペース |

## ⑭ 学務ネット

「学務ネット」は、教務事務をサポートし、学生への連絡周知や修学支援を行うためのウェブシステムであり、2007年に導入され、いくつかの機能強化・改善を行って、現在の運用に至っています。

学務ネットの主な機能

| 機 能 一 覧  |                                                          |
|----------|----------------------------------------------------------|
| 1 掲 示    | 授業関連情報、休講情報、お知らせ情報が確認できます。                               |
| 2 学籍情報照会 | 自身の氏名、生年月日、住所、電話番号、携帯番号、本籍地、指導教員の氏名などが確認できます。            |
| 3 履修登録   | 指定された期間内に、各学期で履修する授業を登録することができます。                        |
| 4 学生時間割表 | 履修登録した自身の時間割表を閲覧できます。                                    |
| 5 教員時間割表 | 授業時間割に登録してある教員の時間割表を閲覧できます。<br>また、オフィス・アワーの情報も同時に表示されます。 |
| 6 授業時間割表 | 授業時間割表を閲覧できます。                                           |
| 7 シラバス照会 | シラバス検索・閲覧ができます。                                          |
| 8 成績照会   | 自身の成績を閲覧できます。                                            |

## ⑮ まなびネット

「まなびネット」は、授業運営と学生への修学支援を目的としたウェブシステムで、「学務ネット」と同じく、学生及び教職員は、ユーザ認証により学内外から「まなびネット」にアクセスすることができます。

主な機能として「ポートフォリオ」、「教育実習支援」、「授業ポスト」の3つのサービスを提供しています。

## ⑯ TV会議室

| 建物名   | 目的 | 室名          | 利用状況                           |
|-------|----|-------------|--------------------------------|
| 教育未来館 | 講義 | 講義室3A (302) | 遠隔講義システム、無線LAN、2人掛け机12台、椅子24席  |
| 教育未来館 | 講義 | 講義室3B (303) | 遠隔講義システム、無線LAN、2人掛け机12台、椅子24席  |
| 教育未来館 | 講義 | 講義室3C (307) | 遠隔講義システム、無線LAN、2人掛け机52台、椅子104席 |

## 第11章 財務状況

## 1 資産状況

2010~2015事業年度 貸借対照表

(単位:千円)

| 勘定科目            | 2010 年度           | 2011 年度           | 2012 年度           | 2013 年度           | 2014 年度           | 2015 年度           |
|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| <b>資産の部</b>     | <b>48,915,775</b> | <b>48,687,217</b> | <b>48,811,999</b> | <b>50,815,571</b> | <b>50,619,562</b> | <b>49,991,913</b> |
| 固定資産            | 47,373,104        | 46,985,228        | 47,115,458        | 48,251,921        | 49,003,778        | 48,817,387        |
| 土地              | 36,948,942        | 36,929,711        | 36,929,711        | 36,929,711        | 36,929,711        | 36,929,711        |
| 建物              | 6,796,879         | 6,558,359         | 6,639,297         | 7,101,925         | 8,221,712         | 8,163,575         |
| 構築物             | 703,077           | 686,921           | 658,021           | 864,316           | 958,985           | 982,492           |
| 工具器具備品          | 513,729           | 435,444           | 545,902           | 688,121           | 571,755           | 447,603           |
| 図書              | 2,271,706         | 2,249,125         | 2,235,973         | 2,192,546         | 2,185,447         | 2,177,568         |
| 美術品・収蔵品         | 24,473            | 24,473            | 25,223            | 25,223            | 25,223            | 25,223            |
| 船舶              | 408               | 268               | 128               | 0                 | 0                 | 0                 |
| 車両運搬具           | 2,645             | 3,129             | 3,965             | 2,931             | 2,081             | 5,050             |
| 建設仮勘定           | 13,996            | 420               | 15,907            | 390,773           | 7,128             | 0                 |
| ソフトウェア          | 25,425            | 15,610            | 15,618            | 13,717            | 18,488            | 18,973            |
| その他無形固定資産       | 38,319            | 35,264            | 32,208            | 29,153            | 26,098            | 23,043            |
| 投資有価証券          | 0                 | 12,998            | 12,999            | 12,999            | 12,999            | 0                 |
| 預託金             | 500               | 500               | 500               | 500               | 148               | 144               |
| 長期性預金           | 33,000            | 33,000            | 0                 | 0                 | 44,000            | 44,000            |
| 流動資産            | 1,542,670         | 1,701,988         | 1,696,541         | 2,563,649         | 1,615,783         | 1,174,525         |
| 現金及び預金          | 1,448,290         | 987,992           | 1,663,390         | 2,273,264         | 1,507,781         | 1,134,423         |
| 未収学生納付金収入       | 17,528            | 18,388            | 14,214            | 14,158            | 9,646             | 15,399            |
| 有価証券            | 0                 | 599,962           | 0                 | 0                 | 0                 | 12,999            |
| たな卸資産           | 9,775             | 9,926             | 10,133            | 8,729             | 6,895             | 5,715             |
| 前渡金             | 2,382             | 1,717             | 1,878             | 4,483             | 48                | 0                 |
| その他             | 64,694            | 84,000            | 6,923             | 263,013           | 91,412            | 5,986             |
| <b>負債の部</b>     | <b>5,328,874</b>  | <b>5,586,000</b>  | <b>6,000,461</b>  | <b>8,127,317</b>  | <b>7,338,191</b>  | <b>6,828,987</b>  |
| 固定負債            | 3,769,135         | 3,882,438         | 4,029,275         | 5,348,880         | 5,470,713         | 5,348,768         |
| 資産見返負債          | 3,171,030         | 3,338,277         | 3,312,434         | 4,485,638         | 4,681,905         | 4,612,818         |
| 長期借入金           | 0                 | 0                 | 0                 | 184,908           | 175,176           | 165,444           |
| 引当金             | 250               | 324               | 0                 | 57                | 119               | 0                 |
| 資産除去債務          | 534,489           | 543,837           | 534,394           | 524,483           | 510,961           | 519,813           |
| 長期リース債務         | 63,364            | 0                 | 182,445           | 153,792           | 102,549           | 50,692            |
| 流動負債            | 1,559,739         | 1,703,561         | 1,971,185         | 2,778,437         | 1,867,478         | 1,480,219         |
| 運営費交付金債務        | 2,178             | 286,270           | 892,572           | 933,191           | 304,948           | 0                 |
| 預り施設費           | 0                 | 0                 | 17,766            | 0                 | 0                 | 0                 |
| 預り特殊教育就学奨励費交付金等 | 651               | 797               | 420               | 537               | 362               | 54                |
| 寄附金債務           | 79,282            | 107,007           | 106,592           | 107,069           | 108,204           | 110,015           |
| 前受受託研究費等        | 3,933             | 2,362             | 3,720             | 4,555             | 1,724             | 0                 |
| 前受受託事業費等        | 1,857             | 1,238             | 619               | 0                 | 381               | 0                 |
| 前受金             | 241,800           | 237,447           | 5,068             | 5,744             | 4,478             | 5,182             |
| 預り金             | 107,554           | 108,968           | 120,751           | 149,775           | 113,610           | 121,813           |
| 一年内返済予定長期借入金    | 0                 | 0                 | 0                 | 9,592             | 9,732             | 9,732             |
| 未払金             | 1,054,828         | 896,105           | 778,436           | 1,517,335         | 1,272,793         | 1,181,564         |
| リース債務           | 67,651            | 63,364            | 45,237            | 50,635            | 51,242            | 51,857            |
| <b>純資産の部</b>    | <b>43,586,900</b> | <b>43,101,216</b> | <b>42,811,538</b> | <b>42,688,253</b> | <b>43,281,370</b> | <b>43,162,925</b> |
| 資本金             | 43,693,912        | 43,693,912        | 43,693,912        | 43,693,912        | 43,693,912        | 43,693,912        |
| 資本剰余金           | △526,621          | △1,036,857        | △1,003,434        | △1,180,311        | △596,025          | △651,236          |
| 利益剰余金           | 419,609           | 444,161           | 121,059           | 174,653           | 183,483           | 120,249           |
| <b>負債純資産合計</b>  | <b>48,915,775</b> | <b>48,687,217</b> | <b>48,811,999</b> | <b>50,815,571</b> | <b>50,619,562</b> | <b>49,991,913</b> |

## 2 収入状況

2010~2015事業年度 収入状況 (決算報告書より抜粋)

(単位: 百万円)

| 区 分                 | 2010 年度 | 2011 年度 | 2012 年度 | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 |
|---------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 収入                  |         |         |         |         |         |         |
| 運営費交付金              | 5,206   | 5,085   | 4,917   | 5,817   | 5,455   | 4,881   |
| 施設整備費補助金            | 0       | 256     | 633     | 651     | 949     | 556     |
| 補助金等収入              | 55      | 0       | 77      | 363     | 69      | 53      |
| 国立大学財務・経営センター施設費交付金 | 36      | 36      | 36      | 36      | 36      | 36      |
| 自己収入                | 2,731   | 2,707   | 2,441   | 2,640   | 2,642   | 2,625   |
| 授業料、入学科及び検定料収入      | 2,652   | 2,613   | 2,352   | 2,550   | 2,531   | 2,500   |
| 雑収入                 | 79      | 94      | 89      | 90      | 111     | 125     |
| 産学連携等研究収入及び寄附金収入等   | 157     | 197     | 156     | 179     | 168     | 151     |
| 引当金取崩               | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 長期借入金収入             | 0       | 0       | 0       | 195     | 0       | 0       |
| 目的積立金取崩             | 0       | 0       | 332     | 0       | 25      | 92      |
| 計                   | 8,185   | 8,281   | 8,592   | 9,881   | 9,344   | 8,394   |

## 3 収支状況

2010~2015事業年度 損益計算書

(単位: 千円)

|               | 2010年度    | 2011年度    | 2012年度    | 2013年度    | 2014年度    | 2015年度    |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 経常費用          | 7,891,070 | 7,749,763 | 7,480,830 | 7,757,423 | 8,114,485 | 8,125,339 |
| 業務費           | 7,605,602 | 7,418,147 | 7,175,236 | 7,370,027 | 7,712,751 | 7,760,416 |
| 教育経費          | 1,027,412 | 1,060,423 | 1,132,498 | 1,209,559 | 1,356,304 | 1,254,876 |
| 研究経費          | 164,427   | 199,161   | 184,116   | 181,985   | 172,397   | 164,393   |
| 教育研究支援経費      | 256,195   | 128,703   | 113,439   | 134,397   | 110,985   | 102,126   |
| 受託研究費         | 9,529     | 11,968    | 4,898     | 2,865     | 5,814     | 4,983     |
| 受託事業費         | 64,197    | 54,468    | 46,912    | 56,203    | 45,685    | 29,613    |
| 役員人件費         | 120,714   | 85,749    | 80,776    | 169,436   | 76,574    | 75,176    |
| 教員人件費         | 4,695,012 | 4,639,723 | 4,371,237 | 4,314,891 | 4,560,518 | 4,777,471 |
| 職員人件費         | 1,268,111 | 1,237,947 | 1,241,357 | 1,300,687 | 1,384,471 | 1,351,774 |
| 一般管理費         | 281,711   | 329,361   | 304,878   | 384,744   | 398,153   | 362,045   |
| 財務費用          | 3,756     | 2,254     | 715       | 2,651     | 3,580     | 2,878     |
| 経常収益          | 8,238,739 | 7,774,037 | 7,432,018 | 7,811,795 | 8,121,639 | 8,104,742 |
| 運営費交付金収益      | 5,113,021 | 4,785,895 | 4,300,541 | 4,584,092 | 4,830,971 | 4,820,872 |
| 授業料収益         | 2,181,184 | 2,126,971 | 2,274,496 | 2,117,985 | 2,218,525 | 2,217,037 |
| 入学科収益         | 342,414   | 327,894   | 324,059   | 321,399   | 316,131   | 323,965   |
| 検定料収益         | 87,102    | 80,886    | 67,976    | 71,414    | 67,816    | 68,826    |
| 受託研究等収益       | 12,893    | 14,065    | 6,806     | 3,921     | 6,230     | 5,390     |
| 受託事業等収益       | 68,322    | 58,550    | 50,305    | 59,499    | 48,186    | 31,443    |
| 寄附金収益         | 59,867    | 71,578    | 69,609    | 81,602    | 81,927    | 69,096    |
| 施設費収益         | 6,829     | 32,142    | 59,445    | 50,842    | 128,066   | 140,084   |
| 補助金等収益        | 40,387    | 0         | 4,636     | 199,054   | 68,714    | 53,399    |
| 資産見返負債戻入      | 253,340   | 190,389   | 186,277   | 225,821   | 243,204   | 249,862   |
| 財務収益          | 769       | 617       | 633       | 1,578     | 1,095     | 911       |
| 雑益            | 72,606    | 85,046    | 87,231    | 94,581    | 110,768   | 123,850   |
| 経常利益 (又は経常損失) | 347,669   | 24,273    | △48,812   | 54,372    | 7,154     | △20,597   |
| 臨時損失          | 100       | 735       | 4,072     | 2,330     | 1,817     | 13,824    |
| 臨時利益          | 263       | 1,014     | 4,179     | 1,550     | 3,493     | 33,188    |
| 当期純利益         | 347,833   | 24,552    | △48,706   | 53,593    | 8,830     | △1,233    |
| 目的積立金取崩額      | 0         | 0         | 57,314    | 0         | 24,961    | 29,641    |
| 当期総利益         | 347,833   | 24,552    | 8,608     | 53,593    | 33,792    | 28,408    |

## 2015年度 決算報告書

(単位：百万円)

| 区 分                 | 予算額   | 決算額   | 差額  |
|---------------------|-------|-------|-----|
| 収入                  |       |       |     |
| 運営費交付金              | 4,861 | 4,881 | 20  |
| うち補正予算による追加         | 0     | 0     | 0   |
| 施設整備費補助金            | 494   | 556   | 62  |
| うち補正予算による追加         | 447   | 447   | 0   |
| 補助金等収入              | 59    | 53    | △5  |
| 国立大学財務・経営センター施設費交付金 | 36    | 36    | 0   |
| 自己収入                | 2,624 | 2,625 | 1   |
| 授業料、入学科及び検定料収入      | 2,518 | 2,500 | △18 |
| 雑収入                 | 106   | 125   | 18  |
| 産学連携等研究収入及び寄附金収入等   | 150   | 151   | 2   |
| 引当金取崩               | 0     | 0     | 0   |
| 長期借入金収入             | 0     | 0     | 0   |
| 目的積立金取崩             | 58    | 92    | 34  |
| 計                   | 8,282 | 8,394 | 112 |
| 支出                  |       |       |     |
| 業務費                 | 7,532 | 7,587 | 55  |
| 教育研究経費              | 7,532 | 7,587 | 55  |
| うち設備災害復旧事業          | 0     | 0     | 0   |
| 施設整備費               | 530   | 592   | 62  |
| うち施設災害復旧事業          | 0     | 0     | 0   |
| 補助金等                | 59    | 53    | △5  |
| 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等  | 150   | 150   | 0   |
| 長期借入金償還金            | 11    | 11    | 0   |
| 計                   | 8,282 | 8,393 | 111 |
| 収入－支出               | 0     | 1     | 1   |

## 4 資源配分状況

## 2015年度予算

(単位：千円)

| 事 項                   | 予算額       | 事 項                   | 予算額       |
|-----------------------|-----------|-----------------------|-----------|
| 【収入予算】                |           | 【支出予算】                |           |
| 一般会計                  | 7,132,589 | 一般会計                  | 7,132,589 |
| 運営費交付金                | 4,350,581 | 人件費                   | 5,722,970 |
| 運営費交付金                | 4,350,581 | 給与費及び法定福利費            | 5,722,970 |
| 自己収入                  | 2,624,159 |                       |           |
| 学生納付金収入               | 2,517,785 | 物件費                   | 1,358,566 |
| 授業料                   | 2,127,138 |                       |           |
| 入学科                   | 321,894   | 長期借入金償還金              | 11,053    |
| 検定料                   | 68,753    |                       |           |
| 財産貸付料ほか               | 106,374   | 予備費                   | 40,000    |
| 他会計からの繰入              | 30,000    |                       |           |
| 他会計へ繰入                | -         |                       |           |
| 繰越金からの受入              | 127,849   |                       |           |
| 退職手当会計                | 440,488   | 退職手当会計                | 440,488   |
| 運営費交付金                | 225,515   | 退職手当                  | 440,488   |
| 他会計からの繰入              | -         |                       |           |
| 繰越金からの受入              | 214,973   |                       |           |
| 施設整備費会計               | 530,270   | 施設整備費会計               | 530,270   |
| 施設整備費補助金              | 494,270   | 施設整備費補助金              | 494,270   |
| 国立大学財務・経営センター施設費交付事業費 | 36,000    | 国立大学財務・経営センター施設費交付事業費 | 36,000    |
| 設備整備費会計               | -         | 設備整備費会計               | -         |
| 設備整備費補助金              | -         | 設備整備費補助金              | -         |
| 大学改革推進等補助金会計          | 19,949    | 大学改革推進等補助金会計          | 19,949    |
| 大学改革推進等補助金            | 19,949    | 大学改革推進等補助金            | 19,949    |
| 国立大学改革強化推進補助金会計       | 38,800    | 国立大学改革強化推進補助金会計       | 38,800    |
| 国立大学改革強化推進補助金         | 38,800    | 国立大学改革強化推進補助金         | 38,800    |
| 外部資金会計                | 119,847   | 外部資金会計                | 119,847   |
| 受託事業等収入               | 149,847   |                       |           |
| 他会計へ繰入                | △30,000   |                       |           |
| 長期借入金会計               | -         | 長期借入金会計               | -         |
| 長期借入金収入               | -         | 長期借入金                 | -         |
| 計                     | 8,281,943 | 計                     | 8,281,943 |

1. 各事項の予算額は暫定とし、必要に応じ総額の範囲内において各事項間の組替えを行うものとする。
2. 収入・支出予算の変動により予算の補正を生じる場合は、補正予算を計上する。

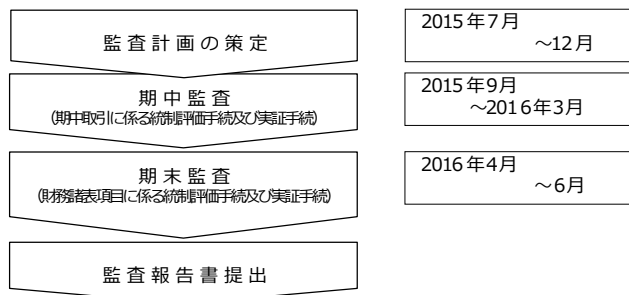
2010～2015事業年度 大学教育研究重点配分経費

(単位：千円)

|                       | 2010年度 |        | 2011年度 |        | 2012年度 |        | 2013年度 |        | 2014年度 |        | 2015年度 |        |
|-----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                       | 件      | 金額     | 件      | 金額     | 件      | 金額     | 件      | 金額     | 件      | 金額     | 件      | 金額     |
| 予算額                   |        | 20,000 |        | 20,000 |        | 20,000 |        | 20,000 |        | 20,000 |        | 20,000 |
| 採択額                   |        | 16,548 |        | 16,539 |        | 12,321 |        | 14,697 |        | 11,263 |        | 17,739 |
| プロジェクト                | 15     | 11,242 | 8      | 7,589  | 5      | 3,593  | 8      | 4,578  | 5      | 2,800  | 16     | 10,196 |
| 教育改善分野                | 1      | 500    | 0      | 0      | 0      | 0      | 3      | 1,370  | 0      | 0      | 10     | 6,399  |
| 研究発達分野                | 9      | 7,098  | 7      | 6,089  | 5      | 3,593  | 1      | 871    | 2      | 1,250  | 5      | 2,360  |
| 教育研究共通分野              | 5      | 3,644  | 1      | 1,500  | 0      | 0      | 4      | 2,337  | 3      | 1,550  | 1      | 1,437  |
| 学長裁量経費とカテゴリ入れ替え       |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        | 0      | 0      |
| 科研費採択者へ間接経費30%相当額追加配分 |        | 5,306  |        | 8,950  |        | 8,728  |        | 10,119 |        | 8,463  |        | 7,543  |

## 5 財務監査の状況

監査計画



監査の実施状況

|      | 監査時間数    |         |            |         |          |       |
|------|----------|---------|------------|---------|----------|-------|
|      | I 計画及び戦略 | II 内部統制 | III IT全般統制 | IV 実証手続 | V 総括及び報告 | 計     |
| 実施時間 | 212.0    | 98.0    | 7.0        | 258.0   | 68.0     | 643.0 |
| 計画時間 | 82.5     | 72.0    | 7.0        | 144.5   | 44.0     | 350.0 |
| 差引   | 129.5    | 26.0    | 0.0        | 113.5   | 24.0     | 293.0 |

実施時間内訳

(単位：時間)

| 監査項目等           | 7月  | 8月   | 9月  | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月    | 4月   | 5月    | 6月   | 計     |
|-----------------|-----|------|-----|------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|-------|
| ・ I 監査計画        | 0.5 | 1.0  |     | 10.0 | 13.5 | 7.0  |      |      | 10.5  |      |       |      | 42.5  |
| ・ I リスク評価       |     |      |     |      | 28.5 |      | 21.5 | 18.0 | 1.0   | 3.0  |       |      | 72.0  |
| ・ I 品質管理        | 2.5 | 15.0 |     |      | 12.0 |      | 1.0  |      |       |      |       |      | 30.5  |
| ・ I 決算事前打合せ等    |     |      |     |      |      |      |      |      | 20.5  |      |       |      | 20.5  |
| ・ I その他(調書繰越)   |     | 0.5  |     | 1.0  | 16.0 | 4.0  | 10.5 | 2.0  | 6.5   |      | 6.0   |      | 46.5  |
| ・ II WT         |     |      | 3.0 |      | 26.5 |      |      |      |       |      |       |      | 29.5  |
| ・ II TOC        |     |      |     |      |      |      | 2.0  | 3.0  | 46.5  |      | 3.0   |      | 54.5  |
| ・ II TOC (附属学校) |     |      |     |      |      | 7.0  |      |      | 7.0   |      |       |      | 14.0  |
| ・ III ITGC評価    |     |      |     | 7.0  |      |      |      |      |       |      |       |      | 7.0   |
| ・ IV 実証手続の実施    |     | 5.5  |     |      |      | 11.0 |      | 9.0  | 17.0  | 19.0 | 151.5 |      | 213.0 |
| ・ IV 表示の検討      |     |      |     |      |      |      |      |      |       |      | 36.0  | 9.0  | 45.0  |
| ・ V 審査          |     |      |     |      |      | 2.0  |      |      | 1.0   | 0.5  | 9.5   |      | 13.0  |
| ・ V 査問          |     |      |     |      |      |      | 4.0  | 3.0  | 0.5   |      | 10.0  |      | 17.5  |
| ・ V 監査総括        |     |      |     |      |      |      |      |      | 2.0   |      |       | 18.5 | 20.5  |
| ・ V 質問・相談事項対応   |     |      |     |      |      |      |      | 7.0  |       |      |       |      | 7.0   |
| ・ V 学長・監事報告     |     |      |     | 9.0  |      |      |      |      |       | 1.0  |       |      | 10.0  |
| 総 計             | 3.0 | 22.0 | 3.0 | 27.0 | 96.5 | 31.0 | 39.0 | 42.0 | 112.5 | 23.5 | 216.0 | 27.5 | 643.0 |

## 6 監事監査の状況

2015年度監事監査の重点事項（2015年度監事監査計画より抜粋）

| 重点事項       |                                                                                        |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)大学の運営状況 | ①中期目標・中期計画及び年度計画の推進状況<br>②業務達成目標の推進状況<br>③ガバナンスの確立、運営の状況<br>④危機管理及びコンプライアンスの体制整備、運営の状況 |
| (2)財務の運営状況 | ①四半期・年次決算の実施状況、資金管理・運用の執行状況<br>②収入向上・経費削減の具体的な取組状況<br>③調達の管理運営の状況                      |

|                 |                                                                                         |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | ④附属学校園の資金管理状況<br>⑤公的研究費、寄附金の管理運用状況<br>⑥保有資産の管理、運用状況<br>⑦施設整備工事契約の適正な推進                  |
| (3)教育・学生支援の推進状況 | ①教育環境整備・学生サービスの推進状況<br>②地域連携の拡大と内容の深化及びキャリア支援の状況<br>③グローバル化と国際交流の取組状況<br>④附属学校園の管理運営の状況 |
| (4)会計の監査        | ①会計監査人の監査の妥当性及び監査報告書の内容の検討<br>②会計監査人の監査への立会い及び問題点の早期把握                                  |

## 2015年度監事監査実施状況

| 監査事項                             | 被監査部局                   | 監査結果、指摘事項、要望事項、改善状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学の運営状況<br>財務の状況<br>教育・学生支援の推進状況 | 全部局                     | ○大学の業務の運営状況を把握するため、主要会議に出席し、必要に応じ意見を述べた。<br>・役員会、役員部局長会議、経営協議会、代議員会、教育研究評議会、教授会、大学改革推進委員会、財務委員会、評価委員会、附属学校運営委員会、学生支援委員会、学長選考会議<br>○事務局各課長ヒアリングを行い、業務推進状況、業務改善状況等を確認した。<br>○関係資料の監査                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 事務体制の課題把握                        | 全課                      | ○事務局各課長ヒアリングを行い、①新執行部体制についての各課との関わりと評価、②今後の執行部の課題と要望、②事務局の教員に日常業務に対する希望、③大学と附属学校との連携、④業務達成目標管理の実践的運用、③事務局各課の人員管理と仕事の取り組み、④適材適所の人事配置、等についてのヒアリング状況を取りまとめ、役員会において報告し意見を述べた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 個人情報保護の点検状況                      | 情報図書課<br>全部局            | ○個人情報保護に関する全学一斉点検の結果報告を受け、監事として次のとおり意見を取りまとめ、学長に報告した。<br>①個人情報保護のための本学の活動は、全学の自己点検の完了届の提出率が高いレベルで年々向上するなど、成果が上がっている事を評価します。<br>②点検開始後も、教育研究評議会や教授会などでの直接的な提出依頼やその他のキメの細かい周知の活動が重ねられており、努力が結果につながっていると考えます。<br>③昨年も申し上げた『自己点検は改善のためのスタートであり、その結果を踏まえてどうするかが大切』と言う事をよく理解され、今後の対応として数項目にまとめられています。<br>④是非、早期に改善等を実施していただきたいが、そのためには「誰が」「いつまでに」「何を」「どのようにして」「どこまで」改善するのかという具体的な計画を作成することが大切です。<br>早急に取りかかっていただきたい。<br>⑤特に「はい」という回答が80%を下回った5項目については、『出来ない原因は何か』を明確にし、対策を考えていただきたい。<br>⑥例えば「バスフードの変更」については、事務局の人が「出来ない人」のところに直接出向いて変更を手助けするなどの対策を考えていただきたい。そして、その活動をいつまでに完了するかというスケジュールリングをしっかりと立てていただきたい。<br>⑦最後に、本年の報告は昨年に比べて2ヶ月遅れとなっています。クイックレスポンス、クイックアクションという事の大切さについてよく考えていただきたい。                                      |
| キャンパスマスタープランの評価                  | 施設課                     | ○キャンパスマスタープラン2010で掲げた施設整備の課題は優先すべき案件から順次概ね達成されており評価出来る。<br>①喫煙の課題である耐震化は100%達成されており、屋内体育施設の天井など学生、生徒、児童の安全のための対策にも意が注がれている。<br>②あわせて、老朽化施設の改修も重要なテーマとして大きく推進された。しかし、未改修箇所は全国に比べてまだ高水準であり、キャンパスマスタープラン2016では緊急の課題として取り組まなければならない。<br>③老朽化した学生寮、職員住宅の改修や駐車場、駐輪場の整備、トイレの改修など学生や職員の利便性向上のプログラムもキメ細かく進められ快適なキャンパスライフ実現に前進している。<br>④また、ボイラーから空調への転換を進め、CO <sub>2</sub> 削減に取り組んでいる点は緑地確保とともに環境負荷低減の視点がよく表れている。<br>○以上のような評価をする一方、下記について課題を指摘しておきたい。<br>①施設の整備計画においては、コスト削減のためにどう工夫をしたのか、施設の維持管理のコストを低減するため、設計面などでどういう考え方を取り入れたのかを明らかにすべきである。<br>②施設の増設、改修の前に、現有施設の有効活用を徹底的に考えていただきたい。研究室等の4Sが不十分であり、遊休のスペースが相当数存在することは監事監査室の監査でも指摘しているところである。<br>③駐車、駐輪場や住宅、寮など福利厚生施設の整備にあたっては、特に社会一般のコストを参考にしつつ受益者負担の考えを取り入れる事をさらに検討していただきたい。 |
| 法人文書の管理状況                        | 総務課<br>全部局              | ○総括文書管理者からの点検結果報告を受けて、意見を取りまとめ学長及び総括文書管理者へ報告した。<br>①法人文書管理者、法人文書管理担当者、一般職員の全ての階層において、概ね適切な法人文書管理が行われているとの確認が出来ている事をまず評価したい。<br>②点検で見つかった若干の問題については事務局が対面では正をし、今後の具体的な是正方向も示されているので改善されるものと期待したい。<br>③附属学校の文書管理について多くの問題が報告されているが、附属学校では複数の教員が文書管理者となっており、ルールの徹底が図りにくい点がある。<br>先般、監事監査室が附属学校の業務全般について監査を行い、問題指摘した点と原因は同じである。事務職員との連携協力や、多忙な教員に分かりやすい日常管理の手順を示すことが重要である。<br>職員との連携協力や、多忙な教員に分かりやすい日常管理の手順を示すことが重要である。<br>④昨年に続き、本学の文書管理においては事務局が意欲的に改善を進めている事を評価したい。<br>自課点検に加え、他課点検を助けたこと、点検チェックシートの改善をすすめたこと、文書管理セミナーの回数増加などにより、点検の精度の向上と文書管理そのものの改善につながっている。<br>⑤また、点検は改善のためのスタートであり、点検結果をもとに状況を少しでも向上させようという意図がよく汲みとれる姿勢は大いに評価しておきたい。                                                                                 |
| 公的研究費の管理・監査体制の整備                 | 研究連携課<br>財務企画課<br>監事監査室 | ○体制整備等自己評価チェックリストの確認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|                     |       |                                                                                                            |
|---------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 財務諸表、事業報告書及び決算報告書監査 | 財務企画課 | ○会計監査人から報告及び説明を受け、財務諸表、事業報告書及び決算報告書につき検討を加えた。会計監査人の監査方法及びその結果は、相当であると認めた。財務諸表、事業報告書及び決算報告書に指摘すべき事項は認められない。 |
| 内部監査結果のフォロー         | 全部局   | ○内部監査結果及び当該部局の今後の改善策の報告を受けて、学長、理事へ意見を述べた。                                                                  |

## 7 内部監査の状況

### 2015年度内部監査実施状況

| 監査実施期間                       | 監査事項<br>(監査計画監査事項)                                       | 被監査部局等                  | 監査結果、指摘事項、改善要望事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 改善の状況                                                                                                                   |
|------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2015/5/18<br>～<br>2015/6/22  | 会計監査<br><br>補助金及び外部資金の執行状況<br><br>受託研究、受託事業等の執行状況        | 財務企画課<br>経理調達課<br>研究連携課 | ○本受託研究、受託事業について監査項目ごとに業務計画、支出計画に沿った執行状況など書面監査を行い、概ね適正に行われていることを確認した。今回監査した受託事業1件、受託研究3件は、契約の相手方に成果報告書が送付されている。<br>○監査の結果、要望事項として次のとおり要望する。<br>1. 受託事業3件については、平成27年度も継続事業で既に契約を締結している。<br>平成27年度事業の経費執行については、契約書及び実施計画（支出計画）に基づき、事業を実施するうえで必要な経費執行に努めること及び平成26年度に購入した消耗品類（パソコン、プリンター、ビデオカメラ等）の有効利用を図ること。<br>2. 備品登録されない1点10万円未満の換金性の高い物品（例えば、ノートPC、タブレット端末、ビデオカメラ、プリンターなど）を購入する場合は使用者・使用場所を明確にして、適正な管理を行うこと。（購入依頼書の備考欄に使用者、使用場等を記入すること）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 要望事項について、関係各課に対して改善、検討を求めた。                                                                                             |
| 2015/6/1<br>～<br>2015/9/14   | 会計監査<br><br>補助金及び外部資金の執行状況<br><br>科学研究費助成事業（科研費）補助金の執行状況 | 財務企画課<br>経理調達課<br>研究連携課 | ○科学研究費助成事業について科研費使用ルールに基づいた使用がなされているか、事務処理は適切に行われているか監査を行った。<br>○監査対象は、2014年度科研費（研究代表者及び研究分担者）全件。研究者には旅費及び資料整理等の学生に対する謝金支出に関するモニタリング監査等を実施した。<br>○物品の現物確認<br>2014年度の科研費で購入した1点10万円以上の備品、及び備品登録されない1点10万円未満の換金性の高い物品の現物確認を行い、備品登録番号シール貼付、管理状況についての監査を実施した。<br>○概ね適正に行われており、計画外使用、取引業者に対する預け金、プール金等不正使用は無いことを確認した。しかし、出勤簿の押印状況や事務処理状況が適正でない事例が見られるため出張の事実確認や謝金支出に係る研究補助者の勤務実態が適正に確認出来ない状況であり、出勤簿押印を確実にに行わせることや、人事労務課、経理調達課、研究連携課、各学系担当者ととの予算執行、勤務時間管理に関する業務の連携強化を要望した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 監査報告書を役員部局長会議に資料として提示し、説明・報告した。<br>監事からも監査結果を受け、学長・理事、部局長に対し改善を求めた。<br>特に出勤簿の押印については、教授会においても監事から教授会員に対し、現状説明を行い改善を求めた。 |
| 2015/11/2<br>～<br>2015/12/17 | 業務監査<br><br>安全管理に関する状況<br><br>化学物質（劇物毒物等）の管理状況管理体制       | 財務企画課<br>研究連携課<br>附属学校課 | ○「化学物質安全管理規程」に基づき劇物毒物等の管理状況、管理体制等を毒物劇物取扱責任者を中心に次の事項について事前に紙面調査を行い、教員研究室・実験室に向き現地調査を行った。<br>①専用保管庫の設置、②毒劇物と一般薬品の保管・管理、③保管庫の施設、④鍵授受簿の整備、⑤保管庫の設置場所の使用者の入室・出入り管理状況、⑥保管庫及び容器の表示、⑦薬品受払簿の整備（TULIP受払簿含む）、⑧定期的な保管数量確認、⑨保管庫及び薬品の転倒防止、⑩適正な廃棄・廃液処理、⑪化学物質管理支援システム（TULIP）の登録及び保有薬品の入力、⑫今年度購入薬品のTULIP入力<br><br>○今回の毒劇物及び一般薬品の管理状況、管理体制の内部監査において、以下の4件を指摘事項等として整理した。<br>(1) 保管庫から毒劇責任者本人が毎年使用していたにも関わらず毒物と認識せずTULIPにも登録せず使用していた毒物が確認された。<br>(2) 毒劇物をTULIPに登録せず「薬品登録確認票」を経理課監製に提出し、支払い手続きが行われていた事例があった。<br>(3) 施設された薬品室ではあるが、専用保管庫に保管されず薬品室の床に放置されている取扱責任者不明と思われる化学物質があった。<br>(4) 毒劇物保管庫を設置し、毒劇物を使用しているにもかかわらず毒劇責任者の選任手続きができていなかった。<br>○改善要望事項として、次の4点を要望した。<br>(1) 毒劇物の適正な管理を行うためにもTULIPへの登録を指導・徹底すること。<br>(2) 建物内に取扱責任者不明のまま長期間保管され、今後も使用予定のない毒劇物、一般薬品の有無について調査し、不要な毒劇物があれば廃棄等適切な処分をすること。<br>(3) 毒劇責任者の選任にあたっては、毒劇保管庫の設置の有無、設置場所等を調査確認し選任すること。<br>(4) 専門委員会において実施した平成26年度内部監査対応について、今後も関係者と連携を図り継続されるよう要望します。 | 監査結果については、役員部局長会及び教授会へ報告を行い、薬品の適正な管理をお願いした。<br>また監査結果を受けて化学物質管理専門委員会において指摘・改善要望事項の対応を行った。                               |

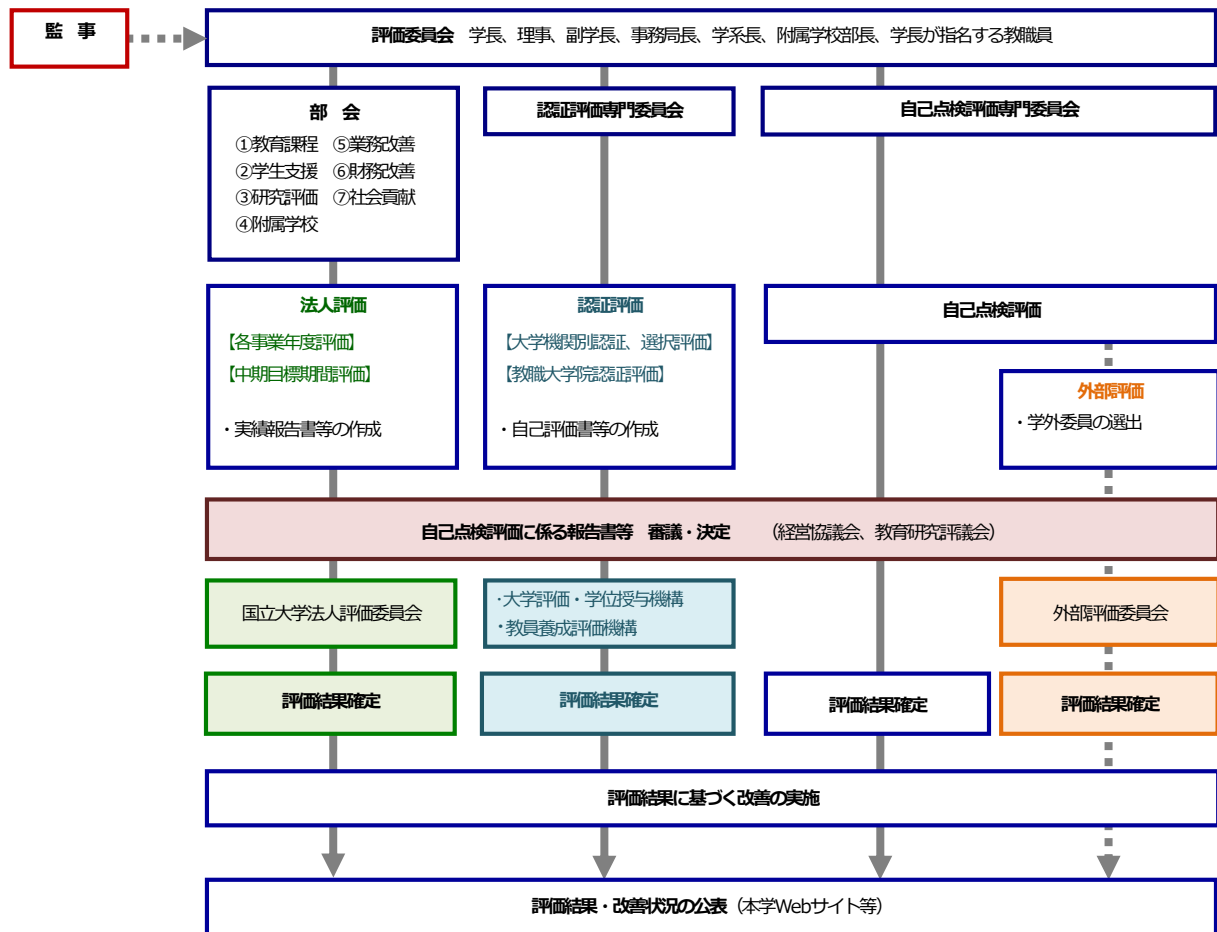
|                               |                                |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                        |
|-------------------------------|--------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 2015/10/14<br>～<br>2015/10/15 | 業務監査<br><br>会計監査<br><br>附属学校監査 | 附属学校 | <p>○平成27年2月の内部監査（書面監査時点）において、平成24年度、25年度の物品管理簿から数点の記帳漏れがあり、修正の指示を行ったところであるが、その修正がされていないこと及び平成26年度の取得した備品において監査時点では附属学校全体の備品20点ほどが、物品管理簿への記帳漏れがあった。</p> <p>これに対し、次のことを改善要望した。</p> <p>(1) 帳簿（物品管理簿）の作成及び物品番号等の表示について分任物品管理役の事務を行う附属学校課（附属学校課長及び事務担当者）は平成26年度に取得した備品について帳簿（物品管理簿）への必要事項の記載を行うとともに各附属学校に物品番号が表示できるよう物品番号シール及び物品管理簿の写しを送付するとともに平成24年度～26年度に取得した備品についても附属学校担当係長と連携を図り現物の確認など適正な物品管理を行うこと。</p> <p>(2) 平成27年度以降に取得した備品について、取得後遅滞なく帳簿（物品管理簿）へ必要事項の記載を行うとともに各附属学校に物品番号が表示できるよう物品番号シール及び物品管理簿（データ・写し）を送付すること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 附属学校課及び各附属に監査結果を報告し必要な改善を行うよう通知した。<br>附属学校課・附属学校から改善措置等についての回答書が提出された。 |
| 2016/2/8<br>～<br>2016/2/25    |                                |      | <p>○本学が定めた規則、規程に基づき附属学校園及び附属学校園の事務担当者が行う業務・会計全般について書面及び実地監査を行った。</p> <p>○書面監査として、物品等の契約・納品・検収等に係る振替伝票及び証憑類の確認、出張の事実に係る出勤簿、旅行命令令及び旅行報告書の確認、寄附金の受入状況について関係書類の確認を行い、その結果、附属学校全体として、伝票類、証憑類等は概ね適正に処理されていた。</p> <p>○実地監査として、内部監査に伴う事前作成・提出を求めた調査資料に基づき、聞き取り及び実地調査した。調査資料としては①預かり金（学年費、修学旅行積立金）にかかる調査資料②物品管理簿（平成27年度に購入分 ※消耗品、1点10万円未満の物品）PC、ノートPC、タブレットPC、ビデオカメラ、など③化学物質（毒物及び爆発物等）の管理に関する調査票により実施した。</p> <p>①振替伝票（科研費、寄附金、物件・旅費・謝金、預かり金）証憑類の照査<br/>附属学校により、証憑類の整理、ファイル方法の違いはあるものの、支出契約決議等に必要書類も整えられており、会計等の手続を含む振替伝票類及び証憑類の整理・取り扱いについて、おおむね適正であり監査時に必要の都度、改善、訂正等を依頼した。<br/>しかしながら、昨年度の内部監査において未確認であった、教員が主体となっており行っている学年費の管理・執行等経理状況については、支払手続から証憑類の照合が困難な状況や証憑類の整理方法など改善を要する事項が多く見られた。詳細は、別紙「預かり金（学年費）」にかかる調査資料のとおり。</p> <p>学年費については、附属学校の担当教員が主体となっており、事務が関わることが多い業務であったが、児童・生徒から徴収し、複数の業者等からの物品等の購入・支払い事務や多額に渡る学年費の保管・管理方法が学校ごとに異なるため、管理体制を明確にする目的で、事務と教員との役割を分担し「預かり金会計」として2008年度から実施したものである。</p> <p>2008年度（平成20年度）以降8年が経過し、この間、教員が分担する学年費の執行等の業務については、物品等の購入から支払い、証憑類の整理・保管までの一連の業務を主に担当教員が行い、チェックがされないまま現在に至っているのではないかとと思われる。</p> <p>②勤簿、旅行命令令・旅行報告書等証憑類の照査<br/>おおむね適正であり、監査時に必要の都度、改善、訂正等を依頼した。</p> <p>③平成27年度に取得した備品、固定資産の現物確認及び管理状況<br/>平成27年10月に実施した「物品の管理状況及び現物確認内部監査」において要望した改善事項の確認と平成27年4月から内部監査時までには取得した物品及び固定資産の管理状況及び現物確認を行った。各附属学校とも改善事項の対応及び27年度の物品管理において特段の問題もなく概ね良好な管理状況であった。</p> <p>④その他、本学が定めた規則、規程等に基づく業務の状況について<br/>本監査は、昨年から引き続き実施した内部監査で、昨年度監査時に要望した改善事項の対応状況を中心に確認を行った。各附属学校とも改善事項に対して概ね良好な対応状況及び適正に業務を実施していた。</p> <p>⑤法人文書の管理状況（文書法規担当係長に依頼して法人文書の保管・管理状況の確認）<br/>文書法規担当係長とともに各附属学校（附属高校を除く）の事務室及び教員室で保管・管理されている法人文書の管理状況を確認した。事務室で管理する法人文書については、法人文書管理規則に基づき、概ね良好な管理状況であるが、教員が作成する文書で文書管理担当者（教員）が行う法人文書の管理については、管理する文書量も多く、附属学校毎に背表紙の取り扱いなど、法人文書管理規則の周知が及んでいないように見受けられた。</p> <p>○検討事項<br/>(1) 預かり金（学年費）の取り扱いについて<br/>①教員と事務係が取り扱う学年費の業務分担の検討及び物品等購入から業者への支払い・支出（預金通帳からの引き出し、振込等）、証憑類の</p> |                                                                        |

|                              |                                                     |       |                                                                                                                                                                                                                                                        |  |
|------------------------------|-----------------------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|                              |                                                     |       | <p>整理・保管までの一連業務の明確化・適正にする必要がある。</p> <p>②預かり金（学年費）会計の取り扱いにかかる業務の牽制体制を整備する必要がある。</p> <p>③預かり金としての管理が適正と思われる預金がある場合は、「預かり金処理基準」に基づく取り扱いを検討する必要がある。</p> <p>○要望事項</p> <p>(1) 法人文書の管理について</p> <p>総務課文書法規担当と事務担当係長及び附属学校教員との連携のもと計画的に法人文書管理規則に基づく管理を要望する。</p> |  |
| 2015/12/14<br>～<br>2016/3/22 | <p>文部科学省共済組合<br/>監査</p> <p>各種事業の実施状況<br/>及び経理状況</p> | 人事労務課 | <p>○2015年4月から2016年1月末までの各種事業の事務処理・経理状況及び毎月提出する事業報告書を抽出して監査を行った。</p> <p>○概ね適正に処理されていた。</p>                                                                                                                                                              |  |

## 第12章 自己点検・評価及び教育情報の公表

### 1 自己点検・評価

#### (1) 自己点検・評価の実施体制



#### (2) 自己点検・評価の実施状況

第2期中期目標・中期計画期間中の自己点検・評価実施状況

| 刊行年      | 刊行物                       | 概要                | 発行者   |
|----------|---------------------------|-------------------|-------|
| 2011年9月  | 年次報告書 2010 (PDF版)         | 各年度の活動状況に関する資料の公表 | 評価委員会 |
| 2013年1月  | 自己点検・評価報告書 2011 (冊子、PDF版) | 各年度の現状及び取組状況の公表   |       |
| 2013年3月  | 外部評価報告書 2012 (冊子、PDF版)    | 学外者による評価結果の公表     |       |
| 2013年12月 | 自己点検・評価報告書 2012 (冊子、PDF版) | 各年度の現状及び取組状況の公表   |       |
| 2014年3月  | 外部評価報告書 2013 (冊子、PDF版)    | 学外者による評価結果の公表     |       |
| 2015年6月  | 自己点検・評価報告書 2013 (冊子、PDF版) | 各年度の現状及び取組状況の公表   |       |
| 2016年2月  | 自己点検・評価報告書 2014 (冊子、PDF版) | 各年度の現状及び取組状況の公表   |       |

2015年度評価委員会開催状況

| 開催16回 | 審議事項 (評価委員会規程第3条)     | 審議  | 報告  |
|-------|-----------------------|-----|-----|
| ①     | 評価に関する基本方針の策定に関する事項   | 2件  | 2件  |
| ②     | 中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項 | 29件 | 12件 |
| ③     | 自己点検評価に関する事項          | 2件  | 0件  |
| ④     | 外部からの評価に関する事項         | 0件  | 0件  |
| ⑤     | 認証評価に関する事項            | 3件  | 4件  |
| ⑥     | 評価結果による改善等に関する事項      | 7件  | 0件  |
| ⑦     | その他評価に関する事項           | 2件  | 3件  |

## 自己点検・評価実施項目

| 項目 | 大学の使命・目的<br>管理運営体制<br>大学教員、教育支援者の構成<br>教育活動<br>研究活動 | 地域連携・社会貢献<br>国際交流<br>附属施設の概要<br>附属学校<br>施設・設備 | 財政状況<br>自己点検・評価及び教育情報の公表<br>危機管理 |
|----|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------|
|----|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------|

## 基礎データ

| 掲載内容      | 010 沿革<br>020 組織<br>030 役職員名簿<br>040 現員数<br>050 人事                                           | 110 入試<br>120 学生数<br>130 学生支援<br>140 就職状況 | 210 科学研究費助成事業<br>310 社会貢献<br>410 国際交流<br>510 附属図書館<br>610 附属学校 | 710 施設・設備<br>810 財務状況<br>910 自己点検評価<br>915 広報活動 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 基礎データ種別   | ・推移データ：年度比較ができる簡易データ<br>・年度データ：年度単位ごとの詳細データ                                                  |                                           |                                                                |                                                 |
| 基礎データ登録範囲 | ・2010年度（H22）以降は、データ入力必須。<br>・2004年度（H16）～2009年度（H21）のデータは、2009年度（H21）から順に遡り、2004（H16）まで作成予定。 |                                           |                                                                |                                                 |

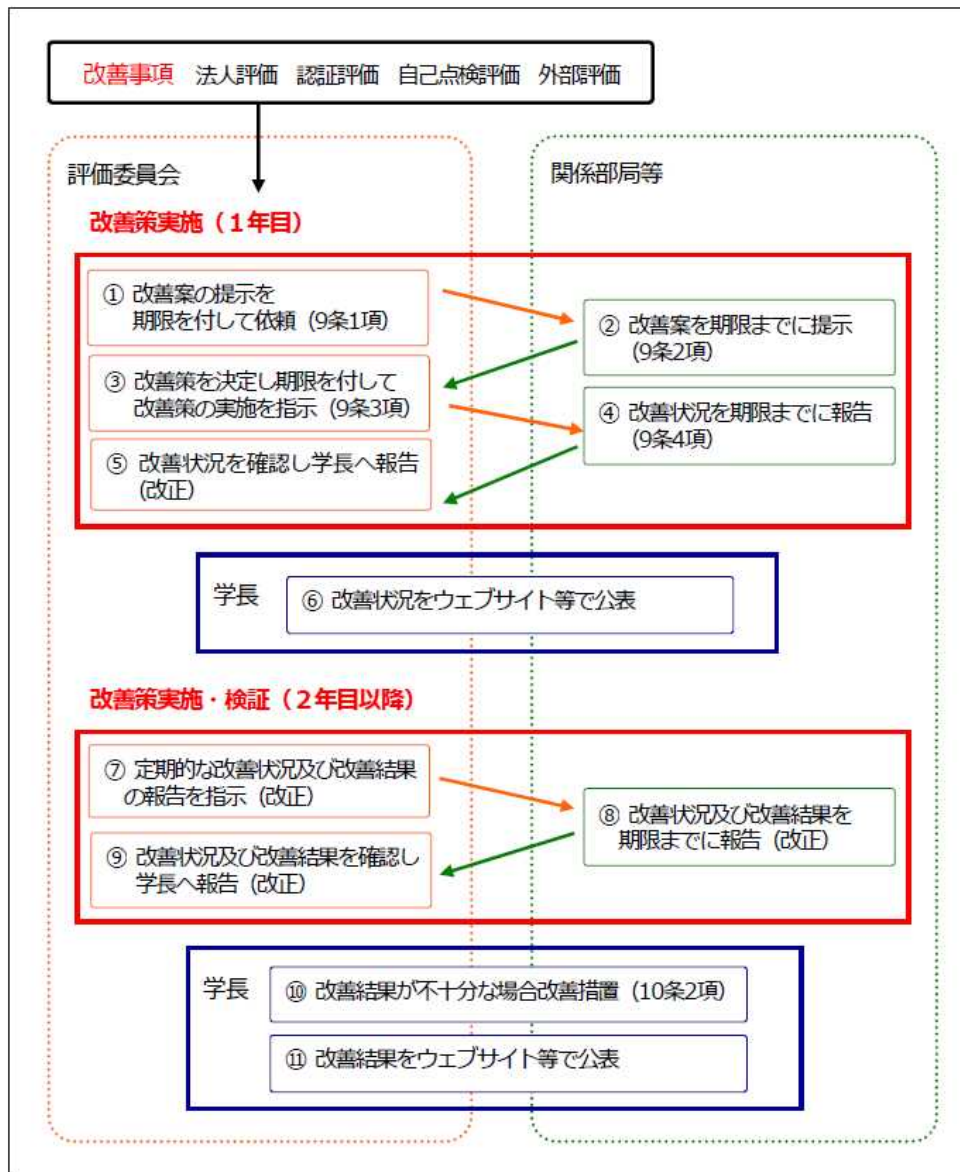
## (3) 第三者評価の実施状況

## 第三者評価の実施状況

| 実施年度   | 評価機関              | 第三者評価（毎事業年度実施する評価は除く。）               |
|--------|-------------------|--------------------------------------|
| 2007年度 | 独立行政法人大学評価・学位授与機構 | 大学機関別認証評価<br>選択的評価事項に係る評価            |
| 2008年度 | 国立大学法人評価委員会       | 中期目標期間に係る業務の実績に関する評価（2004～2007年度）    |
|        | 独立行政法人大学評価・学位授与機構 | 中期目標期間における教育研究評価（2004～2007年度）        |
| 2010年度 | 一般財団法人教員養成評価機構    | 教職大学院認証評価                            |
|        | 国立大学法人評価委員会       | 第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価（2004～2009年度） |
|        | 独立行政法人大学評価・学位授与機構 | 中期目標期間における教育研究評価（2008～2009年度）        |
| 2012年度 | 外部評価委員会（学外委員4人）   | 外部評価（教育活動、研究活動、地域連携）                 |
| 2013年度 | 外部評価委員会（学外委員4人）   | 外部評価（管理運営体制、施設・設備、財務状況）              |
| 2014年度 | 独立行政法人大学評価・学位授与機構 | 大学機関別認証評価<br>選択的評価事項に係る評価            |
| 2015年度 | 一般財団法人教員養成評価機構    | 教職大学院認証評価                            |

## 2 評価結果に対する改善状況

評価結果に係る改善システム



※ 1年間 (指摘事項の内容や改善策, 改善状況に応じて複数年実施)

### ① 国立大学法人評価 年度評価 指摘事項の改善状況等 (平成22～27年度)

#### ● 全体評価

#### 1 業務運営の改善及び効率化に関する目標

| 課題として指摘された事項                                                                                                                                                                         | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>平成22年度</b></p> <p>平成20年度から平成21年度までの評価結果において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程（教職大学院）について、学生収容定員の充足率が平成20年度から平成22年度においては90%を満たさなかったことから、今後、速やかに、定員の充足に向けた取組、特に入学定員の適正化に努めることが求められる。</p> | <p><b>平成23年度報告【改善状況】</b></p> <p>1. 教育実践研究科（教職実践専攻）の定員充足について</p> <p>設置4年次（平成23年度）には、平成22年度と比較し7名増の89名の収容数となった。教育委員会への継続的な働きかけにより、平成23年度入試の入学志願者数は、入学定員を超えたものの、本専攻が目指す教育理念に基づく入学生の質確保の面から厳しい審査を行ったこと、入学希望者が多かったことなどから定員充足には至らなかった。</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>2. 定員確保の方策</p> <p>(1) 教育委員会に対しては、積極的な派遣交渉を行った。</p> <p>(2) 愛知県教育委員会においては、教員採用試験合格者が大学院に進学する場合、大学院修了後は2次試験（面接試験）のみの選考試験となる仕組みが設けられているため、本学学生に対して大学院進学を働きかけた。</p> <p>(3) 本学の働きかけにより、名古屋市教育委員会では、平成24年度教員採用試験において、大学院在学を事由とした合格辞退者には、大学院修了後に第2次試験の集団討議及び個人面接のみで選考試験とする特別措置が実施されることとなった。</p> <p>(4) 平成24年度入試（平成23年度実施）から推薦入試を導入し、入試機会を増やしている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p><b>平成23年度</b></p> <p>平成20年度から平成22年度評価結果において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程型について、学生収容定員の充足率が平成20年度から平成23年度においては90%を満たさなかったことから、今後、速やかに、学長のリーダーシップの下、定員の充足に向け、入学定員の適正化に努めることや、入学者の学力水準に留意しつつ充足に努めることが求められる。</p>                                        | <p><b>平成24年度報告【改善状況】</b></p> <p>○教育実践研究科（教職大学院）の定員充足に向けて</p> <p>設置5年次（平成24年度）の状況は、33人が入学し、収容数は83人であった。</p> <p>定員確保の方策を検討し、以下1～6の改善策を実施した結果、平成25年度は、入学者50人（入学定員充足率100%）、収容数91人（収容定員充足率91.0%）となり、収容定員充足率90%以上を達成することができた。</p> <p>1. 志願者が見込まれる近隣大学、教育委員会、学校現場等に対し、学生募集・教育内容の広報活動（体験授業、入試説明会、訪問説明）を引き続き実施した。</p> <p>2. 新たに導入した推薦入試や、教員採用試験での特別措置（大学院進学、在学者特例）の影響等について、その成果を分析し、更なる対応を策定した。</p> <p>3. 本学からの直進者を増やすため、学内キャリアガイダンスと一体化した説明・広報の場を設定するなど、新たな展開を図った。</p> <p>4. 入学辞退者を減らす方策として、教職大学院の各研修会やFD全体会（実践報告会）に入試合格者を案内し、その様子を体験してもらう機会を増やした。</p> <p>5. 現行の現職教員派遣枠の他に、本学と包括協定を締結している近隣市に対し、独自の派遣推薦を積極的に働きかけた結果、市独自の現職派遣推薦があった。</p> <p>6. 現職教員に対する経済的負担を軽減するため、授業料の半額免除や4分の1免除を措置した結果、合計18人が免除を受けることとなった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p><b>平成24年度</b></p> <p>平成23年度評価において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程型について、学生収容定員の充足率が平成20年度から平成24年度においては90%を満たさなかったが、近隣大学や教育委員会等に対する広報活動の実施や入学辞退者を減らす方策として、入試合格者に対し、教職大学院の各種研修会等の案内をするなどの取組により、平成25年度においては90%を満たしている。今後も引き続き、定員の充足に向けた取組に努めることが望まれる。</p> | <p><b>平成25年度報告【改善状況】</b></p> <p>1. 募集広報活動</p> <p>(1) 体験授業・入試説明会等</p> <p>①体験授業・入試説明会（6/1全般対象、6/26学部学生等対象）</p> <p>②授業公開・入試説明会（7/2,7/5）</p> <p>③入試説明会（7/27現職教員派遣予定者対象、7/28一般志望者対象）</p> <p>④体験授業・入試説明会（10/26）</p> <p>(2) 他大学訪問（例年志願者のある主な大学）</p> <p>募集要項等の説明（県内11大学、県外2大学）（5月下旬～6月上旬）</p> <p>(3) 内部進学者向け説明</p> <p>「教職再チャレンジガイダンス」の場における後期募集の説明（10/9）（後期日程への学内志願者は3人／15人中）。</p> <p>(4) その他資料配付</p> <p>現職教員向けパンフレット、体験授業案内の配付（県内公立小・中学校 約1,400校）（4月下旬）</p> <p>2. 入学前指導</p> <p>平成25年11月2日（土）開催の「教職大学院修了生フォローアップ研修」への参加を前期日程の合格者（43人）に対し案内したところ、18人の参加があった。</p> <p>また、例年に倣い、平成26年2月28日（金）に開催予定の教職大学院FD全体会（実践報告会）への参加についても、前・後期日程の合格者へ案内した。</p> <p>3. 現職教員以外（教職大学院入学に当たり休業・離職し、無収入となった者）の適用実態は、新入生2人（32人中）、在学生1人（28人中）の計3人（60人中）であった。学生募集広報時に、当該制度についても丹念に説明することに留意したい。</p> <p>なお、学外での実地活動カリキュラム上で多くを占める教職大学院や、修士レベルでの実践的科目導入時には長期の実地活動も想定される状況において、当該実地活動に伴う費用への経済的支援策の策定も、全学的な経営課題として捉える必要もあると思われる。</p> <p>4. 今回の当該選考区分受験状況</p> <p>出願：7人、1次試験免除可の判定：7人、2次試験受験：3人、合格：2人</p> <p>2次試験を受験しなかった4人は、愛知県以外の試験にも出願・受験したため、愛知県の2次試験は辞退した（愛知県以外の試験（名古屋市）は、4人全員合格）。</p> |

当該選考区分は、その仕組み上、他の教育委員会との複数受験が可能であり、受験指導においても苦慮する側面がある（「愛知県が第一志望」とされる出願資格と、受験機会の複数化の兼ね合いなど）。研究科として一貫した指導方針の確立が、今後の懸案である。

#### 平成26年度報告【改善状況】

##### 1. 募集広報活動

###### (1) 体験授業・入試説明会等

- ① 6月14日（土）体験授業・入試説明会形式、刈谷市総合文化センターにて、基礎領域・応用領域対象、23名参加。
- ② 6月25日（土）体験授業・入試説明会形式、本学にて、基礎領域対象、14名参加。
- ③ 7月1日（火）公開授業・入試説明会形式、本学にて、基礎領域・応用領域対象、6名参加。
- ④ 7月4日（金）公開授業・入試説明会形式、本学にて、基礎領域・応用領域対象、3名参加。
- ⑤ 7月26日（土）入試説明会形式、本学にて、応用領域（派遣）対象、15名参加。
- ⑥ 7月27日（日）入試説明会形式、本学にて、基礎領域・応用領域対象、10名参加。
- ⑦ 10月15日（水）体験授業・入試説明会形式、本学にて、基礎領域対象、16名参加。
- ⑧ 12月19日（金）公開授業・入試説明会形式、本学にて、基礎領域対象、3名参加。
- ⑨ 1月13日（火）公開授業形式、本学にて、基礎領域対象、2名参加。

###### (2) その他の広報活動

- ① 4月 現職教員向けパンフレット、体験授業案内の配付（県内公立小中学校 約1,400校）
- ② 5月 全国立大学・東海3県の公私立大学へ募集ポスター送付（入試課対応）
- ③ 6月 県内の12大学と岐阜聖徳大学へ要項説明のために訪問
- ④ 10月 入学実績上位6大学へ後期募集・体験授業の案内（訪問、電話、郵送、メールなど相手方に応じ適宜の方法）
- ⑤ 10月 再チャレンジガイダンス参加の本学4年生に後期募集体験授業の案内
- ⑥ 12月 教職大学院2次募集実施ポスターを作成し、学内掲示と志願実績のある85大学へ送付
- ⑦ 12月 教職実践演習の授業内で本学4年生に2次募集公開授業の案内
- ⑧ 12月 生協食堂や附属図書館にポップ広告を設置

##### 2. 入学前指導

平成27年2月27日（金）開催予定の教職大学院FD全体会（終了後に入学予定者懇談会を開催）への参加について、前期募集及び後期募集の合格者へ案内した。

##### 3. 現職教員以外（教職大学院入学に当たり休業・離職し、無収入となった者）の適用実態は、

新入生（38人中）、在学生（35人中）のいずれにも条件合致者がおらず補助がなかったため、適用者0人であった。

##### 4. 教員採用試験対策については、キャリア支援課の利用を指導しつつ、教職大学院においても小論文や面接などの独自指導を、受験する院生全体に対して行った。

そのような中、愛知県へ今年度志願した修了年次生14名は、全員が教職大学院修了見込者特別選考区分で受験し、うち7名が合格した。

また、昨年度までに愛知県又は名古屋市の採用試験に合格し大学院修学特例措置の適用を受けていた修了年次生7名（愛知6、名古屋1）は、今年度改めての選考の結果、全員が合格した。

なお、他県等に合格し同様の措置を受けていた修了年次生3名については、措置内容が「名簿登録期間延長」のため、受験行為がなかった。

改善のための取組は、募集活動そのものと、定員充足に繋がる入学後の支援体制に関するものに分けられるが、平成26年度実施入試の志願者、合格者の状況は以下のとおりであった。

|          | 志願者 | 合格者 |
|----------|-----|-----|
| 前期試験     | 39人 | 35人 |
| 後期試験     | 14人 | 11人 |
| 2次試験     | 2人  | 2人  |
| 入学定員 50人 | 55人 | 48人 |

| 年 度       | 入学者 | 収容者 | 収容定員 | 充足率   |
|-----------|-----|-----|------|-------|
| 平成20 2008 | 23  | 23  | 50   | 46.0% |
| 平成21 2009 | 33  | 56  | 100  | 56.0% |

|      |      |    |     |     |        |
|------|------|----|-----|-----|--------|
| 平成22 | 2010 | 45 | 82  | 100 | 82.0%  |
| 平成23 | 2011 | 35 | 89  | 100 | 89.0%  |
| 平成24 | 2012 | 33 | 83  | 100 | 83.0%  |
| 平成25 | 2013 | 50 | 91  | 100 | 91.0%  |
| 平成26 | 2014 | 52 | 105 | 100 | 105.0% |
| 平成27 | 2015 | 43 | 99  | 100 | 99.0%  |

大学院教育実践研究科（教職大学院）在籍状況 （単位：人）

#### 平成26年度報告【改善結果】

取組は、募集活動そのものと、定員充足に繋がる入学後の支援体制に関するものに分類されるが、結果としての今年度実施入試の志願者、合格者の状況は以下のとおりであって、入学定員未充足となる見込みである。

##### ○前期試験

出願期間8月18日(月)～25日(月)、試験日9月20日(土)・21日(日)、合格発表10月17日(金)、志願者39名、合格者35名。

##### ○後期試験

出願期間10月20日(月)～24日(金)、試験日11月23日(日)・24日(月)、合格発表12月12日(金)、志願者14名、合格者11名。

##### ○2次試験

出願期間1月19日(月)～26日(金)、試験日2月7日(土)、合格発表2月20日(金)、志願者2名、合格者2

この状況を踏まえ、今後の課題としては以下のように考える。

#### <募集広報活動、経済的支援>

より広報効果が高くなるよう、体験授業・公開授業等については、学内向けを学部授業がよい水曜午後、学外向けを土、日曜の休日に実施するなど、日程の工夫や、アピールポイントの精選が必要である。

一方で、現在のところ現職教員以外で休業・退職して入学するケースはごく稀であり、経済的支援面における本学教職大学院のアピールポイントを新たに見いだす必要もあると考える。例えば、教職大学院では学外での実地活動がカリキュラム上で多くを占めることから、当該活動に伴う費用の支援策を検討してはどうか。このことは、将来、修士課程での実験科目導入も見据えて、全学的な対応課題として捉える必要があると思われる。

#### <教員採用試験>

愛知県教員採用試験における教職大学院修了見込者特別選考（2次試験）の今年度の集団討議は、講師経験者特別選考と合同で実施された模様であり、教職大学院修了生と講師3年以上経験者の有するべき資質・能力は同じレベルと採用側が考えていることの現れといえる。今年度の本学の修了見込者区分受験者は半数が不合格となっている（学生募集時のアピールポイントになりづらい）ことから、日常の指導内容・方法などで更なる工夫が必要となっている。

また、当該修了見込者特別選考では、今年度実施分から「大学の推薦書」が出願書類に加えられた。今年度の本学学生の合否状況も踏まえ、修了見込者に関する学内推薦の基準・めやすの類を整備することも、検討の必要があると考える。

さらに、教員採用試験に関わっては、以下の懸案がある。

本学の受験者には該当がなかったが、前年度以前からの大学院修学特例措置適用者の今年度再選考において、不合格となる例が愛知県で見受けられた。この状況に不安に感じた本学1年次生の今年度合格者が、退学・教員採用を選んだ例が生じた。他県等では、名簿登録期間延長などの方法を採用することにより、大学院修学特例適用者に対する再度選考は実施していないところもあり、採用側の教育委員会への働きかけも必要であると思われる。

退学に関連して、採用試験の補欠合格者については大学院修学特例措置の適用がないため、1年次生が補欠合格となった場合に、結局は退学・教員採用を選んでいる。この選択自体はやむをえないものとするが、その後の再入学など本学の体制整備も、検討が必要であるとする。

## 2 財務内容の改善に関する目標

該当なし

## 3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

| 課題として指摘された事項                                                                                                                                                                                                                                                                     | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>平成27年度</b></p> <p>① 教育・研究課題及びその成果の検証を行う等、愛知県内のみならず、全国のさらに多くの教育関係者に研究成果の公表を拡大していくための検討が求められる。</p> <p>② 教員養成大学に付置された附属学校としての役割を果たすために、大学教員が附属学校で一定期間授業を担当するシステムを構築する等、教育・研究における大学と附属学校のより一層の緊密な連携が求められる。</p> <p>③ さらに申請件数を伸ばすと同時に、研究内容のより一層の充実により、採択件数及び受託事業を増加させる必要がある。</p> | <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <p>① 教育研究協議会の広報の充実に取り組んだ結果、教育研究協議会への県外からの参加者が、37名から55名に増加した。また、日本／ユネスコパートナー事業によるユネスコスクール指導者交流会（H27.12）において、附属名古屋小学校及び附属岡崎中学校教諭がユネスコスクール活動の実践発表を、e スクールステップアップ・キャンプ2015（H27.12）において、附属名古屋中学校教諭がICTを活用した授業実践報告を、教育課程研究校事業による研究協議会（H28.2）において、附属名古屋中学校教諭が成果発表を行った。</p> <p>② 大学教員は、昨年度と同様に教育研究発表会に向けて、あるいは、日常的に、教科レベルで附属学校教員の授業研究への指導助言を行っている。</p> <p>③ 平成27年度は、外部講師を招いて、科学研究費助成事業における奨励研究への申請サポートを実施した。申請件数は、昨年度とほぼ同数の56件であった。また、国が公募するプロジェクト等への応募を推奨、支援した。その結果、昨年度は「キャリア教育・就労支援等の充実（採択）」と「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業（採択）」の2件の応募であったが、平成27年度は、研究開発学校に2件応募するとともに、「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業（採択）」、「ICTドリームスクール実践モデル」、「教育課程研究指定校事業（採択）」、「中高生の科学研究実践活動推進プログラム（採択）」の4件のプロジェクト研究に応募した。</p> |

## 4 その他業務運営に関する重要目標

| 課題として指摘された事項                                                                                                                                      | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>平成22年度</b></p> <p>「情報セキュリティポリシー関連の手順、ガイドライン等の策定・整備を行う。」（実績報告書19頁・年度計画【25-2】）については、運用方法・手順を示した規程等の策定・整備が十分には行われていないことから、規程等の策定・整備が求められる。</p> | <p><b>平成23年度報告【改善状況】</b></p> <p>1. 平成22年度に制定できなかった「学外情報セキュリティ水準低下防止ガイドライン」の制定を行い、平成22年度未実施分について対応した。</p> <p>2. 更に、新たに「情報セキュリティポリシー等適用の例外措置手順」及び「インシデント対応手順」の制定を行ったほか、情報セキュリティポリシーの見直しにも着手し、「情報システム運用基本規程」、「情報システム運用・管理規程」、「オールユーザーメーリングリスト取扱要項」及び「電子メール利用ガイドライン」を一部改正するとともに、情報システム運用管理体制を見直し「部局情報システム運用委員会規程」を廃止するなど、平成23年度に掲げた年度計画を十分実施することができた。</p> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b><br/>(平成23年度)</p> <p>「情報セキュリティポリシー等適用の例外措置手順」の制定を行ったほか、「インシデント対応手順」の制定を行った。</p> <p>また、情報セキュリティポリシーの見直しにも着手し、情報システム運用管理体制の見直しを行い、「情報システム運用基本規程」の一部改正及び「部局情報システム運用委員会規程」を廃止した。ほか「オールユーザーメーリングリスト取扱要項」及び「電子メール利用ガイドライン」の一部改正を行った。</p> <p>(平成24年度)</p> <p>「事務情報セキュリティ対策基準」及び「事務用パーソナルコンピュータ取扱ガイドライン」の制定を行った。また「情報セキュリティポリシー」の点検・見直しを実施し、「情報処理センターサーバレンタルサービス利用要領」を始めとする4件の実施規定等の改正を行った。</p> <p>(平成25年度)</p> <p>「外部委託における情報セキュリティ対策実施手順」の制定及び「情報システム非</p> |

|                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                  | <p>常時行動計画に関する規程」を始めとする4件の規程等の改正を行った。また、「グループウェア利用の手引き」の改訂を行った。</p> <p>(平成26年度)</p> <p>「情報システム運用基本規程」及び「情報処理センターサーバレンタルサービス利用要領」を始め4件の規程等の改正を行った。</p> <p>(平成27年度)</p> <p>「情報システム運用リスク評価手順」の制定を行った。また「情報セキュリティポリシー」の点検・見直しを実施し、「事務用パーソナルコンピュータ取扱ガイドライン」や「大学専任教員用メーリングリスト取扱要項」を始めとする7件の実施規定等の改正を行った。</p> <p><a href="#">平成27年度報告【改善結果】</a></p> <p>平成22年度の本学外部評価での指摘を受け、翌年度より本学の情報セキュリティ水準の向上に資することを目的に、情報セキュリティポリシー関連の手順、ガイドライン等の点検・整備を行った。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p><a href="#">平成24年度</a></p> <p>教員のウェブサーバーの設定ミスにより学生の個人情報流出した事例、学生が学外で附属学校の生徒の個人情報が記録されていたパソコン等を紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。</p> | <p><a href="#">平成25年度報告【改善状況】</a></p> <p>個人情報流出の再発防止に向け、再発防止策の検討・実施及び教育研修の機会を増やすなどの対策を行った。平成25年度は個人情報の流出の事象はなかった。</p> <p>【教員のウェブサーバーの設定ミスにより学生の個人情報流出した事例】</p> <p>情報システム委員会において、以下の再発防止策を検討・承認し、当該教員に対策の実施を依頼した。個人情報保護委員会委員長からも再発防止に向けた対応の継続を依頼した。また、教育研修の機会を継続的に設け、個人情報保護の重要性を認識させた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 再発防止策の徹底 <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一ウェブサーバー内でのアクセス制御の在り方を分かりやすくするためのウェブサーバー内コンテンツ配置の工夫</li> <li>・学生向けの共有情報の掲載期間の限定と共有内容の精査</li> <li>・ウェブサーバーのアクセス制御の定期的な確認</li> <li>・作業チェックリストによるウェブサーバーの設定・変更の確認</li> <li>・ウェブサーバー管理者への管理状況の点検依頼</li> </ul> </li> <li>2. 教育研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサーバー管理者向け講習の実施</li> <li>・個人情報保護・情報セキュリティセミナーの実施</li> </ul> </li> </ol> <p>【学生が学外で附属学校の生徒の個人情報が記録されていたパソコン等を紛失する事例】</p> <p>個人情報保護委員会委員長から学生の所属講座に対して、再発防止に向けた対応の継続を依頼した。当該講座は所属学生に対して、再発防止に向けて以下の指導を行った。また、学生にも教育研修の機会を設け、個人情報保護の重要性を認識させた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 再発防止策の徹底 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究上の個人情報管理の徹底指導</li> <li>・自身の対策状況確認のため、情報処理センターの情報セキュリティサイトに「個人情報保護・情報セキュリティ対策自己診断チェックリスト」を掲載</li> </ul> </li> <li>2. 教育研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前指導時における個人情報の取扱い指導の実施</li> <li>・学内掲示及び学務ネットの掲示による、学生への個人情報保護・情報セキュリティセミナーへの参加の呼びかけ</li> </ul> </li> </ol> <p><a href="#">平成26年度報告【改善状況】</a></p> <p>【教員のウェブサーバーの設定ミスにより学生の個人情報流出した事例】</p> <p>(再発防止策)</p> <p>個人情報保護委員会委員長から該当教員に対して、再発防止に向けた対応の実施の継続を依頼した。</p> |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>(教育研修)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報処理センターにおいて、サーバ管理者向けの講習を12月17日（水）に開催した。次年度以降も継続開催する予定である。</li> <li>2. 情報処理センターにおいて、サーバ管理者向けサーバ管理状況の点検を9月30日提出期限でサーバ管理者に依頼しチェックリストを提出させた。今後チェックリスト未提出者やセキュリティパッチ未適用者で改善が見込まれないサーバ管理者にはサーバの利用を停止する方向で検討している。また、次年度も継続実施する予定である。</li> <li>3. 情報システム委員会及び個人情報保護委員会において、個人情報保護・情報セキュリティセミナーを10月29日（水）に開催した。次年度以降も継続開催する予定である。</li> </ol> <p>【学生が学外で附属学校の生徒の個人情報記録されていたパソコン等を紛失する事例】</p> <p>(再発防止策)</p> <p>個人情報保護委員会委員長から該当講座に対して、再発防止に向けた対応の実施の継続を依頼した。</p> <p>(教育研修)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報システム委員会及び個人情報保護委員会において、情報処理センターのHP情報セキュリティサイトに個人情報保護・情報セキュリティ対策自己診断チェックリストを掲載し、自身の対策状況を確認できるようにした。</li> <li>2. 情報システム委員会及び個人情報保護委員会において、個人情報保護・情報セキュリティセミナーへの参加を学内掲示などにより呼び付けた。</li> <li>3. 情報処理センターにおいて、初心者向けセキュリティ講習会を3月に実施する計画を進めている。</li> </ol> <p>平成26年度報告【改善結果】</p> <p>2年度に渡り継続して改善策を実施した結果、その間個人情報の流出事故は発生しておらず、個人情報流出のリスクは改善された。</p> <p>今後も、個人情報保護に関して継続的に取り組んでいく。</p> <p>また、総務省の個人情報に係る指針の改正に伴い、本学の「国立大学法人愛知教育大学個人情報保護規程」を一部改正し、個人情報保護に関してさらに適切に対応することとした。</p> |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## ②大学機関別 認証評価 指摘事項の改善状況等（平成26年度）

| 課題として指摘された事項                                  | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学部及び修士課程の教育課程の編成・実施方針の内容が、十分な内容を備えたものになっていない。 | <p>平成27年度報告【改善状況】</p> <p>(学部)</p> <p>教育課程の編成については、平成28年1月14日に開催の大学改革推進委員会において第一専門部会で検証を進め、3月中までに学内方針を決定することを確認し、新しいアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの検討を開始している。</p> <p>また、現代的教育課題に対応する能力を養うことを目的として教養科目の改編を行うことについて、大学改革推進委員会等で検討を行った。平成28年度の入学生の新教養科目は、実践力育成科目の充実に向けた運営体制整備のために試行的な導入にとどめ、学部配属組にあわせて、平成29年度入学生から実施することとした。</p> <p>(大学院)</p> <p>大学院における実践的科目の導入について、大学院教育学研究科運営専門委員会において検討し、平成28年度より附属の小中学校の研究発表会の日は通常の大学院授業を休講とし、研究発表会へ参加させることとした。</p> |

## ③国立大学法人愛知教育大学外部評価 指摘事項の改善状況等 (平成24年度実施)

## 1 教育活動

| 課題として指摘された事項                                     | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>授業アンケート等、教員の教育力を伸ばす努力はきちんとやっておくべきではないか。</p>   | <p><a href="#">平成25年度報告【改善状況】</a></p> <p>平成25年度新入生からカリキュラムが変わったこともあり、後期の教養科目から新しい内容でアンケートを実施しました。従来はすべての科目で同じアンケート項目で実施していましたが、より充実した授業を構想するための支援となるよう共通項目と、科目グループごとの独自項目を設けることにしました。今回の教養科目のように、共通科目、教育科目・教科教育科目・教科研究科目、専攻科目で独自項目を設ける予定です。</p> <p>また、平成25年度前期は、初年次演習について授業アンケートを実施しました、記述式で回答してもらう項目を多く設けたほか、授業担当者が独自の項目でアンケートが行えるようなスペースを設けて、各授業の充実につながるよう工夫しました。</p> <p><a href="#">平成27年度報告【改善状況】</a></p> <p>これまでは記述式主体のアンケート方式であったため、アンケート結果の処理に膨大なリソースを必要とした。また、数値化されていないデータは、客観的な判断が難しく、授業アンケートの結果が示されても、授業者はその結果を改善につなげることが難しかった。</p> <p>平成26年度は、「初年次演習アンケート、教養科目アンケート及び授業改善のためのアンケート」を実施した。初年次演習アンケートは、平成25年度から引き続き行ったものだが、回答項目を精選し、授業担当者が独自に質問するスペースを設けるなど、各授業の充実につながるよう工夫した。そのほかのアンケートについても、項目をシンプルにするなど見直しを行い、処理に必要なリソースの削減に努めた。</p> <p><a href="#">平成27年度報告【改善結果】</a></p> <p>アンケートの内容の見直しを行ったことにより、授業アンケートの実施・分析・公表までが迅速化し、計画的な運用が可能となった。さらに、クラス別に集計した結果を担当教員にフィードバックし、自己評価の提出を求め、授業改善に向けたの努力につながるように支援できた。</p> <p>アンケート結果及び自己評価結果は教職キャリアセンターF D部門(旧大学教育研究センター) ウェブサイトで公開し、教員の授業改善に役立てられるようにした。</p> <p>これらのアンケート結果の概略については、教員間での認識の共有のために、教授会で報告した。</p>                                                       |
| <p>6年一貫教員養成コースという特徴があるプログラムを積極的に活用していく必要がある。</p> | <p><a href="#">平成25年度報告【改善状況】</a></p> <p>特別経費プロジェクト「教員養成キャリアと教員の資質能力との関係に関する調査研究」において、「愛知教育大学を卒業・修了した教師の力量形成・自己形成に関する意識・実態」と題するアンケート調査を、2,268人を対象に郵送調査により実施しました(有効回答数916件)。そのうち平成25年度に6年一貫コースを修了した教師19人からも回答を得ました。その結果は現在分析中です。また、同プロジェクトの報告書の一部である「教師が語るⅡ」には、6年一貫コース修了者9人からのインタビュー結果を収録しています。これらからは、他の教員養成キャリアとは異なり、6年一貫コース修了者は辞職を構むにつれて、厳しい自己評価をする傾向にあることがうかがわれました。また、異なる専攻(教科)の学生との学びの共同が、彼らの教師としての成長に効果的であったこと、その延長線としての韓国での異文化交流や国際交流も6年一貫コースの活動の中で大いに役立った経験として感じていることなどが明らかとなっています。これらの実態や調査結果を基に今後の6年一貫コースの学びの有効性や特徴について、在学生と6年一貫出身教員との意見交換会など、いろいろな機会を捉まえて発信していく予定です。</p> <p><a href="#">平成27年度報告【改善状況】</a></p> <p>改善策に示されている、特別経費プロジェクト「教員養成キャリアと教員の資質能力との関係に関する調査研究」(平成24～26年度)において、6年一貫コース修了者に対する聞き取り調査等については、既に平成26年度発行の「教師が語るⅡ」で8人のインタビューを実施している。また、同調査研究の教師の成長に関する調査報告書に回答のあった19人(対象者26人中)が本学のカリキュラムについて肯定的回答をしている率は本コースに所属しない他の類型に属されるものよりも高かった。</p> <p>改善策にも記載のとおり、本プログラムは通常の一般学生用の履修基準にプラスするカリキュラムとして成立しており、本コースのカリキュラムを全学生に適用することはできないが、プログラムを有効に活用するためには、コース定員充足も課題である。</p> <p>平成25年度に実施した本学外部評価において、「改善を要する点、提言」として指摘された、「教員養成の修士化は世界の趨勢であり、6年一貫教員養成コースへの進学者を増やす方策を検討していただきたい。」という事項においても報告のとおり、従来</p> |

|                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                      | <p>の教務部会メンバーに6年一貫コース会議委員のうち各学系の教員を加え、検討ワーキングを平成26年度に実施した。</p> <p>大学入学時からの募集や、各専修・専攻からの推薦などの方法による新たな募集方法を検討する、魅力のある学部・大学院受業モデルとして広報する、他大学との連携による6年制教員養成の意義を明確化するなどのワーキングでの意見を踏まえ、今後の大学改革と併せて、検討を推進していくこととした。</p> <p><b>平成27年度報告【改善結果】</b></p> <p>この間、改善状況に示している点から、2年生向けの説明会の実施、募集切り前の一定期間に個別説明会の場を設けるなど、魅力のある学部・大学院受業モデルとして広報を行ったり、カリキュラム改革を行ったりしてきている。その結果、6年一貫コースの進学者は基本的には10人近い数となっているが、2から3人に止まる年もある。今後とも改善策を講じていく必要がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>全学の教育現場から、教育課題を学長にあげるシステムをきちんと構築していただきたい。大学がさらに成長していくためには、学生と直に接している教員が教育課題を敏感に感じ取って、学長にあげて積極的に改革を進めていくべきである。</p> | <p><b>平成25年度報告【改善状況】</b></p> <p>現行の教務企画委員会の下に設けられている各専門委員会において、各選修・専攻・コースおよび大学院の各専攻などの各教育単位の意見や要望、教育課題について、各専門委員会の場において議論あるいは意見が出されています。教育担当理事はこれら全ての専門委員会に出席しており、これを基に学長への報告が必要と判断される教育課題があれば、学長理事懇談会や役員会などの場において、学長に相談する体制を作っています。学生と教員の諸問題も含めて学長との情報共有を図る体制をとっています。経費を伴う課題によっては、学長裁量経費の支出をするなどの対応を図ってきています。</p> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <p>教育活動について指摘された内容は、全学の教育現場から教育課題を学長にあげるシステムをきちんと構築することであるが、本学には学生支援委員会、教務企画委員会、就職支援委員会といった全学組織があり、その元で部会・ワーキングなども開かれきめ細かく学生の教育活動についてサポートしている。その会議報告は教育研究評議会、教授会などで全教員、そして学長に周知する機会としており、教育課題を学長にあげる重要なシステムになっていると考える。</p> <p>これに加え、学長の元に学長理事懇談会がほぼ毎週1度、各2時間ほど開かれ、教育・学生担当理事、学生支援・就職担当副学長、カリキュラム改革担当副学長が出席し、学生の教育課題を学長に直接説明する機会が設けられている。これは学生の教育課題についてスピーディに学長に上げるシステムとなっている。</p> <p>また、教育学生支援部連絡会を、教育・学生担当理事、教育・学生支援部長、教務部長、学生支援部長、キャリア支援部長、入試部長とで、月に2回開催している。ここでは、各課の月次報告と共に、学生の教育活動に関わる課題について議論を行っている。教育・学生担当理事、並びに教育・学生支援部長はその議論の結果を受け止めるとともに、課題に応じ学長に報告することとしている。これも、教育課題を学長にあげるシステムの一つとなっている。</p> <p>これらシステムが、学長が教育課題を汲み上げることにつながっており、学長から役員会に反映し、学生の教育課題の改善につながっている。</p> <p><b>平成27年度報告【改善結果】</b></p> <p>全学委員会とは違い、学長理事懇談会は学生の教育課題について学長との自由な討論の場となっており、かつ即応性があり、緊急な課題対応もできるシステムとして効果を上げている。また、教育・学生支援部連絡会は担当課長から教育・学生支援部長及び教育・学生担当理事に上がり、それが学長・役員会へとあがっていくシステムになっており、学生の教育環境を速やかに改善する上で効果を発揮している。</p> |

## 2 研究活動

| 課題として指摘された事項                                                              | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>科学研究費助成事業の申請率や留学生の数、T A予算など、全体的に思い切った数値目標を入れたらどうか。十分に達成できるのではなか。か。</p> | <p><b>平成25年度報告【改善状況】</b></p> <p>平成25年度申請率は70%を割り、100%達成には、程遠い状況にあります。平成26年度申請率が当面70%を超えるよう、自然科学系を除き、申請率の低い学系への働きかけが重要であると考えます。平成25年度は、タイ、インドネシア、韓国、アメリカ等の協定校の本学への留学を増やすための働きかけを、名大、三重大、本学の共同の取組みをベースに行いました。平成26年度に成果が出ることを期待できます。</p> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <p>平成25年度のアクションプランに「応募対象者全員の申請（申請率100%）を目標</p> |

|                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                | <p>として進める」と明記した。</p> <p>留学生の受入については、中期計画に「留学生受入数100人を目標に」と数値目標が設定されているが、改めて平成25年度のアクションプランに「100人の受入を目指し」と数値を入れた。また、協定校に出向き、留学生受入・派遣のためのリクレー活動、プレゼンテーションを実施する、また、協定校との懇談会を開催する等、目標を達成するために様々な取組を行った。</p> <p>また、TAについては、需要見込みを明らかにするために聞き取り調査を行った。</p> <p><b>平成27年度報告【改善結果】</b></p> <p>科研費申請率100%を目標に掲げ、取組を強化したところ、減少傾向にあった申請率が向上した。</p> <p>留学生の受入数は、平成24年度に130人と目標を達成した。25年度、26年度にはそれぞれ85人、94人と減少したが、27年度には133人となり、目標を達成できた。</p> <p>聞き取り調査を行ったところ、教員からのTAの要望は特に強いわけではなく、また、TAを希望する院生も多くないことから、TA予算については数値目標を設定しなかった。</p> <p>以上のように、科学研究費助成事業の申請率及び留学生数は、数値目標をアクションプランに入れることの効果がみられた。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 科学研究費助成事業の申請率は、100%を目標とすべきである。 | <p><b>平成25年度報告【改善状況】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 非応募の場合には実験系で10万円、非実験系で5万円を次年度配分の基礎的教育研究費から法人にバックする方式を継続した。</li> <li>2. 教受会等の場で総務担当理事より科研費申請の意義、重要性等と呼びかけた。</li> <li>3. 平成26年度科研費公募説明会を開催し、公募内容を説明し、公募の要請を行った。</li> <li>4. 申請期間中は電子申請の苦手な教員等へは担当事務で個別にサポートを行った。</li> <li>5. 申請期間中は担当事務から申請手続き、調書作成等について個別に相談に応じサポートする他、学内申請期限後も可能な限り柔軟に対応を行った。</li> </ol> <p>(申請結果)</p> <p>非応募に対する次年度基礎的教育研究費から法人にバックする方式等は従来並の効果はあったと思われる。</p> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <p>平成22年に科研費に応募しなかった場合には、実験系で10万円、非実験系で5万円を次年度配分の基礎的教育研究費から法人にバックする方式を導入したことで、申請率(新・継の合計申請件数÷申請可能人数)は、45.1%から66.8%と急激に高まった。翌年には70.2%、さらに平成24年には、72.3%まで増大した。しかしながら、平成25年には、69.6%と減少傾向に転じ、平成26年には61.9%まで落ち込んだ。</p> <p>平成26年では、非応募者に対して基礎的教育研究費をバックする方式の有効性を検証するために、方式を一旦取り止めた。一方で、本学の申請件数等の推移、講義別や年齢別の申請状況、他の教員養成単科大学の申請状況等を教受会において提示するとともに、科研費申請の意義や重要性を呼びかける、公募説明会を開催する、申請サポート体制を強化することで主体的な取組に期待したが、申請率の減少に歯止めをかけることはできなかった。</p> <p>そこで、平成27年には、教員研究費を一段と縮減するとともに科研費を申請した者に対してインセンティブ経費を配分する方式を導入することとした。</p> <p><b>平成27年度報告【改善結果】</b></p> <p>新規の申請件数は103件から124件に増加し、申請率は71.3%に達した。</p> <p>今後も引き続き、申請率100%を目標として努力する。</p> |

### 3 地域連携

| 課題として指摘された事項                                                      | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 愛知学など、国際化に備えたいろいろな試みを実施しているわけなので、もっと的を絞った国際化対応を前面に出す必要があるのではないかと。 | <p><b>平成25年度報告【改善状況】</b></p> <p>(留学生支援部門)</p> <p>SS(留学生受入)で本学に短期研修に来た留学生が、その後1年間の交換留学生に応募して本学に滞在するなど、継続性に繋がっています。(※ただし、この制度は現在は廃止されています。また、SV(協定校派遣)に参加した学生では、それがきっかけとなり、国際ボランティア学生として、活動するようになりました。サマースクール(日本語集中研修基礎コース)は、参加人数が定員に満たないこともあり、2回の開催ことどまっていますが、参加者の中には、再度応募するなど、プログラムの有効性をうかがわせています。)</p> |

## (国際交流協定)

国際協力機構（JICA）「産業技術教育」の集約研修コースを継続して実施し、これまでに約150人の研修員を受け入れてきました。研修員の多くは、それぞれの国で産業技術教育を推進する者であり、本研修は開発途上国の発展に寄与してきました。また、研修員の中には自国の副大臣に就任した者もいる。ユネスコスクール加盟支援については、当初県が目標としていた加盟校50校を超えるなど、積極的に支援を行ってきました。また、県内の学校を対象とした交流会を昨年に引き続き開催しました。参加者は約100人であり、有為な経験交換が実施できました。

## (協定校交流推進部門)

協定を締結した、台湾師範大学、台北教育大学、および中国の湖南師範大学から留学生が継続して来るなど、留学生の増加に寄与しています。また、本学の経費による教職員招へいプログラムでは、これらの大学から研究者・職員を受け入れて交流に貢献しています。平成25年度は、9人を同プログラムにより受け入れました。

## 平成27年度報告【改善状況】

## (平成26年度)

学術交流協定締結校の韓国・晋州教育大学と調印した単位互換制度に基づき、両校において単位互換科目を開講し、韓国から受け入れた学生に対して成績証明書を交付した。協定校から4カ国7名の学生を受け入れて、体験型のサマースクールを実施した。参加学生の評価は概ね好評であった。特別経費「グローバル人材育成を主軸とした教員養成等プログラムの開発」による英語教員養成プログラムでは、学生20人をオーストラリアの小・中学校15校に派遣し、ホームステイをしながら3週間の教育実習を実施した。また、海外短期交流プログラムでは、3カ国（台湾、韓国、米国）の本学協定校に学生37人を1～2週間派遣し、協定校での授業や現地の学校での実習体験を行った。

これまでに留学生の受け入れ等の交流実績があるカンボジア国立教育研究所及びモンゴル国立教育大学と国際学術交流協定を締結した。これにより、協定校は、14カ国、22大学・機関となった。グローバル化の推進に向けて、本学滞在中の講演の義務化、帰国後の本学学生の受け入れを奨励するなど、海外協定校からの招へい教職員制度を見直した。内外のリクルート活動については、協定校の香港教育学院及びノイ教育大学で実施した。三大学連携事業によるカンボジア国のNIEから2名の研修員を受入れた。また、カンボジア国へ現地調査団を派遣し、公益財団法人CIESF（シーセフ）（NGO）と連携を図り、調査を実施した。

## (平成27年度)

グローバル人材育成プログラムの一環として実施したショートステイ(SS)プログラムには、協定校のある中国、モンゴル、韓国、アメリカ、台湾、英国から全体で47名の参加があった。また、ショートヴィジット(SV)プログラムには、オーストラリア、韓国、中国、カンボジア、タイ、ベトナム、モンゴルの7カ国84名の学生を派遣した。サマースクールに関して募集時期を早めたことにより応募が定員(宿舍の限度9名)を遥かに超えた24名の応募があり、4カ国11名の学生を受け入れ実施し、参加学生の評価は好評であった。

連携大学の海外拠点を活用した協定校へのリクルート活動を実施した（モンゴル、インドネシア、タイ）。カンボジアへの教育支援、教育人材支援として、2名のカンボジア大学院生への教育支援をしており、新たに10月に2名の研修員を受入れた。また、1月に名古屋大学の教員も含め実習調査支援、それに関わるワークショップを実施した。同時に看護教諭養成課程の学生を中心とするカンボジア教育実地研修を実施した。

## 平成27年度報告【改善結果】

学生を主体にした国際化対応を前面に出したことにより、本学の教員養成大学におけるグローバル推進が明確になり、徐々に全学的な広がりが顕在化し、一定の成果を得られた。

## ⑤国立大学法人愛知教育大学外部評価 指摘事項の改善状況等 (平成25年度実施)

## 1 管理運営体制

| 課題として指摘された事項                                                                                                                                                  | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>自己点検・評価報告書は、図表も判り易く、全体的によくできているが、今日的課題に効果的に対応しているかなどの検討は課題としてあろう。網羅的によくできているが、細かくすると情報発信性が弱くなる。貢献度の高い活動をしているのだから、皆に理解してもらえるような、効果的な情報発信の仕方を工夫していただきたい。</p> | <p><b>平成26年度報告【改善状況】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果的な情報発信の方法について             <p>当該年度の実績や活動状況について、写真等を多用しわかりやすくまとめた『平成25事業年度業務実績の概要』を作成し、評価ヒアリングの資料としたほか、HPでの公開など、学内外へ情報発信した。</p> </li> <li>「自己点検・評価報告書」について             <ol style="list-style-type: none"> <li>自己評価書                 <p>評価のサイクルを中期目標期間の6年に合わせ、認証評価等の第三者評価を含め、3～4年間で全項目を自己評価できるよう計画的に評価項目を選定し、確実に評価を行う体制を整えた。</p> <p>平成26年度については、第2期中期目標期間評価の準備として、附属学校と研究活動の2項目について自己点検評価することとし、自己点検評価・外部評価専門委員会の下に新たに設置された業務運営部門、教育研究部門において自己評価書の作成作業を進めることとした。</p> </li> <li>基礎資料集                 <p>既存の基礎データに、自己点検・評価報告書及び認証評価等で使用したデータ項目を追加し、基礎データを充実させた。また、基礎データの中から学外への公開が可能なデータを取りまとめた基礎資料集を完成し、自己評価書と合わせて来年度の早い時期にHPで公開する。</p> </li> </ol> </li> </ol> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果的な情報発信の方法について             <p>自己点検評価等は、内部資料としての活用を目的としているが、指摘を踏まえ、効果的な情報発信に努めた。</p> <p>まず、大学におけるすべての評価内容を整理するために、これまでHPの各所に散在していた大学評価に関する項目を集約し、中期目標期間の一期、二期毎に、評価事項を年度別に見やすく表示するとともに、各評価の説明を加え、学内外へ情報発信した。</p> <p>また、昨年度に引き続き、『平成26事業年度業務実績の概要』を作成し、国立大学法人評価委員会による評価ヒアリングの資料に活用し、本学HPで公開した。その他、評価結果をメディアに公表する際にも資料として利用し、学外者に対して、大学の業績について理解を得られるように留意した。</p> </li> <li>「自己点検・評価報告書」について             <ol style="list-style-type: none"> <li>自己評価書                 <p>平成27年度については、「教育活動」、「国際交流」、「危機管理」を選定して自己点検評価を行った。評価内容は、自己点検・評価報告書2014としてまとめている。</p> </li> <li>基礎資料集                 <p>自己点検・評価報告書及び認証評価等で使用したデータを精査したうえで、さらに追加し、基礎資料集を充実させた。また、自己点検・評価報告書とあわせて本学HPにて公開を行った。</p> </li> </ol> </li> </ol> <p><b>平成27年度報告【改善結果】</b></p> <p>2年度に渡り継続して改善策を講じたことにより、自己点検・評価報告書の評価項目を計画的に選定することが定着し、項目を絞り込んだことにより、掘り下げた分析が可能となった。また、整理された情報を、広く学内外に発信することができた。</p> <p>今後も、評価事項に関する情報発信に積極的に取り組み、大学の自己改善や質保証に役立てていくこととした。</p> |

## 2 施設・設備

| 課題として指摘された事項                                             | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学生の多様なニーズに一層適切に対応するため、附属図書館におけるラーニング・コモンスの整備を促進していただきたい。 | <p><b>平成26年度報告【改善状況】</b></p> <p>平成26年度国立大学改革基盤強化促進費及び平成27年度概算要求の申請を行ったが、残念ながら不採択となった。引き続き平成28年度概算要求の申請を行う予定である。</p> <p>なお、別途予算にて電子黒板、ディスカッションテーブル、タブレット端末などのICT機器やグループ学修用のテーブルを年度内に設置し、部分的ではあるがラーニング・コモンスの整備を行う予定である。</p> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b><br/>(平成26年度)</p> <p>平成26年度国立大学改革基盤経費促進費及び平成27年度概算要求の申請を行ったが、残念ながら不採択となった。別途予算にて電子黒板、ディスカッションテーブル、タブレット端末などのICT機器やグループ学修用のテーブルを年度内に設置し、部分的ではあるがラーニング・コモンスの整備を行った。</p> <p>(平成27年度)</p> <p>附属図書館におけるラーニング・コモンスの整備を実現するため、平成28年度概算要求（施設整備）及び特別経費（基盤的設備等整備分）を申請した。</p> <p>より実現性が高いと考えられる改革に急遽変更し申請を行った結果採択された。事業実施に向けて作業を進めていきたい。</p> <p><b>平成27年度報告【改善結果】</b></p> <p>別途予算により、電子黒板、ディスカッションテーブル、タブレット端末などのICT機器及び什器を購入し、図書館にラーニング・コモンスの機能を導入した。多目的スペース「アイ♥スペース」の利用申し込みが、期間内には、可動式のテーブル、椅子を設置し、常設ではないがラーニング・コモンススペースを確保した。</p> <p>また、学生支援課との連携により、平成27年4月から学内ワークスタディ学生による学習サポートデスクを館内に設置し、学生への学習支援を開始した。</p> |

## 3 教育活動

| 課題として指摘された事項                                         | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教員養成の修士化は世界の趨勢であり、6年一貫教員養成コースへの進学者を増やす方策を検討していただきたい。 | <p><b>平成26年度報告【改善状況】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>募集方法の改善を検討する <p>募集方法そのものの改善にまでは至っていないが、説明会の回数を増やしたり、パンフレットを刷新するなどして、募集状況の改善を図った。その結果、今年度の応募者数は8名となり前年度（2名）の4倍増となった。</p> </li> <li>魅力ある学部・大学院受入モデルとして広報する <p>本項目に該当する取組としては三つのことを行った。一つは授業公開で、本コースを志望する学生を中心に一部開放した。その結果、応募希望者が数名参加し、理解を深めた形で応募できるようになるなどの効果があった。二つ目は、前項でも触れたパンフレットの刷新である。数年ぶりに今年度パンフレットを改訂し、修了生の声を多く盛り込むなど、本コースの魅力がより効果的に伝わるようにした。また、このパンフレットは常時教務課内に置き、学生や教員が随時情報入手できるようにした。第三は、本コース学生が企画したシンポジウム（AUE学生チャレンジ・プログラムの支援を受けた「愛教大シンポジウム2014～語ろう！教育～」）の開催とそれを通じての各種メディアへの広報である。学生が日々のコースでの取り組みを土台とした内容でシンポジウムを行い、そこにコース外の多数の教員、学生、地域関係者が出席することでコースの取り組みを肌で感じてもらうことができた。また、これは中日新聞、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞などで紹介され、広く一般にコースのことを知ってもらうきっかけとなった。</p> </li> <li>インセンティブの付与 <p>対外的な本格的な話し合いには進んでいないものの、合格留保制度の確立など、学生が安心して大学院に進めるような体制づくりの検討を続けている。</p> </li> <li>他大学との連携による6年制教員養成の意義の明確化 <p>今年6年コースを立ち上げた京都教育大学と交流し、連携を深めた。具体的には、平成26年5月に京都教育大学6年コースの発足記念シンポジウムに本学教員3名が</p> </li> </ol> |

|                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                             | <p>出席して意見交換し、平成27年3月には、京都教育大学の学生と教員を招いて交流の場を設ける予定である。こうした交流を通じて、共同での調査研究を推進し、6年制教員養成の意義や役割について考えを深めているところである。</p> <p>5. 学内の位置づけの明確化<br/>柔軟な授業開講時間の設定などを意識することで、各専攻での学習等との両立に向けた改善を進めている。</p> <p>6. 学生指導・コース運営体制の強化<br/>コース会議において学生の活動報告を行ったり、実習連携校をできるだけコース教員が訪問するなどの活動を通じて、学生の所属する専攻の指導教員及び学校・地域との連携を図った。</p> <p>以上のような取り組みにより、改善に向けて確実に踏み出しており、一定の成果を得ている。</p> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <p>1. 募集方法の改善を検討する<br/>6年一貫コース定員充足の検討については、従来の教務部会メンバーに6年一貫コース会議委員のうち各学系の教員を加え、検討ワーキングを6月に実施した。大学入学時からの募集や、各専修・専攻からの推薦などの方法による新たな募集方法についてはワーキングで意見があり、大学改革推進委員会第一専門部会との意見交換も行ったが具体的な改善策にまでには至っていない。</p> <p>2. 魅力のある学部・大学院受業モデルとして広報する<br/>前述の、ワーキングからの報告を受けて、コース会議委員への要望として各専攻での情報発信を依頼することとし、各専攻に対し説明会のちらし配付を依頼した。また、大学が積極的に広報することについては、オープンキャンパスでブースを構え本学に志願する者へのPRをしたかどうかの意見があった。しかし、本年度については時期が迫っていたこともあり、実施は見送られた。<br/>また、シンポジウム開催については、年度末の開催に向けて準備をしている。</p> <p>3. インセンティブの付与<br/>愛知県や名古屋市の教育長が出席する諮問会議などでは、大学院進学者の合格者特例による受験ではなく、名簿登載延長について要請をしている。</p> <p>4. 他大学との連携による6年制教員養成の意義の明確化<br/>昨年度の3月に京都教育大学との合同シンポジウムを開催し、報告をまとめている。今年度については、11月に上越教育大学のプログラム担当者が来学した際に、意見交換を行った。</p> <p><b>平成27年度報告【改善結果】</b><br/>募集方法の改善については、その方法を検討し、一部説明会の実施など丁寧に行った。魅力のある学部・大学院受業モデルとして広報する点については、改善状況に示した広報を広く行った。インセンティブの付与については、本年度開催された諮問会議の場などを通じ、要請を行ってきた。他大学との連携による6年制教員養成の意義の明確化は、直接的な交流は平成27年度は行われなかったが、ホームページ上で継続的に情報発信を行ってきた。</p> <p>以上の改善状況であるが、学生募集と入学の状況は以下の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H26年度コース予定者；9期生<br/>(1次) 志願2人 合格2人 (2次) 志願0</li> <li>・H27年度コース予定者；10期生<br/>(1次) 志願9人 合格7人 (2次) 志願1人 合格1人</li> <li>・H28年度コース予定者；11期生<br/>(1次) 志願2人 合格1人 (2次) 志願2人 (合否未定)</li> </ul> |
| グローバル化への対応を取り入れた留学生数の拡大と、講座ごとの受入れ数のばらつきを改善するための工夫をしていただきたい。 | <p><b>平成26年度報告【改善状況】</b></p> <p>1. 本学ホームページの複数言語化について、今年度、広報委員会（入試広報部会）を立ち上げた。</p> <p>2. 平成25年度に作成した英語版の大学紹介DVDを更新し、本学の学術交流協賛校（18大学）及び本学に受験実績のある日本語学校（10校）へ送付し、外国人学生のための進学説明会にも資料提供するなど、留学生確保に向けた取組を実施した。また、</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>現在、中国語版の大学紹介DVDの作成を進めている。</p> <p>3. 単位互換制度等については、平成21年度より実施（H21 なし、H22 2名、H23 2名、H24 1名、H25 なし、H26 4名）した。</p> <p>4. 大学改革推進委員会における大学院改革の情報収集及び他大学の導入状況を調査した。</p> <p>5. 大学改革推進委員会における大学院改革の情報収集をしている。</p> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <p>1. 本学ホームページでは、『大学概要』の内容を流用し、英語版の基本的な大学情報を閲覧できるようにして情報発信に努めている。中国語版、韓国語版及びポルトガル版についても総務課広報・渉外担当とどこまで複数言語化すべきか、検討を進めている。</p> <p>2. 大学紹介DVDの英語版を更新し、中国語版及び韓国語版についても新たにDVDを作成した。第10回東アジア教員養成国際シンポジウムに参加した中国及び韓国の各大学代表者にDVDを配布して留学生確保に向けた情報提供を行った。</p> <p>3. 晋州教育大学校との学生交流プログラムによる「海外教育演習」の単位互換制度利用者は、平成26年度11人、平成27年度13人と1割弱に増加している。</p> <p>4. 入学後の修学上の問題を踏まえて定めた出願資格（N2）導入後は、出願者が減少している。外国人の大学院出願者は研究生出願者と連動しており、研究生の出願資格も含めて、他大学の状況を考慮しながら、資格を緩和するか現状維持するかについて検討している。</p> <p>5. 平成24年1月に大学院教育学研究科における教員1人当たりの指導学生数に関する申し合わせを定めてからは、特定の講座や教員への大きな偏りは改善された。</p> <p><b>平成27年度報告【改善結果】</b></p> <p>外国人留学生数は平成25年度(85人)、26年度(94人)と100人を下回っていたが、サマースクールや広報活動等の充実により、27年度は133人と増加し、22年度(106人)、23年度(107人)を超える水準に改善された。</p> <p>また、講座ごとの受け入れ数のばらつきについては、大学院教育学研究科における教員1人当たりの指導学生数に関する申し合わせを定めてから改善された。</p> |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 4 地域連携・社会貢献

| 課題として指摘された事項                                                                                                                          | 評価結果について検討し反映した具体的内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>大学における勉強だけでなく、学校文化、企業文化、異文化などを実際に体験するボランティア活動は、非常に重要で、なるべく多くの学生や留学生がボランティアやインターンシップを行えるように、システムをさらに充実させ、在学中に広い社会性を身に付けさせていきたい。</p> | <p><b>【学生支援】</b></p> <p><b>平成26年度報告【改善状況】</b></p> <p>1. 外部からの問合せ窓口のあり方の検討やボランティア活動状況の実態把握のため、学内ボランティア関係者による検討会議を開催</p> <p>9月29日（月）に学内のボランティア関係者が一堂に会し、ボランティア活動の現状報告及び実施上の課題を議論した。本学では、訪問科学実験（理科教育講座）、天文教育講座（同）、ものづくり教室（技術教育講座）、聴覚障害学生支援（教務課）、外国人児童生徒学習支援（リソースルーム）、名古屋市学校サポーター（キャリア支援課）、学校・福祉関係・東日本大震災関係ボランティア（学生支援課）等が実施されており、システムとしては活動の専門性上、教員・担当部署により外部からの受付や募集案内、ガイダンス等の指導が実施され、参加学生や活動状況が把握されていることが明らかになった。広範な専門分野に分かれているため、全体を統括する部署のあり方を含めて今後検討が必要であることが明らかになった。</p> <p>2. 学生への周知方法及びボランティア活動の推進方策の検討11月14日（金）、26日（水）の学校現場での学習支援に向けた情報交換会において、市町村教育委員会からは、定期的（決まった曜日の時間帯）に半日以上の活動を行うボランティア活動の希望が多く、特に、授業の一環として実施を望む声が多かった。そこで、正課の学校サポート実習や教育実習と正課外のボランティア活動をトータルで考え、望ましい本学学生の学校体験活動の在り方や地域貢献活動の在り方について、今後、検討を進めていくこととした。なお、学校サポート実習の導入前の現1年生に対しては、2月9日（月）キャリアガイダンスの中で、スクールボランティアの意義や注意点・募集について周知した。</p> <p>また、次回の学生生活実態調査において学生のボランティア活動状況について把握することとした。</p> <p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <p>1. 外部からの問い合わせ窓口の一本化</p> <p>6月に学内のボランティア関係部署が一堂に集まって「学内ボランティアに関する</p> |

る連絡会」を開催し、検討の結果、外部からの問合せ窓口は学生支援課とし、内容により担当部署へつなげる方式とすることを決定した。

## 2. 学生への周知方法の検討

学内ボランティアに関して取りまとめた学内専用ホームページを立ち上げ、学校ボランティア、教育復興支援ボランティアなど6つのボランティアについて紹介するとともにボランティア希望の学生が担当窓口へアクセスしやすいよう整備を行った。県内の学校ボランティアの情報をまとめ説明会で配付した。年2回、ボランティア説明会を実施した。

## 3. 本学学生のボランティア活動の実態把握（各部署への照会、学生生活実態調査を通じての把握など）

学生生活実態調査を実施し、集計結果からボランティア経験者は学部生で38%、大学院生で44%であった。うち学部生は1年16%、2年29%、3年47%、4年62%と学年が上がる程、上昇しており、内容としては全体の75%が学校・教育・保育関係であることが判明した。

学内クラブ・サークルに対しても、地域へのボランティア活動の有無について照会した。

## 4. 学生のボランティア活動歴（ボランティアカルテ）及び活動状況を把握するシステムの検討

学内ボランティアに関する連絡会においてボランティア証明書の内容等について、また学修カルテ導入時に学生自身がボランティア活動歴を記載することを検討することとなった。

### 平成27年度報告【改善結果】

学内ボランティアに関する連絡会の決定を受け、学生支援課が受付窓口となって、公式ホームページを立ち上げ、案内を開始した。

ボランティア説明会を今年度初めて実施したところ、80人の参加があった。また、そこで紹介した「なごや教職インターンシップ」に66人が参加し、教員養成大学の中で最多の参加者数となった。なお、昨年度まで実施されていた教師養成塾には本学から毎年20人程度しか参加しておらず、内容が異なるものの、ボランティア説明会の開催により学生の積極的な参加を促すことができたと考えられる。

クラブ・サークルに対して地域へのボランティア活動の有無について照会したところ、全クラブ・サークル91団体のうち陸上競技部やマジックサークルなど28団体が地域の中小学生にスポーツ指導をしたり、地域の子供会活動に参加したりする等、様々な形で地域貢献している状況がわかり、該当の活動団体に対してインセンティブを付けるような支援予算の配分の見直しに繋がった。

### 【教職支援】

#### 平成26年度報告【改善状況】

##### 1. 企業就職ガイダンスにおいてインターンシップ参加事前講座の実施

例年、3年生向けに1回実施している企業就職ガイダンスを、今年度は4回(5/1,5/8,5/28,6/10)実施し、インターンシップの概要、申し込み方法、ビジネスマナーなどの注意事項について説明を行い、参加を促す取組を行った。

その結果、大学を経由して申し込みを行った学生は36人（昨年度23人）に増加した。

##### 2. 企業訪問を行うなどして、インターンシップ受け入れ企業の開拓・充実

今年度40の企業を訪問し、本学学生の採用状況及びインターンシップの受け入れ状況等について意見交換を行った。また、インターンシップを斡旋するNPO法人アスクネットと協力し、キャリア教育、インターンシップの意義などを理解するため新たに説明会を開催した。(11/14,11/17)

その結果、18人が学年末試験終了後にインターンシップに参加することとなった。

### 平成27年度報告【改善状況】

##### 1. 企業就職ガイダンスにおいてインターンシップ参加事前講座の実施

3年生を中心とした企業就職ガイダンスにおいて、インターンシップの概要、申し込み方法、ビジネスマナーなどのガイダンスを今年度2回実施し、広い社会性を身につけるための支援策を行った。特に、昨年度は5月から6月にかけて実施したガイ

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>ダンスを1ヶ月前倒しで実施し、インターンシップに対する意識付けを行った。</p> <p>(1) 4月15日(水)(株)マイナビ(131人参加)</p> <p>(2) 5月29日(金)(株)リクルートキャリア(85人参加)</p> <p>2. 企業訪問を行うなどして、インターンシップ受け入れ企業の開拓・充実</p> <p>昨年度に引き続き今年度41の企業を訪問し、本学学生の採用状況、インターンシップの受入状況等について意見交換を行った。また、インターンシップを軸とするNPO法人アスクネットと協力し、キャリア教育、インターンシップの意義などを理解するための説明会を実施した。</p> <p>(1) 6月23日(火)、26日(金)NPO法人アスクネット(21人参加)</p> <p>(2) 12月21日(月)NPO法人アスクネット(3人参加)</p> <p>3. その他</p> <p>毎年、年度始めのインターンシップ参加事前講座に合わせて配付する「インターンシップガイド」について、インターンシップに参加するための手順等、内容を精査するとともに、他大学で行っている支援方法の状況について意見交換を行った。</p> <p>平成27年度報告【改善結果】</p> <p>就職情報会社によるインターンシップ事前講座の参加者は、昨年の208人から今年は216人へと増加し、インターンシップへの意識付けを図った。</p> <p>企業の人事担当者との意見交換の結果、インターンシップによって「就業体験する意識の高い学生が増えた」などインターンシップに期待する企業が多いことがわかり、就職情報会社を通じてwebエントリーしてほしい等、意見交換を行った。</p> <p>大学を通じてインターンシップを公募する企業・官公庁は昨年度並みであるが、応募した学生は12月末現在で54人(昨年度は年間36人応募)となっている。</p> |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 3 教育情報の公表状況

#### 学校教育法施行規則第172条の2に基づく教育情報

学校教育法施行規則第172条の2に基づき、本学ウェブサイト公表すべき教育研究活動等の状況(9項目)を公開しています。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>【掲載項目】</p> <p>1 大学の教育研究上の目的に関すること</p> <p>愛知教育大学憲章／教育学部、大学院の目的</p> <p>2 教育研究上の基本組織に関すること</p> <p>学部一覧／大学院一覧</p> <p>3 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること</p> <p>教員組織(教育研究組織)／役員・大学教員 現員数／研究者総覧／学校教育支援データベース</p> <p>4 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること</p> <p>入試情報／アドミッション・ポリシー(入学を望む学生像)／入学者数[大学概要]／学生数[大学概要]／卒業・修了者数[大学概要]／卒業生の進路について／国際交流[大学概要]</p> <p>5 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること</p> <p>シラバス(授業計画・授業内容)／教育学部授業予定／大学院授業予定</p> <p>6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること</p> <p>履修に関すること(卒業・修了必要単位数)</p> <p>教育学部 学年別履修基準／大学院教育学研究科(修士課程)カリキュラム／大学院教育実践研究科(教職大学院)カリキュラム／教育学部教育課程に関する規程／大学院教育学研究科(修士課程)履修規程／大学院教育実践研究科(教職大学院)履修規程／大学院教育学研究科 後期3年博士課程 履修規程</p> <p>学位に関すること</p> <p>学位規程／大学院教育学研究科 後期3年博士課程 学位規程／試験及び成績評価基準</p> <p>7 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること</p> <p>所在地[大学概要]／交通案内／キャンパスマップ／大学施設案内(写真あり)／体育施設[大学概要]／課外活動の状況／福利厚生施設の概要</p> <p>8 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること</p> <p>入学料・授業料／入学料免除・猶予／授業料免除／学生寮／施設開放</p> <p>9 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること</p> <p>奨学金制度／留学生支援の状況／学生サポート体制(相談窓口)／学生アルバイトについて／学割制度／オフィスアワーについて</p> |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

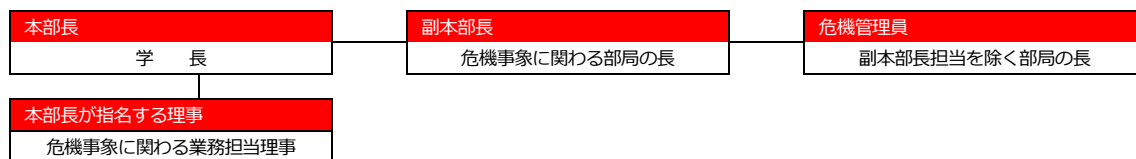
## 刊行物への掲載状況

| 刊行物                | 掲載されている内容        | 配布先 対象者        |
|--------------------|------------------|----------------|
| 大学案内               | 大学憲章             | 入学希望者、関係機関     |
| 大学概要               | 大学憲章（英語訳あり）      | 関係機関、来客者、本学教職員 |
| 学生生活               | 学則（抄）            | 学部・大学院 学生全員    |
| 履修の手引              | 学則               | 教育学部 学生        |
| 教育学研究科学生便覧         | 学則、専攻ごとの教育研究上の目的 | 教育学研究科 学生      |
| 教育実践研究科(教職大学院)学生便覧 | 学則、領域ごとの教育研究上の目的 | 教育実践研究科 学生     |

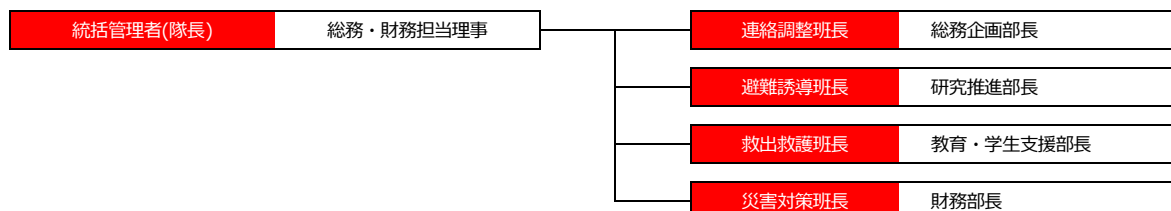
## 第13章 危機管理

### 1 危機管理体制

#### ① 危機対策本部



#### ② 自衛消防隊（2015年5月1日現在）

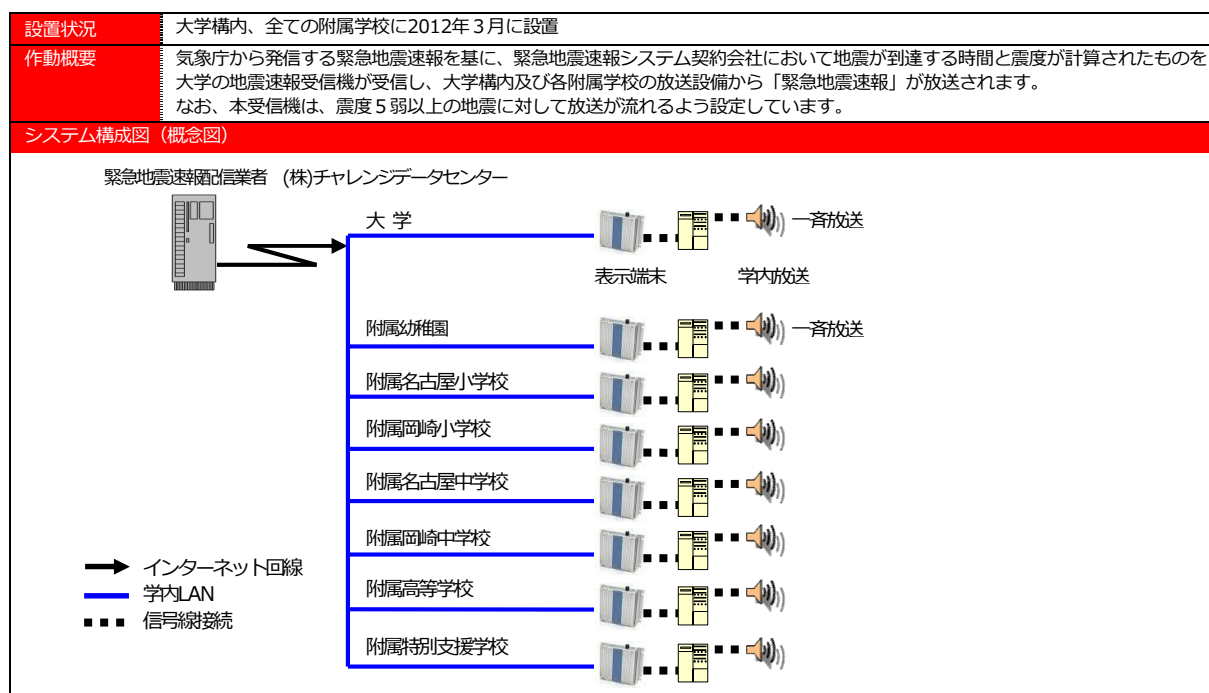


### 2 危機管理に対する整備状況

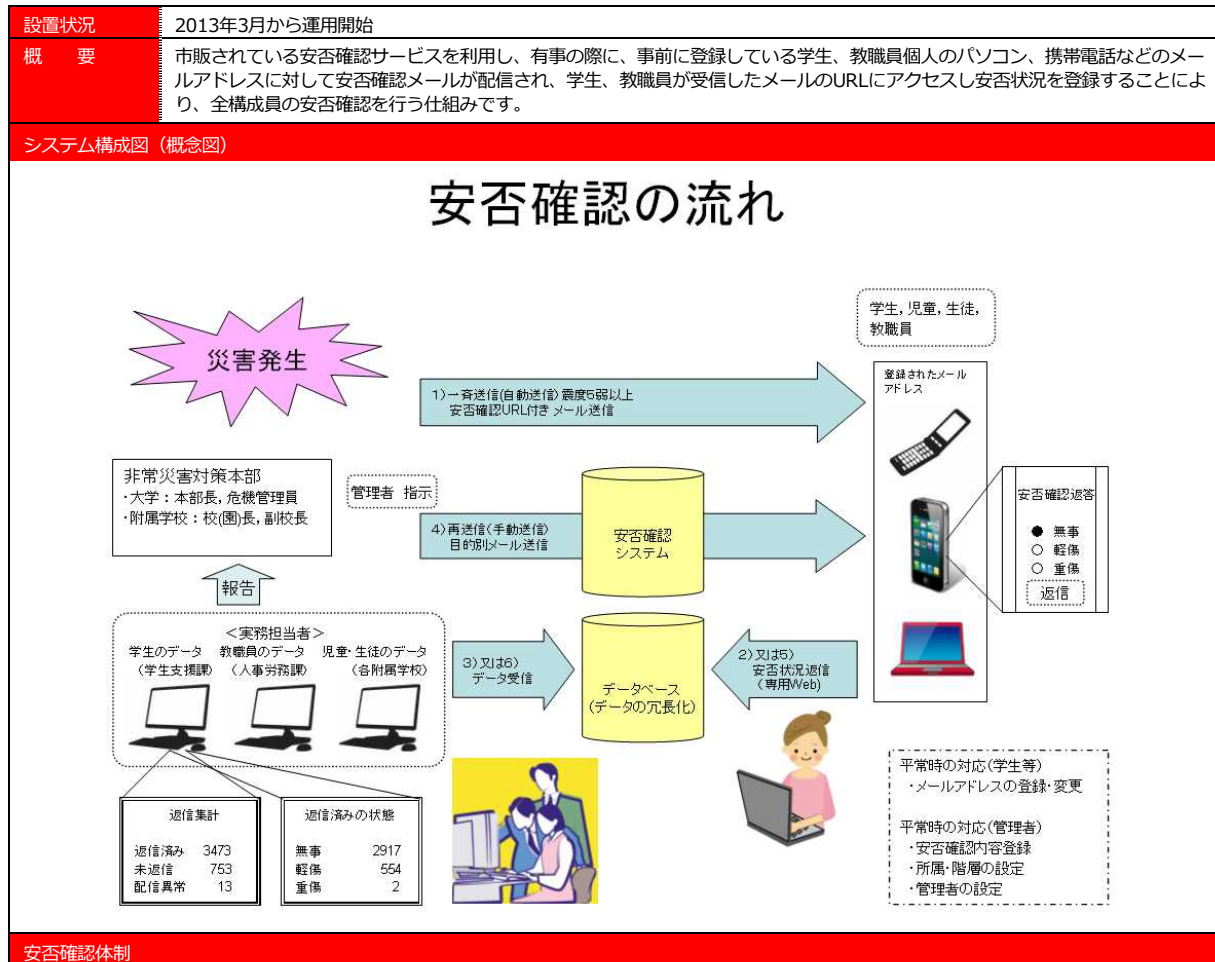
#### ① 防災ハンドブック（ポケット版）

|  |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  | <b>サイズ</b> 格納時 8cm × 11cm (折りたたみ式で広げるとA3サイズ両面にて、以下の内容を掲載)<br><b>掲載内容</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 東海地震に関連する情報と大学の対応</li> <li>2 東海地震等大規模地震注意情報発表時の学生への対応</li> <li>3 地震発生時の初動マニュアル</li> <li>4 知っておきたい救命措置</li> <li>5 自宅での防災活動</li> <li>6 災害時における安否・連絡方法</li> <li>7 気象予警報の地域分け</li> <li>8 東海・東南海・南海地震</li> <li>9 学内防災マップ</li> </ol> <b>配付状況</b> 学生全員に配付 |
|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### ② 緊急地震速報システム

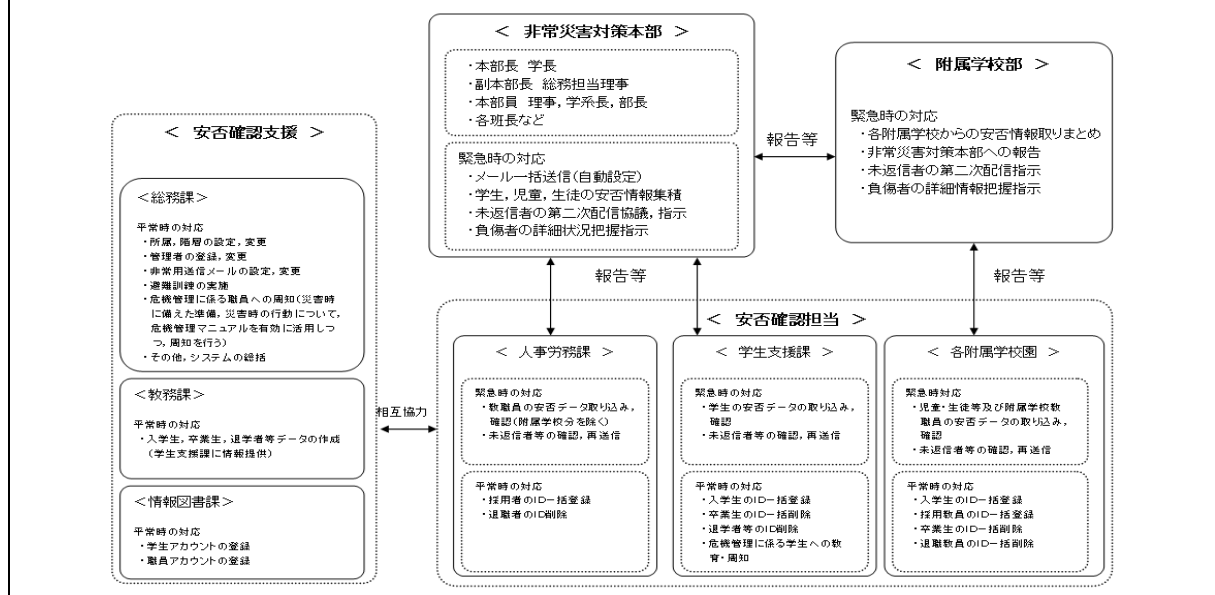


## ③ 安否確認システム



## 安否確認体制

## 非常災害時の安否確認体制



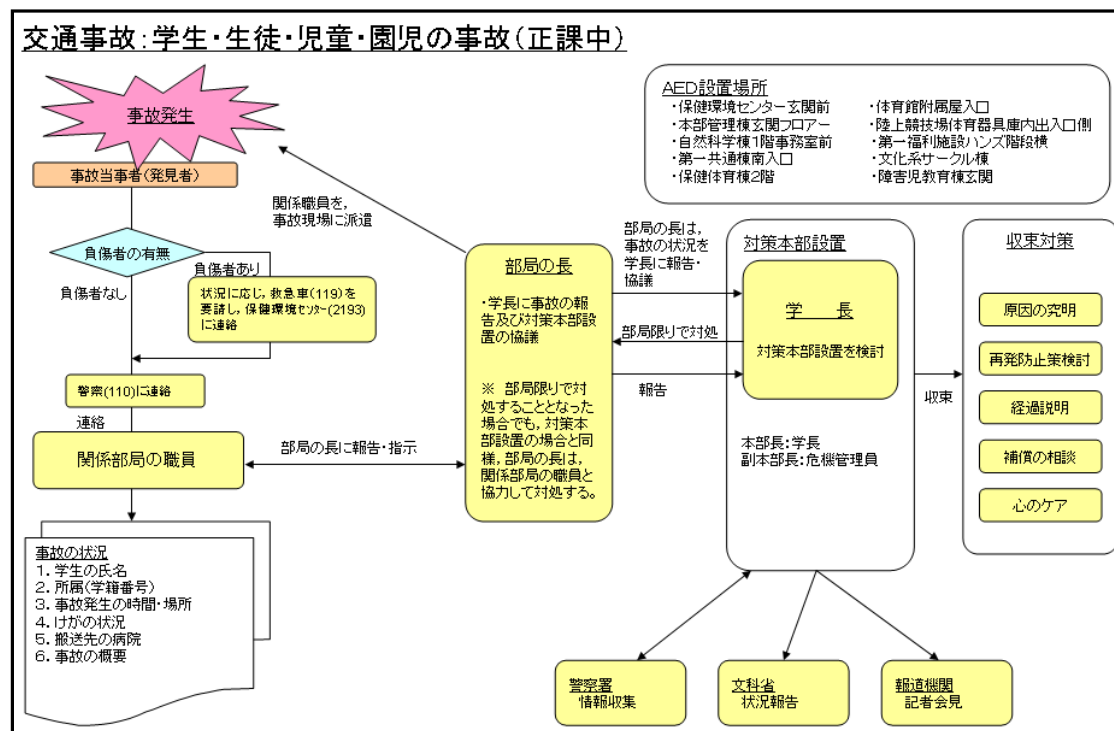
## ④ 危機管理マニュアル

## 危機事象の事例分類一覧

2015年5月1日現在

| 大分類   | 中分類              | 小分類（事例）                                                                                                                                                        | 主たる担当部局                                                                                         |
|-------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事故・災害 | 火災・爆発            |                                                                                                                                                                | 総務課、施設課                                                                                         |
|       | 地震・台風・落雷等の自然     |                                                                                                                                                                | 総務課、施設課                                                                                         |
|       | 放漏水              |                                                                                                                                                                | 施設課                                                                                             |
|       | 電気、機械的事故         |                                                                                                                                                                | 施設課                                                                                             |
|       | ライフライン途絶         |                                                                                                                                                                | 施設課                                                                                             |
|       | 労働災害             | 役職員の業務執行中の事故等<br>役職員の通勤途上の災害（交通事故を除く）<br>教員の研究活動の補助者（学生、T A等）の事故等                                                                                              | 人事労務課<br>人事労務課<br>人事労務課                                                                         |
|       | 交通事故             | 役職員の事故（通勤途上）<br>役職員の業務中の事故（公用車）<br>役職員の業務中の事故（自家用車）<br>学生・生徒・児童・園児の事故（正課中）                                                                                     | 人事労務課<br>経理調達課<br>人事労務課<br>学生支援課、附属学校課                                                          |
|       | その他各種事故          | 役職員の業務中の事故<br>研究員等による研究活動中の事故（外国人研究者含む）<br>一般学生・生徒・児童・園児の事故（海外留学中を含む）<br>外国人留学生の事故<br>大学行事における学外者の事故（入学試験の実技等）<br>大学祭、子どもまつり等の学生主催行事における学外者の事故<br>施設整備の不良による事故 | 人事労務課<br>研究連携課、学生支援課、高度教員養成支援課<br>学生支援課、附属学校課、高度教員養成支援課<br>高度教員養成支援課<br>総務課、入試課<br>学生支援課<br>施設課 |
|       | 医療事故             |                                                                                                                                                                | 学生支援課                                                                                           |
|       |                  |                                                                                                                                                                |                                                                                                 |
| 事件    | 盗難               | 物品等の盗難、紛失<br>各種資料及びデータの盗難<br>第三者による固定資産の売却<br>物品等の盗難、紛失（学生に関わる事項）                                                                                              | 経理調達課<br>総務課<br>施設課<br>学生支援課                                                                    |
|       | 傷害               | 役職員<br>学生・生徒・児童・園児（授業、学外実習、研究活動、ボランティア活動、課外活動、連携事業等）<br>外国人留学生                                                                                                 | 人事労務課<br>研究連携課、教務課、学生支援課、キャリア支援課、附属学校課<br>高度教員養成支援課                                             |
|       | 職員の不正、犯罪         | 横領、収賄<br>公印及び法人文書の偽造<br>機密の漏洩<br>予定価格の漏洩<br>科学研究費助成事業の不正使用<br>研究上の不正行為（データねつ造、論文盗用等）<br>利益相反                                                                   | 人事労務課<br>総務課<br>総務課<br>経理調達課<br>経理調達課<br>研究連携課<br>人事労務課                                         |
|       | 学生・生徒・児童・幼児の不正行為 | 試験における不正行為                                                                                                                                                     | 教務課、附属学校課                                                                                       |
|       | コンピュータシステム関係     | サーバー等情報機器の破損<br>情報システムの停止<br>不正アクセスによる個人情報データの流失<br>不正アクセスによるデータ改ざん<br>コンピュータウイルスへの感染                                                                          | 情報図書課<br>情報図書課<br>情報図書課、総務課<br>情報図書課<br>情報図書課                                                   |
|       | 伝染病、感染症          |                                                                                                                                                                | 学生支援課、附属学校課                                                                                     |
|       | 不審者侵入            |                                                                                                                                                                | 総務課                                                                                             |
|       |                  |                                                                                                                                                                |                                                                                                 |
|       |                  |                                                                                                                                                                |                                                                                                 |
|       |                  |                                                                                                                                                                |                                                                                                 |
| 法務    | 過失               | 修学指導、卒業判定、単位認定ミス<br>入試合否判定ミス<br>食中毒（生協食堂、大学祭の模擬店、自然観察実習園の生産物、学校給食）                                                                                             | 教務課、附属学校課<br>入試課、附属学校課<br>学生支援課、研究連携課、附属学校課                                                     |
|       | 情報漏洩             | 個人情報の漏洩、流失<br>研究情報の漏洩、流失<br>入試情報の漏洩、流失                                                                                                                         | 情報図書課、総務課<br>研究連携課<br>入試課、附属学校課                                                                 |
|       | 知的財産権侵害          | ソフトウェアの不正コピー<br>電子ジャーナルに関する不正行為<br>その他知的財産権侵害                                                                                                                  | 情報図書課<br>情報図書課<br>研究連携課                                                                         |
|       | 環境問題             | 毒物・劇物の漏洩<br>放射性物質の漏洩<br>実験廃棄物の不適切な処理                                                                                                                           | 学生支援課、研究連携課、附属学校課<br>研究連携課<br>学生支援課、研究連携課、附属学校課                                                 |
|       | 損害賠償責任           | 業務執行中において第三者に損害を与えた場合                                                                                                                                          | 総務課                                                                                             |
| 労務    | ハラスメント           | セクハラ、パワハラ、アカハラ、アルハラ、その他ハラスメント                                                                                                                                  | 人事労務課                                                                                           |
|       | その他              | 職員の法令遵守違反等に対する内部通報                                                                                                                                             | 人事労務課                                                                                           |

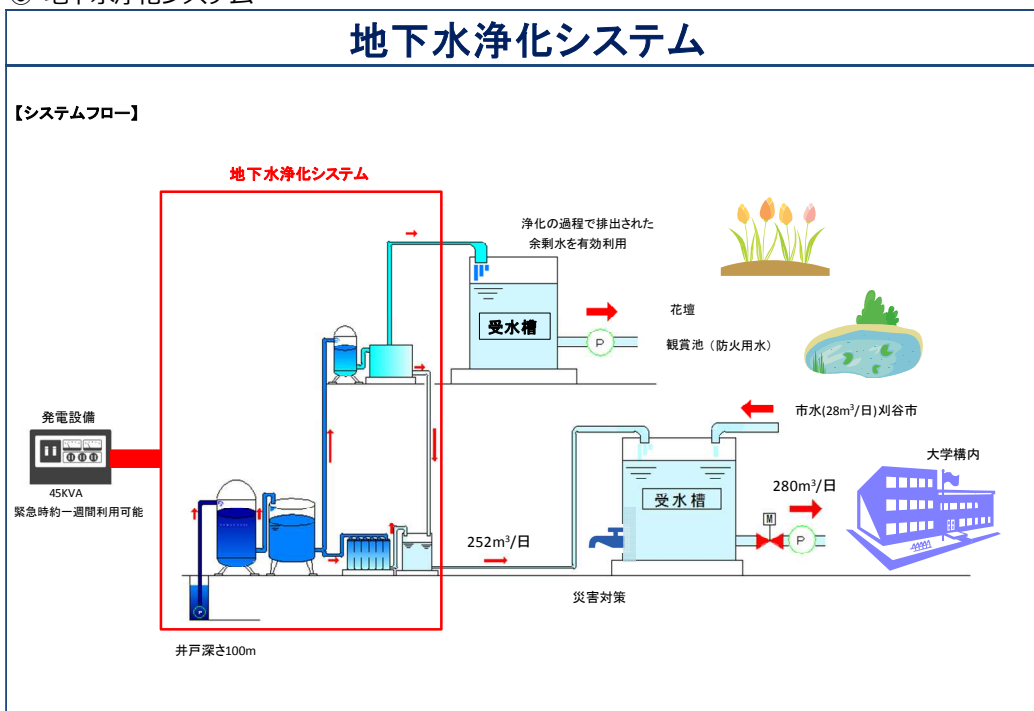
フローチャート図（交通事故の例）



## ⑤ 防災・防火訓練の実施

|        |                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日時   | 2015年10月26日（月）10:00～11:00、15:45～16:50                                                                                   |
| 参加者数   | 教職員 約140人、学生 901人（地域住民の見学あり）                                                                                            |
| 実施目的   | 下記の訓練を実施することにより、防災意識の高揚を図り、人命及び施設設備等の財産を守ることを目的とする。                                                                     |
| 訓練内容   | ① 地震発生時に伴う学内連絡及び授業の休講、学生の早期帰宅指示又は学内グラウンド待機についての連絡訓練及び避難訓練<br>② 地震発生時における通報連絡、避難、消火、交通規制、救護等の訓練<br>③ 煙道訓練、地震発生時を想定した図上訓練 |
| 次年度の課題 | ① 災害対策本部設置場所の見直し<br>② 訓練実施結果に基づくシナリオの改善<br>③ 避難場所（グラウンド）での避難者に対する案内方法の改善                                                |

## ⑥ 地下水浄化システム



## ⑦ 備蓄品整備状況

防災備蓄倉庫備蓄品一覧

2015年5月1日現在

| 品 目      |            |       |   | 品 目     |                |     |   | 品 目  |                  |       |   |
|----------|------------|-------|---|---------|----------------|-----|---|------|------------------|-------|---|
| 数 量      |            |       |   | 数 量     |                |     |   | 数 量  |                  |       |   |
| 非常食      | アルファ米      | 2,000 | 個 | 消火・救出用品 | 災害用レスキューセット    | 4   | 個 | 日用品等 | ブルーシート 5.4×5.4m  | 7     | 枚 |
|          | ブルボンビスケット  | 955   | 個 |         | 二つ折り担架 スチール    | 2   | 個 |      | バクト・シート          | 6     | 枚 |
|          | カロリーメイト    | 1,020 | 個 |         | 油圧式ジャッキ 2吨     | 10  | 個 |      | ラジカセ付きライト        | 6     | 個 |
|          | 保存水 500ml  | 2,280 | 本 |         | カナデコボール        | 4   | 個 |      | 卓上カセットコンロ        | 10    | 個 |
|          | 保存水 2000ml | 84    | 本 |         | ハンマー 3.5kg     | 4   | 個 |      | 折りたたみ式給水容器       | 72    | 個 |
|          | 味噌汁        | 1,200 | 個 |         | くわ             | 5   | 個 |      | 組み立てポリタンク 20L    | 10    | 個 |
|          | アルコールタオル   | 105   | 個 |         | 剣スコップ 丸シヨベル    | 7   | 個 |      | バケツ (銀色)         | 19    | 個 |
| 災害用救急セット | 携帯用使い捨てカイロ | 100   | 枚 |         | ヘルメット          | 35  | 個 |      | ポリバケツ 15L        | 43    | 個 |
|          | 紙おむつ 大人用S  | 64    | 枚 |         | ヘルメット (大学名入り)  | 156 | 個 |      | 水ヒシヤク 15cm       | 5     | 個 |
|          | 紙おむつ 大人用M  | 60    | 枚 |         | トラロープ 120×200m | 大学用 | 本 |      | やかん 8L           | 5     | 個 |
|          | 紙おむつ 大人用L  | 52    | 枚 |         | メガフォン ハンド型     | 2   | 個 |      | カラースプーン          | 1,800 | 個 |
|          | 救急箱 50人用   | 1     | 個 |         | 三角巾            | 30  | 枚 |      | ティッシュペーパー        | 60    | 個 |
|          | 救急箱 20人用   | 3     | 個 |         | 消防帽子           | 30  | 個 |      | 指定ごみ袋 45L        | 大学用   |   |
|          | 携帯酸素       | 2     | 本 |         | 誘導灯            | 11  | 個 |      | 洗面器 32cm         | 30    | 個 |
|          | 収納品リスト表    | 1     |   |         | 軍手             | 60  | 枚 |      | タオル 白            | 100   | 枚 |
|          |            |       |   |         | ゴム長靴           | 47  | 足 |      | 布粘着テープ 25m       | 10    | 個 |
|          |            |       |   |         | 消火器            | 大学用 |   |      | 非常用ローソク 防水       | 12    | 個 |
|          |            |       |   |         | 手押し車           | 1   | 台 |      | バック毛布 1/3圧縮      | 75    | 枚 |
|          |            |       |   |         | アルミリヤカー        | 2   | 台 |      | サバイバルシート         | 50    | 枚 |
|          |            |       |   |         | 発電機            | 1   | 台 |      | 非常用トイレ ヘンリー袋     | 200   | 枚 |
|          |            |       |   |         | 投光機 ハロゲン       | 1   | 台 |      | マンホールトイレ (テントのみ) | 6     | 個 |
|          |            |       |   |         | 延長コード 30mリール付  | 1   | 個 |      | トイレットペーパー        | 大学用   |   |
|          |            |       |   |         | ランタンライト        | 10  | 個 |      | ポケットレインスーツ       | 30    | 個 |
|          |            |       |   |         | 強カライト          | 10  | 個 |      | テント 集会用 2×3間     | 1     | 個 |
|          |            |       |   |         | 非常用浄水装置        | 1   | 台 |      | 石油ストーブ 対流式       | 入試用   |   |
|          |            |       |   |         | 救助工具箱セット       | 7   | 個 |      | ガスコンロ            | 8     | 台 |
|          |            |       |   |         |                |     |   |      | おもり              | 5     | 個 |
|          |            |       |   |         |                |     |   |      | 折りたたみコンテナ        | 26    | 個 |
|          |            |       |   |         |                |     |   |      | アルミ製防災用簡易寝袋      | 1,030 | 個 |